

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告 第118集

上越新幹線関係  
埋蔵文化財発掘調査報告  
第15集

融通寺遺跡

第2分冊

1991

群馬県教育委員会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
東日本旅客鉄道株式会社





(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告 第118集

上越新幹線関係  
埋蔵文化財発掘調査報告  
第15集

# 融通寺遺跡

第2分冊

1991

群馬県教育委員会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団  
東日本旅客鉄道株式会社



# 目 次

## 第1分冊

巻頭図版

序

例 言

凡 例

第I章 調査に至る経過 .....	1
第II章 調査の方法 .....	4
第III章 遺跡の概要 .....	6
第1節 遺跡の立地と環境 .....	6
第2節 周辺の遺跡 .....	6
第3節 遺跡の概要 .....	9
第IV章 発見された遺構と遺物 .....	11
第1節 JS24地区（県道南1～3区）発見の遺構と遺物 .....	13

## 第2分冊

第2節 JS25地区（県道北3～5区）発見の遺構と遺物 .....	335
-----------------------------------	-----

第V章 調査の成果と問題点 .....	709
第1節 融通寺遺跡出土の瓦について .....	711
第2節 融通寺遺跡出土の文字資料 .....	714
第3節 融通寺4区2号井戸跡出土の人骨について .....	715
第4節 融通寺遺跡出土の中世人骨について .....	718
第5節 融通寺遺跡出土の馬骨について .....	721
第6節 融通寺遺跡出土の板碑について .....	724
第7節 融通寺遺跡の特徴と問題点 .....	726

# 插图目次

第350图	4区1号住居跡……………	335
第351图	4区1号住居跡出土遺物①……………	335
第352图	4区1号住居跡出土遺物②……………	336
第353图	4区1号住居跡出土遺物③……………	337
第354图	4区1号住居跡出土遺物④……………	338
第355图	4区4号住居跡……………	344
第356图	4区4号住居跡出土遺物①……………	344
第357图	4区4号住居跡出土遺物②……………	345
第358图	4区5号住居跡……………	347
第359图	4区5号住居跡出土遺物……………	348
第360图	4区6・8号住居跡……………	350
第361图	4区6号住居跡出土遺物①……………	350
第362图	4区6号住居跡出土遺物②……………	351
第363图	4区8号住居跡出土遺物……………	351
第364图	4区7・15・22号住居跡エレベーション……………	354
第365图	4区7・15・17・22号住居跡……………	355
第366图	4区7号住居跡出土遺物①……………	355
第367图	4区7号住居跡出土遺物②……………	356
第368图	4区15号住居跡出土遺物……………	356
第369图	4区17号住居跡出土遺物……………	357
第370图	4区22号住居跡出土遺物……………	357
第371图	4区9号住居跡……………	361
第372图	4区10号住居跡……………	361
第373图	4区10号住居跡出土遺物……………	362
第374图	4区11号住居跡……………	363
第375图	4区11号住居跡出土遺物……………	364
第376图	4区12号住居跡エレベーション……………	365
第377图	4区12号住居跡……………	366
第378图	4区12号住居跡出土遺物……………	366
第379图	4区13号住居跡……………	368
第380图	4区13号住居跡出土遺物①……………	368
第381图	4区13号住居跡出土遺物②……………	369
第382图	4区14号住居跡……………	372
第383图	4区14号住居跡出土遺物……………	372
第384图	4区16号住居跡……………	374
第385图	4区16号住居跡出土遺物……………	374
第386图	4区18号住居跡……………	376
第387图	4区18号住居跡出土遺物①……………	376
第388图	4区18号住居跡出土遺物②……………	377
第389图	4区18号住居跡出土遺物③……………	378
第390图	4区19号住居跡……………	381
第391图	4区19号住居跡出土遺物①……………	381
第392图	4区19号住居跡出土遺物②……………	382
第393图	4区19号住居跡出土遺物③……………	383
第394图	4区20号住居跡……………	387
第395图	4区20号住居跡出土遺物①……………	388
第396图	4区20号住居跡出土遺物②……………	389
第397图	4区21号住居跡……………	393
第398图	4区21号住居跡出土遺物①……………	394
第399图	4区21号住居跡出土遺物②……………	395
第400图	4区23号住居跡……………	398
第401图	4区23号住居跡出土遺物①……………	398
第402图	4区23号住居跡出土遺物②……………	399
第403图	4区24号住居跡……………	400
第404图	4区24号住居跡出土遺物①……………	400
第405图	4区24号住居跡出土遺物②……………	401



第406図	4区25号住居跡	402
第407図	4区25号住居跡エレベーション	403
第408図	4区25号住居跡出土遺物	403
第409図	4区29号住居跡	405
第410図	4区29号住居跡出土遺物	406
第411図	4区32号住居跡電エレベーション	407
第412図	4区32号住居跡	408
第413図	4区32号住居跡出土遺物①	408
第414図	4区32号住居跡出土遺物②	409
第415図	4区33号住居跡	411
第416図	4区33号住居跡出土遺物	411
第417図	4区34号住居跡	412
第418図	4区34号住居跡出土遺物①	412
第419図	4区34号住居跡出土遺物②	413
第420図	4区35号住居跡	414
第421図	4区35号住居跡出土遺物①	414
第422図	4区35号住居跡出土遺物②	415
第423図	4区36・37号住居跡	416
第424図	4区36号住居跡出土遺物	416
第425図	4区37号住居跡出土遺物	417
第426図	4区38・39・40・41・42・43号住居跡	421
第427図	4区38号住居跡出土遺物	422
第428図	4区39号住居跡出土遺物	423
第429図	4区40号住居跡出土遺物①	424
第430図	4区40号住居跡出土遺物②	425
第431図	4区41号住居跡出土遺物	425
第432図	4区42号住居跡出土遺物	426
第433図	4区43号住居跡出土遺物	426
第434図	4区44・45・46号住居跡	433
第435図	4区44号住居跡出土遺物①	433
第436図	4区44号住居跡出土遺物②	434
第437図	4区47・48号住居跡	435
第438図	4区48号住居跡出土遺物	435
第439図	4区49号住居跡断面・エレベーション、同電断面・エレベーション	436
第440図	4区49号住居跡	437
第441図	4区49号住居跡出土遺物	438
第442図	4区50号住居跡	439
第443図	4区50号住居跡出土遺物	440
第444図	4区51号住居跡	442
第445図	4区53号住居跡	443
第446図	4区54・58・65号住居跡	444
第447図	4区54号住居跡出土遺物	445
第448図	4区58号住居跡出土遺物	445
第449図	4区55号住居跡	445
第450図	4区56号住居跡	446
第451図	4区59・60号住居跡	447
第452図	4区60号住居跡出土遺物	447
第453図	4区61号住居跡	449
第454図	4区61号住居跡出土遺物①	449
第455図	4区61号住居跡出土遺物②	450
第456図	4区62・68号住居跡	452
第457図	4区62号住居跡出土遺物①	453
第458図	4区62号住居跡出土遺物②	454
第459図	4区63・64号住居跡	456
第460図	4区63号住居跡出土遺物	456
第461図	4区66号住居跡	457
第462図	4区66号住居跡出土遺物	458
第463図	4区67号住居跡	458
第464図	4区67号住居跡出土遺物	458

第465図	4区67号住居跡断面	459
第466図	4区69号住居跡	459
第467図	4区71号住居跡	460
第468図	4区71号住居跡出土遺物	460
第469図	4区72・78号住居跡	462
第470図	4区72号住居跡出土遺物①	462
第471図	4区72号住居跡出土遺物②	463
第472図	4区78号住居跡出土遺物①	463
第473図	4区78号住居跡出土遺物②	464
第474図	4区73・94号住居跡	467
第475図	4区73号住居跡出土遺物	468
第476図	4区94号住居跡出土遺物	469
第477図	4区97・98号住居跡断面	471
第478図	4区74・97・98号住居跡	472
第479図	4区74号住居跡出土遺物①	472
第480図	4区74号住居跡出土遺物②	473
第481図	4区97号住居跡出土遺物	473
第482図	4区98号住居跡出土遺物	473
第483図	4区76号住居跡	475
第484図	4区76号住居跡出土遺物	476
第485図	4区77・113号住居跡断面	476
第486図	4区77・113号住居跡	477
第487図	4区77号住居跡出土遺物	477
第488図	4区79・131号住居跡	478
第489図	4区79号住居跡出土遺物	478
第490図	4区80号住居跡	479
第491図	4区80号住居跡出土遺物	479
第492図	4区81号住居跡	480
第493図	4区81号住居跡出土遺物①	480
第494図	4区81号住居跡出土遺物②	481
第495図	4区82号住居跡	482
第496図	4区82号住居跡出土遺物	482
第497図	4区83・84・85号住居跡	484
第498図	4区83号住居跡出土遺物	484
第499図	4区85号住居跡出土遺物	485
第500図	4区86・87・99号住居跡	487
第501図	4区87号住居跡出土遺物	487
第502図	4区88号住居跡	488
第503図	4区88号住居跡出土遺物	488
第504図	4区89号住居跡	489
第505図	4区89号住居跡出土遺物	489
第506図	4区91・93・95号住居跡	491
第507図	4区91・93・95号住居跡断面・エレベーション	492
第508図	4区91号住居跡出土遺物	492
第509図	4区93号住居跡出土遺物	492
第510図	4区95号住居跡出土遺物	493
第511図	4区92号住居跡断面、竈断面	495
第512図	4区92号住居跡	496
第513図	4区92号住居跡出土遺物①	496
第514図	4区92号住居跡出土遺物②	497
第515図	4区96号住居跡	499
第516図	4区96号住居跡出土遺物	499
第517図	4区100・101・102号住居跡	501
第518図	4区103号住居跡	502
第519図	4区103号住居跡出土遺物	502
第520図	4区104・105号住居跡	503
第521図	4区104号住居跡出土遺物	504
第522図	4区107・123号住居跡エレベーション	505
第523図	4区107・123号住居跡	506

第524図	4区107号住居跡出土遺物	506
第525図	4区123号住居跡出土遺物①	506
第526図	4区123号住居跡出土遺物②	507
第527図	4区108・125号住居跡	509
第528図	4区108号住居跡出土遺物	509
第529図	4区109号住居跡エレベーション	510
第530図	4区109号住居跡	511
第531図	4区109号住居跡出土遺物	511
第532図	4区111号住居跡	512
第533図	4区111号住居跡出土遺物①	512
第534図	4区111号住居跡断面・エレベーション	513
第535図	4区111号住居跡出土遺物②	513
第536図	4区112号住居跡	514
第537図	4区112号住居跡出土遺物	514
第538図	4区115号住居跡	515
第539図	4区115号住居跡出土遺物	515
第540図	4区116号住居跡	516
第541図	4区117号住居跡	516
第542図	4区117号住居跡出土遺物	517
第543図	4区118号住居跡	518
第544図	4区119・120号住居跡	519
第545図	4区119・120号住居跡掘形	520
第546図	4区119号住居跡出土遺物	520
第547図	4区120号住居跡出土遺物①	521
第548図	4区120号住居跡出土遺物②	522
第549図	4区121号住居跡	524
第550図	4区121号住居跡出土遺物	524
第551図	4区122号住居跡	525
第552図	4区122号住居跡出土遺物	525
第553図	4区124号住居跡	526
第554図	4区124号住居跡出土遺物	526
第555図	4区126・133号住居跡	528
第556図	4区127号住居跡	528
第557図	4区127号住居跡出土遺物	529
第558図	4区128・129号住居跡	530
第559図	4区128号住居跡出土遺物	530
第560図	4区130号住居跡	531
第561図	4区130号住居跡出土遺物	531
第562図	4区114号住居跡	532
第563図	4区114号住居跡エレベーション	533
第564図	4区114号住居跡出土遺物	533
第565図	4区134・135・136号住居跡	534
第566図	4区134・135・136号住居跡出土遺物①	535
第567図	4区134・135・136号住居跡出土遺物②	536
第568図	4区134・135・136号住居跡出土遺物③	537
第569図	4区137号住居跡	542
第570図	4区137号住居跡出土遺物①	542
第571図	4区137号住居跡出土遺物②	543
第572図	4区137号住居跡出土遺物③	544
第573図	5区1号住居跡	547
第574図	5区1号住居跡出土遺物①	547
第575図	5区1号住居跡出土遺物②	548
第576図	5区1号住居跡出土遺物③	549
第577図	5区1号住居跡出土遺物④	550
第578図	5区2号住居跡	554
第579図	5区2号住居跡出土遺物	554
第580図	5区3・12号住居跡	556
第581図	5区3号住居跡出土遺物①	556
第582図	5区3号住居跡出土遺物②	557

第583図	5区12号住居跡出土遺物	557
第584図	5区4号住居跡	559
第585図	5区4号住居跡出土遺物	560
第586図	5区5号住居跡	562
第587図	5区5号住居跡出土遺物①	562
第588図	5区5号住居跡出土遺物②	563
第589図	5区8号住居跡	564
第590図	5区8号住居跡出土遺物①	564
第591図	5区8号住居跡出土遺物②	565
第592図	5区9・10号住居跡	566
第593図	5区9号住居跡出土遺物	566
第594図	5区10号住居跡出土遺物	566
第595図	5区13号住居跡	567
第596図	5区13号住居跡出土遺物①	567
第597図	5区13号住居跡出土遺物②	568
第598図	5区14号住居跡	569
第599図	5区14号住居跡出土遺物	569
第600図	5区15・16・37号住居跡	571
第601図	5区15号住居跡出土遺物	571
第602図	5区17号住居跡断面・エレベーション	572
第603図	5区17号住居跡	573
第604図	5区17号住居跡出土遺物①	573
第605図	5区17号住居跡出土遺物②	574
第606図	5区18号住居跡	575
第607図	5区18号住居跡出土遺物	575
第608図	5区19号住居跡	577
第609図	5区19号住居跡出土遺物	577
第610図	5区20・21・22号住居跡	579
第611図	5区23・24・26号住居跡	581
第612図	5区24号住居跡出土遺物	581
第613図	5区26号住居跡出土遺物	581
第614図	5区25・35号住居跡	583
第615図	5区25号住居跡出土遺物	583
第616図	5区27・28号住居跡断面	584
第617図	5区27・28号住居跡	585
第618図	5区27号住居跡出土遺物①	585
第619図	5区27号住居跡出土遺物②	586
第620図	5区29・36号住居跡	588
第621図	5区29号住居跡出土遺物	589
第622図	5区36号住居跡出土遺物	589
第623図	5区30号住居跡・竪掘形エレベーション	590
第624図	5区30号住居跡掘形	591
第625図	5区30号住居跡出土遺物	591
第626図	5区31号住居跡	592
第627図	5区31号住居跡出土遺物	592
第628図	5区32・33・34号住居跡	593
第629図	5区32号住居跡出土遺物	594
第630図	5区33号住居跡出土遺物	594
第631図	5区38号住居跡	594
第632図	4区1号掘立柱跡	595
第633図	4区3号掘立柱跡	596
第634図	4区4号掘立柱跡	597
第635図	4区1・2・4号溝跡断面・エレベーション	604
第636図	4区1・2・4号溝跡	605
第637図	4区3号溝跡	606
第638図	4区5・6・7号溝跡	607
第639図	4区8号溝跡、9号溝跡エレベーション	608
第640図	4区9号溝跡	609
第641図	4区10・11号溝跡	610



第642图	4区13·14号沟迹	611
第643图	4区15·16·17号沟迹	612
第644图	4区18·19号沟迹	613
第645图	4区20号沟迹	614
第646图	4区21·22号沟迹	615
第647图	4区22号沟迹断面、23·24号沟迹	616
第648图	4区25·26号沟迹	617
第649图	4区28·29·30号沟迹	618
第650图	4区32·54号沟迹	619
第651图	5区1号沟迹	620
第652图	5区2·3·4号沟迹	621
第653图	4区33·34·35·36·37·38·39·40·41·52号沟迹	622
第654图	4区42·43·44·45·46·47·48·49·50号沟迹	623
第655图	4区53号、5区6·7·8·9·10·11·12·13号沟迹	624
第656图	4区1·2号沟迹出土遗物、3号沟迹出土遗物①	625
第657图	4区3号沟迹出土遗物②	626
第658图	4区3号沟迹出土遗物③	627
第659图	4区3号沟迹出土遗物④	628
第660图	4区3号沟迹出土遗物⑤	629
第661图	4区8·9·10·12·13号沟迹出土遗物	630
第662图	4区14·15·16·17·18号沟迹出土遗物	631
第663图	4区19号沟迹出土遗物、20号沟迹出土遗物①	632
第664图	4区20号沟迹出土遗物②	633
第665图	4区20号沟迹出土遗物③、21·22号沟迹出土遗物、25号沟迹出土遗物①	634
第666图	4区25号沟迹出土遗物②、26号沟迹出土遗物	635
第667图	5区1·6号沟迹出土遗物	636
第668图	4区1号井戸迹	645
第669图	4区1号井戸迹出土遗物①	645
第670图	4区1号井戸迹出土遗物②	646
第671图	4区2号井戸迹	647
第672图	4区2号井戸迹出土遗物①	647
第673图	4区2号井戸迹出土遗物②	648
第674图	3区1·2号土墳墓	650
第675图	3区6·7号、4区3·4·5号土墳墓	651
第676图	3区6·7号、4区8号土墳墓、4区1号馬墓	652
第677图	3区2号、4区3·4号土墳墓出土遗物、4区5号土墳墓出土遗物①	653
第678图	4区5号土墳墓出土遗物②、4区8号土墳墓出土遗物	654
第679图	4区1·2·3号土坑	661
第680图	5区6·21·22·23·24·26号土坑	662
第681图	5区25·27·28·29·30·31·34·37号土坑	663
第682图	5区38·39·42·43·47·48·50·51·52·53·54·59号土坑	664
第683图	5区55·57·58·60·61·67·73号土坑	665
第684图	5区75·77·76·78·79·80·81·101号土坑	666
第685图	4区88·89、5区82·83·84·85·86·87·112·116号土坑	667
第686图	4区90·91·92、5区95·96·98·99·100·104号土坑	668
第687图	5区102·105·106·107·108·109·110·111·113·114号土坑	669
第688图	4区121·122·124·125、5区115·117·119·120·132号土坑	670
第689图	4区126·129·130·133·136·137·138号、5区142号土坑	671
第690图	4区143·151号、5区144·145·146·147·148·149·150·153·154号土坑	672
第691图	4区156·157号、5区155·159·160·161·163·164·165号土坑	673
第692图	4区166·167·168·169·182·195号、5区171·172·173·174·175·176·178·179号土坑	674
第693图	4区180·181·183·184·185·186·187·188·189号、5区190·191·192·193·194号土坑	675
第694图	4区197·198·201·202·203·205·206·209号、5区196·199·207号土坑	676
第695图	4区210·211·212·213·214·215·216·217·218·219号、5区220号土坑	677
第696图	4区221·222·223·224·228·230·233·235·236·237·238·239号、5区240号土坑	678
第697图	5区241·242·243·244·245·246·247·248·249·250号土坑	679
第698图	4区261·262·264·265·266·268·270·271号、5区253·255·256·258·259号土坑	680
第699图	4区272·274·275·278·279·280·281·286·287·288·289号、5区291·292号土坑	681
第700图	4区293·294·295·296·297·299·300·301·302·303·304·305号土坑	682

第701图	4区306・307・308・309・311・315・316・317・320・321・322号土坑	683
第702图	4区323・324・325・326・327・328・329・330・332・334・337・338・339号土坑	684
第703图	4区341・342・343・345・349号、5区347・348号土坑	685
第704图	4区128号土坑	686
第705图	4区1・2・3号土坑出土遺物	686
第706图	5区22・23・24・25・29・53・55号土坑出土遺物	687
第707图	5区57・58・60・73・78・79・81・83・84号土坑出土遺物	688
第708图	4区88・126・124号、5区86号土坑出土遺物	689
第709图	4区128・138・202・214・219・230号、5区142・153号土坑出土遺物	690
第710图	4区222・223・245・266・280・317・320・330・341号、5区249号土坑出土遺物	691
第711图	表土出土遺物①	699
第712图	表土出土遺物②	700
第713图	表土出土遺物③	701
第714图	表土出土遺物④	702
第715图	表土出土遺物⑤	703

付图1 融通寺遺跡全体图

付图2 融通寺遺跡水田跡全体图

# 図版目次

- 図版112 4・5区本線全景(南より)  
4・5区東側道全景(南より)
- 図版113 4・5区東側道全景(北より)  
4・5区西側道全景(北より)
- 図版114 4区1号住居跡全景  
4区1号住居跡掘形全景
- 図版115 4区1号住居跡竈遺物出土状態  
4区1号住居跡竈掘形
- 図版116 4区4・10号住居跡全景  
4区4号住居跡竈
- 図版117 4区5・11・13・14号住居跡全景  
4区5号住居跡遺物出土状態全景
- 図版118 4区5号住居跡掘形全景  
4区6号住居跡全景
- 図版119 4区7・15・18・22号住居跡全景  
4区11・13・14号住居跡全景
- 図版120 4区11号住居跡全景  
4区13・14号住居跡全景
- 図版121 4区19号住居跡全景  
4区19号住居跡貯蔵穴遺物出土状態
- 図版122 4区20号住居跡遺物出土状態全景  
4区20号住居跡遺物出土状態
- 図版123 4区21・23・25・29号住居跡全景  
4区24号住居跡全景
- 図版124 4区32・33・34号住居跡全景  
4区32・33・34号住居跡掘形全景
- 図版125 4区35号住居跡全景  
4区40号住居跡遺物出土状態全景
- 図版126 4区38・39・40・42・43・44・45・46・47・48号住居跡全景  
4区38・39・40・42・43・44・45・46・47・48号住居跡掘形全景
- 図版127 4区42号住居跡全景  
4区41号住居跡竈
- 図版128 4区41号住居跡竈遺物出土状態  
4区38号住居跡竈遺物出土状態  
4区38号住居跡竈
- 図版129 4区49号住居跡掘形全景  
4区50号住居跡遺物出土状態全景
- 図版130 4区59・60号住居跡全景  
4区61・62号住居跡遺物出土状態全景
- 図版131 4区61号住居跡貯蔵穴遺物出土状態  
4区62号住居跡竈遺物出土状態
- 図版132 4区73号住居跡遺物出土状態全景  
4区74号住居跡遺物出土状態全景
- 図版133 4区91・95号住居跡全景  
4区96号住居跡全景
- 図版134 4区104・105号住居跡全景  
4区108号住居跡遺物出土状態全景
- 図版135 4区114号住居跡全景  
4区117号住居跡掘形、222・223号土坑全景
- 図版136 4区119号住居跡全景  
4区120号住居跡全景
- 図版137 4区123号住居跡遺物出土状態全景  
5区1号住居跡遺物出土状態全景
- 図版138 5区1号住居跡全景  
5区1号住居跡竈遺物出土状態
- 図版139 5区5号住居跡竈

- 5区5号住居跡遺物出土状態
- 図版140 5区17・23号住居跡遺物出土状態全景  
5区17・23・24・25・26・27・35・36号住居跡全景
- 図版141 5区17号住居跡A竈  
5区17号住居跡B竈  
5区17号住居跡A・B竈掘形
- 図版142 5区19号住居跡全景  
5区15・20・21・22・37号住居跡、243号土坑全景
- 図版143 5区27号住居跡全景  
5区36号住居跡竈
- 図版144 4区1号掘立柱跡全景  
4区2号掘立柱跡全景
- 図版145 4区4号掘立柱跡全景  
4区1号溝跡全景
- 図版146 4区3号溝跡全景(本線部分)  
4区3号溝跡全景(東側道部分)
- 図版147 4区3号溝跡遺物出土状態  
4区3号溝跡板碑出土状態  
4区3号溝跡板碑出土状態と土層堆積状態
- 図版148 4区2・5・6・7号溝跡全景(本線部分)  
4区7号溝跡全景(東側道部分)  
4区7号溝跡全景(西側道部分)
- 図版149 4区8号溝跡全景(西側道部分)  
4区8号溝跡土層堆積状態  
4区9号溝跡全景(西側道部分)
- 図版150 4区9号溝跡土層堆積状態  
4区13号溝跡全景(西側道部分)  
4区11号溝跡全景(西側道部分)
- 図版151 4区14号溝跡全景(西側道部分)  
4区15・16号溝跡全景(西側道部分)  
4区20号溝跡全景(西側道部分)
- 図版152 4区21・22号溝跡全景(本線部分・南より)  
4区21・22号溝跡全景(本線部分・西より)
- 図版153 4区21号溝跡全景(本線部分)  
4区21号溝跡全景(西側道部分)  
4区21号溝跡土層堆積状態
- 図版154 4区22号溝跡全景(本線部分・東より)  
4区22号溝跡全景(本線部分・西より)
- 図版155 4区22号溝跡全景(西側道部分)  
4区25号溝跡全景(東側道部分)  
4区26号溝跡全景(東側道部分)
- 図版156 4区28・29・30・31号溝跡全景(東側道部分)  
4区28号溝跡全景(東側道部分)  
5区4号溝跡全景(西側道部分)
- 図版157 4区1号井戸跡全景  
4区2号井戸跡全景  
4区2号井戸跡人骨出土状態
- 図版158 3区2号土壇墓人骨・遺物出土状態全景  
4区3号土壇墓人骨・遺物出土状態全景  
4区4号土壇墓人骨・遺物出土状態全景
- 図版159 4区5号土壇墓人骨・遺物出土状態全景  
3区6号土壇墓人骨出土状態全景  
4区8号土壇墓人骨・遺物出土状態全景
- 図版160 4区北端～5区土坑群全景(東側道部分・北より)  
4区1号馬墓馬骨出土状態全景  
4区2号土坑全景
- 図版161 5区24号土坑全景  
5区78号土坑全景  
5区81号土坑全景



- 図版162 5区86号土坑全景  
4区89号土坑全景  
5区95・104号土坑全景
- 図版163 5区107号土坑全景  
4区128号土坑遺物出土状態全景  
4区128号土坑全景
- 図版164 5区153号土坑全景  
5区160号土坑全景  
4区169号土坑全景
- 図版165 5区207号土坑全景  
4区270・271号土坑全景  
4区272号土坑全景
- 図版166 4区341号土坑上面遺物出土状態全景  
4区341号土坑下面遺物出土状態全景  
4区341号土坑全景
- 図版167 4・5区東側道水田面全景（北より）  
4・5区東側道水田面全景（南より）
- 図版168 4・5区西側道水田面全景（北より）  
4・5区西側道水田面全景（南より）
- 図版169 4区東側道水田面部分（北より）  
4区西側道水田面部分（南より）
- 図版170 4区西側道水田面部分（南より）  
4区東側道水田面水口
- 図版171 4区1号住居跡出土遺物
- 図版172 4区1号住居跡出土遺物
- 図版173 4区1・4号住居跡出土遺物
- 図版174 4区4・5号住居跡出土遺物
- 図版175 4区5・6・7号住居跡出土遺物
- 図版176 4区8・10・11号住居跡出土遺物
- 図版177 4区12・13号住居跡出土遺物
- 図版178 4区13・14・15・16号住居跡出土遺物
- 図版179 4区16・18号住居跡出土遺物
- 図版180 4区18・19号住居跡出土遺物
- 図版181 4区19号住居跡出土遺物
- 図版182 4区19・20号住居跡出土遺物
- 図版183 4区20号住居跡出土遺物
- 図版184 4区20号住居跡出土遺物
- 図版185 4区21号住居跡出土遺物
- 図版186 4区21・22号住居跡出土遺物
- 図版187 4区21・22・23・24号住居跡出土遺物
- 図版188 4区25・29号住居跡出土遺物
- 図版189 4区32号住居跡出土遺物
- 図版190 4区33・34・35・36号住居跡出土遺物
- 図版191 4区37・38・39号住居跡出土遺物
- 図版192 4区39・40号住居跡出土遺物
- 図版193 4区40号住居跡出土遺物
- 図版194 4区41・42・43・44号住居跡出土遺物
- 図版195 4区44・48・49号住居跡出土遺物
- 図版196 4区50・54・58号住居跡出土遺物
- 図版197 4区61・62号住居跡出土遺物
- 図版198 4区61・62号住居跡出土遺物
- 図版199 4区62・63・66・67・71号住居跡出土遺物
- 図版200 4区71・72・73号住居跡出土遺物
- 図版201 4区73・74・78号住居跡出土遺物
- 図版202 4区81・82・85・87・88・89・91・92号住居跡出土遺物
- 図版203 4区92・93号住居跡出土遺物
- 図版204 4区93・94・95・96・97・98・103・104号住居跡出土遺物
- 図版205 4区104・107・108・109・111・117号住居跡出土遺物
- 図版206 4区117・119・120号住居跡出土遺物

- 図版207 4区120・122・123号住居跡出土遺物  
図版208 4区123・128・130・134・135・136号住居跡出土遺物  
図版209 4区134・135・136号住居跡出土遺物  
図版210 4区134・135・136・137号住居跡出土遺物  
図版211 4区137号住居跡出土遺物  
図版212 5区1号住居跡出土遺物  
図版213 5区1号住居跡出土遺物  
図版214 5区1・2号住居跡出土遺物  
図版215 5区3・4・5号住居跡出土遺物  
図版216 5区5・8・9・12号住居跡出土遺物  
図版217 5区12・13・14・15・17号住居跡出土遺物  
図版218 5区17・18・19号住居跡出土遺物  
図版219 5区24・25・26・27号住居跡出土遺物  
図版220 5区27・29・30・31・32・33号住居跡出土遺物  
図版221 4区1・2・3号溝跡出土遺物  
図版222 4区3号溝跡出土遺物  
図版223 4区3号溝跡出土遺物  
図版224 4区3号溝跡出土遺物  
図版225 4区3号溝跡出土遺物  
図版226 4区3・9・10・13号溝跡出土遺物  
図版227 4区13・14・15・17・18・19号溝跡出土遺物  
図版228 4区19・20号溝跡出土遺物  
図版229 4区20・21・22号溝跡出土遺物  
図版230 4区25号溝跡出土遺物  
図版231 4区26号、5区1号溝跡出土遺物  
図版232 5区6号溝跡、4区1・2号井戸跡出土遺物  
図版233 4区2号井戸跡出土遺物  
図版234 3区2号、4区3・4・5号土墳墓出土遺物  
図版235 4区5・8号土墳墓、4区1・2・3号土坑出土遺物  
図版236 5区22・23・24・25・29・53・55・57・58・60号土坑出土遺物  
図版237 5区78・79・81・83・84・86号土坑出土遺物  
図版238 4区88・124・126・128・138・219・222・223・245・266号、5区142・153号土坑出土遺物  
図版239 4区230・249・280・317・320・330・341号土坑出土遺物、表土出土遺物①  
図版240 表土出土遺物②  
図版241 表土出土遺物③  
図版242 表土出土遺物④  
図版243 表土出土遺物⑤  
図版244 表土出土遺物⑥  
図版245 4区2号井戸出土人骨

# 第IV章 発見された遺構と遺物

JS 25地区



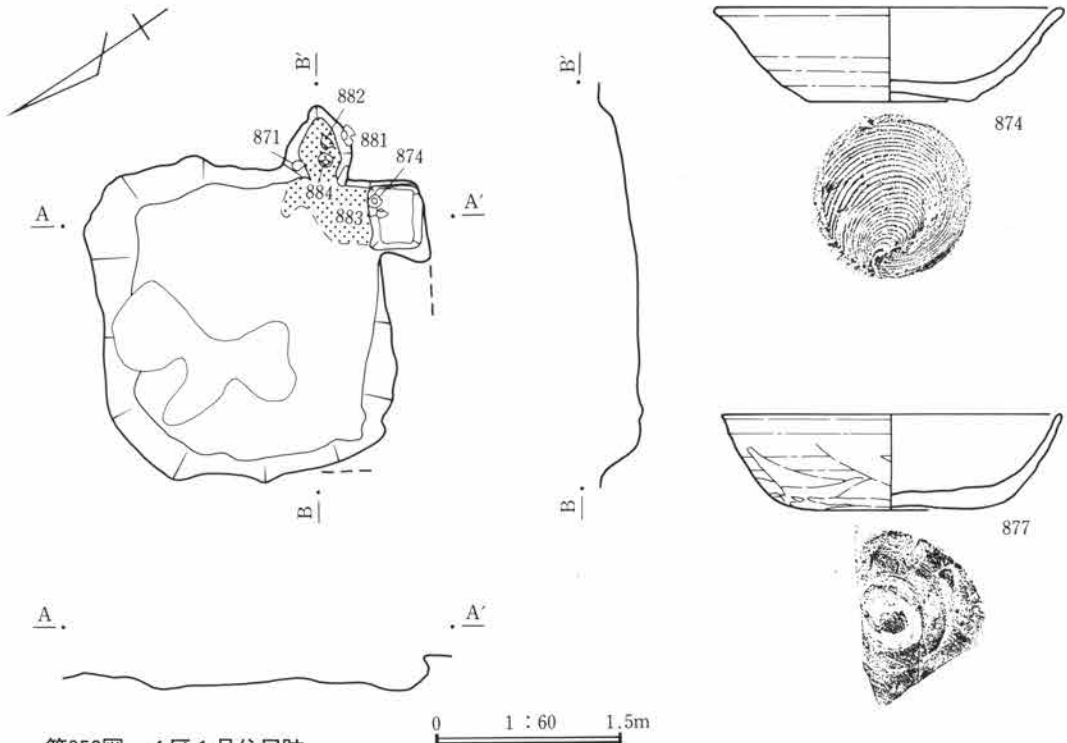


## 4区1号住居跡

4区K-9グリッドに位置し、4区300号土坑と重複する。新旧関係は竈の一部を300号土坑が破壊していることにより、当住居跡の方が古い。規模は、約2.5m×2.3mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-30°-Eである。残存壁高は約10~30cmであり、比較的良好であるが、北壁の残りは悪い。床は竈周辺は比較的良好に検出できたが、北西部分は破壊されており、明確に確認できなかった。

竈は東壁の南東隅に構築されている。壁外への張り出しは約60cmであり、袖は河原石を芯材として使用している。竈中央部分には、河原石を使用した支脚石が、設置されていた。貯蔵穴は竈の右側、南壁の南東隅に張り出して構築されている。規模は、長辺約50cm×短辺約40cm、床面からの深さ約15cmであり、平面形は長方形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかった。

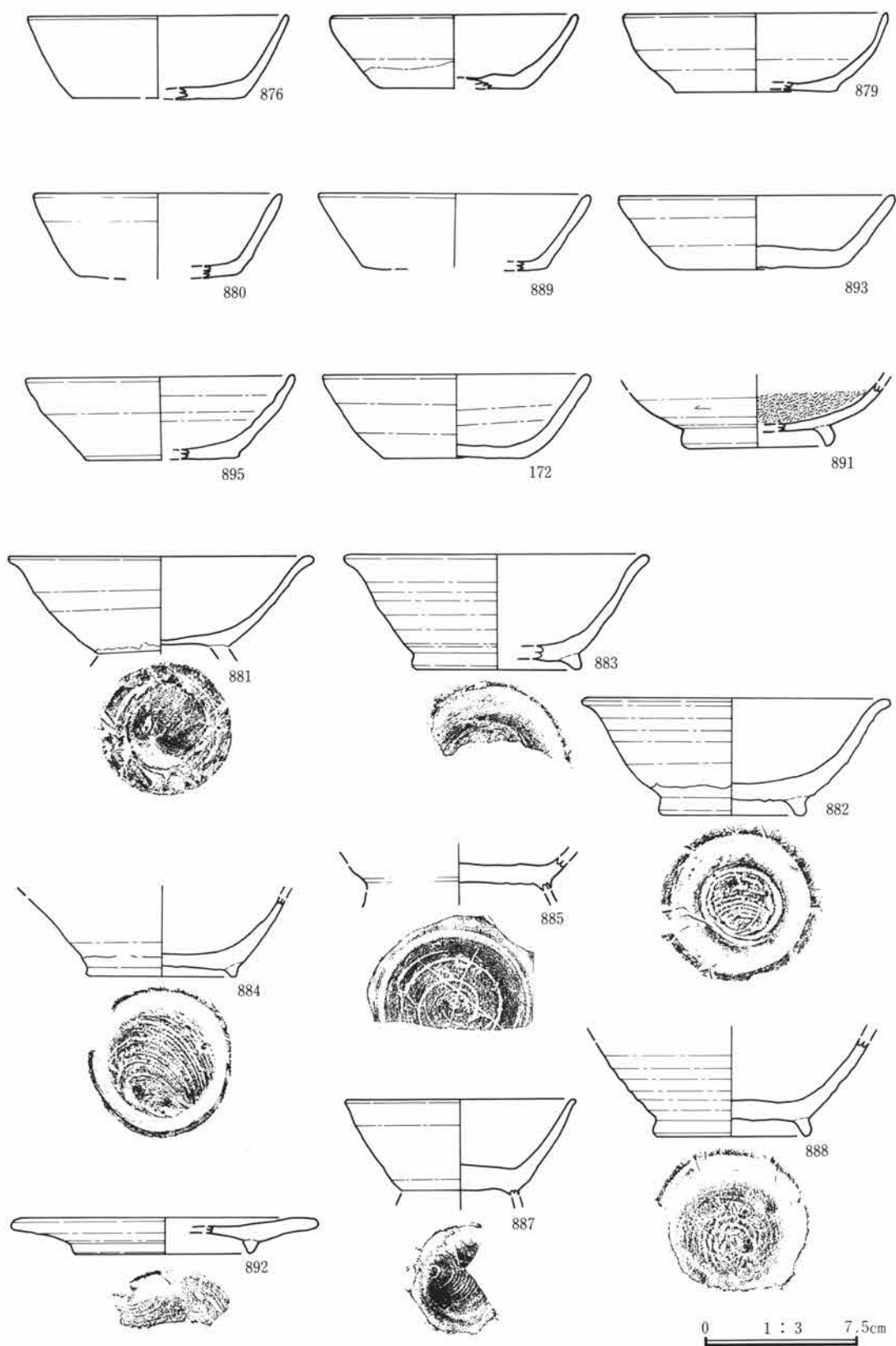
遺物は竈・貯蔵穴を中心に出土している。竈内からは土師器の杯(870・871)、須恵器の椀(881・882・884)が出土し、貯蔵穴からは須恵器の杯(874)、須恵器の椀(883)が出土している。また、K-9グリッドからは多量の土師器・須恵器が出土している。



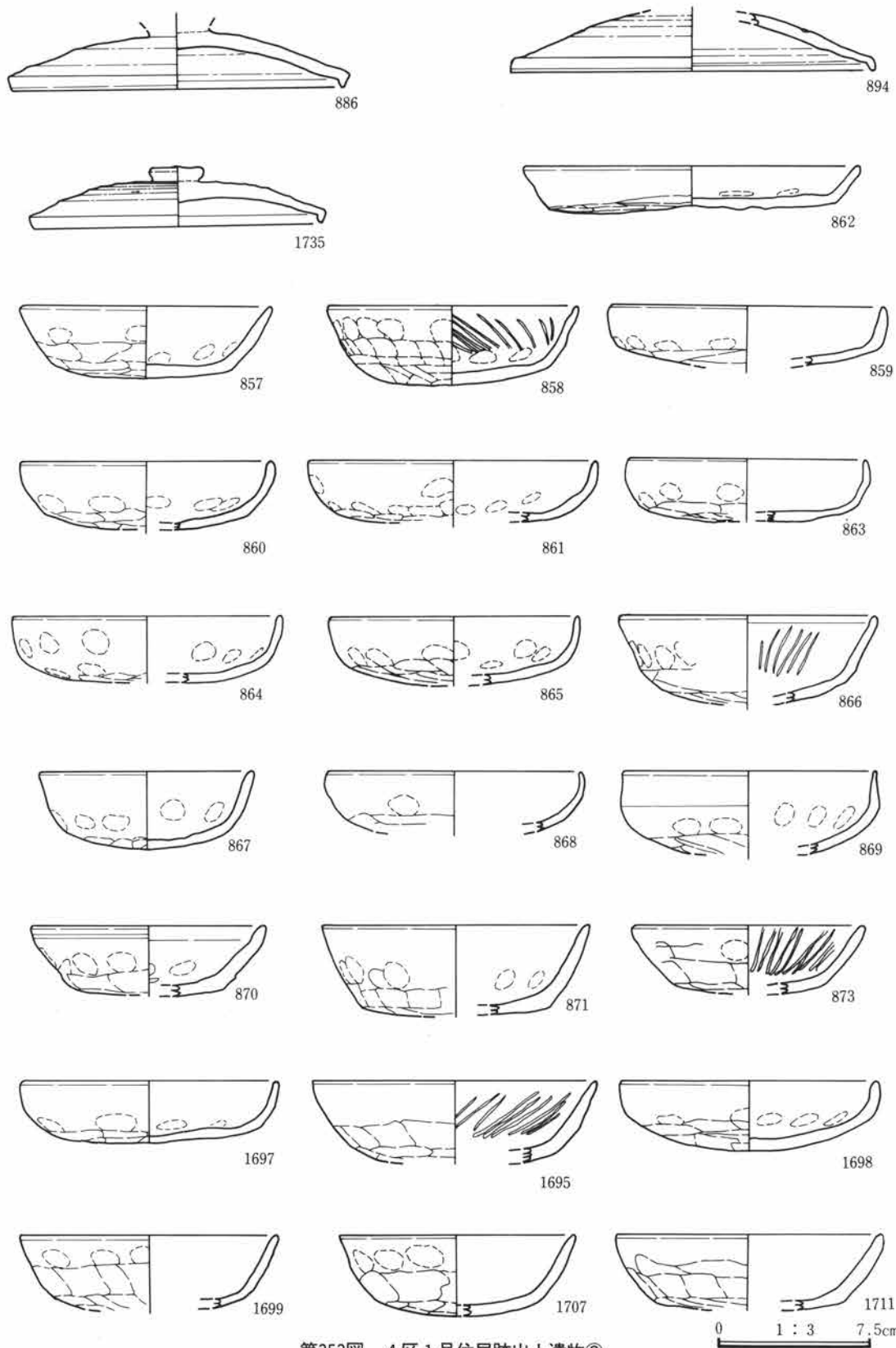
第350図 4区1号住居跡



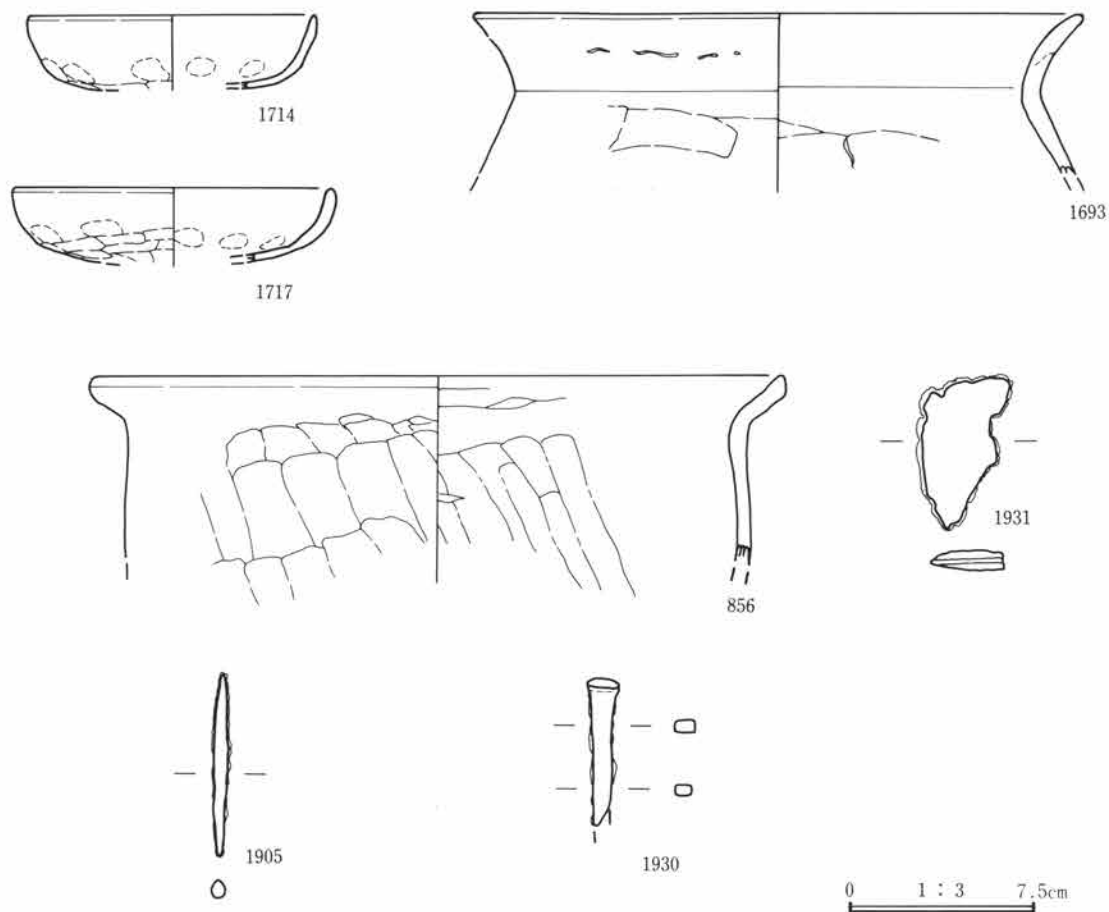
第351図 4区1号住居跡出土遺物①



第352図 4区1号住居跡出土遺物②



第353图 4区1号住居跡出土遺物③



第354図 4区1号住居跡出土遺物④

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0856	甕 土器	器高：(70mm) 口径：[276mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い赤褐色。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、一部輪積痕が残り、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。
0857	杯 土器	器高：34mm 口径：121mm 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。丸底。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0858	杯 土器	器高：38mm 口径：122mm 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。丸底。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す。一部指頭痕が残る。底部はなで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0859	杯 土師器	器高：(29mm) 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、底部はなで。	外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0860	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[122mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は僅かに内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0861	杯 土師器	器高：(30mm) 口径：[140mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	
0862	皿 土師器	器高：23mm 口径：[164mm] 底径：[140mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部～胴部は横なで、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0863	杯 土師器	器高：(31mm) 口径：[116mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は内湾。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	外面に油煙付着。
0864	杯 土師器	器高：(31mm) 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
0865	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[122mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	
0866	杯 土師器	器高：(42mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	外面に不明瞭な稜を持つ。口縁部～胴部はやや外反し、口縁端部は内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	
0867	杯 土師器	器高：(37mm) 口径：[106mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0868	杯 土師器	器高：(29mm) 口径：[124mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで。	

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0869	杯 土師器	器高：(40mm) 口径：[124mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	口縁部は僅かに外反。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0870	杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[114mm] 底径：[74mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部は横なで、胴部上半は一部指頭痕が残り、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	外面底部に油煙付着。
0871	杯 土師器	器高：(43mm) 口径：[130mm] 底径：[90mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。明赤褐。	胴部～口縁部は僅かに内湾。外面：口縁部は横なで、胴部上半は一部指頭痕が残り、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0872	杯 土師器	器高：(39mm) 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い黄橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	外面底部に油煙付着。
0873	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[112mm] 底径：— 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り、胴部に一部指頭痕が残る。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
0874	杯 須恵器	器高：37mm 口径：137mm 底径：64mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内面に油煙付着。
0875	杯 須恵器	器高：40mm 口径：129mm 底径：76mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に自然釉。
0876	杯 須恵器	器高：(40mm) 口径：[126mm] 底径：[84mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰・灰褐。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0877	杯 須恵器	器高：37mm 口径：[136mm] 底径：[70mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、胴部下半は一部篋なで、底部は回転篋切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0878	杯 須恵器	器高：(35mm) 口径：[120mm] 底径：[72mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り後なで。内面：口縁部～胴部は回転なで。	外面胴部下半に自然釉。
0879	杯 須恵器	器高：(37mm) 口径：[128mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0880	杯 須恵器	器高:(40mm)口径:[122mm]底径:[80mm]口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰・赤灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面:口縁部～胴部は回転で、底部は回転篋切り後で。内面:口縁部～底部は回転で。	
0881	椀 須恵器	器高:(47mm)口径:147mm底径:—口縁部～高台部上端 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁部は僅かに外反。外面:口縁部～胴部は回転で、底部は高台貼り付け後で。内面:口縁部～底部は回転で。	内外面に油煙付着、内面はやや多量。二次炎を受けている。
0882	椀 須恵器	器高:(56mm)口径:[150mm]底径:73mm口縁部～高台部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁部は僅かに外反。外面:口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面:口縁部～胴部は回転で。	内外面に油煙付着。一部二次炎を受けている。
0883	椀 須恵器	器高:55mm口径:[148mm]底径:[82mm]口縁部～高台部 $\frac{1}{4}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁部は外反。外面:口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面:口縁部～底部は回転で。	
0884	椀 須恵器	器高:(39mm)口径:—底径:73mm胴部～口縁部 $\frac{1}{4}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面:胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面:胴部～底部は回転で。	内外面に一部油煙付着。
0885	椀 須恵器	器高:(16mm)口径:—底径:—胴部下端～高台部上半 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・灰褐。	轆轤整形。外面:胴部下端は回転で、底部は回転篋切り後高台貼り付け。内面:胴部下端～底部は回転で。	外面底部に篋記号。釈読不能。
0886	蓋 須恵器	器高:(29mm)口径:162mmつまみ径:—つまみ部下端～口縁部 $\frac{1}{4}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。返りは短い。つまみ部は貼り付け。外面:天井部上半は回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転で。内面:天井部～口縁部は回転で。	
0887	椀 須恵器	器高:(46mm)口径:[112mm]底径:—口縁部～高台部上半 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。外面:胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面:口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面:口縁部～底部は回転で。	外面に全面的に自然釉。
0888	椀 須恵器	器高:(17mm)口径:—底径:76mm口縁部下半～高台部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面:口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面:口縁部～底部は回転で。	
0889	杯 須恵器	器高:(36mm)口径:[132mm]底径:[90mm]口縁部～底部上端 $\frac{1}{4}$	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面:口縁部～胴部は回転で、底部は回転篋切り後で。内面:口縁部～底部は回転で。	
0890	椀 須恵器	器高:(60mm)口径:[152mm]底径:—口縁部～胴部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。口縁部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転で。	
0891	椀 灰釉陶器	器高:(29mm)口径:—底径:[74mm]胴部～高台部 $\frac{1}{4}$	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面:胴部下半は回転篋で、底部は高台貼り付け後で。内面:胴部～底部は回転で。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0892	皿 須恵器	器高：17mm 口径：[148mm] 底径：[88mm] 口縁部～高台部 $\times$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転で。	内面に油煙付着。
0893	杯 須恵器	器高：35mm 口径：[134mm] 底径：[82mm] 口縁部～底部 $\times$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転笠切り後など。内面：口縁部～底部は回転で。	
0894	蓋 須恵器	器高：(27mm) 口径：[176mm] つまみ径：一天井部～口縁部 $\times$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。返りは短い。外面：天井部上端は回転笠削り、天井部下半～口縁部は回転で。内面：天井部～口縁部は回転で。	
0895	杯 須恵器	器高：(39mm) 口径：[140mm] 底径：[74mm] 口縁部～底部 $\times$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転笠切り後など。内面：口縁部～底部は回転で。	
1693	甕 土師器	器高：(62mm) 口径：[242mm] 底径：一口縁部～胴部上端 $\times$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。口縁部は横で、一部輪積痕が残り、胴部上端は笠削り。内面：口縁部は横で、胴部上端は笠で。	内外面に油煙付着。
1695	杯 土師器	器高：(40mm) 口径：140mm 底径：一口縁部～底部上端 $\times$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横で、胴部～底部は笠削り。内面：口縁部～胴部は横で後放射状暗文を施し、底部はなで。	
1697	杯 土師器	器高：30mm 口径：126mm 底径：一口縁部～底部 $\times$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横で、胴部は一部指頭痕が残り、底部は笠削り。内面：口縁部～底部上半は横で、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	
1698	杯 土師器	器高：34mm 口径：[126mm] 底径：一口縁部～底部 $\times$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横で、胴部は一部指頭痕が残り、底部は笠削り。内面：口縁部～胴部は横で、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1699	杯 土師器	器高：(35mm) 口径：[126mm] 底径：一口縁部～底部上半 $\times$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横で、一部指頭痕が残り、胴部～底部は笠削り。内面：口縁部～底部上半は横で。	口縁端部に一部油煙付着。
1707	杯 土師器	器高：39mm 口径：[106mm] 底径：一口縁部～底部 $\times$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横で、胴部上半は一部指頭痕が残り、胴部下半～底部は笠削り。内面：口縁部～胴部は横で、底部はなで。	
1711	杯 土師器	器高：(36mm) 口径：[128mm] 底径：一口縁部～底部上半 $\times$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横で、胴部～底部は笠削り。内面：口縁部～底部上半は横で。	



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1714	杯 土師器	器高：(29mm) 口径：[116mm] 底径：— 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	
1717	杯 土師器	器高：(30mm) 口径：[128mm] 底径：— 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	
1726	杯 須恵器	器高：40mm 口径：131mm 底径：69mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋削り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面の一部に油煙付着。燻し。
1735	蓋 須恵器	器高：30mm 口径：140mm つまみ径：[28mm] ほぼ完形	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。返りは短い。疑宝珠つまみ。つまみ部は貼り付け。外面：天井部上半は回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転なで。内面：天井部～口縁部は回転なで。	
1905	？ 鉄製品	長：(72mm) 幅：3～7mm 厚：8mm		用途不明。	
1930	？ 鉄製品	長：(58mm) 幅：7～13mm 厚：4～6mm		用途不明。	
1931	？ 鉄製品	長：(60mm) 幅：33mm 厚：8mm		鉄板を他の鉄板で挟み込み、鍛えている。刀子または鎌の一部か。	

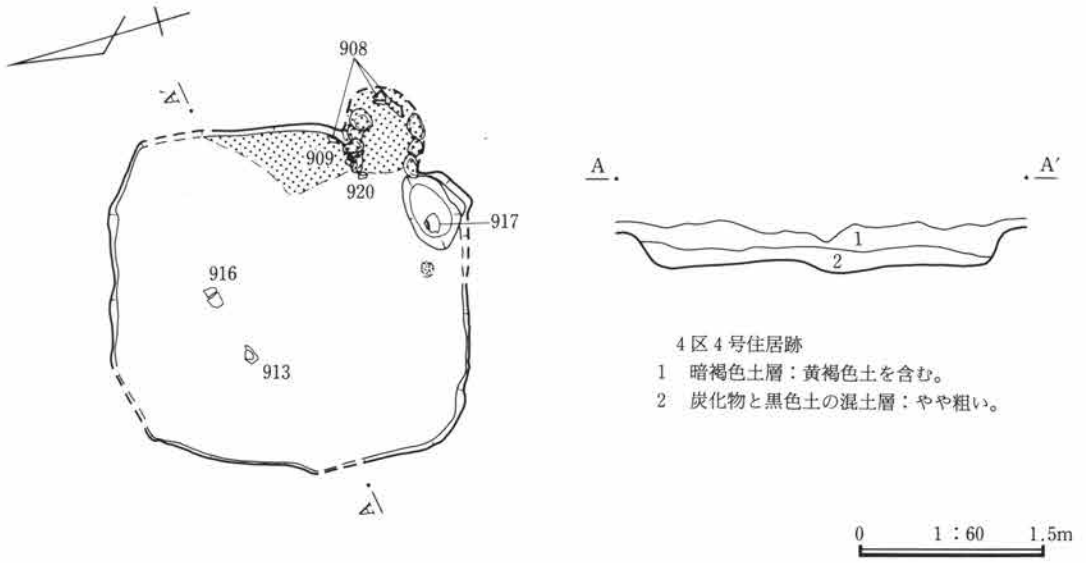
## 4区4号住居跡

N-17グリッドに位置し、4区10号住居跡・4区20号住居跡と重複する。4区10号住居跡との新旧関係は、当住居跡の西側の壁・床が4区10号住居跡の竈・壁・床の上部を破壊して構築されていることから、当住居跡の方が新しい。4区20号住居跡との新旧関係も、当住居跡の竈・壁・床が4区20号住居跡の北西部分の壁・床を破壊して構築されていることから、当住居跡の方が新しい。

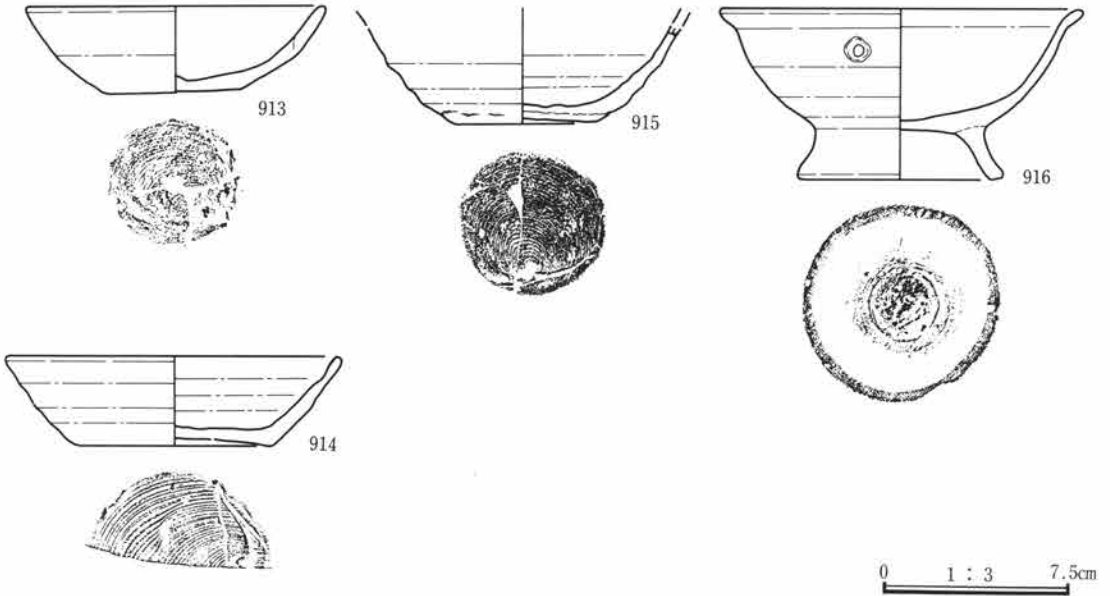
規模は南北約2.8m×東西約2.7mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-25.5°-Eである。残存壁高は約30cmを測り、比較的良好である。床面はほぼ平らであり、良好な状態であった。

竈は東壁の南東隅近くに構築されている。燃焼部分の壁外への張り出しは約50cmである。袖と燃焼部の周囲は、河原石を芯材に用いて作られている。竈右脇、南東隅には貯蔵穴が構築されている。規模は長軸約60cm・短軸約35cmであり、平面形は楕円形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかった。

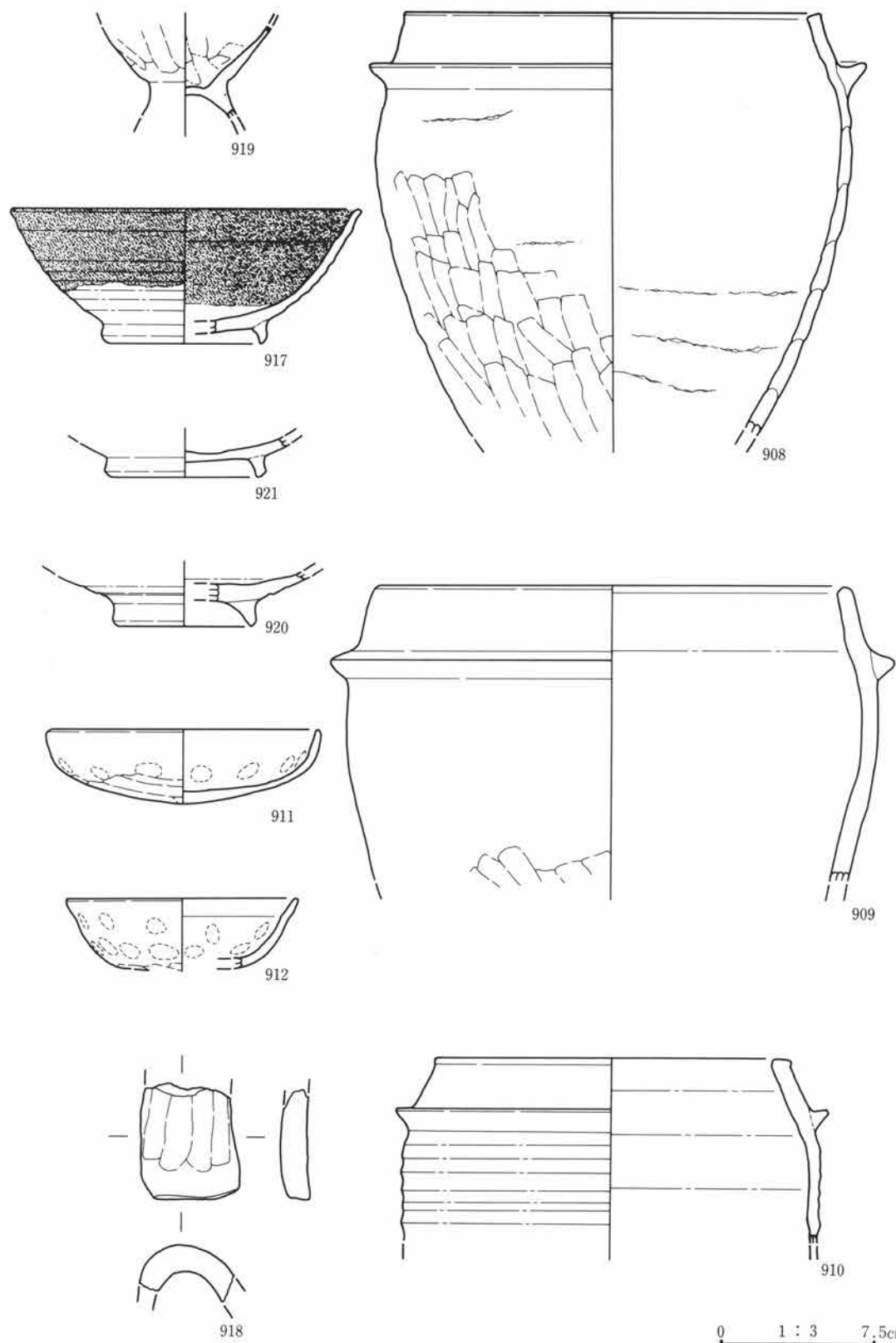
遺物は竈・貯蔵穴・住居内中央部から出土している。竈からは羽釜(908・909・910)、貯蔵穴からは灰陶陶器の椀(917)、住居内中央部からは須恵器の杯(913)・椀(916)が出土している。



第355図 4区4号住居跡



第356図 4区4号住居跡出土遺物①



第357图 4区4号住居跡出土遺物②

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0908	羽釜	器高：(201mm) 口径：201mm 底径：— 最大径：238mm 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	轆轤整形。最大径は銜部。銜部は貼り付け。口縁部は僅かに内湾。外面：口縁部～胴部上半は回転などで、胴部下半は回転などで後窠などで。内面：口縁部～胴部は回転などで、一部輪積痕が残る。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0909	羽釜	器高：(140mm) 口径：[228mm] 底径：— 最大径：[270mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径5～10mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰白・橙。	轆轤整形。最大径は銜部。銜部は貼り付け。口縁部は僅かに内湾。外面：口縁部～胴部上半は回転などで、胴部下半は回転などで後窠などで。内面：口縁部～胴部は回転などで。	内外面に油煙付着。
0910	羽釜	器高：(87mm) 口径：[170mm] 底径：— 最大径：[228mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。灰白・鈍い黄橙。	轆轤整形。最大径は銜部。銜部は貼り付け。口縁部はやや内湾。外面：口縁部～胴部上半は回転などで。内面：口縁部～胴部上半は回転などで。	内外面に油煙付着。
0911	杯 土師器	器高：36mm 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横などで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は窠削り。内面：口縁部～底部上端は横などで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0912	杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[112mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横などで、口縁部～胴部は一部指頭痕が残り、底部は窠削り。内面：口縁部～底部上端は横などで、一部指頭痕が残る。	
0913	杯 須恵器?	器高：33mm 口径：[120mm] 底径：55mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。軟質。褐灰・鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転などで。	内外面に多量の油煙付着。燻し。
0914	杯 須恵器	器高：35mm 口径：[134mm] 底径：[78mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転などで。	外面口縁部～胴部に油煙付着。燻し。
0915	杯 須恵器	器高：(38mm) 口径：— 底径：62mm 口縁部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転などで。	内外面に多量の油煙付着。燻し。
0916	椀 須恵器?	器高：68mm 口径：[144mm] 底径：82mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は外反。足高台。外面：口縁部～胴部は横などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転などで。	内外面に油煙付着。
0917	椀 灰釉陶器	器高：65mm 口径：[168mm] 底径：[80mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は高台貼り付け後などで。内面：口縁部～底部は回転などで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0918	？ 須恵器？	器高：— 口径：— 底径： — 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白・(黒)。	胴部～口縁部は直線的に延び、円筒形を成 す。口縁端部は平らに切られている。外面： 口縁部はなで、胴部は篋削り。内面：口縁 部～胴部はなで。	内外面に油煙付 着。燻して表面の 色は黒。
0919	台付甕 土師器	器高：(42mm) 口径：— 底 径：— 胴部下端～脚部上 半 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。 明赤褐。	外面：胴部下端は篋削り、底部～脚部上半 は横なで。内面：胴部下端～底部は篋なで、 脚部は横なで。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
0920	皿 須恵器	器高：(26mm) 口径：— 底 径：[68mm] 胴部～高台部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。青白。	轆轤整形。外面：胴部は回転なで、底部は 回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部 ～底部は回転なで。	
0921	椀 灰釉陶器	器高：(19mm) 口径：— 底 径：[78mm] 胴部下端～高 台部 $\frac{1}{4}$	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底 部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下端 ～底部は回転なで。	

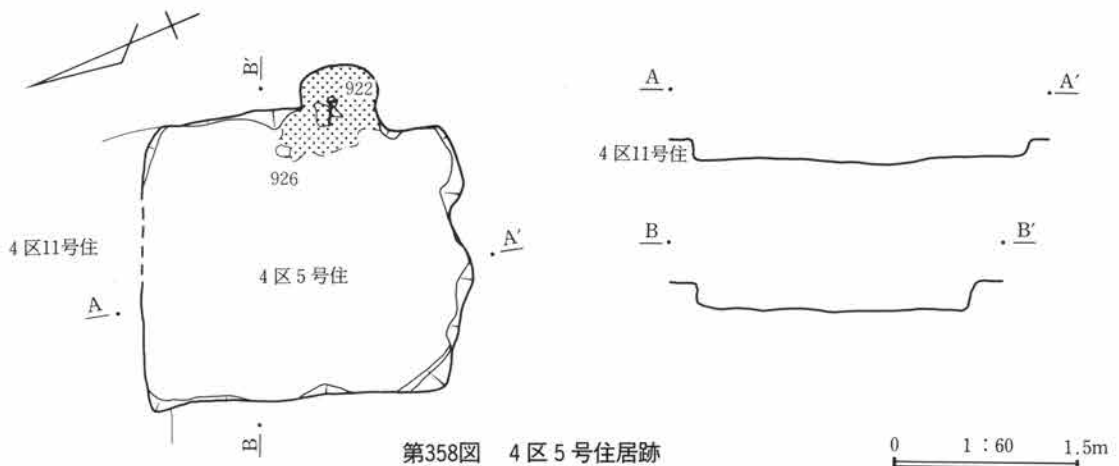
## 4区5号住居跡

4区M-20・N-20グリッドに位置し、4区11号住居跡・4区4号溝跡と重複する。4区11号住居跡との新旧関係は、4区11号住居跡の壁・床が当住居跡の覆土中に構築されていたことから、当住居跡の方が古い。4区4号溝跡との新旧関係は、当住居跡の壁・床が4区4号溝跡の覆土中に検出できたことから、当住居跡の方が新しい。

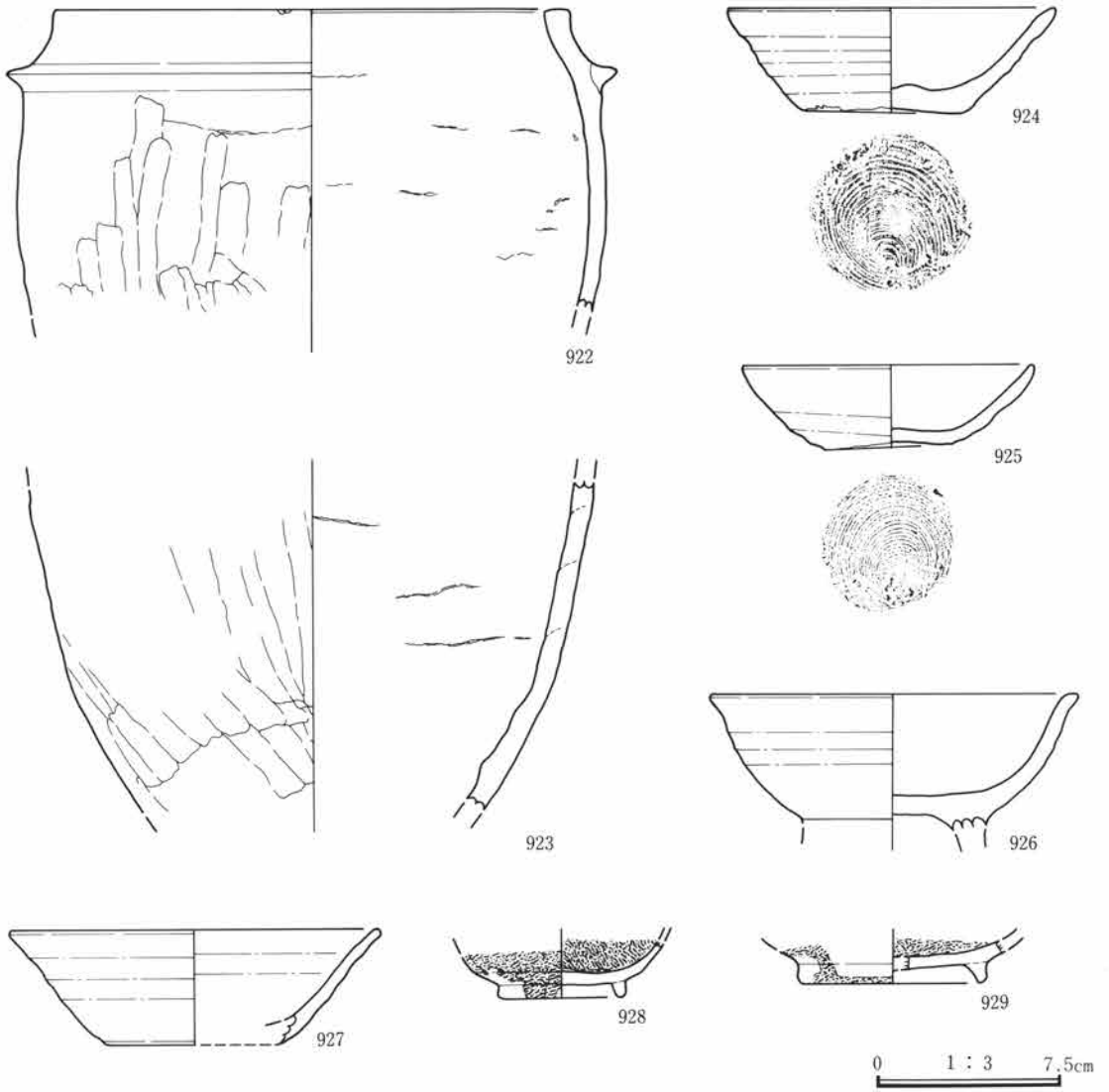
規模は南北約2.5m・東西約2.2mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-23°-Eである。床は平らで、比較的硬く良好である。残存壁高は約10～30cmであり、西壁・南壁の残りが良好である。北壁は4区11号住居跡により上部が破壊されている。

竈は東壁の中央部やや南寄りに構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約30cmである。燃焼部では、灰・焼土の堆積が確認できた。灰・焼土は竈前の床面にも多量の散布が検出できた。また、竈前からは構築材に使用されたと考えられる河原石が検出できた。

遺物は竈及び竈周辺に集中しており、竈内からは羽釜(922)竈前からは灰釉陶器の椀(928)が出土している。



第358図 4区5号住居跡



第359図 4区5号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0922	羽釜	器高：(120mm) 口径：[208mm] 底径：— 最大径：[246mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{4}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	口縁部は内湾し、口縁端部は僅かに外反。最大径は鏝部。鏝部は貼り付け。外面：口縁部～鏝部は回転なで、胴部上半は回転なで後一部寛なで、一部輪積痕が残る。内面：口縁部～胴部上半は回転なで、一部輪積痕が残る。	内外面に油煙付着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0923	羽釜	器高：(130mm) 口径：— 底径：— 胴部下半 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	外面：胴部下半は回転などで後窠などで。内 面：胴部下半は回転などで、一部輪積痕が残 る。	内外面に油煙付 着。
0924	杯 須恵器	器高：43mm 口径：132mm 底径：66mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部は回転など、 底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は 回転などで。	
0925	杯 須恵器	器高：33mm 口径：118mm 底径：53mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がる。外面：胴部～口縁部は回 転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部 ～底部は回転などで。	外面口縁部～胴部 に油煙付着。
0926	椀 須恵器	器高：(54mm) 口径：[148 mm] 底径：— 口縁部～高 台部上半 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。橙。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ 広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口 縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切 り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は 回転などで。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
0927	杯 須恵器	器高：(46mm) 口径：[150 mm] 底径：[70mm] 口縁部 ～底部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、 口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴 部は回転などで、底部は回転糸切り。内面： 口縁部～底部は回転などで。	内外面に一部油煙 付着。
0928	椀 灰釉陶器	器高：(22mm) 口径：— 底 径：50mm 胴部下半～高台 部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形。胴部は内湾しつつ広がる。外面： 回転窠削り、底部は高台貼り付け後など。 内面：胴部下半～底部は回転などで。	外面高台部～胴部 上半・内面口縁部 ～胴部に施釉。
0929	椀 灰釉陶器	器高：(17mm) 口径：— 底 径：[76mm] 胴部下端～高 台部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転などで、底 部は高台貼り付け後回転などで。内面：胴部 下端～底部は回転などで。	内面は底部まで施 釉。

#### 4区6号住居跡

4区M—18・19、N—18・19グリッドに位置し、4区7号住居跡・4区8号住居跡と重複する。4区7号住居跡との新旧関係は不明である。4区8号住居跡との新旧関係は、当住居跡が4区8号住居跡の東側部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が新しい。

規模は南北約3.5m・東西約3.0mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN—18°—Eである。床面は比較的硬く、平らである。残存壁高は約10～20cmであり、状態は良好である。

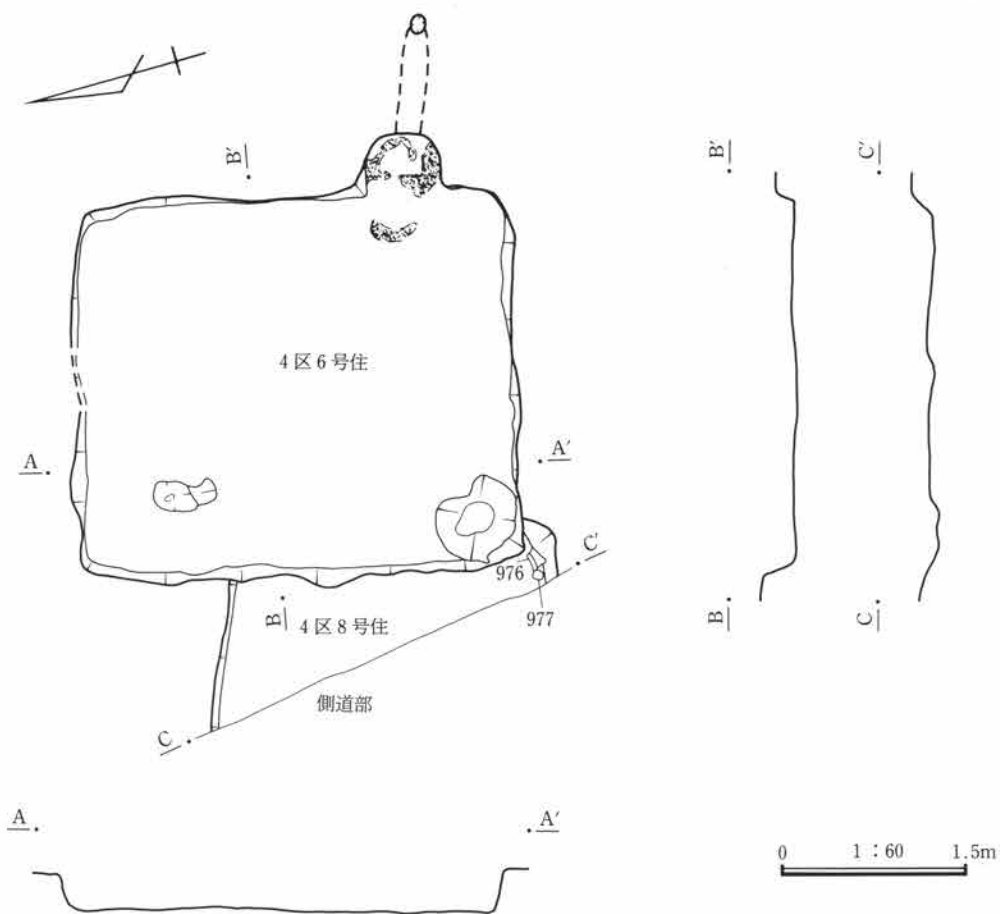
竈は東壁の南東隅近くに構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約45cmである。燃焼部からは灰・焼土の堆積が検出できた。燃焼部の奥壁の先約90cmの地点からは、径約10cmであり、平面形は円形を呈するピットが検出できた。奥壁とピットの間からは、連続的に焼土が検出できた。ピットは煙道の先端部と考えられる。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。

遺物の出土は少ないが、覆土中から羽釜・土師器の杯・須恵器の杯などが出土している。

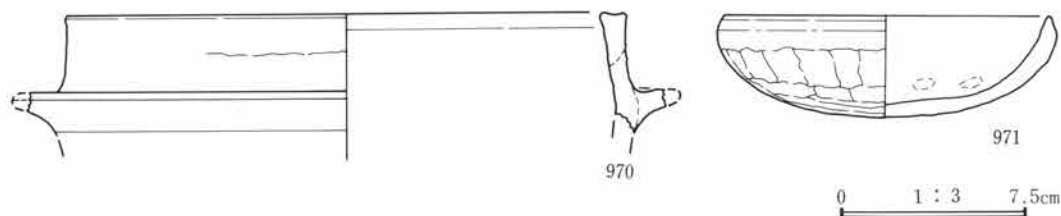
4区8号住居跡

4区N-18・19グリッドに位置し、4区6号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡の東側部分の壁・床及び竈が4区6号住居跡に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

規模は不明であるが、南北は約2.6mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定できる。検出できた床面はほぼ平らであり、張床がされている。残存壁高は約5～10cmと浅い。竈・貯蔵穴・柱穴・壁溝は検出できなかった。遺物は南東隅から羽釜(976)・須恵器の椀(977)の他、覆土中から灰釉陶器の椀などが出土している。

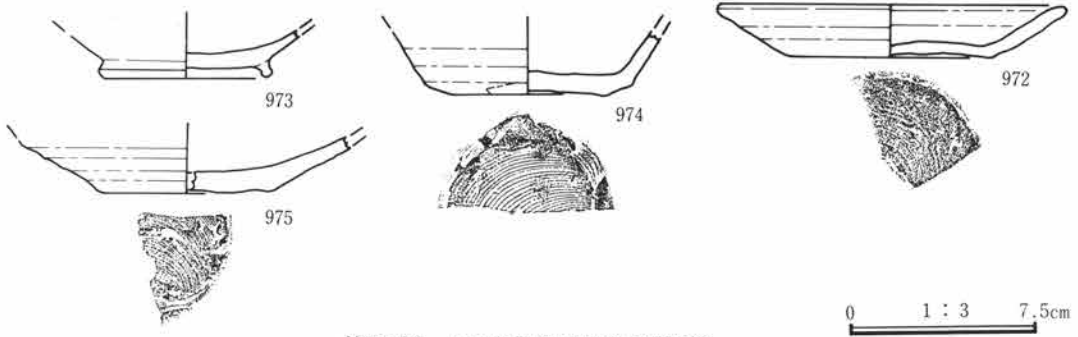


第360図 4区6・8号住居跡

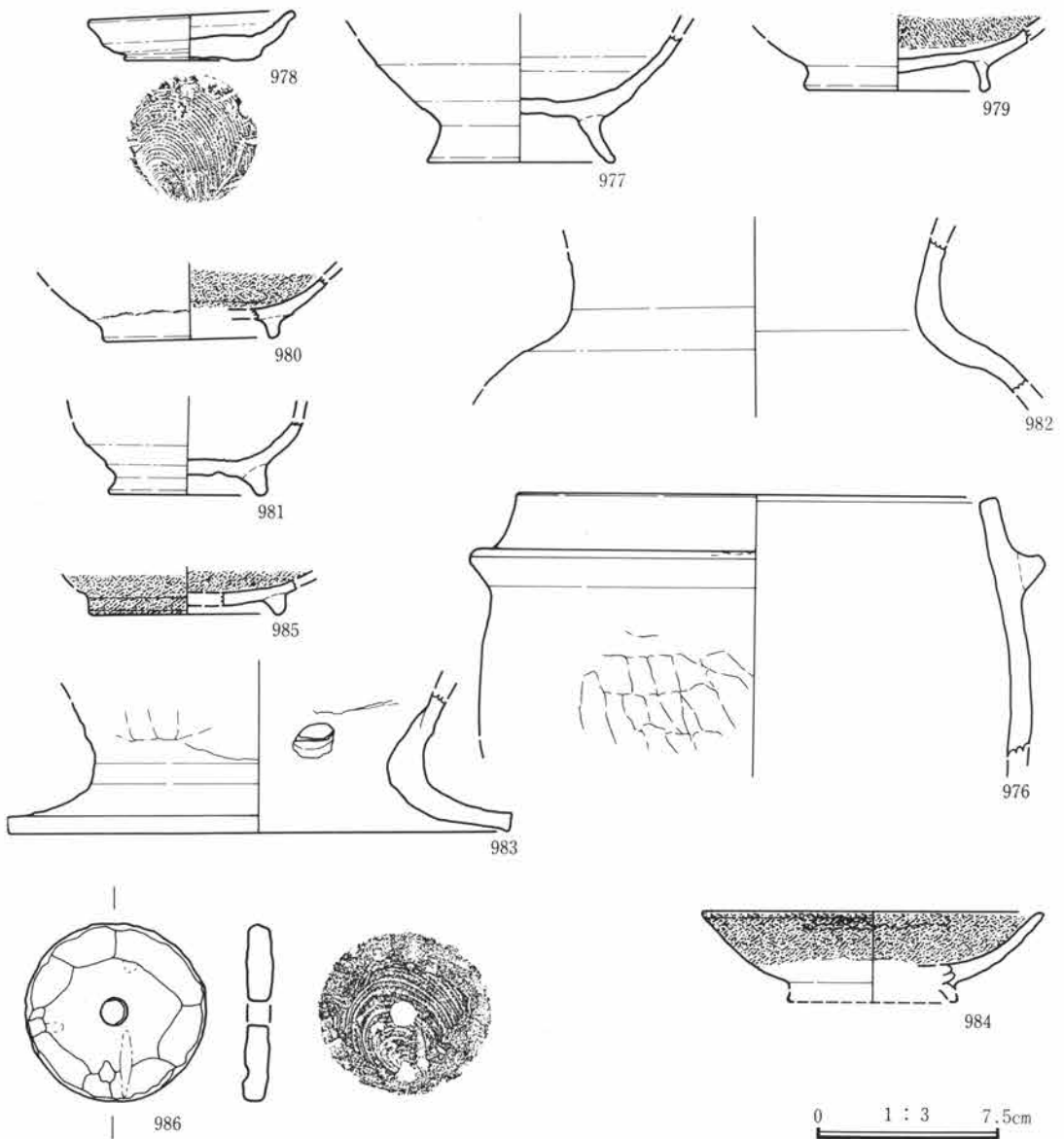


第361図 4区6号住居跡出土遺物①





第362図 4区6号住居跡出土遺物②



第363図 4区8号住居跡出土遺物

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0970	羽 釜	器高：(48mm) 口径：[226mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	鈔部は貼り付け。外面：口縁部～鈔部は回転まで。内面：口縁部は回転まで。	
0971	杯 土師器	器高：40mm 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横まで、胴部～底部は寛削り。内面：口縁部～底部上端は横まで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	外面底部に油煙付着。
0972	杯 土師質土器	器高：21mm 口径：[140mm] 底径：[82mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	
0973	椀 灰釉陶器	器高：(21mm) 口径：— 底径：[70mm] 胴部下端～高台部 $\frac{3}{4}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転まで。	
0974	杯 須恵器	器高：(25mm) 口径：— 底径：[62mm] 胴部下半～底部 $\frac{3}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転まで、底部は回転糸切り。内面：胴部下半～底部は回転まで。	内外面に自然釉。
0975	杯 須恵器	器高：(23mm) 口径：— 底径：[70mm] 胴部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部は直線的に広がる。外面：胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面：胴部～底部は回転まで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0976	羽 釜	器高：(105mm) 口径：[196mm] 底径：— 最大径：[236mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。鈔部は貼り付け。最大径は鈔部。口縁部は僅かに内湾。外面：口縁部～胴部上端は回転まで、一部輪積痕が残り、胴部上半は回転まで後寛まで。内面：口縁部～胴部上半は回転まで。	外面に油煙付着。
0977	椀 須恵器	器高：(51mm) 口径：— 底径：78mm 胴部～高台部 $\frac{3}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。足高高台。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転まで、底部は高台貼り付け後まで。内面：胴部～底部は回転まで。	内面底部に多量の油煙付着。
0978	杯 土師質土器	器高：20mm 口径：83mm 底径：55mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0979	椀 灰釉陶器	器高：(25mm) 口径：— 底径：[76mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{4}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転まで、底部は高台貼り付け後まで。内面：胴部下半～底部は回転まで。	内面は胴部まで施釉。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0980	椀 灰釉陶器	器高：(24mm) 口径：一 底径：[72mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転などで、底部は高台貼り付け後など。内面：胴部下半～底部は回転など。	内外面に油煙付着。内面は胴部まで施釉。
0981	椀 須恵器	器高：(30mm) 口径：一 底径：69mm 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	轆轤整形。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部下半は回転などで、底部は高台貼り付け後など。内面：胴部～底部は回転など。	内外面に全面的に油煙付着。焦し。
0982	甕 須恵器	器高：(62mm) 口径：一 底径：一 口縁部下半～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。口縁部は「く」字状に外反。内外面共に口縁部下半は回転などで、胴部上端は叩後など。	外面に自然釉。
0983	甕 須恵器	器高：(57mm) 口径：一 底径：[200mm] 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	底部は大きく屈曲し外反。内面に孔あり。内面に一部輪積痕が残る。内外面共に胴部下端～底部は回転など。	外面に油煙付着。
0984	椀 灰釉陶器	器高：(31mm) 口径：[140mm] 底径：一 口縁部～高台部上端 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は高台貼り付け。内面：口縁部～底部上端は回転など。	外面に油煙付着。内外面共に口縁部～胴部に施釉。
0985	椀 灰釉陶器	器高：(14mm) 口径：一 底径：[82mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転などで、底部は高台貼り付け後など。内面：胴部下端～底部は回転など。	内外面の口縁部～胴部及び外面の高台部に施釉。
0986	紡錘車 須恵器	径：73mm 厚：10mm 孔径：9mm 重：61.6g	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	須恵器杯の底部転用紡錘車。周囲は丁寧打ち欠かかれており、穿孔も丁寧。	一部油煙付着。

#### 4区7号住居跡

4区L-18・19、M-18・19グリッドに位置し、4区15号住居跡・4区22号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区15号住居跡・4区22号住居跡との新旧関係は不明である。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の東側の壁・床及び竈を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

規模は、東側部分・南側部分が破壊されているために不明であるが、北側及び北西隅の壁は確認できた。残存壁高は約10cmである。確認できた床はほぼ平らである。竈は東壁の南寄りに構築されている。大部分は4区3号溝跡に破壊されているが、燃焼部・袖の一部が検出できた。袖の先端部は河原石を芯材として使用し、地山に埋め込んでいる。燃焼部の先端からは灰・焼土の堆積が検出でき、竈前からは灰・焼土の散布が検出できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。

遺物は竈周辺から羽釜(987)が出土しているほかは、覆土中から須恵器の椀・甕・灰釉陶器の皿などが出土している。

#### 4区15号住居跡

4区L-19・20グリッドに位置し、4区7号住居跡・4区17号住居跡と重複する。4区7号住居跡・4区17号住居跡との新旧関係は不明である。規模は、南側半分が4区7号住居跡との重複により確認

できず、不明であるが、東西は約3.3mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定している。確認できた部分の床はほぼ平らであり、残存壁高は約20cmを測る。

竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物の出土は少ないが、羽釜・須恵器の壺・灰釉陶器の椀などが出土している。

#### 4区17号住居跡

4区L-18・19、K-19グリッドに位置し、4区15号住居跡・4区22号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区15号住居跡との新旧関係は不明である。4区22号住居跡との新旧関係は、同住居跡が当住居跡の南側部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区3号溝跡との新旧関係も、同溝跡が当住居跡の南側部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

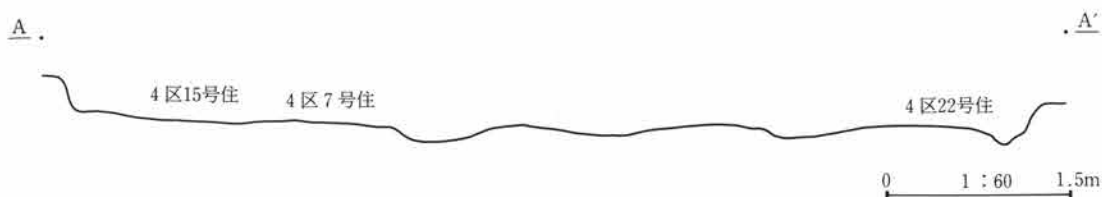
規模は、当住居跡の検出が南側の一部であり、しかも中央部分を破壊されているために不明であるが、南北は約2.7mであり、平面形は隅丸方形、ないしは隅丸長方形を呈するものと推定している。検出部分が僅かのために、床の状態は不明である。また、残存壁高も約5cmであり、残りが悪い。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物も少なく、覆土中から羽釜・須恵器の椀などが出土しているだけである。

#### 4区22号住居跡

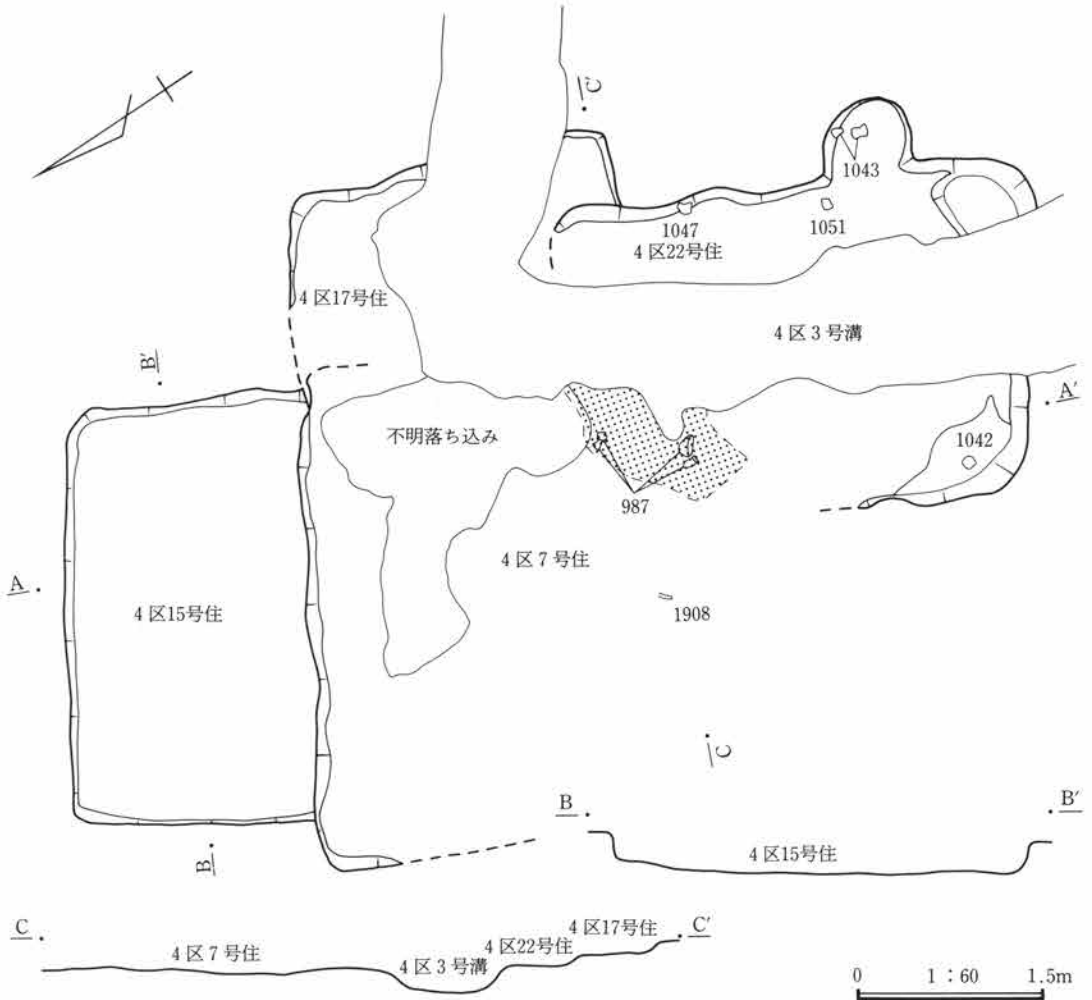
4区M-18、L-17・18グリッドに位置し、4区7号住居跡・4区17号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区7号住居跡との新旧関係は不明である。4区17号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南側部分の壁・床を当住居跡が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の中央部分を南北に縦断し、壁・床を破壊していることから当住居跡の方が古い。

規模は、4区3号溝跡に破壊され確定できないが、南北約3.8m・東西約2.7mであり、平面形は隅丸長方形を呈するものと推定している。主軸はN-27°-Eである。床は竈を中心とした東側部分で確認でき、比較的硬く、ほぼ平らである。残存壁高は、やはり東側部分で約20cmを測る。

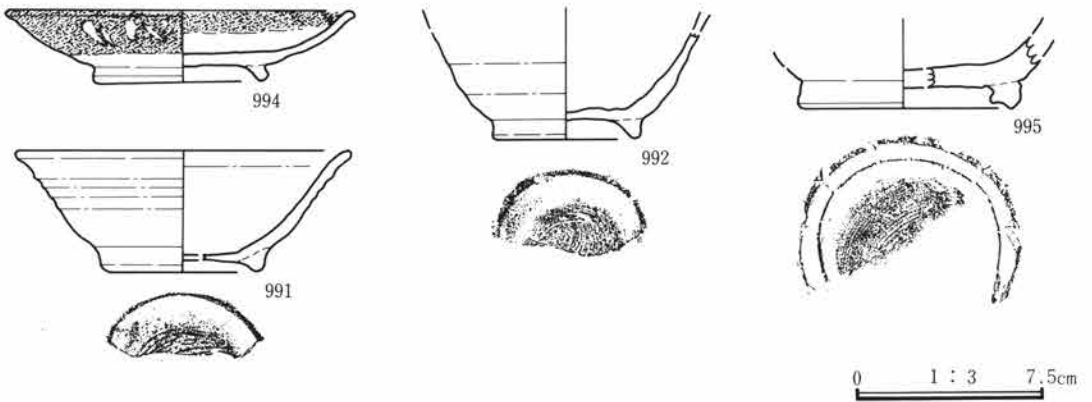
竈は東側壁の南寄りに構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約60cmである。竈の残りは悪く、袖は検出できなかったが、燃焼部では灰・焼土の堆積を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は竈及びその周辺を中心に出土している。竈内からは、須恵器の杯(1043)・竈前からは須恵器の長頸壺(1051)・東壁の中央付近からは灰釉陶器の椀(1047)・南西隅からは須恵器の椀(1042)などが出土している。



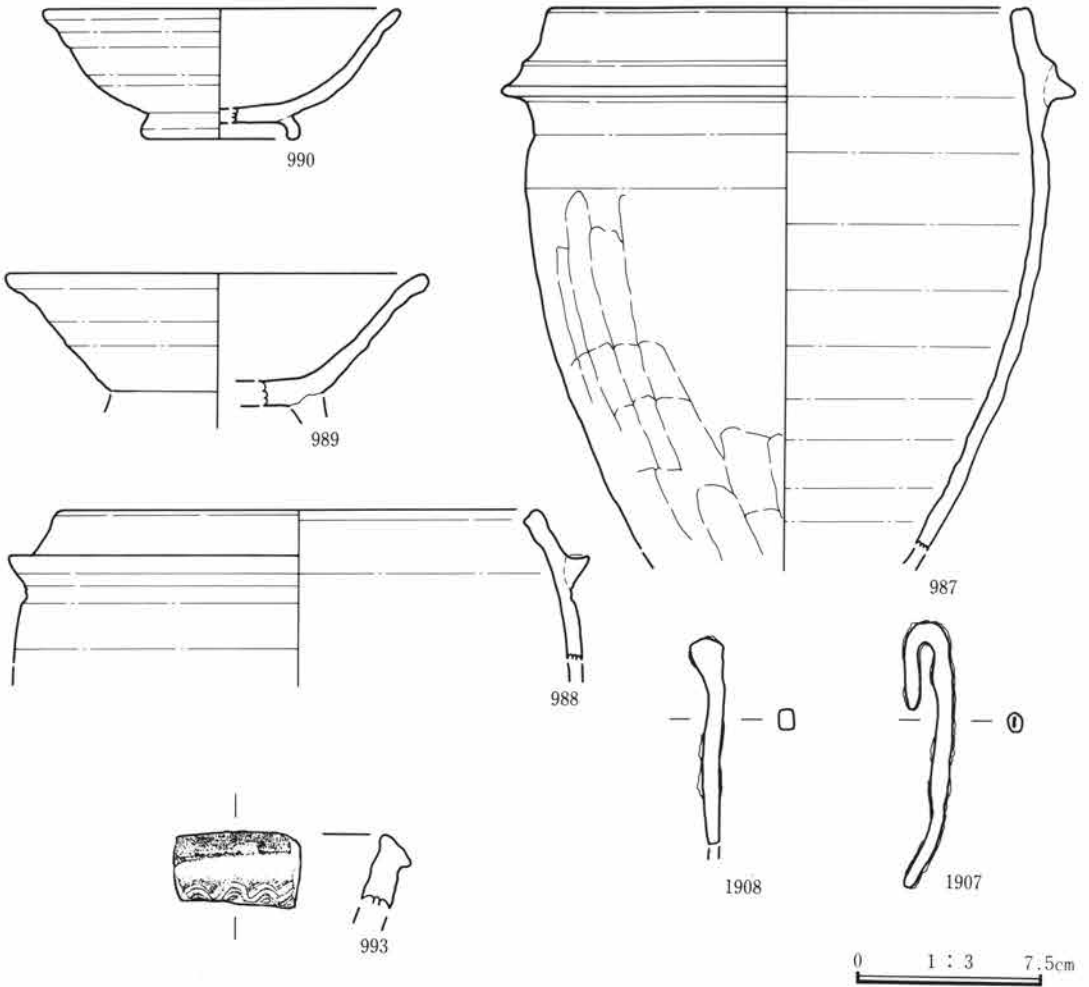
第364図 4区7・15・22号住居跡エレベーション



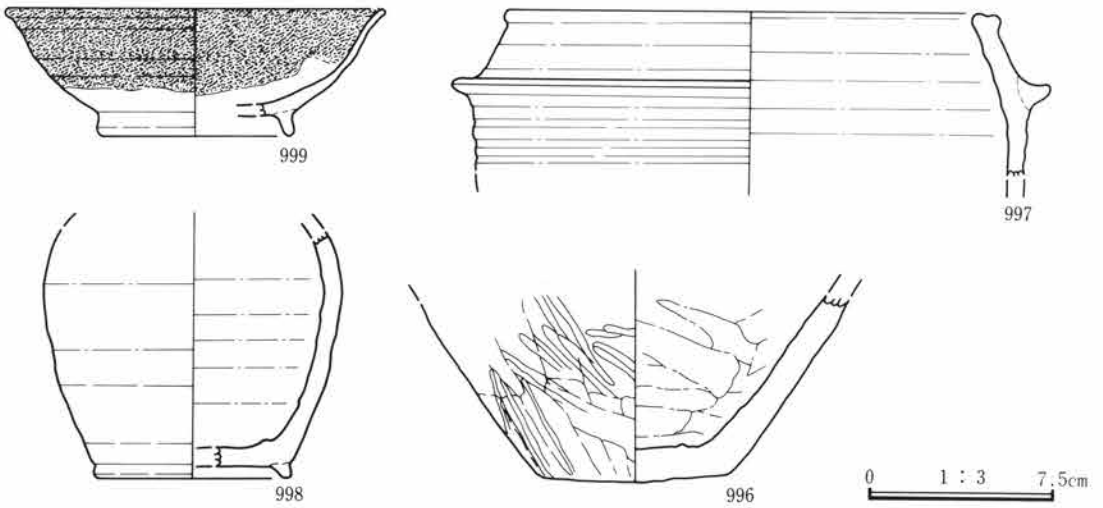
第365図 4区7・15・17・22号住居跡



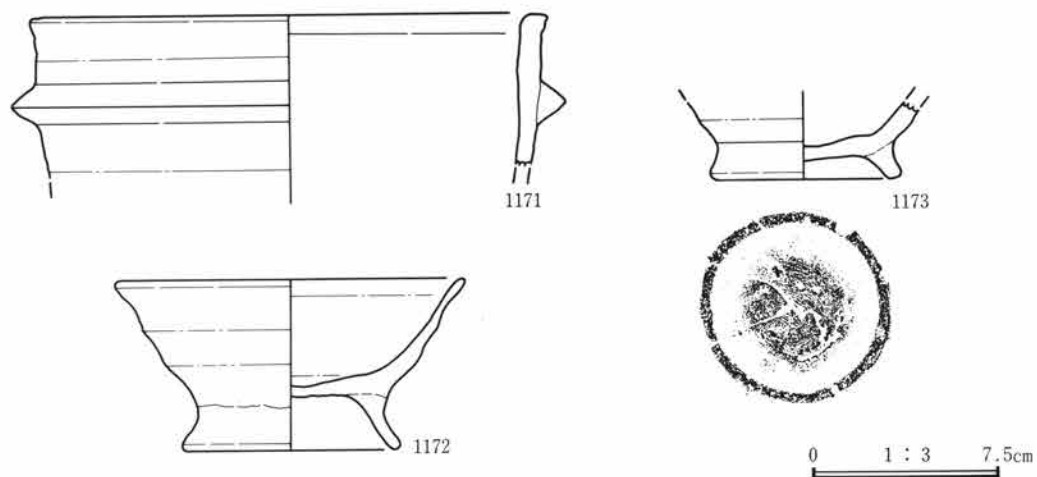
第366図 4区7号住居跡出土遺物①



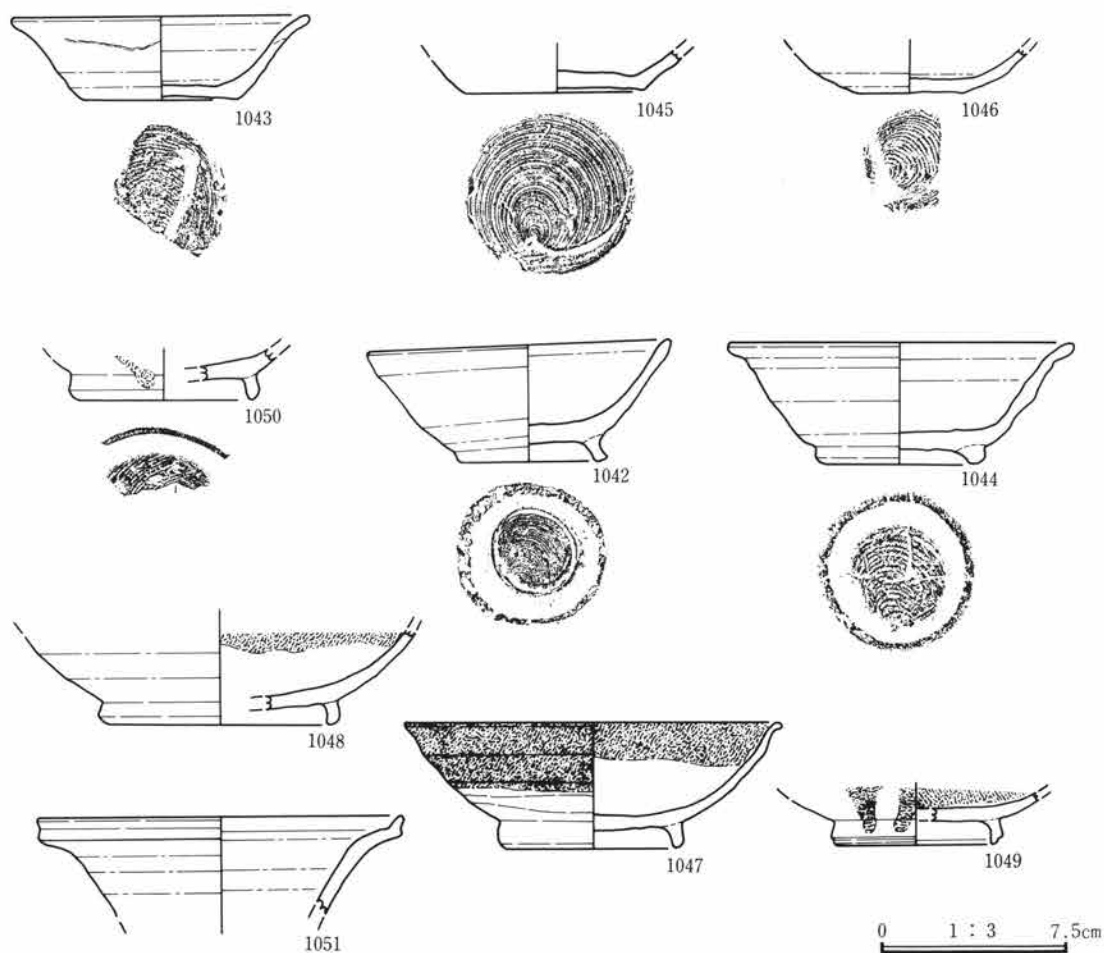
第367図 4区7号住居跡出土遺物②



第368図 4区15号住居跡出土遺物



第369图 4区17号住居跡出土遺物



第370图 4区22号住居跡出土遺物

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0987	羽 釜	器高：(213mm) 口径：[192mm] 底径：— 最大径：[228mm] 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰白・鈍い赤褐。	轆轤整形。鋳部は貼り付け。最大径は鋳部。口縁部はやや内湾。外面：口縁部～胴部上半は回転なで、胴部下半は回転なで後篋削り。内面：口縁部～胴部は回転なで。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0988	羽 釜	器高：(59mm) 口径：[192mm] 底径：— 口縁部～胴部上端破片	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	轆轤整形。鋳部は貼り付け。口縁部はやや内湾。外面：内外面共に口縁部～胴部上端は回転なで。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0989	椀 須恵器	器高：(52mm) 口径：[168mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内面に油煙付着。
0990	椀 須恵器	器高：51mm 口径：[142mm] 底径：[64mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。軟質。黄灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に多量の油煙付着。
0991	椀 須恵器	器高：48mm 口径：[134mm] 底径：[66mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。黄灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に全面的に油煙付着。燻し。
0992	椀 須恵器	器高：(41mm) 口径：— 底径：[60mm] 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	
0993	甕 須恵器	器高：— 口径：— 底径：— 口縁部小破片	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	口縁端部は外縁帯を持つ。外面：口縁部は還元なで後波状文を施す。内面：口縁部は回転なで。	
0994	皿 灰釉陶器	器高：30mm 口径：[140mm] 底径：68mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面共に口縁部～胴部に施釉。
0995	壺 須恵器	器高：(27mm) 口径：— 底径：87mm 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転なで。	内面に油煙付着。
1907	? 鉄製品	長：105mm 幅：6mm 厚：7.5mm		芯は空洞。用途不明。端部は折り曲げている。	
1908	? 鉄製品	長：(82mm) 幅：8mm 厚：6mm		角釘か。	



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0996	羽 釜	器高：(72mm) 口径：一 底 径：75mm 胴部下半～底部 1/2	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。やや硬質。灰白・ 鈍い橙。	胴部は直線的に広がる。外面：胴部下半は 窠削り後一部窠磨き、底部はなで。内面： 胴部下半～底部は指なで。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
0997	羽 釜	器高：(63mm) 口径：[198 mm] 底径：一 口縁部～胴 部上端破片	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。橙。	轆轤整形。鏝部は貼り付け。口縁部はやや 内湾し、口縁端部は凸帯状。内外面共に口 縁部～胴部上端は回転なで。	
0998	壺 須恵器	器高：(98mm) 口径：一 底 径：[80mm] 胴部～高台部 1/2	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。やや硬質。灰・鈍 い橙。	轆轤整形。外面：胴部は回転なで、底部は 高台貼り付け後なで。内面：胴部は回転な で、底部はなで。	
0999	椀 灰釉陶器	器高：52mm 口径：[152mm] 底径：[78mm] 口縁部～高 台部1/2	細砂粒を含む。還元。 やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつ つ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口 縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付 け後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面共に口縁部 ～胴部に施釉。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1171	羽 釜	器高：(61mm) 口径：[206 mm] 底径：一 口縁部～胴 部上端破片	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。鈍い橙。	轆轤整形。鏝部は貼り付け。内外面共に口 縁部～胴部上端は回転なで。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
1172	椀 須恵器	器高：68mm 口径：[140mm] 底径：[86mm] 口縁部～高 台部1/2	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。やや軟質。灰白・ 橙。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつ つ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、 底部は足高高台貼り付け後なで。内面：口 縁部～底部は回転なで。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
1173	椀 須恵器	器高：(31mm) 口径：一 底 径：76mm 胴部下端～高台 部1/2	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底 部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴 部下端～底部は回転なで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1042	椀 須恵器	器高：46mm 口径：[120mm] 底径：60mm 口縁部～高台 部1/2	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつた広がる。外面：口縁部は回転なで、 底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面： 口縁部～底部は回転なで。	内面全体と外面の 一部に油煙付着。 燻し。
1043	杯 須恵器	器高：33mm 口径：[120mm] 底径：[62mm] 口縁部～底 部1/2	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がり、口縁端部はやや外反。外面：口 縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。 内面：口縁部～底部は回転なで。	外面底部に油煙付 着。

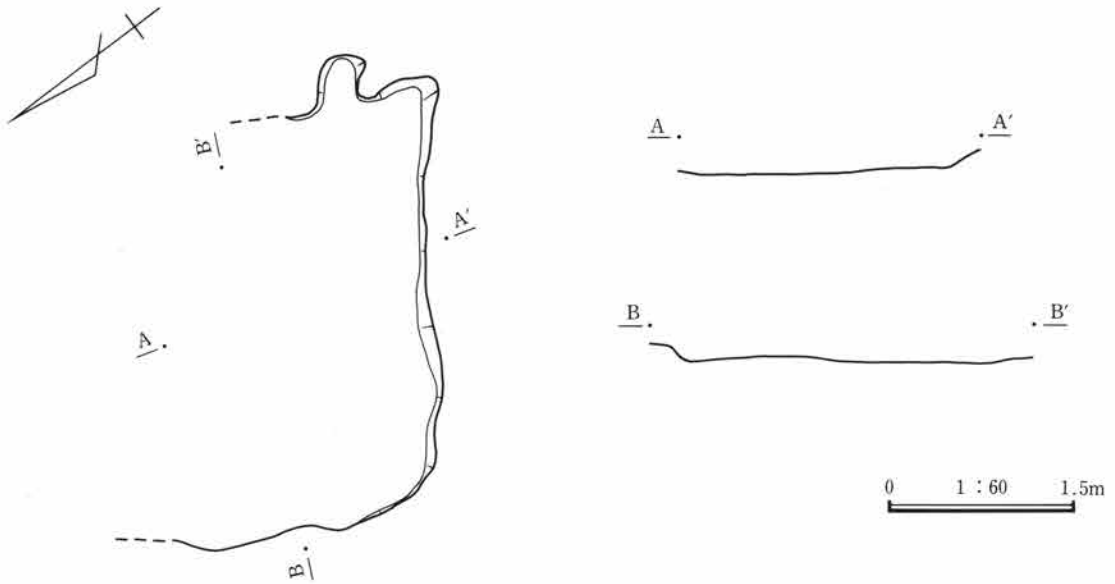
第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1044	椀 須恵器	器高：48mm 口径：[138mm] 底径：66mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。浅黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1045	杯 須恵器	器高：(17mm) 口径：— 底径：71mm 胴部下端～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転で、底部は回転糸切り。内面：胴部下端～底部は回転で。	
1046	杯 土師質土器	器高：(18mm) 口径：— 底径：40mm 口縁部下半～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。浅黄橙。	轆轤整形、右回転。外面：胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	
1047	椀 灰釉陶器	器高：50mm 口径：152mm 底径：74mm 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転篋切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面共に口縁部～胴部に施釉。
1048	椀 灰釉陶器	器高：(37mm) 口径：— 底径：[96mm] 胴部～高台部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転で、底部は高台貼り付け後で。内面：胴部～底部は回転で。	
1049	椀 灰釉陶器	器高：(20mm) 口径：— 底径：[68mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{4}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転で、底部は高台貼り付け後で。内面：胴部下端～底部は回転で。	内面は胴部下端まで施釉。
1050	椀 灰釉陶器	器高：(20mm) 口径：— 底径：[76mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒・細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転で。	内面に油煙付着。
1051	長頸壺 須恵器	器高：(39mm) 口径：[146mm] 底径：— 口縁部～頸部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。口縁部は外反し、口縁端部はほぼ直立する。内外面共に口縁部～頸部は回転で。	外面に自然釉。

4区9号住居跡

4区M-24グリッドに位置し、重複はない。住居の残りが悪く、全体の規模は不明であるが、東西は約3.2mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定している。確認できたのは住居跡の東側部分であり、床面はほぼ平らである。残存壁高は約5～10cmである。

東壁の南東隅近くからは、約50cmの壁外への張り出しが検出できた。竈と推定しているが、袖や灰・焼土の堆積は確認できず、僅かに焼土の散布が検出できただけである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は、覆土中から小破片土師器・須恵器のみが出土しているだけである。

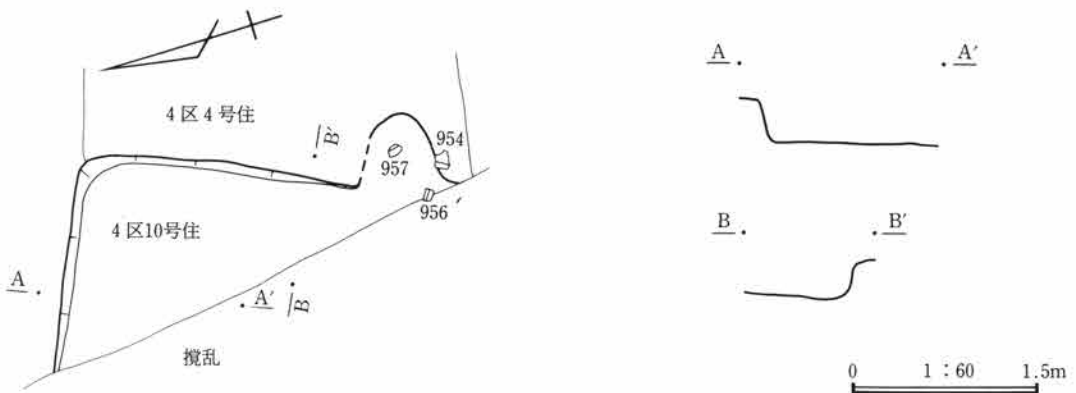


第371図 4区9号住居跡

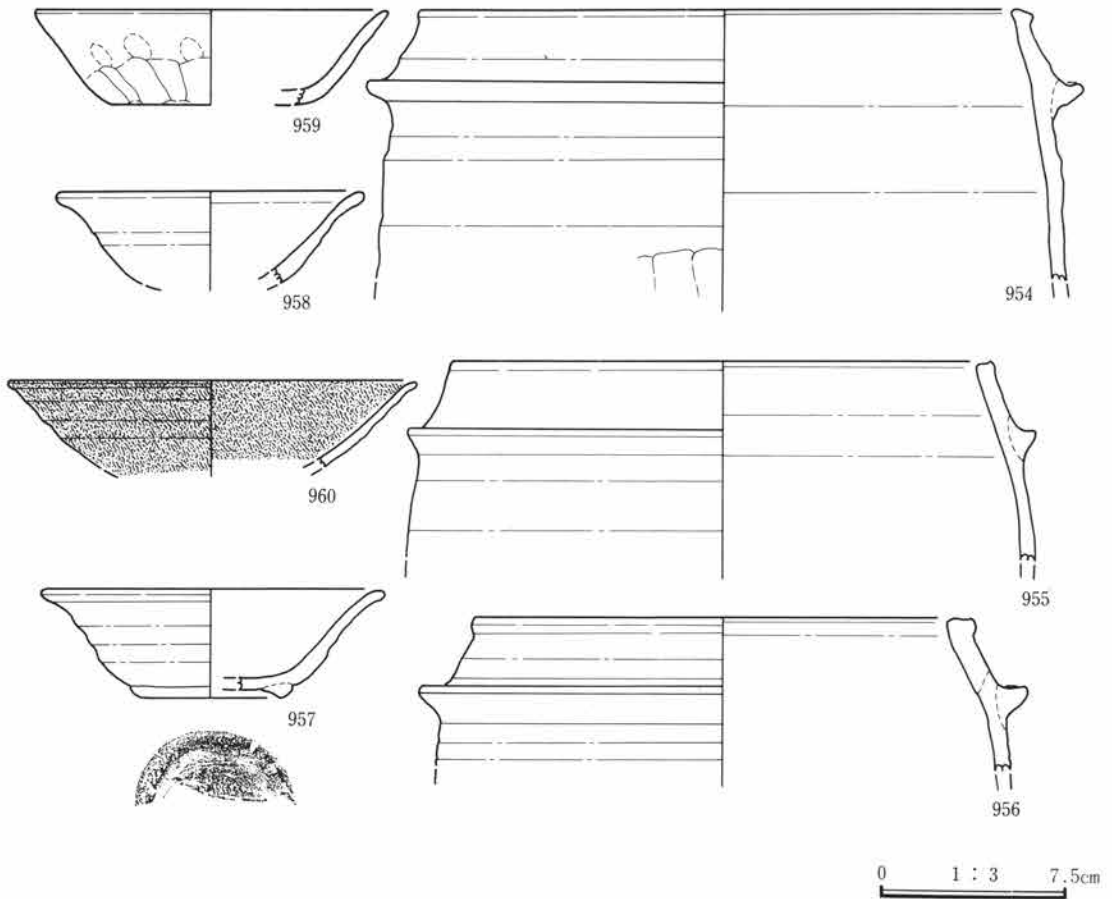
## 4区10号住居跡

4区N-17・18グリッドに位置し、4区4号住居跡と重複する。新旧関係は、4区4号住居跡の西側の壁・床が当住居跡の東側の壁・床及び竈の上部を破壊していることから、当住居跡の方が古い。規模は西側部分が攪乱により破壊されており、確認できなかった。検出できた竈から北東部の床面は明瞭に確認でき、ほぼ平坦であり、良好である。残存壁高は東壁から北壁で約30cmを測る。

竈は東壁の南寄りに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約70cmであり、袖は検出できなかったが、燃烧部の底面からは灰・焼土の堆積が検出でき、側面も焼けていた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は少ないが、竈を中心に出土している。竈からは羽釜(954・956)、須恵器の椀(957)などが出土している。



第372図 4区10号住居跡



第373図 4区10号住居跡出土遺物

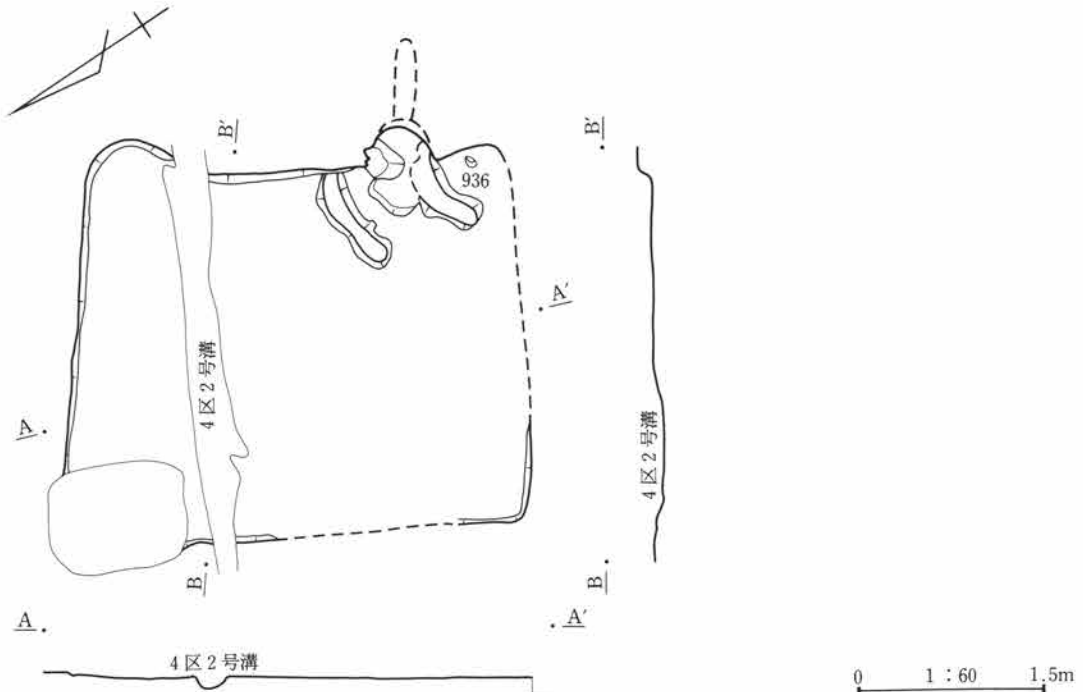
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0954	羽釜	器高：(106mm) 口径：[246mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐色。	轆轤整形。鈿部は貼り付け。口縁部はやや内湾。外面：口縁部～胴部上端は回転などで、胴部上半は回転などで後篋削り。内面：口縁部～胴部上半は回転などで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
0955	羽釜	器高：(78mm) 口径：[216mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い橙。	轆轤整形。鈿部は貼り付け。口縁部は僅かに内湾。内外面共に口縁部～胴部上端は回転などで。	内外面に油煙付着。鈍い炎を受けている。
0956	羽釜	器高：(60mm) 口径：[200mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	轆轤整形。鈿部は貼り付け。口縁部はやや内湾し、口縁端部は凸帯状に張り出す。内外面共に口縁部～胴部上端は回転などで。	
0957	腕須恵器	器高：43mm 口径：[138mm] 底径：[58mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰白・橙。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は外反。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は高台貼り付け後などで。内面：口縁部～底部は回転などで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0958	椀 須恵器	器高：(37mm) 口径：[122mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	外面に一部油煙付着。
0959	杯 土師器	器高：(37mm) 口径：[140mm] 底径：[78mm] 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで。	外面胴部下端～底部に油煙付着。二次炎を受けている。
0960	椀 灰釉陶器	器高：(35mm) 口径：[162mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	内外面共に口縁部～胴部に施釉。

## 4区11号住居跡

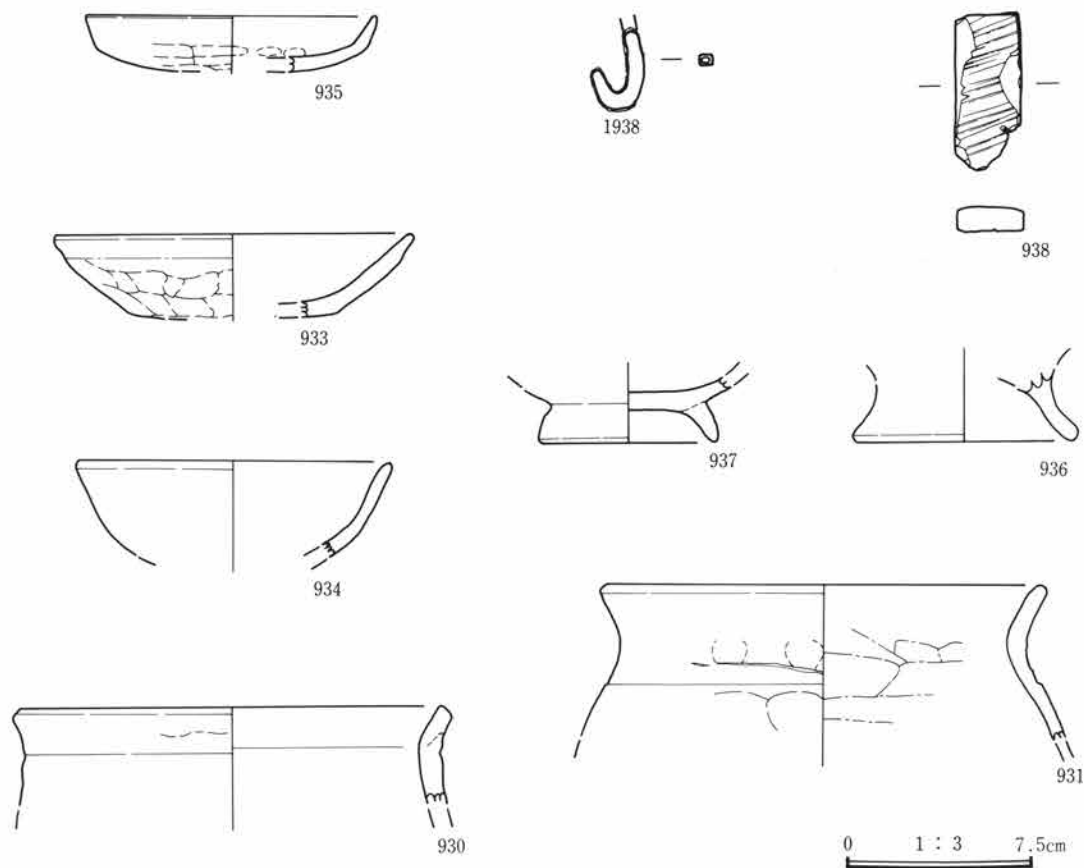
4区M-21、N-21グリッドに位置し、4区5号住居跡・4区14号住居跡・4区2号溝跡と重複する。4区5号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北側の壁・床の上部を破壊して当住居跡の南側の壁・床が構築されていることから、当住居跡の方が新しい。4区14号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東側の壁・床及び竈を破壊して当住居跡の西側の壁・床が構築されていることから当住居跡の方が新しい。4区2号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の北側部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

規模は東西約2.9m・南北約3.5mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-29°-Eである。床面は硬く良好な状態で検出でき、ほぼ平坦である。残存壁高は、残りの良い東側部分でも約10cmで



第374図 4区11号住居跡

ある。竈は東壁の南東隅近くに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約40cmである。燃烧部の奥壁より外へ、幅約15cm、長さ70cmの焼土の帯が確認できた。煙道部の残りとは推定できる。袖は基部が検出でき、構築材には白色粘土を使用しているのが確認できた。また、燃烧部及び竈前からは灰・焼土の堆積が検出できた。住居跡の北西隅からは、長辺約1.1m・短辺約0.8m・確認面からの深さ約25cmであり、平面形は長方形を呈するピットが検出できた。しかし、同ピットは覆土の状態から当住居跡より新しいと考えている。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は、土師器の甕(930・931)土師器の杯(933・934・935)の他に、砥石(938)などが出土している。



第375図 4区11号住居跡出土遺物

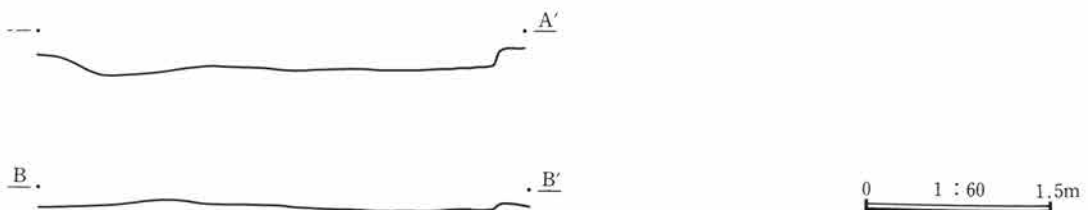
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0930	甕 土師器	器高：(38mm) 口径：[170mm] 底径：— 口縁部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。明赤褐。	口縁部上半は外反。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕が残る。内面：口縁部は横なで。	
0931	甕 土師器	器高：(61mm) 口径：[174mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。明赤褐。	口縁部上半は外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕・輪積痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0933	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[142mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで。	内外面に油煙付着。
0934	椀 須恵器	器高：(37mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	内外面の口縁部に油煙付着。
0935	杯 土師器	器高：(22mm) 口径：[118mm] 底径：— 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部はほぼ直立し、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部～底部はなで、一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付着。
0936	椀 須恵器	器高：(29mm) 口径：— 底径：90mm 高台部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・橙。	轆轤整形。足高高台。高台部は貼り付け。内外面共に高台部は回転なで。	高台部の内外面に油煙付着。
0937	椀 須恵器	器高：(25mm) 口径：— 底径：74mm 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転なで。	内外面に一部油煙付着。
0938	砥石	長：(61mm) 幅：25mm 厚：10mm 重：24.3g	珪質頁岩。	仕様面は3面。	
1938	? 鉄製品	長：(30mm) 幅：6mm 厚：5mm		用途不明。	

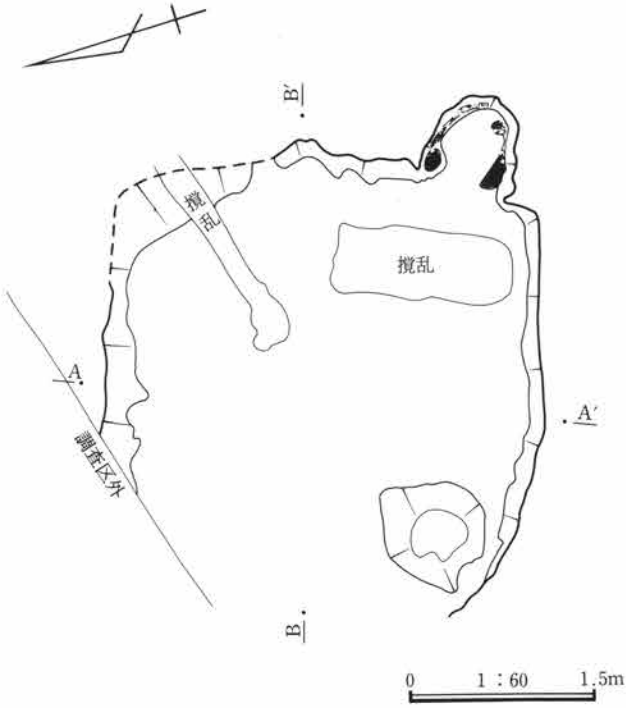
## 4区12号住居跡

4区K-24・25、L-24・25グリッドに位置し、重複はない。攪乱が多く規模は不明であるが、南北は約3.5mであり、平面形は隅丸方形ないしは長方形を呈するものと推定している。床面は攪乱による凹凸が多く、残存状態は不良である。残存壁高も明瞭に確認できた南壁で約15cmである。

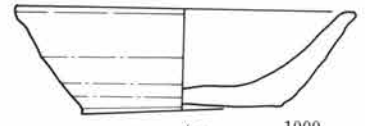
竈は東壁の南東隅近くに構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約70cmである。袖の全体は検出できなかったが、住居跡壁と燃焼部張り出し接点には、粘土を切り出した塊が使用されており、燃焼部の中央からは、支脚に使用されたと考えられる河原石が倒れた状態で検出できた。また、燃焼部からは灰・焼土の堆積が検出できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は須恵器の杯(1000・1005)、羽釜(1001)、灰釉陶器の椀(1007)などが出土している。



第376図 4区12号住居跡エレベーション



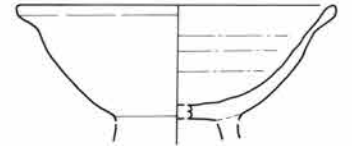
第377図 4区12号住居跡



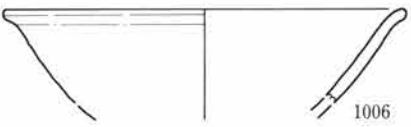
1000



1005



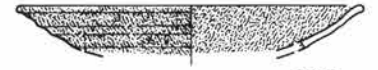
1003



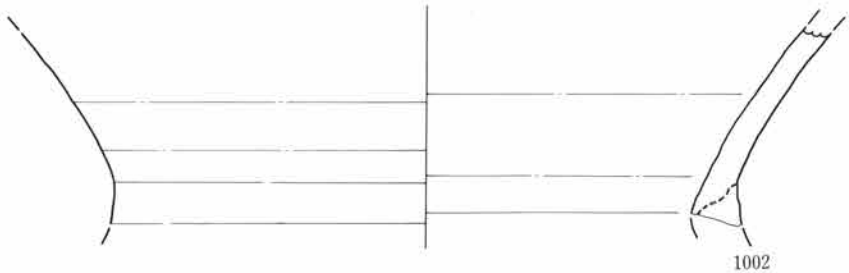
1006



1001



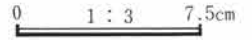
1007



1002



1008



第378図 4区12号住居跡出土遺物



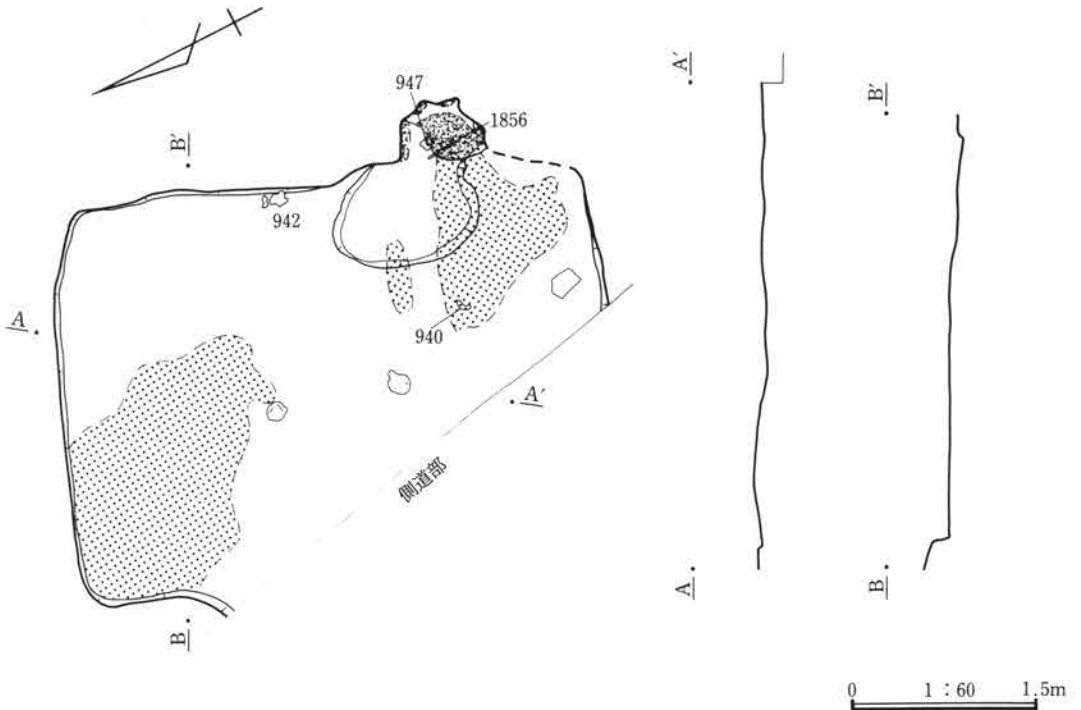
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1000	杯 須恵器	器高：41mm 口径：135mm 底径：79mm 口縁部～底部 1/4	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、 底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は 回転まで。	内外面にやや多量 の油煙付着。二次 炎を受けている。
1001	羽 釜	器高：(58mm) 口径：[200 mm] 底径：— 口縁部～胴 部上端1/4	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。硬質。灰黄・浅黄 橙。	轆轤整形。鏝部は貼り付け。口縁部はやや 内湾。内外面共に口縁部～胴部上端は回転 まで。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
1002	甕 須恵器	器高：(78mm) 口径：— 底 径：— 口縁部下破片	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	口縁部は外反。内外面共に口縁部下半は回 転まで。	
1003	椀 須恵器	器高：45mm 口径：[128mm] 底径：— 口縁部～底部1/4	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつ つ広がり、口縁部は外反。外面：口縁部～胴 部は回転まで、底部は回転糸切り。内面： 口縁部～底部は回転まで。	
1005	杯 須恵器	器高：(37mm) 口径：[136 mm] 底径：[64mm] 口縁部 ～底部1/4	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回 転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	内外面に油煙付 着。燻し。
1006	杯 須恵器	器高：(37mm) 口径：[162 mm] 底径：— 口縁部～胴 部1/4	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。青灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつ つ広がり、口縁部は外反。内外面共に口縁 部～胴部は回転まで。	内外面の口縁部一 部に自然釉。
1007	椀 灰釉陶器	器高：(18mm) 口径：[138 mm] 底径：— 口縁部～胴 部1/4	細砂粒を含む。還元。 やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつ つ広がり、口縁部は僅かに外反。内外面共 に口縁部～胴部は回転まで。	内外面共に口縁部 ～胴部は施釉。
1008	刀子? 鉄製品	長：(30mm) 幅：10～13mm 厚：3mm		刀子の一部か。鉄板を折り曲げて製作。	

## 4区13号住居跡

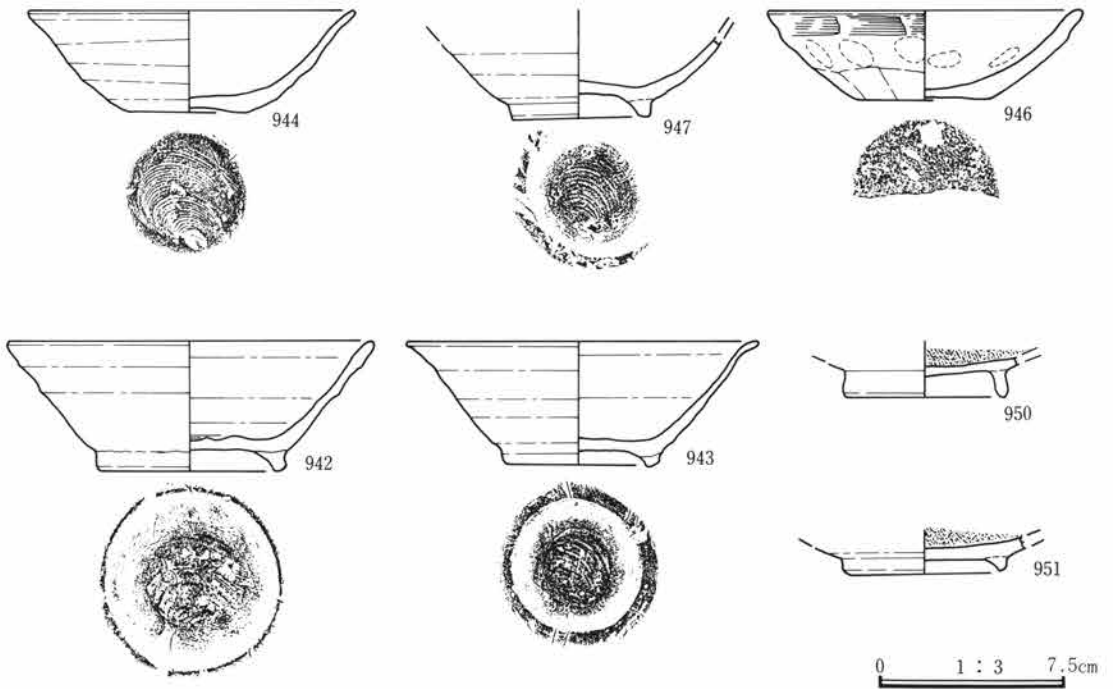
4区N-21・22グリッドに位置し、4区14号住居跡・4区2号溝跡と重複する。4区14号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西側部分の壁・床を破壊して当住居跡の壁・床・竈が構築されていることから、当住居跡の方が新しい。4区2号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の覆土中に検出できたことから、当住居跡の方が古い。

規模は、東西約3.1m・南北約4.4mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-22°-Eである。床面の状態は、全体として平坦であり、竈を中心とした南半分は硬く良好であるが、北半分はやや軟弱な部分がある。残存壁高は5～10cmと悪いが、北側は明確に確認できた。

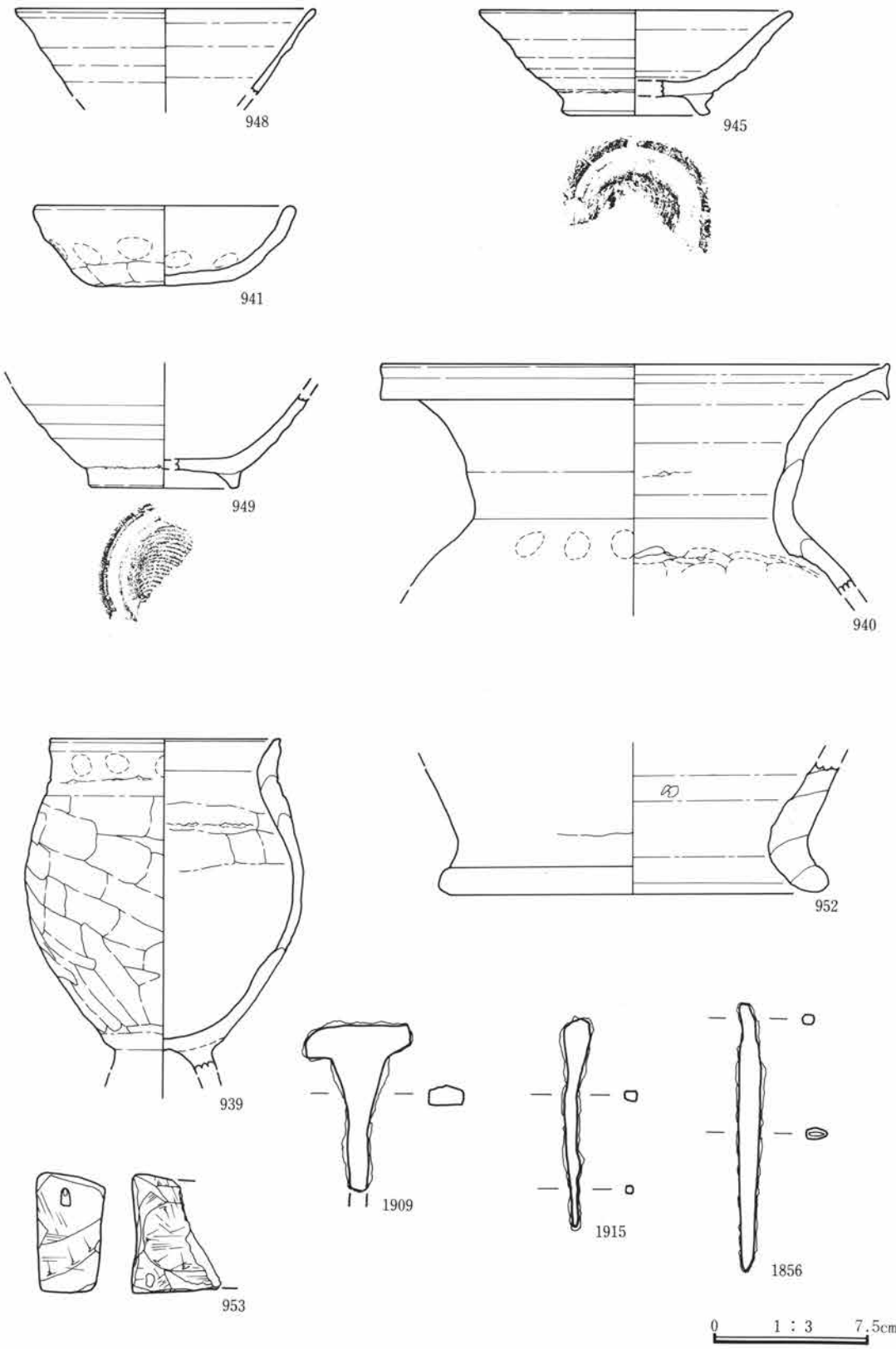
竈は東壁の南東隅近くに構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約60cmである。上部の大部分が破壊されているために、袖は検出できなかったが、燃焼部及び竈前に広がる灰・焼土の堆積が検出できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物の出土は竈及びその周辺を中心に、かなり多く出土し、竈内からは須恵器の椀(947)・灰釉陶器の椀(950)、竈前からは須恵器の甕(940)、竈左脇からは須恵器の椀(942)が出土しているほか、竈内からは刀子(1856)などが出土している。



第379図 4区13号住居跡



第380図 4区13号住居跡出土遺物①



第381图 4区13号住居跡出土遺物②

第IV章 発見された遺構と遺物

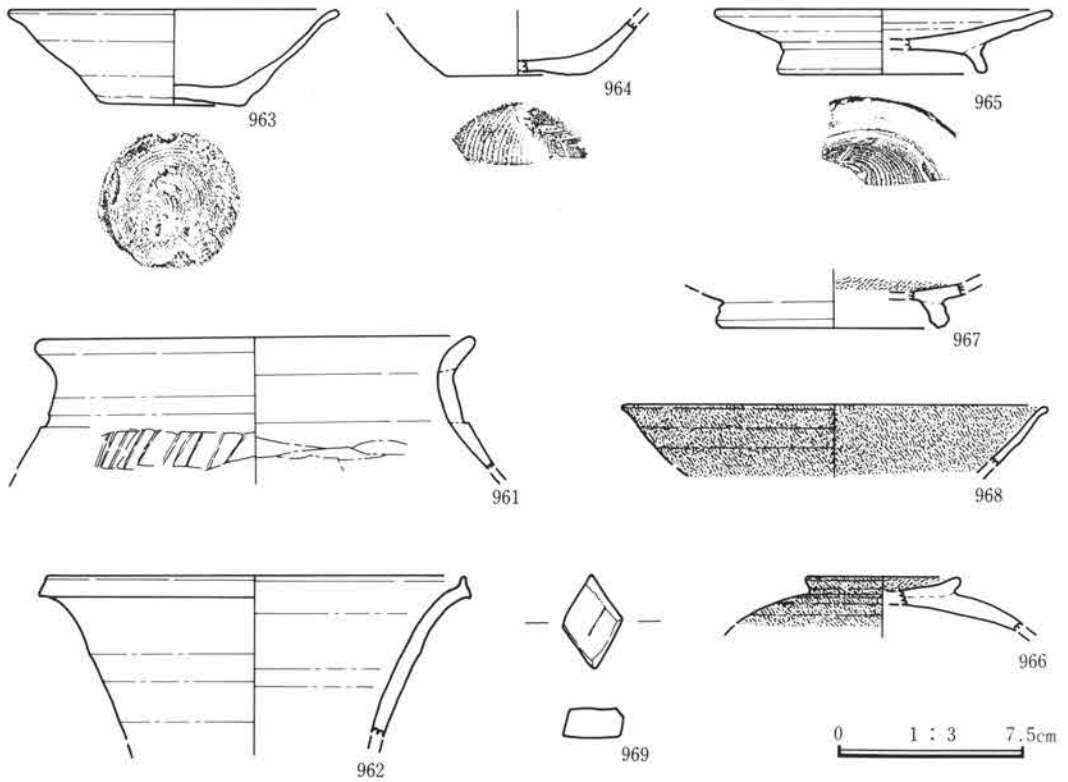
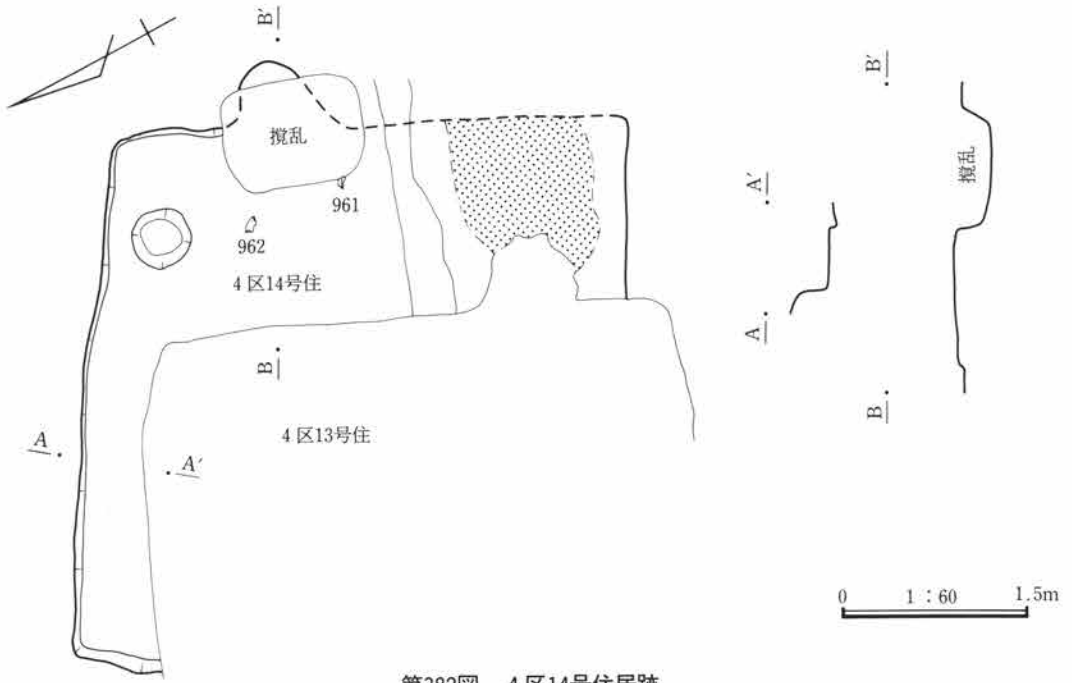
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0939	台付甕 土師器	器高：(151mm) 口径：[112mm] 底径：— 口縁部～脚部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕・輪積痕が残り、胴部は篋削り、胴部下端～脚部上端は横なで。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで、胴部～底部はなで。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
0940	甕 須恵器	器高：(109mm) 口径：[246mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	口縁部は大きく外反し、口縁端部は外縁帯を持つ。内外面共に口縁部は回転なで、胴部上端は叩後なで、内面に叩目が残る。	
0941	杯 土師器	器高：39mm 口径：125mm 底径：68mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部は横なで、胴部上半は指頭痕が残り、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
0942	椀 須恵器	器高：52mm 口径：[146mm] 底径：74mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白・黒。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面共に全面に油煙付着。燻し。
0943	椀 須恵器	器高：49mm 口径：[142mm] 底径：63mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に一部油煙付着。
0944	杯 須恵器	器高：40mm 口径：[130mm] 底径：46mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に油煙付着。
0945	椀 須恵器	器高：50mm 口径：[150mm] 底径：72mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0946	杯 土師器	器高：36mm 口径：[126mm] 底径：[52mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。浅黄橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部上半は指頭痕が残り、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部～底部はなで、一部指頭痕が残る。	
0947	椀 須恵器	器高：(32mm) 口径：— 底径：[56mm] 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・淡黄。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	
0948	椀 須恵器	器高：(41mm) 口径：[144mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	内外面に油煙付着。燻し。
0949	椀 須恵器	器高：(47mm) 口径：— 底径：[72mm] 口縁部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰白・浅黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0950	椀 灰釉陶器	器高：(17mm) 口径：一底 径：[66mm] 胴部下端～高 台部迄	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底 部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下端 ～底部は回転なで。	
0951	椀 灰釉陶器	器高：(15mm) 口径：一底 径：[66mm] 胴部下端～高 台部迄	細砂粒を含む。還元。 やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部下端は回転なで、底部は回 転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端 ～底部は回転なで。	
0952	甗 須恵器?	器高：(62mm) 口径：一底 径：[188mm] 胴部下端～底 部迄	径4～5mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	底部は大きく屈曲し広がる。外面：胴部下 端～底部は横なで。内面：胴部下端は指な で、底部は横なで。	
0953	砥石	長：(43mm) 幅：58mm 厚： 32mm 重：94.3g	砥沢石。	仕様面は5面。	
1856	刀子 鉄製品	長：127mm 幅：11mm 厚： 5.5mm		真は空洞になっている。	
1909	? 鉄製品	長：(79mm) 幅：9～50mm 厚：8mm		用途不明。	
1915	? 鉄製品	長：(100mm) 幅：3～7mm 厚：4mm		角釘の一部か。	

#### 4区14号住居跡

4区M-21・22、N-21・22グリッドに位置し、4区11号住居跡・4区13号住居跡・4区2号溝跡と重複する。4区11号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西側部分の壁・床が当住居跡の東側部分の壁・床・竈を破壊していることから当住居跡の方が古い。4区13号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東側部分の壁・床・竈が当住居跡の中央～西側部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区2号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の床を東西に破壊していることから、当住居跡の方が古い。規模は、大部分が4区11号住居跡・4区13号住居跡により破壊されているために確定できないが、東西約4.3m・南北約4.2mであり、平面形は隅丸方形を呈すると推定している。主軸はN-27-Eである。床面は、検出できた東側部分は硬く、平坦であるが、北側部分はやや軟弱である。残存壁高は北壁で約30cmを測る。

竈は東壁の南東隅付近に構築されていたと推定できるが、4区11号住居跡に破壊されており、前面の床面に堆積した灰・焼土が検出できただけである。住居内の北東隅付近に、直径約45cm・床面からの深さ約20cmで、平面形は円形を呈するピットが検出できた。同ピットを貯蔵穴と断定することは難しい。柱穴・壁溝は検出できなかった。遺物は、北東部の床面から土師器の甕(961)、須恵器の甕(962)須恵器の杯などが出土している。

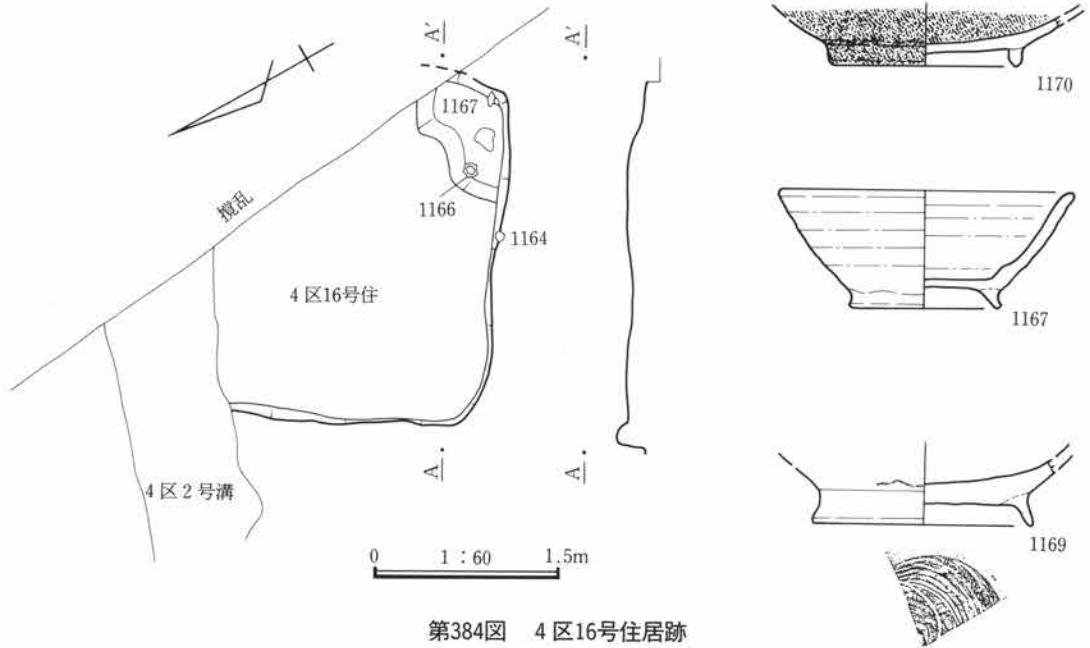


番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0961	甕 土師器	器高：(53mm) 口径：[176mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は笥削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は笥なで。	外面にやや多量の油煙付着。
0962	甕 須恵器	器高：(64mm) 口径：[162mm] 底径：— 口縁部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。淡黄。	轆轤整形。口縁部は外縁帯を持つ。内外面共に口縁部は回転なで。	
0963	杯 須恵器	器高：33mm 口径：132mm 底径：60mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転系切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。
0964	杯 須恵器	器高：(22mm) 口径：— 底径：[56mm] 胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転系切り。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
0965	皿 須恵器	器高：(26mm) 口径：[136mm] 底径：[84mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転系切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
0966	蓋 灰釉陶器	器高：(21mm) 口径：— つまみ径：[62mm] つまみ部～天井部上半 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	ボタン状つまみ。つまみ部は貼り付け。内外面共に天井部上半は回転なで。	外面つまみ部～天井部上半は施釉。
0967	椀 灰釉陶器	器高：(18mm) 口径：— 底径：[92mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下端～底部上端は回転なで。	内面胴部下端～底部上端は施釉。
0968	椀 灰釉陶器	器高：(24mm) 口径：[172mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。口縁部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部上半は回転なで。	内外面共に口縁部～胴部上半は施釉。
0969	用途不明 石製品	長：37mm 幅：22mm 厚：14mm 重：10.2g	溶結凝灰岩。	平面径は菱形。	

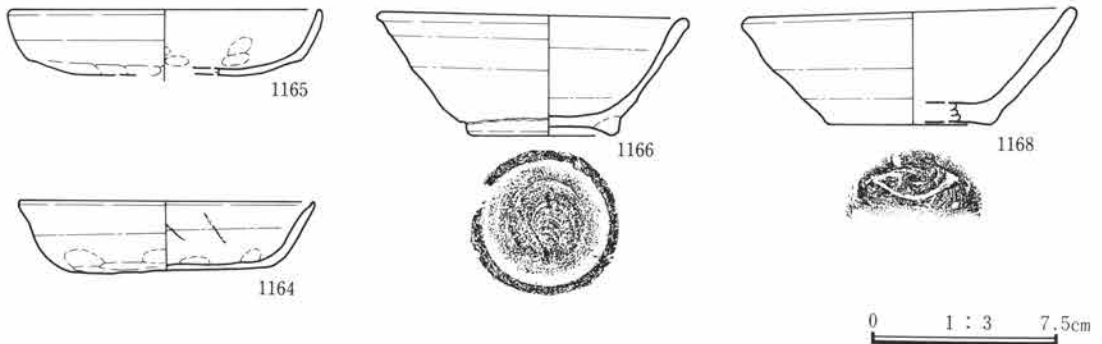
## 4区16号住居跡

4区K-19グリッドに位置し、4区54号住居跡・4区58号住居跡・4区2号溝跡と重複する。4区54号住居跡・4区58号住居跡との新旧関係は、攪乱が入り不明である。4区2号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の北側部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。規模は、北側・東側の大部分が破壊されており確定できないが、東西は約2.7mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定している。検出できた床面は硬く、平坦であり、良好である。残存壁高は約5～10cmと浅く、上部は大部分破壊されている。

竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は南東隅を中心に、土師器の杯(1164)、須恵器の椀(1166・1167)、須恵器の皿(1169)、灰釉陶器の椀(1170)などが出土している。



第384図 4区16号住居跡



第385図 4区16号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1164	杯 土師器	器高：29mm 口径：120mm 底径：84mm 完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は僅かに外反。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1165	杯 土師器	器高：(26mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。平底に近い丸底。外面：口縁部～胴部は横なで、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	

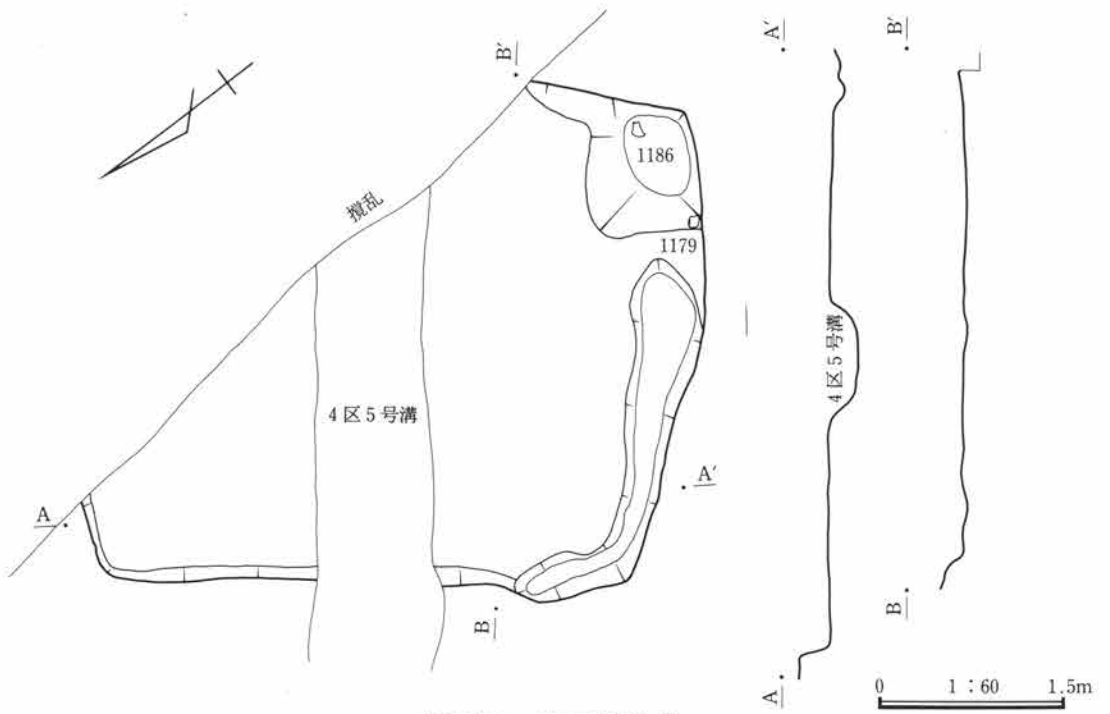


番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1166	椀 須恵器	器高：49mm 口径：125mm 底径：60mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。鈍い黄橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、 口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴 部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼 り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
1167	椀 須恵器	器高：47mm 口径：[120mm] 底径：60mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。鈍い橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつ つ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、 底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面： 口縁部～底部は回転なで。	内外面の口縁部 ～胴部に油煙付 着。
1168	杯 須恵器	器高：(46mm) 口径：[134 mm] 底径：[66mm] 口縁部 ～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。淡黄。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、 底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は 回転なで。	
1169	椀 灰釉陶器	器高：(26mm) 口径：— 底 径：[88mm] 胴部下端～高 台部 $\frac{1}{4}$	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、回 転寛切り後高台貼り付け。内面：胴部下端 ～底部は回転なで。	内外面に油煙付 着。
1170	椀 灰釉陶器	器高：(21mm) 口径：— 底 径：[72mm] 胴部下半～高 台部 $\frac{1}{4}$	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底 部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下半 ～底部は回転なで。	内外面の胴部下半 まで施釉。

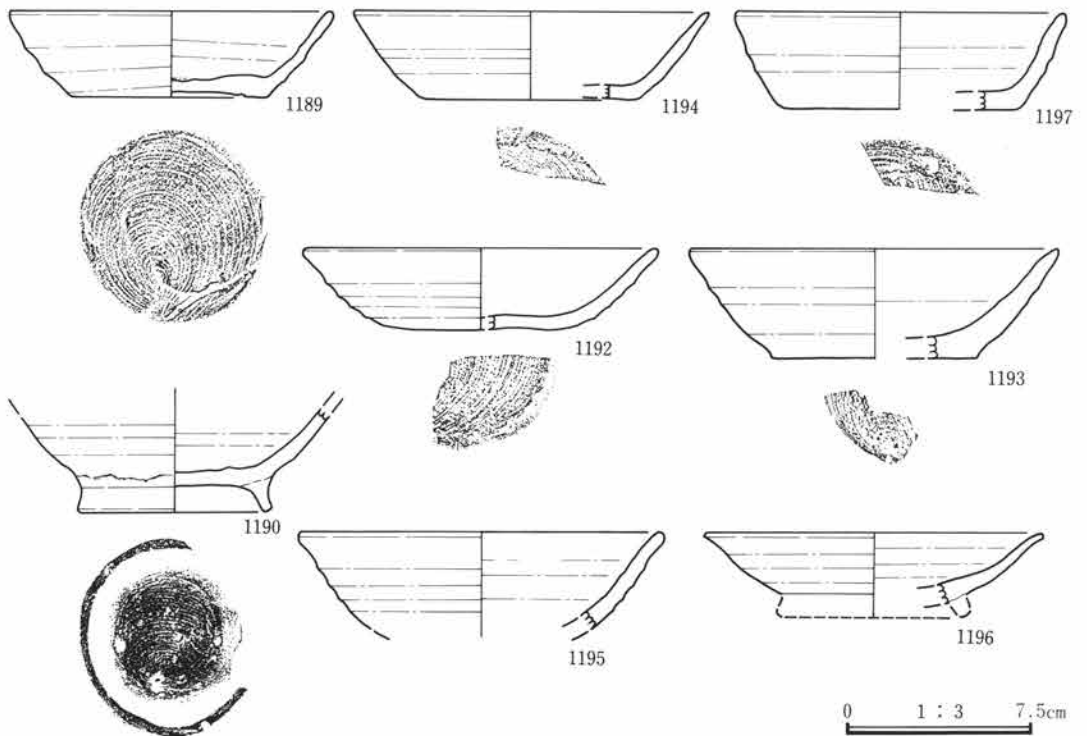
#### 4区18号住居跡

4区K-17・18、L-17・18に位置し、4区5号溝と重複する。新旧関係は、同溝跡が当住居跡の中央部分の壁・床を東西に破壊していることから、当住居跡の方が古い。また、当住居跡は4区67号住居跡・4区87号住居跡・4区116号住居跡と重複すると考えられるが、大きな攪乱があり、新旧関係は不明である。規模は、攪乱により北東部分が破壊されているために確定できないが、東西約4.0m・南北約4.6mであり、平面形は隅丸長方形を呈すると推定している。主軸はN-38°-Eである。床面はほぼ平坦であり、比較的硬い。残存壁高は、北壁で約25cmを測るが、南側は残りが悪く、殆ど確認できなかった。

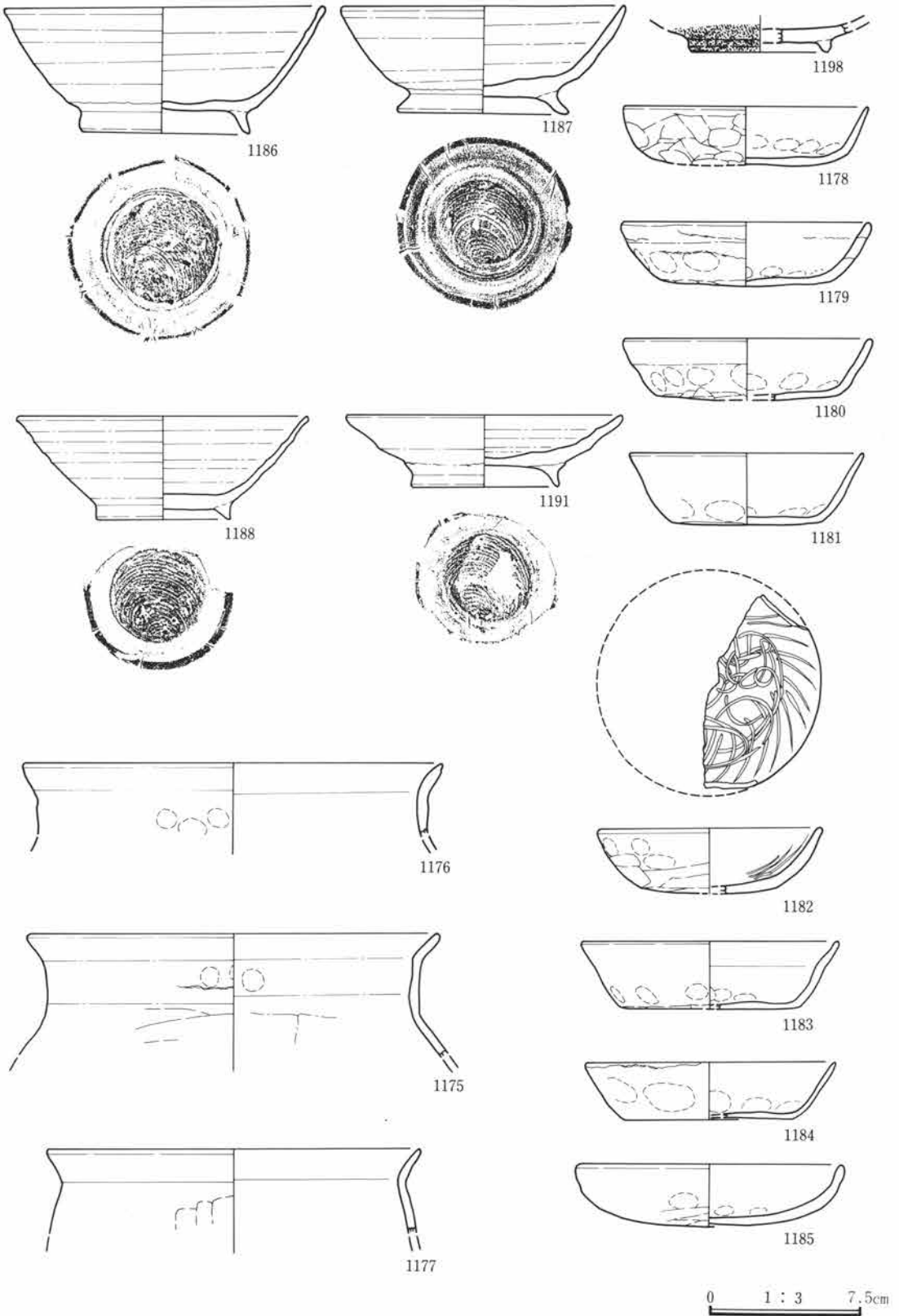
竈は東壁に構築されているものと推定しているが、攪乱により破壊されており、南東部分の床面に散布している灰・焼土粒子を検出ただけである。南西隅からは上面で長軸約100cm・短軸約90cmで、不整形な方形を呈し、底面で楕円形を呈するピットが検出できた。貯蔵穴と考えられる。壁溝は南から南西隅にかけて検出できた。規模は、幅20～40cm・床面からの深さ約5～10cmである。柱穴は検出できなかった。遺物は貯蔵穴より土師器の杯(1179)、須恵器の椀(1186)の他、土師器甕・杯、須恵器の甕・杯・椀・皿などが多量に出土している。また、覆土中ではあるが、基石(1199)も出土している。



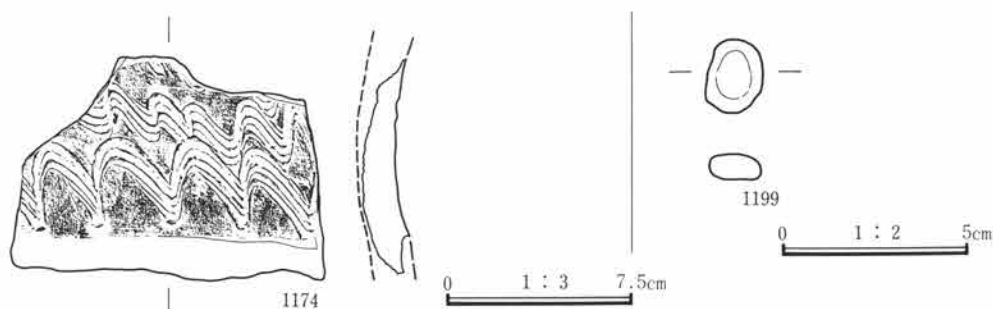
第386図 4区18号住居跡



第387図 4区18号住居跡出土遺物①



第388图 4区18号住居跡出土遺物②



第389図 4区18号住居跡出土遺物③

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1174	甕 須恵器	器高：— 口径：— 底径：— — 口縁部破片	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	外面：口縁部は回転などで後波状文を施文。 内面：口縁部は回転なで。	
1175	甕 土師器	器高：(61mm) 口径：[202mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は横なで。	内面にやや多量の油煙付着。
1176	甕 土師器	器高：(36mm) 口径：[206mm] 底径：— 口縁部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部上半は外反。外面口縁部部に沈線一条。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残る。内面：口縁部は横なで。	
1177	甕 土師器	器高：(41mm) 口径：[184mm] 底径：— 口縁部破片	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部上半は外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残る。内面：口縁部は横なで。	外面に油煙付着。
1178	杯 土師器	器高：29mm 口径：122mm 底径：78mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1179	杯 土師器	器高：32mm 口径：[122mm] 底径：[72mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕・輪積痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1180	杯 土師器	器高：30mm 底径：[122mm] 底径：82mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	外面に一部油煙付着。
1181	杯 土師器	器高：35mm 口径：[114mm] 底径：[72mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1182	杯 土師器	器高：(32mm) 口径：[110mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで後渦巻き状暗文を施す。	
1183	杯 土師器	器高：33mm 口径：[126mm] 底径：[88mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部でやや屈曲。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	内外面に油煙付着。
1184	杯 土師器	器高：(28mm) 口径：[122mm] 底径：[82mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部は直線的に広がり、外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1185	杯 土師器	器高：(30mm) 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1186	椀 須恵器	器高：61mm 口径：158mm 底径：83mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1187	椀 須恵器	器高：53mm 口径：140mm 底径：84mm ほぼ完形	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1188	椀 須恵器	器高：50mm 口径：[144mm] 底径：70mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰・灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面底部に油煙付着。
1189	杯 須恵器	器高：34mm 口径：130mm 底径：80mm ほぼ完形	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面の一部に油煙付着。
1190	椀 須恵器	器高：(41mm) 口径：— 底径：78mm 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰白・浅黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	
1191	皿 須恵器	器高：35mm 口径：[136mm] 底径：[74mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は横なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1192	杯 須恵器	器高：(33mm) 口径：[142mm] 底径：[64mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1193	杯 須恵器	器高：(44mm) 口径：[148mm] 底径：[84mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1194	杯 須恵器	器高：(35mm) 口径：[142mm] 底径：[90mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。オリブ灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：胴部～口縁部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1195	碗 須恵器	器高：(38mm) 口径：[146mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	内外面の口縁部に油煙付着。
1196	皿 須恵器	器高：(28mm) 口径：[136mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。灰白・鈍い橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の口縁部～胴部に油煙付着。燻し。
1197	杯 須恵器	器高：(38mm) 口径：[132mm] 底径：[94mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1198	碗 灰釉陶器	器高：(14mm) 口径：— 底径：[70mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{4}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下端～底部は回転なで。	
1199	碁石 黒石	長径：18mm 短径：14mm 厚：8mm 重：2.9g	チャート	表面は擦られている。	

4区19号住居跡

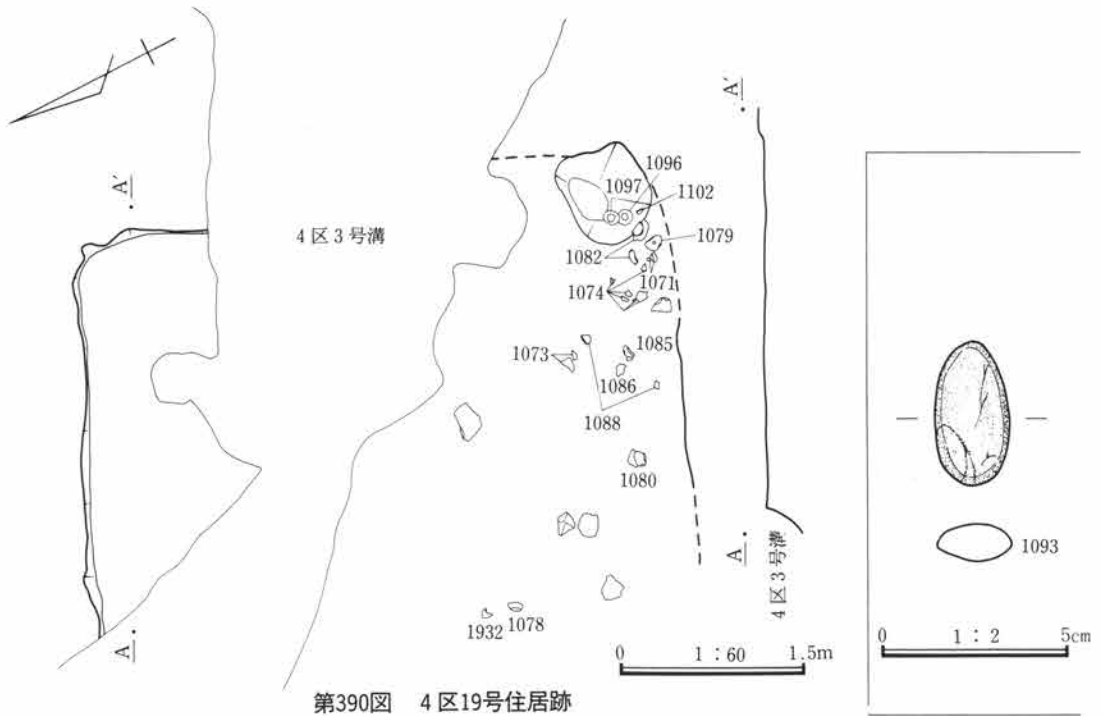
4区L-15・16、M-15・16に位置し、4区20号住居跡・4区21号住居跡・4区25号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区20号住居跡との新旧関係は不明である。4区21号住居跡との新旧関係は、同居居跡の西側部分の壁・床が、当住居跡の南東部分の壁・床により破壊されていることから、当住居跡の方が新しい。4区25号住居跡との新旧関係は、同居居跡の西側部分上面の壁・床を当住居跡の東側部分の壁・床・竈が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の東側部分から北西部分の壁・床・竈を貫いて破壊していることから、当住居跡の方が古い。

規模は、西側の壁が検出できなかつたために確定できないが、南北は約4.8mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定している。主軸はN-17°-Eである。床面は、検出部分は比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は、確定できた北壁で約5～10cmである。

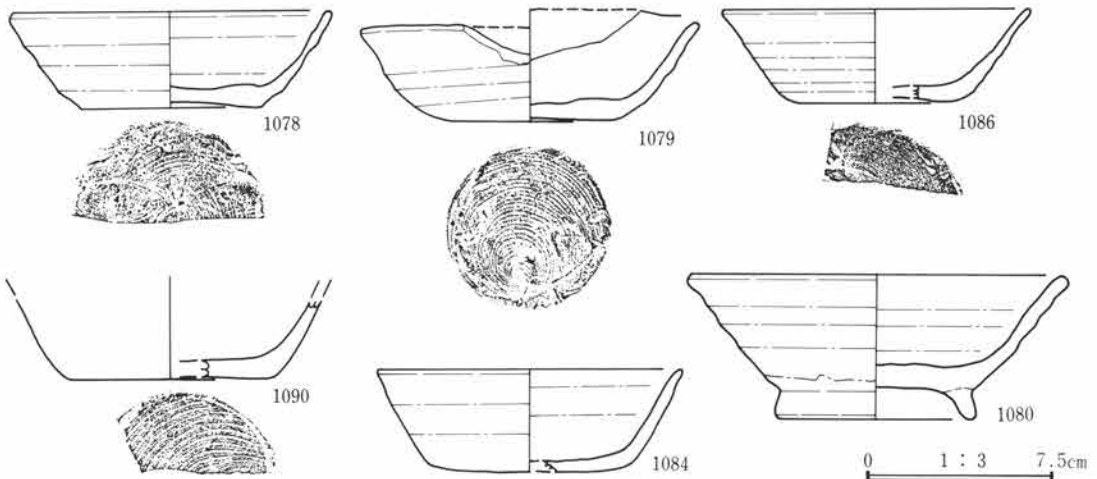
竈は東壁に構築されていたと推定できるが、4区3号溝跡に破壊されているために不明である。南

東隅からは長軸約80cm・短軸約70cmで、平面形は不整形な楕円形を呈するピットが検出できた。貯蔵穴と考えられる。柱穴・壁溝は検出できなかった。

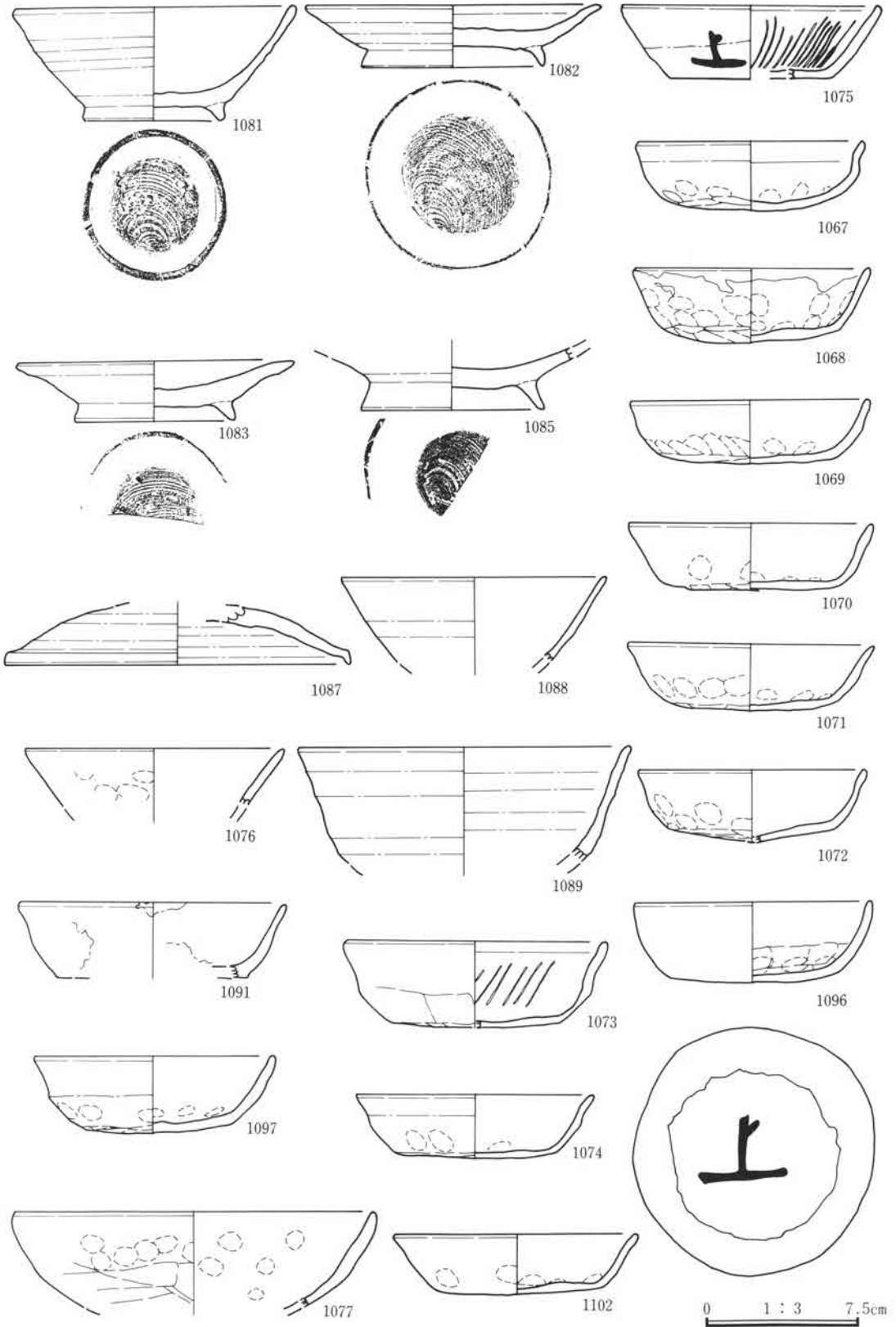
遺物は南東隅、貯蔵穴を中心に多量に出土している。貯蔵穴からは、土師器の杯(1068・1096・1097・1102)、須恵器の椀(1081)、須恵器の皿(1082)が出土し、その周辺からは土師器の杯(1071・1073・1074)、須恵器の杯(1078・1086)、須恵器の椀(1080・1088)、須恵器の皿(1085)などが出土している。また、鉄製鋤先(1932)なども出土している。



第390図 4区19号住居跡

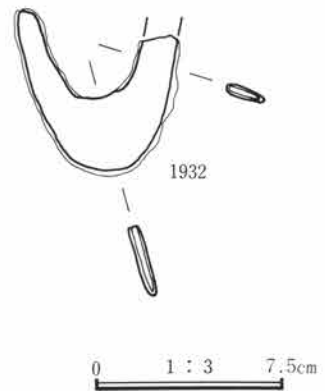
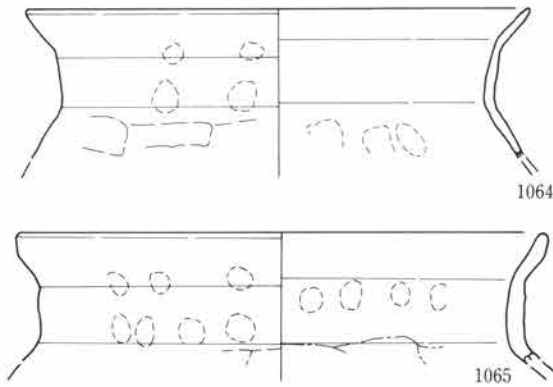


第391図 4区19号住居跡出土遺物①



第392図 4区19号住居跡出土遺物②





第393図 4区19号住居跡出土遺物③

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1064	甕 土師器	器高：(58mm) 口径：[200mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙・鈍い黄橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端はなで。一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付着。
1065	甕 土師器	器高：(52mm) 口径：[212mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。
1067	杯 土師器	器高：34mm 口径：117mm 底径：— ほぼ完形	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は僅かに外反。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1068	杯 土師器	器高：36mm 口径：118mm 底径：— 完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り、胴部に指頭痕が残る。内面：胴部～底部上半は横なで、指頭痕が残り、底部下半はなで。	内外面の口縁部に多量のタール又は漆付着。
1069	杯 土師器	器高：31mm 口径：117mm 底径：85mm 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1070	杯 土師器	器高：32mm 口径：120mm 底径：83mm 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は僅かに外反。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1071	杯 土師器	器高：32mm 口径：[120mm] 底径：83mm 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1072	杯 土師器	器高：(35mm) 口径：[112mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。浅黄。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、底部下半はなで。	
1073	杯 土師器	器高：(42mm) 口径：[128mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部はやや内湾し、口縁部は僅かに外反。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	外面底部に一部油煙付着。
1074	杯 土師器	器高：31mm 口径：[116mm] 底径：[76mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1075	杯 土師器	器高：(35mm) 口径：[126mm] 底径：[78mm] 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部上端は横なで後放射状暗文を施す。	外面胴部に墨書「上」。
1076	杯 土師器	器高：(27mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残る。内面：口縁部～胴部は横なで。指頭痕が残る。	
1077	杯 土師器	器高：(46mm) 口径：[176mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで。	
1078	杯 須恵器	器高：(38mm) 口径：[128mm] 底径：[72mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1079	杯 須恵器	器高：43mm 口径：134mm 底径：65mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面口縁部～胴部に油煙付着。燻し。
1080	碗 須恵器	器高：57mm 口径：[152mm] 底径：78mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1081	碗 須恵器	器高：55mm 口径：139mm 底径：70mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1082	皿 須恵器	器高：30mm 口径：145mm 底径：91mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面口縁部～胴部に油煙付着。燻し。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1083	皿 須恵器	器高：29mm 口径：[136mm] 底径：[78mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～胴部は回転まで。	
1084	杯 須恵器	器高：41mm 口径：[122mm] 底径：[82mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り後まで。内面：口縁部～底部は回転まで。	
1085	皿 須恵器	器高：(30mm) 口径：— 底径：[80mm] 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部は直線的に広がる。外面：胴部は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転まで。	
1086	杯 須恵器	器高：(37mm) 口径：[124mm] 底径：[66mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	
1087	蓋 須恵器	器高：(28mm) 口径：[168mm] 天井部～口縁部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	返りは短い。外面：天井部上半は回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転まで。内面：天井部～口縁部は回転まで。	
1088	椀 須恵器	器高：(41mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。明褐灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。内外面共に口縁部～胴部は回転まで。	内外面に全面的に油煙附着。
1089	椀 須恵器	器高：(55mm) 口径：[164mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。内外面共に口縁部～胴部は回転まで。	内外面の口縁部～胴部上半に油煙附着。燻し。
1090	杯 須恵器	器高：(32mm) 口径：— 底径：[82mm] 胴部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面：胴部～底部は回転まで。	
1091	杯 須恵器	器高：(31mm) 口径：[130mm] 底径：[92mm] 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	内外面に自然釉。
1093	用途不明 石製品	長：38mm 幅：20mm 厚：11mm 重：12.8g	粗粒安山岩。	周囲が丁寧に擦られている。	
1096	杯 土師器	器高：38mm 口径：117mm 底径：78mm 完形	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横まで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横まで、一部指頭痕が残り、底部下半は横まで、一部指頭痕が残る。	外面の底部に墨書「上」。
1097	杯 土師器	器高：38mm 口径：118mm 底径：73mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横まで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横まで、指頭痕が残り、底部下半は横まで。	

番号	器 種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器 形 ・ 技 法 の 特 徴 他	出 土 状 態 備 考
1102	杯 土 師 器	器 高：29mm 口 径：120mm 底 径：85mm 口 縁 部～底 部 %	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口 縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部 は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横な で、指頭痕が残り、底部下半はなで。	
1932	? 鉄 製 品	長：71mm 幅：9～29mm 厚：4～5mm		鋤先?。鉄板を重ねて製造。	

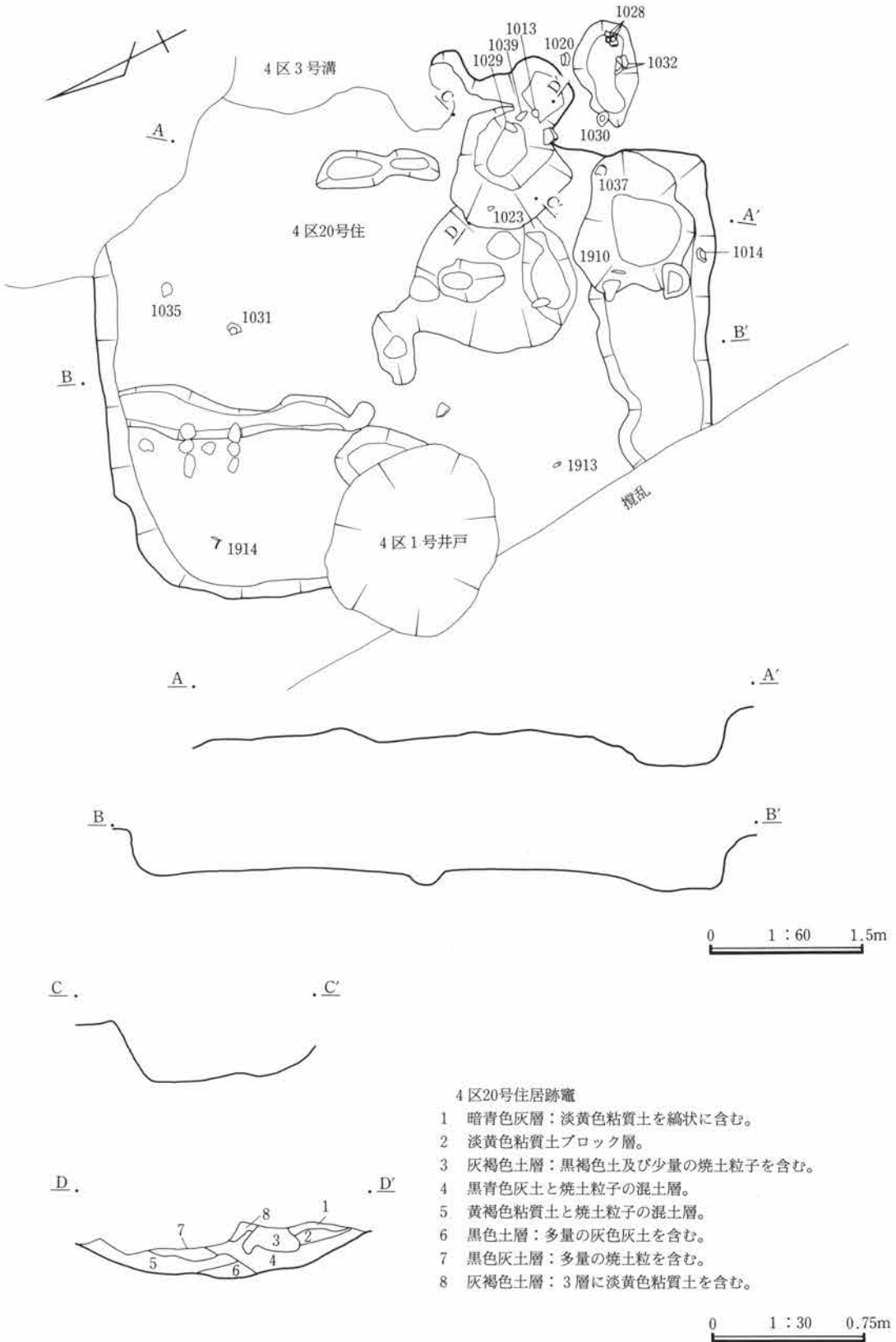
#### 4区20号住居跡

4区M-16・17、N-15・16・17に位置し、4区4号住居跡・4区19号住居跡・4区1号井戸跡・4区3号溝跡と重複する。4区4号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部分の壁・床及び竈が当住居跡の北西部分の床の上に構築されていることから、当住居跡の方が古い。4区19号住居跡との新旧関係は不明である。4区1号井戸跡との新旧関係は、同井戸跡が当住居跡の西壁を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の北東隅の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

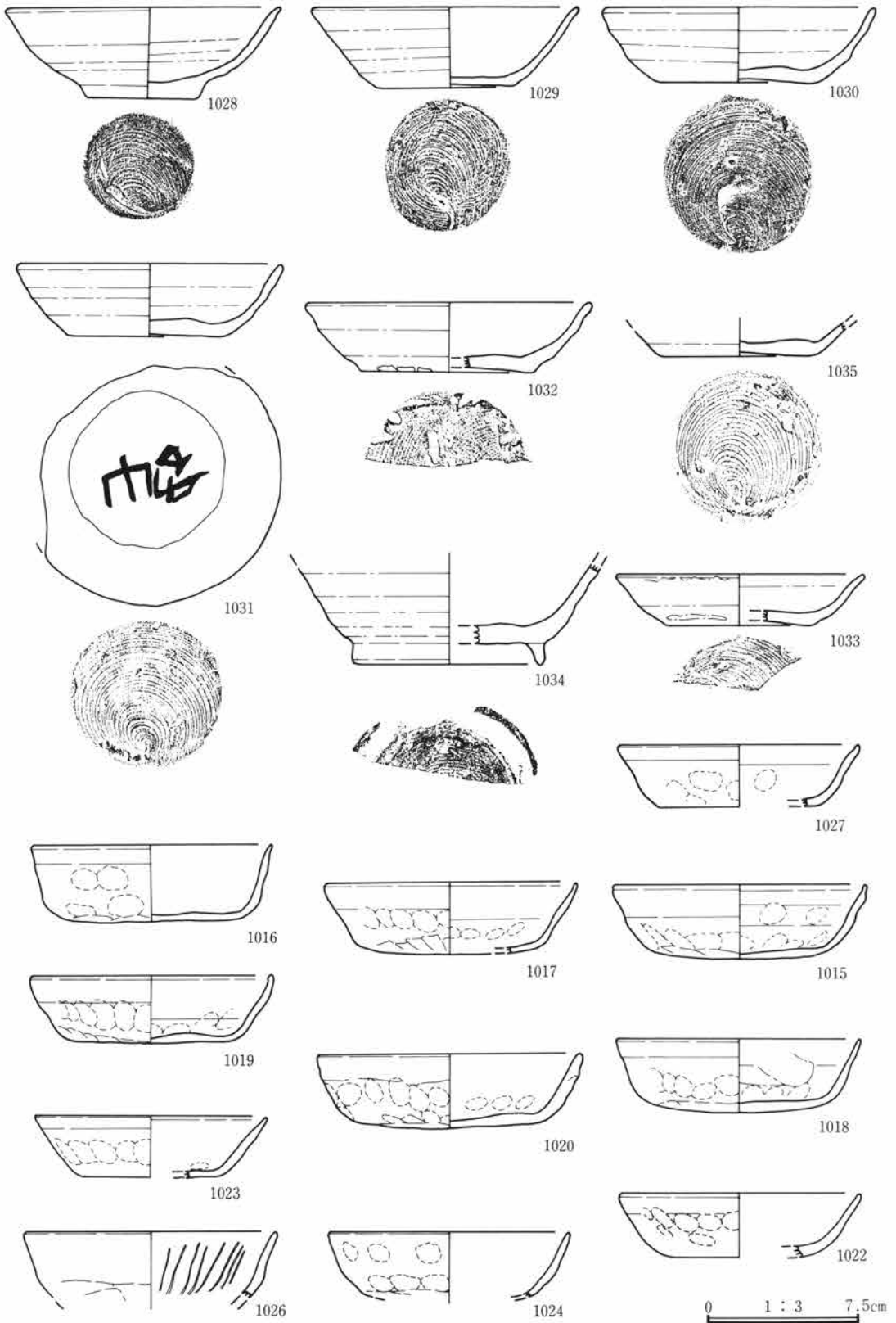
当住居跡の規模は、東西約4.6m・南北約5.9mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-33°-Eである。床面は比較的硬く、ほぼ平らであるが、南東部分は凹凸が多い。残存壁高は約30～40cmを測り、残存は良好であるが、東側は殆ど検出できなかった。

竈は東壁に構築されていたと考えられるが、燃烧部・袖の確認はできなかった。しかし、東壁の南よりから検出できた不定形なピットの覆土には、灰・焼土粒子が混入しており、燃烧部の掘形と推定できる。住居跡内の南東隅からは貯蔵穴と考えられるピットが検出できた。規模は、上面で長軸約1.2m・短軸約1.1m・床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な長方形を呈する。住居跡内の北西部には幅約20～40cm・床面からの深さ約5～10cmの溝が北壁より2mの地点まで延びている。間仕切の可能性が考えられる。柱穴・壁溝は検出できなかった。

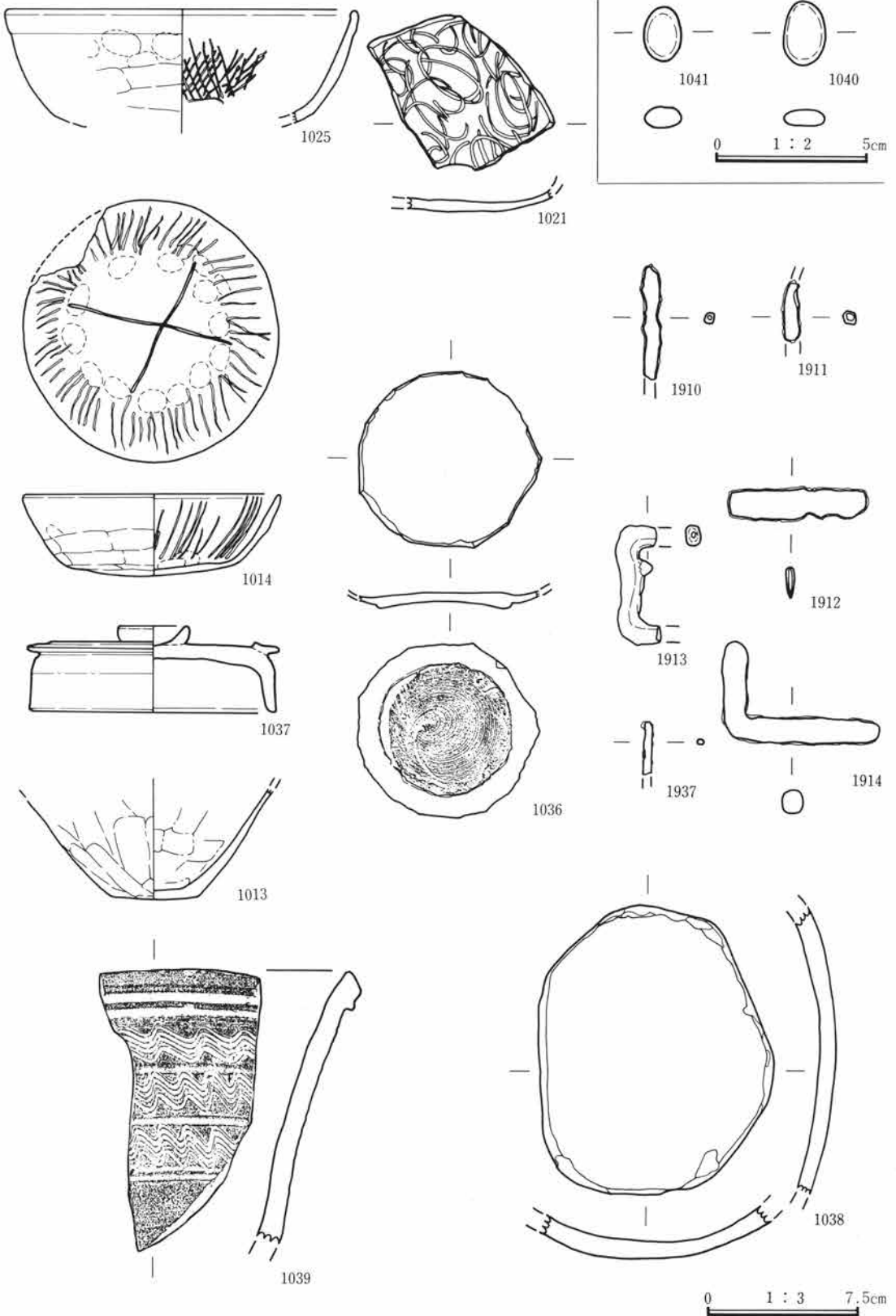
遺物は、南東部を中心に多量に出土している。種類は土師器の甕(1013)、土師器の杯(1014・1020・1023)、須恵器の甕(1039)、須恵器の杯(1028・1029・1030・1031・1032・1035)、須恵器の蓋(1037)などの土器類の他、鉄製品(1910・1913・1914)も多く出土している。



第394図 4区20号住居跡



第395図 4区20号住居跡出土遺物①



第396图 4区20号住居跡出土遺物②

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土師器	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1013	甕 土師器	器高：(53mm) 口径：一 底 径：45mm 胴部下端～底部 1/4	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。橙。	外面：胴部下端～底部は篋削り。内面：胴 部下端～底部は篋削り。	外面に多量の油煙 付着。二次炎を受 けている。
1014	杯 土師器	器高：41mm 口径：126mm 底径：一 ほぼ完形	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。丸底に近い 平底。外面：口縁部は横なで、胴部～底 部は篋削り、胴部に一部指頭痕が残る。内 面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を 施し、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
1015	杯 土師器	器高：36mm 口径：[124mm] 底径：81mm 口縁部～底部 3/4	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口 縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、 底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横な で、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1016	杯 土師器	器高：37mm 口径：[118mm] 底径：[82mm] 口縁部～底 部3/4	径1～2mm前後の砂粒 を含む。酸化。やや軟 質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口 縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、 底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は 横なで、底部下半はなで。	
1017	杯 土師器	器高：35mm 口径：[124mm] 底径：一 口縁部～底部1/4	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。 橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口 縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、 底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は 横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	外面口縁部に一部 油煙付着。
1018	杯 土師器	器高：36mm 口径：[120mm] 底径：一 口縁部～底部3/4	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口 縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部 は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横な で、指頭痕が残り、底部下半はなで。	内外面に油煙付 着。
1019	杯 土師器	器高：33mm 口径：[120mm] 底径：[80mm] 口縁部～底 部3/4	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。 橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。 外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が 残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部 上端は横なで、指頭痕が残り、底部はな で。	内面に油煙付着。
1020	杯 土師器	器高：36mm 口径：[130mm] 底径：一 口縁部～底部3/4	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。 鈍い橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口 縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部 は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横な で、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1021	杯 土師器	器高：(11mm) 口径：一 底 径：一 胴部下端～底部3/4	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。橙。	外面：胴部下端～底部は篋削り。内面：胴 部下端～底部はなで後、渦巻き状暗文を 施す。	
1022	杯 土師器	器高：(31mm) 口径：[118 mm] 底径：[64mm] 口縁部 ～底部上半3/4	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口 縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部 上半は篋削り。内面：口縁部～胴部は横な で、底部上半はなで。	
1023	杯 土師器	器高：(30mm) 口径：[114 mm] 底径：[64mm] 口縁部 ～底部上半3/4	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口 縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部 は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横な で、一部指頭痕が残る、底部上半はなで。	



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1024	杯 土師器	器高：(32mm) 口径：[118mm] 底径：— 口縁部～底部上端迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部は指頭痕が残り、底部上端は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1025	杯 土師器	器高：(55mm) 口径：[172mm] 底径：— 口縁部～底部上端迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部上半は指頭痕が残り、胴部下半～底部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部～底部上端は横なで後放射状暗文を施す。	
1026	杯 土師器	器高：(32mm) 口径：[124mm] 底径：— 口縁部～胴部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部上端は横なで、胴部下半は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す。	外面に油煙付着。
1027	杯 土師器	器高：(30mm) 口径：[118mm] 底径：[78mm] 口縁部～底部上端迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部はやや外反。外面口縁部下端に沈線一条。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部上端は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、指頭痕が残る。	
1028	杯 須恵器	器高：45mm 口径：134mm 底径：56mm 口縁部～底部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に油煙付着。燻し。
1029	杯 須恵器	器高：39mm 口径：131mm 底径：64mm 口縁部～底部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。軟質。灰白・鈍い黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の口縁部に油煙付着。
1030	杯 須恵器	器高：35mm 口径：132mm 底径：77mm 完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白・(黒)。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面共に全面的に油煙付着。燻し。
1031	杯 須恵器	器高：36mm 口径：[134mm] 底径：77mm 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面口縁部～胴部に油煙付着。燻し。外面の底部に墨書、釈読不能。
1032	杯 須恵器	器高：(33mm) 口径：[140mm] 底径：[84mm] 口縁部～底部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白・(黒)。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面共に口縁部～底部に油煙付着。燻し。
1033	杯 須恵器	器高：(25mm) 口径：[122mm] 底径：[72mm] 口縁部～底部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面口縁部～胴部に自然釉。

第IV章 発見された遺構と遺物

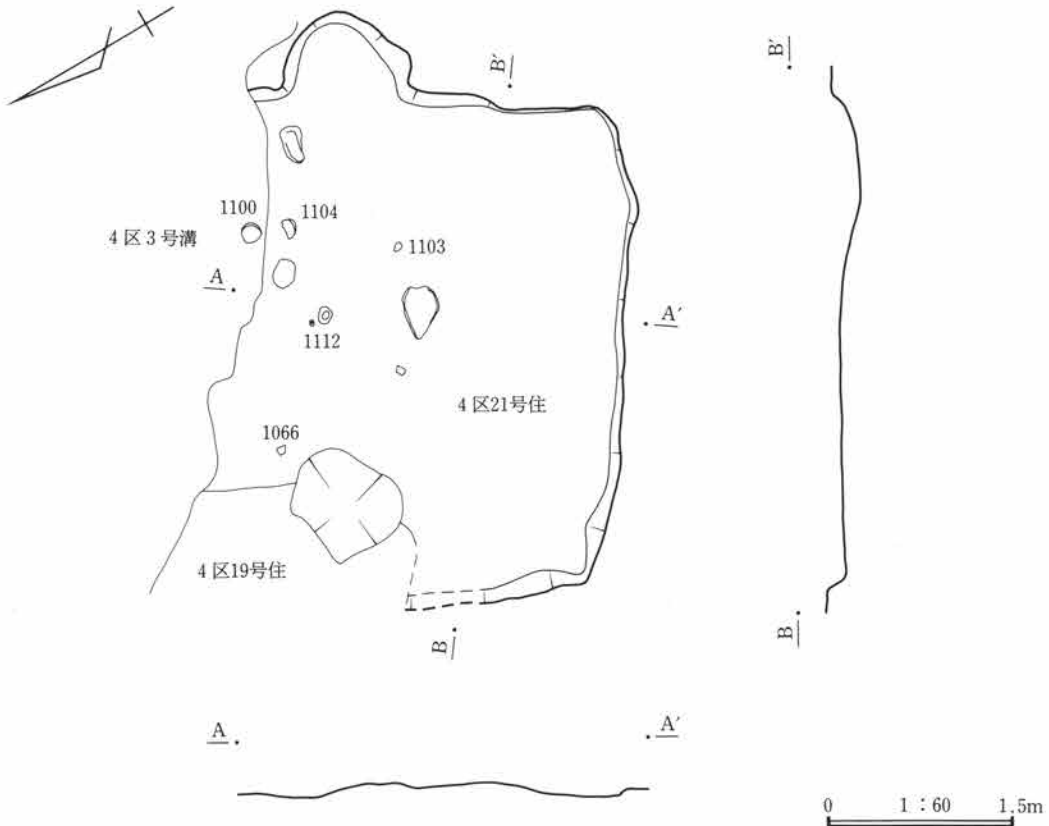
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1034	碗 須恵器	器高：(48mm) 口径：— 底径：[95mm] 胴部～高台部 ㄥ	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	
1035	杯 須恵器	器高：(16mm) 口径：— 底径：72mm 胴部下端～底部 ㄥ	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下端～底部は回転なで。	
1036	杯 須恵器	器高：(9mm) 口径：— 底径：65mm 胴部下端～底部 ㄥ	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	底部の周囲が丁寧に打ち欠いてあり、転用形態。轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下端～底部は回転なで。	転用形態。
1037	蓋 須恵器	器高：42mm 口径：[122mm] つまみ径：41mm つまみ部～口縁部 ㄥ	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	天井部下端と口縁部の間に外縁帯を持ち、口縁部はほぼ垂直に下がる。ボタン状つまみ。つまみ部は貼り付け。内外面共に天井部～口縁部は回転なで。轆轤整形。	外面つまみ部～天井部に自然釉。
1038	甕 須恵器	長：140mm 幅：116mm 胴部 破片	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	甕の胴部を利用した硯。周囲は滑らかに擦られており、内面も叩目が擦られて、消えかかっている。	外面に自然釉。硯に転用。
1039	甕 須恵器	器高：— 口径：— 底径：— — 口縁部破片	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	口縁端部は外縁帯を持つ。外縁帯は二条の凸帯状になっている。外面：口縁部は回転なで後波状文を3列施し、波状文の下には沈線を施す。内面：口縁部は回転なで。	
1040	碁石 黒石	長径：21mm 短径：14mm 厚：5mm 重：2.2g	蛇紋岩。	周囲全体が丁寧に磨かれている。	
1041	碁石 白石	長径：18mm 短径：12mm 厚：6mm 重：2.0g	チャート。	周囲全体が丁寧に磨かれている。	
1910	? 鉄製品	長：(55mm) 幅：6～8mm 厚：5～7mm		用途不明。芯は空洞。	
1911	? 鉄製品	長：(28mm) 幅：4～7mm 厚：4～7mm		用途不明。芯は空洞。	
1912	刀子 鉄製品	長：(67mm) 幅：14mm 厚： 4.5mm		刀子の刃部の一部。鉄板を他の鉄板で挟み鍛えている。	
1913	? 鉄製品	長：58mm 幅：10～12mm 厚：7～8mm		用途不明。	
1914	? 鉄製品	長：78mm 幅：10～12mm 厚：10～12mm		用途不明。中央で直角に曲げられている。	
1937	? 鉄製品	長：(25mm) 幅：4mm 厚： 3mm		用途不明。	

## 4区21号住居跡

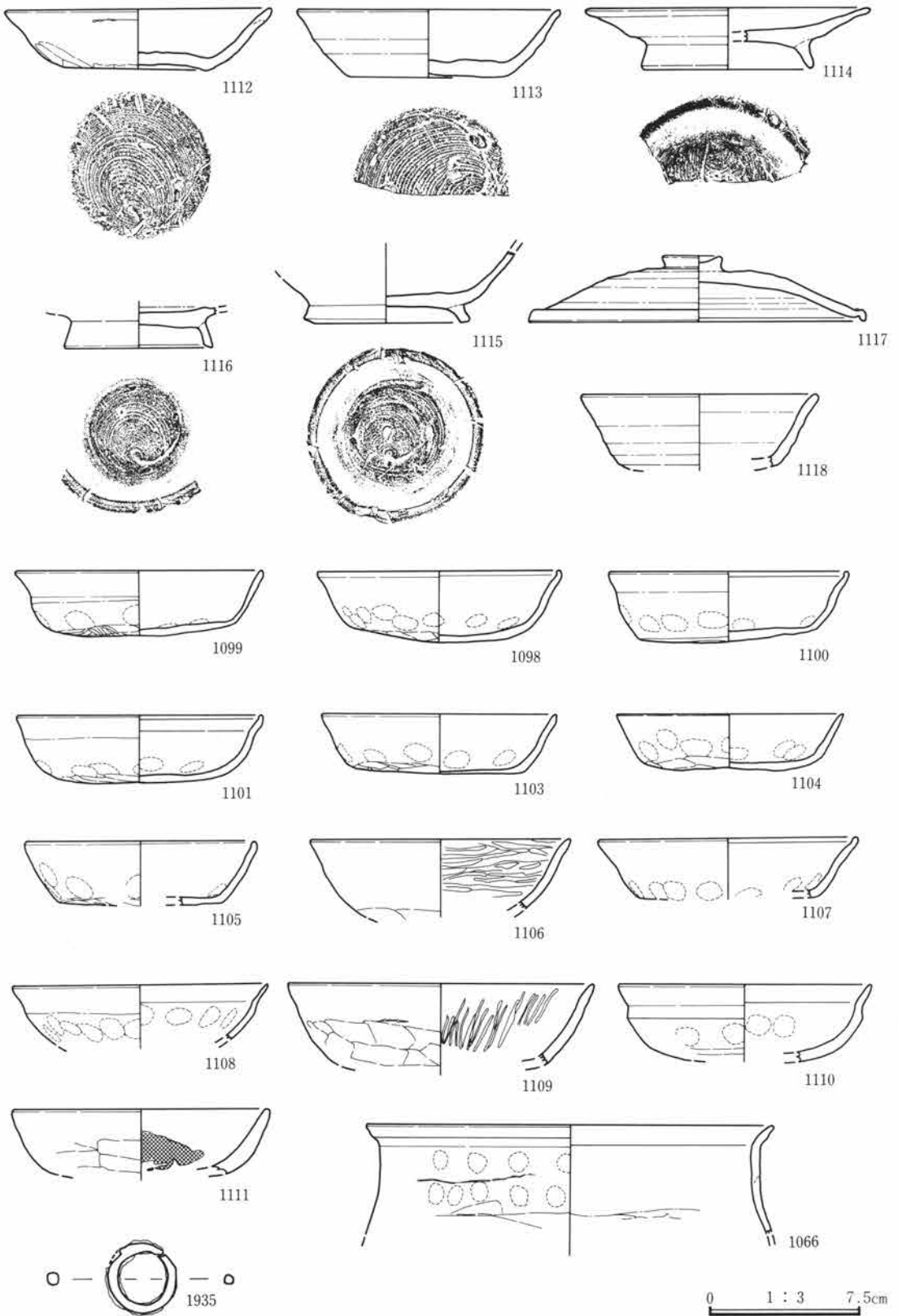
4区L-14・15グリッドに位置し、4区19号住居跡・4区25号住居跡・4区29号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区19号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部分の壁・床が当住居跡の北西部部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区25号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部分の壁・床を当住居跡の南西部部分の壁・床が破壊していることから当住居跡の方が新しい。4区29号住居跡の新旧関係は、同住居跡の南西部部分の壁・床を当住居跡の竈が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の北側部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、北側部分が4区3号溝跡により破壊されており確定できないが、東西は約3.8mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定できる。主軸はN-34°-Eである。床面はやや軟弱である。残存壁高は比較的残りの良い南壁で約15cmであり、北側は不明である。

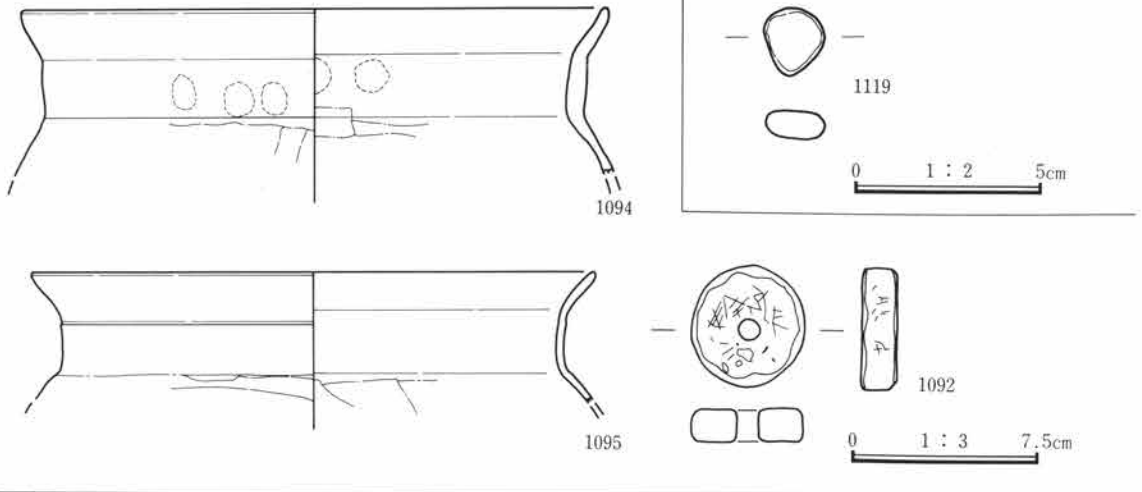
竈は東壁に構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約70cmである。竈の残りは悪く、袖は検出できなかったが、燃烧部に堆積した灰・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は竈前から住居跡中央部にかけて多く出土している。種類は土師器の甕(1066)、土師器の杯(1100・1104・1109)、須恵器の杯(1112)などがある。



第397図 4区21号住居跡



第398図 4区21号住居跡出土遺物①



第399図 4区21号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1066	甕 土師器	器高：(53mm) 口径：[200mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。
1092	紡錘車 石製	長径：47mm 短径：45mm 厚：14mm 孔径：8mm 重：55.6g	蛇紋岩。	円盤形。表面及び側面に文字又は記号のような刻みあり。	刻書あり、釈読不能。
1094	甕 土師器	器高：(61mm) 口径：[234mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。口縁部は横なで、指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	
1095	甕 土師器	器高：(52mm) 口径：[226mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1098	杯 土師器	器高：35mm 口径：120mm 底径：— 完形	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	
1099	杯 土師器	器高：33mm 口径：123mm 底径：90mm ほぼ完形	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部はやや内湾し、口縁部はやや外反。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、指頭痕が残り、底部下半はなで。	外面に油煙付着。
1100	杯 土師器	器高：35mm 口径：120mm 底径：85mm ほぼ完形	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	胴部はやや内湾し、口縁部は僅かに外反。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、指頭痕が残り、底部はなで。	
1101	杯 土師器	器高：33mm 口径：121mm 底径：— ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、指頭痕が残り、底部下半はなで。	外面口縁部の一部に油煙付着。
1103	杯 土師器	器高：30mm 口径：117mm 底径：82mm 口縁部～底部 $\frac{2}{3}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1104	杯 土師器	器高：28mm 口径：[112mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{2}{3}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部は僅かに外反。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで、一部指頭痕が残る。	口縁端部に一部油煙付着。
1105	杯 土師器	器高：(32mm) 口径：[114mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部上半 $\frac{2}{3}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	
1106	碗 須恵器?	器高：(36mm) 口径：129mm 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{2}{3}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部上端は回転篋削り。内面：口縁部～胴部上端は回転なで後篋磨き。	内面に一部油煙付着。
1107	杯 土師器	器高：(30mm) 口径：[128mm] 底径：[86mm] 口縁部～底部上端 $\frac{2}{3}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	胴部はやや内湾し、口縁部はやや外反。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部上端は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	外面に油煙付着。
1108	杯 土師器	器高：(29mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{2}{3}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部はやや内湾し、胴部は僅かに外反。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残る。内面：口縁部～胴部は横なで、胴部は一部指頭痕が残る。	外面に一部油煙付着。
1109	杯 土師器	器高：(40mm) 口径：[152mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{2}{3}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、一部輪痕が残る、胴部～底部上端は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで後放射状暗文を施す。	

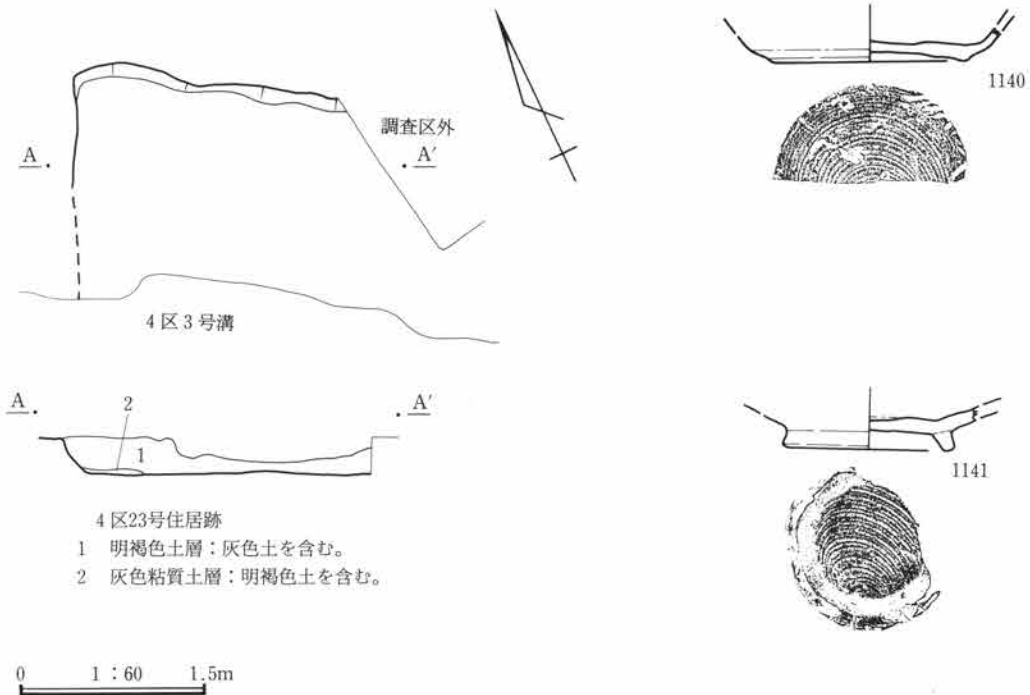
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1110	杯 土師器	器高：(38mm) 口径：[124mm] 底径：— 口縁部～底部迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。明赤褐。	胴部はやや内湾し、口縁部は外反。胴部と口縁部の間に段を持つ。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1111	杯 土師器	器高：(32mm) 口径：[128mm] 底径：— 口縁部～胴部迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで。	内面にタール又は漆付着。
1112	杯 須恵器	器高：29mm 口径：132mm 底径：68mm 完形	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。オリーブ灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1113	杯 須恵器	器高：33mm 口径：[130mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部迄	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に一部油煙付着。
1114	皿 須恵器	器高：30mm 口径：[140mm] 底径：[84mm] 口縁部～高台部迄	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に一部油煙付着。
1115	椀 須恵器	器高：(35mm) 口径：— 底径：82mm 胴部～高台部迄	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部は直線的に広がる。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	
1116	椀 須恵器	器高：(20mm) 口径：— 底径：[74mm] 底部～高台部迄	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：底部は回転なで。底部の周囲が丁寧に打ち欠いてある。	底部に油煙付着。転用形態？
1117	蓋 須恵器	器高：33mm 口径：166mm つまみ径：29mm ほぼ完形	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。返りは短い。ボタン状つまみ。つまみ部は貼り付け。外面：天井部上半は回転篋削り、天井部下半～高台部は回転なで。内面：天井部～口縁部は回転なで。	
1118	椀 須恵器	器高：(36mm) 口径：[116mm] 底径：— 口縁部～胴部迄	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	内外面に油煙付着。
1119	碁石 白石	長径：18mm 短径：16mm 厚：7mm 重：2.9g	チャート。	周囲が丁寧に磨いてある。	
1120	砥石?	長：173mm 幅：172mm 厚：118mm 重：1731.4g	二ツ岳軽石。	表面に金属による筋が多くついている。	
1935	? 鉄製品	リング直径：34mm 棒直径：4～5mm		リング状の鉄製品。用途不明。	

4区23号住居跡

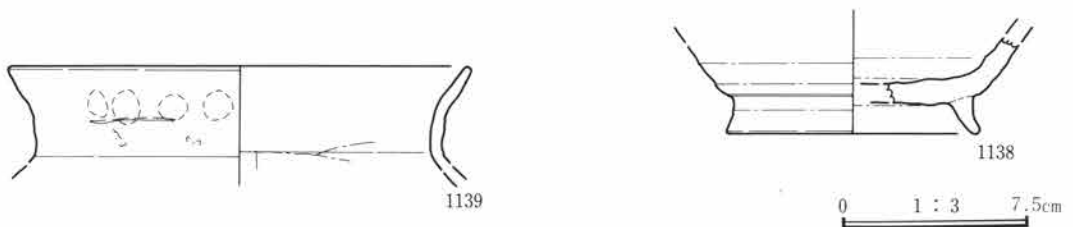
4区K-15・16グリッドに位置し、4区25号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区25号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北側部分上面の壁を破壊して、当住居跡の壁・床が構築されていることから、当住居跡の方が新しい。4区3号溝跡との新旧関係は、4区3号溝跡が当住居跡の南側部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、南側を4区3号溝跡に破壊され、東側は未調査のために、不明である。床面は、北西部分のみの検出であり、やや軟弱であるが、ほぼ平坦である。残存壁高は北西隅付近で約30cmを測る。

竈は、東壁に構築されていると推定しているが、未調査のため不明である。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は、土師器の甕(1139)、土師器の杯(1121・1122)、須恵器の杯(1140)、須恵器の椀(1138・1141)の他、基石(1142・1143・1144)が出土しているが、いずれも覆土及びグリッドの出土である。

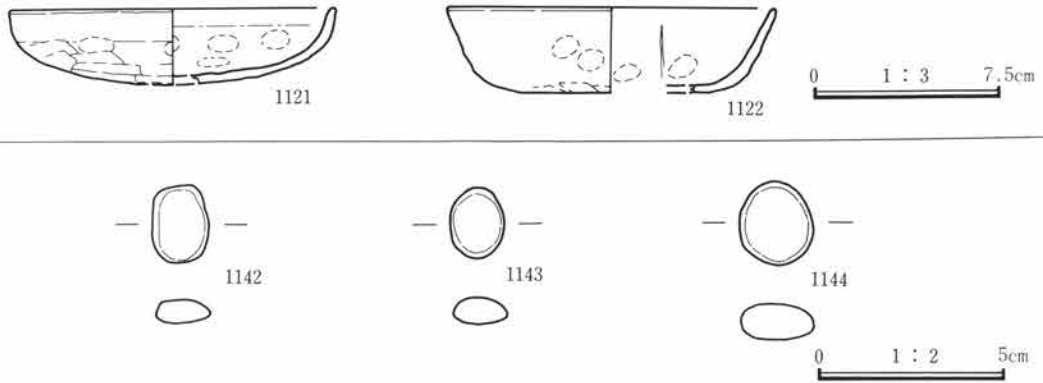


第400図 4区23号住居跡



第401図 4区23号住居跡出土遺物①





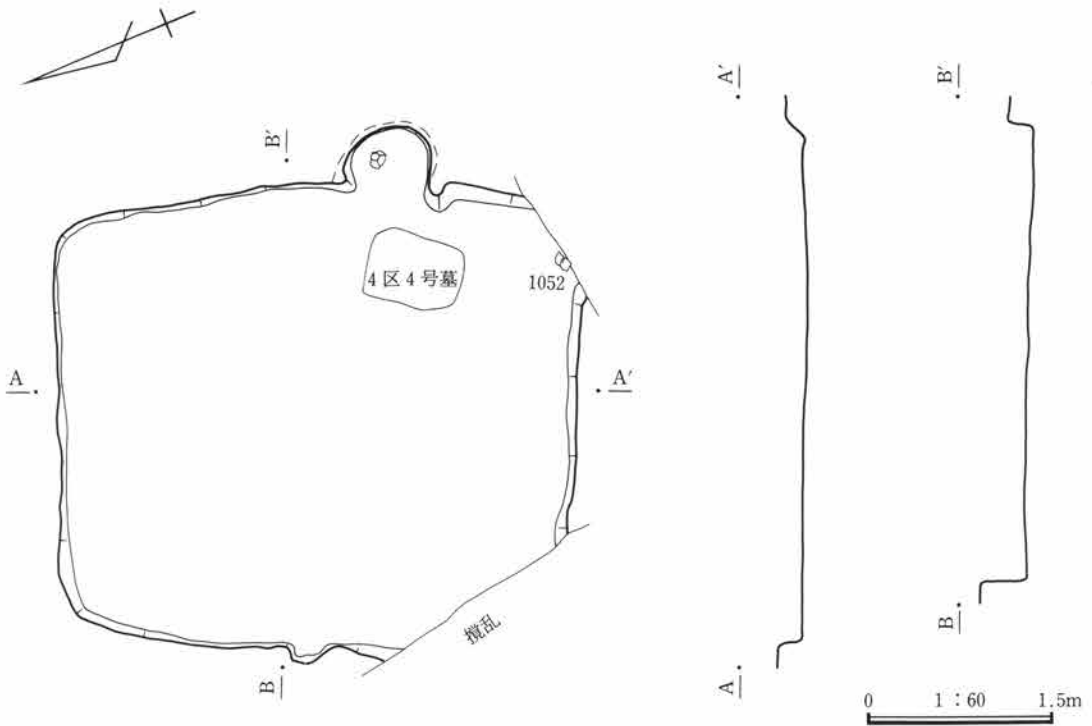
第402図 4区23号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1121	杯 土師器	器高：(30mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	
1122	杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[132mm] 底径：[74mm] 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	
1138	椀 須恵器	器高：(39mm) 口径：— 底径：[102mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。緑灰・鈍い橙。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、胴部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下端～底部は回転なで。	
1139	甕 土師器	器高：(41mm) 口径：180mm 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	
1140	杯 須恵器	器高：(12mm) 口径：— 底径：[76mm] 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下端～底部は回転なで。	外面に自然釉。
1141	椀 須恵器	器高：(18mm) 口径：— 底径：69mm 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転なで。	
1142	碁石 白石	長径：21mm 短径：16mm 厚：6mm 重：3.3g	石英。	周囲を丁寧に磨いてある。	
1143	碁石 白石	長径：18mm 短径：14mm 厚：7mm 重：3.0g	石英。	周囲を丁寧に磨いてある。	
1144	碁石 白石	長径：22mm 短径：20mm 厚：9mm 重：5.6g	石英。	周囲を丁寧に磨いてある。	

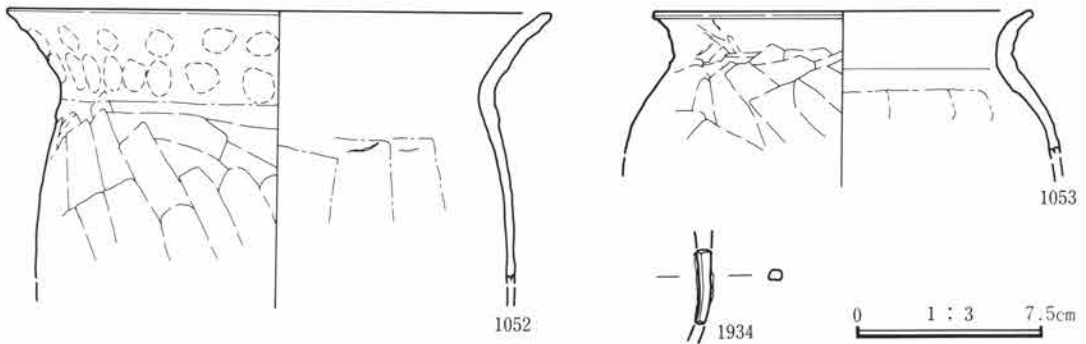
4区24号住居跡

4区M-14・15、N-14・15に位置し、4区20号住居跡が近接するが、重複はない。当住居跡の規模は、東西約3.6m・南北約4.1mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-21°-Eである。床面は竈を中心に硬く、ほぼ平坦な面が全面的に残っていた。残存壁高は約20cmであり、ほぼ全周を確認することができた。

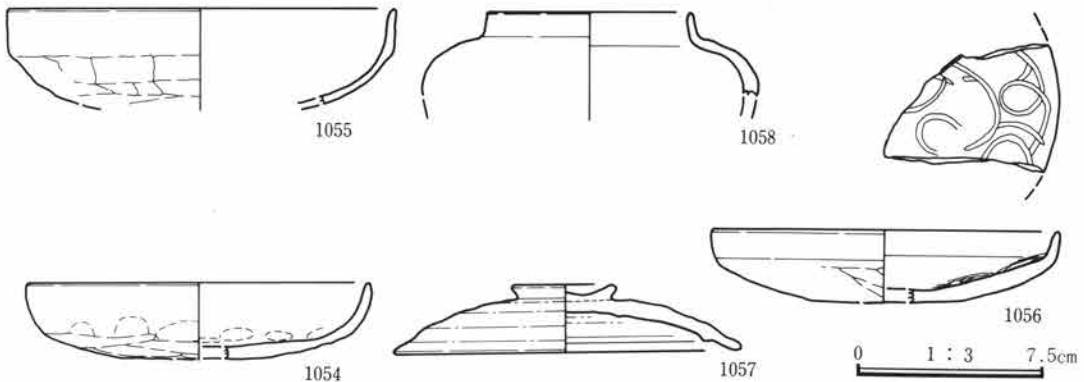
竈は東壁の南寄りに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約60cmである。袖は殆ど検出できなかったが、燃烧部の中央やや北よりから支脚に使用されていたと考えられる石が、地山に埋め込まれた状態で検出できた。また、燃烧部には灰・焼土の堆積が検出できた。遺物は、南東隅の床直から土師器の甕(1052)が出土した他は、覆土の出土である。種類は、土師器の甕(1053)、土師器の杯(1054・1055・1056)、須恵器の蓋(1057)、須恵器の短頸壺(1058)などがある。



第403図 4区24号住居跡



第404図 4区24号住居跡出土遺物①



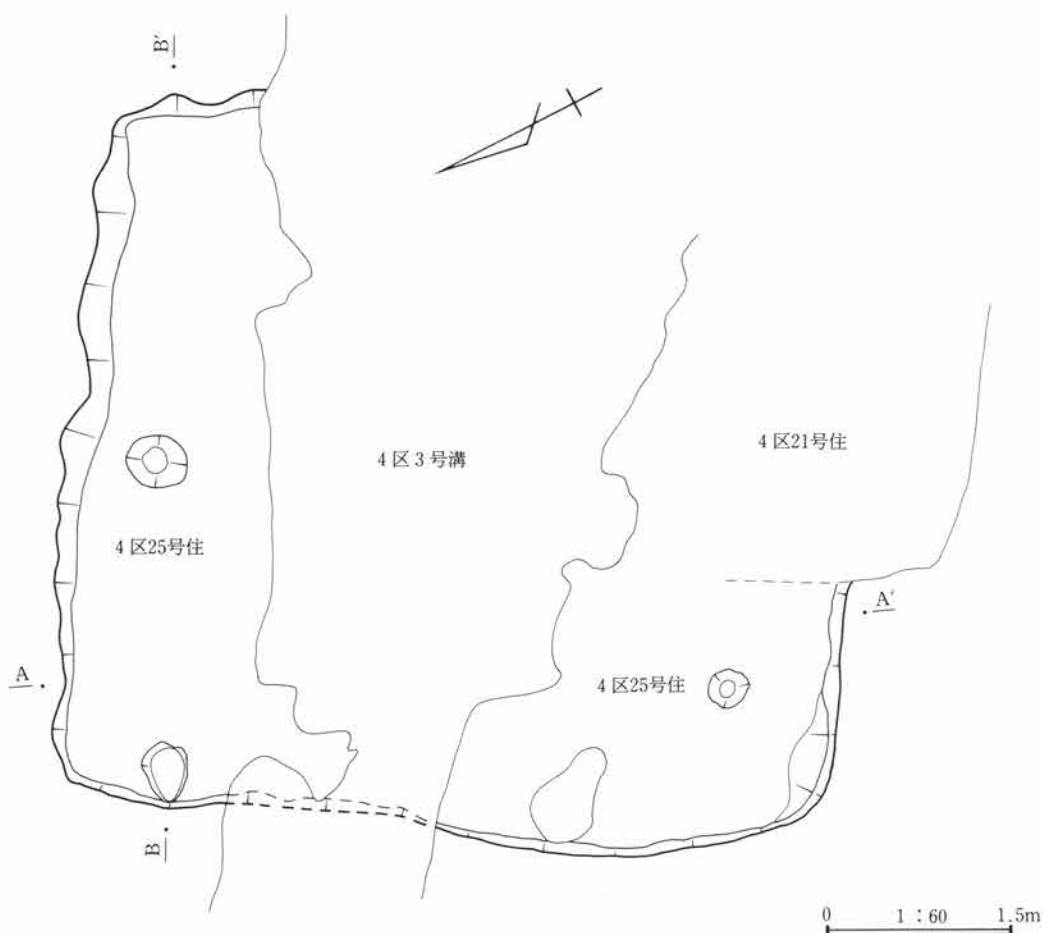
第405図 4区24号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1052	甕 土師器	器高：(106mm) 口径：[218mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篋なで。	内外面に油煙付着。
1053	甕 土師器	器高：(58mm) 口径：[152mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い褐。	口縁部は大きく外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	
1054	杯 土師器	器高：30mm 口径：[136mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1055	杯 土師器	器高：(38mm) 口径：[156mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部はやや内湾し、口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部上端は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	
1056	杯 土師器	器高：29mm 口径：[138mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部上端で屈曲し、口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで。胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで後渦巻き状暗文を施す。	
1057	蓋 須恵器	器高：27mm 口径：141mm つまみ径：42mm つまみ部～口縁部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。返りは非常に短い。ボタン状つまみ。つまみ部は貼り付け。外面：天部上半は回転篋削り、天上下半～口縁部は回転なで。内面：天井部～口縁部は回転なで。	
1058	短頸壺 須恵器	器高：(33mm) 口径：[82mm] 底径：— 最大径：[134mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。最大径は胴部上半。口縁部は短く直立。内外面共に口縁部～胴部上半は回転なで。	外面に自然釉。
1934	? 鉄製品	長：(30mm) 幅：4～6mm 厚：4mm		用途不明。断面四角形。	

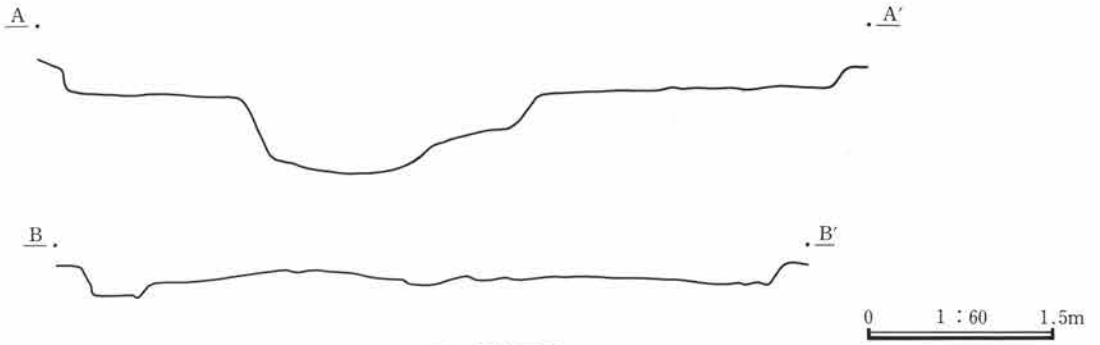
4区25号住居跡

4区L-15・16、M-15・16グリッドに位置し、4区19号住居跡・4区21号住居跡・4区23号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区19号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部分の壁・床が当住居跡の西側部分上面の壁を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区21号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床が当住居跡の南東部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区23号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床が当住居跡の北側部分上面の壁を破壊していることから当住居跡の方が古い。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の壁・床を東西に貫いて破壊していることから当住居跡の方が古い。

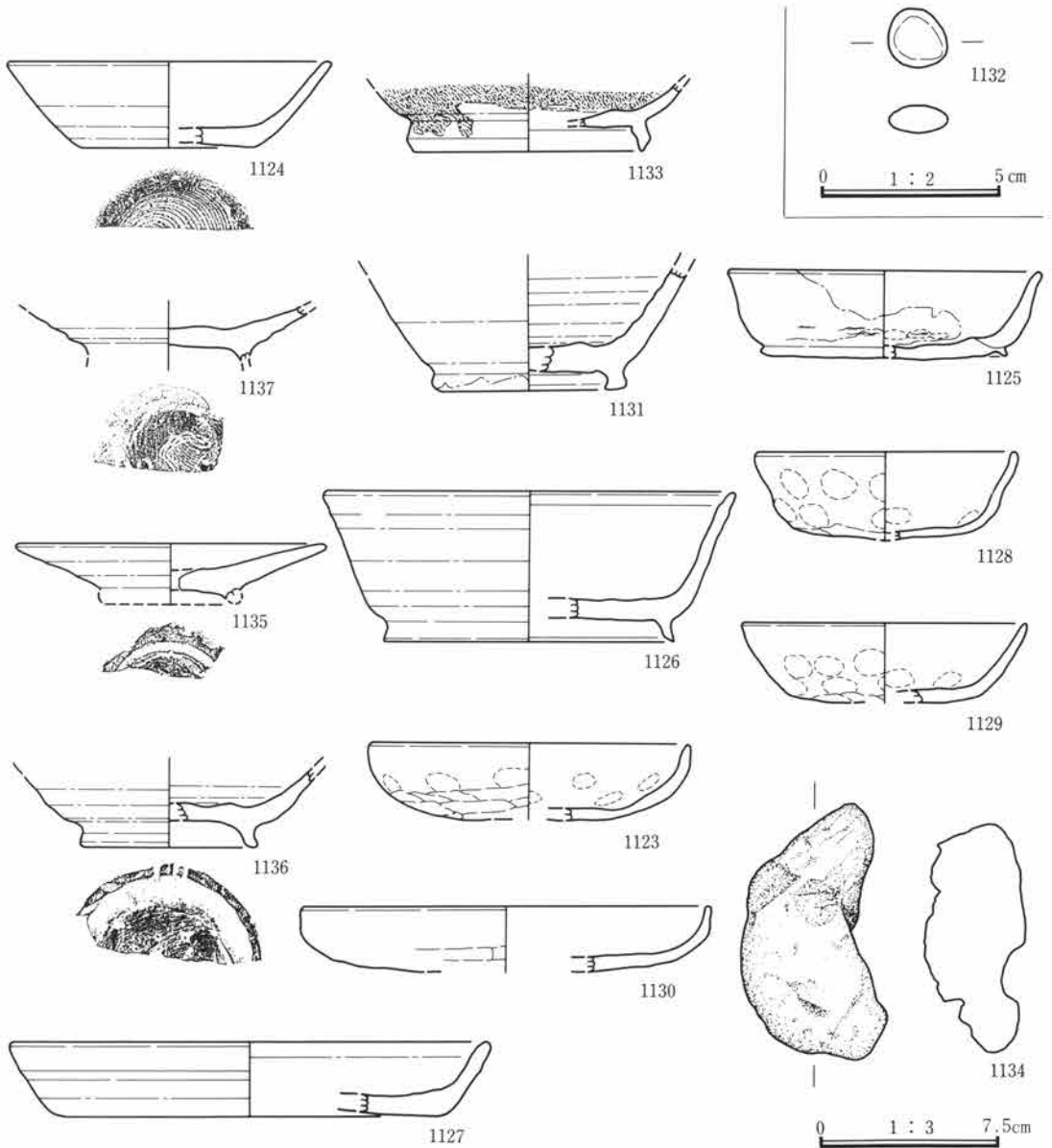
当住居跡の規模は、重複による破壊が多く確定できないが、東西約5.5m・南北約6.2mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。確認できた部分の床はほぼ平らである。残存壁高は約20cmである。住居内の南西部から柱穴と考えられるピットが検出できた。規模は、直径約30cm・床面からの深さ約25cmであり、平面形は円形を呈する。しかし、ピットは1基しか検出できず、柱穴と断定することはできない。竈・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物の出土は比較的多いが、大部分は覆土中からの出土である。種類は土師器の杯(1123・1128・1129・1130)、須恵器の椀(1125・1126)などがある。



第406図 4区25号住居跡



第407図 4区25号住居跡エレベーション



第408図 4区25号住居跡出土遺物

第IV章 発見された遺構と遺物

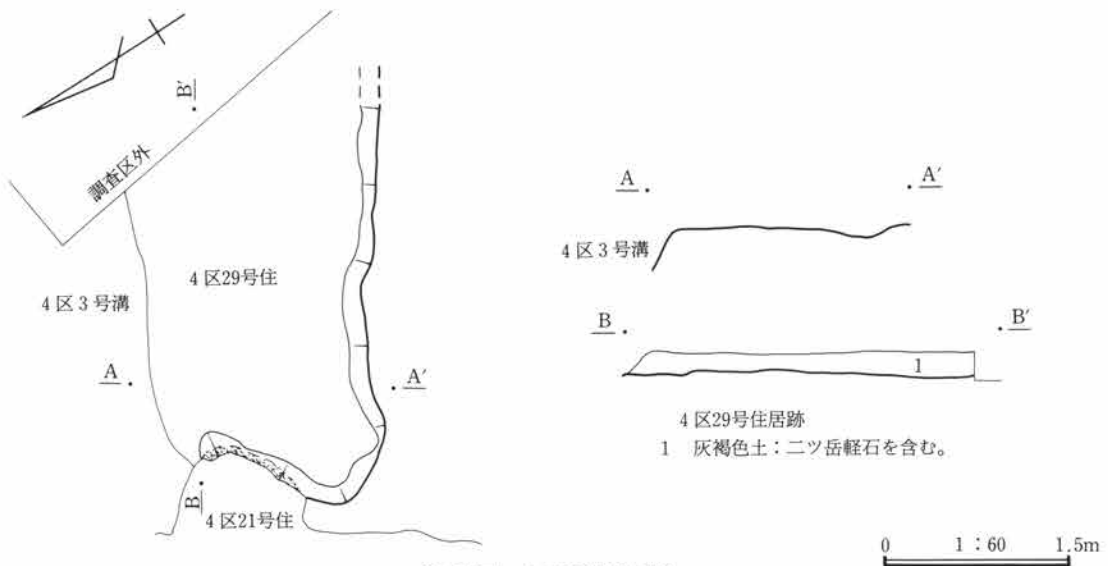
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1123	杯 土師器	器高：(31mm) 口径：[134mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1124	杯 須恵器	器高：(35mm) 口径：[136mm] 底径：[70mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・明黄褐。	轆轤整形。右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1125	碗 須恵器	器高：36mm 口径：[132mm] 底径：[102mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：口縁部～底部上半は回転なで、底部はなで。	内面全体と外面口縁部～胴部の一部に自然釉。
1126	碗 須恵器	器高：62mm 口径：[172mm] 底径：[122mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1127	皿 須恵器	器高：(31mm) 口径：[200mm] 底径：[160mm] 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り。内面：口縁部～底部上半は回転なで。	
1128	杯 土師器	器高：(36mm) 口径：[118mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1129	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[118mm] 底径：[78mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部上半は横なで、指頭痕が残り、底部下半はなで。	
1130	杯 土師器	器高：(27mm) 口径：[172mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部はほぼ直立。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、指頭痕が残り、底部はなで。	内面に油煙付着。
1131	壺 須恵器	器高：(50mm) 口径：— 底径：[80mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部下半はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
1132	碁石	長径：18mm 短径：15mm 厚：7mm 重：2.7g	頁岩。	周囲が丁寧に磨いてある。	
1133	碗 灰釉陶器	器高：(28mm) 口径：— 底径：[106mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下端～底部は回転なで。	内外面共に胴部下端まで施釉。
1134	用途不明 石製品	長：105mm 幅：60mm 厚：42mm 重：111.1g	二ツ岳軽石。	表面に金属による筋あり。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1135	皿 須恵器	器高：(24mm) 口径：[130mm] 底径：[60mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の口縁部～胴部に油煙付着。燻し。
1136	椀 須恵器	器高：(34mm) 口径：— 底径：[74mm] 胴部～口縁部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	内外面共に胴部まで油煙付着。燻し。
1137	皿 須恵器	器高：(22mm) 口径：— 底径：— 口縁部～高台部上半 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部は直線的に広がる。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	内外面共に胴部まで油煙付着。燻し。

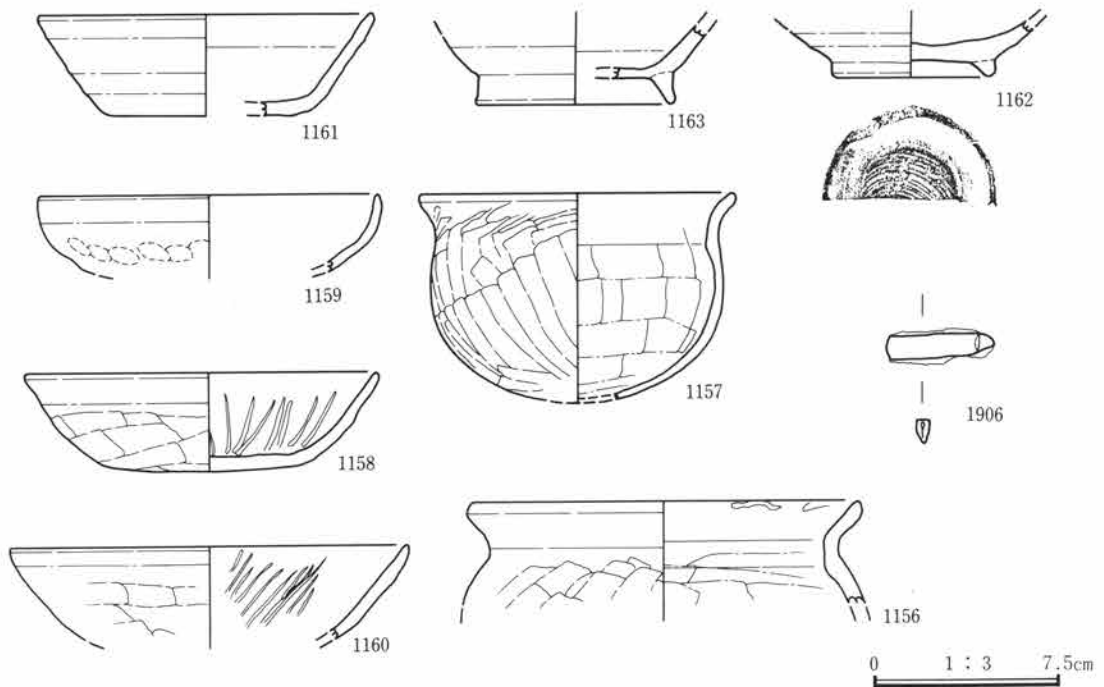
#### 4区29号住居跡

4区L-14グリッドに位置し、4区21号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区21号住居跡との新旧関係は、同住居跡の竈が当住居跡の南東隅の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の中央から北側部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。また、4区72号住居跡・4区78号住居跡・4区79号住居跡・4区131号住居跡・4区132号住居跡と重複すると考えられるが、新旧関係は不明である。

当住居跡の規模は、大部分が破壊されており不明である。床面は掘形での検出であり、凹凸が多い。確認できた南西部の残存壁高も僅か約5cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は全て覆土中からの出土である。種類は土師器の甕(1156)、土師器の杯(1158・1159・1160)、須恵器の杯(1161)などがある。



第409図 4区29号住居跡



第410図 4区29号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1156	甕 土師器	器高：(40mm) 口径：[158mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。
1157	甕 土師器	器高：(81mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～底部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い赤褐・鈍い橙。	口縁部は「く」字状に外反。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部～底部は丁寧なで。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1158	杯 土師器	器高：39mm 口径：145mm 底径：84mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	外面底部に油煙付着。
1159	杯 土師器	器高：(31mm) 口径：[134mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	
1160	杯 土師器	器高：(37mm) 口径：[158mm] 底径：— 口縁部～胴部迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す。	



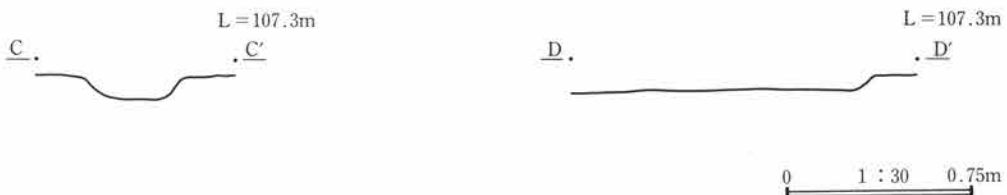
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1161	杯 須恵器	器高：(40mm) 口径：[134mm] 底径：[78mm] 口縁部～底部上半 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り後なで。内面：口縁部～底部上半は回転なで。	
1162	椀 須恵器	器高：(21mm) 口径：— 底径：[66mm] 胴部下半～高台部 $\frac{2}{3}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～胴部下半は回転なで。	
1163	椀 須恵器	器高：(30mm) 口径：— 底径：[80mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下半～底部は回転なで。	外面に自然釉。二次炎を受けている。
1906	? 鉄製品	長：(43mm) 幅：9mm 厚：6mm		刀子の茎か。	

#### 4区32号住居跡

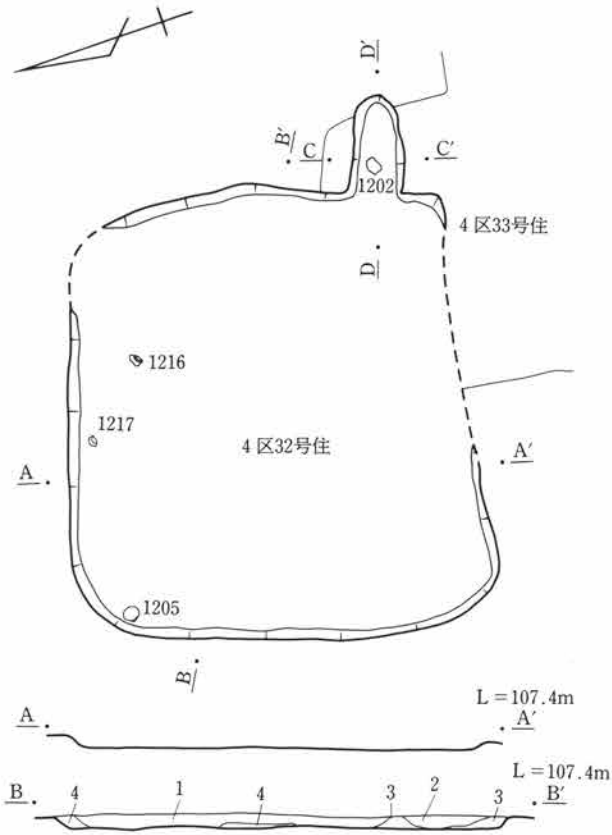
4区O-26・27グリッドに位置し、4区33号住居跡・4区34号住居跡・4区10号溝跡と重複する。4区33号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北側部分の壁・床を破壊して当住居跡の南東部分の壁・床・竈が構築されていることから、当住居跡の方が新しい。4区34号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部分の壁・床を破壊して当住居跡が構築されていることから、当住居跡の方が新しい。4区10号溝跡との新旧関係は、同溝跡の覆土中に当住居跡の東側部分の壁・床が構築されていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約3.6m・南北約3.3mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-13°-Eである。床面はほぼ平坦であるが、やや軟弱な部分がある。残存壁高は約5～10cmであり、残りは悪いが、ほぼ全面的に検出できた。

竈は東壁の南東隅近くに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約80cmである。竈の残りは悪く、袖は検出できなかったが、燃烧部からは灰・焼土の堆積を検出することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は、竈から土師器の台付甕(1202)、北壁近くから須恵器の杯(1205)、須恵器の椀(1216)などが出土している。



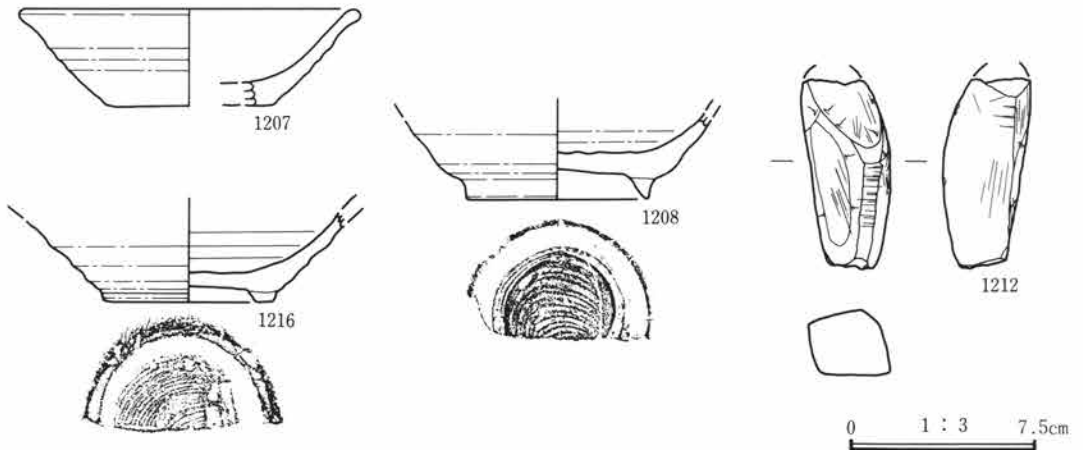
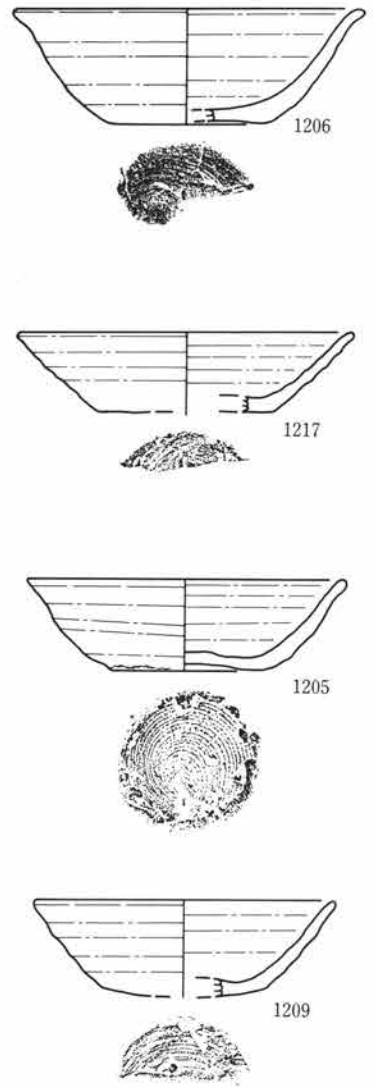
第411図 4区32号住居跡エレベーション



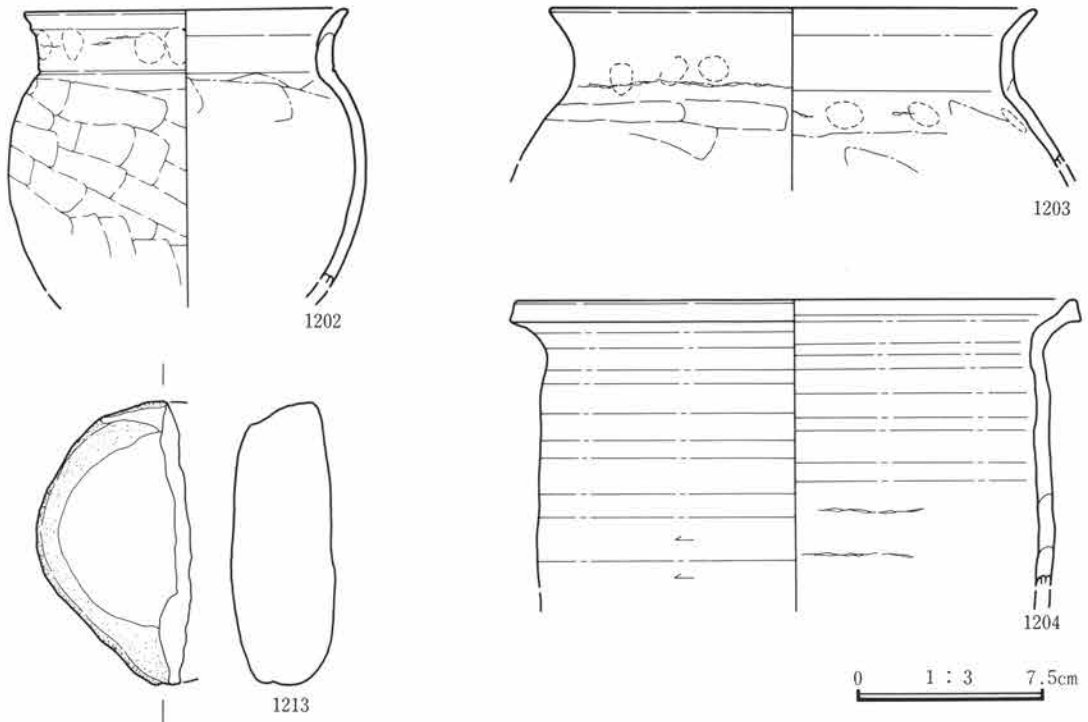
- 4区32号住居跡
- 1 淡灰褐色土層：軽石を含む。
  - 2 淡灰褐色土層：少量の軽石を含む。
  - 3 淡黄褐色土層：灰褐色土を含む。
  - 4 焼土と灰褐色土の混土層。

0 1 : 60 1.5m

第412図 4区32号住居跡



第413図 4区32号住居跡出土遺物①



第414図 4区32号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1202	甕 土師器	器高：(109mm) 口径：[130mm] 底径：— 最大径：[142mm] 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。最大径は胴部上半。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕・輪積痕が残り、胴部は窠削り。内面：口縁部は横なで、胴部は窠なで。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1203	甕 土師器	器高：(63mm) 口径：[194mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部上端は窠削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は窠なで、一部指頭痕が残る。	
1204	甕 須恵器	器高：(113mm) 口径：[226mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	口縁部は「く」字状に外反し、口縁端部は外縁帯を持つ。内外面共に口縁部～胴部上半灰白回転なで。	
1205	杯 須恵器	器高：36mm 口径：128mm 底径：61mm 完形	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1206	杯 須恵器	器高：(45mm) 口径：[140mm] 底径：[64mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は横なで、底部は回転糸切り。口縁部～底部は回転なで。	内外面の胴部下半～底部に油煙付着。

#### 第IV章 発見された遺構と遺物

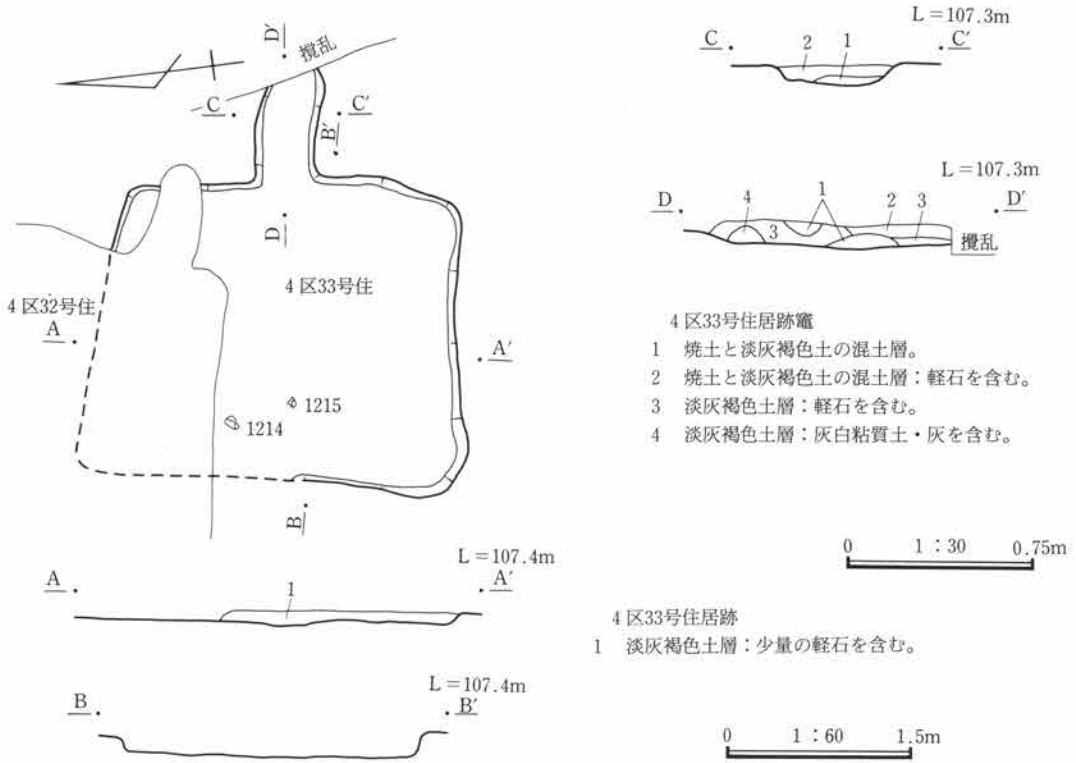
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1207	杯 須恵器	器高：(38mm) 口径：[136mm] 底径：[66mm] 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は横なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部上端は回転なで。	
1208	椀 須恵器	器高：(33mm) 口径：一底径：[74mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	
1209	杯 須恵器	器高：(38mm) 口径：[120mm] 底径：[66mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1212	砥石	長：(76mm) 幅：35mm 厚：34mm 重：84.9g	砥沢石。	使用面は5面。表面に金属による筋あり。	
1213	用途不明 石製品	長：(112mm) 幅：(61mm) 厚：42mm 重：326.9g	粗粒安山岩。	表面が擦れている。	
1216	椀 須恵器	器高：(36mm) 口径：一底径：[70mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。内面は多量。
1217	杯 須恵器	器高：(32mm) 口径：[134mm] 底径：[72mm] 口縁部～底部上端 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部上端は回転なで。	

#### 4区33号住居跡

4区O-26グリッドに位置し、4区32号住居跡・4区10号溝跡と重複する。4区32号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床・竈が当住居跡の北側部分の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区10号溝跡との新旧関係は、同溝跡の覆土中に当住居跡の西側部分の壁・床が構築されていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約2.3m・南北約2.7mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-10°-Eである。床面は竈を中心として比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は南側で約25cmを測るが、北側は約10cmである。

竈の燃焼部・煙道部の壁外への張り出しは約1mあると考えられるが、先端部は攪乱に破壊されている。袖は検出できなかったが、燃焼部からは灰・焼土の堆積が確認できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は少ないが、住居内の南よりから土師器(1215)、須恵器の椀(1214)が出土している。



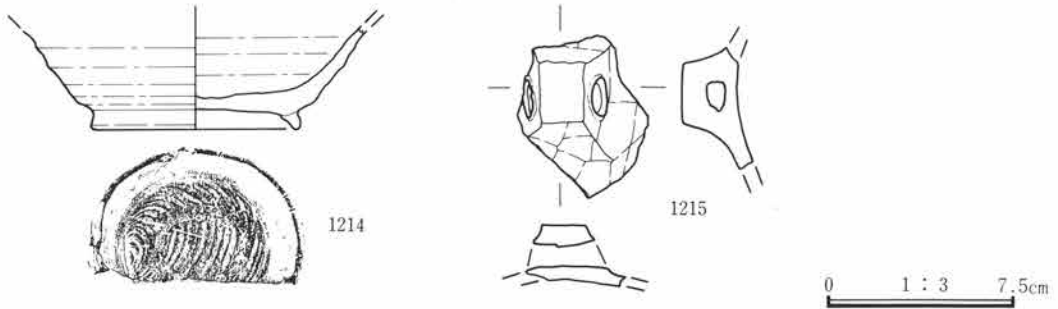
4区33号住居跡竈

- 1 焼土と淡灰褐色土の混土層。
- 2 焼土と淡灰褐色土の混土層：軽石を含む。
- 3 淡灰褐色土層：軽石を含む。
- 4 淡灰褐色土層：灰白粘質土・灰を含む。

4区33号住居跡

- 1 淡灰褐色土層：少量の軽石を含む。

第415図 4区33号住居跡



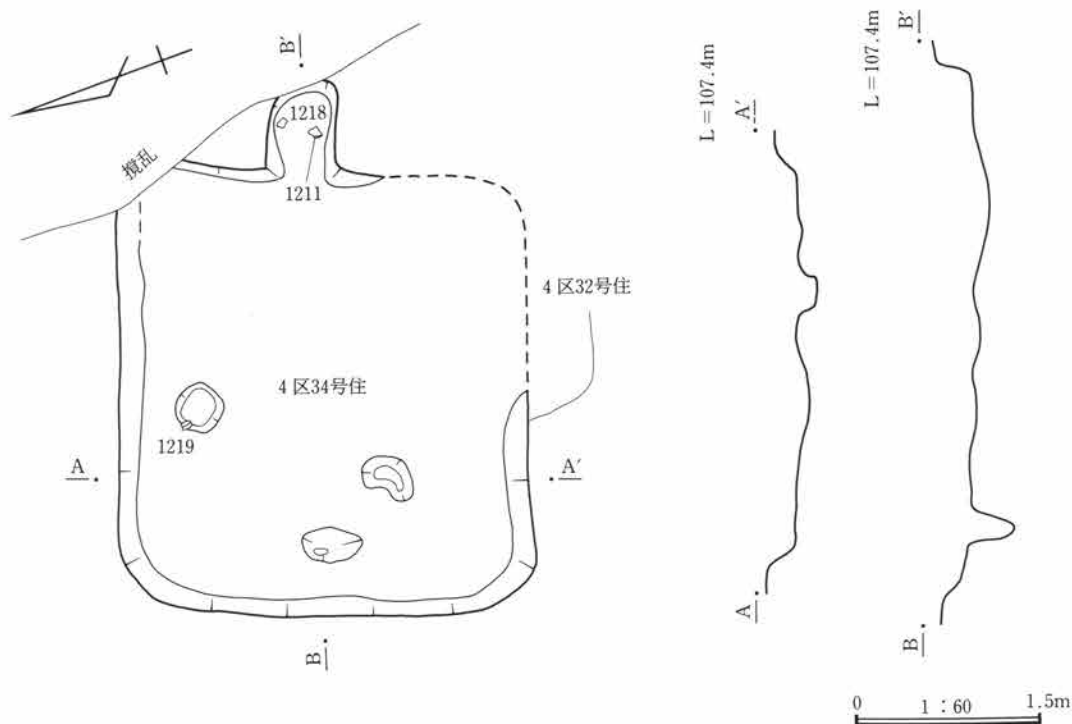
第416図 4区33号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1214	椀 須恵器	器高：(41mm) 口径：一 底径：[84mm] 胴部～高台部 ㄹ	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬質。 鈍い橙。	轆轤整形、右回転。外面：胴部は回転で、 底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面： 胴部～底部は回転で。	
1215	? 土師器	器高：一 口径：一 底径： 一 胴部?破片	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。硬質。橙。	外面に立方体状の突起が着き、穴が穿たれ ている。外面は篋削り。内面はなで。	

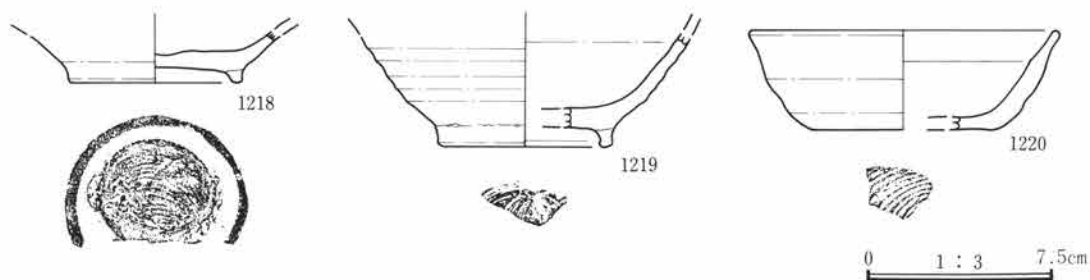
4区34号住居跡

4区O-26・27、P-26・27グリッドに位置し、4区32号住居跡・4区10号溝跡と重複する。4区32号住居跡との新旧関係は、同住居跡の大部分の壁・床が当住居跡の覆土中に構築されていたことから、当住居跡の方が古い。4区10号溝跡との新旧関係は、同溝跡の覆土中に当住居跡の東側部分の壁・床が構築されていることから、当住居跡の方が新しい。

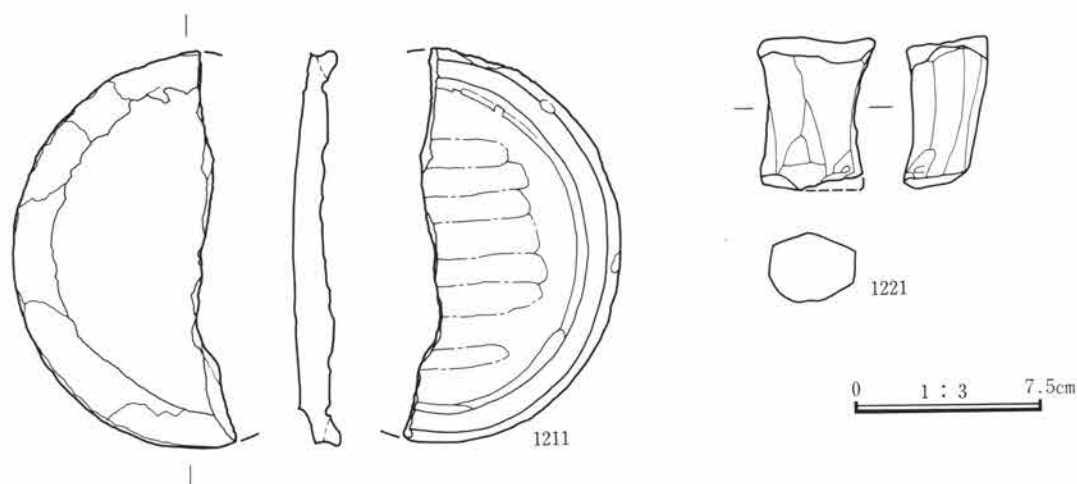
当住居跡の規模は、東西約3.5m・南北約3.2mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-22°-Eである。床は比較的硬く、ほぼ水平である。残存壁高は残りの良い南西部で約25cmを測る。竈は東壁のほぼ中央に構築されている。燃烧部・煙道部の壁外への張り出しは約80cmであるが、先端部は攪乱に破壊されている。袖は検出できなかったが、燃烧部からは灰・焼土の堆積が確認できた。遺物は須恵器の椀(1218・1219)、須恵器の杯(1220)などが出土している。



第417図 4区34号住居跡



第418図 4区34号住居跡出土遺物①



第419図 4区34号住居跡出土遺物②

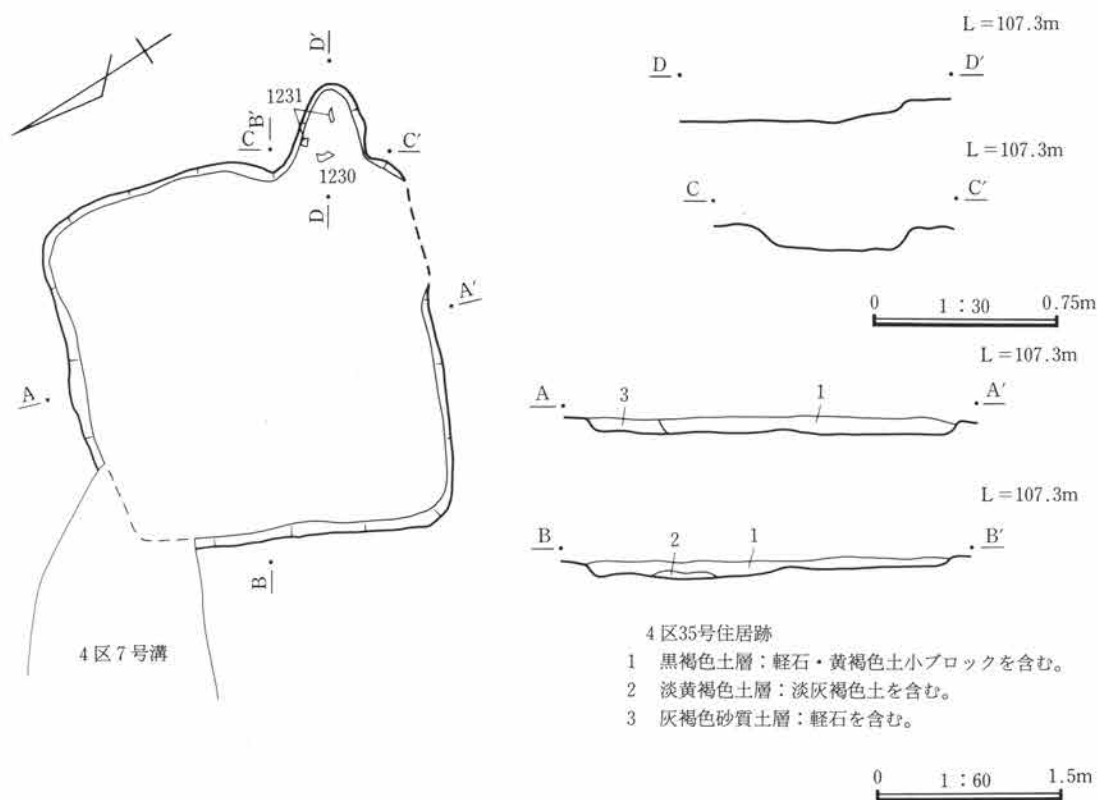
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1211	甕 須恵器	器高：(18mm) 口径：— 底径：155mm 底部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	外面：底部は高台貼り付け後などで、底部中央に指などで痕が残る。内面：底部はなで。	外面底部に油煙付着。
1218	椀 須恵器	器高：(21mm) 口径：— 底径：70mm 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転なで。	内外面の底部に油煙付着。
1219	椀 須恵器	器高：(45mm) 口径：— 底径：[70mm] 口縁部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の胴部下半～底部に油煙付着。
1220	杯 須恵器	器高：(39mm) 口径：[124mm] 底径：[76mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の口縁部に油煙付着。二次炎を受けている。
1221	？ 須恵器	器高：(61mm) 口径：— 底径：— 脚部	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	全体がやや湾曲する。側面及び底面は篋削り。	

## 4区35号住居跡

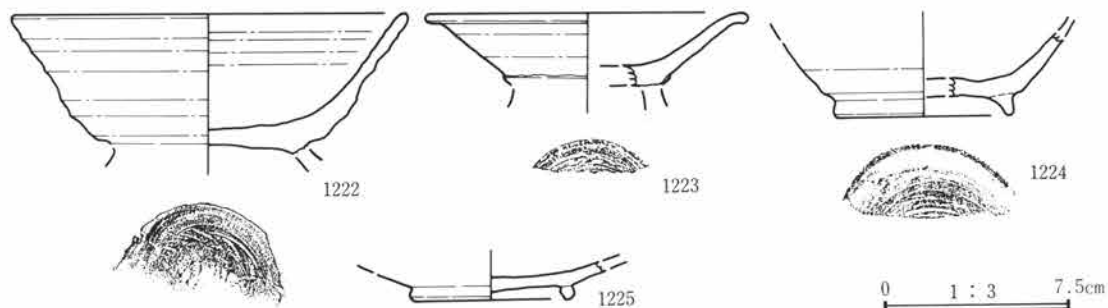
4区O-24・25、P-24・25グリッドに位置し、4区7号溝跡・4区10号溝跡と重複する。4区7号溝跡との新旧関係は、同溝跡の覆土中に当住居跡の北側部分の壁・床が構築されていることから、当住居跡の方が新しい。4区10号溝跡との新旧関係は、同溝跡の覆土中に当住居跡の壁・床が構築されていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約3.0m・南北約2.9mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-23°-Eである。床面は、溝の覆土中に構築された部分はやや軟弱であるが、全体的にはほぼ平坦である。残存壁高は約10cmであり、残りは悪い。

竈は東壁の南東隅近くに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約60cmである。袖は検出できなかったが、燃烧部の奥からは支脚または袖材として使用されたと考えられる河原石が検出できた。また、燃烧部からは灰・焼土の堆積も確認できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は竈内から土師器の甕(1230・1231)の他、須恵器の椀(1222・1223・1224)、灰釉陶器の椀(1225)が出土している。

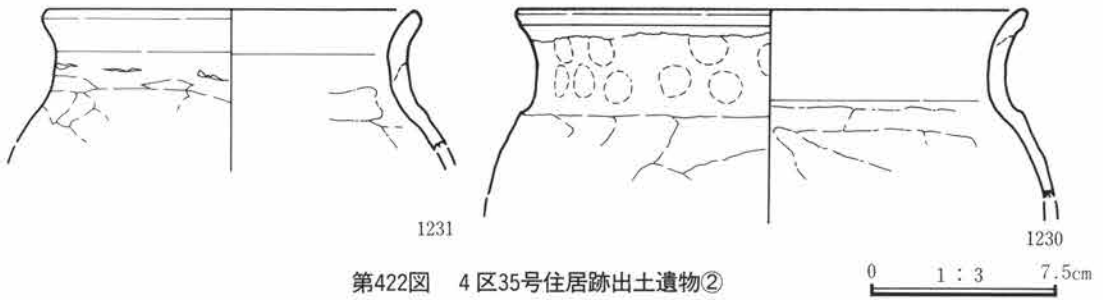


第420図 4区35号住居跡



第421図 4区35号住居跡出土遺物①





第422図 4区35号住居跡出土遺物②

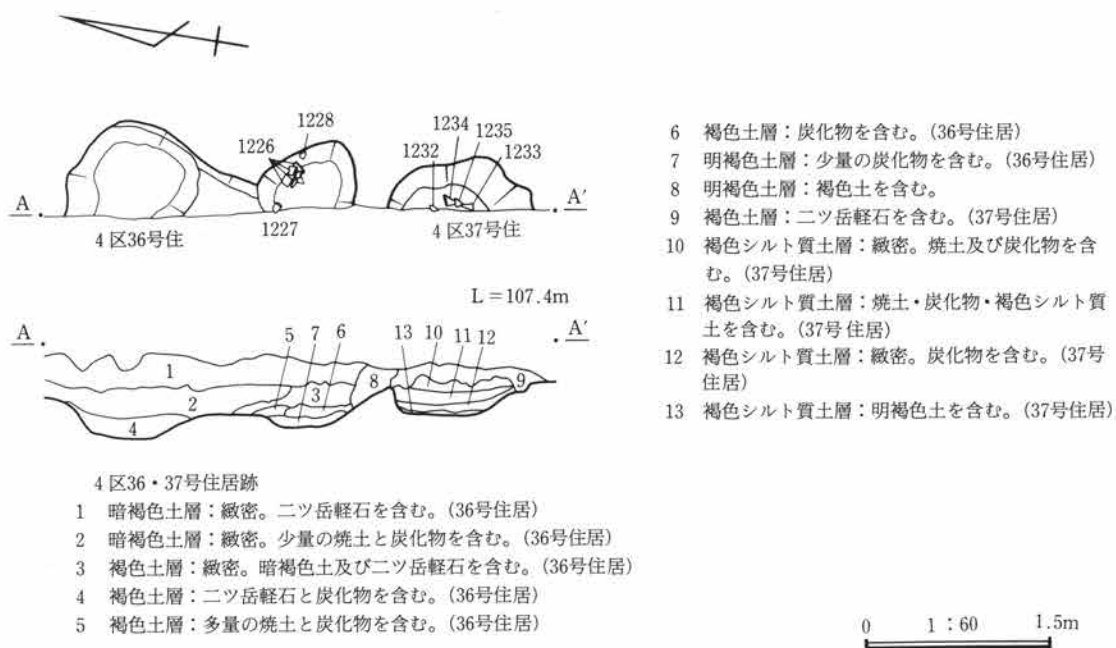
番号	器種 土器種	分量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1222	椀 須恵器	器高：(55mm) 口径：[158mm] 底径：— 口縁部～高台部上端迄	径3～4の小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1223	椀 須恵器	器高：(28mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部 底部迄	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1224	椀 須恵器	器高：(33mm) 口径：— 底径：[72mm] 胴部～高台部迄	径2～3の小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	外面に全面的に油煙付着。燻し。
1225	椀 灰釉陶器	器高：(14mm) 口径：— 底径：[64mm] 胴部下端～高台部迄	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は高台貼り付けなで。内面：胴部下端～底部は回転なで。	
1230	甕 土師器	器高：(74mm) 口径：[204mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部は外反。外面：口縁部は横なで、一部輪痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内面口縁部に油煙付着。
1231	甕 土師器	器高：(56mm) 口径：[150mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。赤。	口縁部は「コ」字状に外反。外面口縁部部に沈線一条。外面：口縁部は横なで、指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。

## 4区36号住居跡

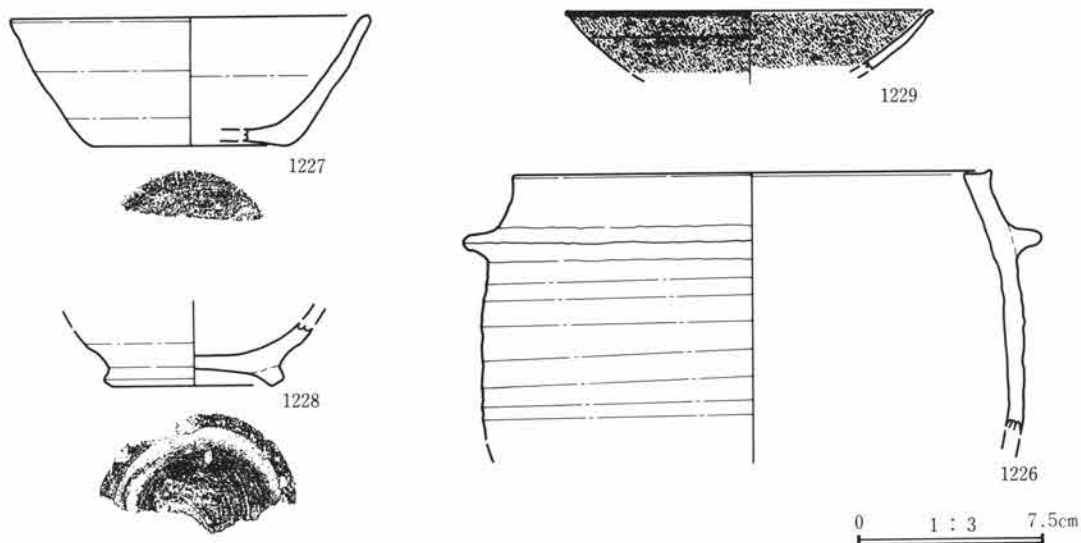
4区Q-22・23に位置し、大部分が調査区域外である。4区37号住居跡と重複すると推定できる。当住居跡は竈及び北東隅のみの検出のために規模・床の状態は不明である。検出部分の残存壁高は約5～10cmである。竈は東壁に構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約50cmである。袖は不明であるが、燃烧部で炭化物・焼土の堆積を確認することができた。北東隅からはピットが検出された。規模は東西約90cm・床面からの深さ約20cmであり、貯蔵穴と考えることもできる。柱穴・壁溝は不明である。遺物は竈内から羽釜(1226)、須恵器の杯(1227)、須恵器の椀(1228)、灰釉陶器の椀(1229)などが出土している。

4区37号住居跡

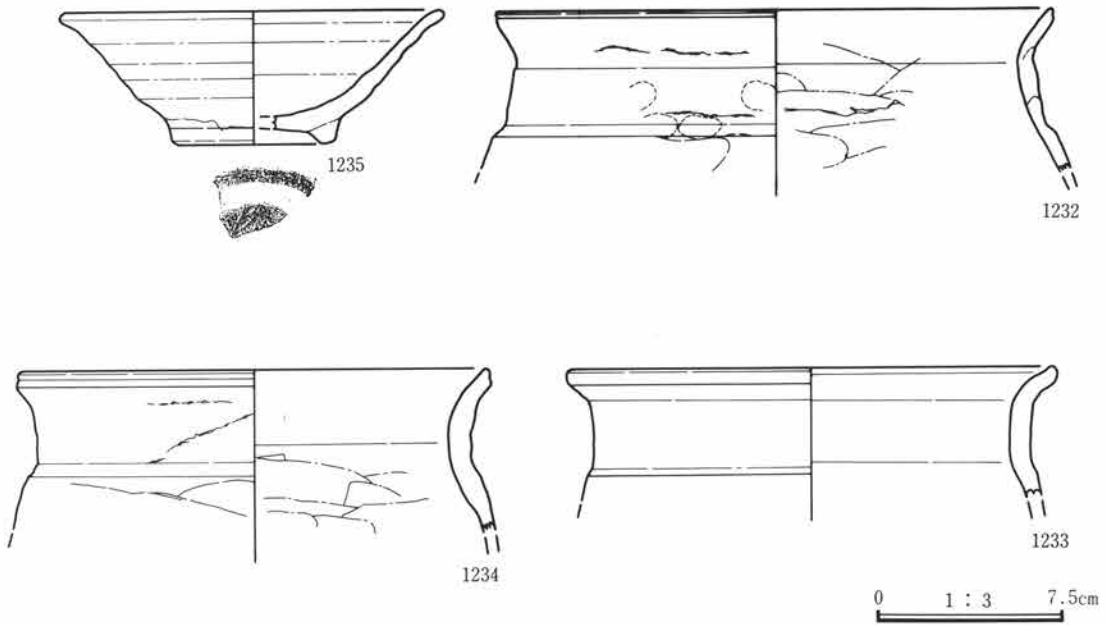
4区Q-22グリッドに位置する。大部分が調査区域外であり、竈燃焼部の先端のみの検出であり、規模は不明である。竈燃焼部からは焼土・炭化物の堆積が確認でき、遺物が多量に出土したことから住居跡と認定した。床・壁の状態及び柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は竈燃焼部から土師器の甕(1232・1233・1234)、須恵器の杯(1235)が出土している。



第423図 4区36・37号住居跡



第424図 4区36号住居跡出土遺物



第425図 4区37号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1226	羽釜	器高：(104mm) 口径：[192mm] 底径：一 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{4}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部はやや内湾。鈿部は貼り付け。内外面共に口縁部～胴部上半は回転なで。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1227	杯 須恵器	器高：(51mm) 口径：[144mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1228	碗 須恵器	器高：(21mm) 口径：一 底径：[72mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3の小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転なで。	
1229	碗 灰釉陶器	器高：(24mm) 口径：[148mm] 口縁部～胴部 $\frac{1}{6}$	細砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	内面口縁部～胴部に施釉。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1232	甕 土師器	器高：(65mm) 口径：[224mm] 底径：一 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{6}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。明赤褐。	口縁部上半は外反。外面口縁部端部に沈線一条。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。

#### 第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1233	甕 土器	器高：(51mm) 口径：[196mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで。	内面に油煙付着。
1234	甕 土器	器高：(64mm) 口径：[188mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に一部油煙付着。
1235	椀 須恵器	器高：(53mm) 口径：[154mm] 底径：[66mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	

#### 4区38号～48号住居跡

最初に4区38号住居跡から4区48号住居跡までの新旧関係を記述し、後述の48号住居跡までの遺構説明文では新旧関係は割愛する。

38号住居跡は39号・40号・41号・44号・45号・47号・48号住居跡と重複する。新旧関係は、38号住居跡の壁・床・竈は全て検出できたので、最も新しい。

39号住居跡は38号・40号・44号・45号・46号・47号・48号住居跡と重複する。40号住居跡との新旧関係は、断面観察により、当住居跡の方が新しい。46号住居跡との関係は不明である。44号・45号・47号・48号住居跡との新旧関係は、同住居跡の竈・床がいずれも当住居跡の床下から検出されているので、当住居跡の方が新しい。

40号住居跡は38号・39号・43号・44号・45号・46号・47号・48号住居跡と重複する。44号・45号・47号・48号との新旧関係は、同住居跡の竈・床が当住居跡の床下から検出されているので、当住居跡の方が新しい。43号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床を破壊して当住居跡が構築されているので、当住居跡の方が新しい。46号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南側部分を破壊して当住居跡の北西部分の壁・床が構築されているので、当住居跡の方が新しい。

41号住居跡は38号住居跡と重複する。新旧関係は前述の通りである。

42号住居跡は43号・46号住居跡と重複する。43号住居跡との新旧関係は不明である。46号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西側部分を当住居跡の東側部分の壁・床・竈が破壊しているので、当住居跡の方が新しい。

43号住居跡は40号・42号住居跡と重複する。新旧関係は前述の通りである。

44号住居跡は38号・39号・40号・45号・46号・47号・48号住居跡と重複する。45号住居跡との新旧関係は、竈の切り合いから、当住居跡の方が古い。46号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床の一部を破壊して当住居跡の竈が構築されているので、当住居跡の方が新しい。47号住居跡・48号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床・竈は当住居跡の床下より検出されたので、当住居跡の方が新しい。

45号住居跡は38号・39号・47号・48号住居跡と重複する。47号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床が当住居跡の床下より検出されたので、当住居跡の方が新しい。48号住居跡との新旧関係は不明である。

46号住居跡は40号・44号・42号・46号住居跡と重複する。新旧関係は前述の通りである。

47号住居跡は38号・39号・44号・45号・48号住居跡と重複する。48号住居跡との新旧関係は不明である。

以上の新旧関係を整理すると、

39号・40号・41号・44号・45号・47号・48号住居跡→38号住居跡

40号・44号・45号・47号・48号住居跡→39号住居跡

43号・44号・46号・47号・48号住居跡→40号住居跡

46号住居跡→42号住居跡

44号住居跡→45号住居跡

46号・47号・48号住居跡→44号住居跡

47号住居跡→45号住居跡

となり、更に整理すると、



となる。

#### 4区38号住居跡

4区P-14・15、Q-14・15グリッドに位置する。規模は南西部が調査区域外のために不明であるが、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。床面はやや軟弱な部分があるが、ほぼ平坦である。ほぼ確認できた東壁の高さは約30cmを測る。

竈は東壁の南よりに構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約80cmである。袖は検出できなかったが、燃焼部の壁の周囲には石を貼り付け固めている。また、燃焼部からは灰・焼土・炭化物の堆積が確認できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。

遺物は竈及びその周辺を中心に出土している。種類は羽釜(1253・1254・1255・1256)、土師器の甕(1257)、須恵器の杯(1260・1263)、須恵器の椀(1258・1259・1261・1262)、灰釉陶器の椀(1267)、灰釉陶器の段皿(1265)などがある。

#### 4区39号住居跡

4区P-15・16グリッドに位置する。規模は、南側部分が4区38号住居跡に破壊されており、不明である。床のレベルは4区40号住居跡とほぼ同じであり、壁の立ち上がりは断面上で確認できただけ

である。断面上の壁高は約25cmである。床の状態は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。

竈は東壁に構築されており、2基あるが、大部分が4区38号住居跡に破壊されており、燃烧部の先端部のみの検出である。2基の竈ともに袖は検出できなかったが、覆土中に多量の灰・焼土の混入が確認できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。

遺物は多量に出土している。種類は羽釜(1269)、土師器の甕(1270・1271)、土師器の台付甕(1273)、土師器の杯(1274・1275・1276)、須恵器の杯(1277・1278)の他、鉄製の刀子(1283・1284・1285)などである。

#### 4区40号住居跡

4区-15・16グリッドに位置する。規模は、南側が4区39号住居跡に破壊されており確定できないが、東西は約3.0mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。床面はやや軟弱な部分があるが、ほぼ平坦である。残存壁高は北壁で約30cm、東壁で約20cmである。

竈は、東壁の南よりに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約50cmである。袖は検出することができなかったが、燃烧部に堆積した灰・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。

遺物は多量に出土している。種類は、羽釜(1286・1287)、甕(1288)、土師器の甕(1289)、土師器の台付甕(1305)、須恵器の杯(1295・1298・1300・1301)、須恵器の椀(1290・1291・1292・1293・1294・1296・1297)、須恵器の蓋(1303・1304)、灰釉陶器の椀(1302)などである。

#### 4区41号住居跡

4区Q-14グリッドに位置する。大部分が、調査区域外及び4区38号住居跡の破壊により、規模は不明である。床はほとんど検出できず、残存壁高は僅かに検出できた東壁部分で約25cmである。

竈は東壁に構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約70cmである。燃烧部周囲の壁は石を用いて固められており、中央部からは支脚石が地山に埋め込まれた状態で検出できた。また、燃烧部からは灰・焼土の堆積が確認できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。

遺物は竈内より、やや多量に出土している。種類は羽釜(1308)、土師器の甕(1307)、土師器の杯(1309)、須恵器の甕(1314)、須恵器の椀(1310・1311・1312・1313)などである。

#### 4区42号住居跡

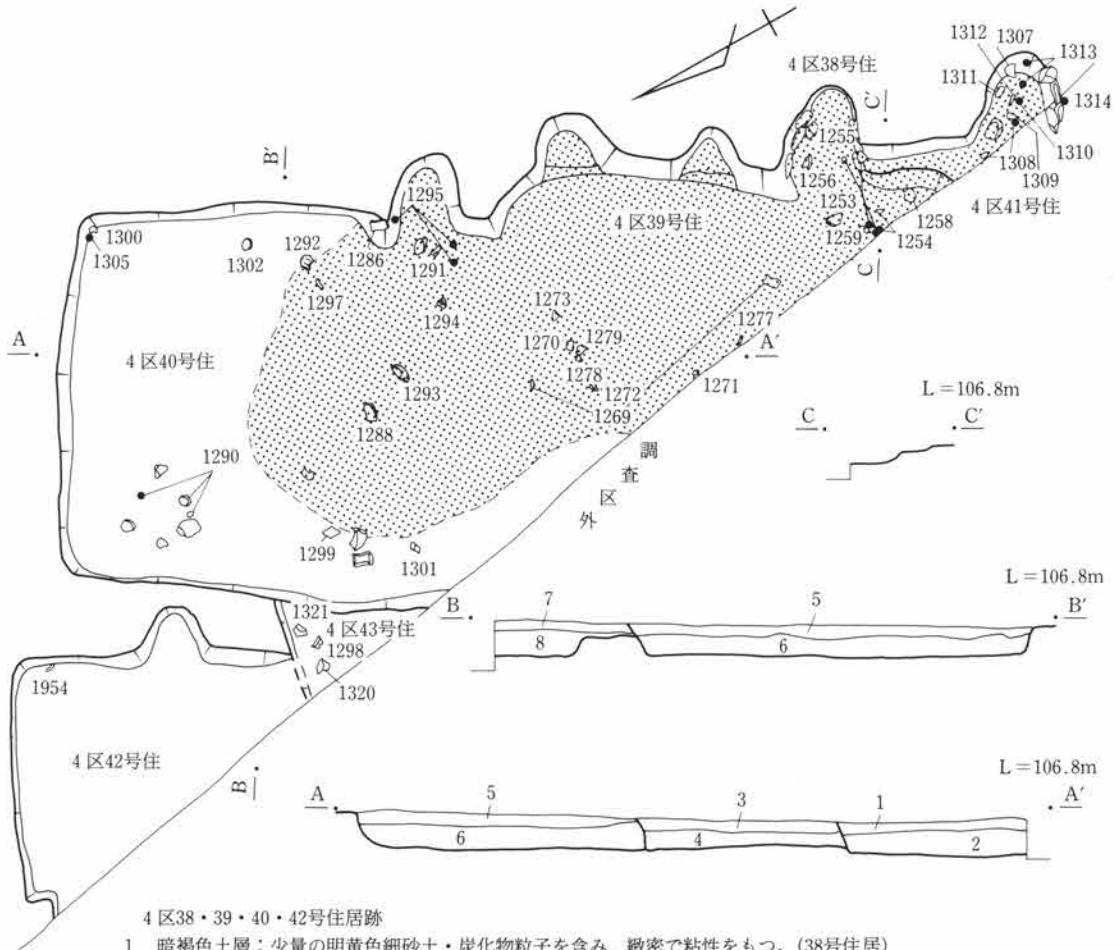
4区P-17、Q-17に位置する。規模は南西部分が調査区域外のために不明であるが、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。床面は比較的硬く良好であり、ほぼ平坦である。残存壁高は残りの良い北壁で25～30cmを測る。

竈は東壁に構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約40cmである。袖は検出できなかったが、燃烧部からは炭化物・焼土の堆積を確認することができた。壁溝は掘形で北側部分のみ検出できた。規模は幅約20cmであり、確認面からの深さは約5cmである。柱穴・貯蔵穴は検出することができなかった。

遺物の出土は少ない。種類は土師器の杯(1315)、須恵器の杯(1316)の他、緑釉陶器の椀(1954)や鉄製品(1317)が出土しているのが注目される。

#### 4区43号住居跡

4区Q-16グリットに位置する。大部分が重複及び調査区域外のために、検出できたのは北壁と床面の一部だけである。規模は不明であり、床面の状態も確定できない。検出できた北壁の壁高は約15cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物の出土も非常に少なく、土師器の杯(1320)と須恵器の杯(1321)だけである。

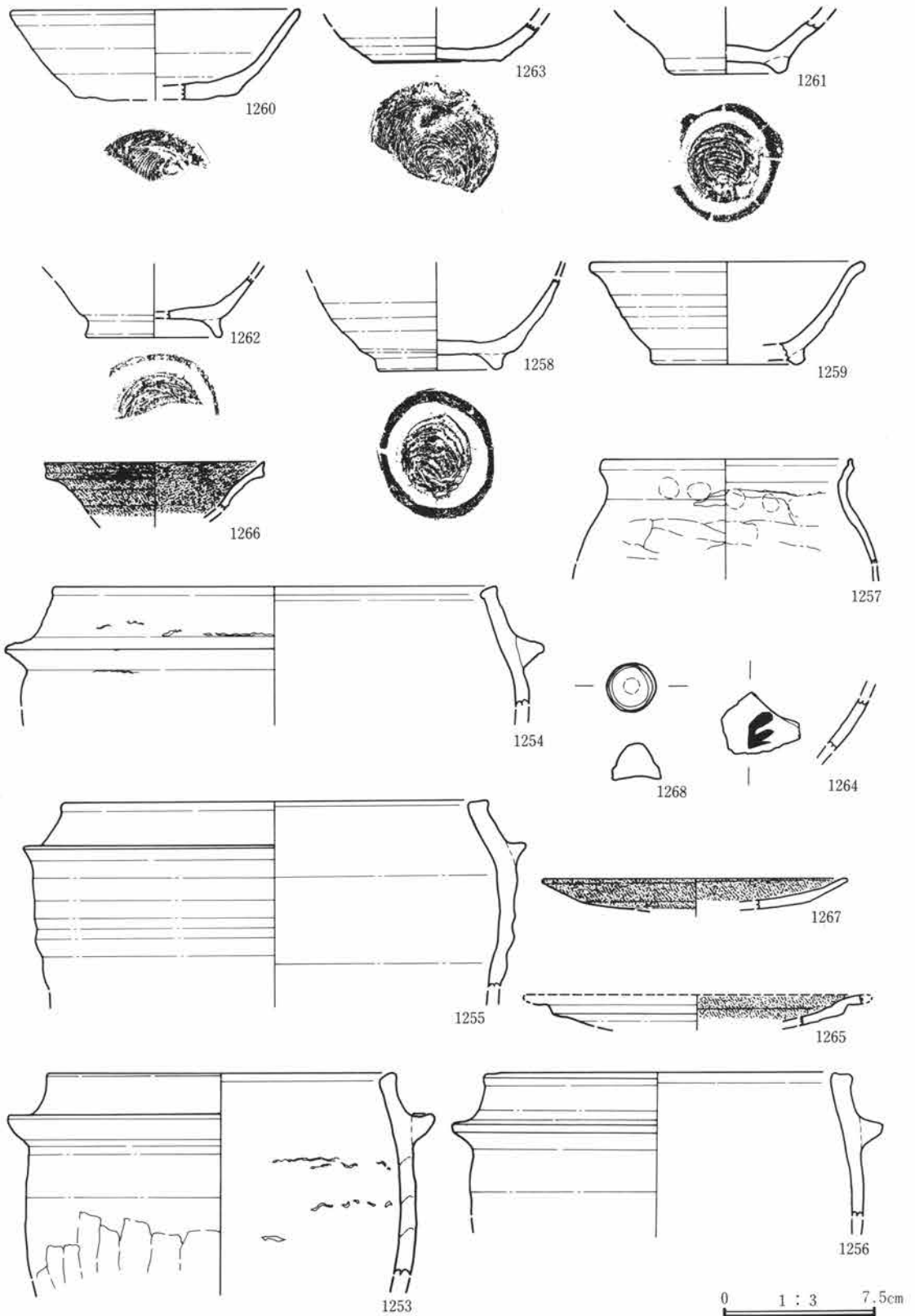


#### 4区38・39・40・42号住居跡

- 1 暗褐色土層：少量の明黄色細砂土・炭化物粒子を含み、緻密で粘性をもつ。(38号住居)
- 2 暗褐色土層：やや多量の明黄色細砂土及び少量の炭化物粒子・焼土粒子を含む。(38号住居)
- 3 暗褐色土層：明黄色細砂土・炭化物粒子を含み、緻密。(39号住居)
- 4 暗褐色土層：明黄色細砂土及びやや多量の焼土・炭化物を含む。(39号住居)
- 5 暗褐色土層：明黄色細砂土砂粒を含む。(40号住居)
- 6 暗褐色土層：やや多量の褐色土及び少量の二ツ岳軽石を含む。緻密で粘性が強い。(40号住居)
- 7 暗褐色土層：少量の明黄色細砂土・炭化物粒子を含む。(42号住居)
- 8 暗褐色土層：少量の明黄色細砂土及びやや多量の炭化物を含む。(42号住居)

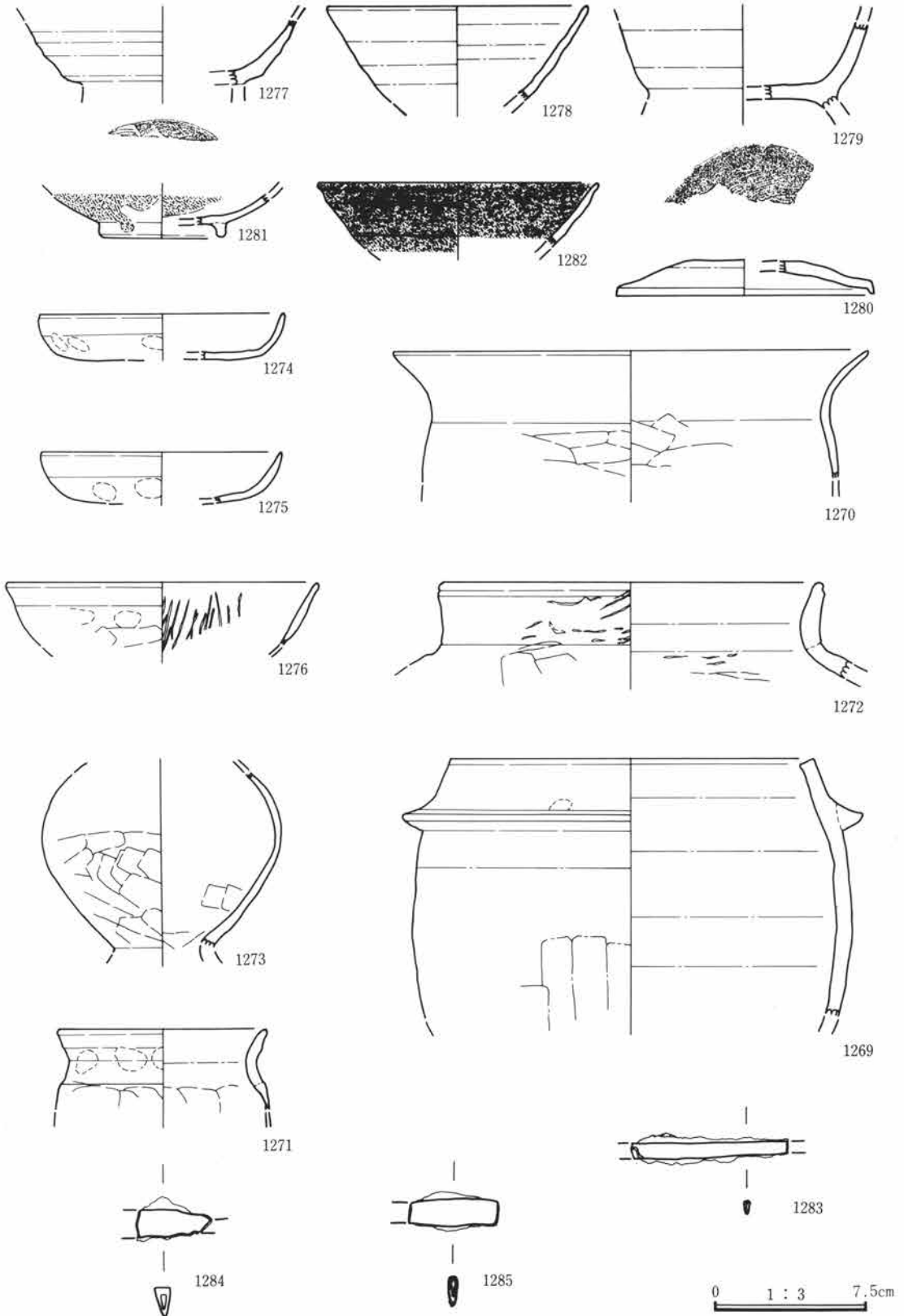
第426図 4区38・39・40・41・42・43号住居跡

0 1:60 1.5m

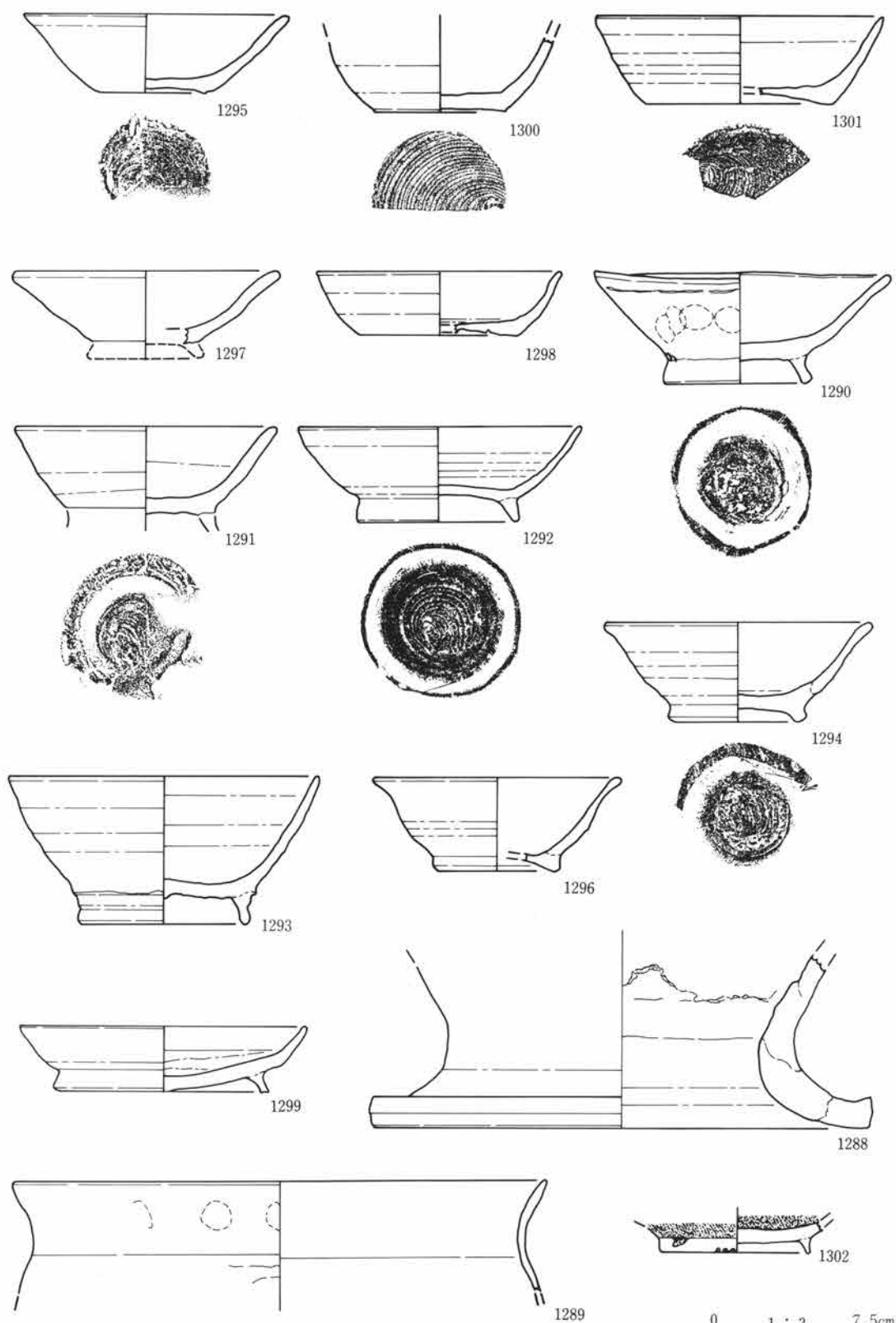


第427図 4区38号住居跡出土遺物

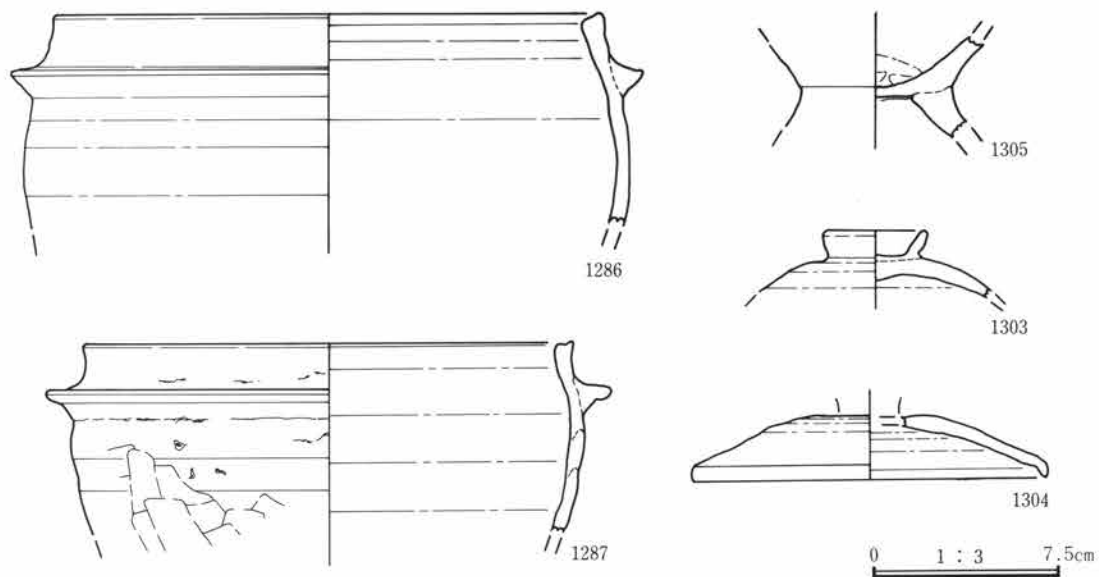




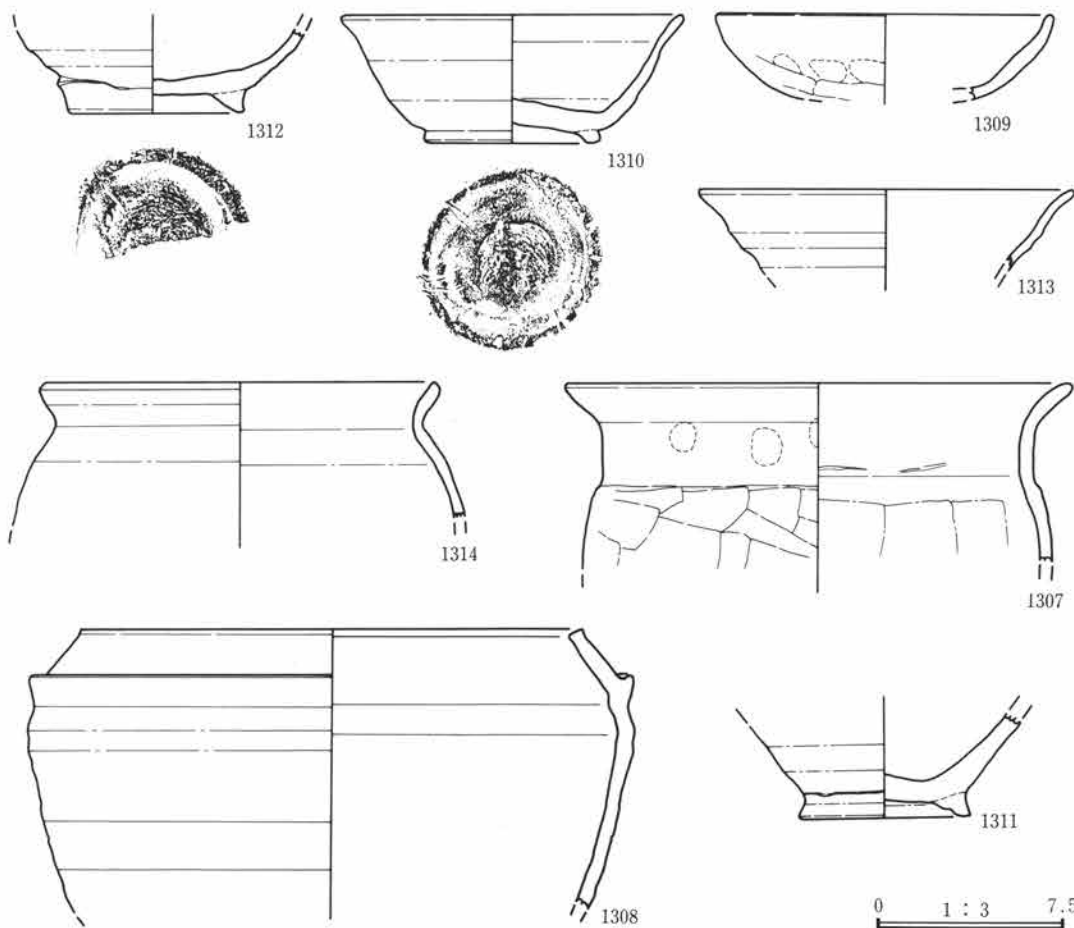
第428图 4区39号住居跡出土遺物



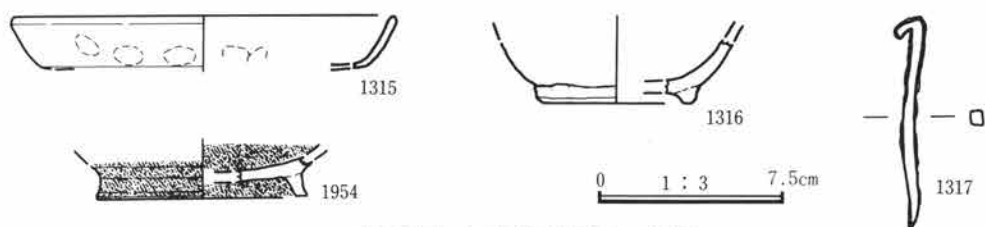
第429図 4区40号住居跡出土遺物①



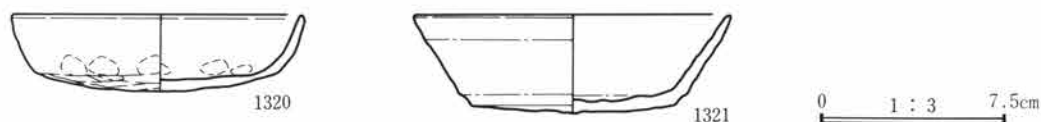
第430図 4区40号住居跡出土遺物②



第431図 4区41号住居跡出土遺物



第432図 4区22号住居跡出土遺物



第433図 4区43号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1253	羽 釜	器高：(98mm) 口径：[172mm] 底径：— 最大径：[210mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰白。	口縁部はやや内湾。鏝部は貼り付け。最大径は鏝部。外面：口縁部～胴部上端は回転などで、胴部上半は回転などで後篋削り。内面：口縁部～胴部上半は回転などで、一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1254	羽 釜	器高：(59mm) 口径：[218mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰白・橙。	口縁部はやや内湾。鏝部は貼り付け。外面：口縁部～胴部上端は回転などで、一部輪積痕が残る。内面：口縁部～胴部上端は回転などで。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1255	羽 釜	器高：(90mm) 口径：[210mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い褐。	口縁部はやや内湾。鏝部は貼り付け。内外面共に口縁部～胴部上半は回転などで。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1256	羽 釜	器高：(69mm) 口径：[180mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は僅かに内湾。鏝部は貼り付け。内外面共に口縁部～胴部上端は回転などで。	内外面に油煙付着。
1257	甕 土師器	器高：(50mm) 口径：[124mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部上半は外反。外面：口縁部は横などで、指頭痕残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横などで、胴部上端は篋などで。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1258	椀 須恵器	器高：(43mm) 口径：— 底径：60mm 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転などで。	内外面の胴部下半～底部に油煙付着。燻し。
1259	椀 須恵器	器高：(50mm) 口径：[134mm] 底径：[72mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁部は外反。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は高台貼り付け。内面：口縁部～胴部は回転などで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1260	杯 須恵器	器高：(44mm) 口径：[142mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転などで。	
1261	椀 須恵器	器高：(25mm) 口径：— 底径：[60mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転などで。	
1262	椀 須恵器	器高：(29mm) 口径：— 底径：[62mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転などで。	内外面にやや多量の油煙付着。
1263	杯 須恵器	器高：(18mm) 口径：— 底径：63mm 胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転などで、底部は回転糸切り。内面：胴部下半～底部は回転などで。	
1264	椀? 須恵器	器高：— 口径：— 底径：— 胴部破片	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。内外面共に胴部は回転などで。	外面に墨書「？」あり。釈読不能。
1265	段皿 灰釉陶器	器高：— 口径：— 底径：— 胴部下半～底部上半破片	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。内外面共に胴部下半～底部上半は回転などで。	内面の胴部下半～底部上半には施釉。
1266	壺 灰釉陶器	器高：(24mm) 口径：[108mm] 底径：— 口縁部上半破片	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。口縁部は外反し、口縁端部は外縁帯を持つ。内外面共に口縁部上半は回転などで。	内外面共に口縁部上半には施釉。
1267	椀 灰釉陶器	器高：(16mm) 口径：[150mm] 底径：— 口縁部～胴部破片	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部上半は回転などで、胴部下半は篋削り。内面：口縁部～胴部は回転などで。	内外面共に口縁部～胴部上半は施釉。
1268	蓋 須恵器	器高：— 口径：— つまみ径：24mm つまみ部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。つまみ部は貼り付け。外面：中央に段をもつ。回転などで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1269	羽釜	器高：(126mm) 口径：[180mm] 底径：— 最大径：[226mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部はやや内湾。鋳部は貼り付け。外面：口縁部～胴部上端は回転などで、胴部上半は回転などで後篋削り。内面：口縁部～胴部上半は回転などで。	内外面に油煙付着。
1270	甕 土師器	器高：(62mm) 口径：[234mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横などで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横などで、胴部上端は篋などで。	

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1271	甕 土師器	器高：(39mm) 口径：[104mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1272	甕 土師器	器高：(47mm) 口径：[188mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面口縁端部に沈線一条。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで、一部輪積痕が残る。	内外面にやや多量の油煙付着。
1273	台付甕 土師器	器高：(85mm) 口径：— 底径：— 胴部～脚部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	外面：胴部は篋削り、胴部下端～脚部上端は横なで。内外面に胴部上半はなで、一部指頭痕が残り、胴部下半～底部はなで。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1274	杯 土師器	器高：(23mm) 口径：[120mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1275	杯 土師器	器高：(25mm) 口径：[118mm] 底径：— 口縁部～底部上半迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	
1276	杯 土師器	器高：(31mm) 口径：[154mm] 底径：— 口縁部～胴部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部は横なで、胴部上半は一部指頭痕が残り、胴部下半は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す。	外面に油煙付着。
1277	椀 須恵器	器高：(31mm) 口径：— 底径：— 胴部～底部上端迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部～底部上端は回転なで。	
1278	椀 須恵器	器高：(47mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～胴部迄	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。内外面共に口縁部～胴部灰白回転なで。	
1279	壺 須恵器	器高：(41mm) 口径：— 底径：— 胴部下端～高台部上端迄	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転なで。	
1280	蓋 須恵器	器高：(17mm) 口径：[128mm] 天井部～口縁部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。返りは非常に短い。外面：天井部上半は回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転なで。内面：天井部～口縁部灰白回転なで。	
1281	椀 灰釉陶器	器高：(22mm) 口径：— 底径：[62mm] 胴部下半～高台部迄	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部～底部は回転なで。	外面口縁部～胴部上半・内面口縁部～胴部に施釉。
1282	椀 灰釉陶器	器高：(32mm) 口径：[140mm] 底径：— 口縁部～胴部迄	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	内外面共に口縁部～胴部は施釉。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1283	刀子 鉄製品	長：(77mm) 幅：6～8mm 厚：3.5mm		刀子の一部。鉄板を折り曲げて製作。	
1284	刀子 鉄製品	長：(37mm) 幅：14mm 厚： 8mm		刀子の一部。鉄板を折り曲げて製作。	
1285	刀子 鉄製品	長：(43mm) 幅：13mm 厚： 4.5mm		刀子の一部。鉄板を折り曲げて製作。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1286	羽釜	器高：(85mm) 口径：[222mm] 底径：— 最大径： [254mm] 口縁部～胴部上端 1/4	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。軟質。灰白・鈍い橙。	口縁部はやや内湾。鋳部は貼り付け。最大径は鋳部。内外面共に口縁部～胴部上端は回転まで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1287	羽釜	器高：(75mm) 口径：[196mm] 底径：— 最大径： [226mm] 口縁部～胴部上端 1/4	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	口縁部はやや内湾し、口縁部は僅かに外反。鋳部は貼り付け。最大径は鋳部。内外面共に口縁部～胴部上端は回転まで。	
1288	甌	器高：(84mm) 口径：— 底径： [242mm] 胴部下端～底部 1/4	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・橙。	底部は大きく外反。内外面共に胴部下端～底部は回転まで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1289	甗 土師器	器高：(54mm) 口径：[258mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 1/4	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部上半は外反。外面：口縁部は横まで、指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横まで、胴部上端は篋まで。	
1290	椀 須恵器	器高：54mm 口径：143mm 底径：71mm 口縁部～高台部 1/4	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。淡黄。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、一部篋まで、輪積痕が残り、底部は高台貼り付け後まで。内面：口縁部～底部は横まで。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1291	椀 須恵器	器高：(42mm) 口径：131mm 底径：— 口縁部～高台部上端 1/4	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰白・黄橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1292	椀 須恵器	器高：46mm 口径：[138mm] 底径：80mm 口縁部～高台部 1/4	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1293	椀 須恵器	器高：71mm 口径：[152mm] 底径：[84mm] 口縁部～高台部 1/4	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転篋切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1294	碗 須恵器	器高：48mm 口径：[130mm] 底径：68mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1295	杯 須恵器	器高：38mm 口径：[130mm] 底径：52mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。軟質。灰白・赤褐。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1296	碗 須恵器	器高：45mm 口径：[120mm] 底径：[62mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。軟質。灰白・橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は高台貼り付け後で。内面：口縁部～胴部上端は回転で。	内外面に油煙付着。
1297	碗 須恵器	器高：(35mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。赤褐・浅黄橙。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は高台貼り付け後で。内面：口縁部～底部上端は回転で。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1298	杯 須恵器	器高：31mm 口径：[118mm] 底径：[78mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	外面口縁部～胴部に一部自然釉。
1299	皿 須恵器	器高：31mm 口径：139mm 底径：103mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形。胴部下半は内湾し、胴部上半～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り後で。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面に一部自然釉。
1300	碗 須恵器	器高：(36mm) 口径：— 底径：66mm 口縁部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	
1301	杯 須恵器	器高：42mm 口径：[140mm] 底径：[90mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	外面口縁部～胴部に油煙付着。燻し。
1302	碗 灰釉陶器	器高：(16mm) 口径：— 底径：74mm 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転で、底部は回転糸切り後高台部貼り付け、更になで。内面：胴部下端～底部は回転で。	内面は底部まで施釉。
1303	蓋 須恵器	器高：(27mm) 口径：— つまみ径：44mm つまみ部～天井部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。つまみ部は貼り付け。外面：天井部上半は回転糸切り、つまみ部・天井部下半は回転で。内面：天井部は回転で。	
1304	蓋 須恵器	器高：(26mm) 口径：[142mm] 天井部～口縁部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形。返りは短い。外面：天井部上半は回転糸切り、天井部下半～口縁部は回転で。内面：天井部～口縁部は回転で。	
1305	台付 土師器	器高：(40mm) 口径：— 底径：— 胴部下端～脚部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	脚部は貼り付け。外面：胴部下端は糸切り、底部～脚部上端は横で。内面：胴部下端～底部は篋で、脚部はなで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1307	甕 土師器	器高：(70mm) 口径：[204mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い赤褐。	口縁部上半は外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、一部輪積痕が残り、胴部上端は篋なで。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1308	羽 釜	器高：(110mm) 口径：[200mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い赤褐。	口縁部は内湾。罅部は貼り付け。内外面共に口縁部～胴部上半は回転なで。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1309	杯 土師器	器高：(35mm) 口径：[136mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。赤褐。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部上半は一部指頭痕が残り、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1310	椀 須恵器	器高：51mm 口径：[138mm] 底径：[72mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に一部油煙付着。
1311	椀 須恵器	器高：(42mm) 口径：— 底径：[70mm] 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・鈍い橙。	轆轤整形。胴部は直線的に広がる。外面：胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部～底部は回転なで。	内外面に多量の油煙・タール付着。二次炎を受けている。
1312	椀 須恵器	器高：(33mm) 口径：— 底径：73mm 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	内外面に一部油煙付着。二次炎を受けている。
1313	椀 須恵器	器高：(33mm) 口径：[150mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1314	甕 須恵器	器高：(54mm) 口径：[150mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。浅黄橙。	轆轤整形。口縁部は「く」字状に外反。内外面共に口縁部～胴部上端は回転なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1315	杯 土師器	器高：(21mm) 口径：[152mm] 底径：[130mm] 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	
1316	椀 須恵器	器高：(25mm) 口径：— 底径：[62mm] 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部～底部は回転なで。	内面に油煙付着。
1317	いぬ釘 鉄製品	長：83mm 幅：6～8mm 厚：5mm		断面長方形。	

#### 第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1954	椀 緑釉陶器	器高：(16mm) 口径：一 底 径：[84mm] 胴部下端～高 台部迄	細砂粒を含む。還元。 やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転などで、底 部は高台貼り付け後丁寧などで。内面：胴 部下端～底部は回転などで。	内外面に共に全面的 に施釉。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1320	杯 土師器	器高：31mm 口径：117mm 底径：一 口縁部～底部迄	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。平底に近い丸底。 外面：口縁部は横などで、胴部は一部指頭痕 が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底 部上端は横などで、一部指頭痕が残り、底部 はなどで、一部指頭痕が残る。	
1321	杯 須恵器	器高：39mm 口径：[126mm] 底径：[80mm] 口縁部～底 部迄	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回 転篋切り後などで。内面：口縁部～底部は回 転などで。	外面口縁部～胴部 に油煙付着。燻し。

#### 4区44号住居跡

4区P-16、Q-16グリットに位置する。大部分は重複及び調査区域外のために、規模は不明である。床の状態はやや軟弱な部分があるが、ほぼ平坦である。確認できた北壁の壁高は約25cmである。竈は東壁に構築されている。掘形での確認であり、袖は検出できなかったが、覆土中に焼土・炭化物の混入が確認できた。壁溝は、掘形で北側のみ検出できた。規模は幅約20cmであり、確認面からの深さは約3～5cmである。柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は、土師器の杯(1322・1323・1324)、須恵器の杯(1325)、須恵器の椀(1327)、須恵器の高杯(1326)などが出土している。また、鉄製の鎌(1917)も出土している。

#### 4区45号住居跡

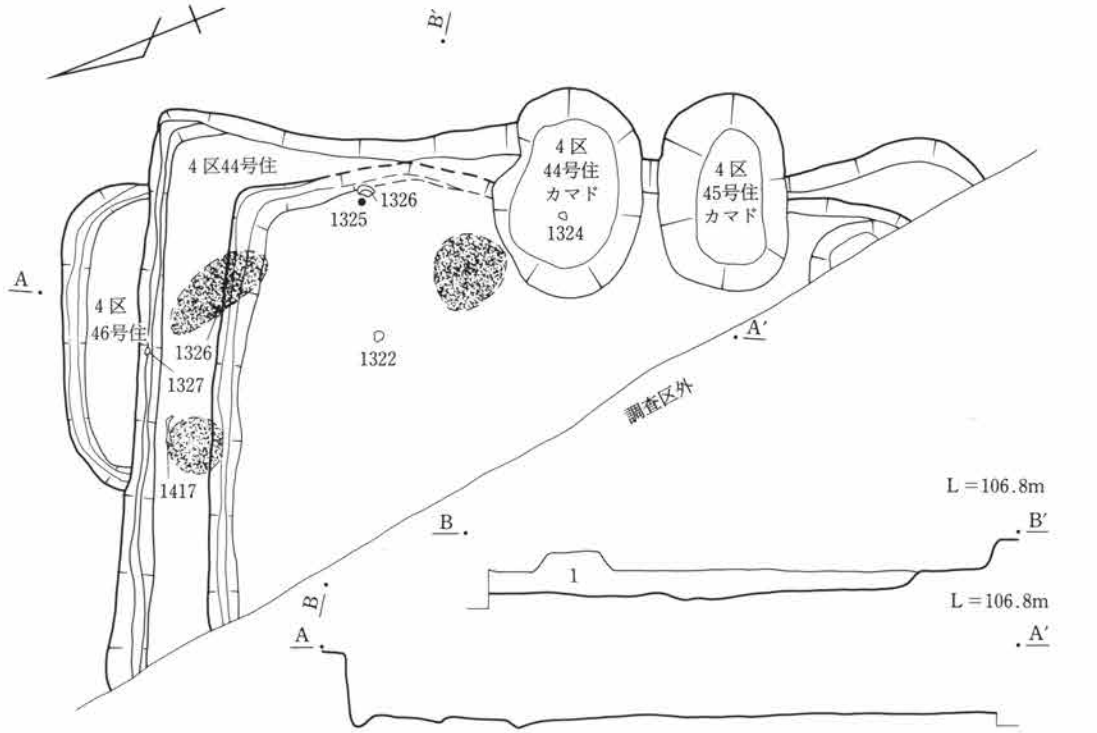
4区P-15、Q-15グリットに位置する。4区44号住居跡との重複及び調査区域外のために、検出できたのは竈の掘形と南東隅部分のみである。床の状態は確認できず、南東部分の残存壁高は約10cmである。竈も掘形での検出であり、袖は確認できなかったが、覆土中に炭化物・焼土の混入が確認できた。遺物は覆土中から小破片が出土しているだけである。

#### 4区46号住居跡

4区P-17グリットに位置する。重複により大部分は破壊されており、検出できたのは北側部分だけである。規模は確定できないが、東西約2.4mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈す

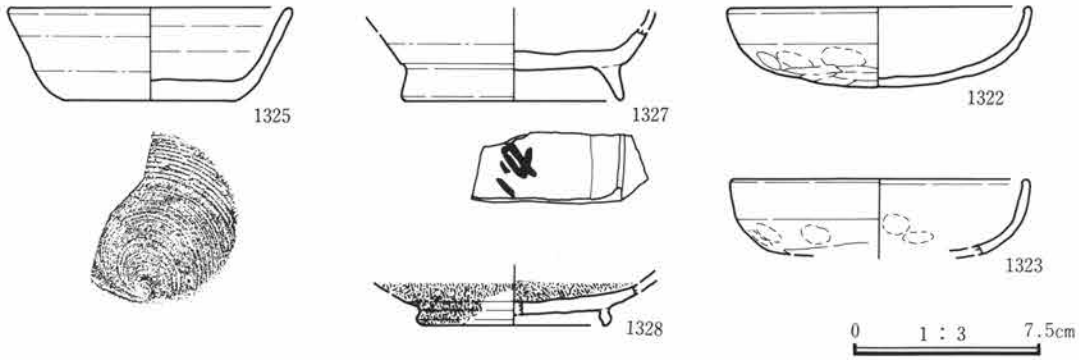
るものと推定される。検出できた北側の床面は比較的硬く、ほぼ平坦である。北壁の残存壁高は約50cmを測る。

壁溝は北壁部分で検出できた。規模は幅約20cmであり、確認面からの深さは約5cmである。竈・柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。遺物の出土は非常に少なく、覆土中からの小破片のみである。

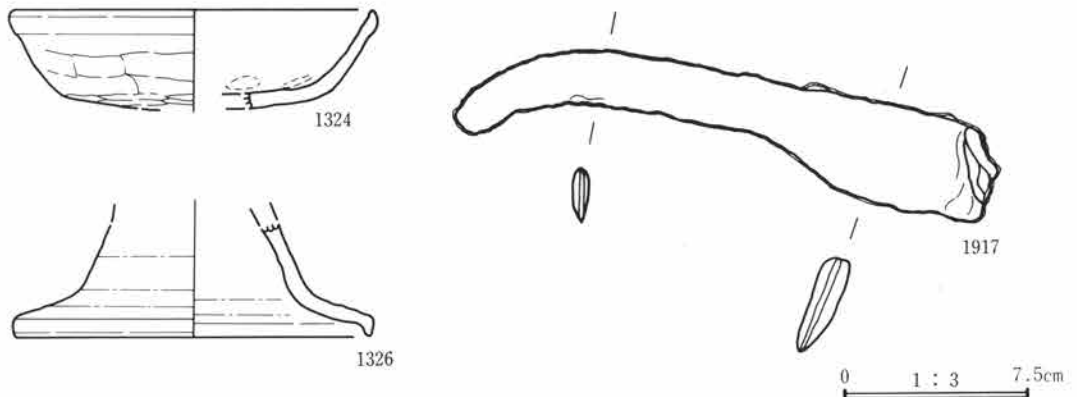


4区44号住居跡  
1 橙色砂質土層：炭化物・焼土粒を含む。

第434図 4区44・45・46号住居跡



第435図 4区44号住居跡出土遺物①



第436図 4区44号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1322	杯 土師器	器高：32mm 口径：[120mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{2}{3}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部は横なで。	
1323	杯 土師器	器高：(30mm) 口径：[118mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{2}{3}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部はやや内湾し、口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付着。
1324	杯 土師器	器高：(39mm) 口径：[146mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{2}{3}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1325	杯 須恵器	器高：37mm 口径：[114mm] 底径：70mm 口縁部～底部 $\frac{2}{3}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1326	高杯 須恵器	器高：(45mm) 口径：— 底径：145mm 脚部 $\frac{2}{3}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。脚部は漏斗状に広がる。脚部下端は折り曲げ。内外面共に脚部は回転なで。	
1327	椀 須恵器	器高：(28mm) 口径：— 底径：[90mm] 胴部下端～高台部破片	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下端～底部は回転なで。	外面底部墨書「加」。
1328	椀 灰釉陶器	器高：(16mm) 口径：— 底径：[74mm] 胴部下端～高台部 $\frac{2}{3}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下端～底部は回転なで。	内外面共に胴部下端まで施釉。
1917	鎌 鉄製品	長：220mm 幅：17～40mm 厚：12mm		反りは殆どなく、端部が僅かに反る。基部は折り曲げ。鉄板を他の鉄板で挟み、鍛えている。	

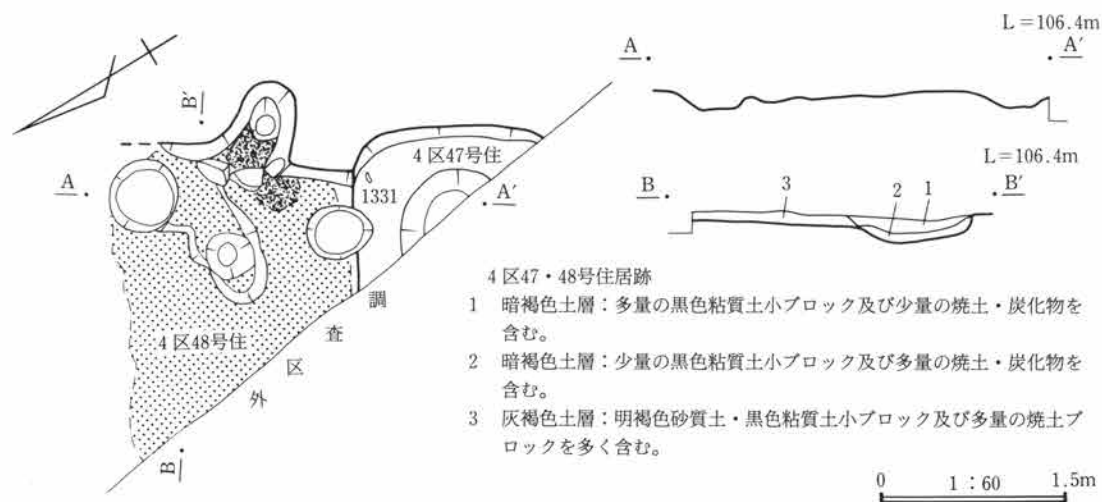
## 4区47号住居跡

4区Q-16グリットに位置する。大部分が調査区域外であり、検出できたのは北東隅部分のみである。規模は不明であり、床の状態も確認できなかった。検出できた東壁北隅部分の残存壁高は約5cmである。住居内にピットが1基検出できたが、規模は不明である。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物の出土も非常に少なく、覆土中から土師器の小破片が2片出土しただけである。

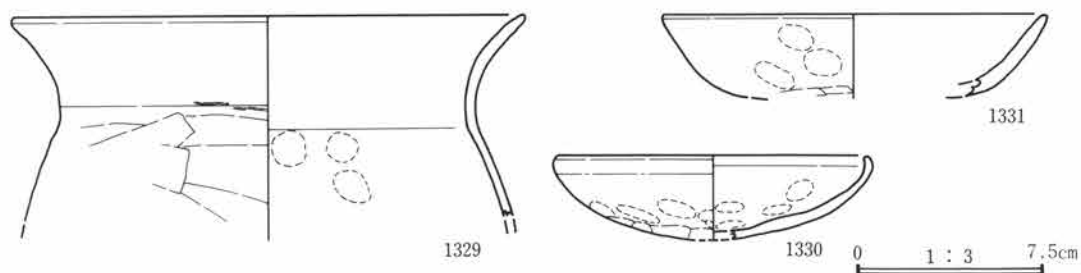
## 4区48号住居跡

4区P-16、Q-16グリットに位置する。重複及び調査区域外が多いため、検出できたのは竈及びその周辺のみである。規模は不明であり、床の状態も確認することはできなかった。検出できた竈周辺での残存壁高は約5cmである。

竈は東壁に構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約60cmである。袖は検出できなかったが、燃焼部に堆積した灰・焼土を確認することができた。また、構築材に使用したと考えられる石が焚口から検出された。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物の出土は少ないが、土師器の甕(1329)、土師器の杯(1330・1331)などがある。



第437図 4区47・48号住居跡



第438図 4区48号住居跡出土遺物

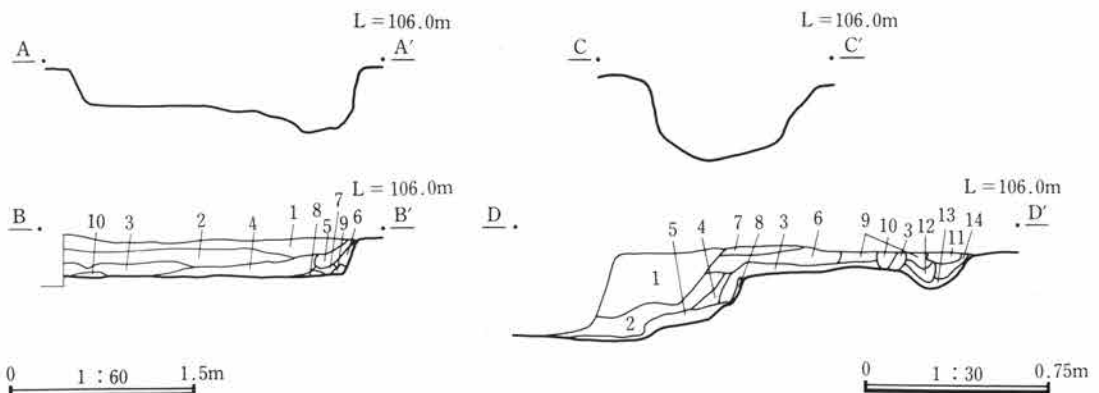
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1329	甕 土師器	器高：(80mm) 口径：[206mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	口縁部は外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部はなで、一部指頭痕が残る。	内外面に一部油煙付着。
1330	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部上半は横なで、指頭痕が残り、底部はなで、指頭痕が残る。	外面に油煙付着。
1331	杯 土師器	器高：(32mm) 口径：[154mm] 底径：— 口縁部～底部上端迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。浅黄。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部はなで。	内面に油煙付着。

#### 4区49号住居跡

4区P-6・7、Q-6・7グリットに位置し、4区17号溝・4区20号溝と近接するが、重複はない。西側部分が調査区域外のために規模の確定はできないが、南北は約2.4mであり、平面形は隅丸長方形を呈すると推定される。主軸はN-15°-Eである。床面は比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約25～30cmを測り、状態は良好である。

竈は東壁のやや南よりに構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約50cmであり、燃焼部の奥から更に煙道部が約90cm延びる。煙道部の規模は、幅約20cm・確認面からの深さ約5～10cmである。袖は基部のみ検出できた。また、燃焼部からは灰・焼土の堆積が確認できた。竈右脇、南東隅からは貯蔵穴と考えられるピットが検出できた。規模は、上面で長軸約70cm・短軸約60cm・床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は少ないが、北西部の床面及び竈から土師器の甕(1332・1333)が出土している他、土師器の杯(1334)、須恵器の蓋(1335)、薦石(1336・1337)が出土している。



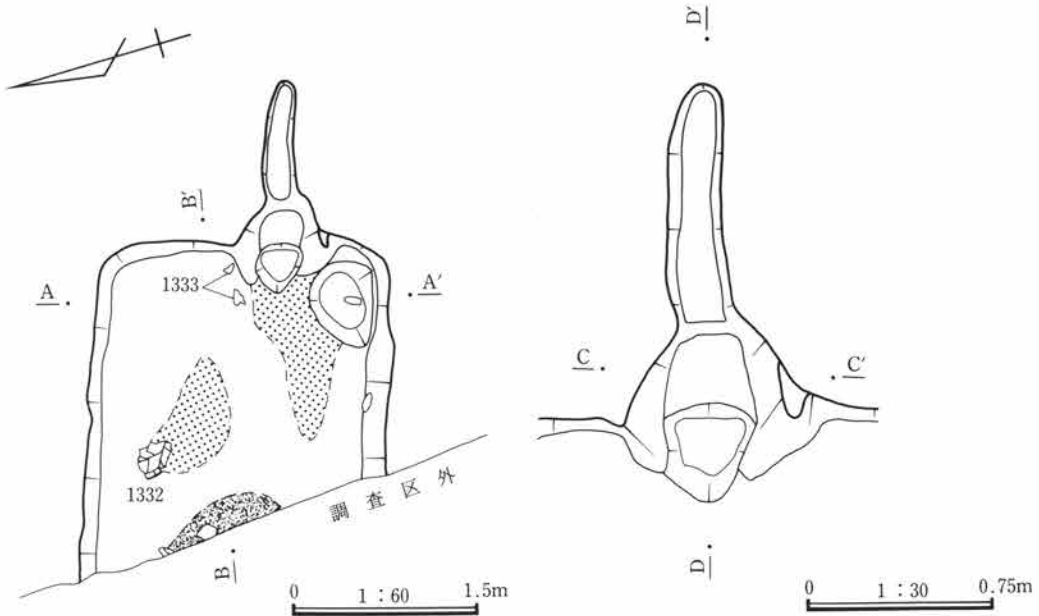
第439図 4区49号住居跡断面・エレベーション、同竈断面・エレベーション

## 4区49号住居跡

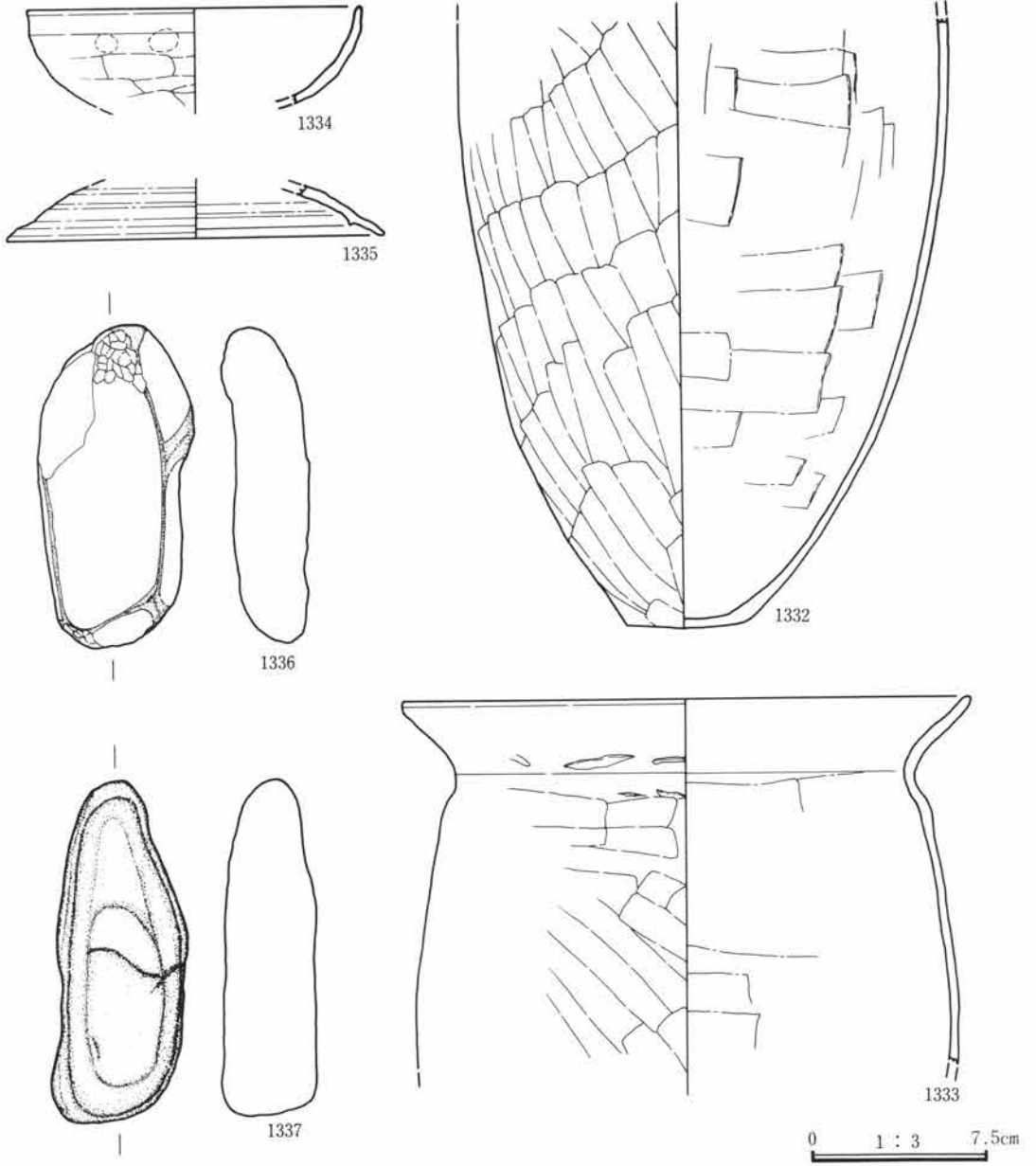
- 1 褐色土層：多量の暗褐色粘性土小ブロック・軽石及び少量の橙色土小ブロック・炭化物を含む。
- 2 灰黄褐色土層：暗褐色粘性土小ブロック・橙色土小ブロック及び多量の浅間山C軽石を含む。
- 3 灰黄褐色土層：多量の橙色土小ブロック・暗褐色粘性土小ブロックを含む。
- 4 褐色土層：多量の暗褐色粘性土小ブロック・浅間山C軽石及び少量の橙色土小ブロックを含む。
- 5 灰黄褐色土層：浅間山C軽石・橙色土ブロックを含む。
- 6 黄褐色土層：浅間山C軽石を含む。
- 7 黄褐色土層：浅間山C軽石及び少量の橙色土ブロックを含む。
- 8 褐色土層：焼土粒子・浅間山C軽石及び少量のローム粒子を含む。
- 9 灰黄褐色土層：少量の軽石を含む。
- 10 灰黄褐色土層：灰色が非常に強く、炭化物粒子・焼土粒子を含む。

## 4区49号住居跡竈

- 1 灰黄褐色土層：多量の暗褐色粘性土ブロック・浅間山C軽石・少量の橙色土粒を含む。
- 2 灰黄褐色土層：多量の焼土小ブロックを含み、周辺に灰が混じる。
- 3 灰黄褐色土層：多量の焼土小ブロックを含む。
- 4 灰黄褐色土層：焼土小ブロック・焼土粒子を含む。
- 5 灰黄褐色土層：灰層と焼土小ブロックを含む。
- 6 灰黄褐色土層：多量の焼土及び少量の灰を含む。
- 7 灰黄褐色土層：多量の灰・焼土を含む。
- 8 暗褐色粘質土層：焼土を含む。
- 9 暗褐色粘質土層：軽石を含む。
- 10 暗褐色土層：焼土ブロックを含む。
- 11 暗褐色土層：軽石・焼土を含む。
- 12 褐色土層：焼土粒を含み、粘性あり。
- 13 褐色土層：少量の黄褐色土小ブロックを含む。
- 14 褐色土層：少量の黄褐色土小ブロック及び灰色土を含む。



第440図 4区49号住居跡



第441図 4区49号住居跡出土遺物

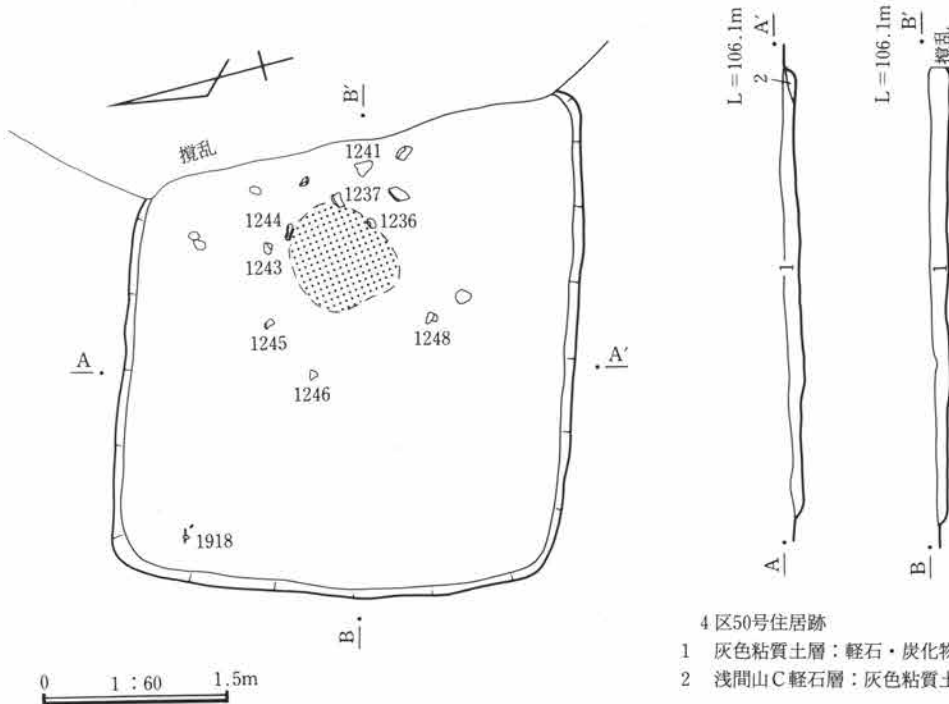
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1332	甕 土師器	器高：(269mm) 口径：— 底径：51mm 胴部～底部%	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。橙。	外面：胴部～底部は篋削り。内面：胴部 ～底部は篋なで、一部輪積痕が残る。	外面に多量の油煙 付着。二次炎を受 けている。



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1333	甕 土師器	器高：(153mm) 口径：[240mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篋なで。	
1334	杯 土師器	器高：(40mm) 口径：[142mm] 底径：— 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部上半は横なで。	
1335	蓋 須恵器	器高：(21mm) 口径：[160mm] 天井部下半～口縁部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。返りは内部に入り込み、非常に短い。内外面共に天井部下半～口縁部は回転なで。	
1336	薦石	長：134mm 幅：67mm 厚：35mm 重：435.8g	粗粒安山岩。	両端に打ちつけた痕あり。	
1337	薦石	長：142mm 幅：56mm 厚：41mm 重：479.1g	粗粒安山岩。		

## 4区50号住居跡

4区O-10・11、P-10・11に位置し、重複はない。規模は、東側壁の大部分が攪乱により破壊されているために確定できないが、東西約4.0m、南北約3.5mであり、平面形は隅丸長方形を呈するもの



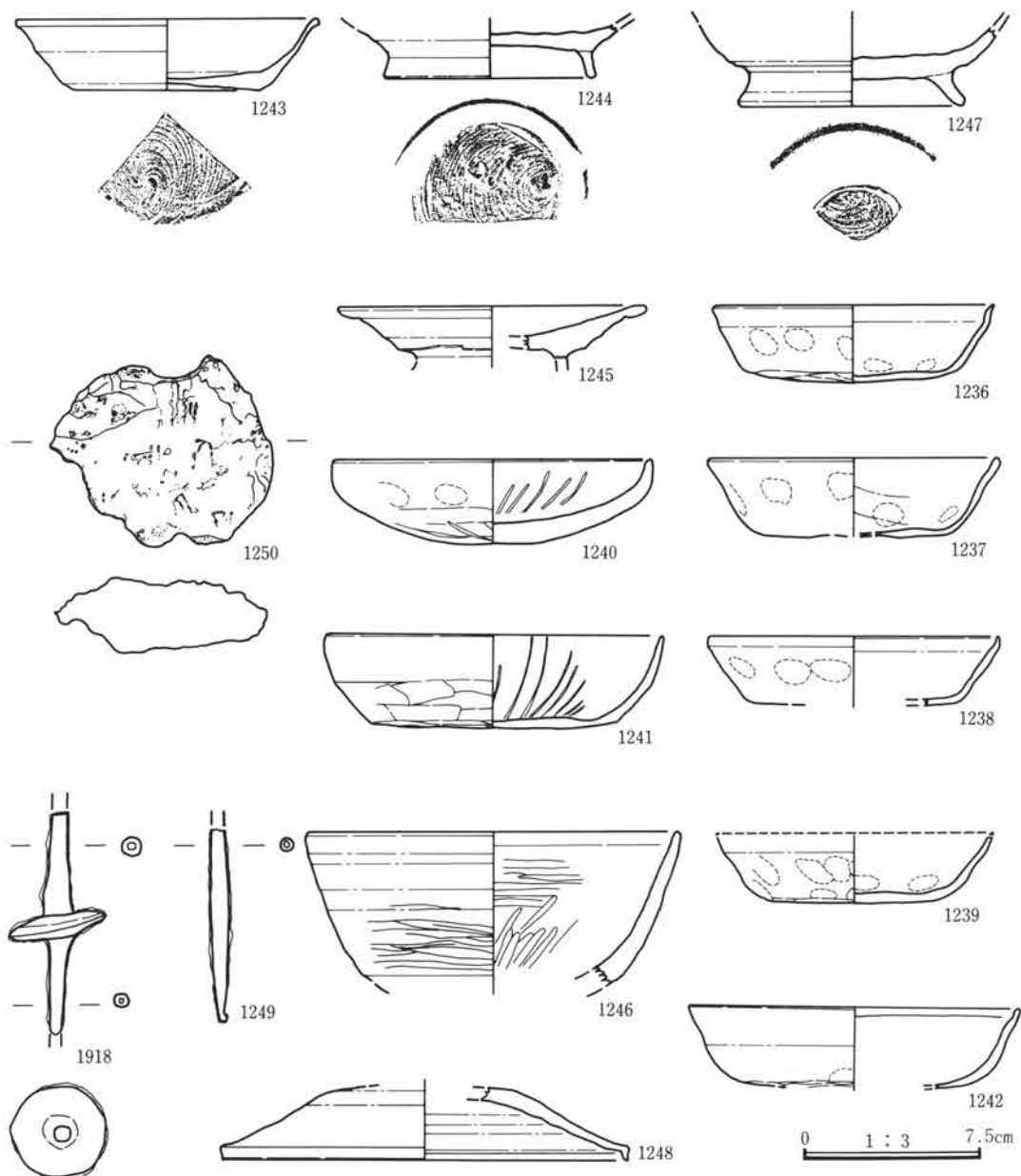
4区50号住居跡

- 1 灰色粘質土層：軽石・炭化物を含む。
- 2 浅間山C軽石層：灰色粘質土を含む。

第442図 4区50号住居跡

と推定している。主軸はN-69°-Wである。床面はやや軟弱な部分があり、細かい凹凸も若干見られる。攪乱部分を除き、壁は検出できたが、残存壁高は約5~10cmと浅い。

竈は東壁に構築されていると推定できるが、攪乱に破壊されている。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は竈前から住居内中央部にかけて多く出土している。種類は、土師器の杯(1236・1237・1238・1239・1240・1241・1242)、須恵器の杯(1243)、須恵器の碗(1244・1247)、須恵器の皿(1244・1245)、須恵器の蓋(1248)の他、鉄製品(1249・1250)もあり、特に住居内の北西隅からは鉄製の紡錘車(1918)が出土している。



第443図 4区50号住居跡出土遺物

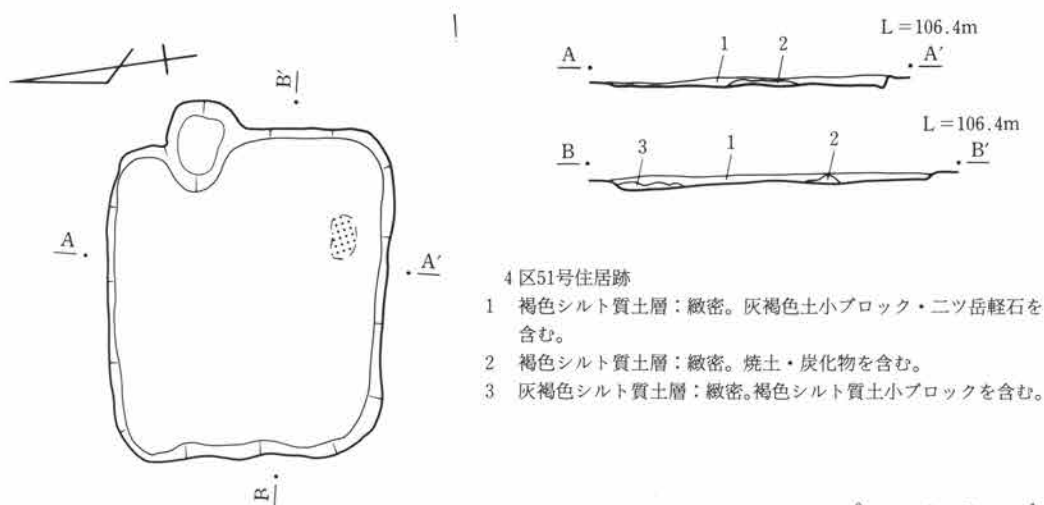
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1236	杯 土師器	器高：33mm 口径：119mm 底径：88mm 口縁部～底部 %	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口 縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、 底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は 横なで。一部指頭痕が残り、底部はなで。	内面に一部油煙付 着。
1237	杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[122 mm] 底径：[82mm] 口縁部 ～底部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口 縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、 底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は 横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はな で、一部指頭痕が残る。	
1238	杯 土師器	器高：(29mm) 口径：[124 mm] 底径：[86mm] 口縁部 ～底部上端%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。鈍い橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口 縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、 底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は 横なで、一部指頭痕が残る。	
1239	杯 土師器	器高：(29mm) 口径：— 底 径：[72mm] 口縁部下半 ～底部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口 縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部 は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、 指頭痕が残り、底部はなで、指頭痕が残る。	
1240	杯 土師器	器高：(36mm) 口径：[136 mm] 底径：— 口縁部～底 部%	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。橙。	胴部はやや内湾し、口縁部はほぼ直立。丸 底。外面：口縁部は横なで、胴部上半は一 部指頭痕が残り、胴部下半～底部は篋削り。 内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文 を施し、底部はなで。	
1241	杯 土師器	器高：39mm 口径：[142mm] 底径：[104mm] 口縁部～底 部%	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。 橙。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部は 横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁 部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底 部はなで。	
1242	杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[140 mm] 底径：— 口縁部～底 部上端%	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口 縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、 底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は 横なで、一部指頭痕が残る。	
1243	杯 須恵器	器高：30mm 口径：[128mm] 底径：[78mm] 口縁部～底 部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。硬質。灰白・鈍い 黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面： 口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切 り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1244	皿 須恵器	器高：(22mm) 口径：— 底 径：[90mm] 胴部～高台部 %	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部は回転なで、 底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面： 胴部～底部は回転なで。	
1245	皿 須恵器	器高：(26mm) 口径：[130 mm] 底径：— 口縁部～高 台部上半%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	轆轤整形。胴部～高台部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回 転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部 ～底部は回転なで。	
1246	椀 須恵器	器高：(64mm) 口径：[158 mm] 底径：— 口縁部～胴 部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつ つ広がる。内外面共に口縁部～胴部は回転 なで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1247	椀 須恵器	器高：(34mm) 口径：— 底径：[96mm] 胴部下半～高台部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転などで。	
1248	蓋 須恵器	器高：(30mm) 口径：[170mm] 天井部～口縁部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	返りは短い。内外面共に天井部～口縁部は回転などで。	内外面の一部に自然釉。
1249	？ 鉄製品	長：(80mm) 直径：3～8mm		紡錘車の軸か。芯は空洞。	
1250	鉄滓			鉄分を含む。	
1918	紡錘車 鉄製品	長：(92mm) 円板直径：40mm 軸幅：6～8mm 軸厚：6～8mm		両端が欠けている。	

#### 4区51号住居跡

4区O-20、P-20グリットに位置し、4区17号溝と重複する。新旧関係は、同溝跡の覆土中に当住居跡の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。当住居跡の規模は、東西約2.6m・南北約2.2mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-6°-Eである。床はやや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。壁は全周確認できたが、残存壁高は約5～10cmと残りは悪い。

竈は東壁の北よりに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約35cmである。残りは悪く、袖は検出できなかったが、燃烧部に堆積した灰・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物の出土は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しただけである。

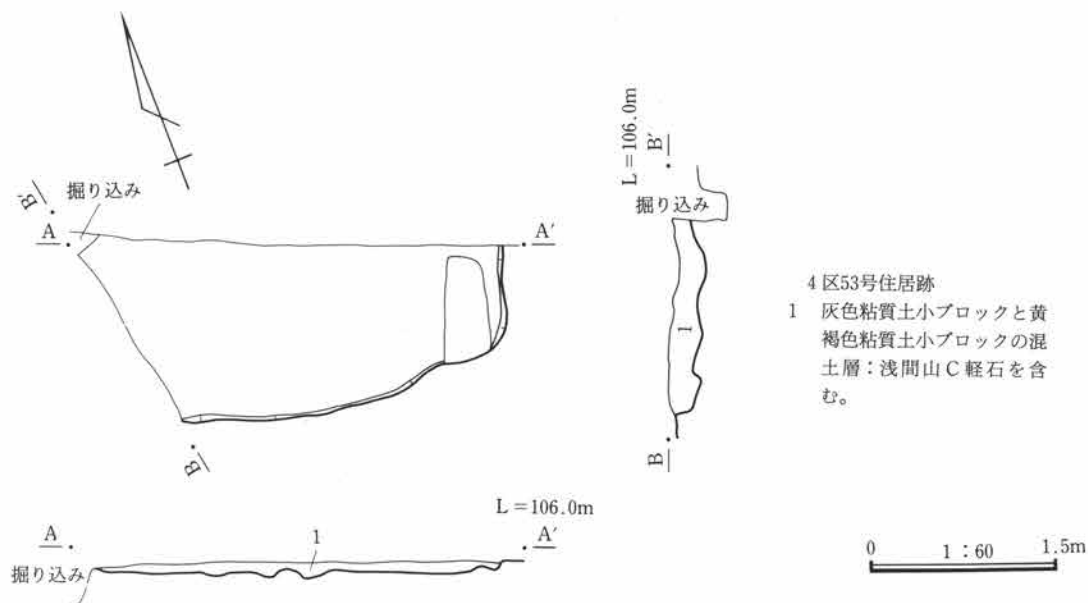


第444図 4区51号住居跡

0 1 : 60 1.5m

## 4区53号住居跡

4区P-2グリットに位置する。重複はないが、検出できたのは南東部分だけであり、規模は不明である。床はやや軟弱であり、細かい凹凸が多い。残存壁高は確認できた南側部分で約5cmであり、残りは悪い。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も非常に少なく、覆土中から小破片が出土しただけである。



第445図 4区53号住居跡

## 4区54号住居跡

4区J-19・20グリットに位置し、4区16号住居跡・4区58号住居跡・4区65号住居跡・4区7号溝跡・4区25号溝跡と重複する。4区16号住居跡との新旧関係は、不明である。4区58号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北側の壁・床を当住居跡の床が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。4区65号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床を当住居跡の壁が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。4区7号溝との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の北側の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区25号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の東側の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、大部分が破壊されており不明である。床面は比較的硬いが、やや凹凸がある。確認できた南東部の残存壁高は約20cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少ないが、鉄製の鎌(1919)が出土しているのが注目される。

## 4区58号住居跡

4区J-19グリットに位置し、4区16号住居跡・4区54号住居跡・4区65号住居跡と重複する。4区16号住居跡との新旧関係は不明である。4区54号住居跡との新旧関係は、同住居跡が当住居跡の北

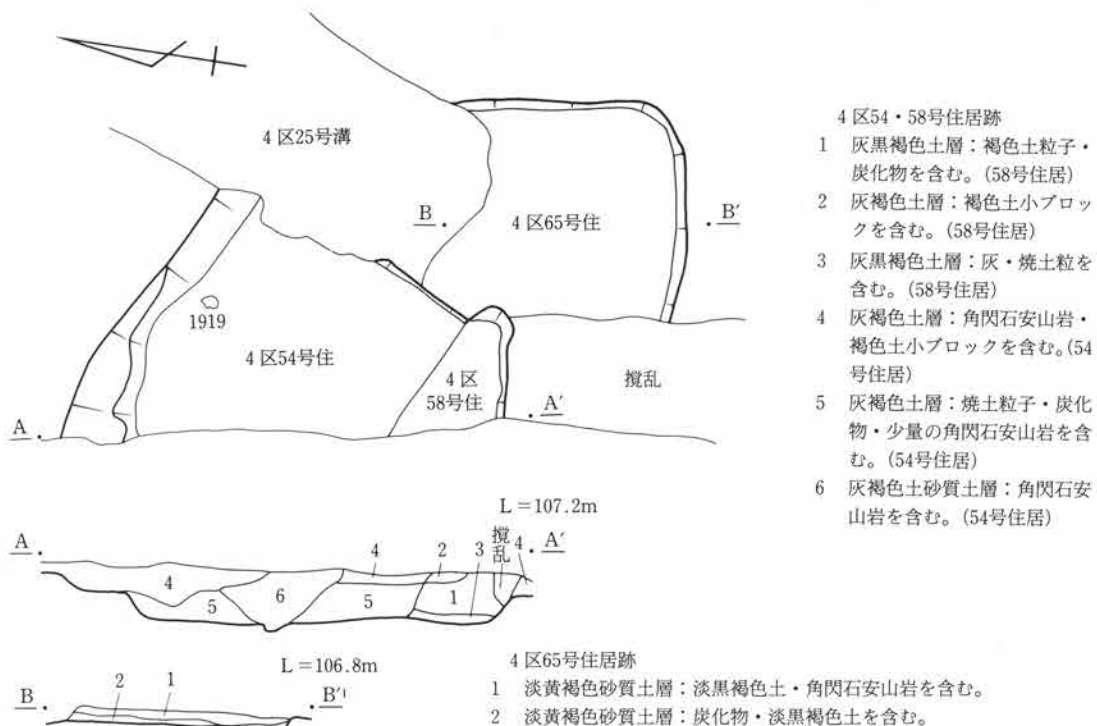
側の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区65号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床を破壊して当住居跡の竈が構築されていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、北側を4区54号住居跡に破壊され、南側を攪乱に破壊されているために、竈及びその周辺のみを検出であり、不明である。床の状態は、竈周辺は比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は竈で約10cmである。竈は東壁に構築されている。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、燃焼部に堆積した灰・焼土を確認することができた。遺物は非常に少なく、鉄製品(1955)のほかは、覆土中から小破片が出土しただけである。

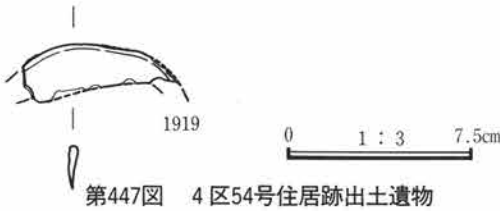
#### 4区65号住居跡

4区J-19グリットに位置し、4区54号住居跡・4区58号住居跡・4区25号溝跡と重複する。4区54号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東壁が当住居跡の床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区58号住居跡との新旧関係は、同住居跡の竈が当住居跡の中央部の床を破壊して構築されていることから、当住居跡の方が古い。4区25号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の北東部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

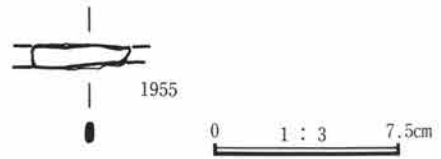
当住居跡の規模は、大部分が重複で破壊されており、南東部のみを検出のために不明である。南東部の床の状態は比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約10cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も非常に少なく、覆土中から小破片が出土しただけである。



第446図 4区54・58・65号住居跡



第447図 4区54号住居跡出土遺物



第448図 4区58号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1919	? 鉄製品	長:(63mm) 幅:(18mm) 厚:3.5mm		鎌の一部か。	

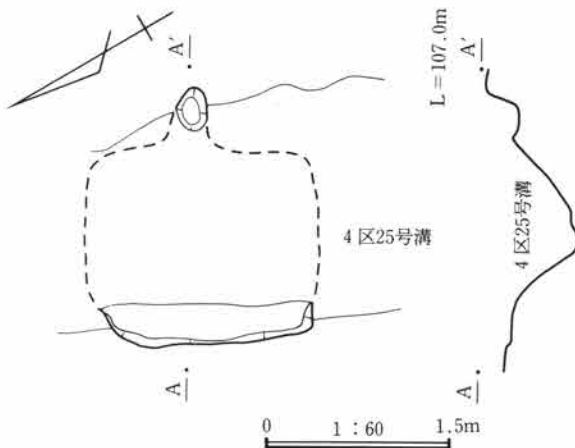
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1955	刀子? 鉄製品	長:(40mm) 幅:6~9mm 厚:2mm		刀子の一部か。鉄板を折り曲げて製造。	

#### 4区55号住居跡

4区I-21グリットに位置し、4区118号住居跡・4区25号溝跡と重複する。4区118号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南側の壁を当住居跡の北側の壁が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。4区25号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の大部分を破壊していることから、当住居跡の方が古い。当住居跡の規模は、大部分が4区25号溝跡に破壊されており、北側の端部と竈先端部の

みの検出であり、不明である。床面の状態は確認できなかった。南側の残存壁高は約5~20cmである。

竈は東壁に構築されている。破壊されており、先端部のみの検出であるが、燃焼部に堆積した炭化物・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も非常に少なく、覆土中から出土した小破片のみである。

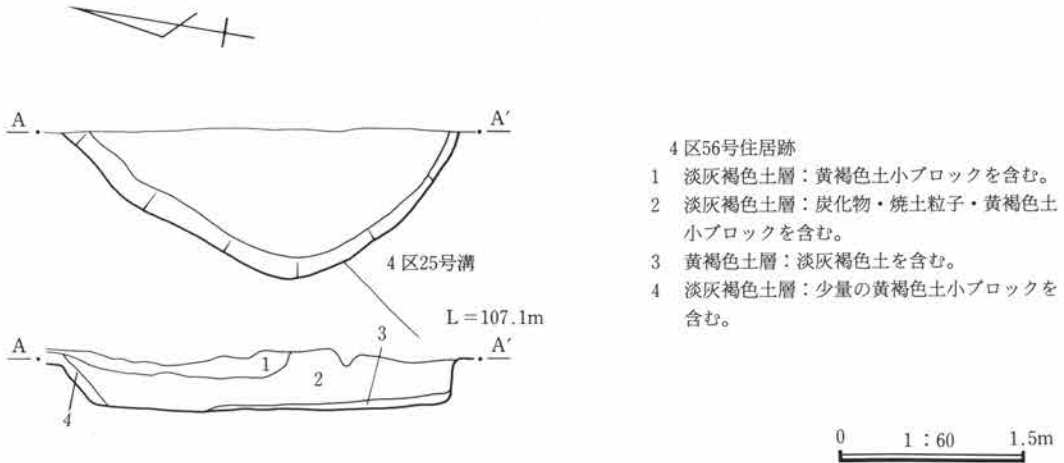


第449図 4区55号住居跡

#### 4区56号住居跡

4区H-21・22、I-21・22グリットに位置し、4区25号溝跡と重複する。新旧関係は、4区25号溝跡の覆土中に当住居跡の壁・床が築かれているので、当住居跡の方が新しい。当住居跡の規模は、大部分が調査区域外であり、不明である。床面の状態はやや軟弱であるが、ほぼ平坦である。残存壁高は約35~40cmを図る。

大部分が調査区域外であり、竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しただけである。



第450図 4区56号住居跡

#### 4区59号住居跡

4区H-17・18、I-17・18グリットに位置し、4区60号住居跡・4区100号住居跡・4区7号溝跡と重複する。4区60号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の壁・床が当住居跡の西側の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。4区100号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南側の床の上に当住居跡の北側の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区7号溝跡との新旧関係は、同溝跡の覆土中に当住居跡の床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東側が調査区域外・西側が4区60号住居跡との重複のために確定できないが、東西は約2.3mであり、平面形は隅丸方形ないしは長方形を呈すると推定される。床面はやや軟弱な部分も残るが、ほぼ平坦である。確認できた南側の壁の立ち上がりは約5~10cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しただけである。

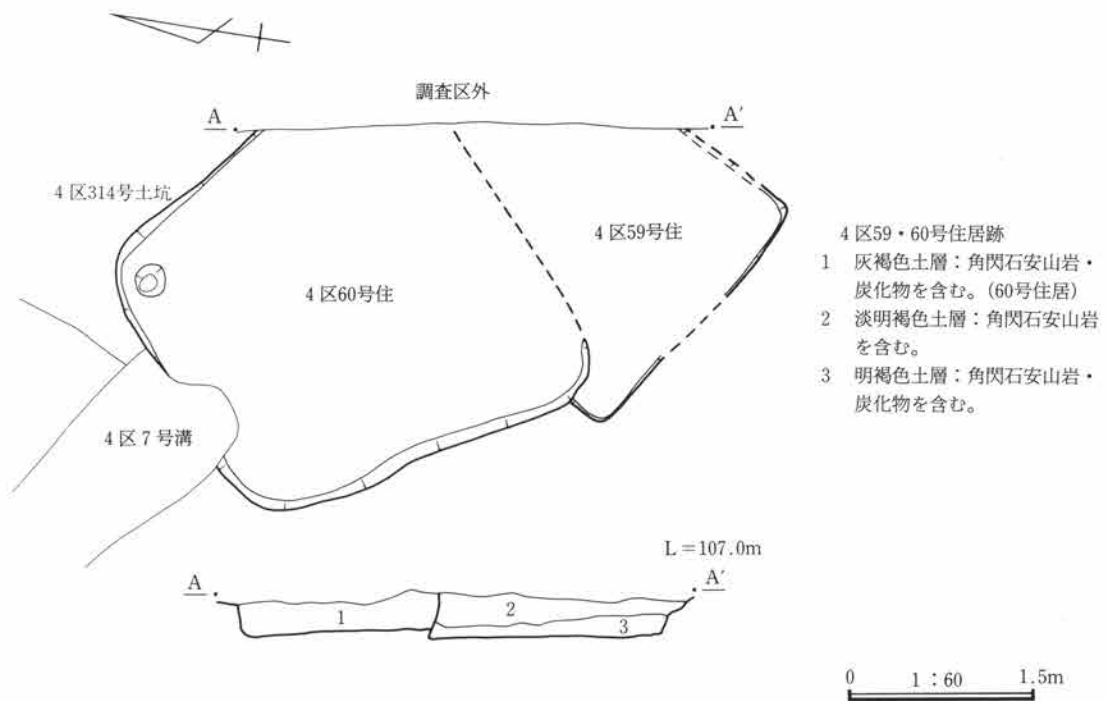
#### 4区60号住居跡

4区H-18・19、I-18・19グリットに位置し、4区59号住居跡・4区100号住居跡・4区101号住居跡・4区102号住居跡・4区7号溝跡と重複する。4区59号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西側の壁・床を破壊して当住居跡の南東部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4

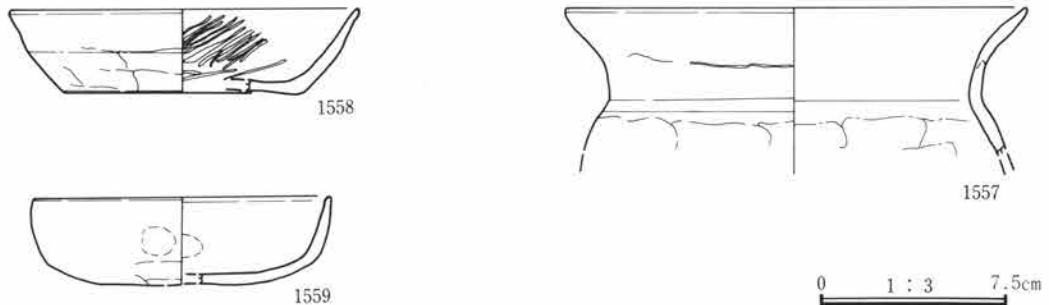


区100号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床が当住居跡の床下から検出されたことから、当住居跡の方が新しい。4区101号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床が当住居跡の床下から検出されたことから、当住居跡の方が新しい。4区102号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東側を当住居跡が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。4区7号溝跡との新旧関係は、同溝跡の覆土中に当住居跡の床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は一辺約3.0mであり、平面形は不整形な方形を呈する。床面はやや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。残存壁高は約15～20cmである。北西隅から小ピットが検出できた。規模は、直径約25cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は円形を呈する。柱穴と考えることは難しい。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できず、竈も検出できなかった。遺物は土師器の甕(1557)、土師器の杯(1558・1559)が出土しているが、掘形からの出土である。



第451図 4区59・60号住居跡



第452図 4区59号住居跡出土遺物

#### 第IV章 発見された遺構と遺物

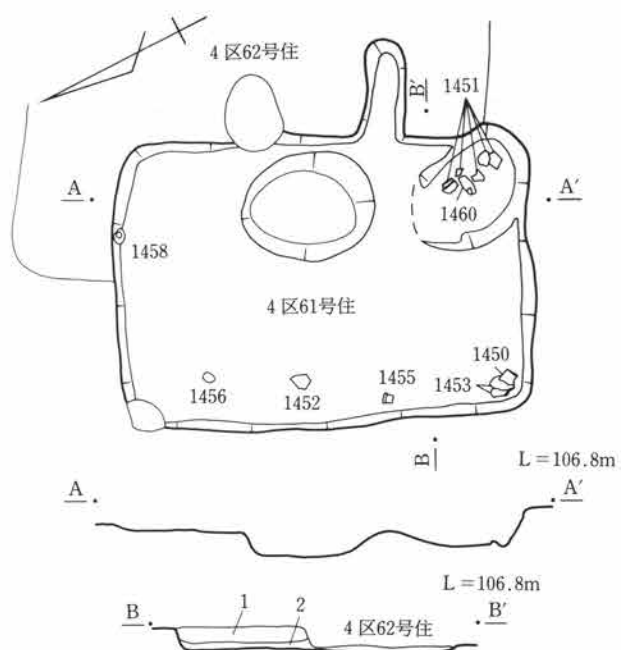
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1557	甕 土器	器高：(58mm) 口径：[184mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内面に油煙付着。
1558	杯 土器	器高：(34mm) 口径：[140mm] 底径：[94mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	
1559	杯 土器	器高：(35mm) 口径：[118mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	

#### 4区61号住居跡

4区I-16・17、J-16・17グリットに位置し、4区62号住居跡・4区87号住居跡・4区99号住居跡・4区103号住居跡と重複する。4区62号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西側の壁・床が当住居跡の東側の壁・床・竈の上面を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区87号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東側の壁・床を破壊して当住居跡の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区99号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東隅を当住居跡の南西隅が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。4区103号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北壁を当住居跡の南壁が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約2.3m・南北約3.3mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-25°-Eである。床面の状態は比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は、残りの良い南側で約20cmである。竈は東壁の南よりに構築されている。燃焼部・袖は確認できなかったが、煙道部が検出できた。煙道部の張り出しは約80cmである。竈前・煙道部の覆土中には多量の炭化物・焼土粒子の混入が確認できた。住居内からは2基のピットが検出できた。中央部東よりのピットの規模は、長軸約100cm・短軸約80cm・床面からの深さ約15cmであり、平面形は楕円形を呈する。南東隅のピットは南東隅残りの壁を住居跡と共用し、規模は長軸110cm・短軸80cm・床面からの深さ20cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。遺物の出土状態などと考え併せて、このピットを貯蔵穴とすることが可能である。柱穴・壁溝は検出できなかった。

遺物の出土は多く、須恵器の杯(1455)、須恵器の椀(1454・1456・1457)、灰釉陶器の皿(1458)、灰釉陶器の椀(1461)の他、羽釜(1451)、甗(1450・1452)、須恵器の甕(1453)、薦石(1460)などがある。

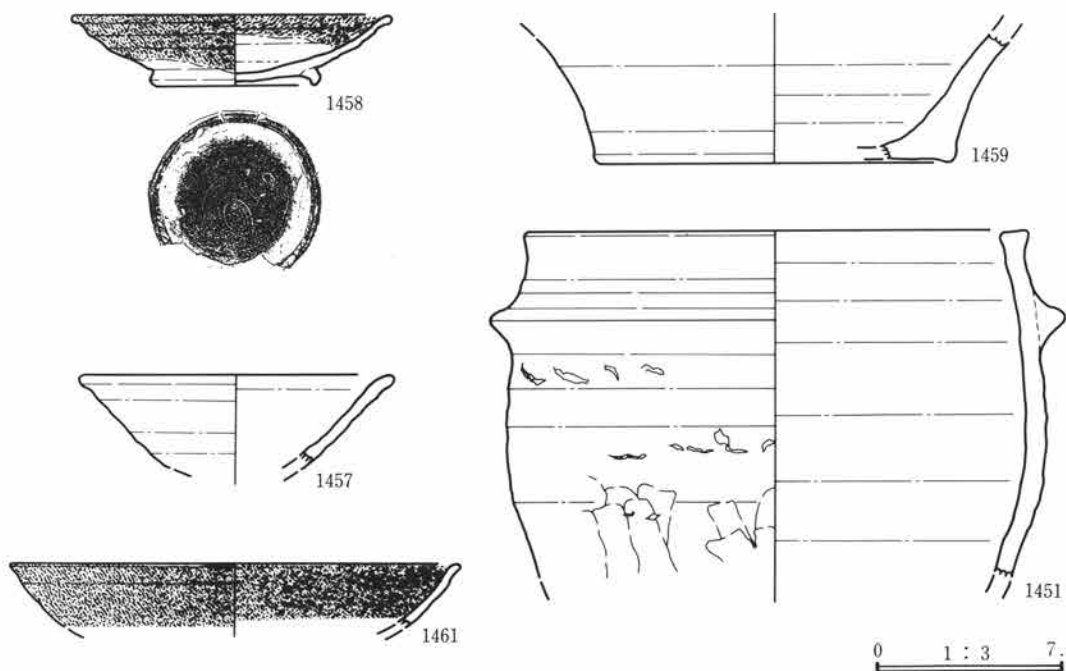
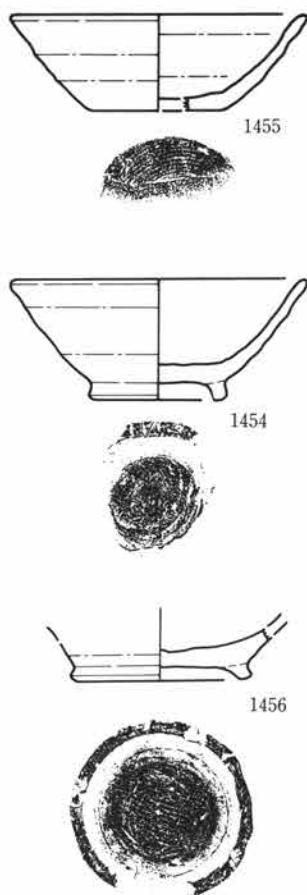


4区61号住居跡

- 1 暗灰褐色土層：焼土・炭化物粒子を含む。
- 2 暗灰褐色土層：やや粘質をもつ。

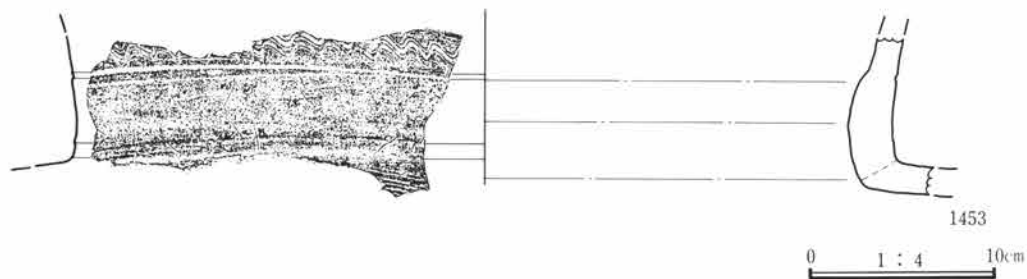
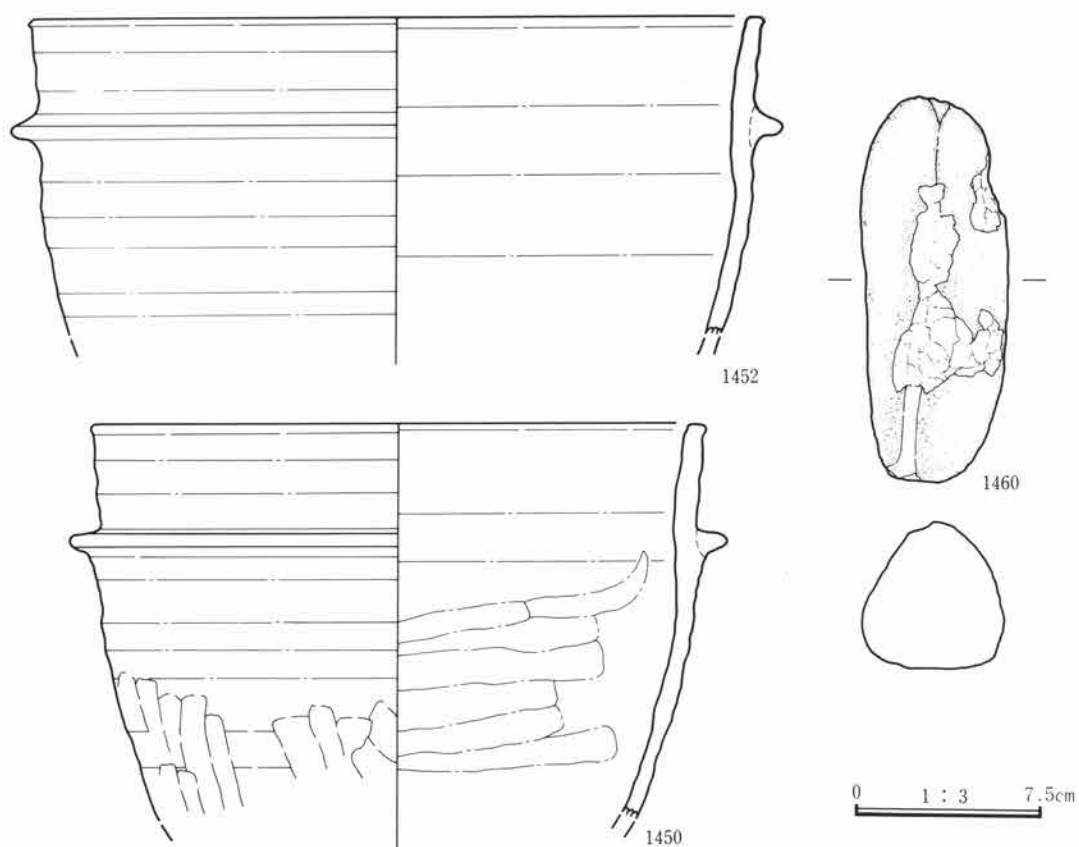
0 1 : 60 1.5m

第453図 4区61号住居跡



0 1 : 3 7.5cm

第454図 4区61号住居跡出土遺物①



第455図 4区61号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1450	甔	器高：(155mm) 口径：[246mm] 底径：— 最大径：[262mm] 口縁部～胴部上半 ¼	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	口縁部はほぼ直立。鈔部は貼り付け。最大径は鈔部。外面：口縁部～胴部上半は回転なで、胴部上半は一部回転なで後窠なで。内面：口縁部～胴部上半は回転なで。	内外面に油煙付着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1451	羽釜	器高：(137mm) 口径：[202mm] 底径：— 最大径：[228mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{4}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。軟質。灰白・橙。	口縁部はやや内湾。鈹部は貼り付け。最大径は鈹部。外面：口縁部～胴部上端は回転なで、胴部上半は回転なで後笠なで。内面：口縁部～胴部上半は回転なで。	外面やや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1452	甔	器高：(125mm) 口径：[292mm] 底径：— 最大径：[308mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{4}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	口縁部はほぼ直立。鈹部は貼り付け。最大径は鈹部。内外面共に口縁部～胴部上半は回転なで。	外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1453	甔 須恵器	器高：(83mm) 口径：— 底径：— 口縁部下半～胴部上端破片	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	口縁部と胴部は接合。外面：口縁部は横なで後波状文・沈線を施し、胴部上端は横なで。内面：口縁部下半～胴部上端は横なで。	
1454	椀 須恵器	器高：48mm 口径：[119mm] 底径：[56mm] 口縁部～高台部 $\frac{2}{3}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1455	杯 須恵器	器高：(38mm) 口径：[120mm] 底径：[54mm] 口縁部～底部 $\frac{2}{3}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の胴部～底部に油煙付着。燻し？。
1456	椀 須恵器	器高：(20mm) 口径：— 底径：72mm 胴部下端～高台部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転なで。	
1457	椀 須恵器	器高：(37mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。灰白・鈍い橙。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	内外面の口縁部～胴部は油煙付着。燻し？。
1458	皿 灰釉陶器	器高：28mm 口径：129mm 底径：69mm ほぼ完形	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の胴部～底部に油煙付着。内外面の口縁部～胴部上半に施釉。
1459	？ 須恵器	器高：(51mm) 口径：— 底径：[144mm] 胴部下半～底部破片	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、胴部下端～底部はなで。内面：胴部下半～底部はなで。	
1460	薦石	長：151mm 幅：60mm 厚：57mm 重：691.0g	粗粒安山岩。	先端に打ちつけた痕あり。	
1461	椀 灰釉陶器	器高：(25mm) 口径：[180mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{4}$	細砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	内外面共に口縁部～胴部は施釉。

#### 4区62号住居跡

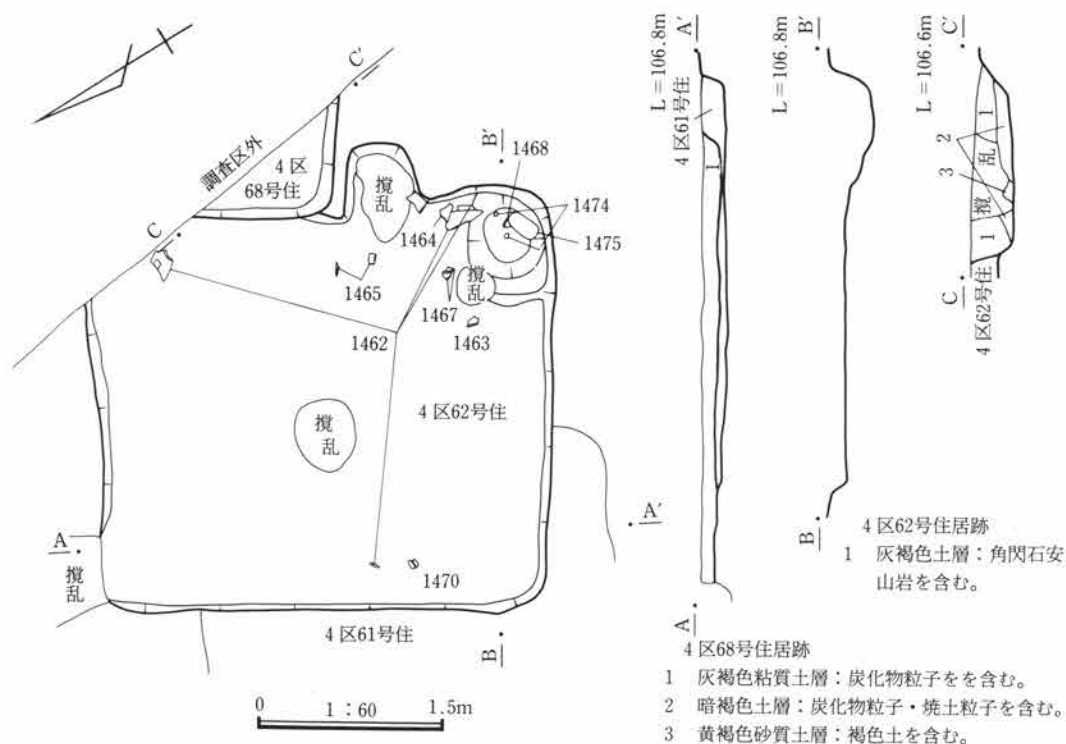
4区I-16・17、J-16・17グリットに位置し、4区61号住居跡・4区68号住居跡と重複する。4区61号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東側部分の壁・床・竈の上部を破壊して当住居跡の西側部分の壁・床が築かれているので、当住居跡の方が新しい。4区68号住居跡との新旧関係は不明である。

当住居跡の規模は、東西約3.2m・南北約3.7mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-23°-Eである。床面の状態は竈周辺を中心に比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は10~15cmであり、調査区域外の北東隅を除いて確認できた。

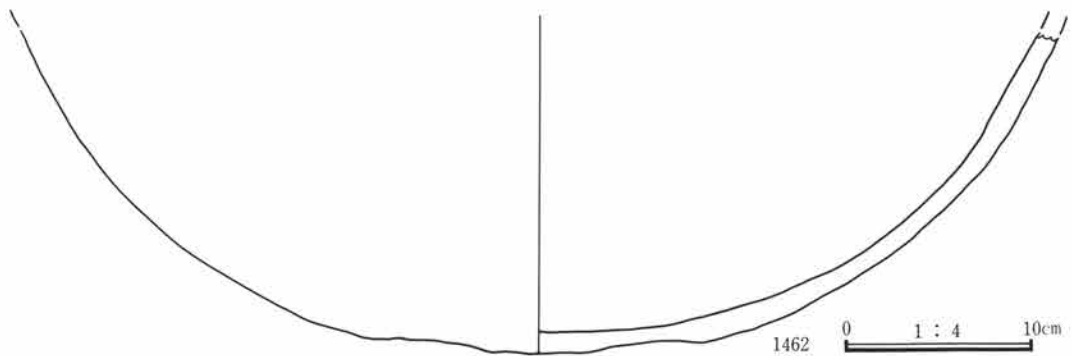
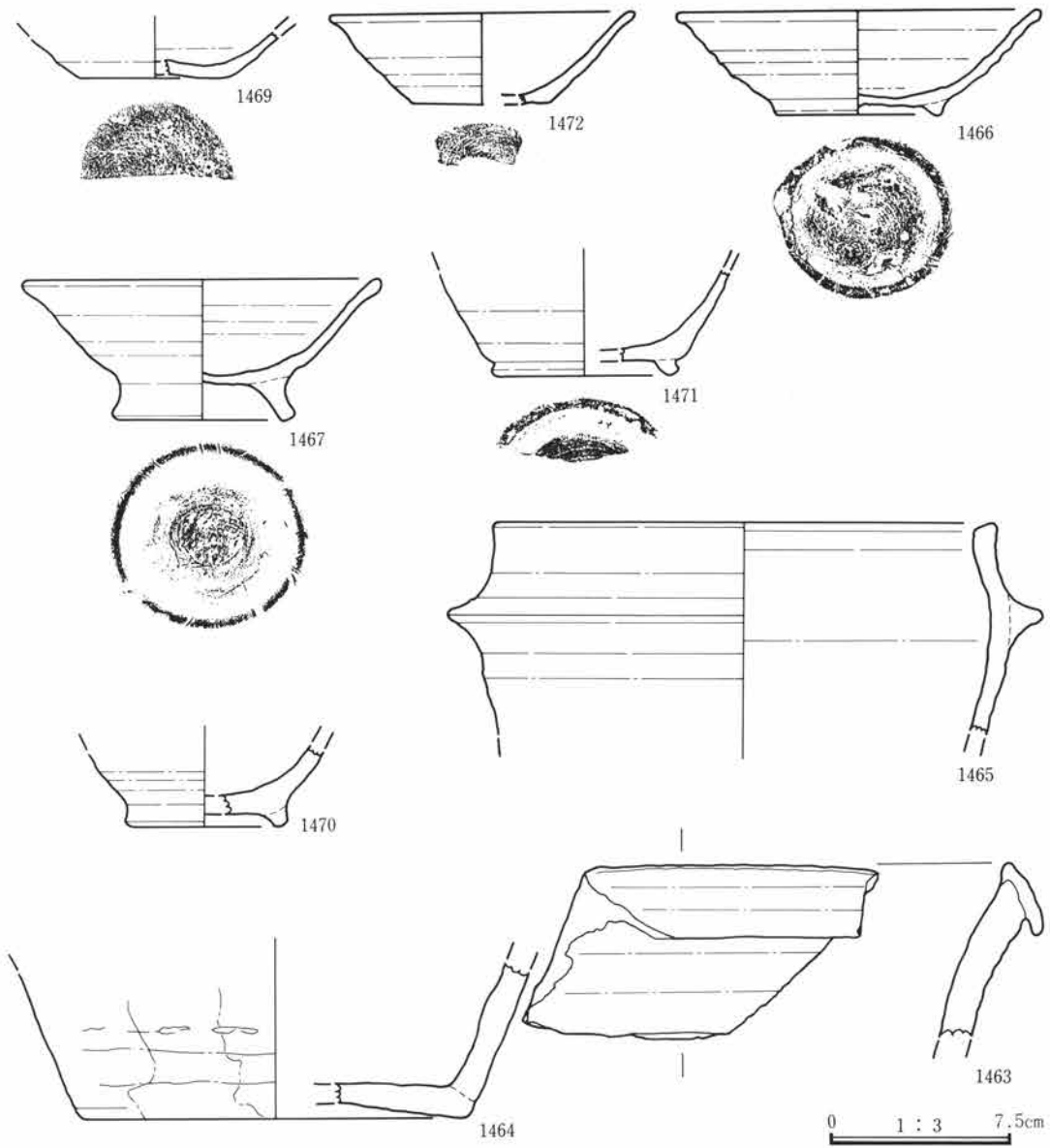
竈は東壁の南よりに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約50cmである。袖は破壊されており殆ど検出することはできなかったが、燃烧部からは構築材に使用されたと考えられる石と、灰・焼土の体積を確認することができた。竈右脇、南東隅からは貯蔵穴と考えられるピットを検出することができた。規模は、長軸約70cm・短軸約60cm・床面からの深さ約25cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかった。遺物は多く、貯蔵穴からは灰釉陶器の椀(1474)、灰釉陶器の皿(1473)が出土した他、土師器の杯(1467)、須恵器の杯(1468・1469・1472)、須恵器の椀(1466・1470・1471)、須恵器の甕(1462・1463・1464)、羽釜(1465)などが出土している。

#### 4区68号住居跡

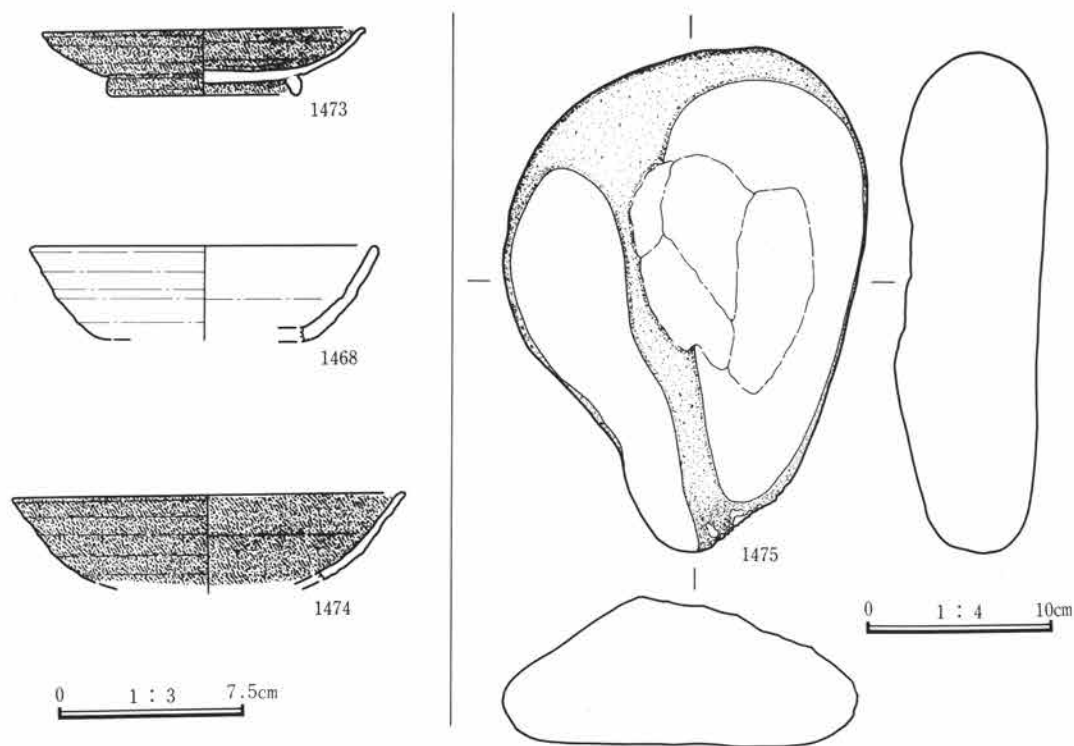
4区H-16・17、I-16グリットに位置し、4区62号住居跡と重複する。新旧関係は不明である。当住居跡は南西隅のみの検出であり、大部分は調査区域外であるために、規模は不明である。床の状態は確認できなかった。残存壁高は、検出できた南西隅部分で約15~20cmである。柱穴・竈・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片を出土しただけである。



第456図 4区62・68号住居跡



第457図 4区62号住居跡出土遺物①



第458図 4区62号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1462	甕 須恵器	器高：(170mm) 口径：一 底径：一 胴部下端～底部 %	径4～5mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	丸底。外面：胴部下端～底部は叩目が残る。 内面：胴部下端～底部は叩目、一部輪積痕 が残る。	
1463	甕 須恵器	器高：一 口径：一 底径： 一 口縁部破片	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	口縁端部は外縁帯をもつ。内外面共に口縁 部は回転なで。	
1464	甕 須恵器	器高：(63mm) 口径：一 底 径：[160mm] 胴部下端～底 部%	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	外面：胴部下端は回転なで、一部輪積痕が 残り、底部はなで。内面：口縁部は回転な で、底部はなで。	内外面の一部に自 然釉。
1465	羽 釜	器高：(86mm) 口径：[206 mm] 底径：一 最大径： [204mm] 口縁部～胴部上端 %	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。橙・浅黄。	口縁部はやや内湾。鋳部は貼り付け。最大 径は鋳部。内外面共に口縁部～胴部上端は 回転なで。	内外面に多量の油 煙附着。二次炎を 受けている。
1466	椀 須恵器	器高：43mm 口径：[150mm] 底径：69mm 口縁部～高台 部%	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、 口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴 部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼 り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1467	碗 須恵器	器高：(58mm) 口径：[148mm] 底径：— 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで。	内外面に一部油煙付着。
1468	杯 須恵器	器高：(38mm) 口径：[140mm] 底径：[82mm] 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。内外面共に口縁部～胴部上端は回転なで。	
1469	杯 須恵器	器高：(19mm) 口径：— 底径：[62mm] 胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
1470	碗 須恵器	器高：(33mm) 口径：— 底径：[68mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
1471	碗 須恵器	器高：(42mm) 口径：— 底径：[76mm] 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	
1472	杯 須恵器	器高：(38mm) 口径：[126mm] 底径：[58mm] 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部上端は回転なで。	
1473	皿 灰釉陶器	器高：26mm 口径：130mm 底径：75mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面共に口縁部～胴部に施釉。
1474	碗 灰釉陶器	器高：(35mm) 口径：[158mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。外面：口縁部～胴部上半は回転なで、胴部下半は回転篋削り。内面：口縁部～胴部は回転なで。	内外面共に口縁部～胴部上半に施釉。
1475	用途不明 石製品	長：265mm 幅：195mm 厚：91mm 重：5300.0g	粗粒安山岩。		

## 4区63号住居跡

4区H-28・29、I-28・29グリットに位置し、4区64号住居跡・4区9号溝跡と重複する。4区64号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北側の壁・床を当住居跡の南側の壁・床が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。4区9号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の北西隅の壁の一部を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

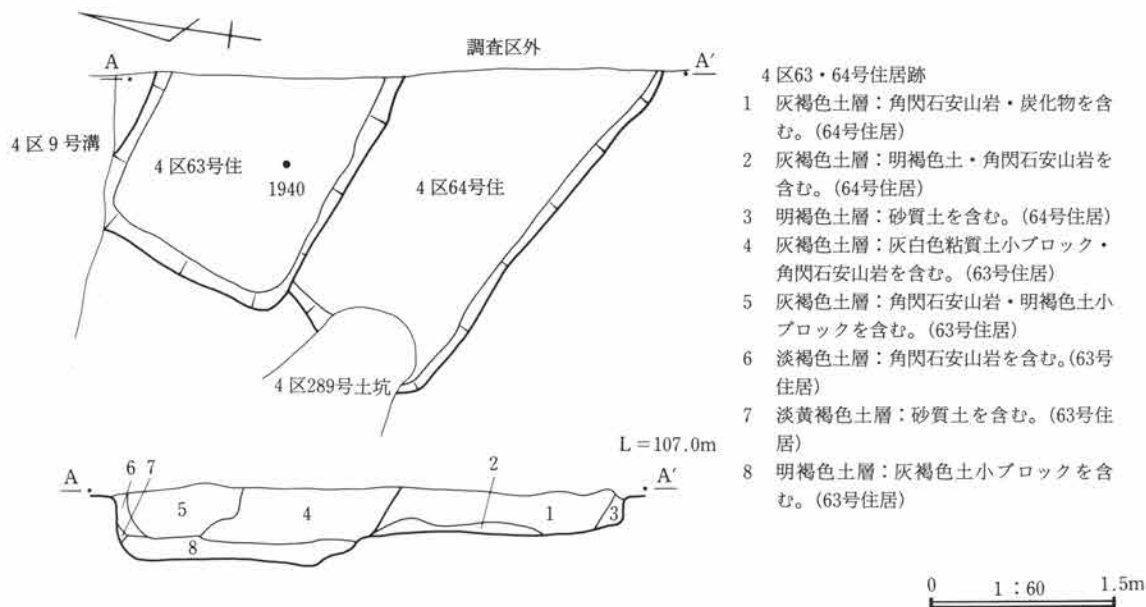
当住居跡の規模は、東側が調査区域外のために確定できないが、南北は約1.7mであり、平面形は隅丸長方形を呈するものと推定している。床面の状態は比較的硬く、ほぼ平坦である。壁の立ち上がりは残りの良い北壁で約50cmを測る。竈は東壁に構築されていると推定しているが、調査区域外のため

に不明である。調査範囲内から、柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は少ないが、須恵器の杯(1560)、須恵器の碗(1561)、灰釉陶器の壺(1562)の他、北宋の銭である「太平通寶」(1940)が出土している。

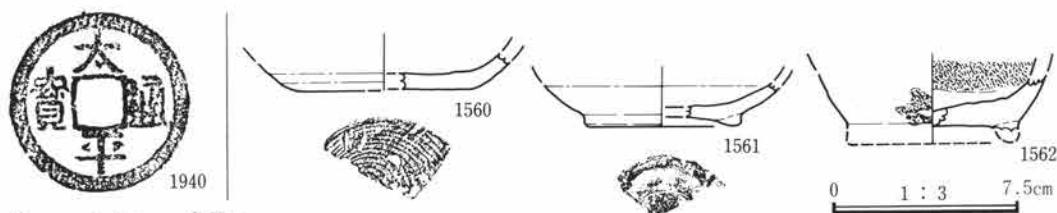
#### 4区64号住居跡

4区H-27・28、I-27・28グリットに位置し、4区63号住居跡・4区289号土坑と重複する。4区63号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南壁が当住居跡の北側の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区289号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の西壁の一部を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、北側を63号住居跡に破壊され、東側は調査区域外のために不明である。床の状態は比較的硬く、ほぼ平坦である。壁の立ち上がりは、残りの良い南壁で約15~20cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も非常に少なく、覆土中から小破片が出土しただけである。



第459図 4区63・64号住居跡



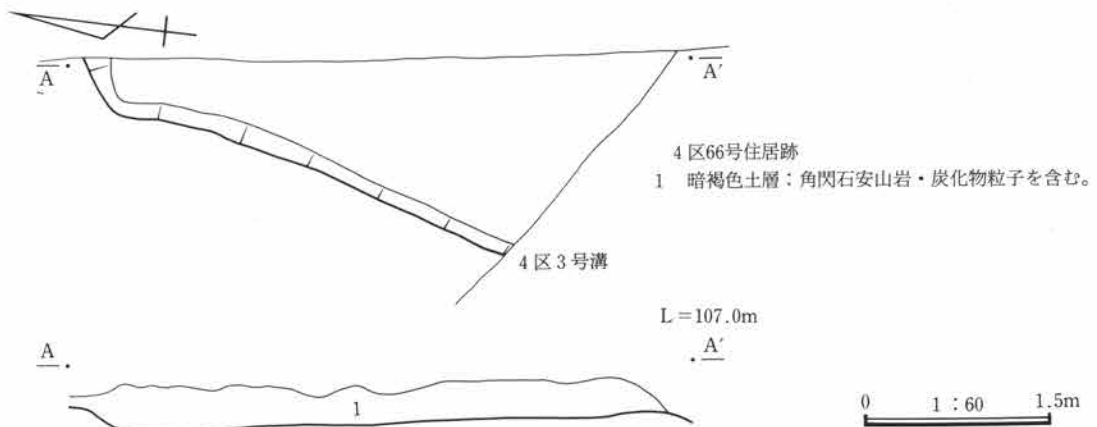
第460図 4区63号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1560	杯 須恵器	器高：(15mm) 口径：— 底径：[70mm] 胴部下端～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下端～底部は回転なで。	
1561	椀 須恵器	器高：(17mm) 口径：— 底径：[63mm] 胴部下半～高台部迄	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
1562	壺 灰釉陶器	器高：(21mm) 口径：— 底径：— 胴部下端～高台部上半迄	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下端～底部は回転なで。	内外面共に底部まで施釉。
1940	銭			「太平通寶」。北宋。	

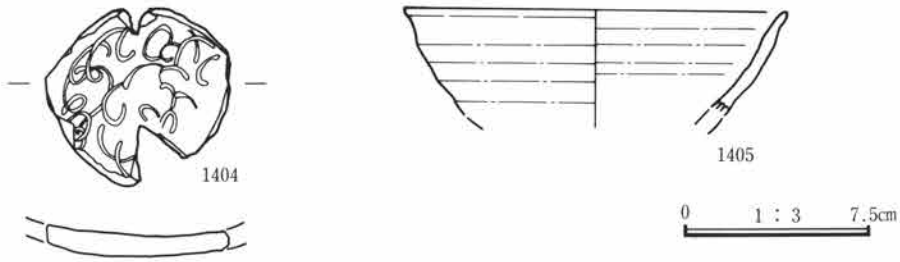
#### 4区66号住居跡

4区—14・15、I—14・15グリットに位置し、4区121号住居跡・4区122号住居跡・4区126号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区121号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の壁・床が当住居跡の床下より検出されたので、当住居跡の方が新しい。4区122号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南西部の壁・床が当住居跡の床下より検出されたので、当住居跡の方が新しい。4区126号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西側の壁・床が当住居跡の床下より検出されたので、当住居跡の方が新しい。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の南側の壁・床を破壊しているので当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、南側は4区3号溝跡に破壊され、東側の大部分が調査区域外のために不明である。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。残存壁高は北西部で約20～25cmを測る。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、覆土中から土師器の杯(1404)、須恵器の椀(1405)が出土している。



第461図 4区66号住居跡



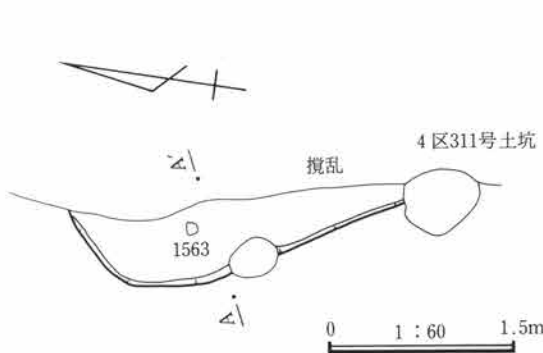
第462図 4区66号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1404	杯 土師器	器高：— 口径：— 底径：— — 底部破片	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	外面：底部は篋削り。内面：底部はなで後渦巻き状暗文を施す。	
1405	碗 須恵器	器高：(42mm) 口径：[153mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。オリーブ灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	

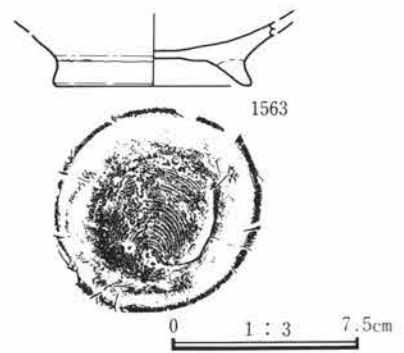
#### 4区67号住居跡

4区J-17・18グリットに位置し、4区87号住居跡・4区116号住居跡と重複する。4区87号住居跡との新旧関係は不明である。4区116号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床が当住居跡の床下より検出されているので、当住居跡の方が新しい。

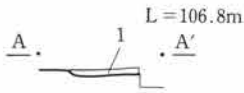
当住居跡の規模は、大部分が攪乱により破壊されているので、不明である。床面の状態はやや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。残存壁高は約5cmであり、残りは悪い。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少なく、須恵器の碗(1563)が出土している他は、覆土中から小破片が出土しているだけである。



第463図 4区67号住居跡

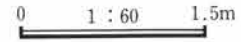


第464図 4区67号住居跡出土遺物



## 4区67号住居跡

1 黒褐色土層：明褐色土小ブロック・角閃石安山岩を含む。



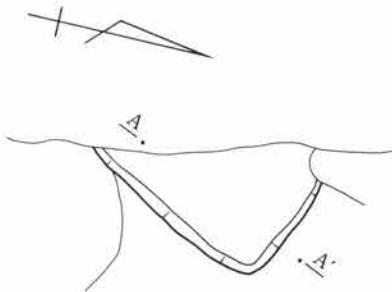
第465図 4区67号住居跡断面

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1563	腕 須恵器	器高：(26mm) 口径：一 底 径：80mm 胴部下端～高台 部片	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転 などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。 内面：胴部下端～底部は回転などで。	

## 4区69号住居跡

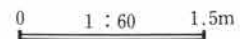
4区J-16、K-16グリットに位置し、4区83号住居跡・4区84号住居跡・4区99号住居跡・4区103号住居跡と重複する。4区83号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西側の壁・床を当住居跡の北東部が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。4区84号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床を当住居跡の北東部の壁・床が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。4区99号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の壁・床が当住居跡の床下より検出されたことから、当住居跡の方が新しい。4区103号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床の一部が当住居跡の床下より検出されたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、大部分が攪乱により破壊されており、不明である。検出できた北東部の床面の状態は、やや軟弱であるが、ほぼ平坦である。残存壁高は約5～10cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しただけである。



## 4区69号住居跡

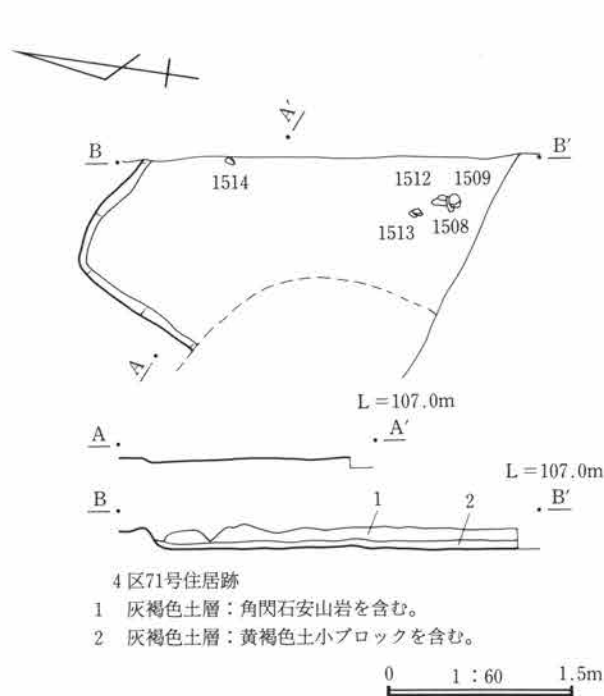
1 暗褐色土層：角閃石安山岩・灰色粘質土小ブロックを含む。



第466図 4区69号住居跡

4区71号住居跡

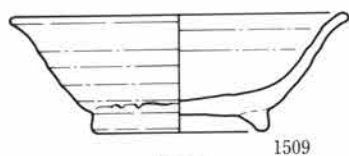
4区H-15・16、I-15・16グリットに位置し、4区85号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。当住居跡の規模は、北西部を検出しただけであり、不明である。床の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。北西部の残存壁高は約5cmであり、残りは悪い。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は、須恵器の甕(1508)、須恵器の杯(1510・1511・1514・1515)、須恵器の椀(1509)、灰釉陶器の椀(1512・1513)などが出土している。



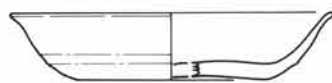
4区71号住居跡

- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩を含む。
- 2 灰褐色土層：黄褐色土小ブロックを含む。

第467図 4区71号住居跡



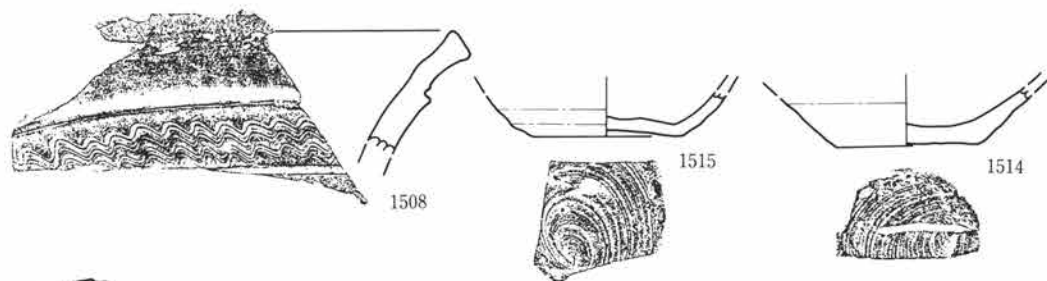
1509



1510



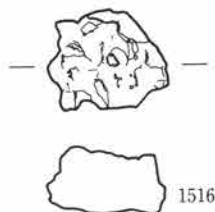
1511



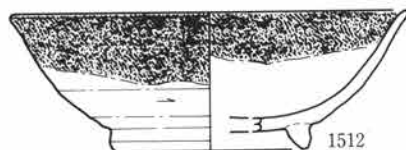
1508

1515

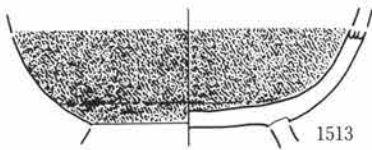
1514



1516

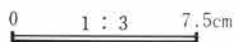


1512



1513

第468図 4区71号住居跡出土遺物



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1508	甕 須恵器	器高：— 口径：— 底径：— — 口縁部破片	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	口縁部外面は段をもつ。外面：口縁部は回転まで後波状文・沈線を施す。内面：口縁部は回転まで。	
1509	椀 須恵器	器高：47mm 口径：[136mm] 底径：70mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転まで。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1510	杯 須恵器	器高：(27mm) 口径：[130mm] 底径：[78mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	
1511	杯 須恵器	器高：38mm 口径：[140mm] 底径：[60mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	内外面の胴部～底部に油煙付着。燻し。
1512	椀 灰釉陶器	器高：54mm 口径：[158mm] 底径：[73mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒・細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部上半は還元まで、胴部下半は篋削り、底部は高台貼り付け後まで。内面：口縁部～底部は回転まで。	内外面の口縁部～胴部上半に施釉。
1513	椀 灰釉陶器	器高：(38mm) 口径：— 底径：— 胴部～底部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤施釉。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転まで、底部は高台貼り付け後まで。内面：胴部～底部は回転まで。	内外面共に胴部下端まで施釉。
1514	杯 須恵器	器高：(23mm) 口径：— 底径：[58mm] 胴部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部は直線的に広がる。外面：胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面：胴部～底部は回転まで。	
1515	杯 須恵器	器高：(17mm) 口径：— 底径：[60mm] 胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内面：胴部～底部は回転まで。	
1516	鉄滓			鉄分を含む。	

## 4区72号住居跡

4区J-16、K-16グリットに位置し、4区78号住居跡・4区79号住居跡・4区131号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区78号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床面を破壊して当住居跡の南東部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区79号住居跡との新旧関係は、同住居跡の上面に当住居跡の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区131号住居跡との新旧関係は不明である。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の壁・床を破壊していること

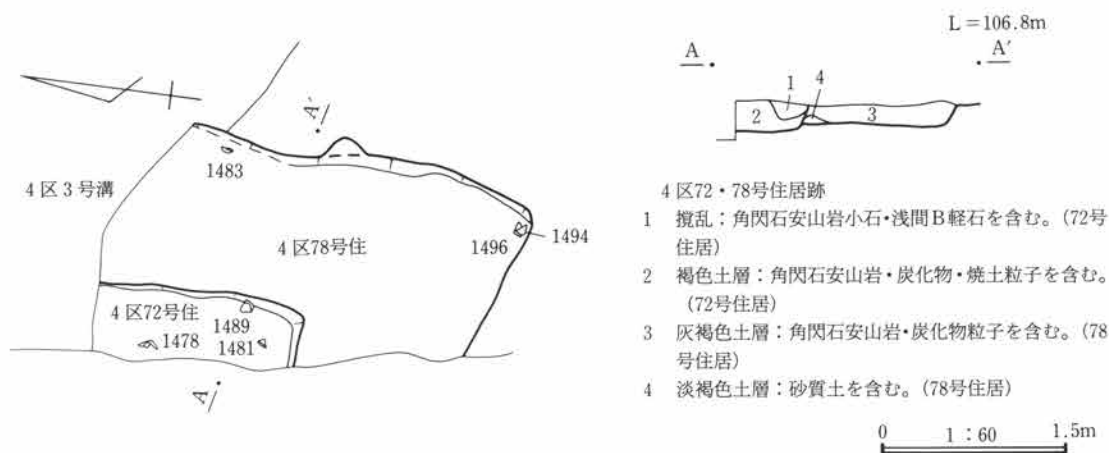
から、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、攪乱及び4区3号溝跡により破壊され、南東隅しか検出できなかったために、不明である。床面の状態は、南東隅ではやや軟弱であるが、ほぼ平坦である。残存壁高は約5cmであり、残りは悪い。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物の出土は多く、種類は土師器の甕(1476・1477)、土師器の杯(1478・1479・1480・1481・1482・1484・1485・1486・1487・1488)、須恵器の杯(1489・1490・1492)、須恵器の皿(1491)、須恵器の蓋(1493)などがある。

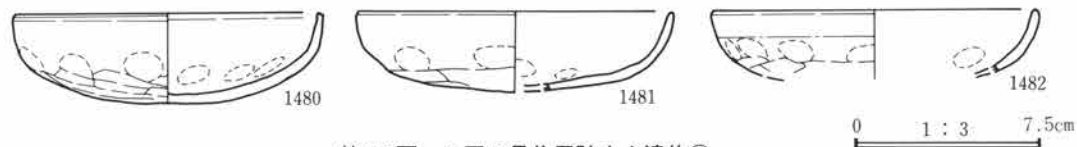
#### 4区78号住居跡

4区J-13、K-13グリットに位置し、4区72号住居跡・4区79号住居跡・4区128号住居跡・4区129号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区72号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の壁・床が当住居跡の床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。4区79号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の壁・床が当住居跡の床下より検出されたことから、当住居跡の方が新しい。4区128号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床を破壊して当住居跡の南東部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区129号住居跡との新旧関係は不明である。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の北部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、重複及び攪乱に破壊されており、不明である。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約5～10cmであり、残りは悪い。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、土師器の杯(1483・1494・1495)、須恵器の杯(252)、須恵器の蓋(1496)などが出土している。

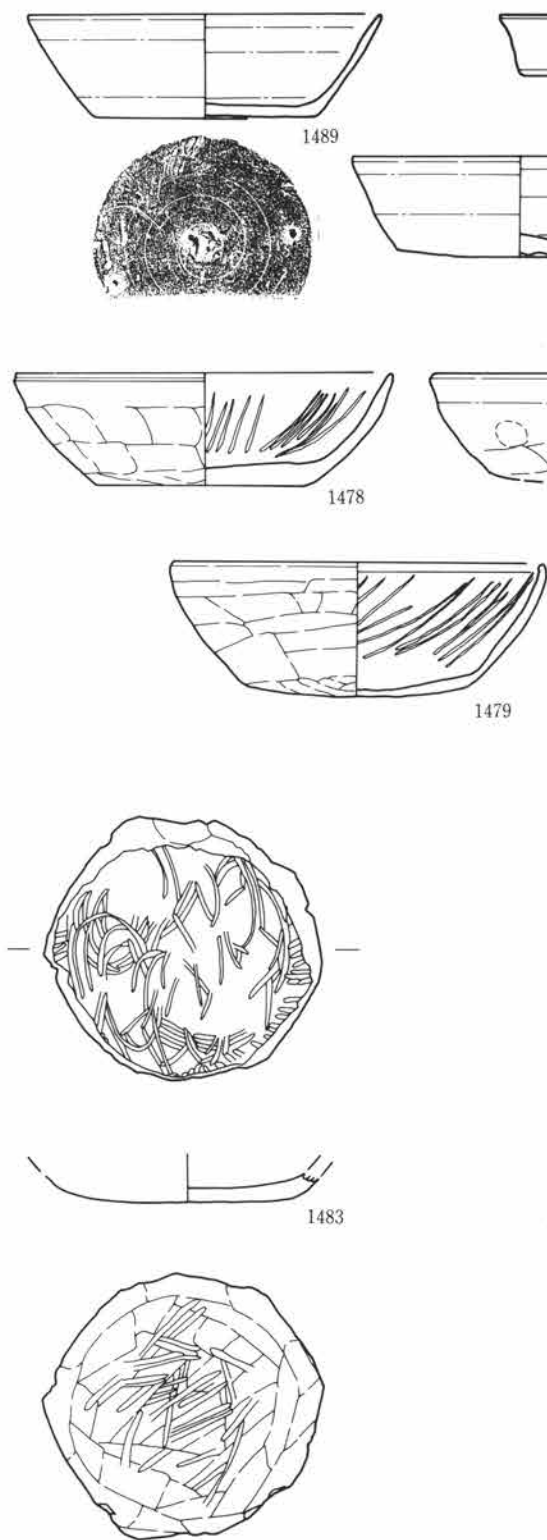


第469図 4区72・78号住居跡

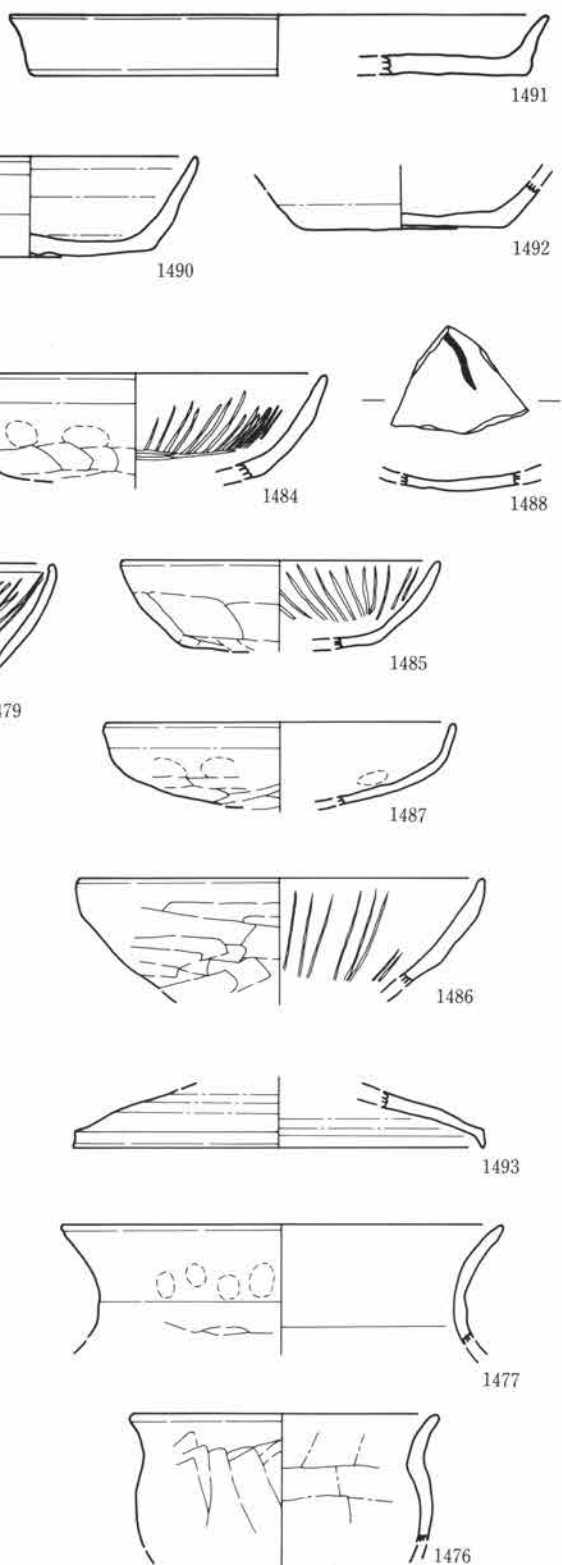


第470図 4区72号住居跡出土遺物①

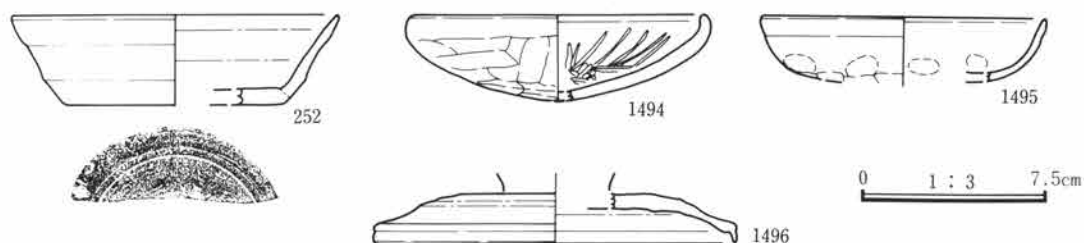




第472図 4区78号住居跡出土遺物①



第471図 4区72号住居跡出土遺物②



第473図 4区78号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1476	甕 土師器	器高：(50mm) 口径：[124mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。	内外面に多量の油煙付着。
1477	甕 土師器	器高：(47mm) 口径：[176mm] 底径：— 口縁部～胴部上端破片	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで。	
1478	杯 土師器	器高：(45mm) 口径：[151mm] 底径：[84mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで後渦巻き状暗文を施す。	
1479	杯 土師器	器高：53mm 口径：[148mm] 底径：[86mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	
1480	杯 土師器	器高：36mm 口径：[124mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、指頭痕が残り、底部はなで、指頭痕が残る。	口縁端部に油煙付着。
1481	杯 土師器	器高：(31mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、指頭痕が残り、底部はなで。	
1482	杯 土師器	器高：(26mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	外面に一部油煙付着。
1484	杯 土師器	器高：(42mm) 口径：[155mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部上半は一部指頭痕が残り、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部は不定方向の暗文を施す。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1485	杯 土師器	器高：(36mm) 口径：[128mm] 底径：[76mm] 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部は不定方向の暗文を施す。	
1486	杯 土師器	器高：(43mm) 口径：[163mm] 底径：— 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部上半～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで後放射状暗文を施す。	
1487	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[140mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1488	杯 土師器	器高：— 口径：— 底径：— 胴部～底部破片	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	外面：胴部下端～底部は篋削り。内面：胴部下端～底部はなで。	外面底部に墨書。積読不能。
1489	杯 須恵器	器高：41mm 口径：[141mm] 底径：88mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋削り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1490	杯 須恵器	器高：40mm 口径：[134mm] 底径：[98mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋削り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1491	皿 須恵器	器高：24mm 口径：[206mm] 底径：[198mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰・鈍い褐。	轆轤整形。外面：胴部～口縁部は短く、直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部はなで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1492	杯 須恵器	器高：(18mm) 口径：— 底径：[80mm] 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。オリーブ灰。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転篋削り。内面：胴部下端～底部は回転なで。	
1493	蓋 須恵器	器高：(23mm) 口径：[164mm] 天井部～口縁部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰・灰赤。	返りは短い。外面：天井部上半は回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転なで。内面：天井部～口縁部は回転なで。	外面に自然釉。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0252	杯 須恵器	器高：36mm 口径：[131mm] 底径：[87mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋削り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1483	杯 土師器	器高：(11mm) 口径：— 底径：90mm 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	外面：胴部下端～底部は篋削り後一部篋磨き。内面：胴部下端は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで後不定方向の暗文を施す。	外面胴部下端～底部に油煙付着。燻し。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1494	杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[118mm] 底径：一口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	口縁部は短くほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで後放射状暗文を施し、底部下半はなで後篋磨き。	内外面に油煙付着。
1495	杯 土師器	器高：(25mm) 口径：[114mm] 底径：一口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	
1496	蓋 須恵器	器高：(20mm) 口径：[146mm] 底径：一天井部～口縁部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。返りは短い。外面：天井部上半は回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転なで。内面：天井部～口縁部は回転なで。	内面の天井部～口縁部は自然軸。

4区73号住居跡

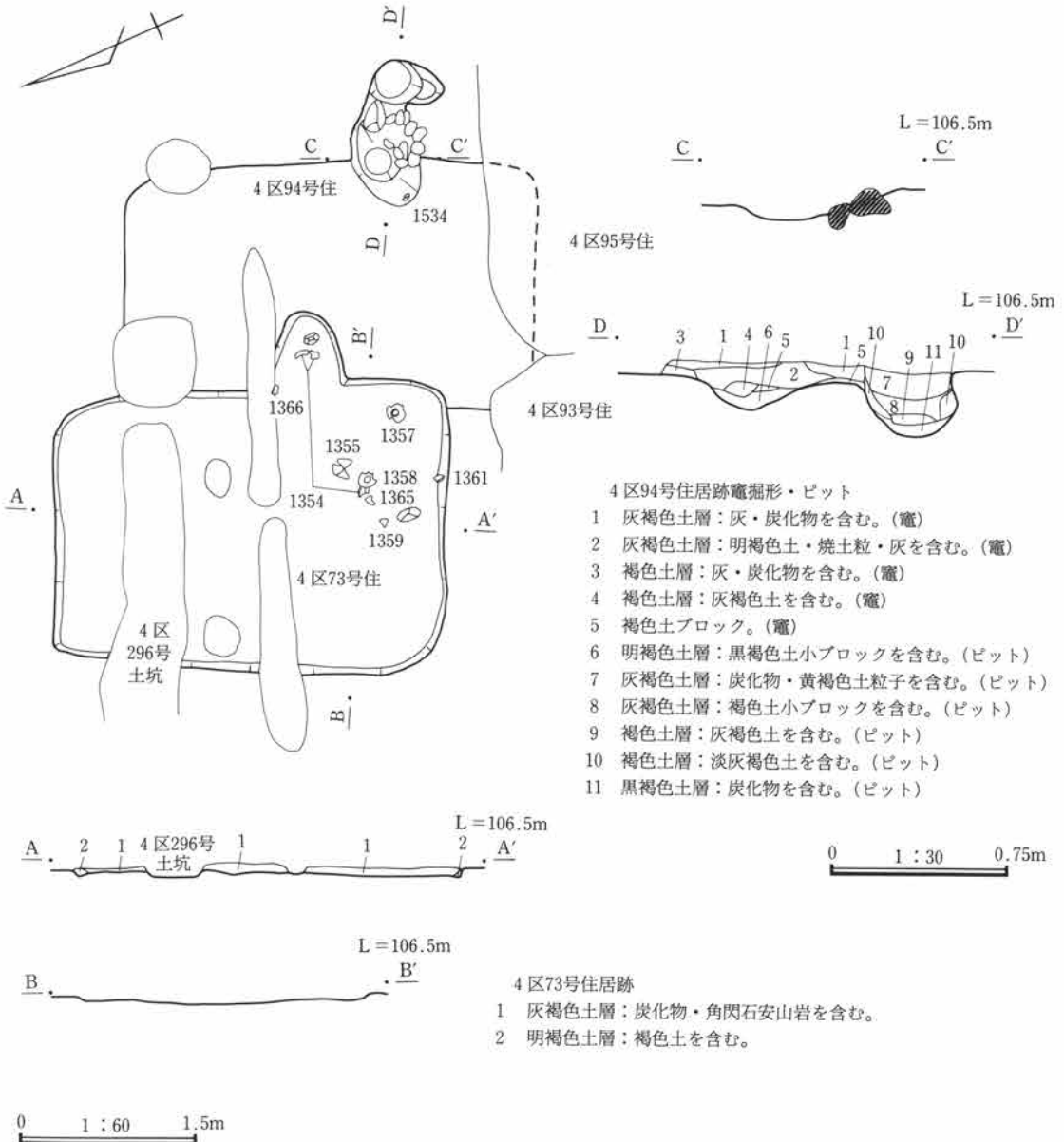
4区I-11・12、J-11・12グリットに位置し、4区74号住居跡・4区94号住居跡・4区96号住居跡と重複する。4区74号住居跡との新旧関係は不明である。4区94号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西部の壁・床を破壊して当住居跡の竈・壁・床が築かれているので、当住居跡の方が新しい。4区96号住居跡との新旧関係は、同住居跡の覆土中に当住居跡の壁・床が築かれているので、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約2.3m・南北約3.2mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-19°-Eである。床面の状態は、攪乱坑の破壊はあるが、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は5～10cmである。竈は東壁の南よりに構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約60cmである。大部分は破壊されており、袖は検出できなかったが、燃焼部の中央からは支脚石が地山に埋め込まれた状態で検出された。また、燃焼部では灰・焼土の堆積を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は少ないが、土師器の杯(1366)、須恵器の杯(1364)、須恵器の椀(1365)の他、覆土中ではあるが鉄滓(1367)も出土している。

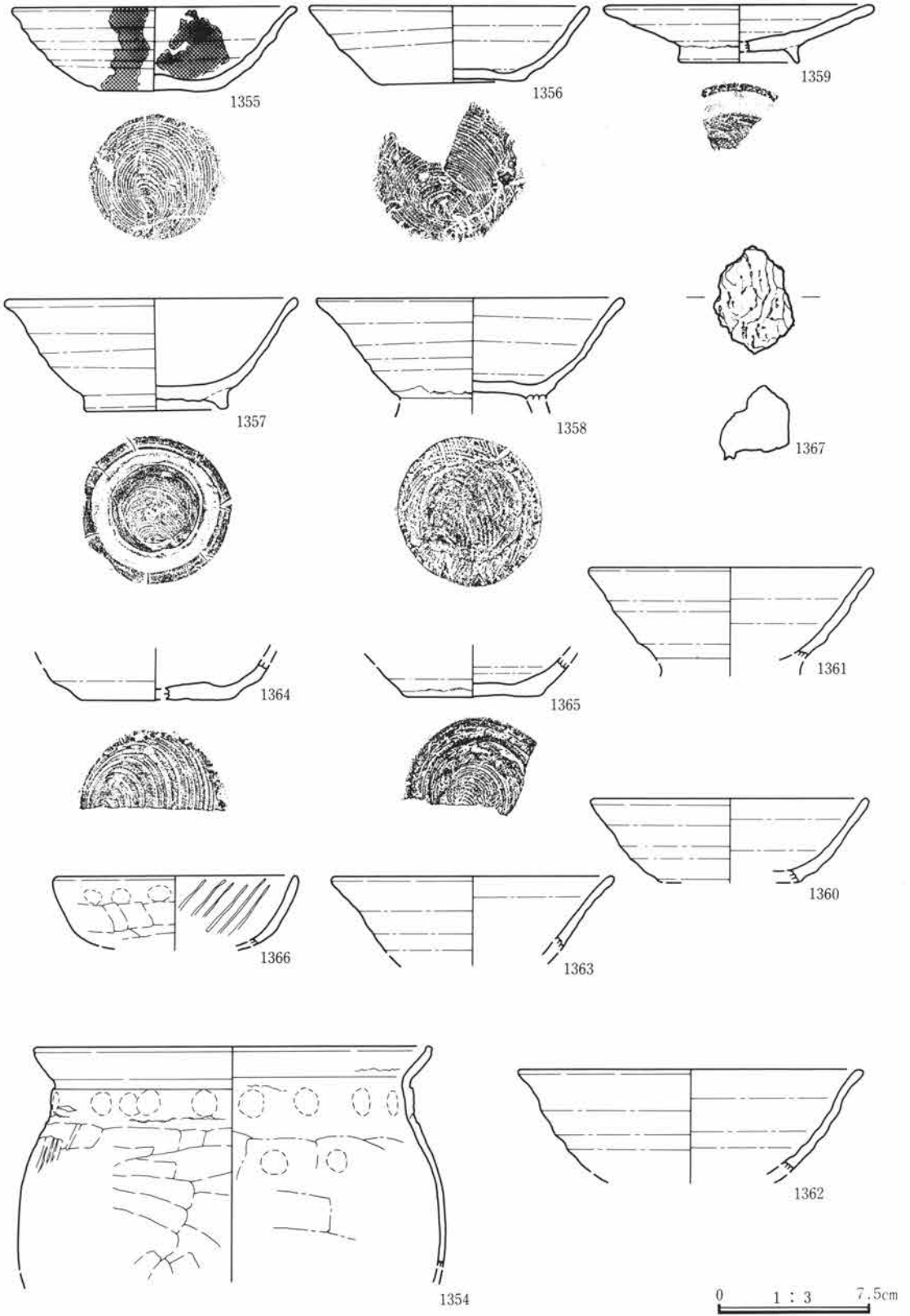
4区94号住居跡

4区I-10・11、J-10・11グリットに位置し、4区73号住居跡・4区93号住居跡・4区95号住居跡・4区96号住居跡と重複する。4区73号住居跡との新旧関係は、同住居跡の竈が当住居跡の西部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区93号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東隅が当住居跡の南西隅を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区95号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北部が当住居跡の南部を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区96号住居跡との新旧関係は、同住居跡の竈が当住居跡の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。

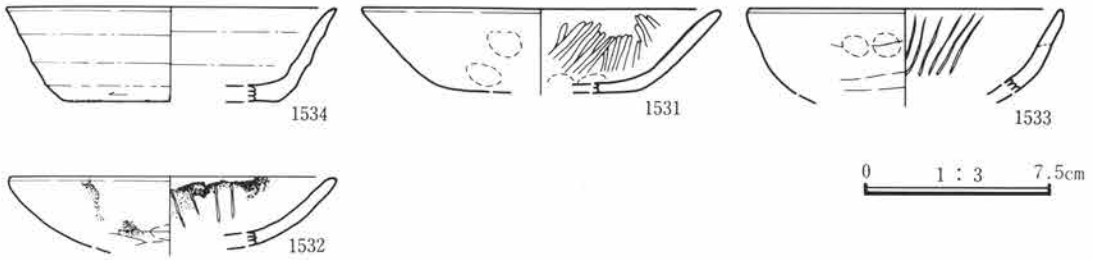
当住居跡の規模は、掘形底面での確認であり、重複による破壊も多く、不明である。床面の状態・壁の状態も不明である。竈は東壁の南よりに築かれている。燃烧部の周囲を石で固めた竈と考えられ、一部の石は組まれた状態で検出できた。また、燃烧部の覆土には炭化物・焼土の混入が見られた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、土師器の杯(1531・1532・1533)、須恵器の杯(1534)などが出土している。



第474図 4区73・94号住居跡



第475図 4区73号住居跡出土遺物



第476図 4区94号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1354	甕 土師器	器高：(107mm) 口径：[195mm] 底径：— 最大径：[208mm] 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質・橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、輪積痕・指頭痕が残り、胴部は篋削り。内面：口縁部は横なで、指頭痕が残り、胴部は篋なで、指頭痕が残る。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1355	杯 須恵器	器高：40mm 口径：140mm 底径：63mm 完形	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内面にタール又は漆付着。
1356	杯 須恵器	器高：39mm 口径：137mm 底径：71mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1357	椀 須恵器	器高：54mm 口径：145mm 底径：71mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰白・鈍い黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。燻し。
1358	椀 須恵器	器高：(48mm) 口径：152mm 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に一部油煙付着。
1359	皿 須恵器	器高：28mm 口径：[134mm] 底径：[60mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の口縁部～胴部に油煙付着。
1360	杯 須恵器	器高：(41mm) 口径：[136mm] 底径：[68mm] 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～底部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1361	椀 須恵器	器高：(44mm) 口径：[140mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1362	碗 須恵器	器高：(50mm) 口径：[169mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部回転まで。	
1363	碗 須恵器	器高：(36mm) 口径：[139mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。内外面共に口縁部～胴部は回転まで。	
1364	杯 須恵器	器高：(19mm) 口径：— 底径：[74mm] 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転まで、底部は回転糸切り。内面：胴部下端～底部は回転まで。	内外面の一部に油煙付着。
1365	碗 須恵器	器高：(19mm) 口径：— 底径：[70mm] 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転まで。	内外面に油煙付着。
1366	杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[118mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横まで、一部指頭痕が残り、胴部～底部上端は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横まで後放射状暗文を施す。	
1367	鉄 滓			鉄分を含む。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1531	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[144mm] 底径：[70mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横まで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横まで、一部指頭痕が残る。	内外面に一部油煙付着。
1532	杯 土師器	器高：(28mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横まで、胴部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横まで後放射状暗文を施す。	内外面にタール又は漆付着。
1533	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横まで、胴部は一部指頭痕が残り、胴部下端は篋削り。内面：口縁部～胴部は横まで後放射状暗文を施す。	
1534	杯 須恵器	器高：(38mm) 口径：[133mm] 底径：[86mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、胴部下端は回転篋削り、底部は回転篋切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	



## 4区74号住居跡

4区I-11・12グリットに位置し、4区73号住居跡・4区96号住居跡・4区97号住居跡・4区98号住居跡と重複する。4区73号住居跡との新旧関係は不明である。4区96号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北部の壁・床の一部が当住居跡の南部の床下より検出されたことから、当住居跡の方が新しい。4区97号住居跡・4区98号住居跡との新旧関係は不明である。

当住居跡の規模は、東西約2.3m・南北約2.7mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-32°-Eである。床面の状態は比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約20cmである。竈は東壁の南東隅近くに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約40cmである。袖は検出できなかったが、燃烧部に堆積した灰・炭化物・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は南東隅を中心に出土している。種類は、土師器の甕(1519・1520・1521)、須恵器の杯(1522・1523・1524・1525)、須恵器の椀(1526・1527)、須恵器の蓋(1528)、灰釉陶器の椀(1529)の他、覆土中から鉄製の刀子(1530)がある。

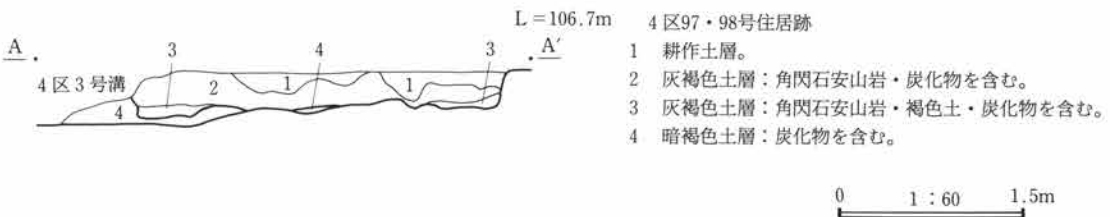
## 4区97号住居跡

4区H-11・12、I-11・12グリットに位置し、4区74号住居跡・4区76号住居跡・4区98号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。当住居跡の規模は、大部分が調査区域外のために、不明である。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。壁は殆ど検出できず、断面で約30cm確認できただけである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も少なく、須恵器の椀(1377)、須恵器の皿(1376)以外は、小破片が出土しただけである。

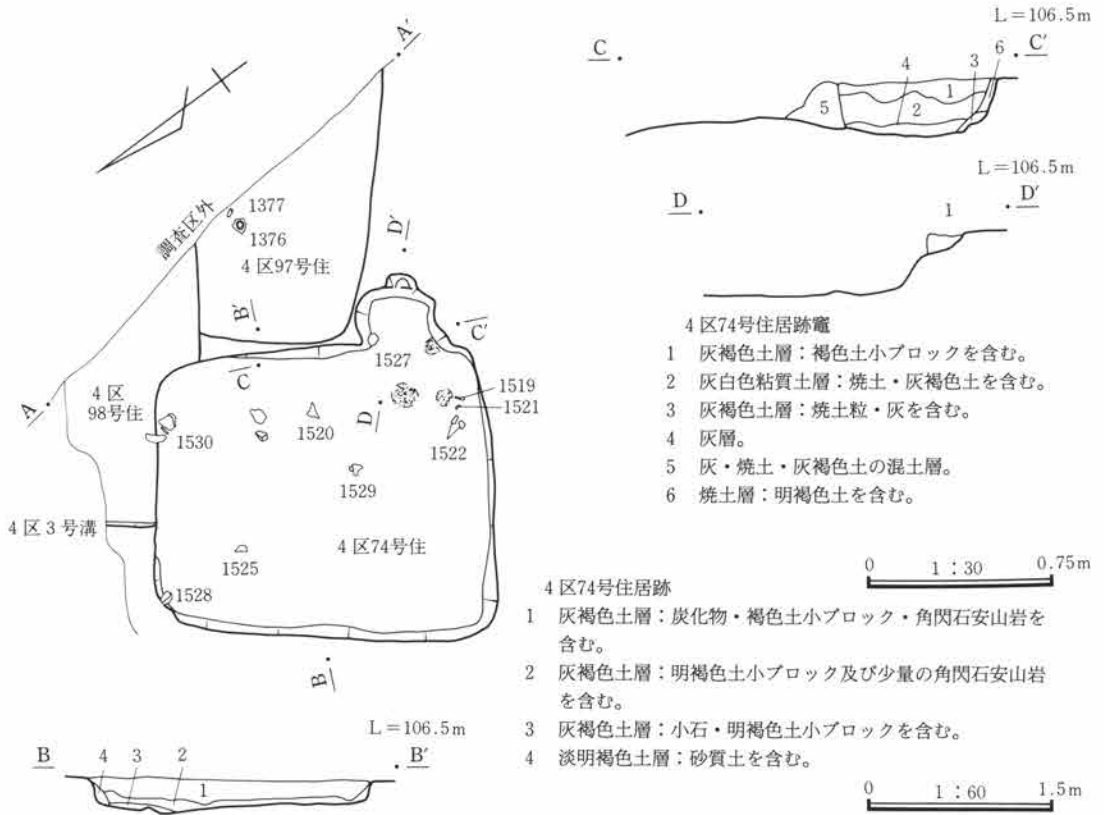
## 4区98号住居跡

4区H-12、I-12グリットに位置し、4区74号住居跡・4区97号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区74号住居跡・4区97号住居跡との新旧関係は不明である。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡に当住居跡の北部を破壊されているので、当住居跡の方が古い。

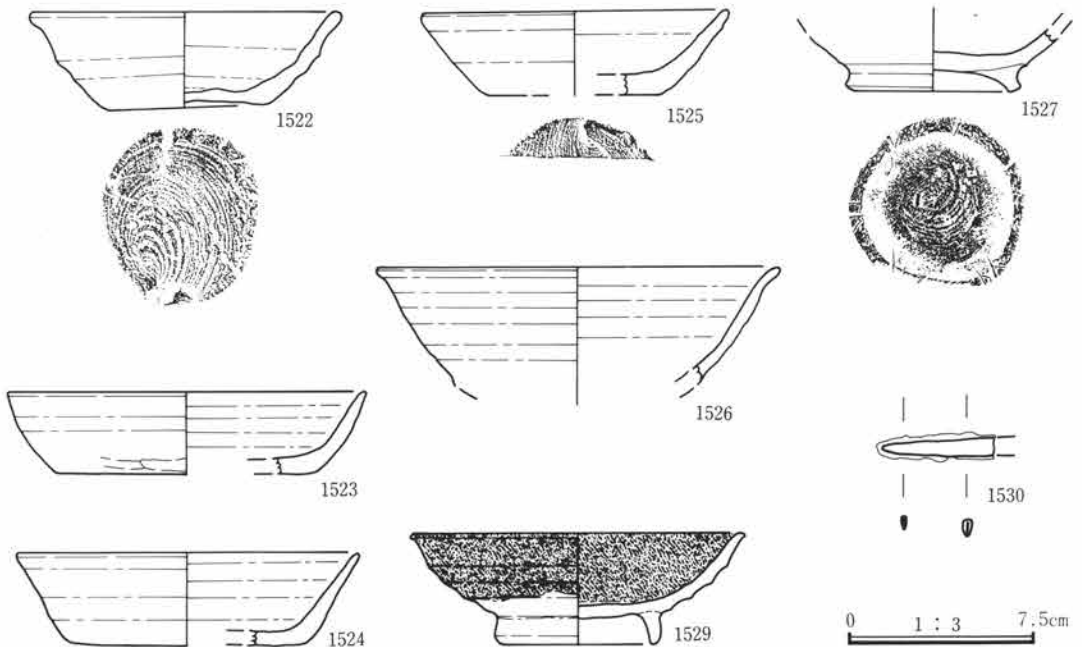
当住居跡の規模は、調査区域外及び4区3号溝跡の破壊により不明である。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦であるが、壁は殆ど検出できなかった。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も少なく、覆土中から土師器の杯(1379)、須恵器の椀(1378)、鉄製の刀子(1957)などが出土しているだけである。



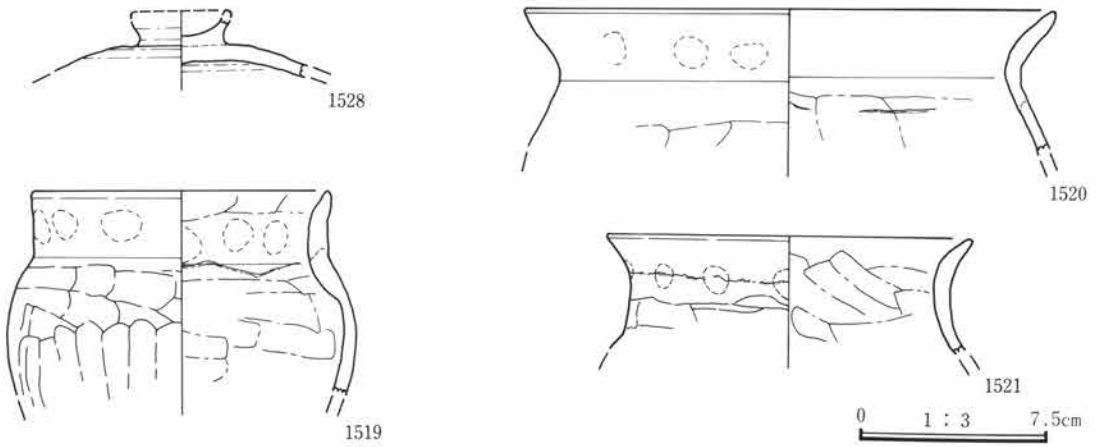
第477図 4区97・98号住居跡断面



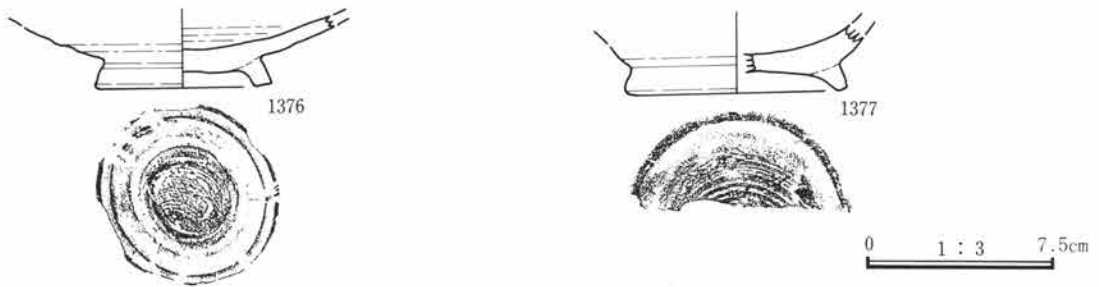
第478図 4区74・97・98号住居跡



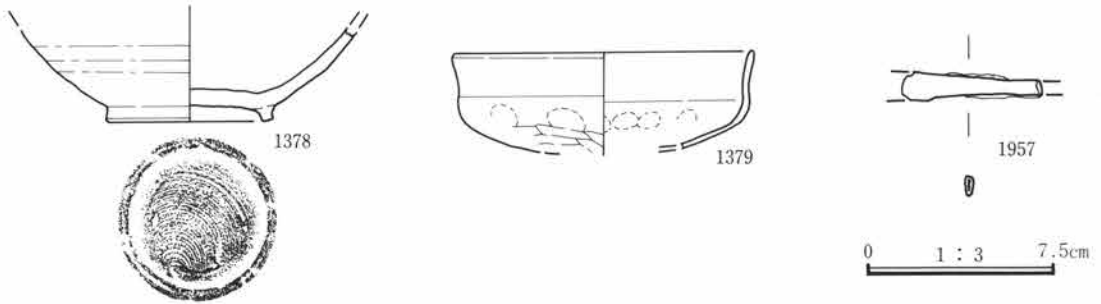
第479図 4区74号住居跡出土遺物①



第480図 4区74号住居跡出土遺物②



第481図 4区97号住居跡出土遺物



第482図 4区98号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1519	甕 土師器	器高：(81mm) 口径：120mm 底径：— 最大径：[140mm] 口縁部～胴部上半半	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。明赤褐色。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、一部指頭痕が残り、胴部上半は篋 削り。内面：口縁部は横なで、一部輪積痕・ 指頭痕が残り、胴部上半は篋なで。	内外面にやや多量 の油煙付着。二次 炎を受けている。

第IV章 発見された遺構と遺物

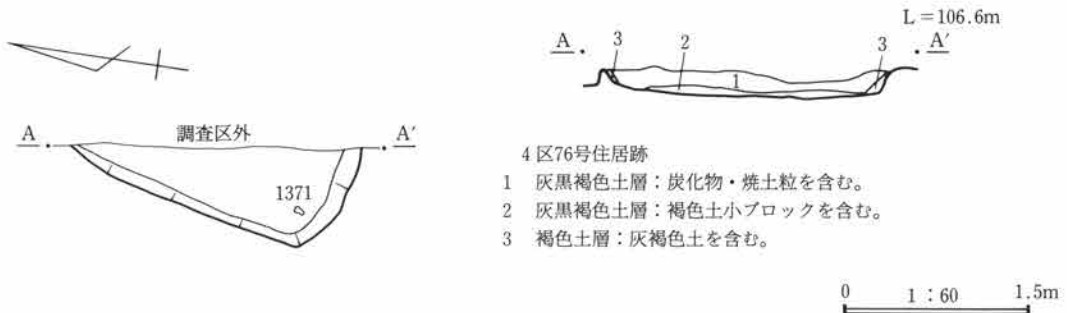
番号	器 種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器 形 ・ 技 法 の 特 徴 他	出 土 状 態 備 考
1520	甕 土 師 器	器高：(58mm) 口径：[212mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は窠削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は窠なで、一部指頭痕が残る。	内面に油煙付着。
1521	甕 土 師 器	器高：(46mm) 口径：[147mm] 底径：— 口縁部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部上半は外反。外面：口縁部上半は横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、口縁部下半は指なで。内面：口縁部上半横なで、口縁部下半は窠なで。	外面に一部油煙付着。
1522	杯 須 恵 器	器高：39mm 口径：128 底径：68mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部底部は回転なで。	
1523	杯 須 恵 器	器高：(33mm) 口径：[143mm] 底径：[102mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転窠切り後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に一部自然釉。
1524	杯 須 恵 器	器高：(37mm) 口径：[137mm] 底径：[94mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転窠切り後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に自然釉。
1525	杯 須 恵 器	器高：(33mm) 口径：[124mm] 底径：[70mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1526	椀 須 恵 器	器高：(46mm) 口径：[151mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	
1527	椀 須 恵 器	器高：(25mm) 口径：— 底径：70mm 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転なで。	内面に一部油煙付着。
1528	蓋 須 恵 器	器高：(24mm) 口径：— つまみ径：— つまみ部～天井部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。ボタン状つまみ。つまみ部は貼り付け。外面：つまみ部は回転なで、天井部上半は回転窠削り、天井部下半は回転なで。内面：天井部は回転なで。	
1529	椀 灰釉陶器	器高：44mm 口径：[133mm] 底径：69mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転窠切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面共に口縁部～胴部に施釉。
1530	刀 鉄 製 品	長：(45mm) 幅：3～7mm 厚：2～3.5mm		刀子の一部。鉄板を折り曲げて製作。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1376	皿 須恵器	器高：(28mm) 口径：一底 径：70mm 口縁部下半～高 台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回 転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部 ～底部は回転まで。	内面に油煙付着。
1377	椀 須恵器	器高：(27mm) 口径：一底 径：[90mm] 胴部下端～高 台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転まで、底 部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴 部下端～底部は回転まで。	内面に油煙付着。 燻し。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1378	椀 須恵器	器高：(37mm) 口径：一底 径：66mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白・(黒)。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回 転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。 内面：口縁部～底部は回転まで。	内外面に共に全面的 に油煙付着。燻し。
1379	杯 土師器	器高：(39mm) 口径：[119 mm] 底径：一口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。明赤 褐。	口縁部は僅かに外反。外面：口縁部は横な で、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削 り。内面：口縁部～胴部上半はなで、一部 指頭痕が残る。	内外面に油煙付 着。
1957	刀子 鉄製品	長：(56mm) 幅：7～12mm 厚：4mm		鉄板を折り曲げて製造。	

## 4区76号住居跡

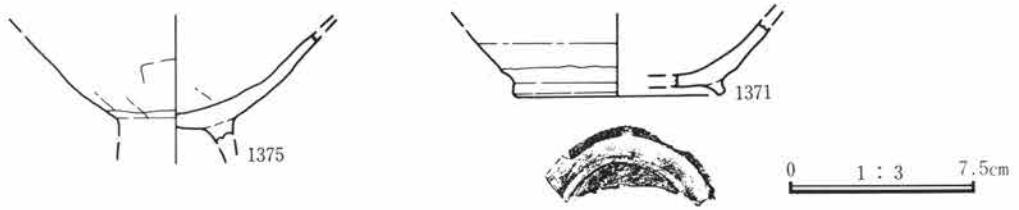
4区H-10・11、4区I-11・12グリットに位置し、4区97号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。当住居跡は南西隅の検出であり、大部分は調査区域外のために、規模は不明である。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約15～25cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、土師器の台付甕(1375)、須恵器の椀(1371)などが出土している。



4区76号住居跡

- 1 灰黒褐色土層：炭化物・焼土粒を含む。
- 2 灰黒褐色土層：褐色土小ブロックを含む。
- 3 褐色土層：灰褐色土を含む。

第483図 4区76号住居跡



第484図 4区76号住居跡出土遺物

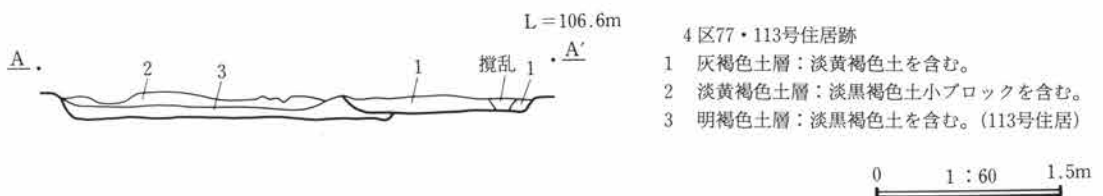
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1371	碗 須恵器	器高：(30mm) 口径：一底径：[86mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・鈍い橙。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転で。	
1375	台付甕 土師器	器高：(45mm) 口径：一底径：一胴部下端～脚部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	脚部は貼り付け。外面：胴部下端は篋削り、脚部は横で。内面：胴部下端～底部は篋削り、脚部は横で。	内外面にやや多量の油煙付着。

#### 4区77号住居跡

4区H-7、I-7グリットに位置し、4区113号住居跡と重複する。新旧関係は、4区113号住居跡の壁・床が当住居跡の覆土中に築かれていることから、当住居跡の方が古い。当住居跡の規模は、大部分が調査区域外のため、検出できたのは南西隅部分のみであり、不明である。床面の状態は比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約5～10cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、須恵器の杯(1353)以外は、小破片が出土しているだけである。

#### 4区113号住居跡

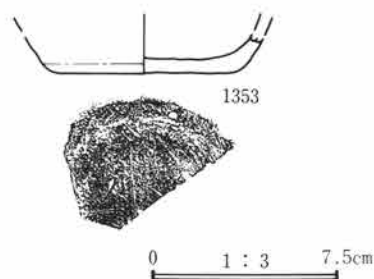
4区H-6・7グリットに位置し、4区77号住居跡と重複する。新旧関係は、4区77号住居跡の覆土中に当住居跡の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。当住居跡の規模は、大部分が調査区域外のために、検出できたのは南西隅部分のみであり、不明である。床の状態も明確に確認できなかった。残存壁高は2～3cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も非常に少なく、覆土中から小破片が出土しているだけである。



第485図 4区77・113号住居跡断面



第486図 4区77・113号住居跡



第487図 4区77号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1353	杯 須恵器	器高：(16mm) 口径：— 底径：[72mm] 胴部下端～底部%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転まで、底部は回転寛切り後まで。内面：胴部下端～底部は回転まで。	内外面に一部自然釉。

#### 4区79号住居跡

4区J-13・14、K-14グリッドに位置し、4区72号住居跡・4区78号住居跡・4区131号住居跡・4区132号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区72号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下より当住居跡の壁・床・竈が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区78号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下より当住居跡の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区131号住居跡との新旧関係は不明である。4区132号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床が当住居跡の床下より検出されたことから、当住居跡の方が新しい。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の北部の大部分を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

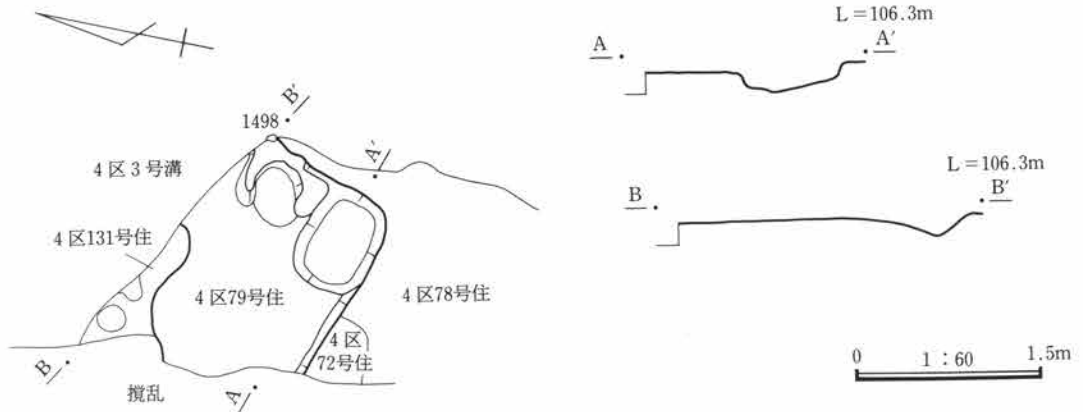
当住居跡の規模は、4区3号溝跡と攪乱に破壊され、不明である。床面の状態は比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約5cmであり、残りは悪い。竈は東壁の南よりに構築されている。袖は、上面が殆ど削られており、基部のみ検出できた。燃焼部からは灰・焼土の堆積が検出できた。竈の右脇、南東隅からは貯蔵穴と考えられるピットが検出できた。規模は、長辺約80cm・短辺約60cm・床面からの深さ約15cmであり、平面形は長方形を呈する。柱穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、竈・貯蔵穴を中心に出土している。種類は、土師器の台付甕(1497)、土師器の杯(1498・1499)、須恵器の杯(1500)などである。

#### 4区131号住居跡

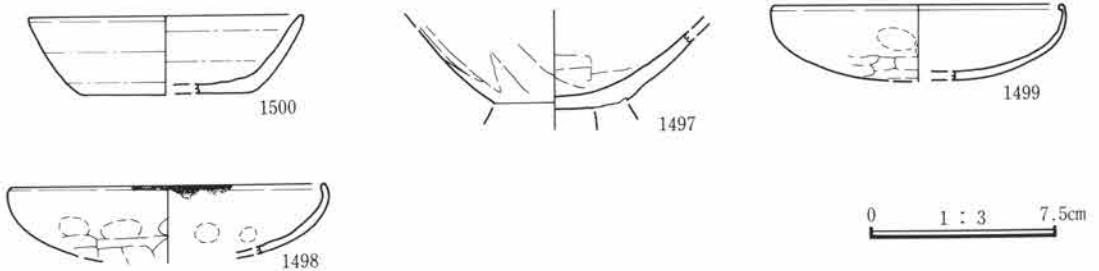
4区J-14、K-14グリッドに位置し、4区72号住居跡・4区79号住居跡・4区132号住居跡と重複する。4区72号住居跡・4区79号住居跡との新旧関係は不明である。4区132号住居跡との新旧関係は、

同住居跡の床を破壊して当住居跡の竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、大部分が攪乱により破壊されており、竈先端部のみを検出のために、不明である。竈は東壁に構築されていると推定される。袖は検出できなかったが、灰・焼土の堆積を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しているだけである。



第488図 4区79・131号住居跡

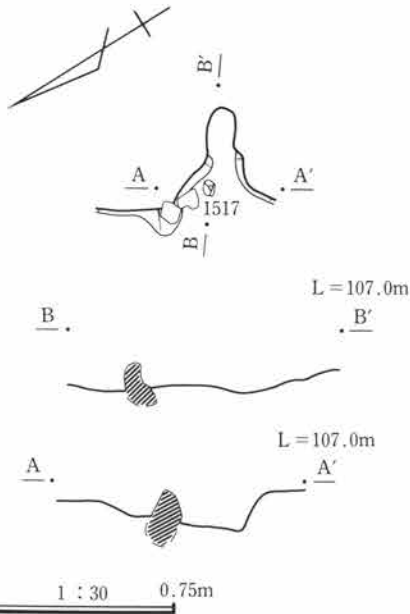


第489図 4区79号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1497	台付 土師器	器高：(35mm) 口径：一底径：一 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	外面：胴部下端は篋削り、底部はなで、脚部は貼り付け。内面：胴部下端～底部は篋なで。	外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1498	杯 土師器	器高：(28mm) 口径：[126mm] 底径：一 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	口縁端部にタール付着。
1499	杯 土師器	器高：(30mm) 口径：[116mm] 底径：一 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付着。



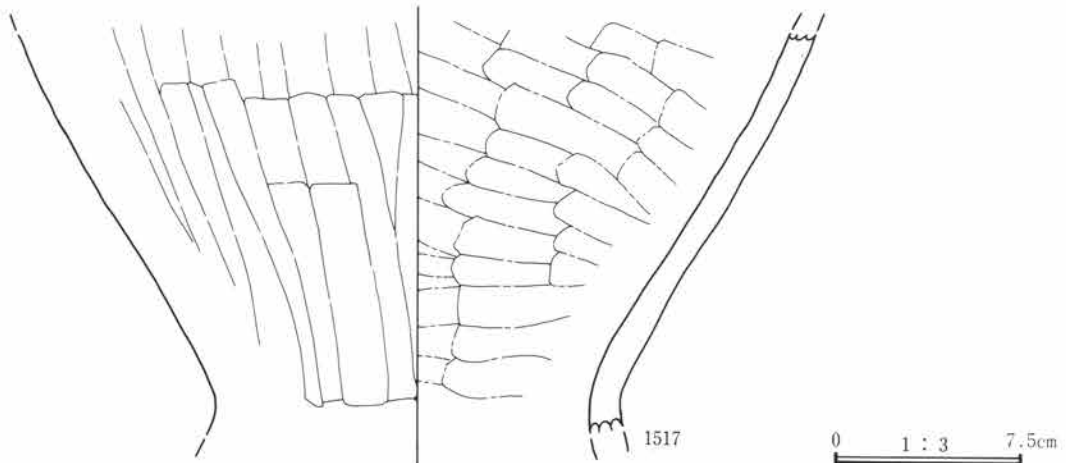
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1500	杯 須恵器	器高：(31mm) 口径：[110mm] 底径：[70mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転寛切り後で。内面：口縁部～底部は回転で。	



第490図 4区80号住居跡

## 4区80号住居跡

4区J-33、K-33グリットに位置し、4区28号溝跡と重複する。新旧関係は、4区28号溝跡の覆土中に当住居跡の竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。当住居跡は竈及び東壁の一部のみの検出であり、大部分は攪乱に破壊されているために、規模・床面の状態は不明である。残存壁高は、竈脇で約5cmである。竈は東壁に築かれている。燃烧部・煙道部の壁外への張り出しは約90cmである。竈燃烧部には、構築材に使用された石が一部残っており、燃烧部中央やや北よりには支脚に使用された石が地山に埋め込まれた状態で確認できた。また、燃烧部からは灰・焼土の堆積が確認できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少ないが、竈内から甗(1517)が出土している。



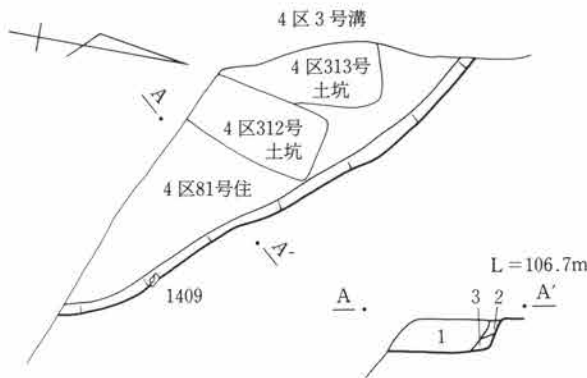
第491図 4区80号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1517	甔	器高：(155mm) 口径：一 底径：一 胴部下半 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。鈍い黄橙。	胴部下端は外反。外面：胴部下半は篋削り。 内面：胴部下半は指なで。	内外面に油煙付 着。

#### 4区81号住居跡

4区J-14・15グリットに位置し、4区82号住居跡・4区111号住居跡・4区114号住居跡・4区115号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区82号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南西部の壁・床を破壊して当住居跡の壁・床が築かれているので、当住居跡の方が新しい。4区111号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南西部の壁・床が当住居跡の床下より検出されているので当住居跡の方が新しい。4区114号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床が当住居跡の床下より検出されているので、当住居跡の方が新しい。4区115号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床が当住居跡の床下より検出されているので、当住居跡の方が新しい。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の南部の大部分を破壊しているため、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、大部分が4区3号溝跡及び攪乱に破壊されており、北壁付近のみの検出であり、不明である。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。検出できた北壁の壁高は約10～15cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、須恵器の杯(1406・1408)、須恵器の碗(1407)、須恵器の壺(1409)などが出土している。

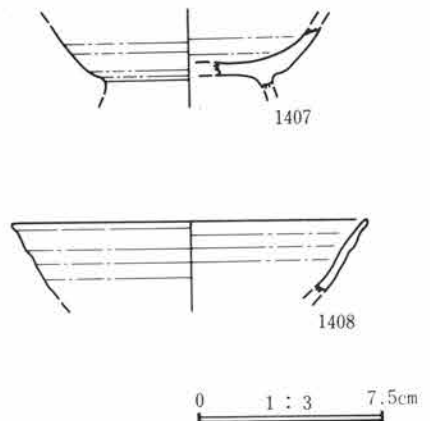


4区81号住居跡

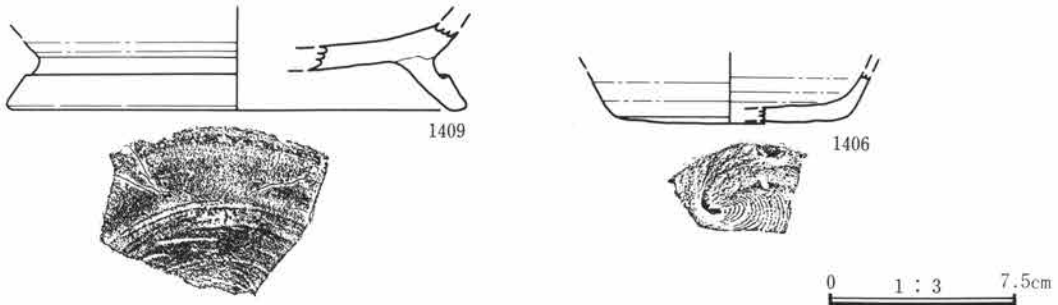
- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩・灰色粘質土小ブロックを含む。
- 2 灰褐色土層：灰色粘質土小ブロックを含む。
- 3 暗褐色土層：褐色粘質土を含む。

0 1 : 60 1.5m

第492図 4区81号住居跡



第493図 4区81号住居跡出土遺物①



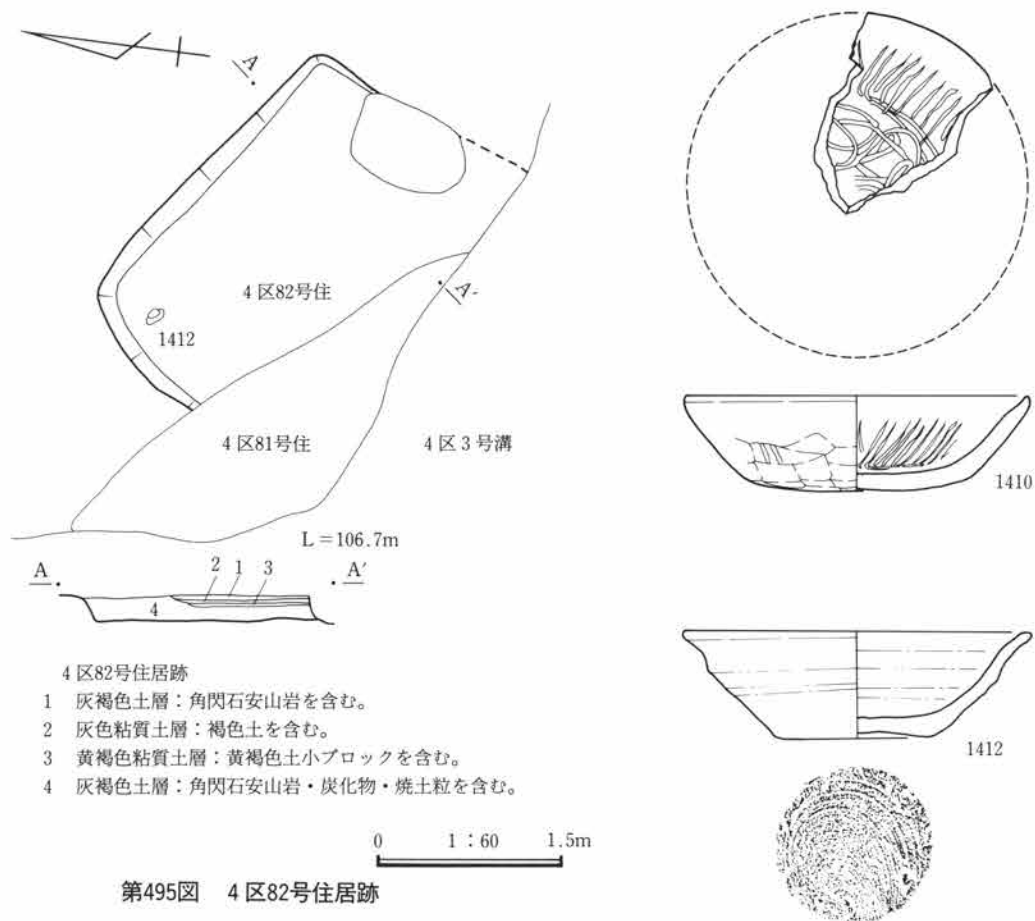
第494図 4区81号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1406	杯 須恵器	器高：(22mm) 口径：— 底径：[92mm] 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転などで、底部は回転糸切り。内面：胴部下端～底部は回転など。	外面底部に油煙付着。
1407	碗 須恵器	器高：(24mm) 口径：— 底径：— 胴部下半～高台部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転などで、底部は高台貼り付け後など。内面：胴部下半～底部は回転など。	外面に一部油煙付着。
1408	碗 須恵器	器高：(31mm) 口径：[143mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。内外面共に口縁部～胴部は回転など。	
1409	壺 須恵器	器高：(34mm) 口径：— 底径：[184mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。高台部上半は凹線状にくぼむ。外面：胴部下端は回転などで、底部は高台貼り付け後など。内面：胴部下端～底部は回転など。	

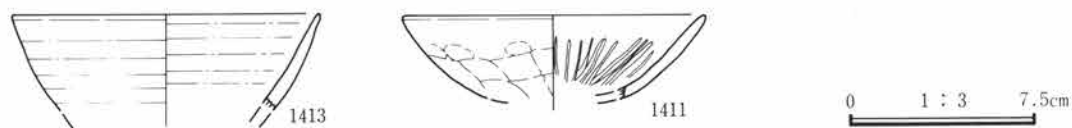
## 4区82号住居跡

4区J-14・15グリットに位置し、4区81号住居跡・4区111号住居跡・4区114号住居跡・4区115号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区81号住居跡との新旧関係は、同住居跡により当住居跡の西部の壁・床が破壊されていることから、当住居跡の方が古い。4区111号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床が当住居跡の床下より検出されていることから、当住居跡の方が新しい。4区114号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床が当住居跡の床下より検出されていることから、当住居跡の方が新しい。4区115号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の壁・床が当住居跡北西部の床下より検出されていることから、当住居跡の方が新しい。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の南半分を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、南半分を4区81号住居跡・4区3号溝跡に破壊されており確定できないが、東西は約3.0mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。床面の状態は比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約20cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、土師器の杯(1410・1411)、須恵器の杯(1412・1413)などが出土している。



第495図 4区82号住居跡



第496図 4区82号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1410	杯 土器	器高：38mm 口径：[138mm] 底径：— 口縁部～底部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで後渦巻き状暗文を施す。	
1411	杯 土器	器高：(33mm) 口径：[121mm] 底径：— 口縁部～胴部%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部上半は一部指頭痕が残り、胴部下半は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1412	杯 須恵器	器高：43mm 口径：139mm 底径：64mm 口縁部～底部 %	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回 転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1413	椀 須恵器	器高：(38mm) 口径：[123 mm] 底径：一口縁部～胴 部%	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	外面に自然釉。

#### 4区83号住居跡

4区J-16グリットに位置し、4区69号住居跡・4区84号住居跡・4区85号住居跡・4区103号住居跡・4区130号住居跡と重複する。4区69号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東隅が当住居跡の西壁の一部を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区84号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床を当住居跡が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。4区85号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西側の壁・床を当住居跡の北東部の壁・床が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。4区103号住居跡との新旧関係は、同住居跡が当住居跡の床下より検出されたので、当住居跡の方が新しい。4区130号住居跡との新旧関係は不明である。

当住居跡の規模は、南側部分が検出できず、確定できないが、東西は約2.8mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。検出できた北側の床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。北壁の立ち上がりは、約10～15cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、覆土中から土師器の杯(1535・1536・1537)、須恵器の蓋(1538)が出土している。

#### 4区84号住居跡

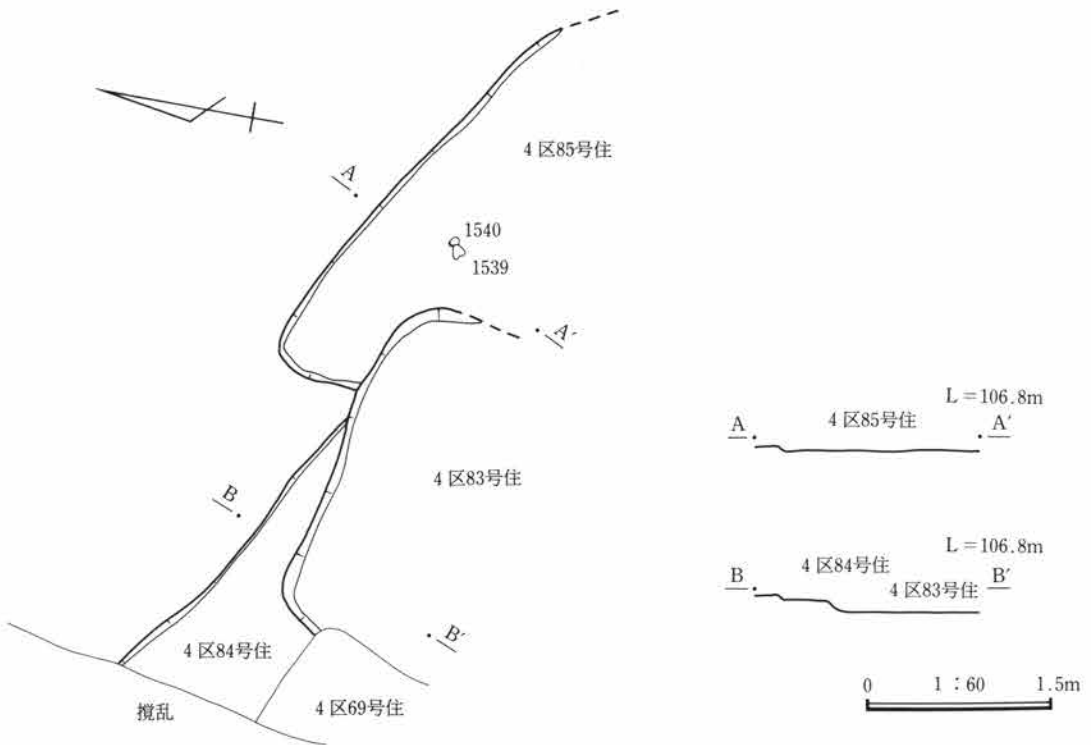
4区J-16グリットに位置し、4区69号住居跡・4区83号住居跡・4区99号住居跡・4区103号住居跡と重複する。4区69号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部が当住居跡の床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区83号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北部が当住居跡の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区99号住居跡との新旧関係は、同住居跡が当住居跡の床下より検出されたことから、当住居跡の方が新しい。4区103号住居跡との新旧関係は、同住居跡が当住居跡の床下より検出されたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、大部分が重複・攪乱により破壊されていることから、不明である。床面の状態はやや軟弱であるが、ほぼ平坦である。確認できた北壁の立ち上がりは約5cmであり、残りは悪い。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しているだけである。

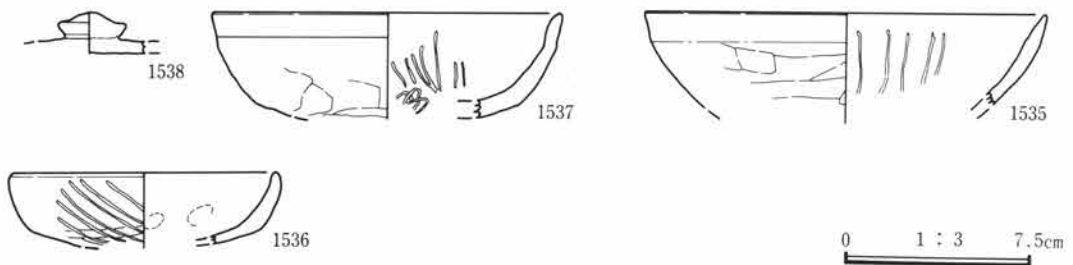
4区85号住居跡

4区I-16、J-16グリットに位置し、4区71号住居跡・4区83号住居跡・4区103号住居跡・4区130号住居跡と重複する。4区71号住居跡との新旧関係は不明である。4区83号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部が当住居跡の西側の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区103号住居跡との新旧関係は、同住居跡の竈燃焼部が当住居跡の床下より検出されていることから、当住居跡の方が新しい。4区130号住居跡との新旧関係は、同住居跡が当住居跡の床下より検出されていることから、当住居跡の方が新しい。

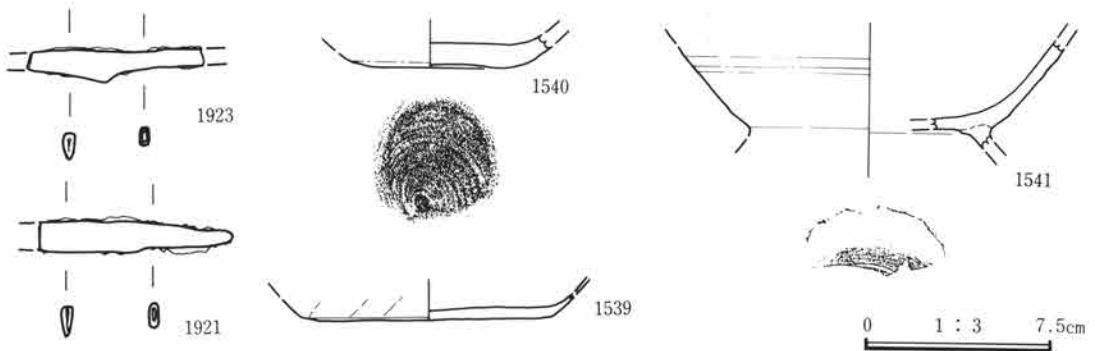
当住居跡の規模は、北部以外は検出できなかったもので、不明である。床面の状態はやや軟弱であるが、ほぼ平坦である。検出できた北壁の残存状態は、約2～5cmであり、残りは悪い。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は土師器の杯(1539・1540)、須恵器の椀(1541)の他、鉄製の刀子(1921・1923)が出土している。



第497図 4区83・84・85号住居跡



第498図 4区83号住居跡出土遺物



第499図 4区85号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1535	杯 土師器	器高:(37mm) 口径:[160mm] 底径:— 口縁部~胴部%	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	胴部~口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面:口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面:口縁部~胴部は横なで後放射状暗文を施す。	内外面に一部油煙付着。
1536	杯 土師器	器高:(28mm) 口径:[107mm] 底径:— 口縁部~胴部上端%	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部~口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面:口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面:口縁部~胴部上端は横なで。	
1537	杯 土師器	器高:(42mm) 口径:[140mm] 底径:— 口縁部~底部上端%	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部~口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面:口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面:口縁部~胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	
1538	蓋 須恵器	器高:(17mm) 口径:— つまみ径:26mm つまみ部~天井部上端%	径1~2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。疑宝珠つまみ。つまみ部は貼り付け。内外面共に天井部上端はなで。	内面に自然釉。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1539	杯 土師器	器高:(11mm) 口径:— 底径:[100mm] 胴部下端底部%	径1~2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	外面:胴部下端~底部は篋削り。内面:胴部下端~底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
1540	杯 須恵器?	器高:(13mm) 口径:— 底径:68mm 胴部下端~底部%	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。明赤褐。	轆轤整形、右回転。外面:胴部下端は回転なで、底部は回転系切り。内面:胴部下端~底部は回転なで。	
1541	椀 須恵器	器高:(43mm) 口径:— 底径:— 口縁部下半~高台部%	径2~3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部~口縁部は直線的に広がる。外面:口縁部~胴部は回転なで、底部は回転系切り後高台貼り付け。内面:口縁部~底部は回転なで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1921	刀子 鉄製品	長：(77mm) 幅：5～13mm 厚：4.5～5mm		鉄板を折り曲げて製造。	
1923	刀子 鉄製品	長：(70mm) 幅：7～14mm 厚：4mm		鉄板を折り曲げて製造。	

#### 4区86号住居跡

4区J-17グリットに位置し、4区87号住居跡・4区99号住居跡と重複する。4区87号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床面を破壊して当住居跡の竈が築かれているので、当住居跡の方が新しい。4区99号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北側の壁・床を破壊して当住居跡が築かれているので、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、大部分が攪乱により破壊されており、竈燃焼部のみ検出されているために不明である。床面・壁の状態も不明である。竈は、東壁に構築されており、袖は検出できなかったが、燃焼部に堆積した灰・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しただけである。

#### 4区87号住居跡

4区J-16・17グリットに位置し、4区61号住居跡・4区67号住居跡・4区86号住居跡・4区99号住居跡と重複する。4区61号住居跡との新旧関係は、同住居跡により当住居跡の中央から東側の壁・床・竈が破壊されていることから、当住居跡の方が古い。4区67号住居跡との新旧関係は不明である。4区86号住居跡との新旧関係は、同住居跡の竈が当住居跡の床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。4区99号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床・竈が当住居跡の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は重複・攪乱により破壊されているために確定できないが、南北は約3.6mであり、平面形は不整形な隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定している。床面はやや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。残存壁高は約5～10cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も少ないが、南壁脇から砥石(1545)が出土している他、覆土中から土師器の杯(1542)、須恵器の碗(1543・1544)が出土している。

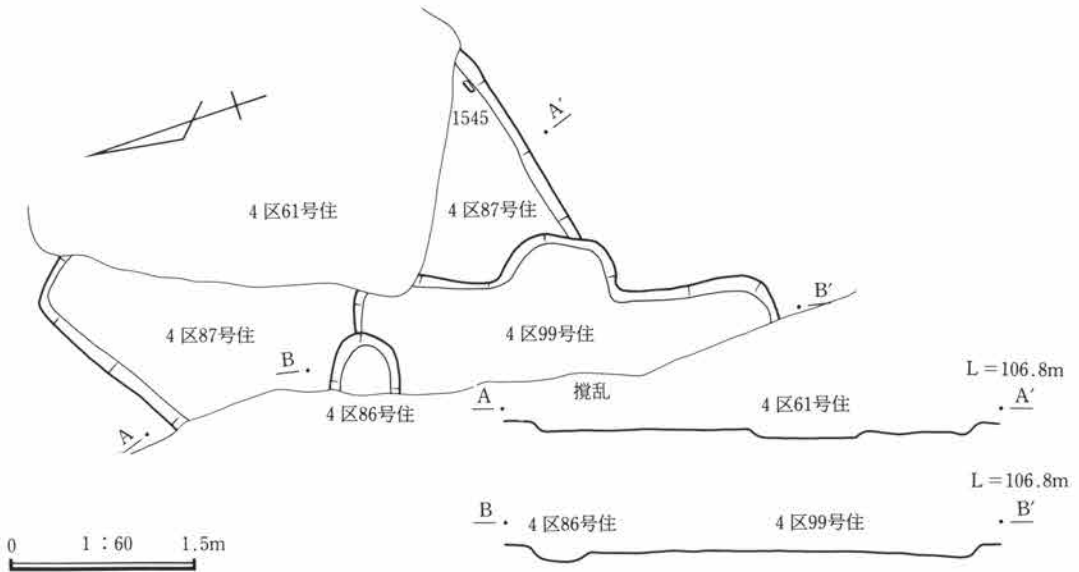
#### 4区99号住居跡

4区J-16・17、I-16グリットに位置し、4区61号住居跡・4区69号住居跡・4区84号住居跡・4区86号住居跡・4区87号住居跡・4区103号住居跡と重複する。4区61号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南西隅が当住居跡の北東隅を破壊していることから当住居跡の方が古い。4区69号住居跡と

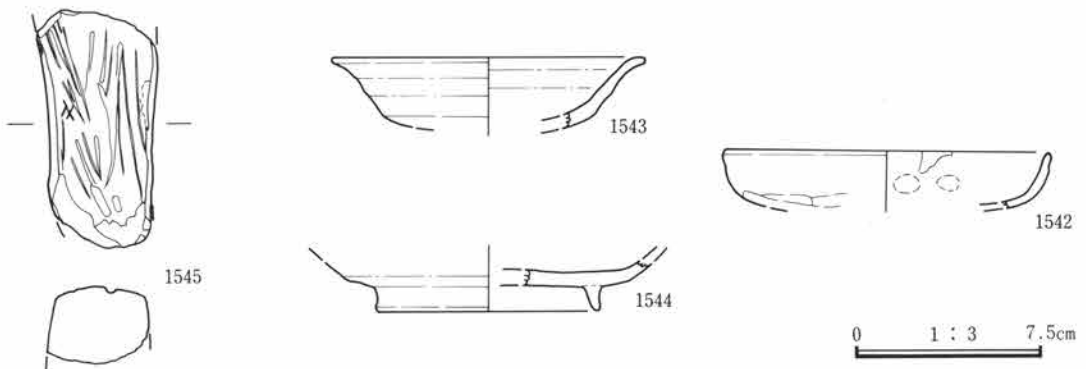


の新旧関係は、同住居跡の下面より当住居跡の壁・床が検出されていることから、当住居跡の方が古い。4区84号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下に当住居跡の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が古い。4区86号住居跡との新旧関係は、同住居跡の竈が当住居跡の北壁を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。4区87号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床を破壊して当住居跡の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区103号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西側の壁・床を破壊して当住居跡の東側の壁・床・竈が築かれていることから当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、西側の大部分が攪乱により破壊されており確定できないが、南北約3.4mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。床面の状態はやや軟弱であるが、ほぼ平坦である。竈は東壁に構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約40cmである。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、燃烧部に堆積した灰・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しただけである。



第500図 4区86・87・99号住居跡

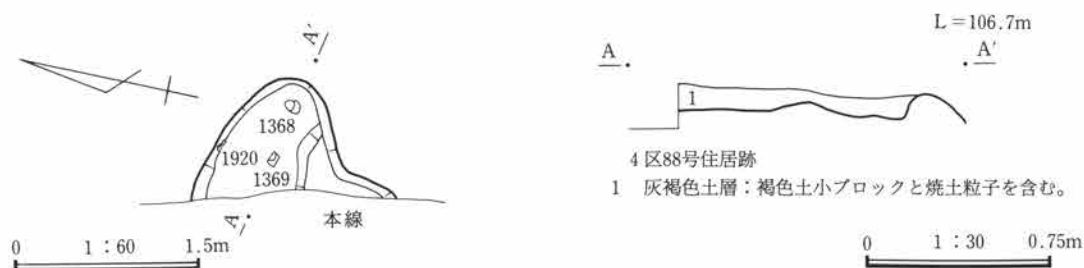


第501図 4区87号住居跡出土遺物

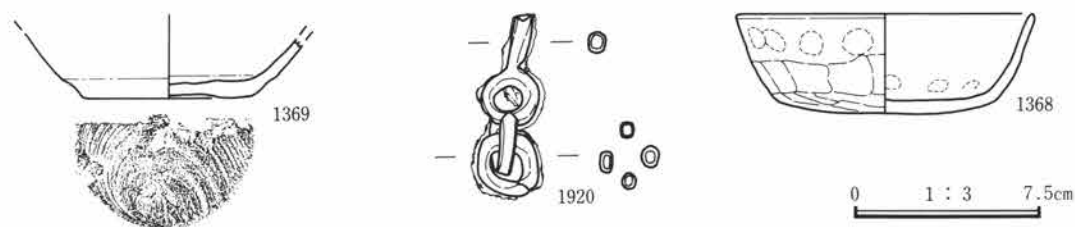
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1542	杯 土師器	器高：(23mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部はなで、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	内外面に一部油煙付着。
1543	碗 須恵器	器高：(28mm) 口径：[125mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	
1544	皿 須恵器	器高：(20mm) 口径：— 底径：[88mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部はやや内湾。外面：胴部下半は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下半～底部は回転なで。	内面に一部自然釉。
1545	砥石	長：(95mm) 幅：48mm 厚：31mm 重：151.0g	砥沢石。	使用面は、3面。表面に金属による傷あり。	

#### 4区88号住居跡

4区J-11、K-11グリットに位置し、4区96号住居跡と重複する。新旧関係は、4区96号住居跡の南西隅を当住居跡の竈が破壊していることにより、当住居跡の方が新しい。当住居跡の規模は、大部分が攪乱により破壊されており、竈部のみの検出であるために、不明である。床面・壁の状態も不明である。竈は東壁に構築されていると推定される。燃焼部の覆土には焼土が混入していることが確認できた。遺物は少ないが、土師器の杯(1368)、須恵器の杯(1369)、鉄製品(1920)などが出土している。



第502図 4区88号住居跡



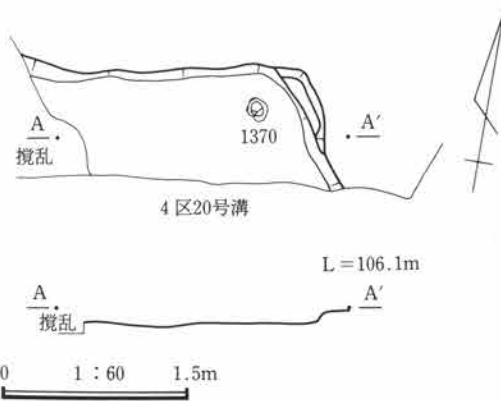
第503図 4区88号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1368	杯 土器	器高：40mm 口径：[120mm] 底径：80mm 口縁部～底部 1/2	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部は 横なで、胴部上半は指頭痕が残り、胴部下 半～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上 端は横なで、指頭痕が残り、底部はなで。	
1369	杯 須恵器	器高：(24mm) 口径：一 底 径：[68mm] 胴部下半～底 部1/2	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転 なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下半 ～底部は回転なで。	
1920	? 鉄製品	直径：4～7mm		鉄製の和が鎖状に繋がっている。馬具の一部 か。	

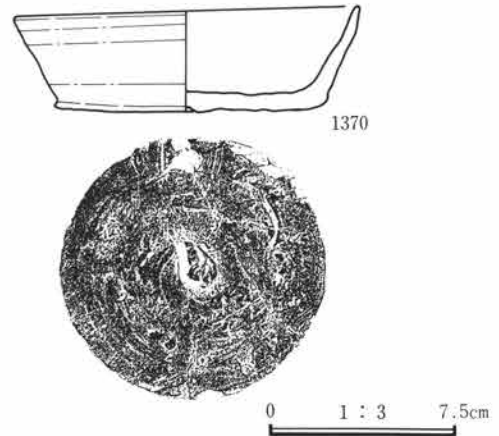
## 4区89号住居跡

4区I-2、J-2グリットに位置し、4区2号溝跡・4区20号溝跡と重複する。4区2号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の床下より検出されていることから、当住居跡の方が新しい。4区20号溝跡との新旧関係は、同溝跡により当住居跡の南半分が破壊されていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、南半分が4区20号溝跡に破壊され、西半分が攪乱により破壊されているために不明である。検出できた北東部の床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約10cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物の出土も非常に少なく、須恵器の杯(1370)以外は、覆土中から小破片が出土しているだけである。



第504図 4区89号住居跡



第505図 4区89号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1370	杯 須恵器	器高：42mm 口径：138mm 口径：109mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回 転篋削り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面の一部に油煙 付着。

#### 4区91号住居跡

4区I-9・10、J-9・10グリットに位置し、4区93号住居跡・4区95号住居跡・4区104号住居跡・4区107号住居跡・4区109号住居跡・4区123号住居跡・4区124号住居跡と重複する。4区93号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の壁・床・竈が当住居跡の北西部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区95号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南部の覆土中に当住居跡の北部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区104号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南西部の覆土中に当住居跡の北東部の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区107号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南部の床が当住居跡の床下から検出されたことから、当住居跡の方が新しい。4区109号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の壁・床が当住居跡の南西部の床下から検出されたことから、当住居跡の方が新しい。4区123号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床・竈が当住居跡の床下から検出されたことから、当住居跡の方が新しい。4区124号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の壁・床が当住居跡南西部の床下から検出されたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、重複による破壊で確定できないが、東西約3.4m・南北約2.9mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-23°-Eである。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。残存壁高は、確認できた南西隅で約5cmである。竈は東壁の南よりに構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約60cmである。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、燃焼部に堆積した灰・焼土を確認することができた。南東隅からは貯蔵穴と考えられるピットが検出された。規模は、長軸90cm・短軸約70cm・床面からの深さ約15cmであり、平面形は楕円形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかった。遺物は少ないが、須恵器の蓋(1423・1424)などが出土している。

#### 4区93号住居跡

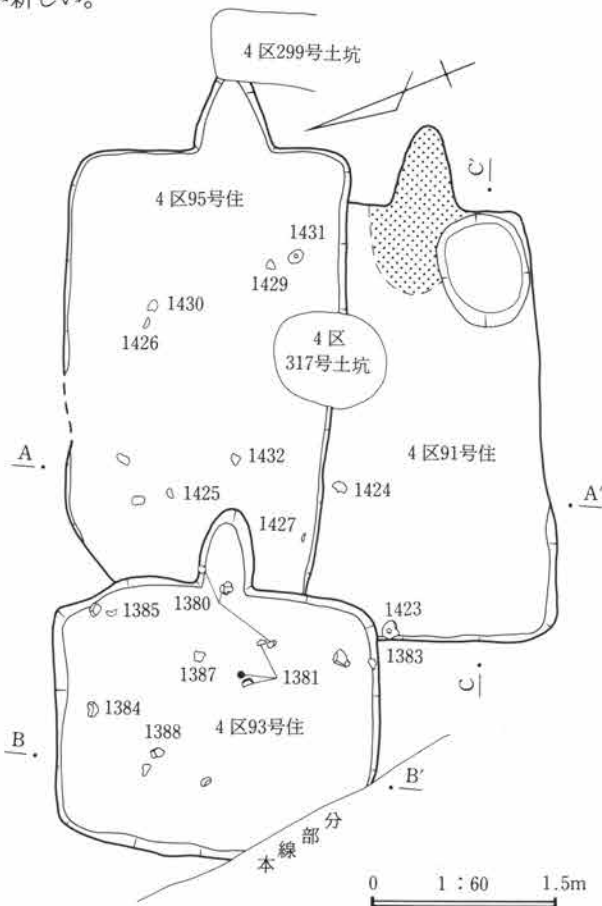
4区J-11、K-11グリットに位置し、4区91号住居跡・4区94号住居跡・4区95号住居跡・4区107号住居跡・4区123号住居跡・4区124号住居跡と重複する。4区91号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西部の壁・床を破壊して当住居跡の東部の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区94号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南西隅の壁・床を破壊して当住居跡の北東隅の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区95号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西部の壁・床を破壊して当住居跡の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区107号住居跡との新旧関係は、同住居跡の覆土中に当住居跡の床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区123号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西部の床が当住居跡の東部の床・竈の下から検出されたことから、当住居跡の方が新しい。4区124号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の床上から当住居跡の床が検出されていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約2.2m・南北約2.6mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。床面の状態は竈を中心に比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約10cmである。竈は東壁のほぼ中央に構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約60cmである。袖は検出することができなかったが、燃焼部に堆積した灰・炭化物・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物

は竈周辺を中心に出土している。種類は、土師器の甕(1380)、土師器の台付甕(1383)、土師器の杯(1381・1382)、須恵器の杯(1384・1386)、須恵器の椀(1385)、須恵器の皿(1387)、須恵器の壺(1388)などがある。

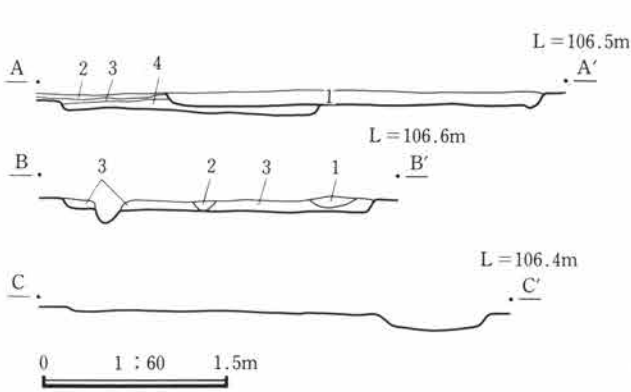
#### 4区95号住居跡

4区I-9・10、J-9・10グリットに位置し、4区91号住居跡・4区93号住居跡・4区94号住居跡・4区104号住居跡・4区105号住居跡・4区123号住居跡と重複する。4区91号住居跡との新旧関係は、同住居跡北部の床下から当住居跡の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区93号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東部の壁・床・竈が当住居跡の西部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。4区94号住居跡との新旧関係は、同住居跡南東部の壁・床を破壊して当住居跡の北西部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区104号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の壁・床を破壊して当住居跡の北東部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区105号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の壁・床を破壊して当住居跡の東部の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区123号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床・竈が当住居跡の床下から検出されたことから、当住居跡の方が新しい。



当住居跡の規模は、東西は3.4m以上であり、南北は約2.2mであり、平面形は隅丸長方形を呈すると推定される。床面の状態はほぼ平坦であり、東部は比較的硬いが、西部はやや軟弱な部分がある。残存壁高は、残りの良い東部で約5～10cmである。竈は東壁の中央付近に構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約60cmである。袖は検出できなかったが、燃焼部に堆積した灰・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は、土師器の甕(1425)、土師器の杯(1426・1427・1428)、須恵器の杯(1429・1430)、須恵器の壺(1431)、須恵器の蓋(1432)などが出土している。

第506図 4区91・93・95号住居跡



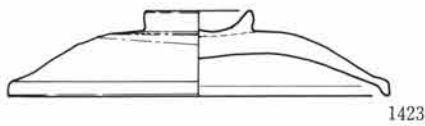
4区91・95号住居跡 (A-A')

- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩・焼土粒子・炭化物を含む。(91号住居)
- 2 淡黒褐色土層：角閃石安山岩を含む。(95号住居)
- 3 灰褐色土層：淡褐色土小ブロックを含む。(95号住居)
- 4 灰褐色土層：褐色土小ブロック・焼土粒子を含む。(95号住居)

4区93号住居跡 (B-B')

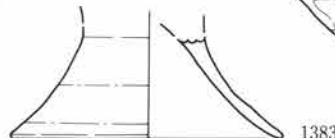
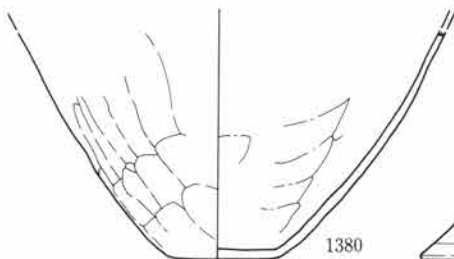
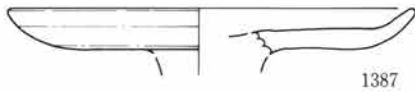
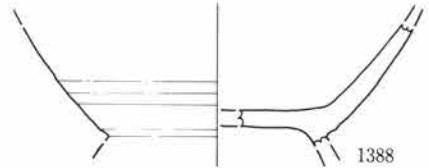
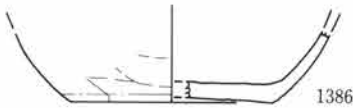
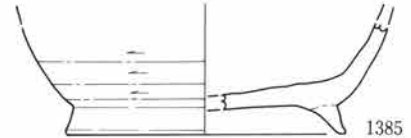
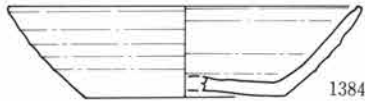
- 1 灰褐色土層：褐色土小ブロックを含む。
- 2 灰褐色土層：焼土・灰・灰褐色土を含む。
- 3 灰褐色土層：灰・焼土粒子を含む。

第507図 4区91・93・95号住居跡断面・エレベーション



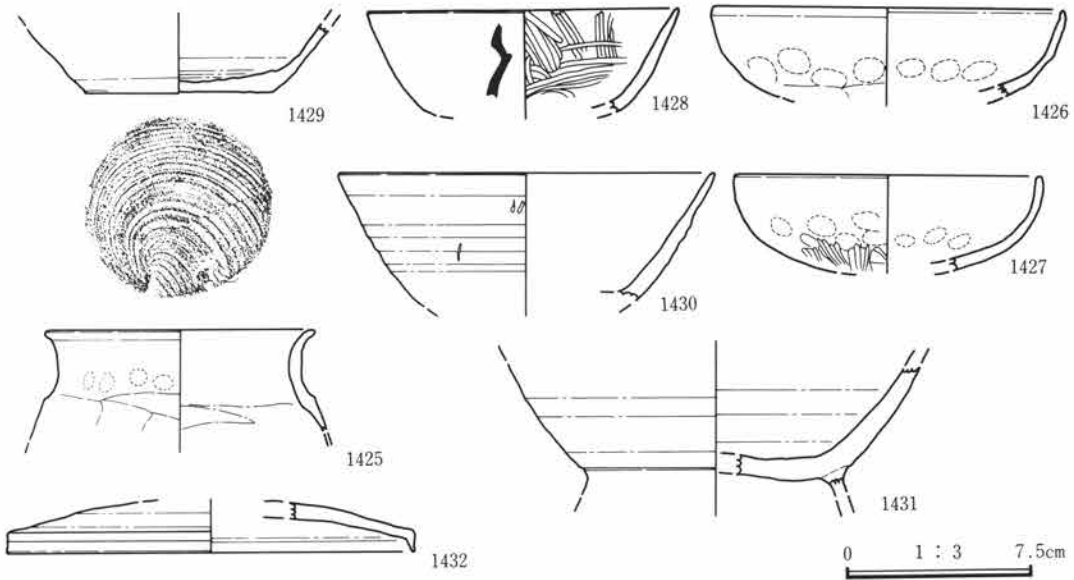
0 1 : 3 7.5cm

第508図 4区91号住居跡出土遺物



0 1 : 3 7.5cm

第509図 4区93号住居跡出土遺物



第510図 4区95号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1423	蓋 須恵器	器高：(34mm) 口径：[153mm] つまみ径：47mm つまみ部～口縁部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。返りは短い。ボタン状つまみ。つまみ部は貼り付け。外面：つまみ部は回転などで、天井部上半は回転斲削り、天井部下半～口縁部は回転などで。内面：天井部～口縁部は回転などで。	
1424	蓋 須恵器	器高：(28mm) 口径：[190mm] 天井部～口縁部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。返りは短い。外面：天井部上半は回転斲削り、天井部下半～口縁部は回転などで。内面：天井部～口縁部は回転などで。	外面口縁部に自然釉。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1380	甕 土師器	器高：(90mm) 口径：— 底径：[42mm] 胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	外面：胴部下半～底部は斲削り。内面：胴部下半～底部は篋などで。	外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1381	杯 土師器	器高：(36mm) 口径：[140mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部は横などで、胴部～底部は斲削り。内面：口縁部～底部上端は横などで後放射状暗文を施す。	
1382	杯 土師器	器高：(35mm) 口径：[128mm] 底径：[65mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横などで、胴部～底部は斲削り、胴部は一部指頭痕が残る。内面：口縁部～胴部は横などで後放射状暗文を施し、底部は横などで後渦巻き状暗文を施す。	内面に一部油煙付着。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1383	台付 土師器	器高：(43mm) 口径：— 底径：109mm 脚部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	脚部は「ハ」字状に開く。内外面共に脚部は横なで。	外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1384	杯 須恵器	器高：(36mm) 口径：[142mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1385	碗 須恵器	器高：(45mm) 口径：— 底径：[112mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転篋削り、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
1386	杯 須恵器	器高：(29mm) 口径：— 底径：[82mm] 胴部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転なで、胴部下端は回転篋削り、底部は回転篋切り後なで。内面：胴部～底部は回転なで。	外面に一部自然釉。
1387	皿 須恵器	器高：(13mm) 口径：[163mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は短く直線的に広がる。外面：口縁部～底部上半は回転なで、底部下半は高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1388	壺 須恵器	器高：(49mm) 口径：— 底径：— 胴部下半～高台部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白・灰。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底部は高台貼り付け後回転なで。内面：胴部下半～底部は回転なで。	外面に自然釉。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1425	甕 土師器	器高：(40mm) 口径：[108mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。
1426	杯 土師器	器高：(35mm) 口径：[140mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	
1427	杯 土師器	器高：(38mm) 口径：[124mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明黄褐。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1428	杯 土師器	器高：(41mm) 口径：[120mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後篋磨き。	内外面に油煙付着。外面胴部に墨書。釈読不能。
1429	杯 須恵器	器高：(27mm) 口径：— 底径：77m 胴部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部～底部は回転なで。	

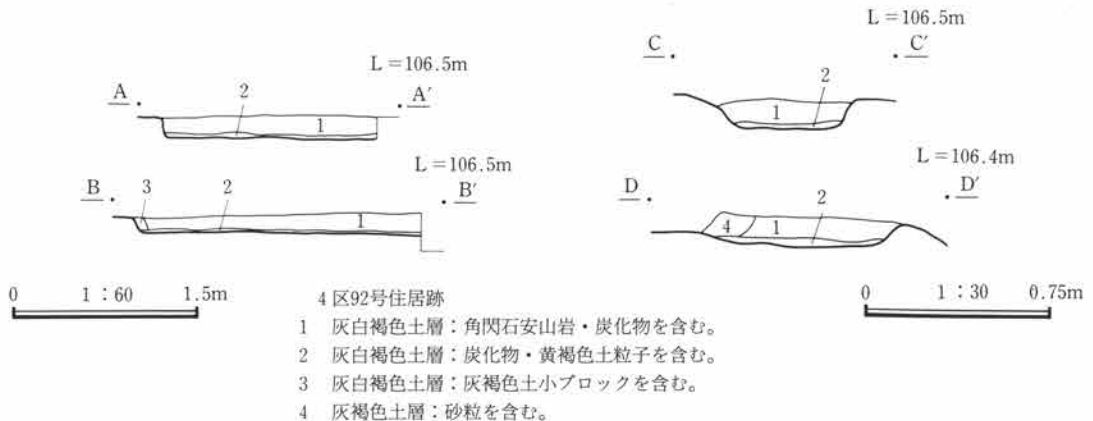


番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1430	杯 須恵器	器高：(51mm) 口径：[150mm] 底径：一口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部口縁部は直線的に広がる。内外面共に口縁部～胴部は回転まで。	
1431	壺 須恵器	器高：(46mm) 口径：一口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$ 底径：一口縁部～高台部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転まで、底部は高台貼り付け後回転まで。内面：胴部下半～底部は回転まで。	
1432	蓋 須恵器	器高：(20mm) 口径：[164mm] 天井部～口縁部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。返りは短い。内外面共に天井部～口縁部は回転まで。	

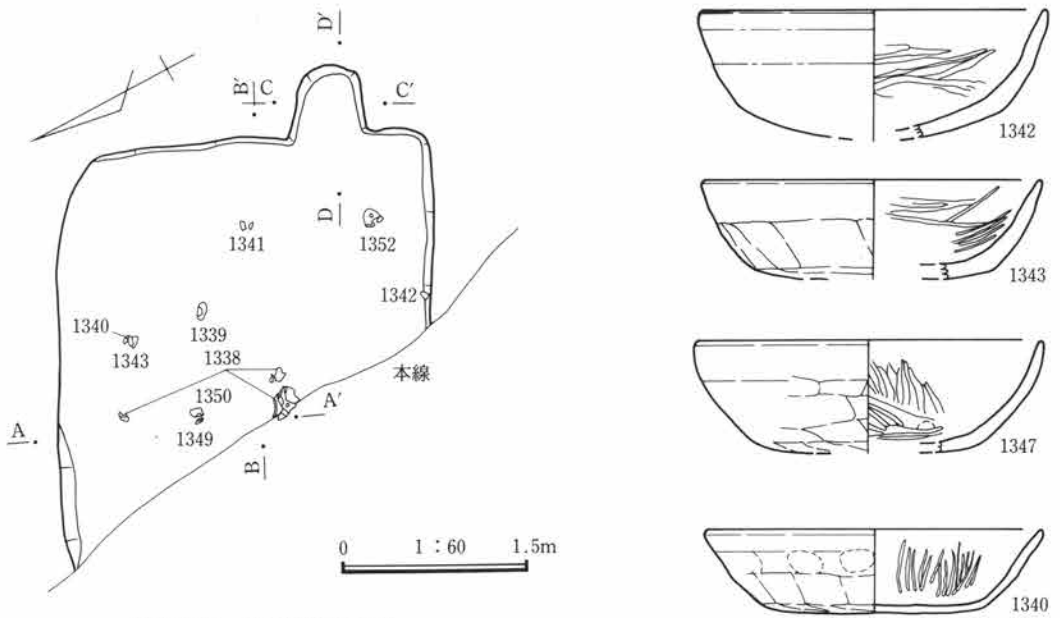
## 4区92号住居跡

4区J-8・9、K-8・9グリットに位置し、4区108号住居跡・4区109号住居跡と重複する。4区108号住居跡との新旧関係は、同住居跡の覆土中に当住居跡の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区109号住居跡との新旧関係は、同住居跡の覆土中に当住居跡の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

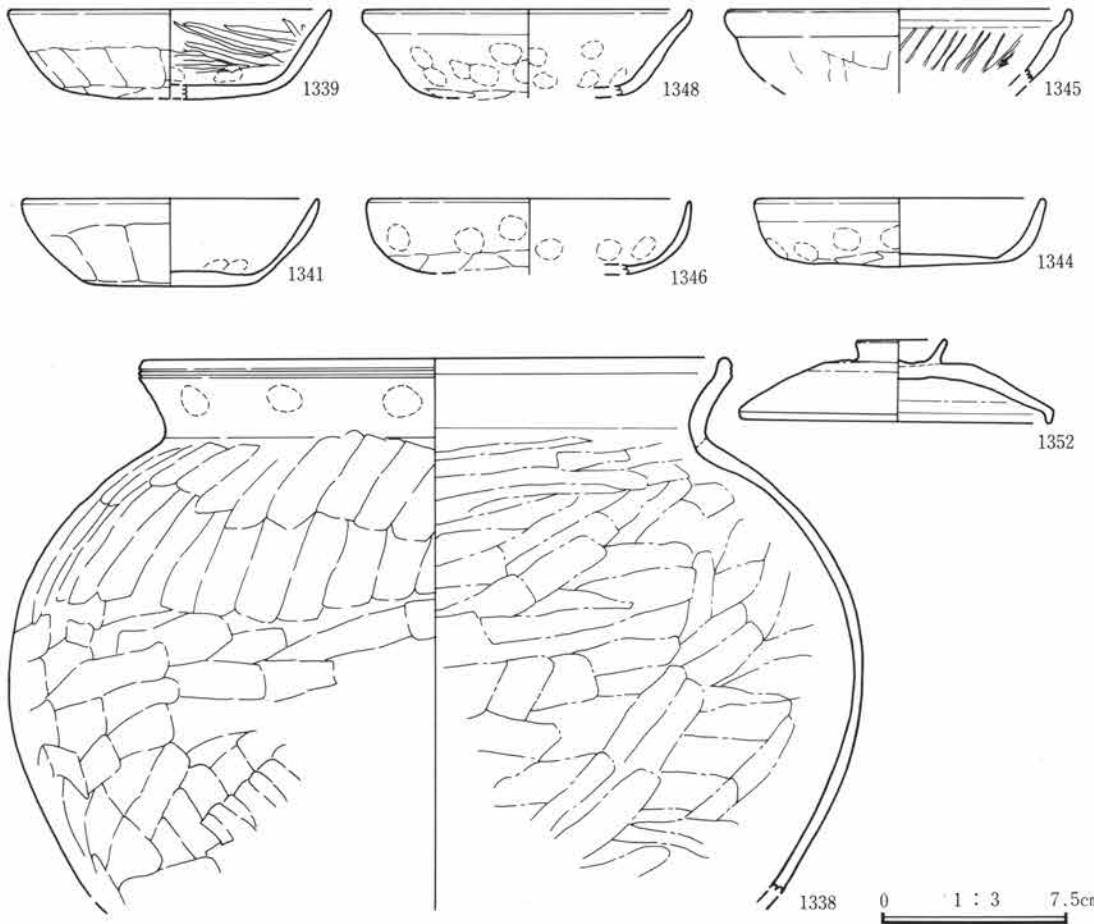
当住居跡の規模は、南西部が攪乱により破壊されており、確定できないが、南北は約3.0mであり、平面形は隅丸長方形を呈するものと推定される。主軸はN-23°-Eである。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は、残りの良い南東部で約5～10cmである。竈は東壁の南よりに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約60cmである。袖は検出することができなかったが、燃烧部に堆積した炭化物・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物の出土は比較的多い。種類は、土師器の甕(1338)、土師器の杯(1339・1340・1341・1342・1343・1344・1345・1346・1347・1348)、須恵器の杯(1349・1350・1351)、須恵器の蓋(1352)などがある。



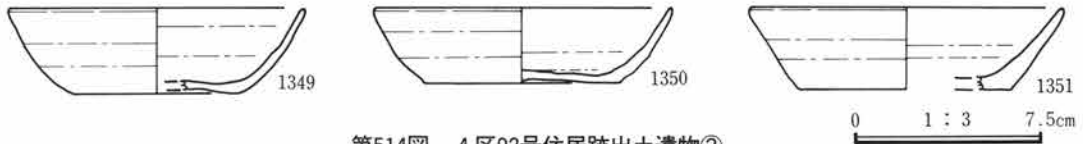
第511図 4区92号住居跡断面、竈断面



第512図 4区92号住居跡



第513図 4区92号住居跡出土遺物①



第514図 4区92号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1338	甕 土器	器高：(212mm) 口径：[236mm] 底径：— 最大径：340mm 口縁部～胴部迄	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は胴部中央。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部は篋なで。	内外面に一部油煙付着。
1339	杯 土器	器高：(35mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部は横なで後篋磨き、胴部下端～底部上端に一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1340	杯 土器	器高：33mm 口径：[136mm] 底径：86mm 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部上半は一部指頭痕が残り、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	
1341	杯 土器	器高：35mm 口径：[120mm] 底径：73mm 口縁部～胴部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1342	杯 土器	器高：(51mm) 口径：[140mm] 底径：— 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。明黄褐。	胴部～口縁部は直線的に広がる。平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後篋磨き、底部はなで。	
1343	杯 土器	器高：(40mm) 口径：[137mm] 底径：[94mm] 口縁部～底部迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。明黄褐。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部は横なで後篋磨き、底部はなで。	
1344	杯 土器	器高：27mm 口径：[116mm] 底径：[84mm] 口縁部～底部迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1345	杯 土器	器高：(29mm) 口径：[136mm] 底径：— 口縁部～胴部迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す。	
1346	杯 土器	器高：(30mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	

第四章 発見された遺構と遺物

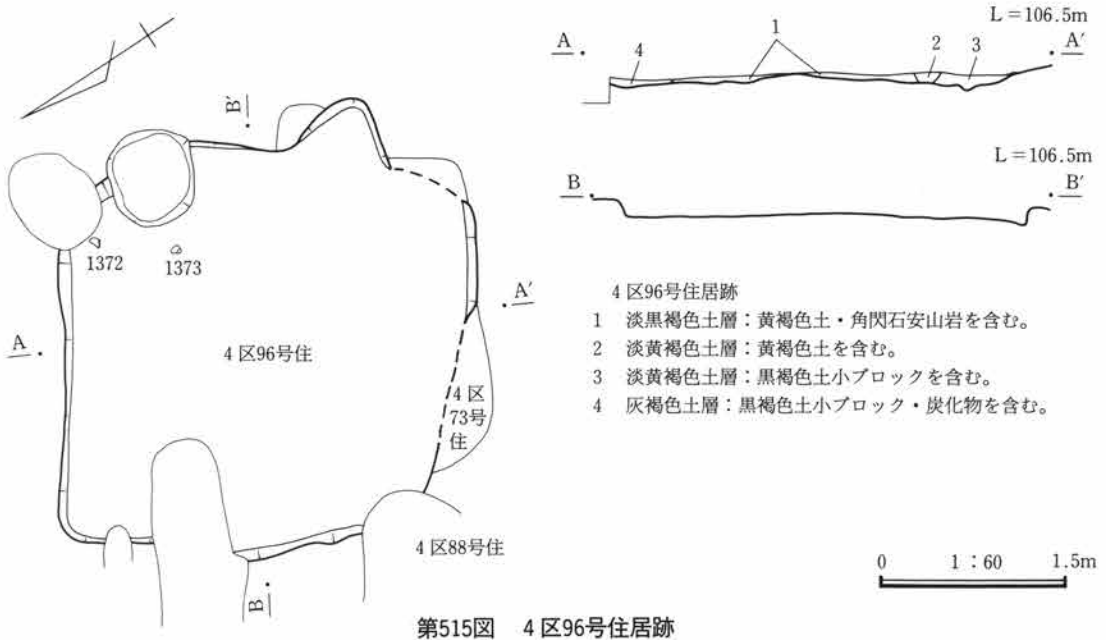
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1347	杯 土師器	器高：(45mm) 口径：[140mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後篋磨き、底部はなで。	外面に一部油煙付着。
1348	杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、指頭痕が残る。	
1349	杯 須恵器	器高：(34mm) 口径：[120mm] 底径：[66mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1350	杯 須恵器	器高：31mm 口径：[120mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面胴部下端～底部に自然軸。
1351	杯 須恵器	器高：(33mm) 口径：[126mm] 底径：[84mm] 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1352	蓋 須恵器	器高：33mm 口径：126mm つまみ径：37mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。オリブ灰。	轆轤整形。返りは短い。ボタン状つまみ。つまみ部は貼り付け。外面：つまみ部は回転なで、天井部上半は回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転なで。内面：天井部～口縁部は回転なで。	

4区96号住居跡

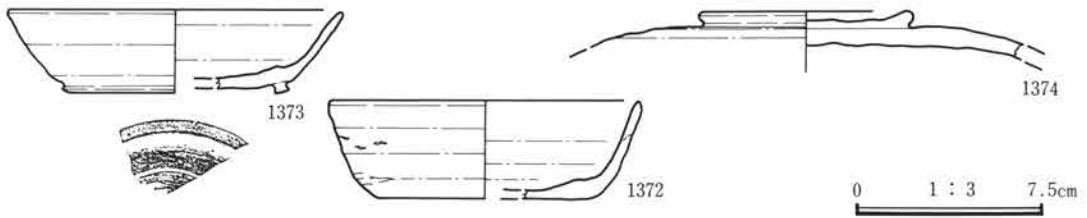
4区I-11・12、J-11・12グリットに位置し、4区73号住居跡・4区74号住居跡・4区94号住居跡と重複する。4区73号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床が当住居跡の覆土中に築かれているので、当住居跡の方が古い。4区74号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南側の壁・床の一部が当住居跡の北側の壁・床の上面に築かれていることから、当住居跡の方が古い。4区94号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西側の床面を破壊して当住居跡の竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、東西約3.3m・南北約3.4mであり、平面形は不整形な隅丸方形を呈する。主軸はN-41°-Eである。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約5～10cmである。竈は東壁のやや南よりに構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約50cmである。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、燃焼部に堆積した灰・焼土を確認することができた。住居跡内の北東隅からはピットを1基検出できた。規模は、長軸約80cm・短軸約65cm・床面からの深さ約5cm

であり、平面形は楕円形を呈する。貯蔵穴と考えることも可能であるが、やや難がある。柱穴・壁溝は検出できなかった。遺物は少ないが、須恵器の椀(1372・1373)、須恵器の蓋(1374)などが出土している。



第515図 4区96号住居跡



第516図 4区96号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1372	杯 須恵器	器高：(39mm) 口径：[124mm] 底径：[86mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、胴部下端は回転篋削り、底部は回転篋切り後で。内面：口縁部～底部は回転で。	
1373	椀 須恵器	器高：33mm 口径：[134mm] 底径：[90mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。青灰・鈍い赤褐。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転で。	

#### 第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1374	蓋 須恵器	器高：(20mm) 口径：一つまみ径：72mm つまみ部～天井部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	ボタン状の大きなつまみ。つまみ部は貼り付け。外面：天井部上半は回転篋削り、天井部下半は回転なで。内面：天井部は回転なで。	

#### 4区100号住居跡

4区I-18・19グリットに位置し、4区59号住居跡・4区60号住居跡・4区101号住居跡・4区7号溝跡と重複する。4区59号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下から当住居跡の南東部の壁・床の一部が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区60号住居跡との新旧関係は、同住居跡により当住居跡の壁・床の大部分が破壊されていることから、当住居跡の方が古い。4区101号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の壁・床を破壊して当住居跡の壁・床が築かれていることから当住居跡の方が新しい。4区7号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の南東部の床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、大部分が破壊されており不明である。床面の状態も確認できなかった。残存壁高は、確認できた北西部・南東部で約5cmである。壁溝・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しただけである。

#### 4区101号住居跡

4区I-19グリットに位置し、4区60号住居跡・4区100号住居跡・4区102号住居跡、4区7号溝跡と重複する。4区60号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床が当住居跡の床上から検出できたことから当住居跡の方が古い。4区100号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁が当住居跡の北西の床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。4区102号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北側の壁・床を破壊して当住居跡の西側の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区7号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の西側の壁・床を破壊していることから当住居跡の方が古い。

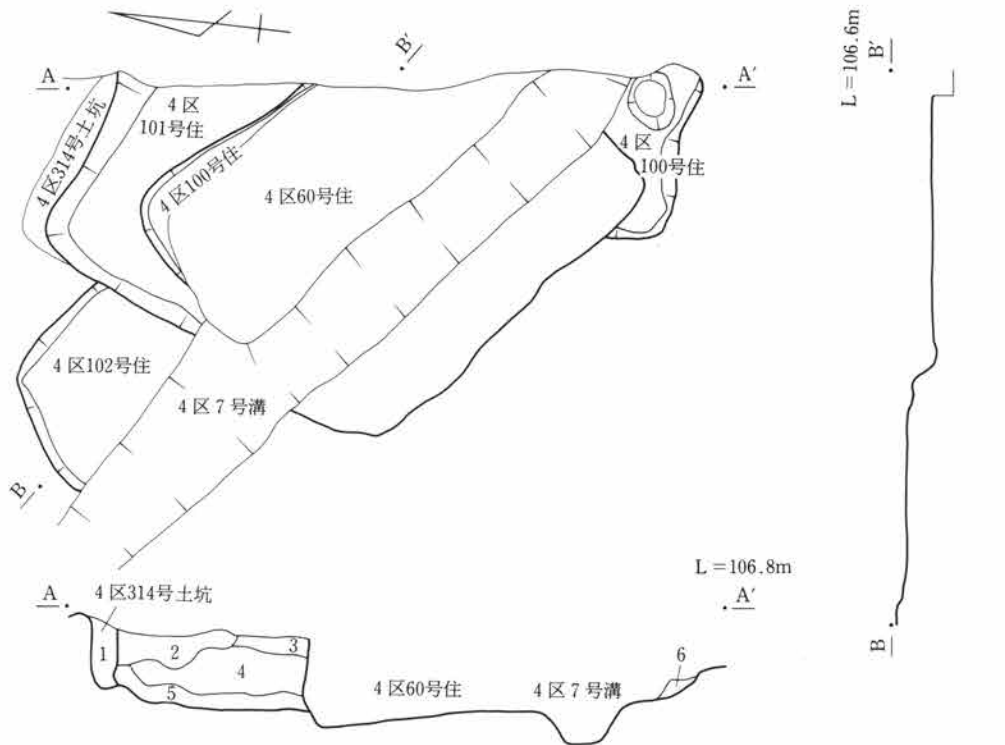
当住居跡の規模は、大部分が破壊されているために、不明である。確認できた北西部の床の状態はやや軟弱であるが、ほぼ平坦である。残存壁高は約10～15cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しただけである。

#### 4区102号住居跡

4区I-19グリットに位置し、4区60号住居跡・4区101号住居跡・4区7号溝跡と重複する。4区60号住居跡との新旧関係は同住居跡が当住居跡の東側の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区101号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の壁・床が当住居跡の北部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区7号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の西

側壁を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、大部分が破壊されており、北西隅のみの検出であり不明である。検出できた北西部の床面の状態は、やや軟弱であるが、ほぼ平坦である。残存壁高は約5cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しただけである。



#### 4区100・101号住居跡

- 1 褐色土層：灰色土小ブロック・黄褐色土小ブロック・炭化物・角閃石安山岩を含む。(314号土坑)
- 2 褐色土層：多量の黄褐色土小ブロック、暗灰色土小ブロック、炭化物・角閃石安山岩を含む。
- 3 明褐色土層：暗灰色土・角閃石安山岩・焼土粒子、炭化物を含む。
- 4 明褐色土層：褐色土・角閃石安山岩・黄褐色土小ブロックを含む。
- 5 明褐色土層：灰色粘性土小ブロック・角閃石安山岩を含む。
- 6 褐色土層：灰色粘質土・黄褐色土・灰・角閃石安山岩を含み、下面に炭化物層がある。(100号住居床面?)

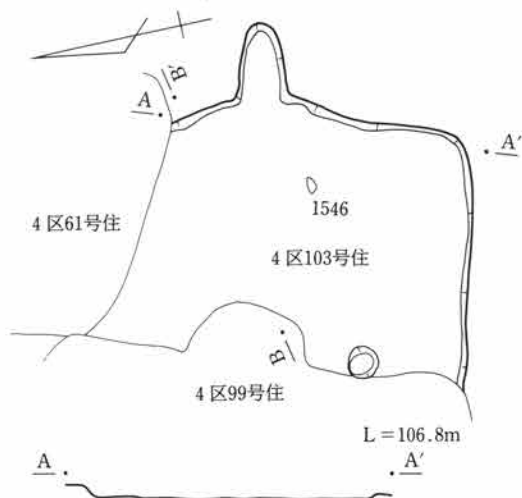
第517図 4区100・101・102号住居跡

#### 4区103号住居跡

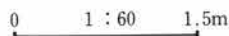
4区J-16グリットに位置し、4区61号住居跡・4区69号住居跡・4区83号住居跡・4区84号住居跡・4区85号住居跡・4区87号住居跡・4区99号住居跡と重複する。4区61号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南壁が当住居跡の北壁を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区69号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下から当住居跡の床が検出できたことから、当住居跡の方が古い。4区83号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北壁・床の下から当住居跡の南側の床が検出できたことから、

#### 第IV章 発見された遺構と遺物

当住居跡の方が古い。4区84号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下から当住居跡の床が検出できたことから、当住居跡の方が古い。4区85号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西隅の床下から当住居跡の竈が検出できたことから、当住居跡の方が古い。4区87号住居跡との新旧関係は不明である。



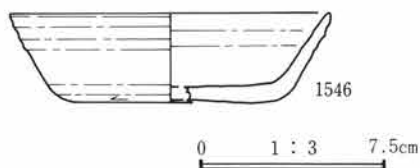
- 4区103号住居跡
- 1 明褐色土層：砂質。灰色土を含む。
  - 2 灰と褐色土の混土層。
  - 3 褐色土層：角閃石安山岩を含む。



第518図 4区103号住居跡

4区99号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東側の壁・床・竈が当住居跡の西側の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、重複による破壊で不明である。床面の状態は比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約5～10cmである。竈は東壁に構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約60cmである。竈は破壊されており、袖は検出できなかったが、灰・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少ないが、須恵器の杯(1546)が出土している。



第519図 4区103号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1546	杯 須恵器	器高：35mm 口径：[128mm] 底径：[80mm] 口縁部～底部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰・橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、胴部下端は回転篋削り、底部は回転篋切り後など。内面：口縁部～底部は回転で。	

#### 4区104号住居跡

4区I-9・10グリットに位置し、4区91号住居跡・4区95号住居跡・4区105号住居跡・4区123号住居跡と重複する。4区91号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の壁・床・竈が当住居跡の北西部の覆土中に築かれていることから、当住居跡の方が古い。4区95号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東部の壁・床・竈が当住居跡の西部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。4区105号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床を破壊して当住居跡の壁・床・竈が築



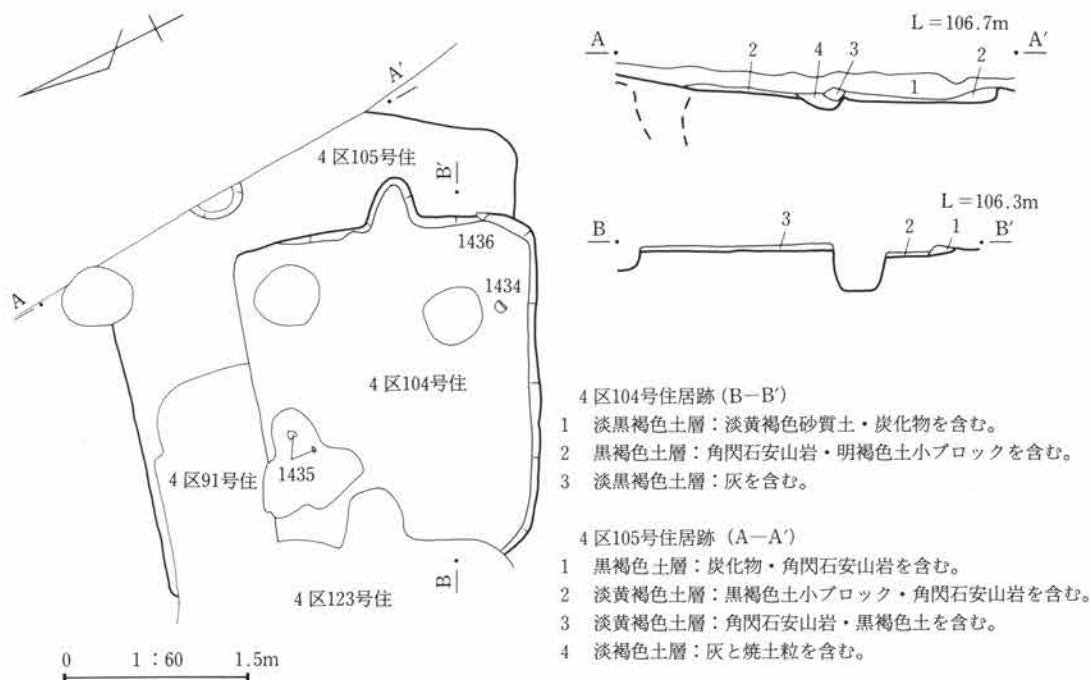
かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区123号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東部の壁・竈が当住居跡の西部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、重複による破壊のために西壁が一部しか確認できなかったが、東西約2.6m・南北約2.4mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。床面の状態は比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約5～10cmである。竈は東壁に構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約40cmである。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、燃烧部に堆積した灰・焼土を確認することができた。住居内からは3基のピットが検出されたが、いずれも当住居跡には属さない。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は少ないが、土師器の甕(1433)、土師器の杯(1434・1435)、須恵器の杯(1436・1437)などが出土している。

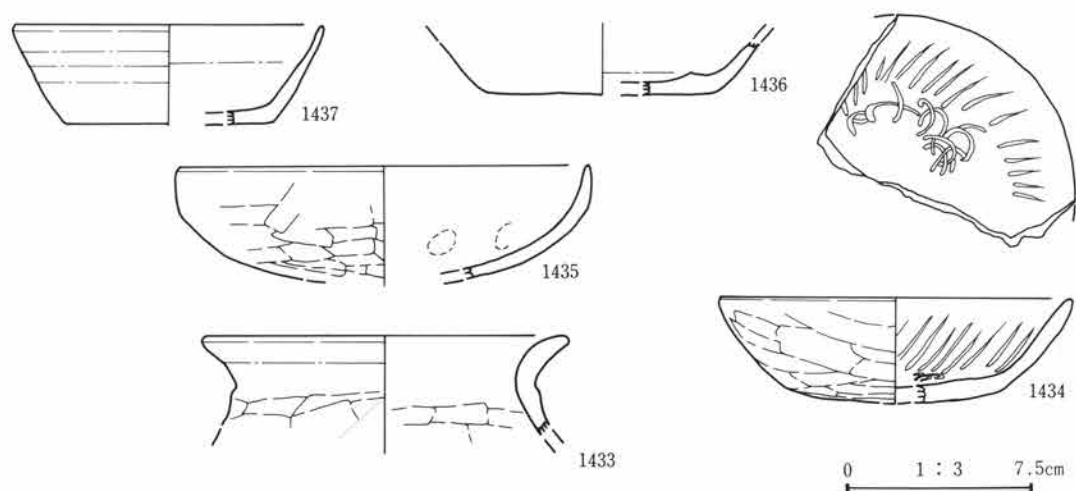
#### 4区105号住居跡

4区H-9・10、I-9・10グリットに位置し、4区95号住居跡・4区104号住居跡・4区123号住居跡と重複する。4区95号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の壁・床が当住居跡の北西部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区104号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東部の壁・床・竈が当住居跡の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区123号住居跡との新旧関係は、直接的に断定することはできないが、同住居跡と4区104号住居跡との関係から、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、大部分が重複により破壊されており、不明である。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。壁は殆ど検出できず、残存壁高は、確認できた部分で僅か2～3cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しているだけである。



第520図 4区104・105号住居跡



第521図 4区104号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1433	甕 土師器	器高：(39mm) 口径：[146mm] 底径：— 口縁部～胴部上端%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。鈍い橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋切り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	
1434	杯 土師器	器高：(42mm) 口径：[140mm] 底径：— 口縁部～底部%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋切り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで後渦巻き状暗文を施す。	外面底部に油煙付着。
1435	杯 土師器	器高：(45mm) 口径：[163mm] 底径：— 口縁部～底部%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋切り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	内外面に油煙付着。
1436	杯 須恵器	器高：(21mm) 口径：— 底径：[92mm] 胴部下半～底部%	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転篋切り。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
1437	杯 須恵器	器高：(39mm) 口径：[124mm] 底径：[82mm] 口縁部～底部%	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に自然釉。

#### 4区107号住居跡

4区J-10、K-10グリットに位置し、4区91号住居跡・4区93号住居跡・4区109号住居跡・4区123号住居跡・4区124号住居跡と重複する。4区91号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南西部の床下より当住居跡の床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区93号住居跡との新旧関係は、

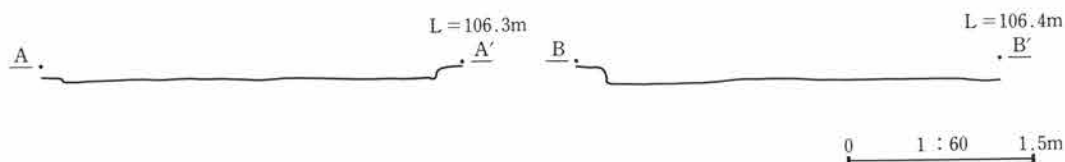
同住居跡の床下より当住居跡の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区109号住居跡との新旧関係は不明である。4区123号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西部の壁・床が当住居跡の東部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。4区124号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下より当住居跡の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。

当住居跡は重複により大部分が破壊されており、検出できたのは北西部のみであるために、規模は不明である。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は、南西隅で約5～10cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は、土師器の杯(1389・1391・1392)、須恵器の杯(1393・1394)、鉄製の刀子(1958)などが出土している。

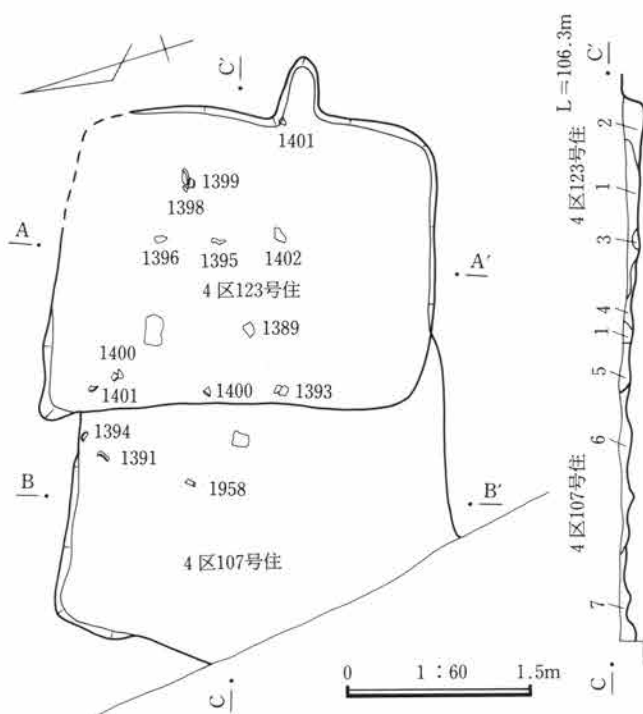
#### 4区123号住居跡

4区I-9・10、J-9・10グリットに位置し、4区91号住居跡・4区93号住居跡・4区94号住居跡・4区95号住居跡・4区104号住居跡・4区105号住居跡・4区107号住居跡・4区124号住居跡と重複する。4区91号住居跡との新旧関係は、同住居跡北西部の壁・床が当住居跡の覆土中に築かれていることから、当住居跡の方が古い。4区93号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東部の壁・床・竈が当住居跡の西部の覆土中に築かれていることから、当住居跡の方が古い。4区94号住居跡との新旧関係は不明である。4区95号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床が当住居跡の覆土中に築かれていることから、当住居跡の方が古い。4区104号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西部の壁・床を破壊して当住居跡の東部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区105号住居跡との新旧関係は直接的に把握することはできなかったが、同住居跡と4区104号住居跡との関係から、当住居跡の方が新しい。4区107号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東部の壁・床・竈を当住居跡の西部の壁・床が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。4区124号住居跡との新旧関係は、同住居跡の竈が当住居跡の南西隅の覆土中から検出されたことから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約2.5m・南北約3.0mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-23.5°-Eである。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は、残りの良い南東部で約10～15cmである。竈は東壁のやや南よりに構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約50cmである。袖は検出できなかったが、燃焼部に堆積した灰・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は、土師器の甕(1395)、土師器の杯(1396・1397・1398・1399)、須恵器の杯(1401)、須恵器の椀(1400・1403)、須恵器の蓋(1402)などが出土している。



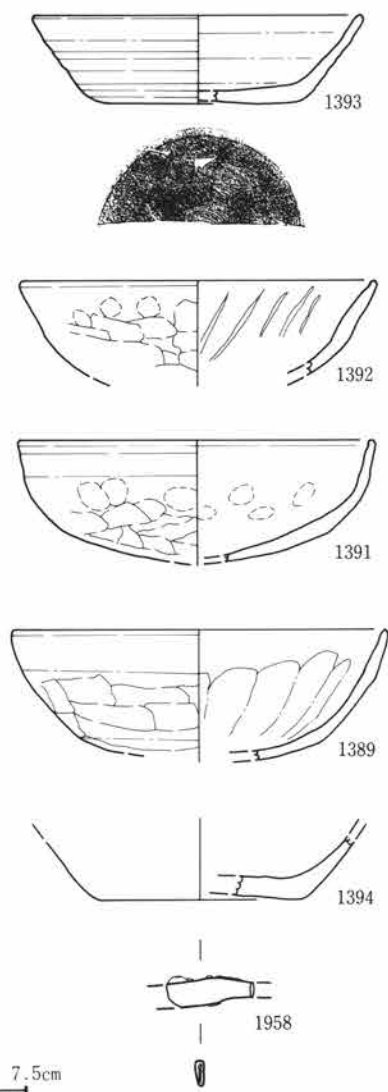
第522図 4区107・123号住居跡エレベーション



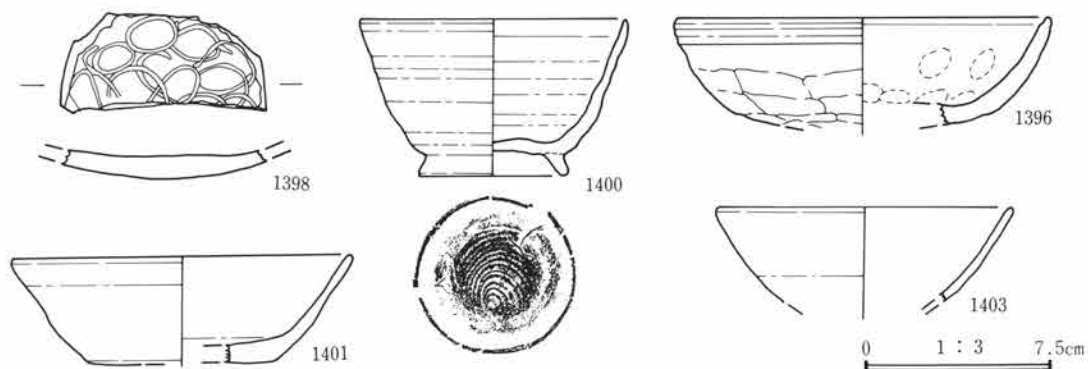
4区107・123号住居跡

- 1 黒褐色土層：灰・焼土・明褐色土小ブロックを含む。(123号住居)
- 2 明褐色土層：黒褐色土を含む。(123号住居)
- 3 淡褐色粘質土層：(123号住居)
- 4 淡褐色粘質土層：灰・黒褐色土を含む。(123号住居)
- 5 淡褐色土層：明褐色土を含む。(123号住居)
- 6 淡黄褐色土層：灰・焼土粒を含む。(107号住居)
- 7 灰・焼土・黒褐色土の混土層。(107号住居)

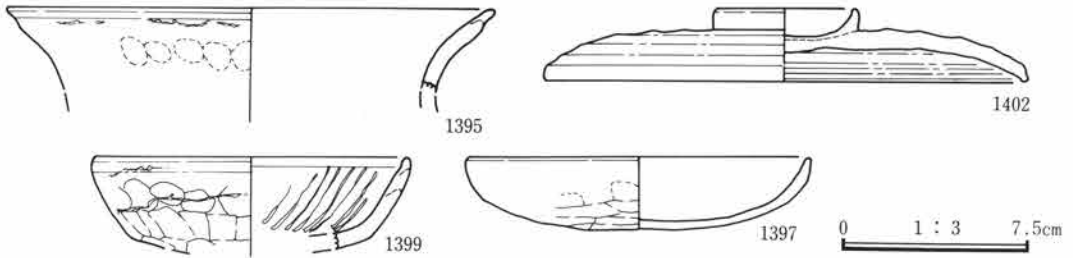
第523図 4区107・123号住居跡



第524図 4区107号住居跡出土遺物



第525図 4区123号住居跡出土遺物①



第526図 4区123号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1389	杯 土師器	器高：(52mm) 口径：150mm 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1391	杯 土師器	器高：(48mm) 口径：[143mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。平底に近い丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	内面に一部油煙付着。
1392	杯 土師器	器高：(38mm) 口径：[142mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部～底部上端は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで後放射状暗文を施す。	
1393	杯 須恵器	器高：(35mm) 口径：[132mm] 底径：[78mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、胴部下端は回転篋削り、底部は回転篋切り後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1394	杯 須恵器	器高：(25mm) 口径：— 底径：[80mm] 胴部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部は回転なで、底部は回転篋切り後なで。内面：胴部～底部は回転なで。	
1958	? 鉄製品	長：(35mm) 幅：6～10mm 厚：4mm		刀子の一部か。鉄板を折り曲げて製造。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1395	甕 土師器	器高：(33mm) 口径：[198mm] 底径：— 口縁部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は外反。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕・指頭痕が残る。内面：口縁部は横なで。	
1396	杯 土師器	器高：(43mm) 口径：[152mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1397	杯 土師器	器高：29mm 口径：[140mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は短く、やや内湾。外面：口縁部は横なで、胴部上半に一部指頭痕が残り、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、底部下半はなで。	
1398	杯 土師器	器高：— 口径：— 底径：— — 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	外面：胴部下端～底部は篋削り。内面：底部はなで後渦巻き状暗文を施す。	
1399	杯 土師器	器高：(37mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部は横なで、胴部上端は一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで後放射状暗文を施す。	
1400	椀 須恵器	器高：62mm 口径：[108mm] 底径：60mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1401	杯 須恵器	器高：(42mm) 口径：[136mm] 底径：[77mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋削り後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面共に口縁部～底部に自然軸。
1402	蓋 須恵器	器高：29mm 口径：[194mm] つまみ径：[60mm] つまみ部～口縁部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰・鈍い褐。	轆轤整形。返りは短い。ボタン状つまみ。つまみ部は貼り付け。外面：つまみ部は回転なで、天井部上半は回転篋削り、天井部下半～口縁部は回転なで。内面：天井部～口縁部は回転なで。	
1403	椀 須恵器	器高：(37mm) 口径：[110mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	

4区108号住居跡

4区J-8・9グリットに位置し、4区92号住居跡・4区109号住居跡・4区119号住居跡・4区120号住居跡・4区125号住居跡と重複する。4区92号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下から当住居跡の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区109号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の壁・床・竈が当住居跡の西部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。4区125号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の壁・床を破壊して当住居跡の南東部の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区119号住居跡・4区120号住居跡との新旧関係は不明である。

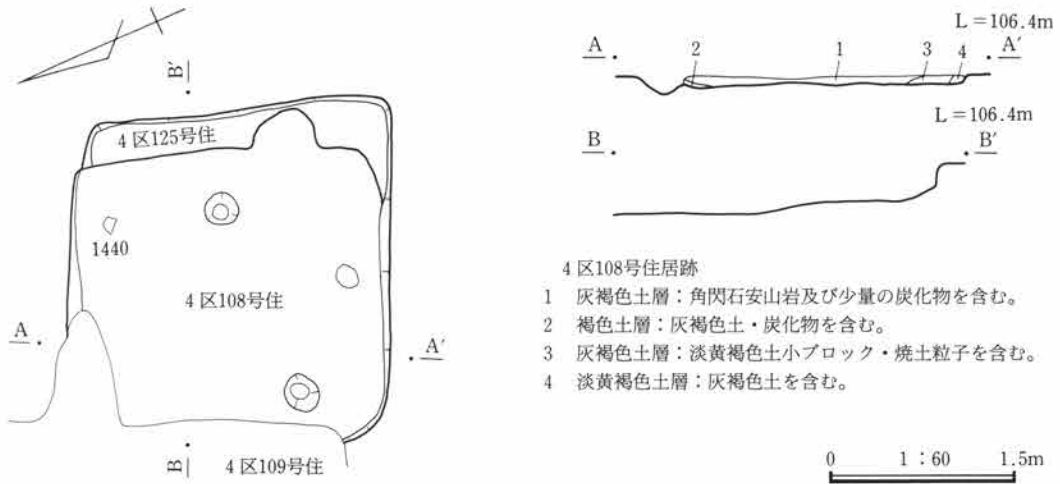
当住居跡の規模は、西部が重複により破壊されているために確定できないが、東西約2.4m・南北約

2.5mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-18°-Eである。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。残存壁高は、南壁で約5~10cmである。竈は東壁の南よりに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約30cmである。袖は検出できなかったが、燃烧部に堆積した炭化物・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は少ないが、土師器の杯(1438・1439)、須恵器の杯(1440)、須恵器の碗(1441)などが出土している。

#### 4区125号住居跡

4区J-8、K-8グリットに位置し、4区108号住居跡・4区119号住居跡・4区120号住居跡と重複する。4区108号住居跡との新旧関係は、当住居跡の北西部の壁・床が同住居跡の南東部の壁・床・竈に破壊されていることから、当住居跡の方が古い。4区119号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の壁・床を当住居跡の南東部の壁・床が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。4区120号住居跡との新旧関係は不明である。

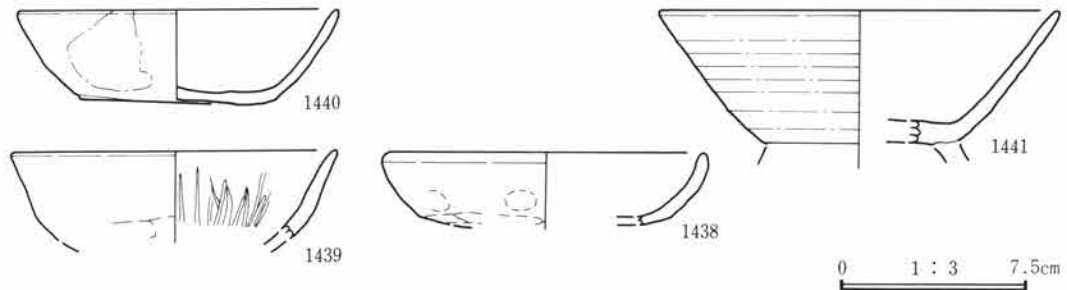
当住居跡の規模は、重複により大部分が確認できなかったが、南北は約2.4mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定できる。床面の状態は、確認できなかった。残存壁高は、確認できた東壁で約2~5cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も非常に少なく、覆土中から小破片が出土しただけである。



第527図 4区108・125号住居跡

#### 4区108号住居跡

- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩及び少量の炭化物を含む。
- 2 褐色土層：灰褐色土・炭化物を含む。
- 3 灰褐色土層：淡黄褐色土小ブロック・焼土粒子を含む。
- 4 淡黄褐色土層：灰褐色土を含む。



第528図 4区108号住居跡出土遺物

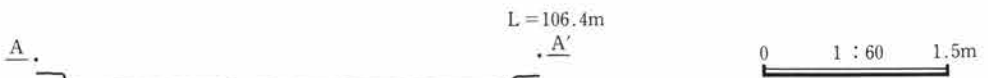
第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1438	杯 土師器	器高：(27mm) 口径：[127mm] 底径：— 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は寛削り。内面：口縁部～底部上半は横なで。	外面に一部油煙付着。
1439	杯 土師器	器高：(35mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は横なで、胴部下端は寛削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す。	
1440	杯 須恵器	器高：37mm 口径：[128mm] 底径：77mm 口縁部～底部 $\frac{3}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転寛切り後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面の一部に自然釉。
1441	椀 須恵器	器高：(53mm) 口径：[160mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	

4区109号住居跡

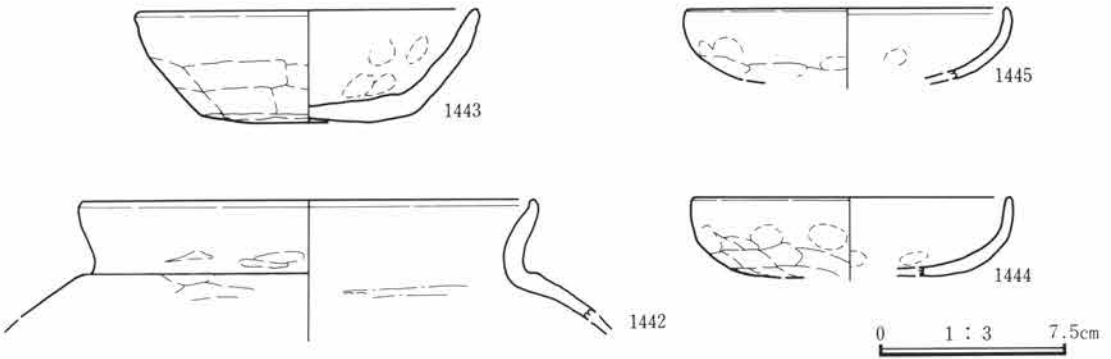
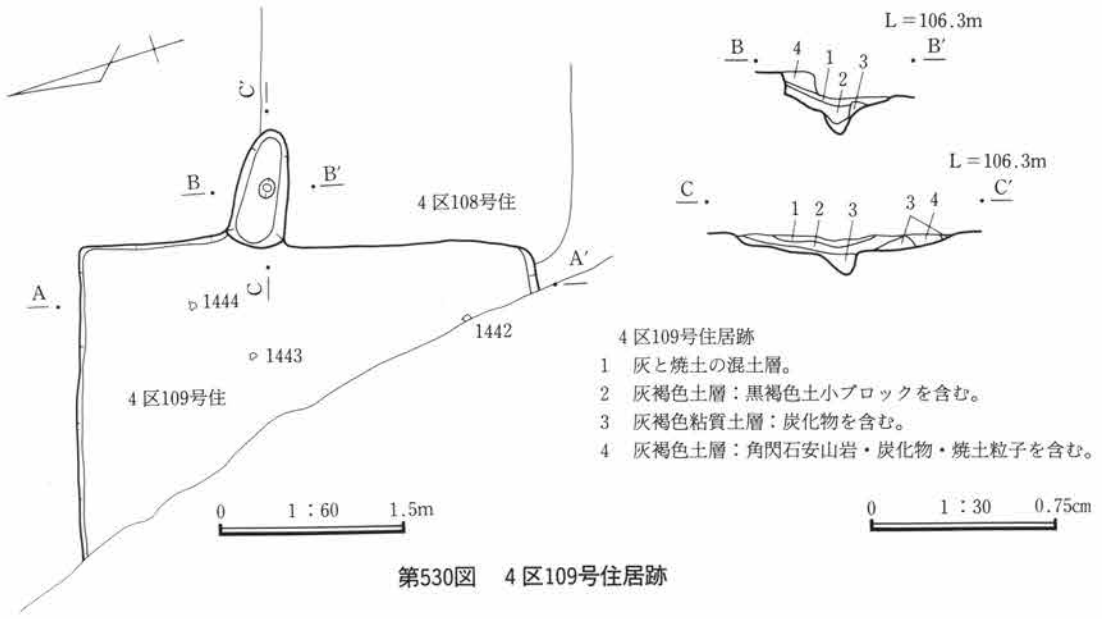
4区J-8・9、K-8・9グリットに位置し、4区91号住居跡・4区92号住居跡・4区107号住居跡・4区108号住居跡・4区124号住居跡と重複する。4区91号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南西部の床下より当住居跡の北東部の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区92号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の床下より当住居跡の南西部の壁・床・竈が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区107号住居跡との新旧関係は不明である。4区108号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西部の壁・床を破壊して当住居跡の南東部の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区124号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の覆土中に当住居跡の北西部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、南西半分が攪乱により破壊されているために確定できないが、南北は約3.6mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。主軸はN-16.5°-Eである。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は、残りの良い北壁で約5～10cmである。竈は東壁中央のやや北よりに構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約90cmである。袖は検出できなかったが、燃焼部の中央からは支脚石を埋め込んだと推定される小ピットが検出できた。また、燃焼部では灰・炭化物・焼土の堆積を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、土師器の甕(1442)、土師器の杯(1443・1444・1445)などが出土している。



第529図 4区109号住居跡エレベーション





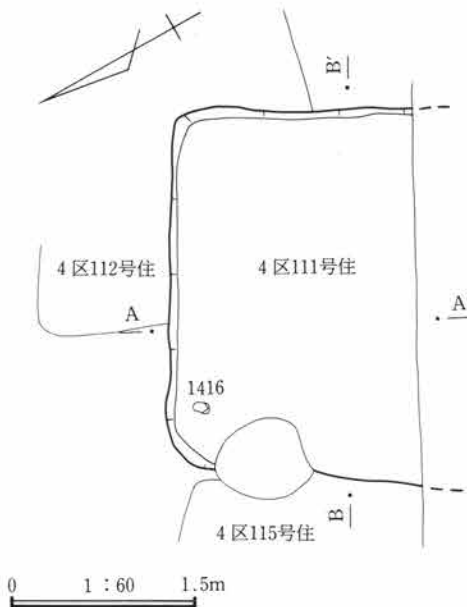
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1442	甕 土器	器高：(47mm) 口径：[182mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。
1443	杯 土器	器高：44mm 口径：[136mm] 底径：[86mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1444	杯 土器	器高：(32mm) 口径：[128mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、胴部下端～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1445	杯 土師器	器高：(28mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い橙。	胴部～口縁部は内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は窠削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	

#### 4区111号住居跡

4区I-14・15、J-14・15グリットに位置し、4区81号住居跡・4区82号住居跡・4区112号住居跡・4区114号住居跡・4区115号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区81号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下より当住居跡の西部分の壁・床が検出されているので、当住居跡の方が古い。4区82号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東部分の床下より当住居跡の東部分の壁・床が検出されているので、当住居跡の方が古い。4区112号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南西部の壁・床を破壊して当住居跡の北東部の壁・床が築かれているので、当住居跡の方が新しい。4区114号住居跡との新旧関係は、同住居跡が当住居跡の床下より検出されているので、当住居跡の方が新しい。4区115号住居跡との新旧関係は不明である。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の南部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

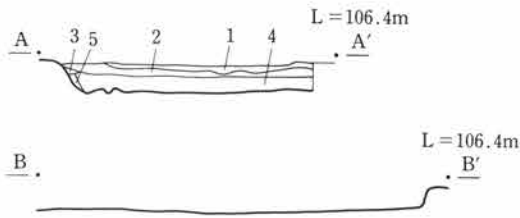
当住居跡の規模は、南半分を4区3号溝跡に破壊されているために不明であるが、東西は約3.0mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約5～15cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明であるが、掘形から壁溝が検出されている。遺物は少ないが、須恵器の椀(1414)、薦石(1416)などが出土している。



第532図 4区111号住居跡



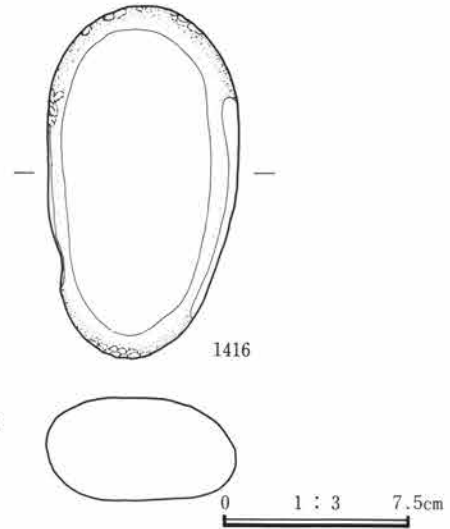
第533図 4区111号住居跡出土遺物①



## 4区111号住居跡

- 1 灰色土層：明褐色粘質土小ブロックを含む。
- 2 灰褐色土層：褐色粘質土小ブロック・灰色粘質土小ブロックを含む。
- 3 灰褐色砂質土層：暗褐色粘質土小ブロックを含む。
- 4 灰褐色土層：褐色粘質土小ブロック・暗褐色粘質土小ブロックを含む。
- 5 灰褐色土小ブロック・褐色土小ブロック・灰褐色土小ブロック・黄褐色土の混土層。

0 1 : 60 1.5m



第534図 4区111号住居跡断面・エレベーション

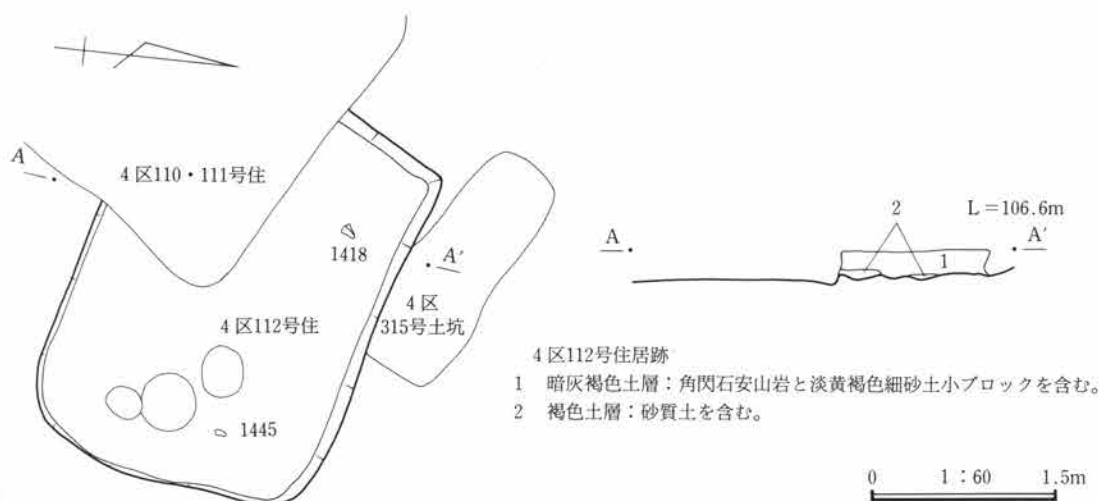
第535図 4区111号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1414	椀 須恵器	器高：40mm 口径：[115mm] 底径：[83mm] 口縁部～高 台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。オリブ灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高 台貼り付け後なで。内面：口縁部～底部は 回転なで。	
1416	薦石	長：139mm 幅：77mm 厚： 42mm 重：756.0g	粗粒安山岩。	両端に打ちつけた痕あり。	

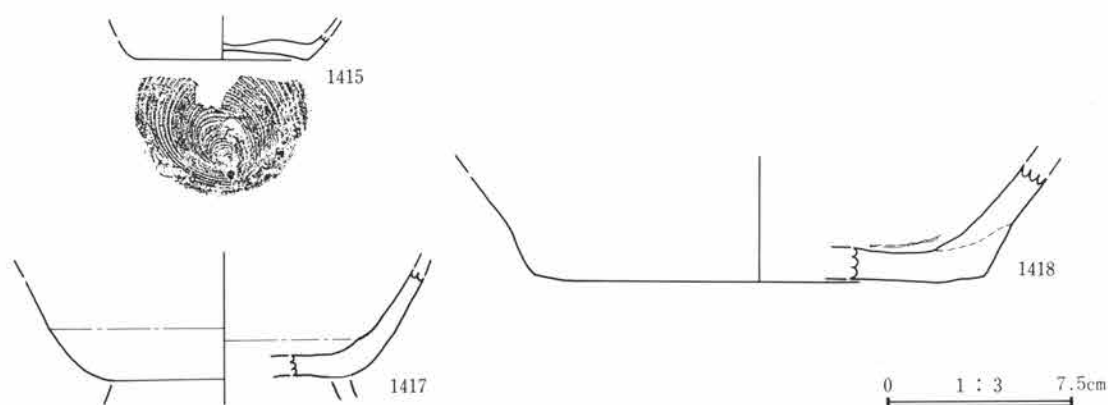
## 4区112号住居跡

4区I-14・15グリットに位置し、4区111号住居跡・4区122号住居跡と重複する。4区111号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の壁・床が当住居跡の南西部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。4区122号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の壁・床が当住居跡の床下より検出されたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、南西部が4区111号住居跡に破壊され確定できないが、南北約2.4m・東西約3.2mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約5～15cmであり、北部の残りが良い。住居内の東よりから、3基のピットが検出されたが、当住居跡には属さない。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、須恵器の甕(1418)、須恵器の杯(1415)、須恵器の椀(1417)などが出土している。



第536図 4区112号住居跡



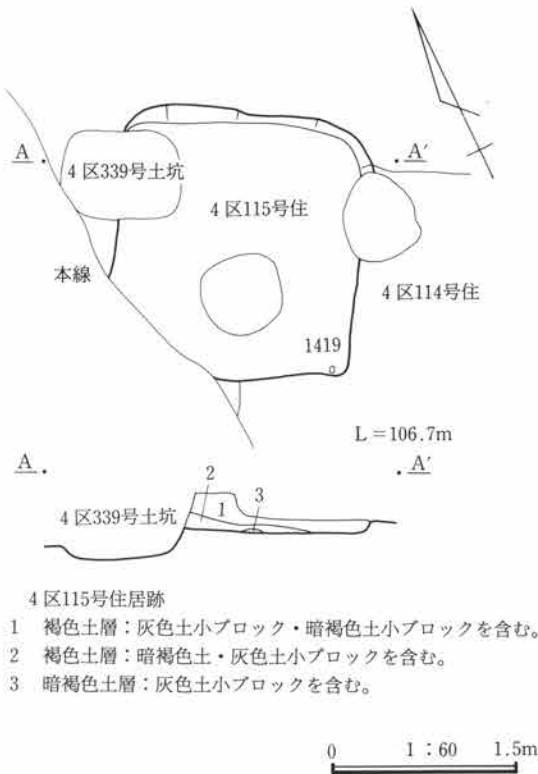
第537図 4区112号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1415	杯 須恵器	器高：(10mm) 口径：一底径：70mm 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下端～底部は回転なで。	外面に一部自然釉。
1417	碗 須恵器	器高：(42mm) 口径：一底径：一 胴部下半～底部 $\frac{1}{4}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
1418	甕 須恵器	器高：(47mm) 口径：一底径：[182mm] 胴部下端～底部 $\frac{1}{6}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	内外面共に胴部下端～底部はなで。	

## 4区115号住居跡

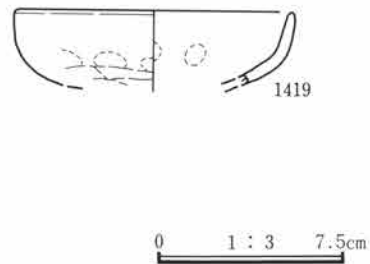
4区J-15グリットに位置し、4区81号住居跡・4区82号住居跡・4区111号住居跡・4区114号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区81号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下より当住居跡の壁・床が検出されていることから、当住居跡の方が古い。4区82号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の床下より当住居跡の北東部の壁・床が検出されていることから、当住居跡の方が古い。4区111号住居跡との新旧関係は不明である。4区114号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の壁・床が当住居跡の北東部の床下より検出されていることから、当住居跡の方が新しい。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の南部を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、大部分が破壊されており、不明である。床面の状態は、比較的硬いが、やや細かい凹凸がある。残存壁高は、南東壁で約20～25cmを図るが、南東部以外は検出できなかった。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も少なく、土師器の杯(1419)の他は、覆土中から小破片が出土しているだけである。



4区115号住居跡

- 1 褐色土層：灰色土小ブロック・暗褐色土小ブロックを含む。
- 2 褐色土層：暗褐色土・灰色土小ブロックを含む。
- 3 暗褐色土層：灰色土小ブロックを含む。



第539図 4区115号住居跡出土遺物

第538図 4区115号住居跡

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1419	杯 土師器	器高：(29mm) 口径：[111mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	

#### 4区116号住居跡

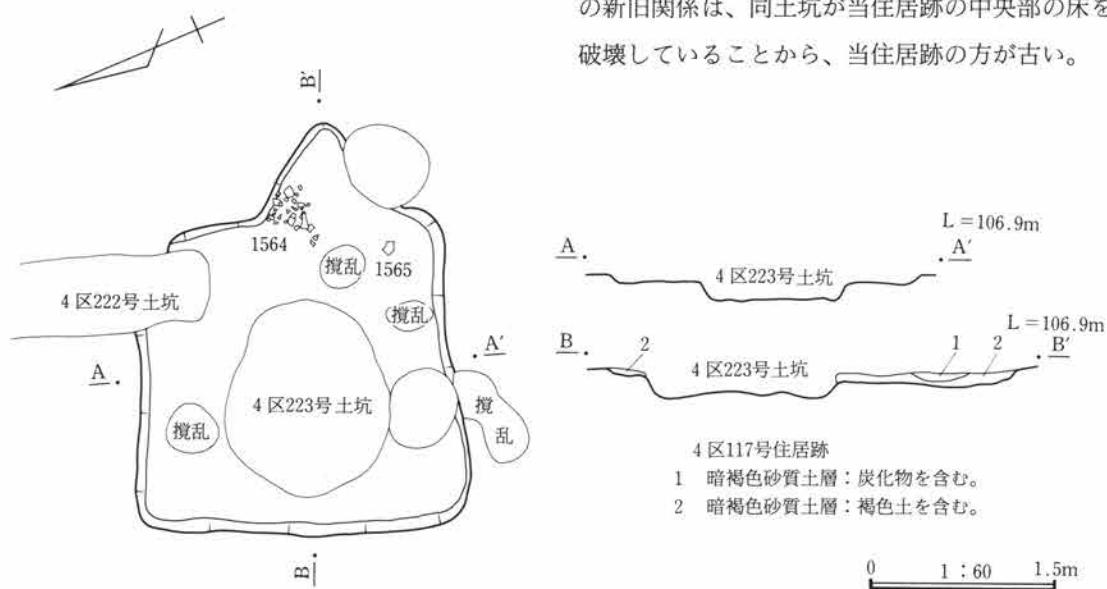
4区J-17・18グリットに位置し、4区67号住居跡と重複する。新旧関係は、当住居跡が4区67号住居跡の床下より検出されているので、当住居跡の方が古い。当住居跡の規模は、大部分が攪乱により破壊されており、南東隅のみの検出のために、不明である。床の状態は、やや軟弱であるが、ほぼ平坦である。壁の立ち上がりは約15~20cmを測る。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しているだけである。



第540図 4区116号住居跡

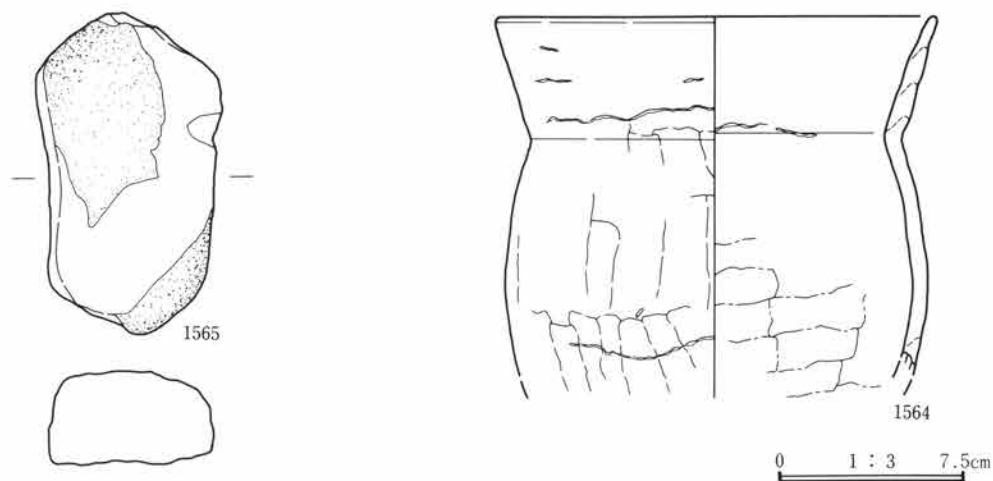
#### 4区117号住居跡

4区I-23・24グリットに位置し、4区1号掘立柱跡・4区23号溝跡・4区222号土坑・4区223号土坑と重複する。4区1号掘立柱跡との新旧関係は、同掘立柱跡が当住居跡の竈・南壁・床の一部を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区23号溝跡との新旧関係は、同溝跡の底面下より当住居跡の壁・床の一部が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区222号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の北東部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区223号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の中央部の床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。



第541図 4区117号住居跡

当住居跡の規模は、東西約2.5m・南北約2.6mであり、平面形は不整形な隅丸方形を呈する。主軸はN-15°-Eである。床面の状態は、中央部が4区223号土坑に破壊されているが、竈付近を中心に比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は5～10cmである。竈は東壁のやや南よりに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約70cmである。袖は検出できなかったが、燃烧部に堆積した炭化物・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は少ないが、竈より土師器の甕(1564)、南東隅より石製品(1565)が出土している。



第542図 4区117号住居跡出土遺物

## 4区117号住居跡

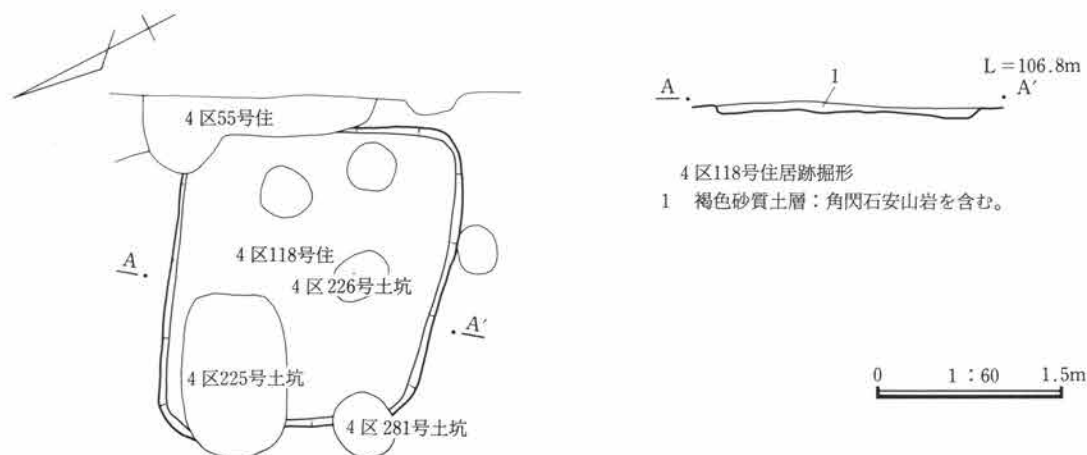
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1564	甕 土師器	器高：(142mm) 口径：178mm 底径：— 口縁部～胴部 3/4	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。黄橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、輪積痕・指頭痕が残り、胴部は横なで、輪積痕・指頭痕が残る。内面：口縁部は横なで、輪積痕・指頭痕が残り、胴部は縦なで、輪積痕・指頭痕が残る。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1565	用途不明 石製品	長：127mm 幅：75mm 厚：42mm 重：270.1g	二ツ岳軽石。	面取りがしてある。	

## 4区118号住居跡

4区I-21・22、J-21・22グリットに位置し、4区55号住居跡・4区225号土坑・4区226号土坑・4区281号土坑と重複する。4区55号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北側の壁が当住居跡の南側の壁を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区225号土坑・4区226号土坑・4区281号土坑との新旧関係は、各土坑が当住居跡の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

#### 第IV章 発見された遺構と遺物

当住居跡の規模は、東西約2.4m・南北約2.3mであり、平面形は不整形な方形を呈する。床面の状態は、重複による穴が多いが、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約5cmであり、残りは悪い。竈は東壁に構築されていると推定しているが、不明である。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しているだけである。



第543図 4区118号住居跡

#### 4区119号住居跡

4区I-7・8、J-7・8グリットに位置し、4区108号住居跡・4区120号住居跡・4区125号住居跡・4区308号土坑と重複する。4区108号住居跡との新旧関係は不明である。4区120号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南部の壁・床・竈が当住居跡の北部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区125号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の壁・床が当住居跡の北西部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区308号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の東部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

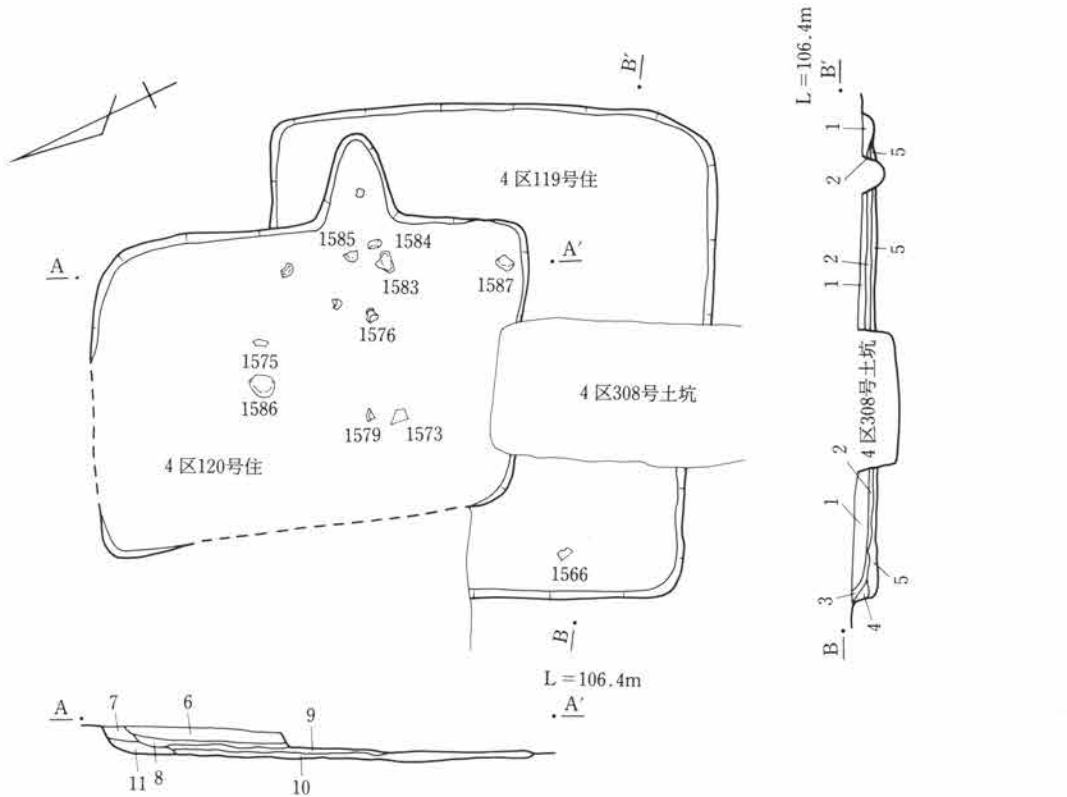
当住居跡の規模は、東西約3.9m・南北約3.6mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約5～10cmである。竈は東壁に築かれていたと推定されるが、4区308号土坑に破壊され不明である。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は少ないが、須恵器の甕(1566)、須恵器の杯(1567・1568・1569)などが出土している。

#### 4区120号住居跡

4区I-7・8、J-8グリットに位置し、4区108号住居跡・4区119号住居跡・4区125号住居跡と重複する。4区108号住居跡との新旧関係は不明である。4区119号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北部の壁・床を破壊して当住居跡の南部の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区125号住居跡との新旧関係は不明である。



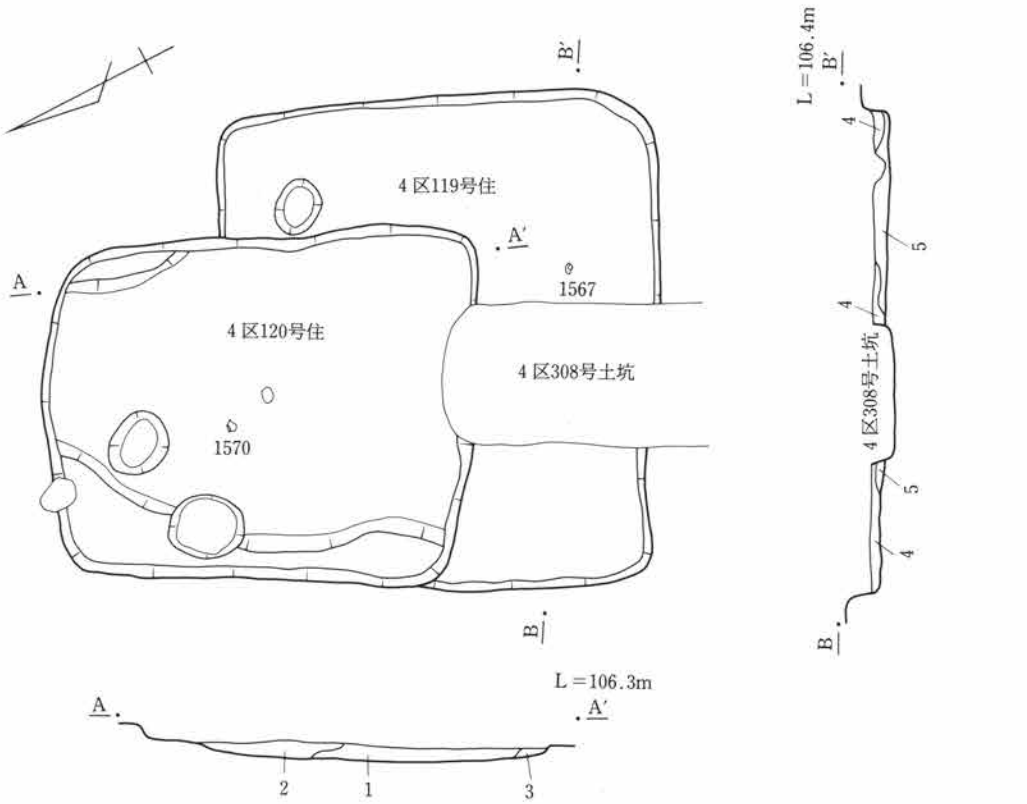
当住居跡の規模は、東西約2.4m・南北約3.4mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-19°-Eである。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約5～10cmである。竈は東壁に構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約70cmである。袖は検出できなかったが、燃焼部に堆積した炭化物・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物の出土量は多い。種類は、土師器の台付甕(1570)、土師器の杯(1571・1572)、須恵器の甕(1573・1574)、須恵器の杯(1575・1577・1578)、須恵器の椀(1579・1580・1581・1582)、須恵器の皿(1576)の他、石がある。



## 4区119・120号住居跡

- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩・炭化物を含む。(119号住居)
- 2 淡黄褐色砂質土層：灰褐色土・角閃石安山岩を含む。(119号住居)
- 3 灰褐色土層：炭化物を含む。(119号住居)
- 4 明褐色土層：灰褐色土を含む。(119号住居)
- 5 明褐色土層：灰褐色土・炭化物を含む。(119号住居)
- 6 灰褐色土層：炭化物・焼土粒子・角閃石安山岩を含む。(120号住居)
- 7 灰褐色土層：明褐色土を含む。(120号住居)
- 8 灰褐色土層：黒褐色土小ブロックを含む。(120号住居)
- 9 灰褐色土層：炭化物・黒褐色土小ブロックを含む。(120号住居)
- 10 灰褐色土層：黄褐色土を含む。(120号住居)
- 11 淡黄褐色土層：灰褐色土を含む。(120号住居)

0 1 : 60 1.5m

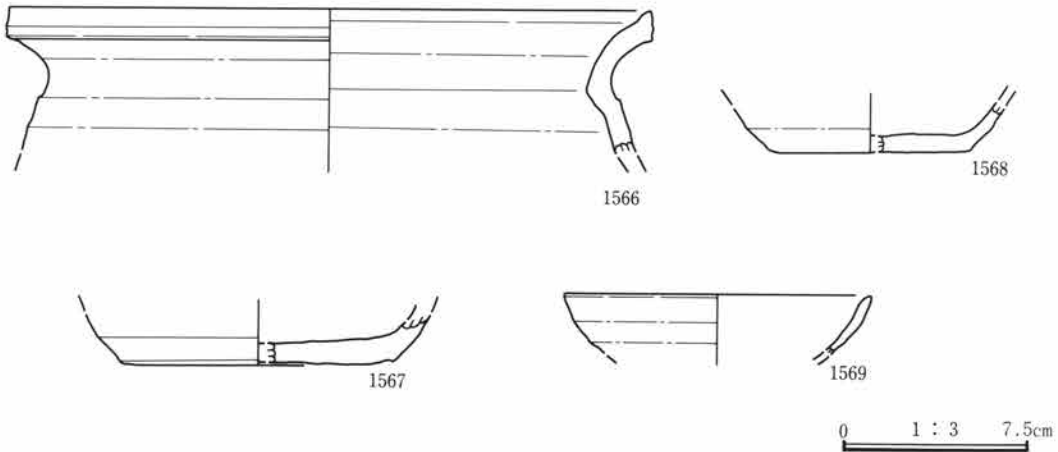


4区119・120号住居跡掘形

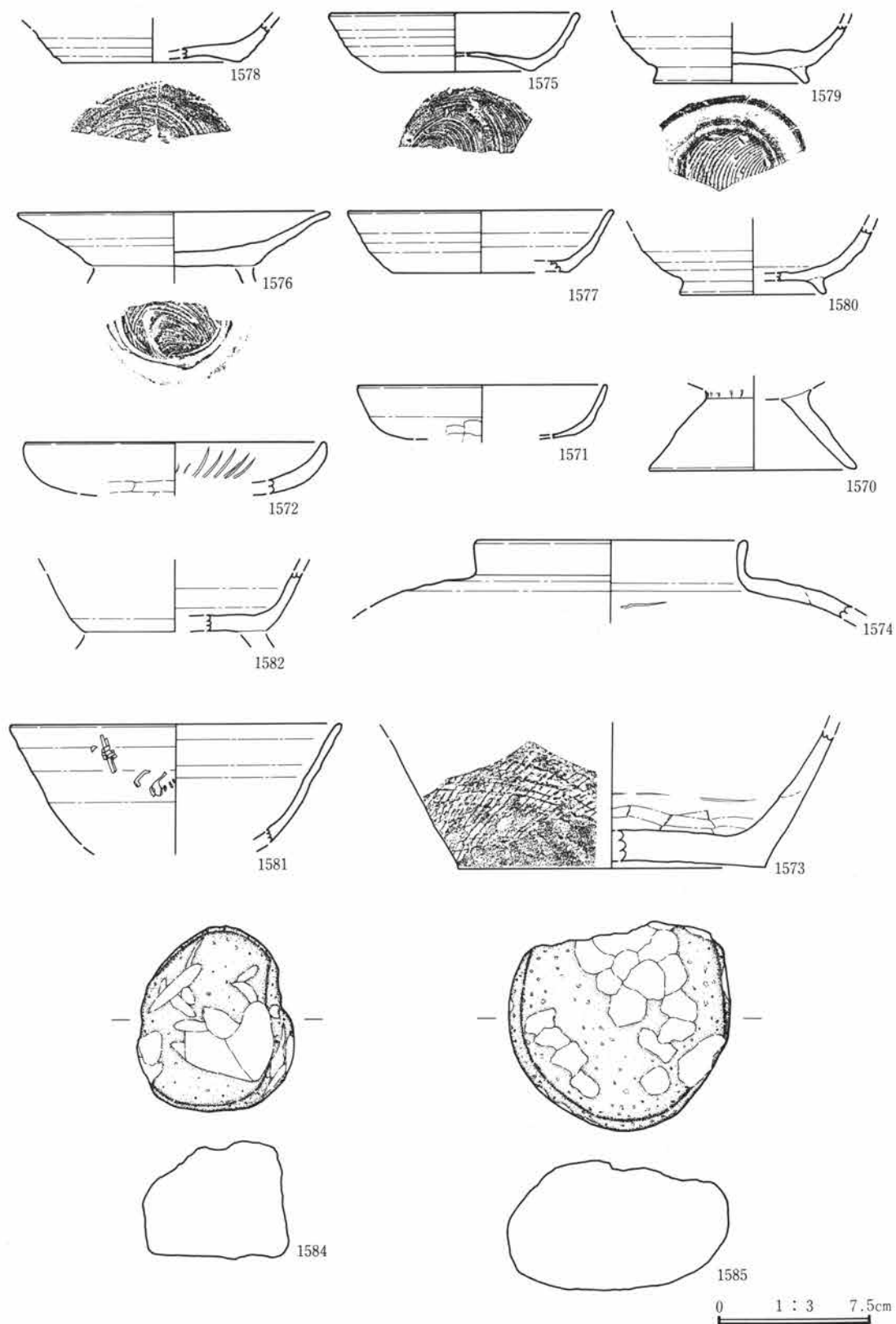
- 1 灰褐色土層：角閃石安山岩・明褐色土小ブロックを含む。(119号住居)
- 2 灰褐色土層：炭化物・角閃石安山岩を含む。(119号住居)
- 3 明褐色土層：灰褐色土を含む。(119号住居)
- 4 灰褐色土層：淡褐色土を含む。(120号住居)
- 5 灰褐色土粘質土層：炭化物を含む。(120号住居)

0 1 : 60 1.5m

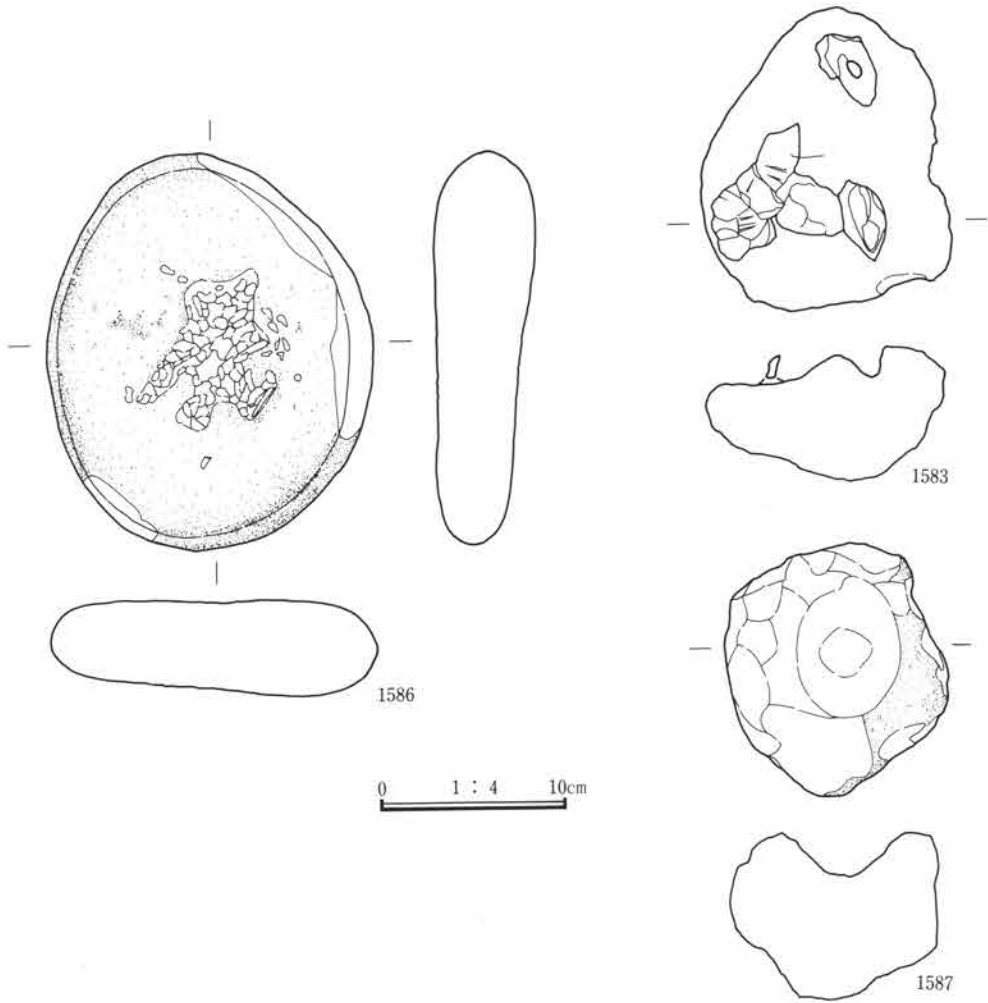
第545図 4区119・120号住居跡掘形



第546図 4区119号住居跡出土遺物



第547图 4区120号住居跡出土遺物①



第548図 4区120号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1566	甕 須恵器	器高：(56mm) 口径：[260mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。口縁部は大きく外反し、外縁帯を持つ。内外面共に口縁部～胴部上端は回転まで。	
1567	杯 須恵器	器高：(20mm) 口径：— 底径：— 胴部下半～高台部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転まで、底部は回転篋切り後まで、更に高台を削り出し。内面：胴部下半～底部は回転まで。	
1568	杯 須恵器	器高：(20mm) 口径：— 底径：[82mm] 胴部下半～底部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転まで、底部は回転篋切り後まで。内面：胴部下半～底部は回転まで。	
1569	杯 須恵器	器高：(23mm) 口径：[124mm] 底径：— 口縁部～胴部上半迄	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾。内外面共に口縁部～胴部上半は回転まで。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1570	台付甕 土師器	器高：(39mm) 口径：— 底径：[103mm] 脚部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	脚部は「ハ」字状に開く。脚部は貼り付け。内外面共に脚部は横なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1571	杯 土師器	器高：(26mm) 口径：[122mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部上半～口縁部は直線的に広がる。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで。	
1572	杯 土師器	器高：(25mm) 口径：[148mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部はやや内湾。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す。	
1573	甕 須恵器	器高：(61mm) 口径：— 底径：[152mm] 胴部下端～底部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	外面：胴部下端は叩目が残り、底部はなで。内面：胴部下端～底部はなで、一部輪積痕が残る。	外面に自然釉。
1574	短頸壺 須恵器	器高：(38mm) 口径：[134mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰赤・灰。	轆轤整形。口縁部は短く、ほぼ直立。内外面共に口縁部～胴部上端は回転なで。	
1575	杯 須恵器	器高：(28mm) 口径：[124mm] 底径：[74mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1576	皿 須恵器	器高：(27mm) 口径：[154mm] 底径：— 口縁部～高台部上端 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白(黒)。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に全面的に油煙付着。燻し。
1577	杯 須恵器	器高：(30mm) 口径：[132mm] 底径：[88mm] 口縁部～底部上端 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで。内面：口縁部～底部上端は回転なで。	外面に一部自然釉。
1578	杯 須恵器	器高：(18mm) 口径：— 底径：[90mm] 胴部下端～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下端～底部は回転なで。	
1579	椀 須恵器	器高：(28mm) 口径：— 底径：[77mm] 胴部～高台部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	
1580	椀 須恵器	器高：(33mm) 口径：— 底径：[72mm] 胴部～高台部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白(黒)。	轆轤整形。外面：胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部～底部は回転なで。	内外面に全面的に油煙付着。燻し。
1581	椀 須恵器	器高：(58mm) 口径：[162mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{4}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。内外面共に口縁部～胴部はなで。	外面に刻字。釈読不能。
1582	椀 須恵器	器高：(28mm) 口径：— 底径：— 胴部下半～底部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下半～底部は回転なで。	

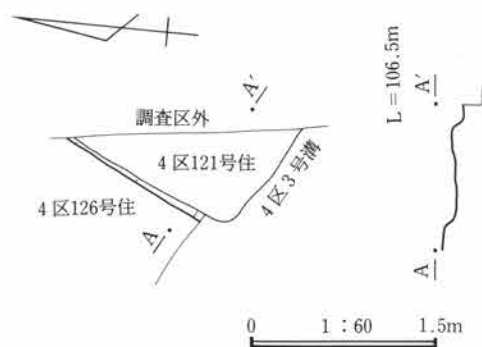
第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1583	用途不明 石製品	長：155mm 幅：134mm 厚： 72mm 重：825.0g	二ツ岳軽石。	金属製工具で孔が穿たれている。	
1584	用途不明 石製品	長：89mm 幅：78mm 厚：57 mm 重：222.9g	二ツ岳軽石。	ところどころに金属製工具による傷あり。	
1585	用途不明 石製品	長：101mm 幅：110mm 厚： 63mm 重：515.1g	粗粒安山岩。	表面に窪みあり。	
1586	用途不明 石製品	長：210mm 幅：175mm 厚： 52mm 重：2900.0g	粗粒安山岩。	平らな面に細かな傷あり。	油煙付着。
1587	用途不明 石製品	長：133mm 幅：120mm 厚： 88mm 重：688.4g	二ツ岳軽石。	表面に金属製工具による傷あり。一面に大きな孔が穿たれている。	

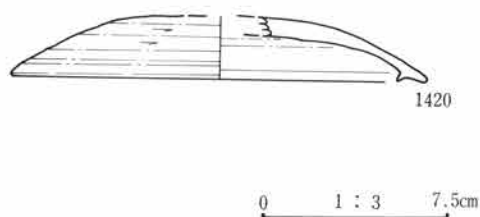
4区121号住居跡

4区H-13・14、I-13グリットに位置し、4区66号住居跡・4区126号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区66号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下より当住居跡の北西部の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区126号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床が当住居跡の西側の壁・床により破壊されていることから、当住居跡の方が新しい。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の南側の壁・床を破壊していることから当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、南西隅のみの検出であり、大部分が調査区域外のために不明である。検出部分の床面の状態はやや軟弱であるが、ほぼ平坦である。残存壁高は西側で約5～10cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物の出土も少なく、須恵器の蓋(1420)のほかは小破片のみである。



第549図 4区121号住居跡



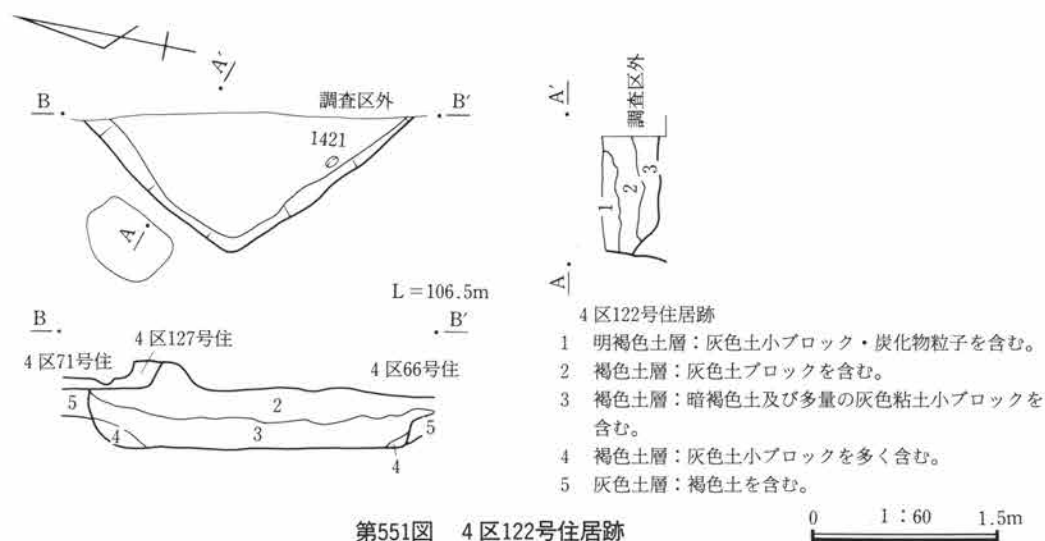
第550図 4区121号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1420	蓋 須恵器	器高：(25mm) 口径：[166 mm] 天井部～口縁部迄	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。返りはやや内側にはいり、短い。外面：天井部は回転篋削り、口縁部は回転などで。内面：天井部～口縁部は回転などで。	内外面の一部に自然釉。

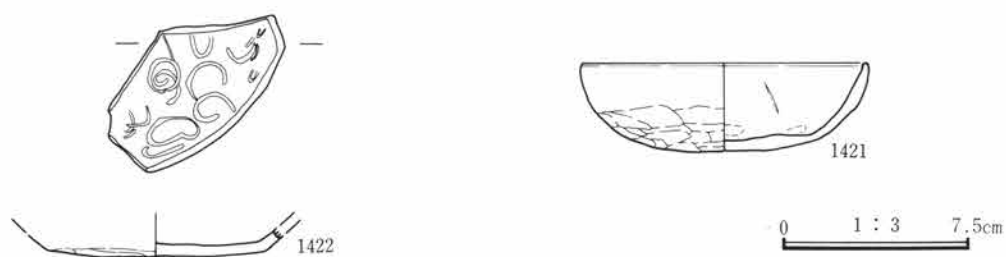
## 4区122号住居跡

4区H-15・16、I-15・16グリットに位置し、4区66号住居跡・4区112号住居跡と重複する。4区66号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下から当住居跡の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区112号住居跡との新旧関係は、同住居跡北東部の床下から当住居跡の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、大部分が調査区域外であり、北西隅のみの検出のために不明である。北西隅の床面の状態はやや軟弱であるが、ほぼ平坦である。残存壁高は約20cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、土師器の杯(1421・1422)が出土している。



第551図 4区122号住居跡



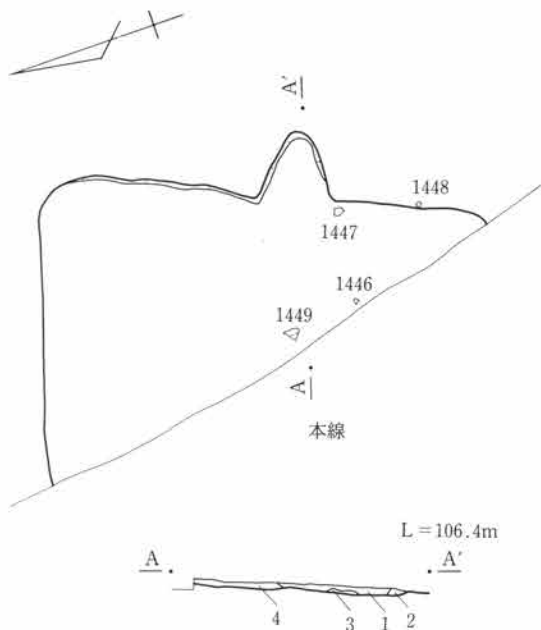
第552図 4区122号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1421	杯 土師器	器高: 35mm 口径: 116mm 底径: 一 完形	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部〜口縁部はやや内湾。丸底。外面: 口縁部は横なで、胴部〜底部は篋削り。内面: 口縁部〜底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	
1422	杯 土師器	器高: (11mm) 口径: 一 底径: [88mm] 胴部下端〜底部 $\frac{1}{2}$	径2~3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	外面: 胴部下端〜底部は篋削り。内面: 胴部下端〜底部はなで後渦巻き状暗文を施す。	

4区124号住居跡

4区J-9・10、K-9・10グリットに位置し、4区91号住居跡・4区93号住居跡・4区107号住居跡・4区109号住居跡・4区123号住居跡と重複する。4区91号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南西部の床下より当住居跡の東部の壁・床・竈が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区93号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下より当住居跡の北部の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区107号住居跡との新旧関係は、同住居跡の覆土中に当住居跡の壁・床・壁が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。4区109号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の床下より当住居跡の南東部の壁・床・竈が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区123号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南西隅の覆土中に当住居跡の竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、南東部が攪乱により破壊されており、確定することはできないが、南北は約3.5mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定できる。床面の状態は、比較的硬く良好であるが、やや細かい凹凸がある。残存壁高は、確認できた東壁で約2～5cmである。竈は東壁の中央近くに築かれている。燃烧部の壁外への張り出しは約50cmである。袖は検出できなかったが、燃烧部に堆積した灰・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、土師器の杯(1446・1447・1448)、須恵器の杯(1449)などが出土している。

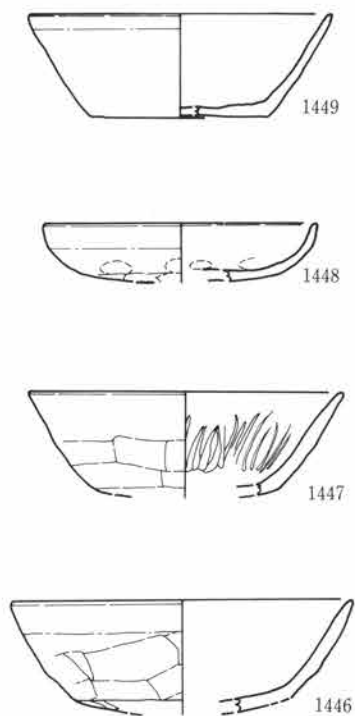


4区124号住居跡

- 1 黒褐色土層：灰・焼土・炭化物を含む。
- 2 淡褐色土層：黒褐色土を含む。
- 3 明褐色土層：炭化物を含む。
- 4 明褐色土層：灰色粘質土・灰・炭化物を含む。

0 1 : 60 1.5m

第553図 4区124号住居跡



0 1 : 3 7.5cm

第554図 4区124号住居跡出土遺物



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1446	杯 土師器	器高：(45mm) 口径：[138mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部上端は横なで。	外面胴部下端～底部に油煙付着。
1447	杯 土師器	器高：(41mm) 口径：[128mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施す。	
1448	杯 土師器	器高：(23mm) 口径：[110mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	
1449	杯 須恵器	器高：(42mm) 口径：[122mm] 底径：[73mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋削り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の一部に自然釉。

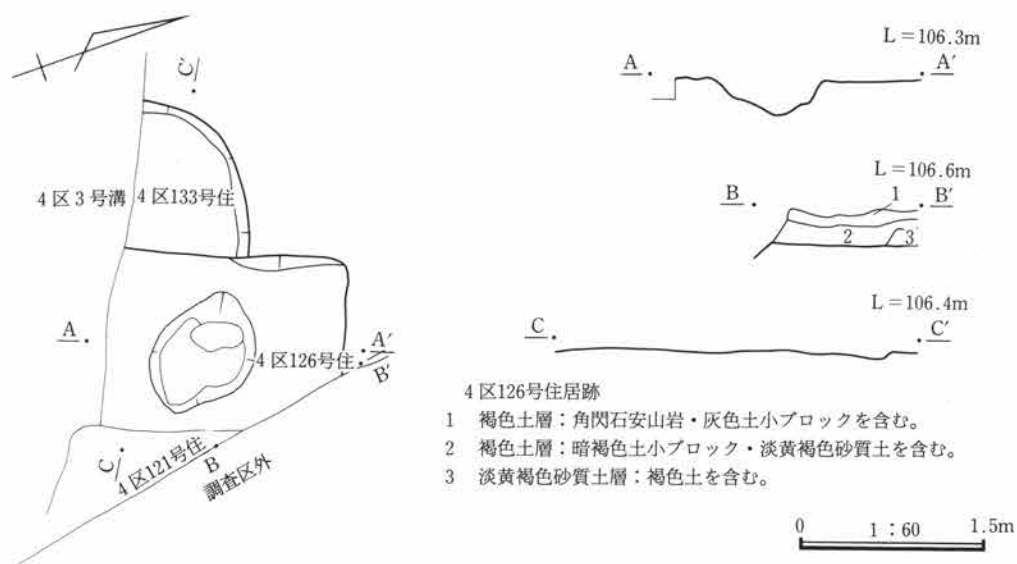
#### 4区126号住居跡

4区H-14、I-13・14グリットに位置し、4区121号住居跡・4区133号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区121号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西側部分が当住居跡の床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区133号住居跡との新旧関係は不明である。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の南側の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、大部分が破壊されており、北西隅のみの検出であり、不明である。床面の状態はやや軟弱であるが、ほぼ平坦である。残存壁高は約5cmであり、残りは悪い。北西隅からはピットが1基検出できた。規模は、長軸約100cm・短軸約75cm・床面からの深さ約25cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。貯蔵穴と考えることもできる。竈・柱穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しただけである。

#### 4区133号住居跡

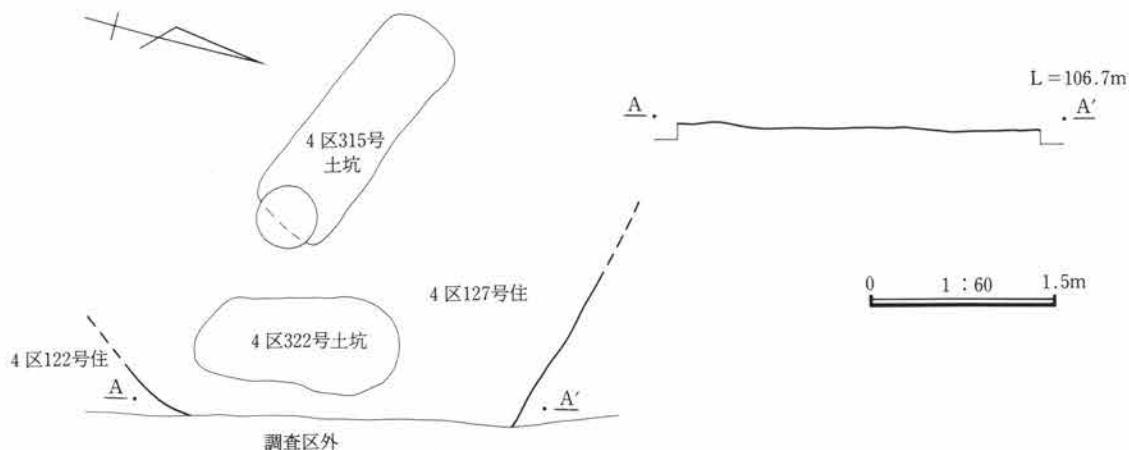
4区I-14グリットに位置し、4区126号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区126号住居跡との新旧関係は不明である。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の大部分を破壊していることから、当住居跡の方が古い。当住居跡の規模は、大部分が破壊されており、北西隅のみの検出であり、不明である。床面の状態は、やや軟弱であるが、ほぼ平坦である。残存壁高は約5cmであり、残りは悪い。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も出土していない。



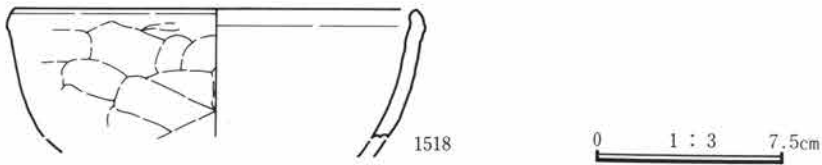
第555図 4区126・133号住居跡

#### 4区127号住居跡

4区H-15・16、I-15・16グリットに位置し、4区66号住居跡・4区122号住居跡・4区315号土坑・4区322号土坑と重複する。4区66号住居跡との新旧関係は不明である。4区122号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西隅の覆土上から当住居跡の床面が検出されていることから、当住居跡の方が新しい。4区315号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の床面を破壊していることから、当住居跡の方が古い。4区322号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の床面を破壊していることから、当住居跡の方が古い。当住居跡は床面の一部が検出されたものであり、規模・壁は不明である。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も非常に少なく、土師器の杯(1518)以外は、小破片が出土しただけである。



第556図 4区127号住居跡



第557図 4区127号住居跡

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1518	杯 土師器	器高：(51mm) 口径：[162 mm] 底径：一口縁部～胴 部迄	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部は 横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部～胴 部は横なで。	外面に油煙付着。

#### 4区128号住居跡

4区J-12・13、K-12・13グリットに位置し、4区78号住居跡・4区129号住居跡と重複する。4区78号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部により当住居跡の北部の壁・床が破壊されていることから、当住居跡の方が古い。4区129号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の壁・床が当住居跡の床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。

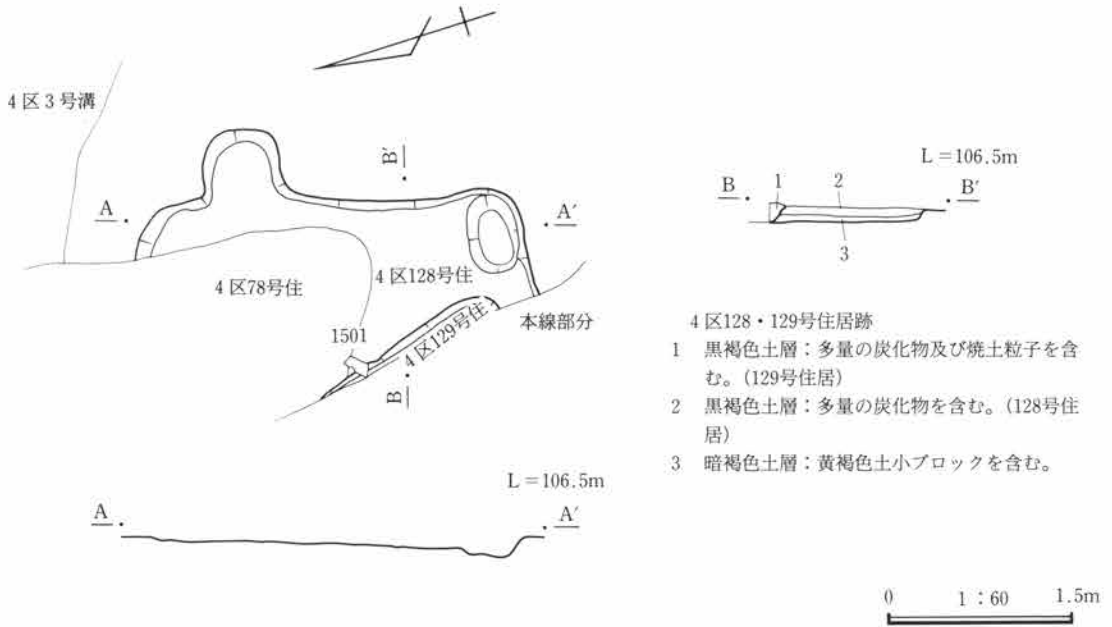
当住居跡の規模は、西部が破壊されており確定できないが、南北は約3.1mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。床面の状態は、竈周辺を中心に比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約10～15cmである。竈は東壁の北よりに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約60cmである。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、燃烧部に堆積した炭化物・焼土を確認することができた。南東隅からは貯蔵穴と考えられるピットが検出できた。規模は、長軸約60cm・短軸約40cm・床面からの深さ約12cmであり、平面形は楕円形を呈する。柱穴・壁溝は不明である。遺物の出土は少ないが、須恵器の甕(1501)、須恵器の杯(1502)などがある。

#### 4区129号住居跡

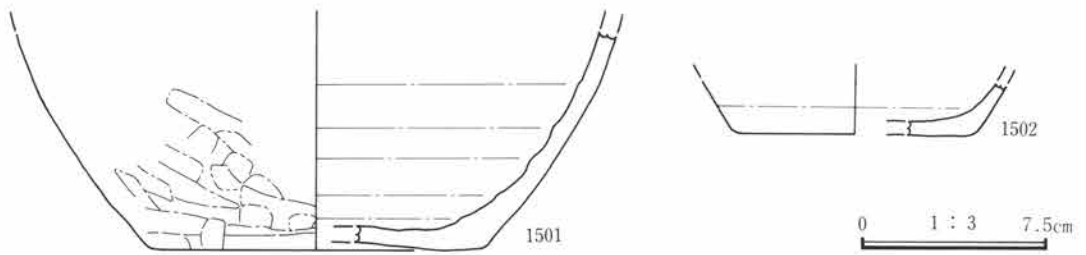
4区K-12・13グリットに位置し、4区78号住居跡・4区128号住居跡と重複する。4区78号住居跡との新旧関係は不明である。4区128号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床を破壊して当住居跡の南東隅の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、大部分が攪乱により破壊されており、不明である。床面の状態も明確に確認できなかった。残存壁高は、南東隅で約5～10cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しているだけである。

第四章 発見された遺構と遺物



第558図 4区128・129号住居跡



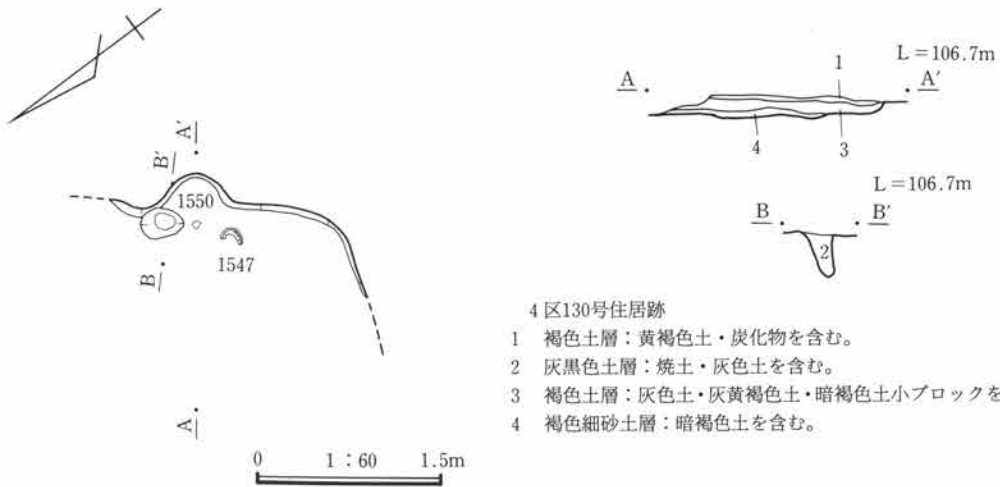
第559図 4区128号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1501	甕 須恵器	器高：(85mm) 口径：— 底径：[134mm] 胴部下半～底部迄	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部下半はやや内湾しつつ広がる。底部と胴部は貼り付け。外面：胴部下半は回転なで、一部篋なで、底部はなで。内面：胴部下半～底部は回転なで。	内外面に一部油煙附着。
1502	杯 須恵器	器高：(21mm) 口径：— 底径：[95mm] 胴部下端～底部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転篋切り後なで。内面：胴部下端～底部は回転なで。	

## 4区130号住居跡

4区I-15・16、J-15グリットに位置し、4区83号住居跡・4区85号住居跡と重複する。4区83号住居跡との新旧関係は不明である。4区85号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下より当住居跡の竈・壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。

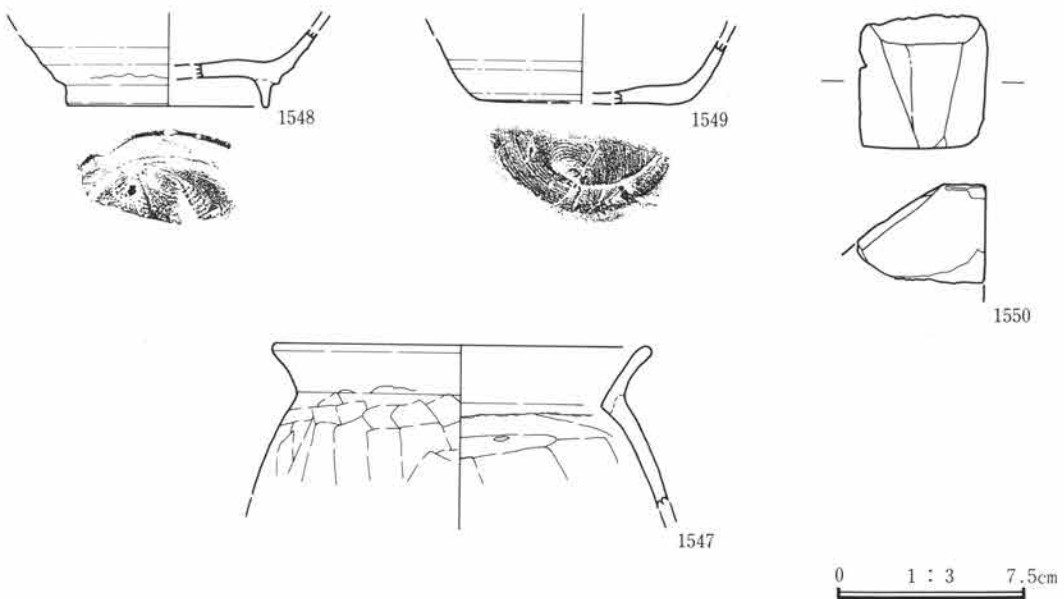
当住居跡の規模は、竈・南東隅だけの検出であり、不明である。床面の状態は比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約5cmであり、残りは悪い。竈は東壁に構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約20cmである。竈は大部分が破壊されており、袖は検出することができなかったが、燃烧部に堆積した灰・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、土師器の甕(1547)、須恵器の杯(1549)、須恵器の椀(1548)などが出土している。



## 4区130号住居跡

- 1 褐色土層：黄褐色土・炭化物を含む。
- 2 灰黒色土層：焼土・灰色土を含む。
- 3 褐色土層：灰色土・灰黄褐色土・暗褐色土小ブロックを含む。
- 4 褐色細砂土層：暗褐色土を含む。

第560図 4区130号住居跡



第561図 4区130号住居跡出土遺物

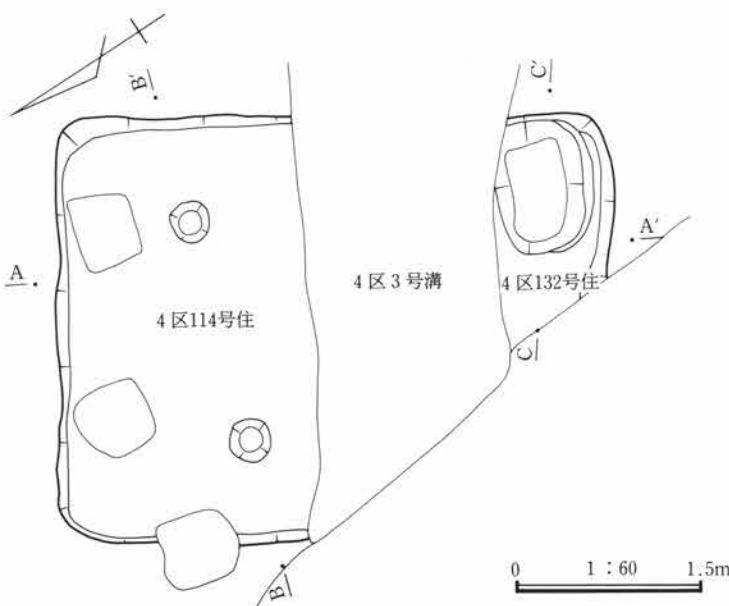
第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1547	甕 土師器	器高：(64mm) 口径：153mm 底径：— 口縁部～胴部上 端%	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部 は横なで、口縁部と胴部の間につないだ痕 が残り、胴部上端は篋なで。	外面に油埋付着。
1548	椀 須恵器	器高：(31mm) 口径：— 底 径：[82mm] 胴部下半～高 台部%	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰オリーブ。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底 部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴 部下半～底部は回転なで。	
1549	杯 須恵器	器高：(21mm) 口径：— 底 径：[84mm] 胴部下半～底 部%	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転 なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下半 ～底部は回転なで。	
1550	用途不明 石製品	長：(53mm) 幅：(51mm) 厚：(40mm) 重：109.6g	蛇紋岩。	表面は丁寧に磨いてある。	

4区114号住居跡

4区J-14・15、K-14・15グリットに位置する。調査時点では、4区132号住居跡と別の住居と判断したが、床・壁の位置・状態およびレベルから判断し、同一住居と判定した。当住居跡は4区72号住居跡・4区79号住居跡・4区81号住居跡・4区82号住居跡・4区111号住居跡・4区115号住居跡・4区131号住居跡・4区3号溝跡と重複する。4区72号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下より当住居跡の南東部の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区79号住居跡との新旧関係

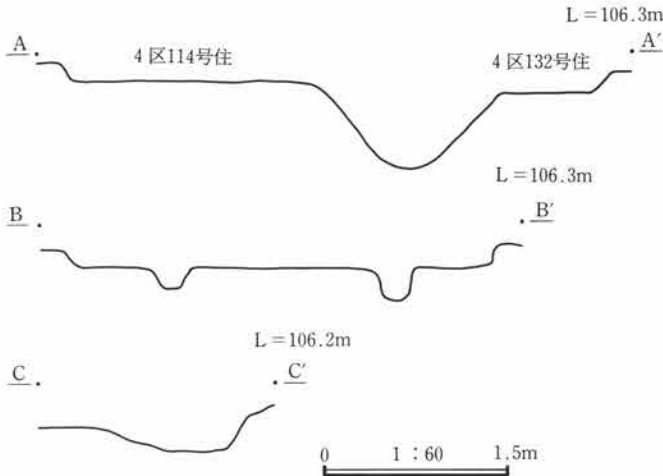
は、同住居跡の床下より当住居跡の南東部の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区81号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下より当住居跡の中央から西部の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区82号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下より当住居跡の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区111号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下より当住居跡の北東部の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区115号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下より当住



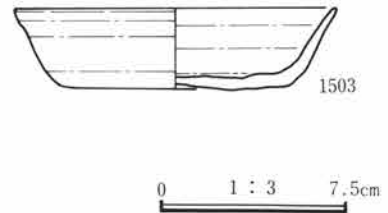
第562図 4区114号住居跡

居跡の北西部の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。4区131号住居跡との新旧関係は、同住居跡の竈が当住居跡の南東部の床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。4区3号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の中央部を東西に破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約3.4m・南北約4.4mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-31°-Eである。床面は硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約10~20cmである。竈は東壁に築かれていると推定されるが、4区3号溝跡に破壊され不明である。南東隅からは貯蔵穴と考えられるピットが検出できた。規模は、長辺約100cm・短辺約70cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な長方形を呈する。住居内の北よりからは、柱穴と考えられるピットが2基検出できた。規模は、直径約30cm・床面からの深さ約20~30cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。柱穴は4基と考えられるが、南よりの柱穴は4区3号溝跡に破壊されていると推定される。壁溝は検出できなかった。遺物は非常に少なく、貯蔵穴付近から須恵器の杯(1503)が出土しているほかは、小破片だけである。



第563図 4区114号住居跡エレベーション



第564図 4区114号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1503	杯 須恵器	器高:32mm 口径:[130mm] 底径:[92mm] 口縁部~底部 $\frac{1}{2}$	径2~3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部~口縁部は直線的に広がる。外面:口縁部~胴部は回転なで、底部は回転篋切り後なで。内面:口縁部~底部は回転なで。	外面に一部自然釉。

#### 4区134号住居跡

4区L-10・11グリットに位置し、4区135号住居跡・4区136号住居跡と重複する。4区135号住居跡・4区136号住居跡との新旧関係は不明である。当住居跡の規模は、東西約1.7m・南北約2.3mであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈する。床面は明確に認定できず、やや凹凸がある。東壁の南よ

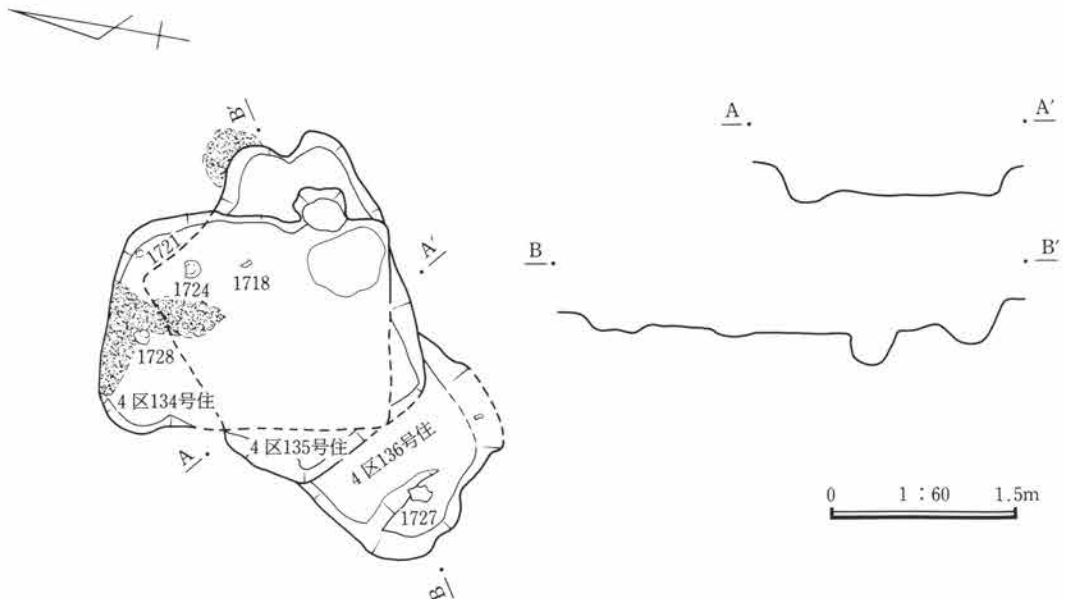
り及び南東隅よりピットが検出できた。南西隅のピットは住居より新しい。東壁南よりのピットは、東壁より張り出している。規模は、長辺約40cm・短辺約30cmであり、床面からの深さは約15cmである。ピットの性格は不明である。竈は検出できなかったが、北壁より住居内の中央にかけて焼土の散布が確認できた。柱穴・壁溝は検出できなかった。遺物は4区135号住居跡・4区136号住居跡と分離ができないものが多い。当住居跡出土と確認できたのは土師器の杯(1721)・須恵器の椀(1728)である。

#### 4区135号住居跡

4区L-10・11グリットに位置し、4区134号住居跡・4区136号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。当住居跡の規模は、重複により確認できない部分が多く断定できないが、東西約2.1m・南北約1.9mであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈すると推定される。床面の状態は不明である。竈は確認できなかったが、東壁の南よりが一部外側に膨らみ、焼土の散布が検出できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物の出土は多いが、4区134号住居跡・4区136号住居跡と分離ができない。

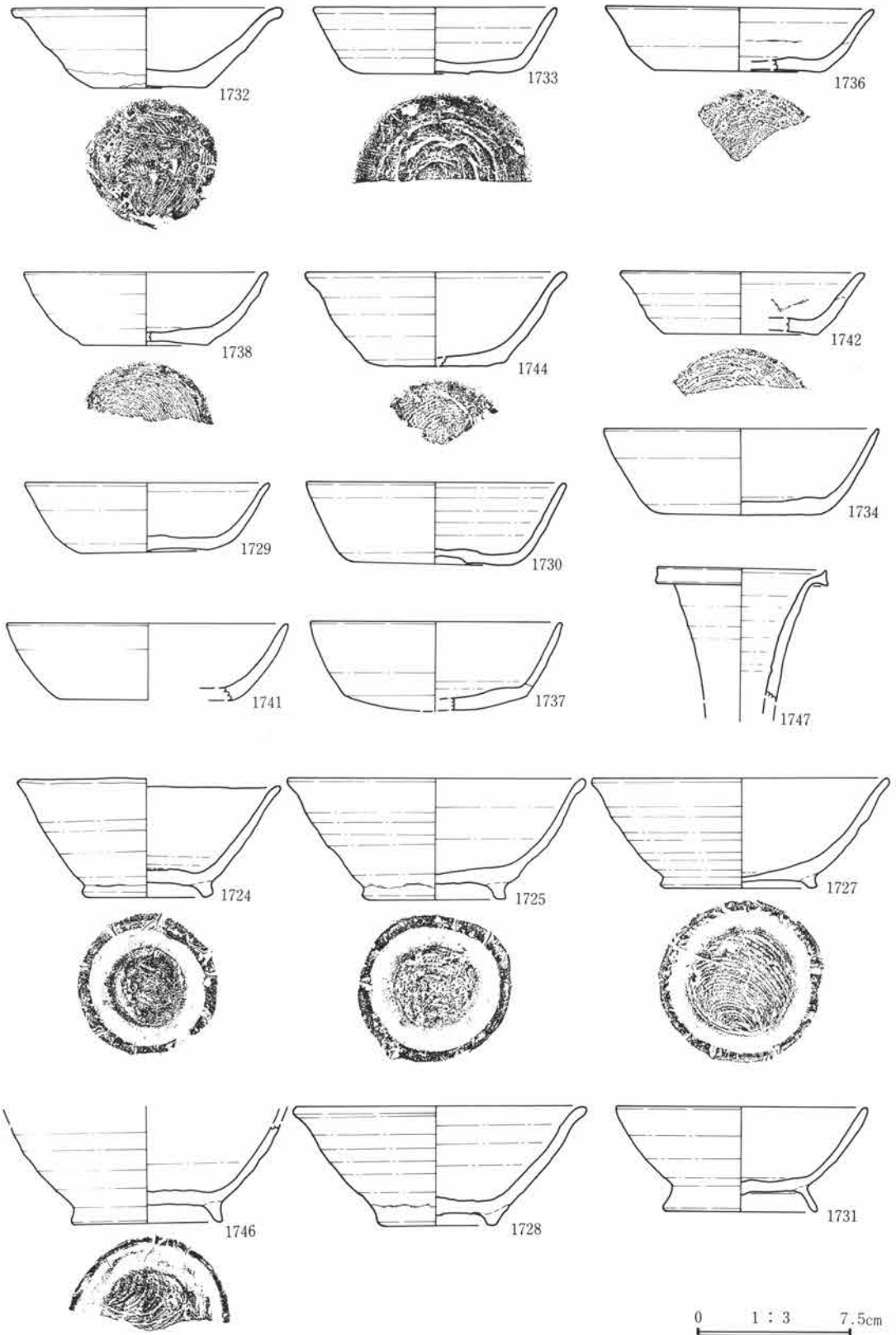
#### 4区136号住居跡

4区L-10・11グリットに位置し、4区134号住居跡・4区135号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。当住居跡の規模は、重複により確定できないが、東西は約1.6mであり、平面形は隅丸長方形を呈するものと推定している。床面の状態は、やや凹凸が多い。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物の出土は多いが、4区134号住居跡・4区135号住居跡との分離ができず、当住居跡の物と確定できたのは須恵器の椀(1727)だけである。

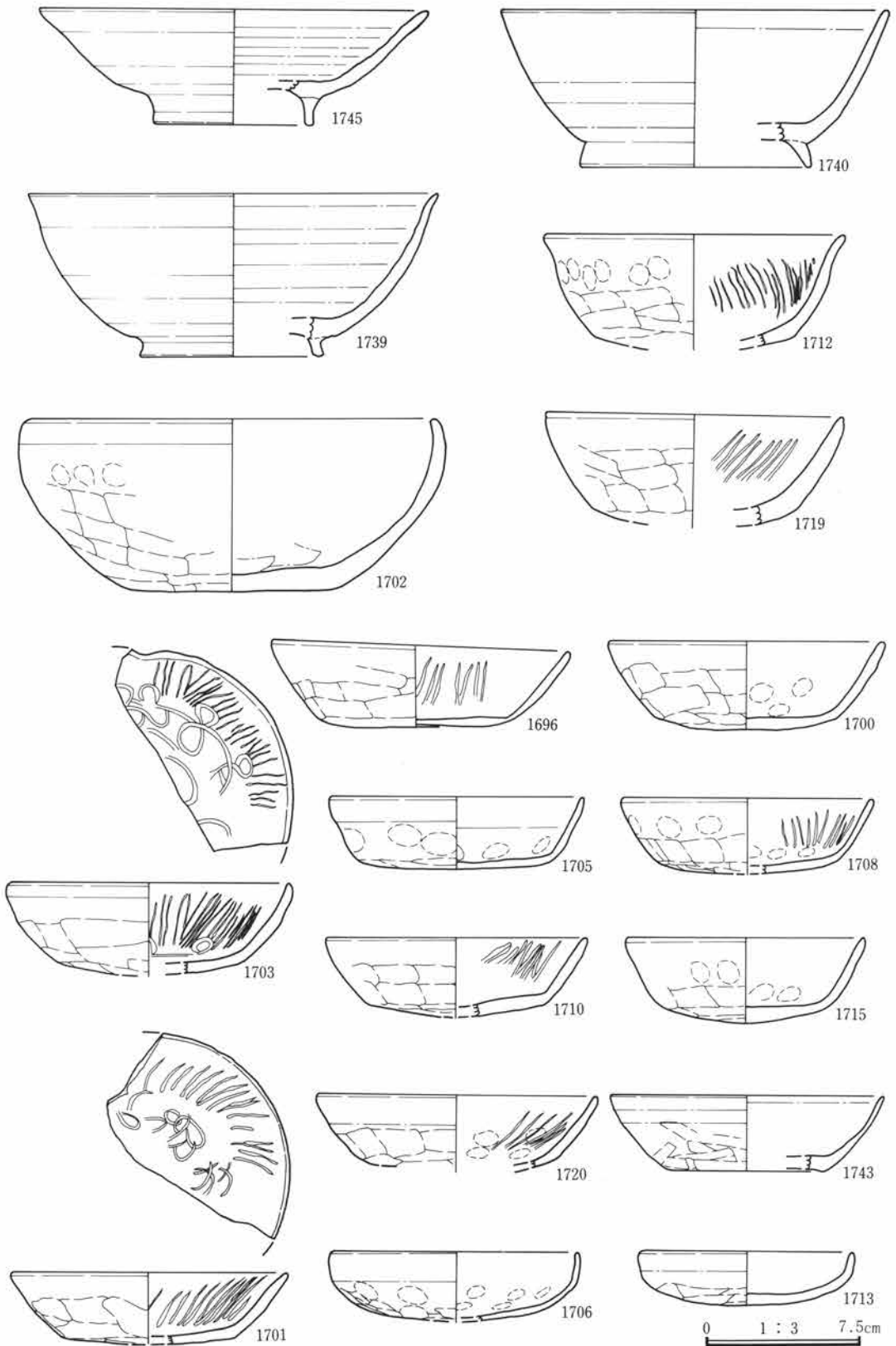


第565図 4区134・135・136号住居跡

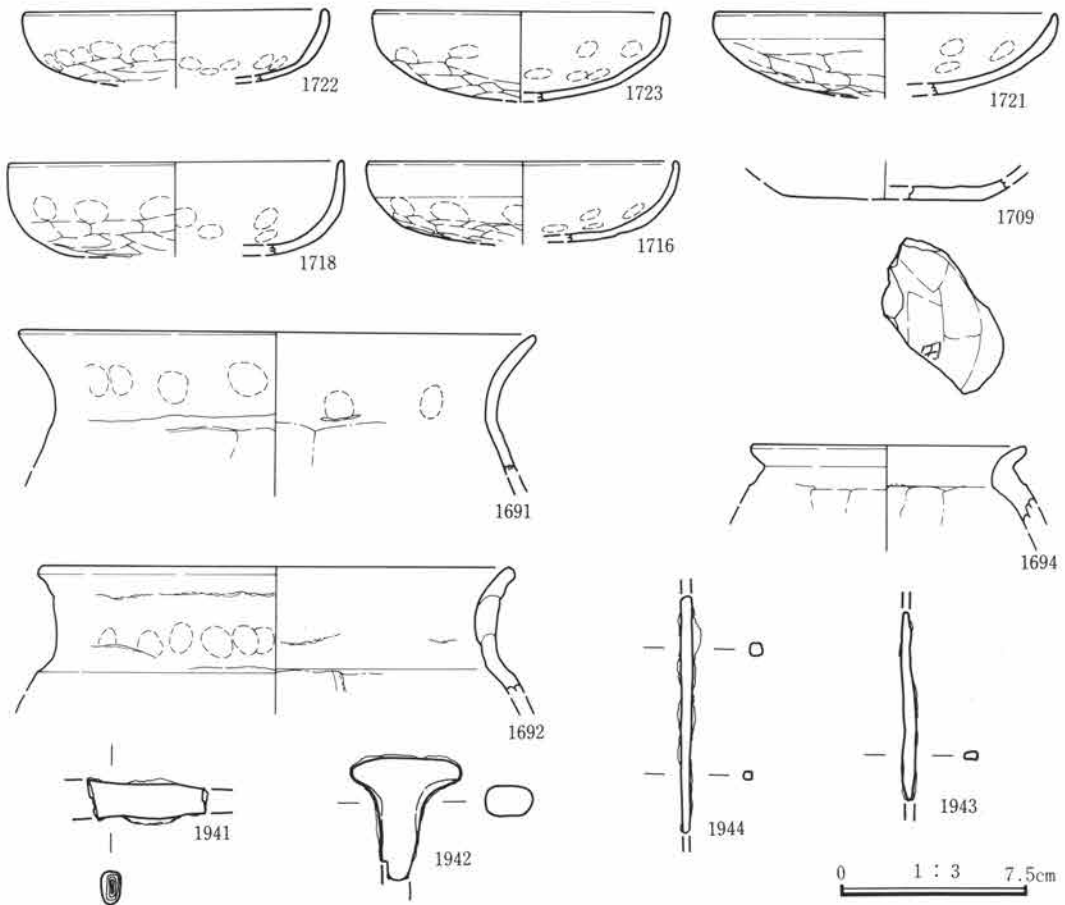




第566図 4区134・135・136号住居跡出土遺物①



第567図 4区134・135・136号住居跡出土遺物②



第568図 4区134・135・136号住居跡出土遺物③

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1691	甕 土師器	器高：(55mm) 口径：[208mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は外反。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋なで。	内外面に一部油煙付着。
1692	甕 土師器	器高：(50mm) 口径：[192mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、一部輪積痕が残り、胴部上端は篋なで。	
1694	甕 土師器	器高：(32mm) 口径：[111mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。
1696	杯 土師器	器高：42mm 口径：146mm 底径：85mm 口縁部～底部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	外面に一部油煙付着。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1700	杯 土師器	器高：43mm 口径：[136mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	
1701	杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[136mm] 底径：[84mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで後渦巻き状暗文を施す。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1702	杯 土師器	器高：83mm 口径：[200mm] 底径：102mm 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで、一部篋なで。	
1703	杯 土師器	器高：(44mm) 口径：[138mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部は渦巻き状暗文を施す。	内面に一部油煙付着。
1705	杯 土師器	器高：35mm 口径：[124mm] 底径：[86mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、指頭痕が残り、底部はなで。	
1706	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[120mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	
1708	杯 土師器	器高：(36mm) 口径：[122mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部上半は一部指頭痕が残り、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
1709	杯 土師器	器高：— 口径：— 底径：— 胴部下端～底部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	外面：胴部下端～底部は篋削り。内面：胴部下端～底部はなで。	外面底部に刻字「田」。
1710	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[126mm] 底径：[85mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	
1712	杯 土師器	器高：(53mm) 口径：[148mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁部は僅かに外反。外面：口縁部は横なで、胴部上半は指頭痕が残り、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	内外面に一部油煙付着。
1713	杯 土師器	器高：(26mm) 口径：[104mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、底部下半はなで、一部指頭痕が残る。	外面に一部油煙付着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1715	杯 土師器	器高：(41mm) 口径：[116mm] 底径：－ 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部上半は一部指頭痕が残り、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
1716	杯 土師器	器高：(32mm) 口径：[126mm] 底径：－ 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
1718	杯 土師器	器高：(37mm) 口径：[136mm] 底径：－ 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。口縁部～胴部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	
1719	杯 土師器	器高：(53mm) 口径：[146mm] 底径：－ 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで後放射状暗文を施す。	
1720	杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[136mm] 底径：－ 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで後放射状暗文を施す、一部指頭痕が残る。	
1721	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[138mm] 底径：－ 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1722	杯 土師器	器高：(29mm) 口径：[122mm] 底径：－ 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、指頭痕が残り、底部上端はなで、指頭痕が残る。	
1723	杯 土師器	器高：(36mm) 口径：[118mm] 底径：－ 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1724	碗 須恵器	器高：57mm 口径：133mm 底径：65mm ほぼ完形	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に一部油煙付着。
1725	碗 須恵器	器高：58mm 口径：147mm 底径：70mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に一部油煙付着。

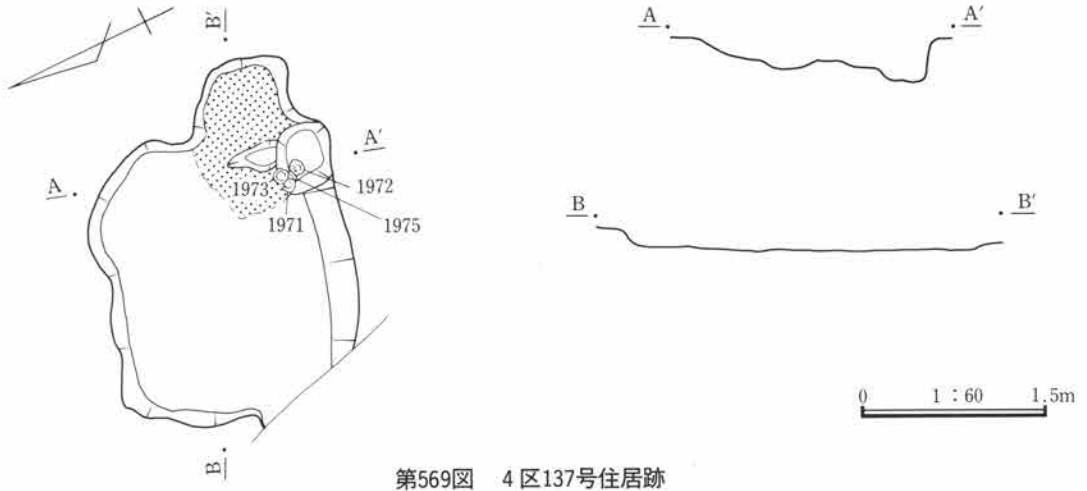
第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1727	碗 須恵器	器高：53mm 口径：142mm 底径：78mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、 底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面： 口縁部～底部は回転なで。	内外面に一部油煙 付着。
1728	碗 須恵器	器高：57mm 口径：[144mm] 底径：61mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつ つ広がり、口縁部は僅かに外反。外面：口 縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付 け後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1729	杯 須恵器	器高：34mm 口径：122mm 底径：65mm 口縁部～底部 $\frac{2}{3}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回 転笠切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1730	杯 須恵器	器高：39mm 口径：128mm 底径：84mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広 がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底 部は回転笠切り後なで。内面：口縁部～底 部は回転なで。	
1731	碗 須恵器	器高：50mm 口径：[122mm] 底径：75mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつ つ広がる。外面：口縁部は回転なで、胴部は 回転笠削り、底部は高台貼り付け後なで。 内面：口縁部～底部は回転なで。	
1732	杯 須恵器	器高：39mm 口径：[133mm] 底径：58mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。やや硬質。灰白・ 鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつたつ広がり、口縁部はやや外反。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回 転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1733	杯 須恵器	器高：33mm 口径：[120mm] 底径：[78mm] 口縁部～底 部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回 転笠切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1734	杯 須恵器	器高：42mm 口径：[135mm] 底径：84mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部ほぼ直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回 転笠切り後なで。内面：口縁部～底部 は回転なで。	外面に油煙付着。
1736	杯 須恵器	器高：(31mm) 口径：[132 mm] 底径：[82mm] 口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつ つ広がり、口縁部は僅かに外反。外面： 口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切 り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面口縁部～胴部 に自然軸。
1737	杯 須恵器	器高：(42mm) 口径：[124 mm] 底径：[90mm] 口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつ つ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、 底部は回転笠切り後なで。内面：口縁部 ～底部は回転なで。	
1738	杯 須恵器	器高：(35mm) 口径：[120 mm] 底径：[64mm] 口縁部 ～底部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつたつ広がる。外面：口縁部～胴部は回 転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部 ～底部は回転なで。	

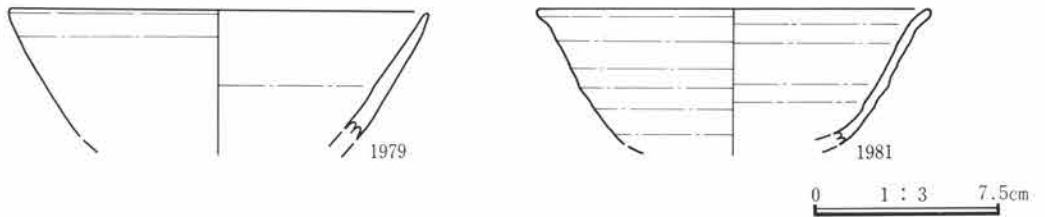
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1739	椀 須恵器	器高：(78mm) 口径：[200mm] 底径：[90mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転で。	
1740	椀 須恵器	器高：(75mm) 口径：[190mm] 底径：[114mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部上半は回転で、胴部下半は回転削り、底部は高台貼り付け後で。内面：口縁部～底部は回転で。	
1741	杯 須恵器	器高：(37mm) 口径：[138mm] 底径：[85mm] 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転削り。内面：口縁部～底部は回転で。	外面に一部自然釉。
1742	杯 須恵器	器高：(30mm) 口径：[120mm] 底径：[76mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転削り。内面：口縁部～底部は回転で。	
1743	杯 須恵器	器高：(36mm) 口径：[134mm] 底径：[76mm] 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、胴部は一部寛で、底部は回転削り後で。内面：口縁部～底部は回転で。	
1744	杯 須恵器	器高：(45mm) 口径：[128mm] 底径：[70mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰黄。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転削り。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面の一部に油煙付着。
1745	椀 須恵器	器高：(55mm) 口径：[190mm] 底径：[78mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。灰白・鈍い黄橙。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転削り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転で。	内面の一部に油煙付着。
1746	椀 須恵器	器高：(46mm) 口径：— 底径：[74mm] 口縁部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転削り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転で。	
1747	長頸壺 須恵器	器高：(63mm) 口径：[83mm] 底径：— 口縁部～頸部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰・赤灰。	轆轤整形。口縁部は大きく外反し、外縁帯を持つ。内外面共に口縁部～頸部は回転で。	内外面共に口縁部は自然釉。
1941	？ 鉄製品	長：(49mm) 幅：10～14mm 厚：8mm		刀子の茎か。鉄板を三重に巻き、たたいて鍛えてある。	
1942	？ 鉄製品	長：(48mm) 幅：13～43mm 厚：10～12mm		用途不明。	
1943	？ 鉄製品	長：(74mm) 幅：4～6mm 厚：3mm		鉄鎌の茎か。	
1944	？ 鉄製品	長：(93mm) 幅：6～4mm 厚：6～4mm		鉄鎌の茎か、または紡錘車の軸か。	

4区137号住居跡

4区M-10・11グリットに位置し、4区136号住居跡が近接するが、重複は無い。当住居跡の規模は、東西約2.3m・南北約2.0mであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈する。床面の状態は、やや軟弱な部分があり、細かい凹凸もやや目立つ。竈は東壁の南よりに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約60cmである。袖は検出できなかったが、燃烧部に堆積した灰・焼土を確認することができた。南東隅からは貯蔵穴と考えられるピットが検出できた。規模は、長辺約50cm・短辺40cm・確認面からの深さ15cmであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかった。遺物の出土は多く貯蔵穴より須恵器の杯(1971・1972・1973)、須恵器の椀(1975)の他、覆土中からの出土が多い。

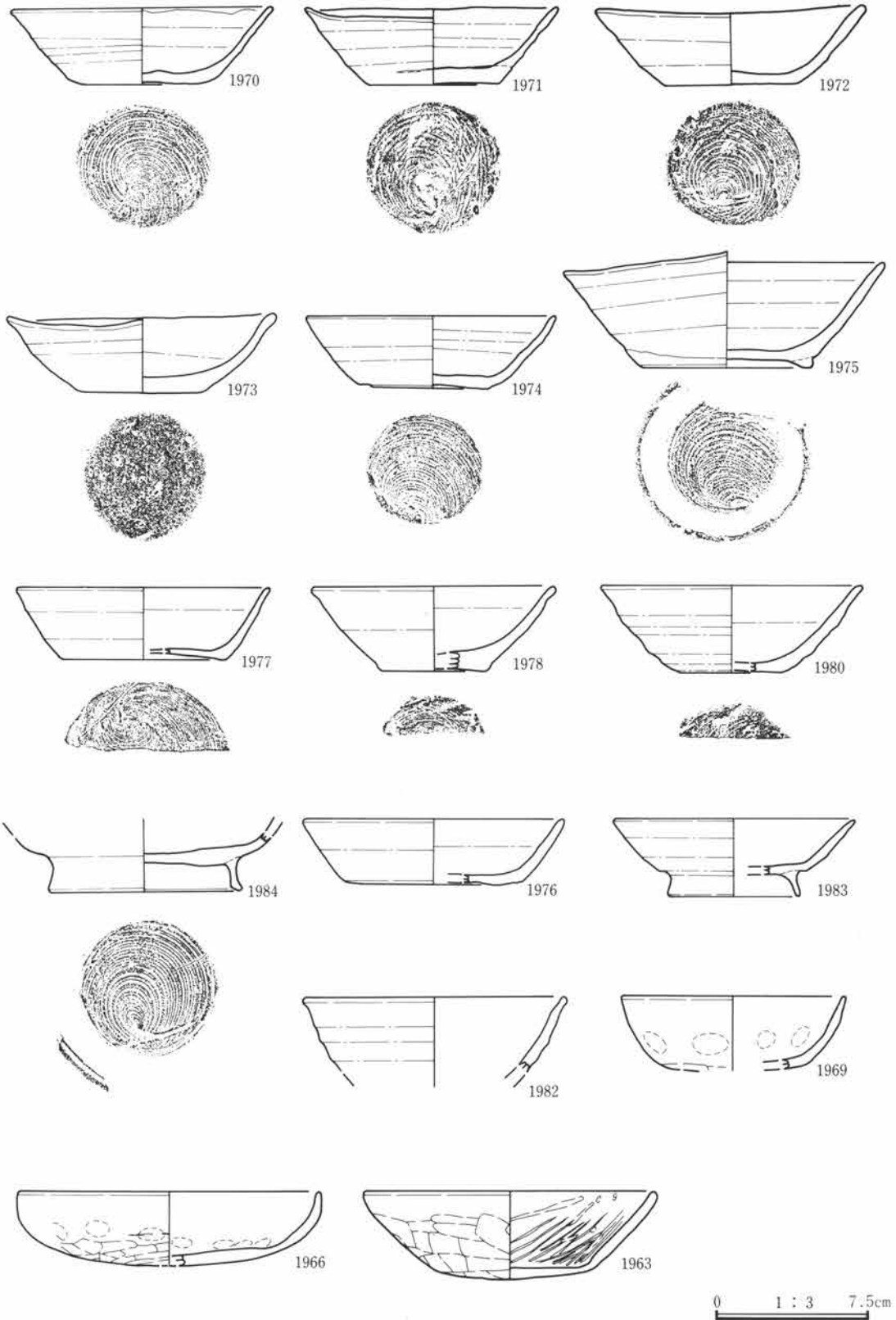


第569図 4区137号住居跡

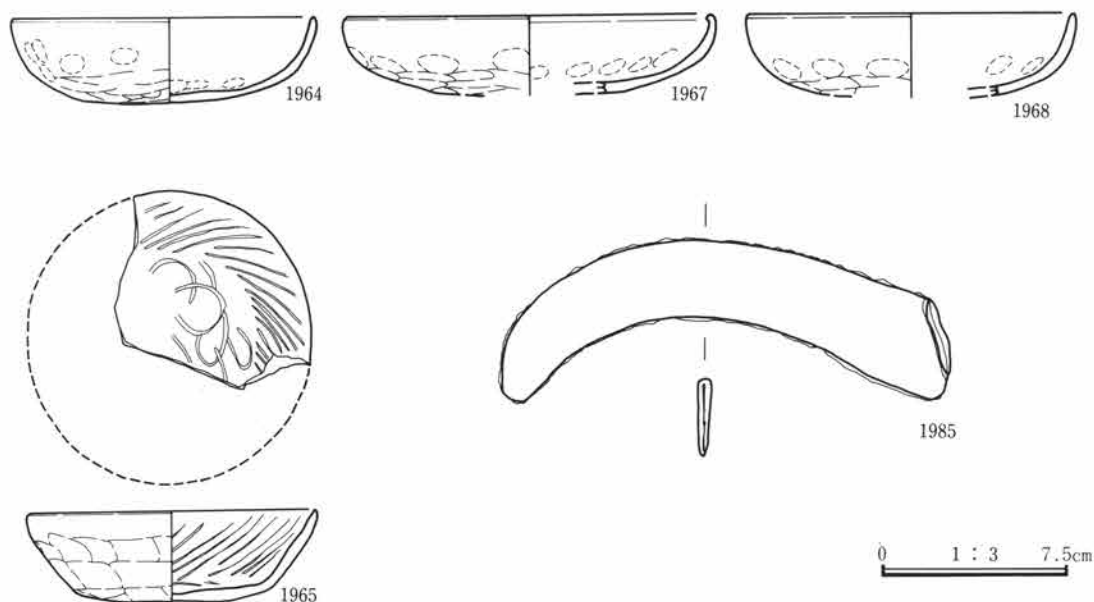


第570図 4区137号住居跡出土遺物①





第571图 4区137号住居跡出土遺物②



第572図 4区137号住居跡出土遺物③

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1963	杯 土師器	器高：42mm 口径：145mm 底径：77mm 口縁部～底部 ⅔	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部 は僅かに内湾。外面：口縁部は横なで、胴 部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は 横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	
1964	杯 土師器	器高：34mm 口径：[122mm] 底径：— 口縁部～底部 ⅔	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。鈍い赤褐。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口 縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、底部 は篋削り。内面：口縁部～底部は横なで、 指頭痕が残り、底部はなで、指頭痕が残る。	
1965	杯 土師器	器高：36mm 口径：[116mm] 底径：[80mm] 口縁部～底 部⅔	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口 縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面： 口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施 し、底部はなで後渦巻き状暗文を施す。	
1966	杯 土師器	器高：(36mm) 口径：[148 mm] 底径：— 口縁部～底 部⅔	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。平底に近い丸底。 外面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残 り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上 端は横なで、指頭痕が残り、底部はなで。	
1967	杯 土師器	器高：(32mm) 口径：[147 mm] 底径：— 口縁部～底 部⅔	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。平底に近い丸底。 外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕 が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底 部は横なで、一部指頭痕が残る。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1968	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	
1969	杯 土師器	器高：(35mm) 口径：[110mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	
1970	杯 須恵器	器高：38mm 口径：130mm 底径：70mm 完形	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	口縁端部にタール又は漆附着。
1971	杯 須恵器	器高：37mm 口径：125mm 底径：67mm 完形	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1972	杯 須恵器	器高：36mm 口径：134mm 底径：66mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1973	杯 須恵器	器高：36mm 口径：132mm 底径：63mm 完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白(黒)。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面口縁部～胴部・内面口縁部～底部に油煙附着。燻し。
1974	杯 須恵器	器高：35mm 口径：124mm 底径：58mm ほぼ完形	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1975	碗 須恵器	器高：56mm 口径：158mm 底径：88mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1976	杯 須恵器	器高：(32mm) 口径：[128mm] 底径：[88mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の口縁部に油煙附着。
1977	杯 須恵器	器高：(35mm) 口径：[126mm] 底径：[82mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面底部の一部に油煙附着。
1978	杯 須恵器	器高：(41mm) 口径：[120mm] 底径：[55mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面胴部下半～底部に油煙附着。

第IV章 発見された遺構と遺物

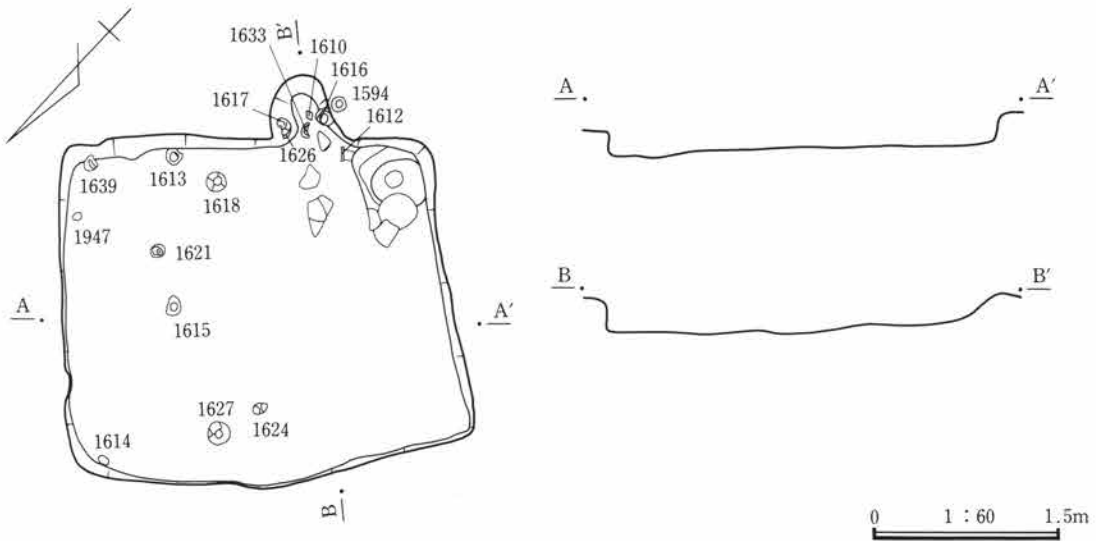
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1979	碗 須恵器	器高：(50mm) 口径：[170mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	外面に自然釉。
1980	杯 須恵器	器高：(43mm) 口径：[130mm] 底径：[50mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{4}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～胴部は回転なで。	
1981	碗 須恵器	器高：(54mm) 口径：[160mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	外面の一部に自然釉。
1982	碗 須恵器	器高：(36mm) 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{4}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	
1983	碗 須恵器	器高：(38mm) 口径：[120mm] 底径：[66mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1984	碗 須恵器	器高：(27mm) 口径：— 底径：[96mm] 胴部下端～高台部 $\frac{3}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転なで。	
1985	鎌 鉄製品	長：179mm 幅：20～37mm 厚：6mm		反りは少ない。貴部は折り曲げ。鉄板を折り曲げ、たたいて鍛えている。	

## 5区1号住居跡

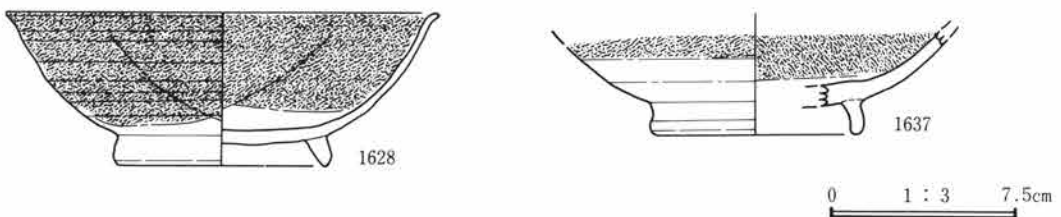
5区L-7・8、M-7・8グリットに位置し、重複はない。規模は、東西約2.8m・南北約3.2mであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈する。主軸はN-44°-Eである。床面の状態は、竈を中心に比較的硬く、ほぼ平坦である。壁は全て確認でき、残存壁高は約20~30cmを測る。

竈は東壁の南よりに構築されており、燃烧部の壁外への張り出しは約50cmである。袖は大部分が破壊されていたが、河原石と粘土を使用した基部を検出することができた。燃烧部からは灰・焼土の堆積が確認できた。南東隅からは貯蔵穴と考えられるピットが検出できた。上面の規模は、長辺約60cm・短辺約50cmであり、平面形は不整形な長方形を呈する。下面の平面形は、不整形な円形を呈し、床面からの深さは約50cmを測る。柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。

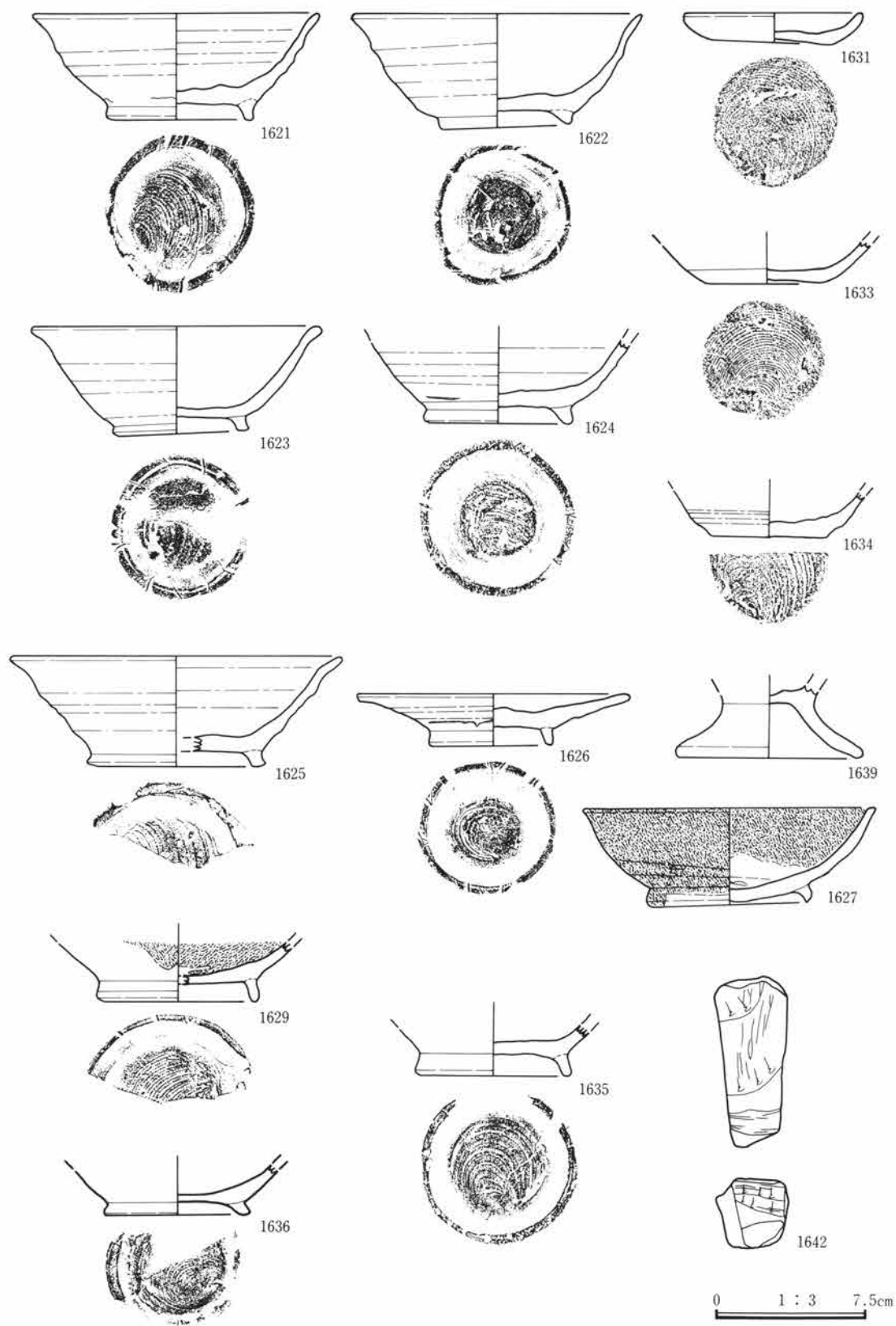
遺物は住居跡内全般から多量に出土している。種類は土師器の甕(1608・1609・1610・1638)、土師器の台付甕(1639)、土師器の杯(1632・1640)、須恵器の甕(1641)、須恵器の壺(1611・1612)、須恵器の杯(1613・1614・1615・1616・1617・1618・1619・1620・1630・1633・1634)、須恵器の椀(1621・1622・1623・1624・1625・1635・1636)、須恵器の皿(1626)、灰釉陶器の椀(1627・1628・1629・1637)の他、砥石(1642)、鉄製の鎌(1946)、刀子(1947)などがある。



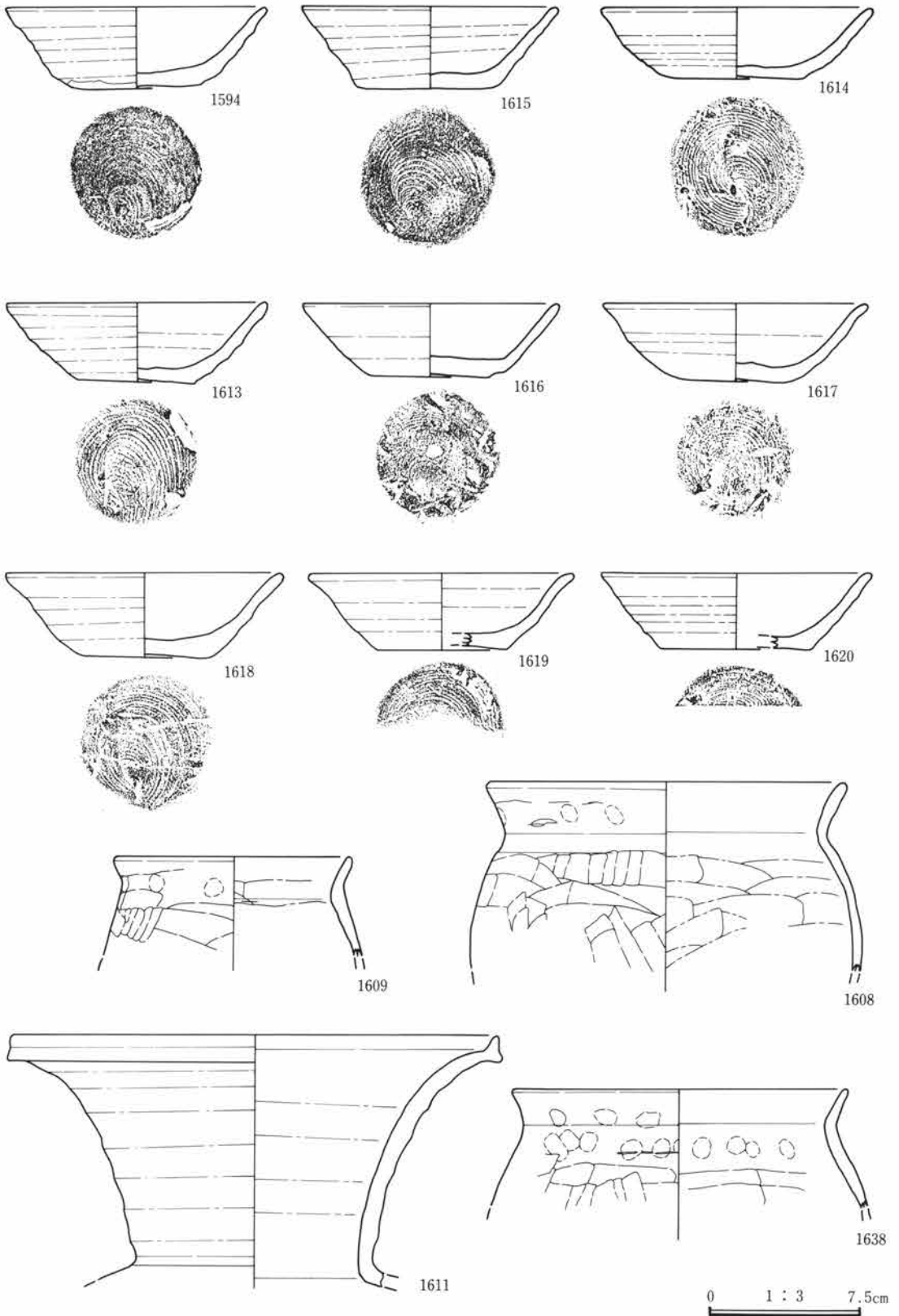
第573図 5区1号住居跡



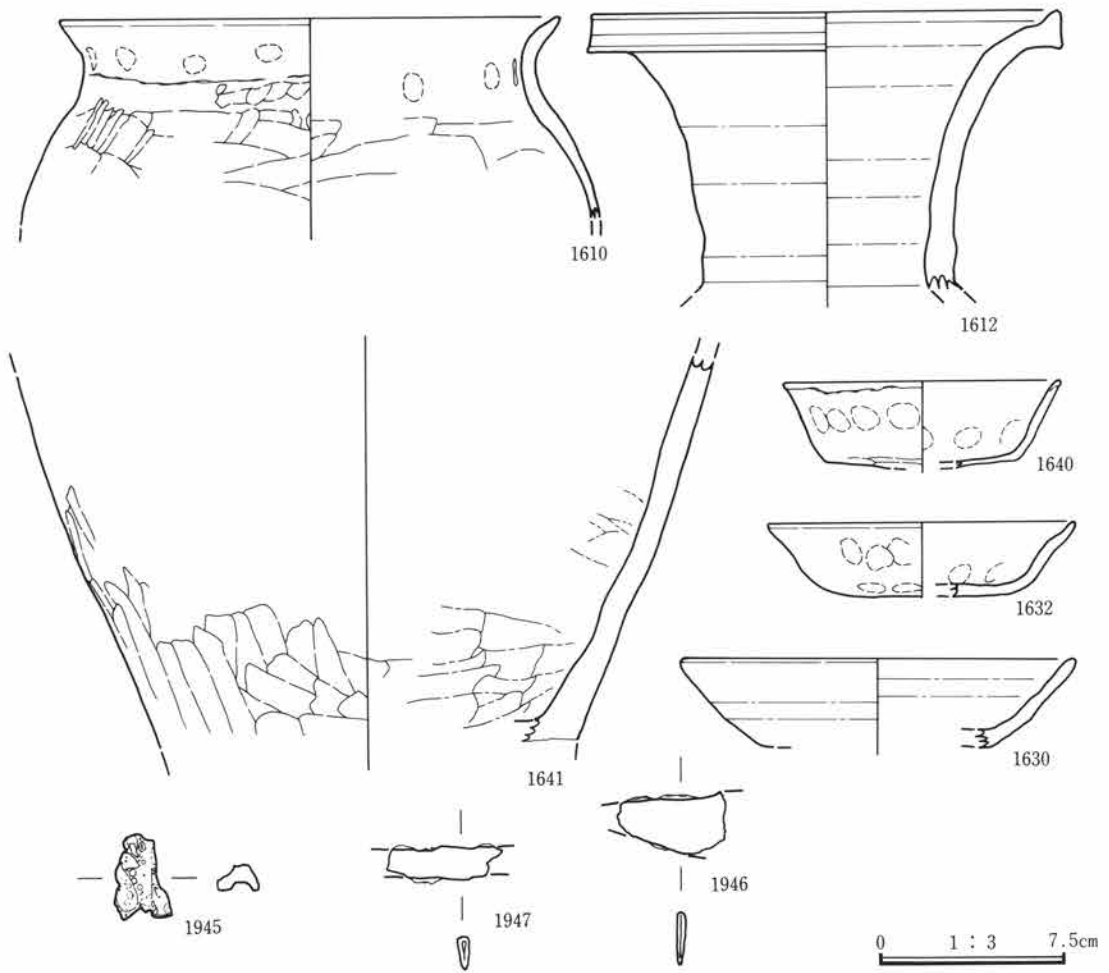
第574図 5区1号住居跡出土遺物①



第575図 5区1号住居跡出土遺物②



第576图 5区1号住居跡出土遺物③



第577図 5区1号住居跡出土遺物④

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1594	杯 須恵器	器高：39mm 口径：129mm 底径：66mm 完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面の胴部～底部の一部に油煙付着。
1608	甕 土師器	器高：(92mm) 口径：[180mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横で、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横で、胴部上半は篋で。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1609	甕 土師器	器高：(48mm) 口径：[118mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横で、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横で、胴部上端は篋で。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1610	甕 土師器	器高：(81mm) 口径：[200mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋なで。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1611	甕 須恵器	器高：(121mm) 口径：242mm 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。口縁部は大きく外反し、口縁端部は外縁帯を持つ。内外面共に口縁部は回転なで。	内外面の口縁部に自然釉。
1612	壺 須恵器	器高：(108mm) 口径：188mm 底径：— 口縁部～頸部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。口縁部は大きく外反し、外縁帯を持つ。外面：口縁部～頸部は回転なで。内面：口縁部～頸部は回転なで、一部輪積痕が残る。	
1613	杯 須恵器	器高：39mm 口径：130mm 底径：62mm 完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の口縁部～胴部の一部に油煙付着。
1614	杯 須恵器	器高：34mm 口径：134mm 底径：65mm 完形	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の一部に油煙付着。
1615	杯 須恵器	器高：40mm 口径：127mm 底径：70mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の胴部～底部に油煙付着。
1616	杯 須恵器	器高：36mm 口径：128mm 底径：63mm ほぼ完形	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部ほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面共にやや多量の油煙付着。
1617	杯 須恵器	器高：38mm 口径：129mm 底径：56mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1618	杯 須恵器	器高：41mm 口径：138mm 底径：67mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。軟質。灰白・浅黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～胴部は回転なで。	内外面の一部に油煙付着。
1619	杯 須恵器	器高：37mm 口径：130mm 底径：62mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1620	杯 須恵器	器高：(37mm) 口径：[134mm] 底径：[75mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	

第IV章 発見された遺構と遺物

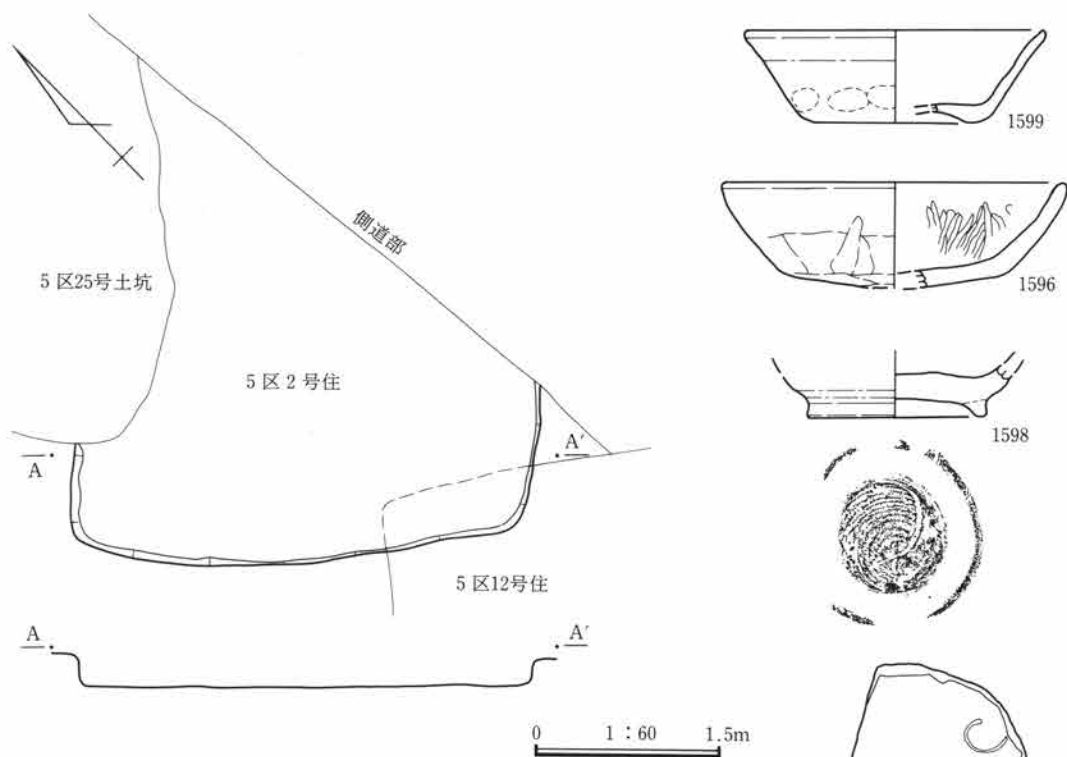
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1621	碗 須恵器	器高：51mm 口径：[142mm] 底径：72mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白(黒)。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は 回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付 け。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面共に全面的 に油煙付着。燻し。
1622	碗 須恵器	器高：55mm 口径：147mm 底径：67mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。軟 質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ 広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、 底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面： 口縁部～底部は回転で。	内外面の一部に油 煙付着。
1623	碗 須恵器	器高：53mm 口径：145mm 底径：67mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。軟 質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ 広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口 縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り 後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回 転で。	内外面の一部に油 煙付着。
1624	碗 須恵器	器高：(40mm) 口径：一 底 径：74mm 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。やや軟質。灰白・ 鈍い褐。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつつ 広がる。外面：胴部は回転で底部は回転 糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～口縁 部は回転で。	
1625	碗 須恵器	器高：53mm 口径：[165mm] 底径：[90mm] 口縁部～高 台部 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直 線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外 面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転 糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底 部は回転で。	内外面の口縁部 ～胴部に油煙付 着。燻し。
1626	皿 須恵器	器高：25mm 口径：136mm 底径：62mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回 転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部 ～胴部は回転で。	外面の一部に自然 釉。
1627	碗 灰釉陶器	器高：47mm 口径：148mm 底径：82mm ほぼ完形	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。やや軟質。 灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ 広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口 縁部～胴部は回転で、底部高台貼り付け 後で。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面共に口縁部 ～胴部に施釉。
1628	碗 灰釉陶器	器高：60mm 口径：[174mm] 底径：88mm 口縁部～高台 部 $\frac{1}{4}$	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ 広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口 縁部～胴部は回転で、底部は高台貼り付 け後で。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面共に口縁部 ～胴部施釉。内面 の一部に油煙付 着。
1629	碗 灰釉陶器	器高：(29mm) 口径：一 底 径：[80mm] 胴部下半～高 台部 $\frac{1}{4}$	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転 で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。 内面：胴部下半～底部は回転で。	内外面共に胴部下 半まで施釉。
1630	杯 須恵器	器高：(30mm) 口径：[160 mm] 底径：[92mm] 口縁部 ～底部上端 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。 外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回 転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	内面の一部に油煙 付着。
1631	杯 土師質土 器	器高：15mm 口径：89mm 底 径：62mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。鈍い黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は 回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁 部～底部は回転で。	内外面に一部油煙 付着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1632	杯 土師器	器高：30mm 口径：[124mm] 底径：[64mm] 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部～口縁部はやや屈曲しつつ広がり、口縁端部は僅かに内湾。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	内面底部に一部油煙付着。
1633	杯 須恵器	器高：(19mm) 口径：— 底径：62mm 胴部下半～底部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下半～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1634	杯 須恵器	器高：(22mm) 口径：— 底径：58mm 胴部下端～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下端～底部は回転なで。	内外面共に胴部下端～底部は全面的に油煙付着。焼き。
1635	椀 須恵器	器高：(25mm) 口径：— 底径：78mm 胴部下端～高台部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転なで。	内外面に一部油煙付着。
1636	椀 須恵器	器高：(23mm) 口径：— 底径：[72mm] 胴部下半～高台部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転なで。	内外面共にほぼ全面的に油煙付着。焼き。
1637	椀 灰釉陶器	器高：(41mm) 口径：— 底径：[86mm] 胴部～高台部迄	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部上半は回転なで、胴部下半は回転篋削り、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部～底部は回転なで。	内外面共に胴部まで施釉。
1638	甕 土師器	器高：(58mm) 口径：[167mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上半は篋なで。	
1639	台付甕 土師器	器高：(35mm) 口径：— 底径：92mm 底部～脚部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。赤褐色。	脚部は「ハ」字状に開く。外面：底部はなで、脚部は横なで。外面：脚部は横なで。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1640	杯 土師器	器高：(34mm) 口径：[112mm] 底径：[77mm] 口縁部～底部迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1641	甕 須恵器	器高：(148mm) 口径：— 底径：— 胴部下半～底部上端迄	径3～4mm残り小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・鈍い橙。	胴部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：胴部下半はなで、一部篋なで。底部はなで。内面：胴部下半はなで、一部篋なで。	内外面に油煙付着。
1642	砥石	長：(83mm) 幅：37mm 厚：35mm 重：117.4g	砥沢石。	使用面は3面。	
1945	鉄滓			鉄分を含む。	
1946	鎌 鉄製品	長：(43mm) 幅：12～22mm 厚：3.5mm		鎌の一部か。鉄板を折り曲げて製造。	
1947	刀子 鉄製品	長：(46mm) 幅：13mm 厚：5mm		刀子の一部。	

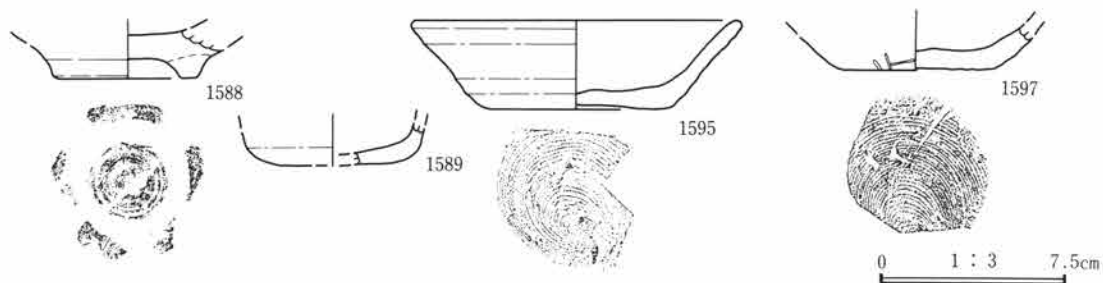
5区2号住居跡

4区K-6・7、L-7グリットに位置し、5区12号住居跡、5区38号住居跡、5区25号土坑と重複する。5区12号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東隅の壁・床の上面に当住居跡の南西隅の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。5区38号住居跡との新旧関係は不明である。5区25号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の北部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東部が検出できなかったので確定できないが、南北は約3.6mであり、平面形は隅丸長方形を呈するものと推定している。床面の状態は比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は、西部で約20~25cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は、土師器の杯(1596・1599)、須恵器の杯(1589・1595・1597)、須恵器の碗(1588・1598)などが出土している。



第578図 5区2号住居跡



第579図 5区2号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1588	椀 須恵器	器高：(19mm) 口径：一 底径：[60mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転で、底部は高台貼り付け後で。内面：胴部下端～底部は回転で。	
1589	杯 須恵器	器高：(16mm) 口径：一 底径：[48mm] 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転で、底部は回転篋切り後で。内面：胴部下端～底部は回転で。	内面底部にタール又は漆付着。
1595	杯 須恵器	器高：35mm 口径：[134mm] 底径：[71mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	
1596	杯 土師器	器高：(41mm) 口径：[138mm] 底径：一 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横で、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横で後放射状暗文を施し、底部はなで。	
1597	杯 須恵器	器高：(18mm) 口径：一 底径：[64mm] 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転で、底部は回転糸切り。内面：胴部下端～底部は回転で。	内面に油煙付着。
1598	椀 須恵器	器高：(20mm) 口径：一 底径：72mm 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転で、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転で。	
1599	杯 土師器	器高：(36mm) 口径：[122mm] 底径：[66mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部は横で、胴部は一部指頭痕が残り、底部はなで。内面：口縁部～底部上半はなで。	内外面に油煙付着

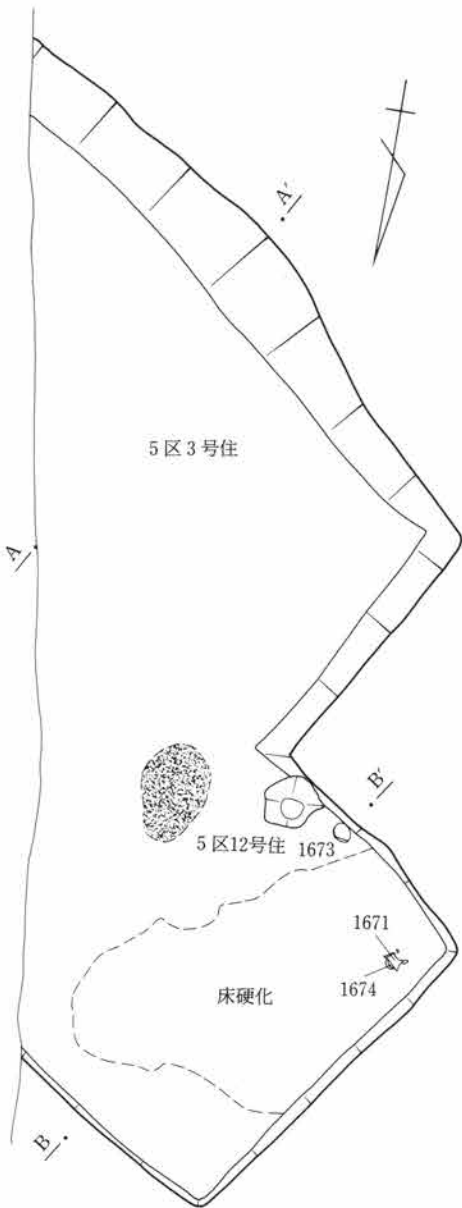
## 5区3号住居跡

5区K-4・5、L-4・5グリットに位置し、5区12号住居跡・5区17号住居跡・5区19号住居跡・5区26号住居跡と重複する。5区12号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南部の床の一部が当住居跡の北東部の床上から検出されたことから、当住居跡の方が古い。5区17号住居跡・5区19号住居跡・5区26号住居跡との新旧関係は不明である。

当住居跡の規模は、東部が検出できなかったために、不明である。床面は軟弱であり、明確に確認できなかった。底面からの壁の立ち上がりは、南部で60cmを測る。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物はすべて覆土からの出土であり、土師器の甕(1592・1593)、土釜(1590)、土師質土器の杯(1591)などがある。

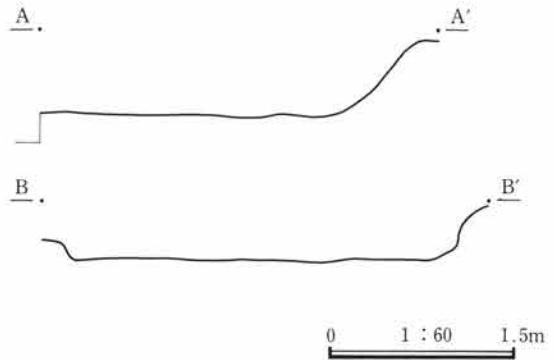
## 5区12号住居跡

5区K-5・6、L-5・6グリットに位置し、5区2号住居跡・5区3号住居跡・5区19号住居跡と重複する。5区2号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南西隅の壁・床が当住居跡の北東隅の床

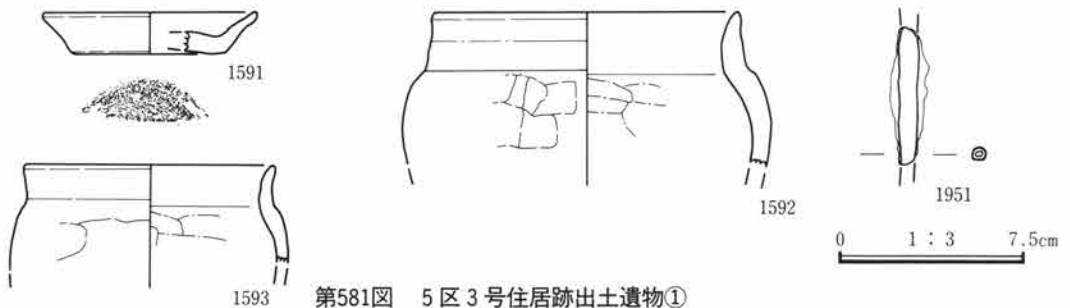


上に築かれていることから、当住居跡の方が古い。5区3号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の床面上から当住居跡の床が検出できたことから、当住居跡の方が新しい。5区19号住居跡との新旧関係は不明である。

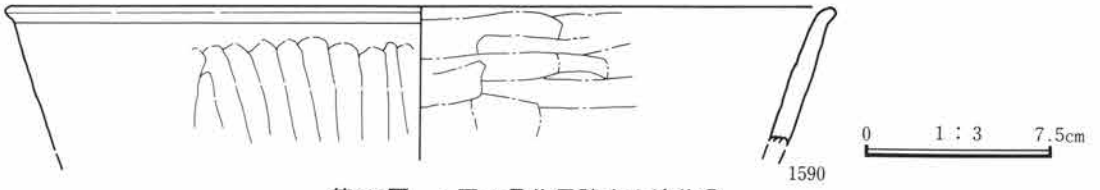
当住居跡の規模は、東部が検出できなかったために確定できないが、南北は約3.2mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。床面の状態は、やや軟弱な部分があるが、ほぼ平坦である。残存壁高は北東部では約15cmであるが、西壁は40cmを測る。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。住居内南西部の床面からは焼土の散布が確認できた。遺物は、土師器の甕(1671・1672・1676)、土師器の杯(1675)、須恵器の杯(1673・1674・1677・1678)などが出土している。



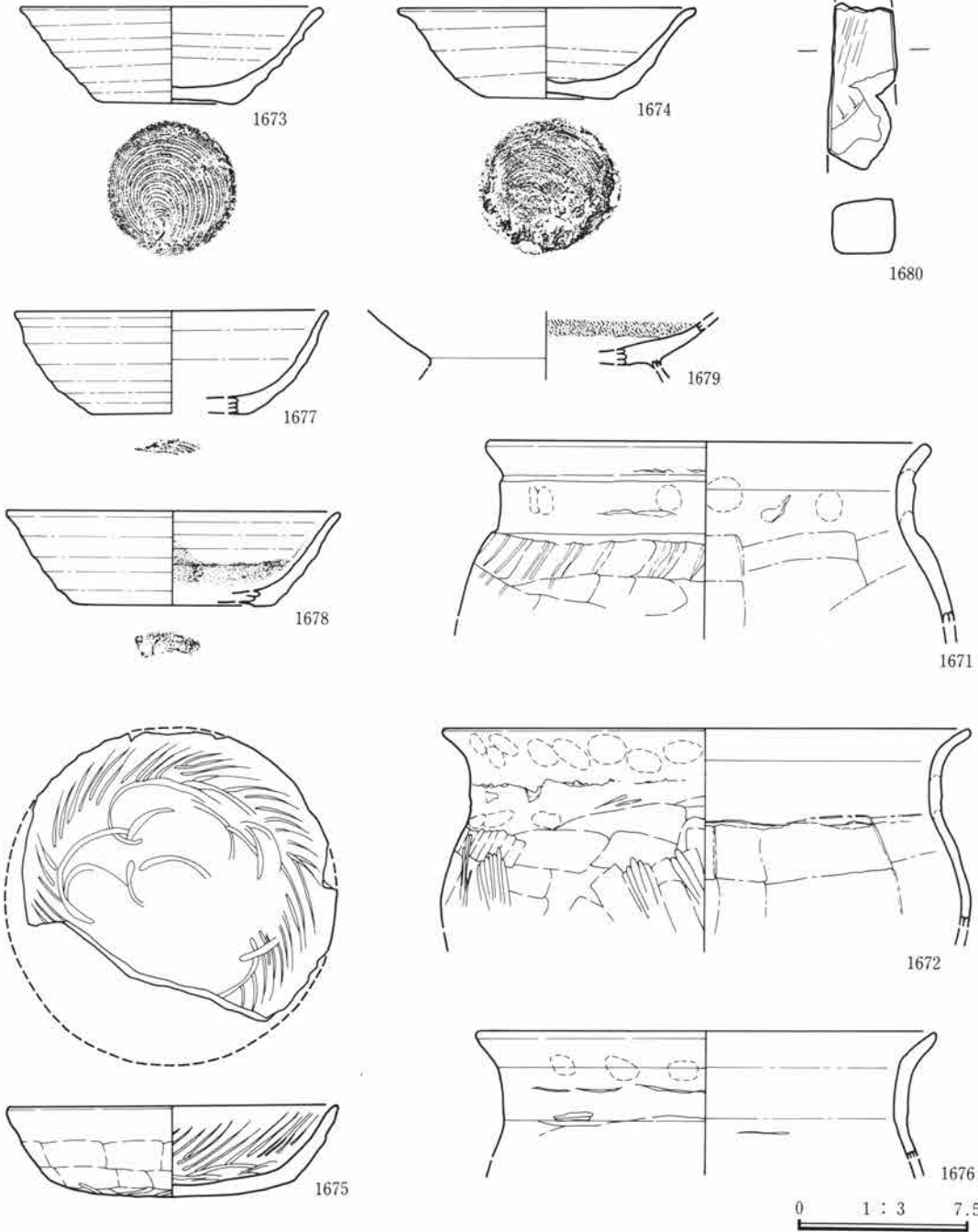
第580図 5区3・12号住居跡



第581図 5区3号住居跡出土遺物①



第582図 5区3号住居跡出土遺物②



第583図 5区12号住居跡出土遺物

第四章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1590	土 釜	器高：(55mm) 口径：[334mm] 底径：— 口縁部～胴部上端%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い黄橙。	口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。
1591	杯 土師質土器	器高：(17mm) 口径：[88mm] 底径：[62mm] 口縁部～底部%	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。浅黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1592	甕 土師器	器高：(62mm) 口径：[124mm] 底径：— 口縁部～胴部上端%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部はやや外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	
1593	甕 土師器	器高：(38mm) 口径：[102mm] 底径：— 口縁部～胴部上端%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	
1951	? 鉄製品	長：(55mm) 幅：7～8mm 厚：5～6mm		鉄製の茎または紡錘車の軸か。芯は空洞。	

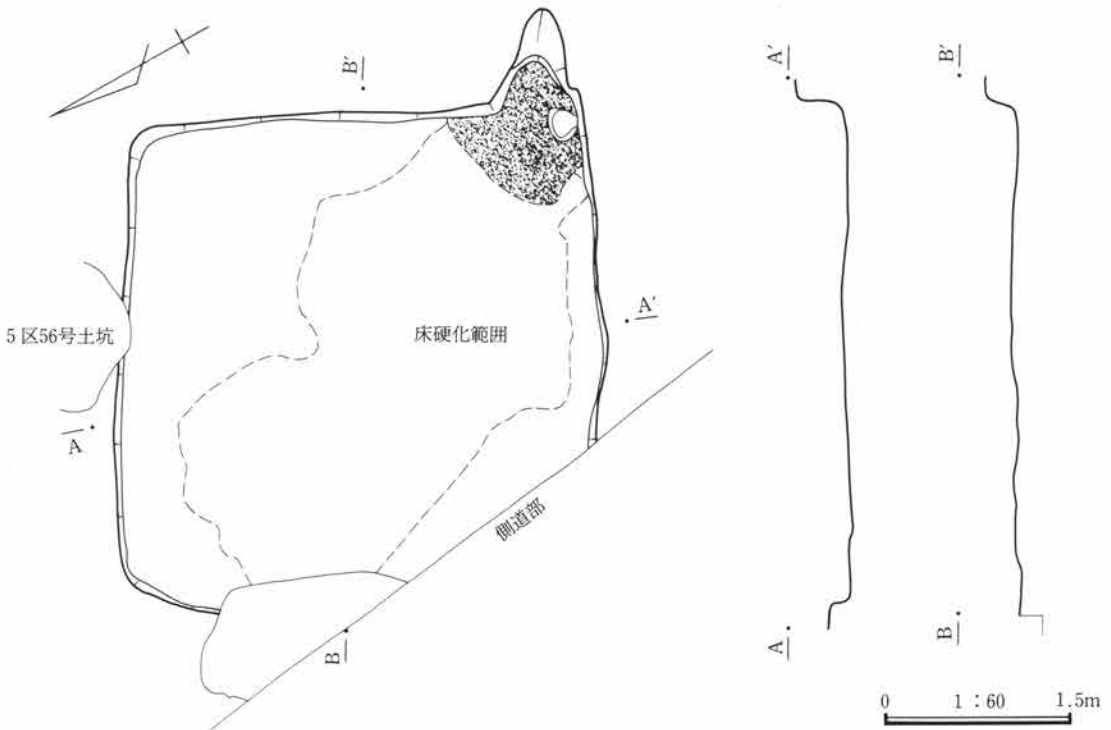
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1671	甕 土師器	器高：(76mm) 口径：[196mm] 底径：— 口縁部～胴部上端%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。赤褐。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋なで。	内外面に一部油煙付着。
1672	甕 土師器	器高：(85mm) 口径：[233mm] 底径：— 口縁部～胴部上端%	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部は篋なで、一部輪積痕が残る。	外面に油煙付着。
1673	杯 須恵器	器高：42mm 口径：135mm 底径：60mm 完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に一部油煙付着。
1674	杯 須恵器	器高：39mm 口径：131mm 底径：60mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。灰白・淡黄。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1675	杯 土師器	器高：40mm 口径：[146mm] 底径：— 口縁部～底部%	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。丸底に近い平底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで後渦巻き状暗文を施す。	外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1676	甕 土師器	器高：(56mm) 口径：[204mm] 底径：一口縁部～胴部上端迄	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	
1677	杯 須恵器	器高：(44mm) 口径：[138mm] 底径：[70mm] 口縁部～底部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の胴部下半～底部は油煙付着。燻し。
1678	杯 須恵器	器高：(40mm) 口径：[147mm] 底径：[90mm] 口縁部～底部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・淡橙。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内面胴部下端～底部にやや多量の油煙付着。
1679	椀 灰釉陶器	器高：(23mm) 口径：一口縁部～胴部下半～高台部上端迄	細砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下半～底部は回転なで。	内面は胴部まで施釉。
1680	砥石	長：(72mm) 幅：(31mm) 厚：32mm 重：73.8g	砥沢石。	仕様面は4面。	

## 5区4号住居跡

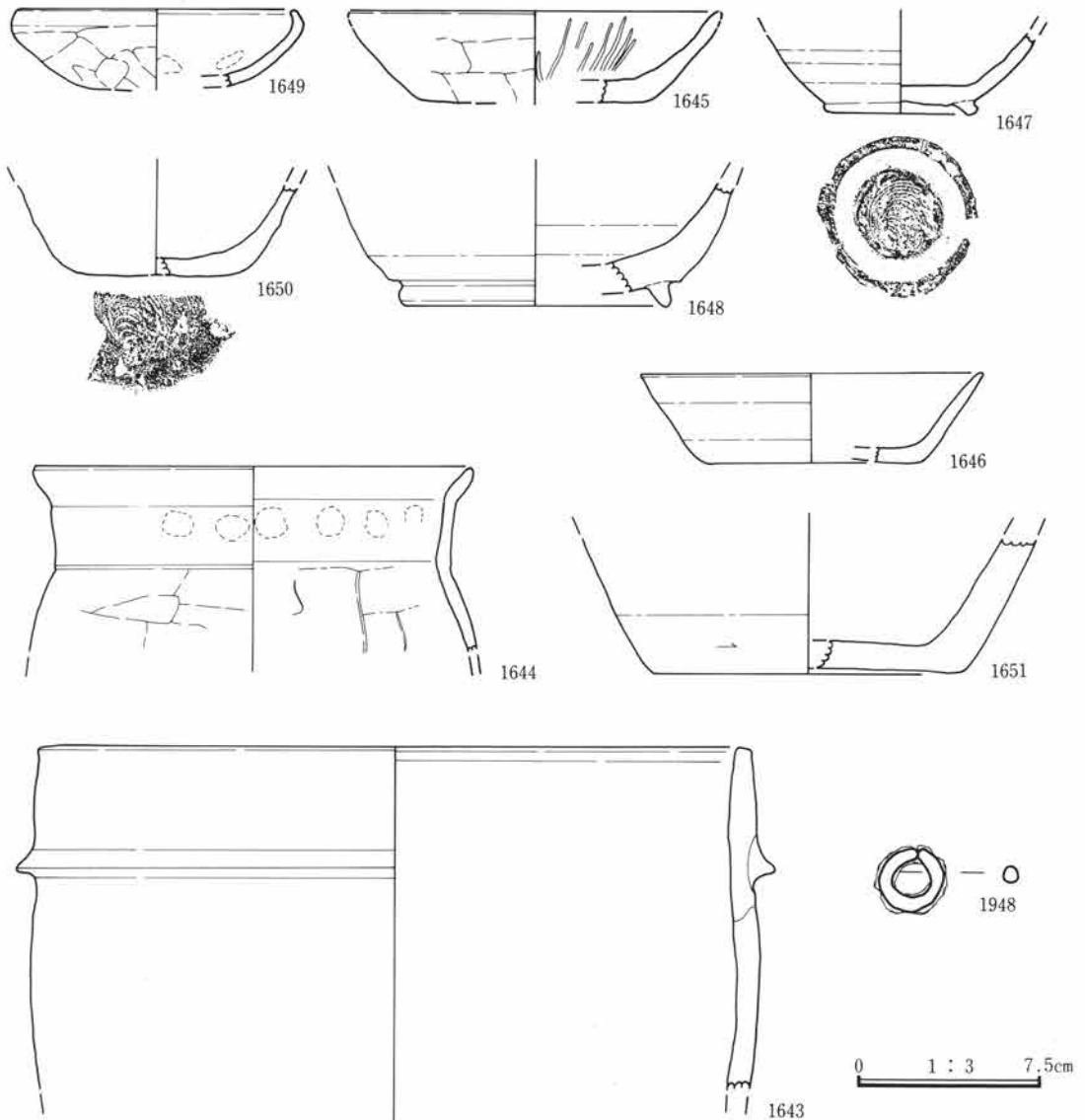
5区M-5・6、N-5・6・7グリットに位置し、重複はないが、北壁・西壁の一部は新しいピットに破壊されている。当住居跡の規模は、一辺約3.9mであり、平面形は隅丸方形を呈する。床面の状



第584図 5区4号住居跡

態は、張床がされており、比較的硬く、ほぼ平坦である。北壁は約20cmであるが、南壁は約40cmを測る。主軸はN-25°-Eである。

竈は東壁の南隅に構築されている。燃焼部・煙道部の壁外への張り出しは約80cmである。袖は一部しか検出できなかったが、南東隅の基部は河原石を袖材に使用していた。燃焼部及び竈前の床面からは灰・焼土の散布が確認できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物は竈内を中心に出土している。種類は、羽釜(1643)、土師器の甕(1644)、土師器の杯(1645・1649)、須恵器の甕(1651)、須恵器の杯(1646・1650)、須恵器の碗(1647)、須恵器の壺(1648)の他、鉄製品(1948)などである。



第585図 5区4号住居跡出土遺物

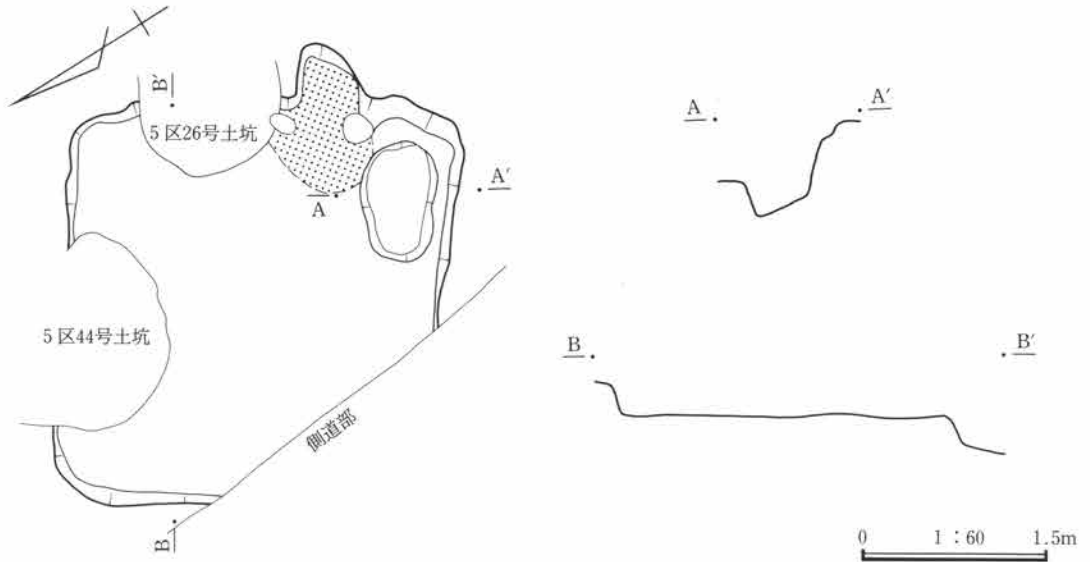
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1643	羽 釜	器高：(136mm) 口径：[290mm] 底径：一 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。灰褐。	鋳部は貼り付け。内外面共に口縁部～胴部上半はなで。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1644	甕 土師器	器高：(74mm) 口径：[180mm] 底径：一 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。
1645	杯 土師器	器高：(37mm) 口径：[154mm] 底径：[92mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	
1646	杯 須恵器	器高：(36mm) 口径：[140mm] 底径：[88mm] 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
1647	椀 須恵器	器高：(34mm) 口径：一 底径：[64mm] 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。灰白・赤褐。	轆轤整形。胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1648	壺 須恵器	器高：(50mm) 口径：一 底径：[112mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、胴部下端は回転篋削り、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
1649	杯 土師器	器高：(31mm) 口径：[114mm] 底径：一 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。赤褐。	口縁部は短く、内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残る。	
1650	杯 須恵器	器高：(37mm) 口径：一 底径：[60mm] 胴部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。灰白・明赤褐。	轆轤整形、右回転。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。
1651	甕 須恵器	器高：(53mm) 口径：一 底径：[128mm] 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	内外面共に胴部下端は横なで、底部はなで。	
1948	？ 鉄製品	リング直径：26mm 棒直径：6mm		リング状鉄製品。用途不明。	

## 5区5号住居跡

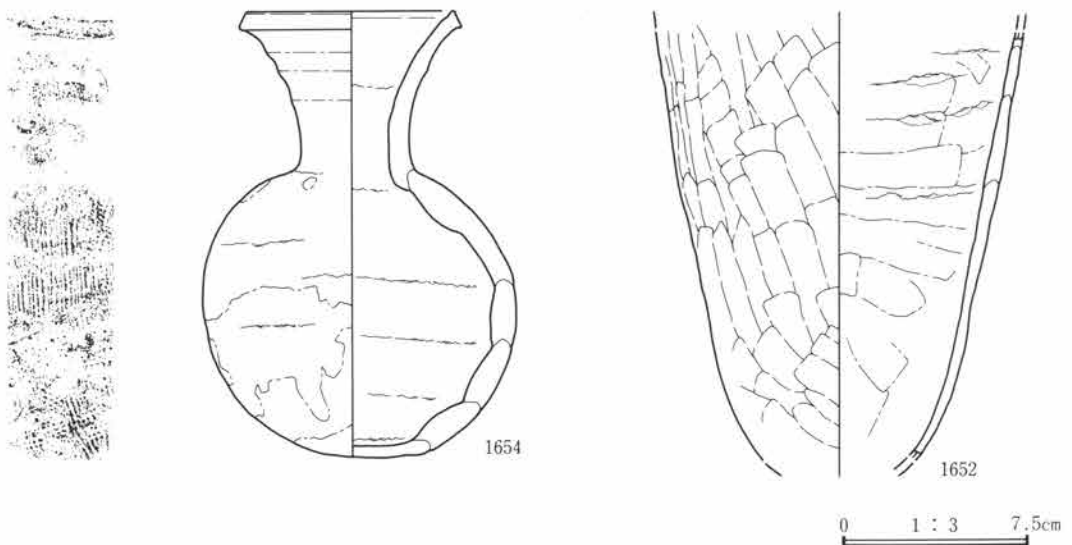
4区N-3・4グリッドに位置し、5区26号土坑・5区44号土坑と重複する。5区26号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の東壁及び床の一部を破壊していることから、当住居跡の方が古い。5区44号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の北壁及び床の一部を破壊していることから、当住居跡の方が古い。当住居跡の規模は、東西約3.2m・南北約3.1mであり、平面形は不整形な隅丸方形を呈す

る。主軸はN-34°-Eである。床面の状態は、比較的硬くほぼ平坦である。残存壁高は、約20~30cmを測る。

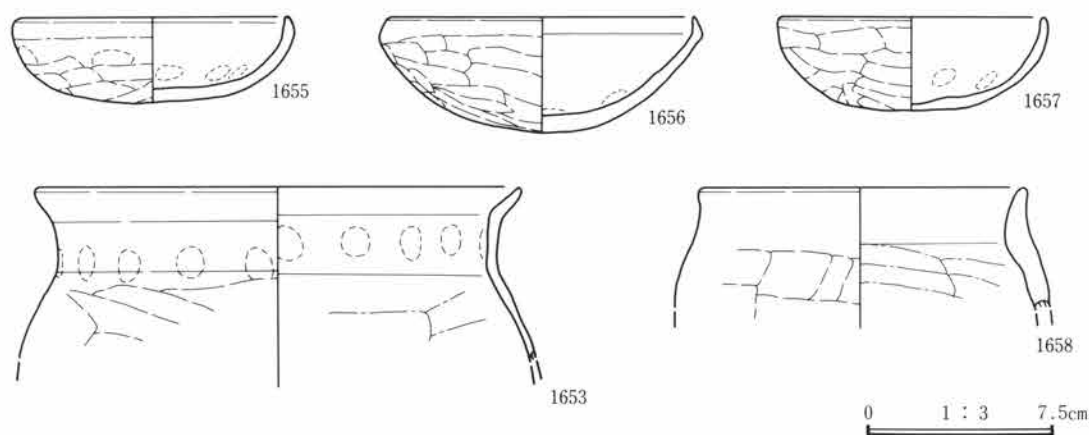
竈は東壁の南よりに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約40cmである。袖は二ツ岳の軽石を地山を掘って据え、周囲を粘土で固めて築かれている。燃烧部からは灰・焼土の堆積が確認できた。南東隅からは貯蔵穴と考えられるピットが検出できた。規模は、長軸約90cm・短軸約60cm・床面からの深さ約30cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかった。遺物は、土師器の甕(1652・1653・1658)、土師器の杯(1655・1656・1657)、須恵器の長頸壺(1654)などが出土している。



第586図 5区5号住居跡



第587図 5区5号住居跡出土遺物①

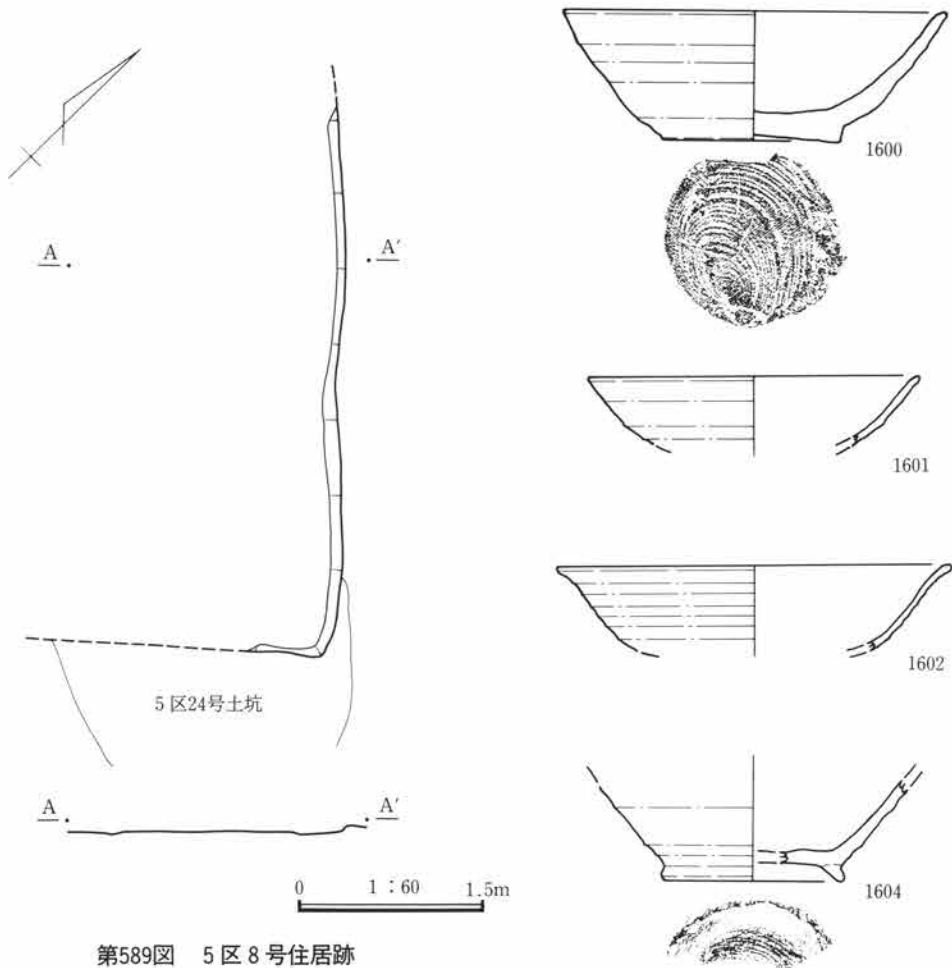


第588図 5区5号住居跡出土遺物②

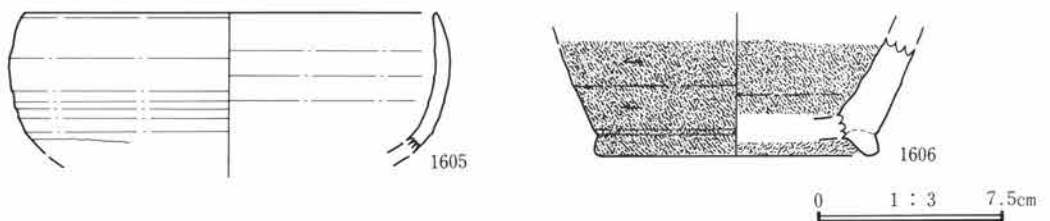
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1652	甕 土師器	器高：(168mm) 口径：— 底径：— 胴部下半 $\frac{3}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	外面：胴部下半は篋削り。内面：胴部下半は篋なで、一部輪積痕が残る。	外面胴部下端に油煙付着。
1653	甕 土師器	器高：(68mm) 口径：[196mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部は「コ」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。
1654	長頸壺 須恵器	器高：171mm 口径：86mm 底径：— 最大径：121mm ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。青灰。	丸底。口縁部は「ハ」字状に外反し、外縁帯を持つ。外面：口縁部～頸部は回転なで、頸部下端と胴部の間につなぎの痕が残り、胴部～底部は叩目、一部輪積痕が残る。内面：口縁部～頸部は回転なで。	内外面の一部に自然釉。
1655	杯 土師器	器高：34mm 口径：111mm 底径：— 完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り、一部指頭痕が残る。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1656	杯 土師器	器高：45mm 口径：127mm 底径：— 口縁部～底部 $\frac{3}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は内湾しつつ広がり、口縁端部は内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで、一部指頭痕が残る。	外面底部に油煙付着。二次炎を受けている。
1657	杯 土師器	器高：37mm 口径：[106mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{3}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1658	甕 土師器	器高：(48mm) 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{4}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部はほぼ直立し、口縁端部はやや外反。外面：口縁部は横なで、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	

5区8号住居跡

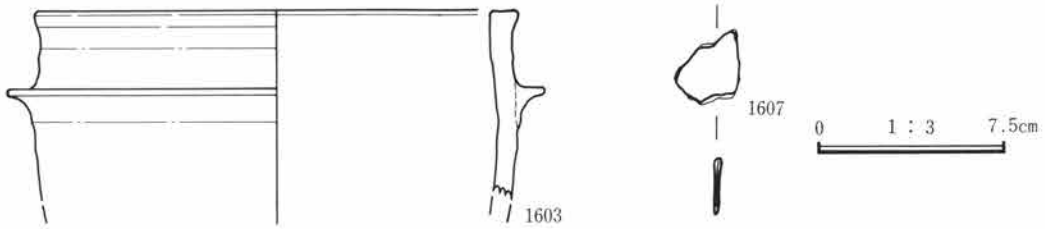
5区M-8グリットに位置し、5区24号土坑と重複する。新旧関係は、5区24号土坑の覆土中に当住居跡の北東隅の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が新しい。当住居跡の規模は、検出できたのは北東部だけであり、不明である。床の状態も明確に確認することはできなかった。残存壁高は、南壁で約2～5cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物はグリットから出土したものであり、確実に当住居跡に属する物はないが、種類は羽釜(1603)、須恵器の杯(1600)、須恵器の椀(1602・1604・1605)のほか、灰釉陶器の壺(1606)、鉄製の鎌(1607)などがある。



第589図 5区8号住居跡



第590図 5区8号住居跡出土遺物①



第591図 5区8号住居跡出土遺物②

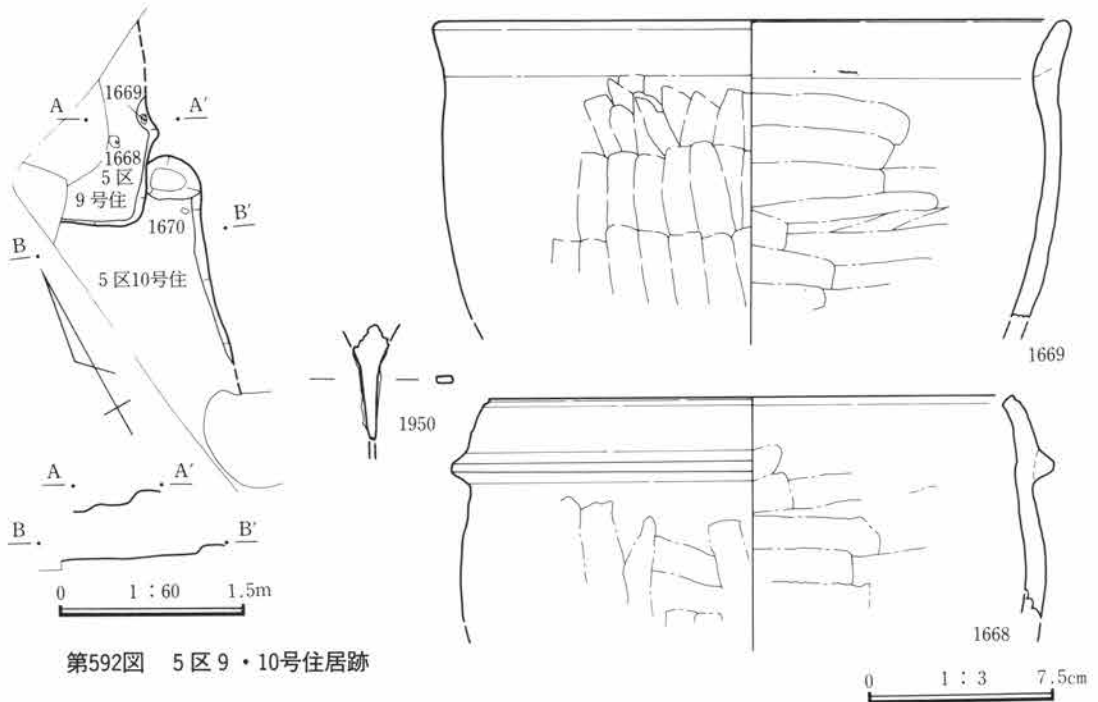
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1600	杯 須恵器	器高：52mm 口径：[155mm] 底径：72mm 口縁部～底部 %	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。鈍い黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回 転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部 ～底部は回転で。	内外面の胴部下半 ～底部に一部油煙 付着。
1601	椀 須恵器	器高：(28mm) 口径：[134 mm] 底径：一 口縁部～胴 部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつ つ広がる。内外面共に口縁部～胴部は回 転で。	
1602	椀 須恵器	器高：(34mm) 口径：[160 mm] 底径：一 口縁部～胴 部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつ つ広がり、口縁部は僅かに外反。内外面共 に口縁部～胴部は回転で。	
1603	羽 釜	器高：(75mm) 口径：[196 mm] 底径：一 口縁部～胴 部上端%	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。口縁部はやや内湾。鋳部は貼り 付け。内外面共に口縁部～胴部上端は回 転で。	内面にやや多量の 油煙付着。
1604	椀 須恵器	器高：(40mm) 口径：一 底 径：[75mm] 口縁部～高台 部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部は回転で、底部は 回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部 ～底部は回転で。	内外面共に胴部ま で油煙付着。燻し。
1605	椀? 須恵器	器高：(55mm) 口径：[168 mm] 底径：一 口縁部～胴 部%	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は内湾。外面：胴 部に沈線二条。内外面共に口縁部～胴部 は回転で。	
1606	壺 灰釉陶器	器高：(47mm) 口径：一 底 径：[116mm] 胴部下端～高 台部%	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転で、底 部は高台貼り付け後で。内面：胴部下 端～底部上端は回転で。	内外面共に全面的 に施釉。
1607	鎌 鉄製品	長：(26mm) 幅：(24mm) 厚：3mm		鎌の一部か。鉄板を折り曲げて製作。	

## 5区9号住居跡

5区N-1・2グリットに位置し、5区10号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。当住居跡の規模は、検出できたのが南東隅部分だけであり、不明である。床面の状態も明確に確認することはできなかった。残存壁高は約10cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、羽釜(1668)、土釜(1669)、鉄製品(1950)などが出土している。

5区10号住居跡

5区N-1グリッドに位置し、5区9号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。当住居跡は北東隅だけの検出であり、規模は不明である。床面の状態は、部分的に硬い張床が検出できた。残存壁高は約5cmである。北東隅からはピットが1基検出できた。規模は、長軸約45cm・短軸約35cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。貯蔵穴の可能性も考えられる。竈・柱穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、土師器の甕(1670)以外は、覆土中から小破片が出土しているだけである。



第592図 5区9・10号住居跡

第593図 5区9号住居跡出土遺物

第594図 5区10号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1668	羽 釜	器高：(88mm) 口径：[204mm] 底径：一口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙・赤。	銜部は貼り付け。外面：口縁部～銜部は横なで、胴部上端は篋なで。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。



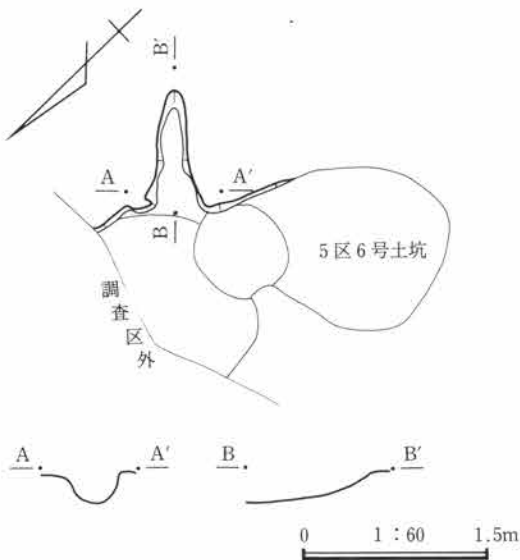
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1669	土 釜	器高：(117mm) 口径：[258mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は僅かに外反。外面：口縁部は横なで、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篋なで。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。
1950	鉄 鐵?	長：(46mm) 幅：2～14mm 厚：2～3mm		鉄鐵の一部か。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1670	甕 土 師 器	器高：(31mm) 口径：[212mm] 底径：— 口縁部破片	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は外反。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕が残る。内面：口縁部は横なで。	内外面に一部油煙付着。

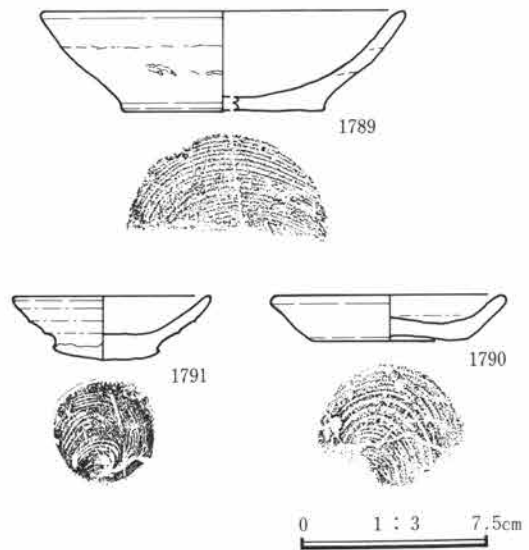
## 5区13号住居跡

5区L-1・2グリットに位置し、5区6号土坑と重複する。新旧関係は、5区6号土坑により当住居跡の東部の壁・床の一部が破壊されていることから、当住居跡の方が古い。当住居跡は検出できたのが竈部分だけであり、大部分が攪乱により破壊されているために、規模は不明である。床・壁の状態も確認することができなかった。

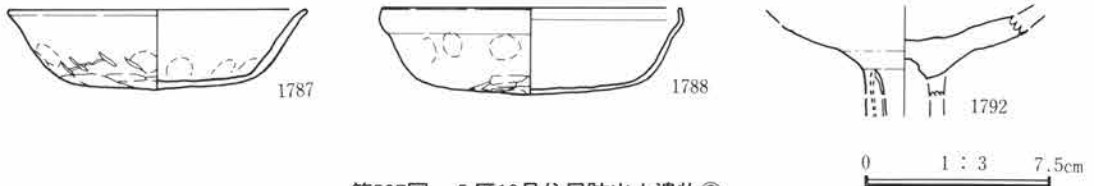
竈は東壁に構築されている。燃烧部・煙道部の壁外への張り出しは約90cmである。袖は検出することができなかったが、燃烧部・煙道部に堆積した灰・焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は覆土及びグリットからの出土である。種類は、土師器の杯(1787・1788)、須恵器の杯(1789)、須恵器の高杯(1792)、土師質土器の杯(1790・1791)などがある。



第595図 5区13号住居跡



第596図 5区13号住居跡出土遺物①



第597図 5区13号住居跡出土遺物②

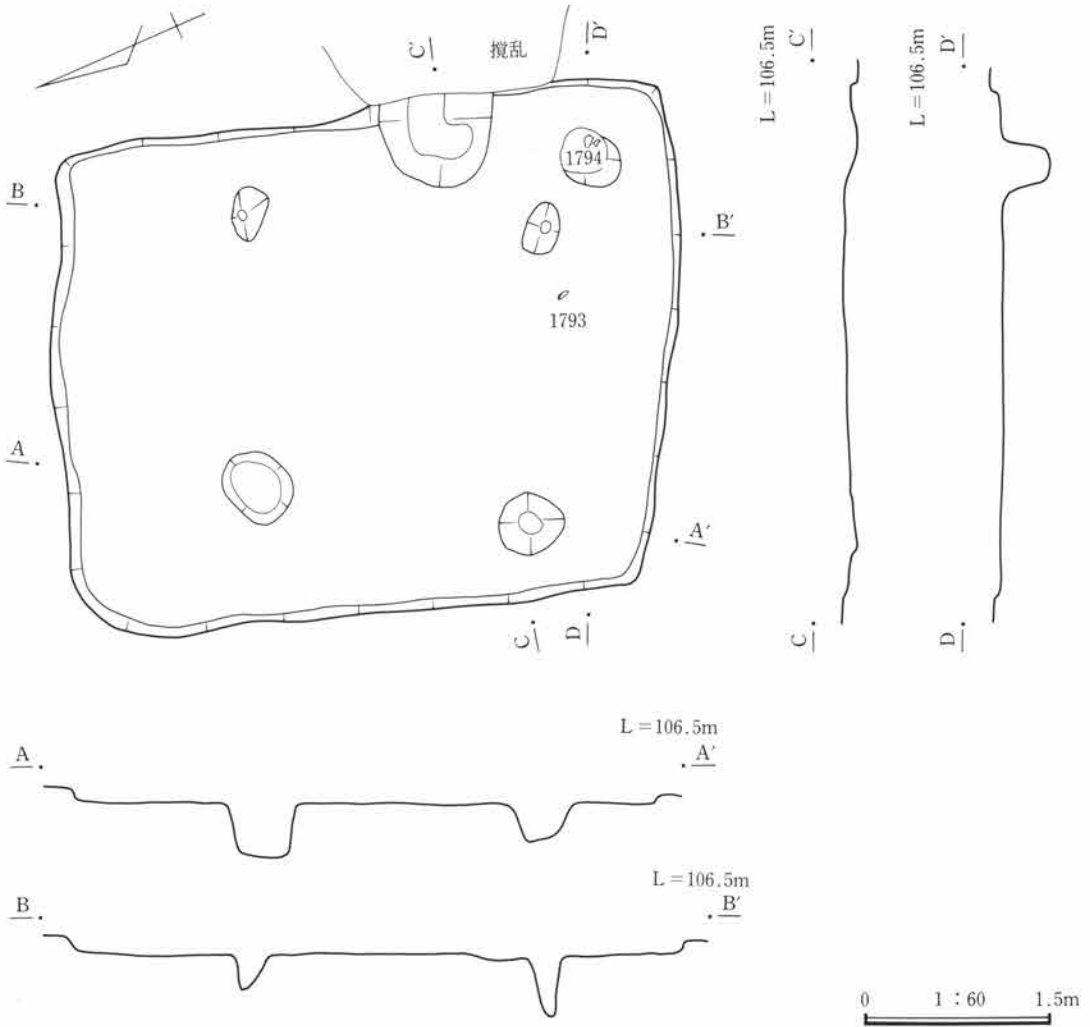
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1787	杯 土師器	器高：32mm 口径：122mm 底径：83mm 口縁部～底部 ⅔	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外 面：口縁部は横なで、胴部は指頭痕が残り、 底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は 横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
1788	杯 土師器	器高：35mm 口径：[120mm] 底径：— 口縁部～底部⅔	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。鈍い橙。	口縁部はやや外反し、口縁端部は僅かに内 湾。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指 頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部 ～胴部は横なで、底部はなで。	
1789	杯 須恵器	器高：40mm 口径：[147mm] 底径：[83mm] 口縁部～底 部⅔	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。軟質。淡黄。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつ つ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、 底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は 回転なで。	
1790	杯 土師質土 器	器高：19mm 口径：[95mm] 底径：60mm 口縁部～底部 ⅔	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。浅黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部は横なで、 底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は 回転なで。	
1791	杯 土師質土 器	器高：25mm 口径：[81mm] 底径：42mm 口縁部～底部 ⅔	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。 鈍い黄橙。	轆轤整形。左回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつ広がる。外面：口縁部～胴部は回 転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部 ～底部は回転なで。	
1792	高杯 須恵器	器高：(31mm) 口径：— 底 径：— 胴部下端～脚部上 端⅔	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。脚部の透かしは3カ所。外面： 胴部下端～脚部上端は回転なで。内面：胴 部下端～底部は回転なで。	

5区14号住居跡

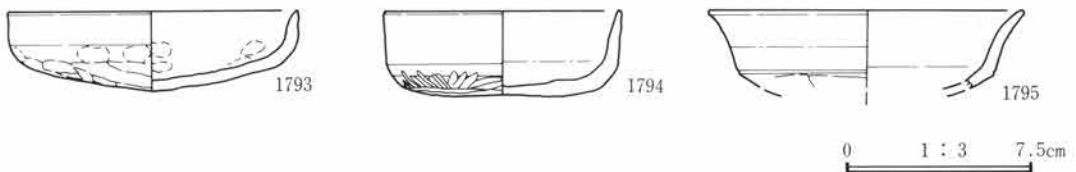
5区O-9・10・11、P-9・10・11グリットに位置し、重複はない。当住居跡の規模は、東西約4.0m・南北約5.0mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-16.5°-Eである。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約5～10cmである。

竈は東壁の南よりに構築されている。煙道部は攪乱に破壊され、燃焼部・袖も大部分が破壊されており、燃焼部底面から掘形での検出であるが、焼土を確認することができた。主柱穴は4基であるが、床面検出時は確認できず、掘形調査での検出である。規模は、長軸40～60cm・短軸約25～50cm・床面

からの深さ約30~50cmであり、平面形は不整形な円形ないしは不整形な楕円形を呈する。住居跡内の南東隅からは貯蔵穴と考えられるピットを検出することができた。規模は、長軸約50cm・短軸約40cm・床面からの深さ40cmであり、平面形は楕円形を呈する。壁溝は検出できなかった。遺物は少ないが、土師器の杯(1793・1795)、須恵器の杯(1794)などが出土している。



第598図 5区14号住居跡



第599図 5区14号住居跡出土遺物

#### 第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1793	杯 土師器	器高：32mm 口径：[118mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部上端は一部指頭痕が残り、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部は横なで、一部指頭痕が残る。	
1794	杯 須恵器	器高：34mm 口径：[96mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直立。外面：口縁部～胴部は回転なで、胴部下端は回転篋削り、底部は回転篋切り後なで、一部篋なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面に一部自然釉。
1795	杯 土師器	器高：(31mm) 口径：[127mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	外面に不明瞭な稜を持つ。丸底。口縁部はやや外反。外面：口縁部～胴部は横なで、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで。	外面底部に油煙付着。

#### 5区15号住居跡

4区J-34・K-34、5区J-1・K-1グリットに位置し、5区16号住居跡・5区21号住居跡・5区22号住居跡・5区37号住居跡・5区243号土坑と重複する。5区16号住居跡との新旧関係は不明である。5区21号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の床上から当住居跡の壁・床・竈が検出されたことから、当住居跡の方が新しい。5区22号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床が当住居跡の床下より検出されたことから、当住居跡の方が新しい。5区37号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東部の床の一部を当住居跡の南東部の壁・床・竈が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。5区243号土坑との新旧関係は、同土坑の南部の覆土中に当住居跡の北部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、西部が攪乱により破壊されており確定できないが、南北は約2.2mであり、平面形は隅丸長方形を呈するものと推定している。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は、残りの良い北壁で約10cmである。竈は東壁の中央やや南よりに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約60cmである。袖は検出できなかったが、燃烧部の焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、羽釜(1682)、土師質土器の杯(1681)などが出土している。

#### 5区16号住居跡

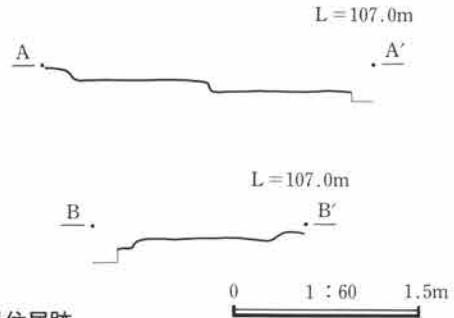
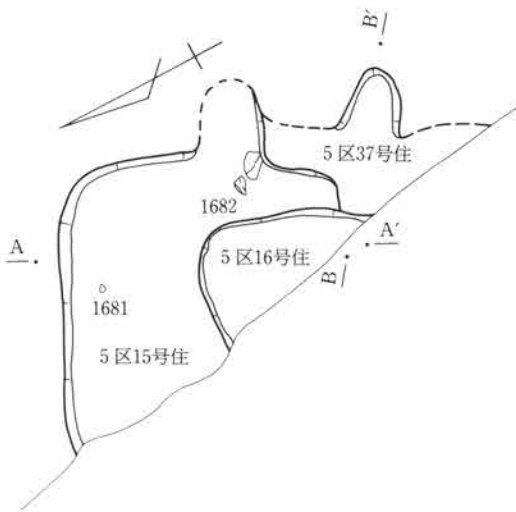
4区J-34・K-34グリットに位置し、5区15号住居跡・5区21号住居跡・5区22号住居跡・5区37号住居跡と重複する。5区15号住居跡・5区37号住居跡との新旧関係は不明である。5区21号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の床の一部が当住居跡の北東部の床上より検出されたことから、当住居跡の方が古い。5区22号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東部の床上から当住居跡の北東部の床が検出されたことから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡は大部分が攪乱により破壊されており、検出できたのは北東隅だけであるので、不明である。床面の状態は、やや軟弱であるが、ほぼ平坦である。残存壁高は約10cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も非常に少なく、覆土中から小破片が出土しているだけである。

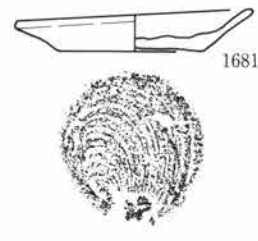
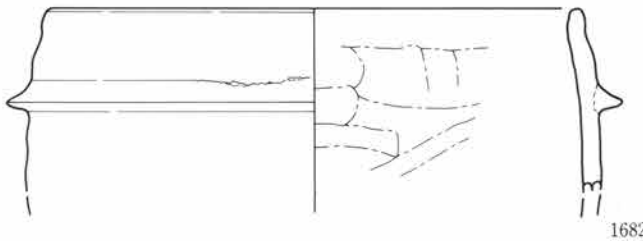
### 5区37号住居跡

4区J-34、K-34グリットに位置し、5区15号住居跡・5区16号住居跡・5区21号住居跡と重複する。5区15号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の壁・床・竈が当住居跡の北東部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。5区16号住居跡・5区21号住居跡との新旧関係は不明である。

当住居跡の規模は、重複と攪乱により大部分が破壊されており、検出できたのは竈のみのために、不明である。床の状態も確認できなかった。竈は東壁に構築されている。袖は検出できなかったが、燃烧部で焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も非常に少なく、覆土中から小破片が出土しているだけである。



第600図 5区15・16・37号住居跡



第601図 5区15号住居跡出土遺物



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1681	杯 土師質土器	器高：17mm 口径：96mm 底径：59mm 口縁部～底部%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。浅黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	

第IV章 発見された遺構と遺物

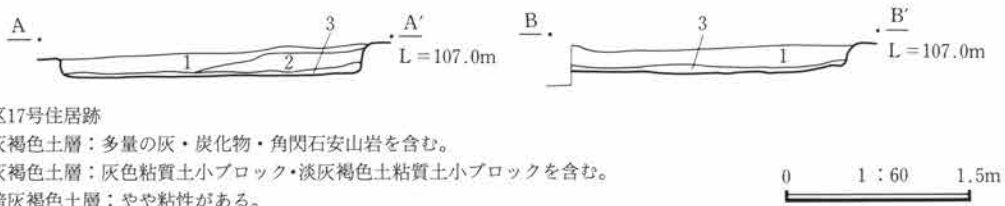
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1682	羽 釜	器高：(72mm) 口径：[204mm] 底径：一 口縁部～胴部上端%	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	鈔部は貼り付け。外面：口縁部～胴部上端は横なで。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。

5区17号住居跡

5区J-2・3・4グリットに位置し、5区23号住居跡・5区24号住居跡・5区26号住居跡・5区30号住居跡・5区36号住居跡・5区26号溝跡と重複する。5区23号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部を当住居跡の北東隅が破壊して築かれていることから、当住居跡の方が新しい。5区24号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南部の床上に当住居跡の北部の床・壁が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。5区26号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部を当住居跡の北西部が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。5区30号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東隅の床上に当住居跡の北西部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。5区36号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東部の壁・床・竈が当住居跡の壁・床・竈の下から検出されたことから、当住居跡の方が新しい。5区26号溝跡との新旧関係は、同溝跡が当住居跡の竈先端部の上面を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、西部が攪乱により破壊されており確定できないが、南北は約2.5mであり、平面形は隅丸長方形を呈すると推定される。主軸はN-35°-Eである。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は15～25cmである。

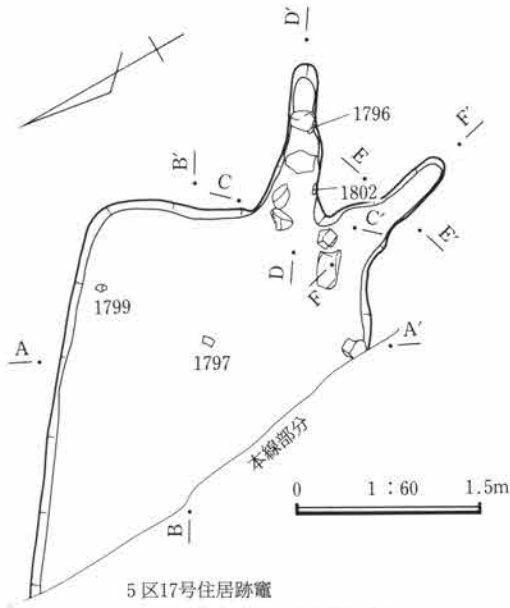
竈は東壁の南よりの竈1と、南東隅の竈2の合計2基が構築されている。竈1は、燃烧部・煙道部の壁外への張り出しは約120cmである。袖、燃烧部・煙道部の天井は石と粘土を材料に築かれており、一部の石は天井に組まれている状態で検出できた。燃烧部・煙道部からは灰・炭化物・焼土が確認できた。竈2の燃烧部・煙道部の壁外への張り出しは約100cmである。竈2も竈1と同様に石と粘土を材料に築かれている。焚口では袖石が地山に埋め込まれた状態で検出でき、天井に使用されたと考えられる石が竈前から検出できた。燃烧部・煙道部からは灰・炭化物・焼土が確認できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は、羽釜(1796)、土師器の甕(1797・1798)、須恵器の杯(1799)、灰釉陶器(1801)、土師質土器の杯(1800)などが出土している。



5区17号住居跡

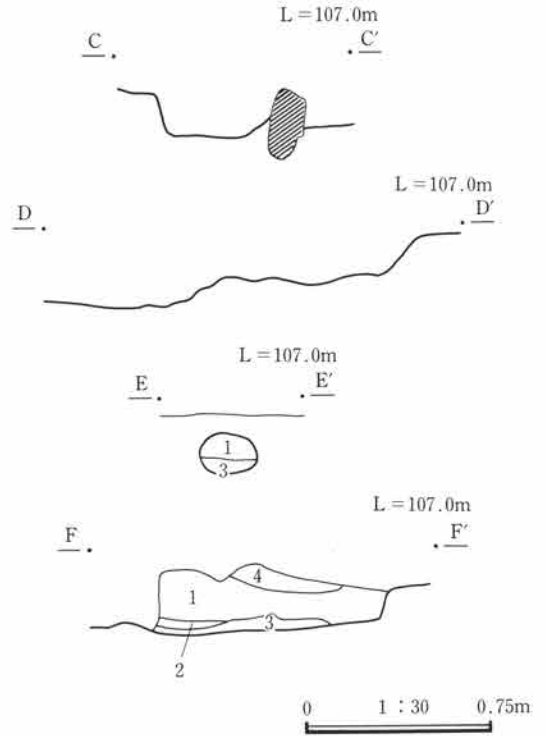
- 1 灰褐色土層：多量の灰・炭化物・角閃石安山岩を含む。
- 2 灰褐色土層：灰色粘質土小ブロック・淡灰褐色土粘質土小ブロックを含む。
- 3 暗灰褐色土層：やや粘性がある。

第602図 5区17号住居跡断面・エレベーション

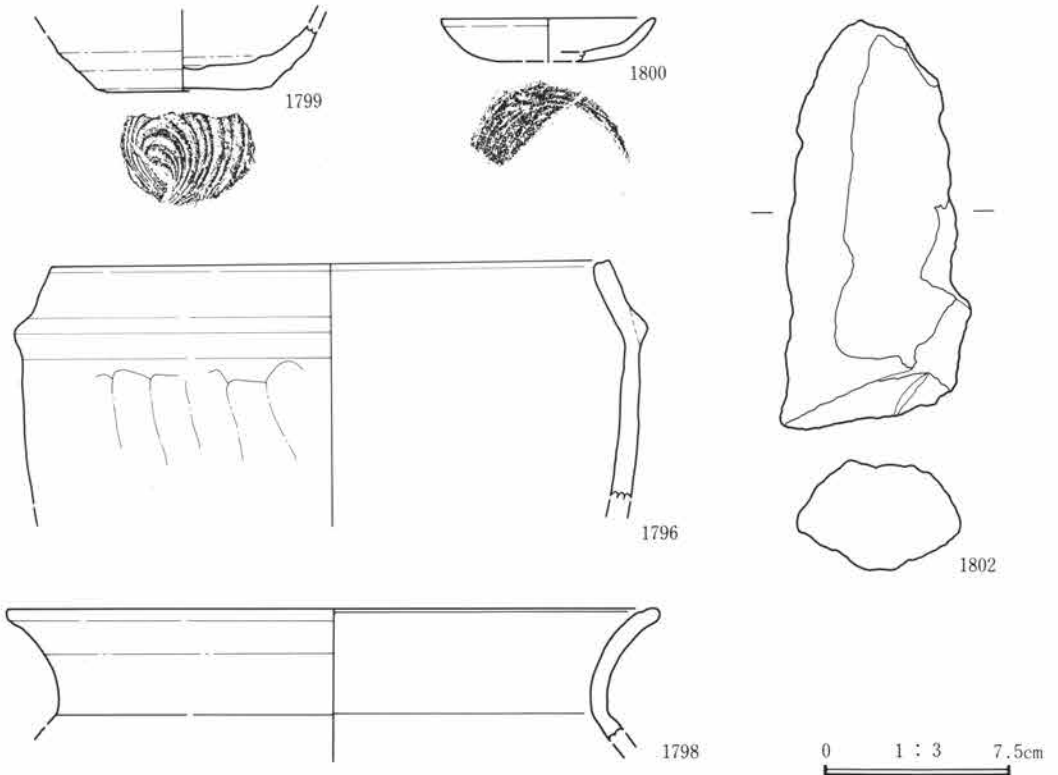


5区17号住居跡竈

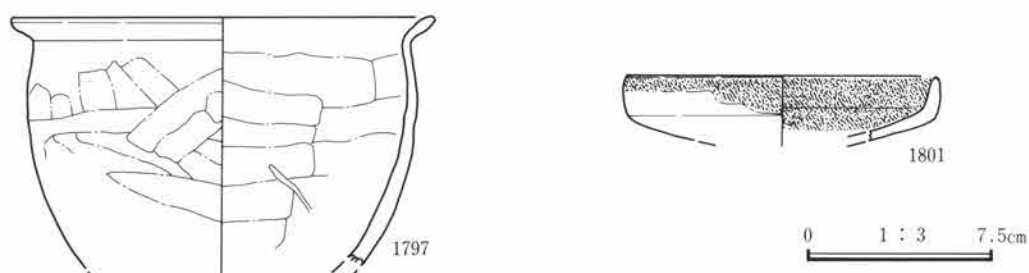
- 1 褐色土層：焼土・炭化物を含む。
- 2 褐色土層：多量の灰・炭化物・焼土を含む。
- 3 灰層。
- 4 褐色土層：焼土を含む。



第603図 5区17号住居跡



第604図 5区17号住居跡出土遺物①



第605図 5区17号住居跡出土遺物②

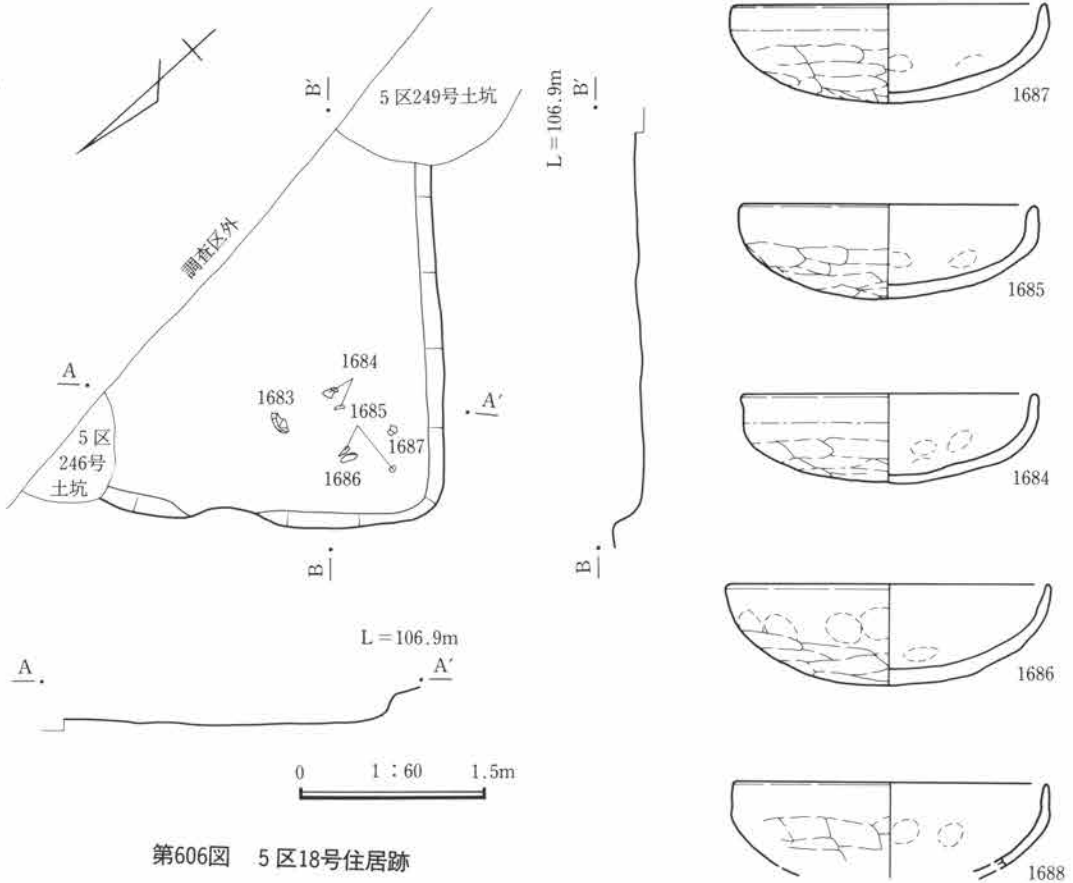
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1796	羽釜	器高：(93mm) 口径：[226mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	口縁部はやや内湾。鋳部は貼り付け。外面：口縁部～鋳部は横なで、胴部上端篋なで。内面：口縁部は横なで、胴部上端はなで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1797	甕 土師器	器高：(97mm) 口径：[172mm] 底径：— 口縁部～胴部上半迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い黄橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篋なで。	外面口縁部～胴部上半は全面に多量の油煙付着。
1798	甕 土師器	器高：(52mm) 口径：[263mm] 底径：— 口縁部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	口縁部は外反。内外面共に口縁部は横なで。	
1799	杯 須恵器	器高：(25mm) 口径：— 底径：[72mm] 胴部下半～底部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙・浅黄橙。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り。内面：胴部下半～底部は回転なで。	
1800	杯 土師質土器	器高：(17mm) 口径：[87mm] 底径：— 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。淡橙。	胴部～口縁部は短く直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に一部油煙付着。二次炎を受けている。
1801	? 灰釉陶器	器高：(26mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～胴部破片	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。口縁部はほぼ直立。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	内外面共に口縁部～胴部は施釉。
1802	支脚石	長：163mm 幅：76mm 厚：46mm 重：473.9g	二ツ岳軽石。	面取りがしてある。	

### 5区18号住居跡

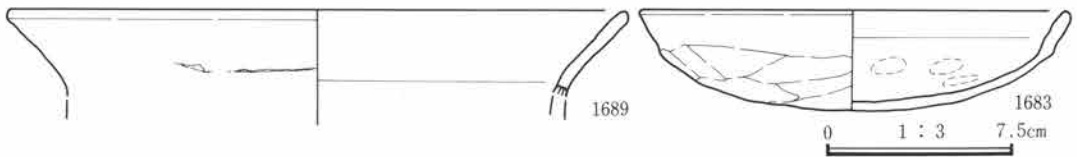
5区H-3・4・5、I-3・4・5グリットに位置し、5区31号住居跡・5区246号土坑・5区249号土坑と重複する。5区31号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の壁・床が当住居跡の南西部の床下から検出されたことから、当住居跡の方が新しい。5区246号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の北壁・床の一部を破壊していることから、当住居跡の方が古い。5区249号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の西壁・床の一部を破壊していることから、当住居跡の方が古い。



当住居跡は大部分が調査区域外であり、検出できたのは北西部だけであるので、規模は不明である。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約15～30cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は土師器の甕(1689)、土師器の杯(1683・1684・1685・1686・1687・1688)などが出土している。



第606図 5区18号住居跡



第607図 5区18号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1683	杯 土師器	器高：40mm 口径：172mm 底径：— ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	外面に不明瞭な稜を持つ。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は寛削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで、一部窠なで。	外面に油煙付着。二次炎を受けている。

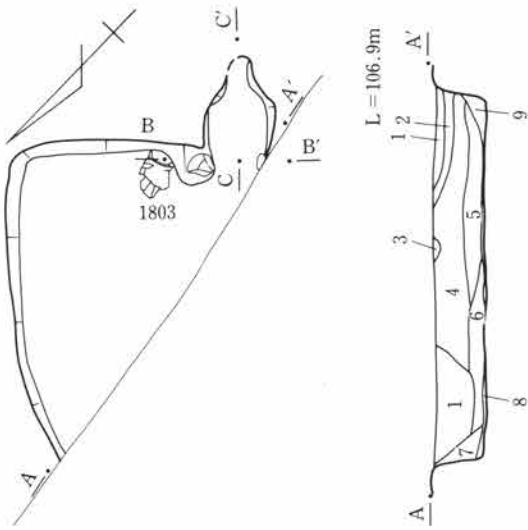
第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1684	杯 土師器	器高：35mm 口径：118mm 底径：— ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	胴部はやや内湾し、口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	
1685	杯 土師器	器高：37mm 口径：119mm 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	口縁部は内湾。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで、一部指頭痕が残る。	
1686	杯 土師器	器高：41mm 口径：[130mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部上半は指頭痕が残り、胴部下半～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、指頭痕が残り、底部はなで。	外面底部に油煙付着。
1687	杯 土師器	器高：(39mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部はやや内湾し、口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	内外面に油煙付着二次炎を受けている。
1688	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	底部上端～胴部はやや内湾し、口縁部はほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	
1689	甕 土師器	器高：(33mm) 口径：[250mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕が残る。内面：口縁部は横なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。

5区19号住居跡

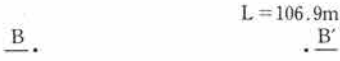
5区J-5・6グリットに位置し、5区27号住居跡・5区28号住居跡・5区30号住居跡・5区35号住居跡と重複する。5区27号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西部の壁・床の一部を当住居跡の北西部の壁・床が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。5区28号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南部の壁・床を当住居跡の北部の壁・床が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。5区30号住居跡との新旧関係は、同住居跡の覆土中に当住居跡の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。5区35号住居跡との新旧関係は不明である。

当住居跡の規模は、西部が攪乱で破壊されているために不明であるが、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約20～30cmを測る。竈は東壁の南よりに構築されている。燃烧部・煙道部の壁外への張り出しは約70cmである。袖は石と粘土を素材に造られている。燃烧部・煙道部からは灰・焼土の堆積が検出できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、土師器の甕(1803)、土師器の杯(1804・1805)の他、埴塼(1806)の出土が特記される。



5区19号住居跡

- 1 暗褐色土層：多量の炭化物・角閃石安山岩を含む。
- 2 暗褐色土層：多量の角閃石安山岩を含む。
- 3 褐色土層：角閃石安山岩を含む。
- 4 明褐色土層：角閃石安山岩・焼土・炭化物を含む。
- 5 明褐色土層：褐色土を含む。
- 6 灰褐色土層：灰色土小ブロックを含む。
- 7 明褐色土層：砂質土を含む。
- 8 暗灰褐色土層：褐色土を含み、粘性がある。
- 9 明褐色土層：灰・焼土小ブロックを含む。

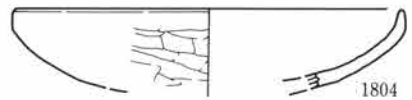
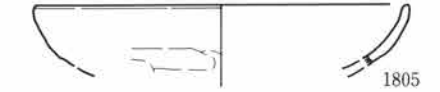
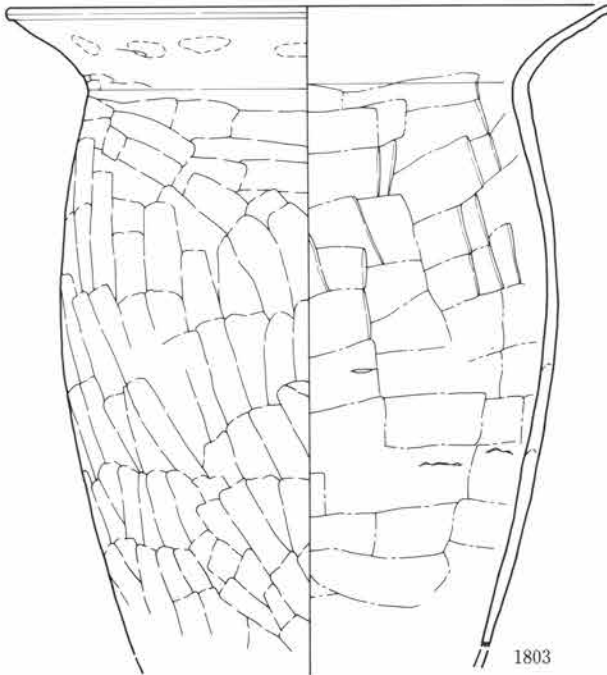


5区19号住居跡竈

- 1 明褐色土層：角閃石安山岩・焼土小ブロックを含む。
- 2 明褐色土層：焼土小ブロック・灰を含む。
- 3 焼土ブロック層。
- 4 明褐色土・焼土小ブロック・灰の混土層。
- 5 灰・炭化物・焼土小ブロックの混土層。



第608図 5区19号住居跡



第609図 5区19号住居跡出土遺物

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1803	甕 土器	器高：(254mm) 口径：240mm 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は口縁部。外面：口縁部は横なで、一部輪積痕・指頭痕が残り、胴部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。輪積痕が残る。	内外面に油煙付着。
1804	杯 土器	器高：(31mm) 口径：[156mm] 底径：— 口縁部～底部上半 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	底部上半～胴部はやや内湾し、口縁部は短く、ほぼ直立。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで。	
1805	杯 土器	器高：(24mm) 口径：[150mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで。	
1806	埴 埴	器高：(27mm) 口径：[160mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや軟質。灰・浅黄。	胴部～口縁部はやや内湾。外面：口縁部～胴部上端は指頭痕が残る。内面：口縁部～胴部上端はなで。	内面に多量のスラッグ付着。

5区20号住居跡

5区J-1グリットに位置し、5区21号住居跡・5区243号土坑・5区257号土坑と重複する。5区21号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の壁・床を当住居跡の北東部の壁・床が破壊していることから当住居跡の方が新しい。5区243号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の東部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。5区257号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の床の一部を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡は大部分が重複と攪乱で破壊されており、検出できたのは北東隅だけであることから、規模は不明である。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。残存壁高は約10～15cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も非常に少なく、覆土中から小破片が出土しているだけである。

5区21号住居跡

4区J-34、K-34、5区J-1グリットに位置し、5区15号住居跡・5区16号住居跡・5区20号住居跡・5区22号住居跡・5区37号住居跡・5区243号土坑と重複する。5区15号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下より当住居跡の南東部の壁・床・竈が検出されたことから、当住居跡の方が古い。5区16号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の床の上面から当住居跡の南東部の床の一部が検出されたことから、当住居跡の方が新しい。5区20号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の壁・床が当住居跡の北西部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。5区22号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東部の壁・床・竈が当住居跡の床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。5区37号住居跡との新旧関係は不明である。5区243号土坑との新旧関係は、同

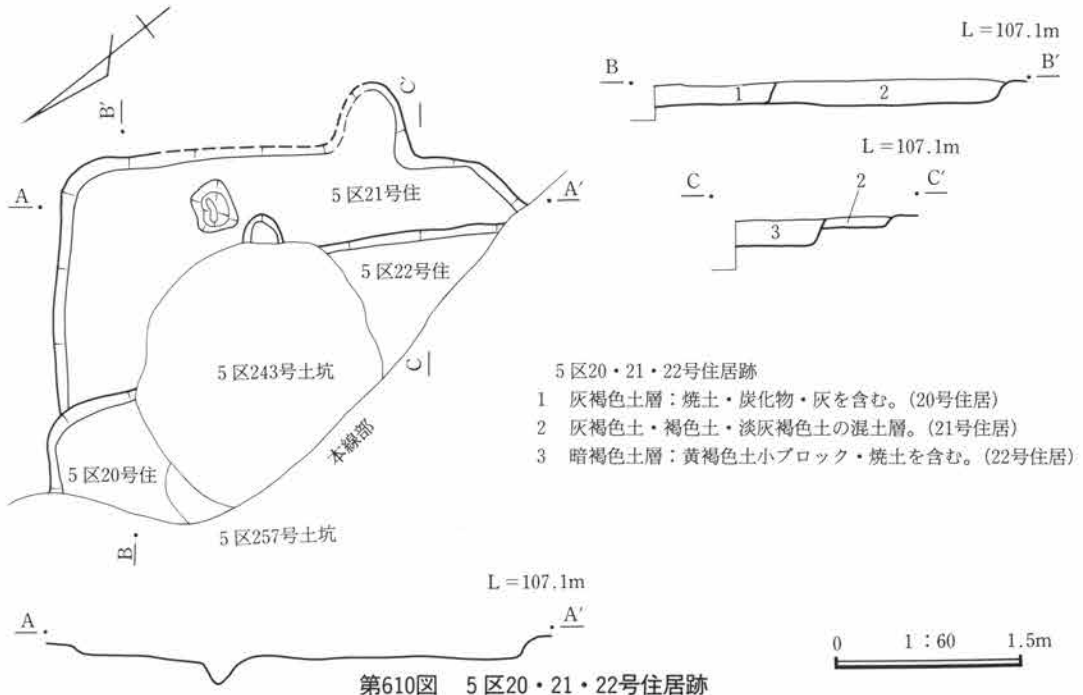
土坑が当住居跡の中央部の床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、重複と攪乱による破壊のために、不明である。主軸はN-37°-Eである。床面の状態は、竈付近を中心に比較的硬く、ほぼ平坦である。竈は東壁の南よりに築かれている。燃烧部の壁外への張り出しは約60cmである。袖は検出できなかったが、燃烧部より焼土を確認することができた。住居内の北東部からはピットが1基確認できた。規模は一辺約30cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は不整形な方形を呈する。ピットの性格は不明である。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しているだけである。

### 5区22号住居跡

4区J-34、K-34グリットに位置し、5区15号住居跡・5区16号住居跡・5区21号住居跡・5区243号土坑と重複する。5区15号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下から当住居跡の壁・床・竈の一部が検出されたことから、当住居跡の方が古い。5区16号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下より当住居跡の床の一部が検出されたことから、当住居跡の方が古い。5区21号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床を破壊して当住居跡の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。5区243号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の壁・床・竈を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、大部分が重複と攪乱により破壊されており、東部の壁・床の一部と竈燃烧部の先端だけであり、不明である。床の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。確認できた東壁の残存壁高は、約15cmである。竈は東壁に構築されている。5区243号土坑に破壊され、燃烧部の先端だけが検出でき、袖は不明である。燃烧部では焼土が確認できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も非常に少なく、覆土中から小破片が出土しているだけである。



### 5区23号住居跡

5区I-3・4、J-3・4グリットに位置し、5区17号住居跡・5区24号住居跡・5区25号住居跡・5区29号住居跡・5区36号住居跡・5区155号土坑と重複する。5区17号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東隅が当住居跡の南東隅を破壊していることから、当住居跡の方が古い。5区24号住居跡との新旧関係は不明である。5区29号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の床が当住居跡の北東部の床下より検出されたことから、当住居跡の方が新しい。5区36号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の床上に当住居跡の東壁の一部・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。5区155号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の北東隅の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡は重複により大部分が破壊されており、検出できたのは東壁の一部と竈だけであるので、規模は不明である。床面の状態も明確に確認できなかった。残存壁高は東壁で約10cmである。竈は東壁に構築されている。燃焼部の壁外への張り出しは約45cmである。袖は検出できなかったが、燃焼部の炭化物を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しているだけである。

### 5区24号住居跡

5区I-3・4、J-3・4グリットに位置し、5区17号住居跡・5区23号住居跡・5区25号住居跡・5区26号住居跡・5区30号住居跡・5区36号住居跡と重複する。5区17号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北部の壁・床が当住居跡の南部の壁・床・竈を破壊していることから、当住居跡の方が古い。5区23号住居跡との新旧関係は不明である。5区25号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床を破壊して当住居跡の北部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。5区26号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東部の壁・床が当住居跡の西部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。5区30号住居跡との新旧関係は、同住居跡の竈煙道部先端が当住居跡の西部の床下から検出されたことから、当住居跡の方が新しい。5区36号住居跡との新旧関係は、同住居跡の覆土中に当住居跡の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。

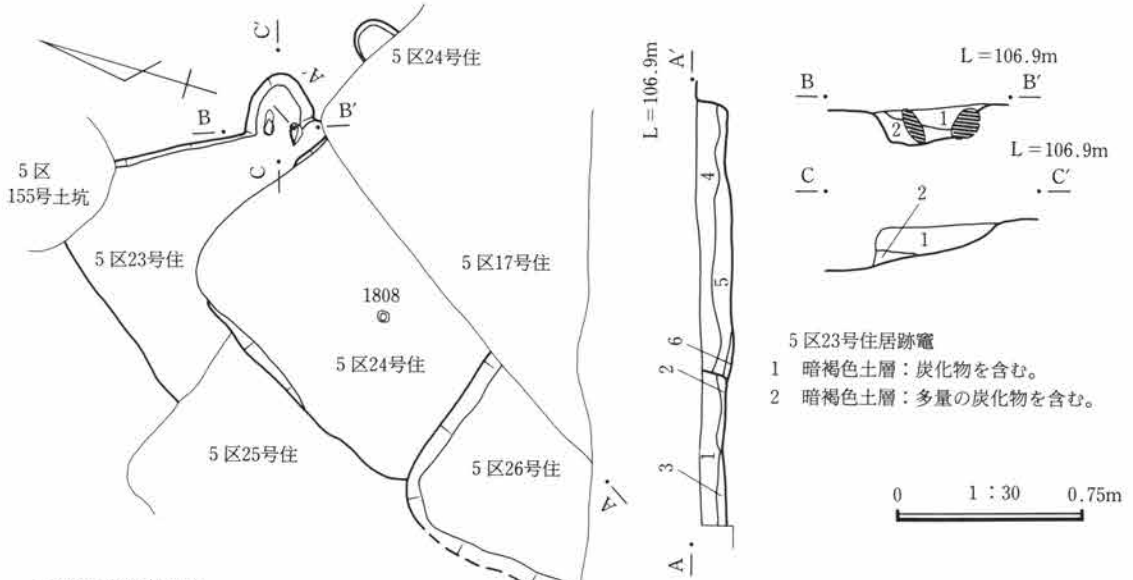
当住居跡の規模は、掘形の確認から東西約2.5m・南北約3.0mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は、断面で約15cmである。竈は東壁に構築されている。5区17号住居跡に破壊され、燃焼部の先端だけしか検出できなかったが、焼土を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、羽釜(1807)、須恵器の椀(1808)などが出土している。

### 5区26号住居跡

5区J-4グリットに位置し、5区17号住居跡・5区24号住居跡・5区30号住居跡・5区35号住居跡と重複する。5区17号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の壁・床が当住居跡の南部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。5区24号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南西部の壁・床を当住居跡の北東部の壁・床が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。5区30号

住居跡との新旧関係は、同住居跡の東部の壁・床・竈が当住居跡の北東部の床下より検出されたことから、当住居跡の方が新しい。5区35号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南西部の床を当住居跡の北東部の壁・床が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡は重複と攪乱による破壊のために、検出できたのは北東部だけであり、規模は不明である。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は、断面で約20cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少なく、須恵器の甕(1812)の他は、小破片が出土しているだけである。

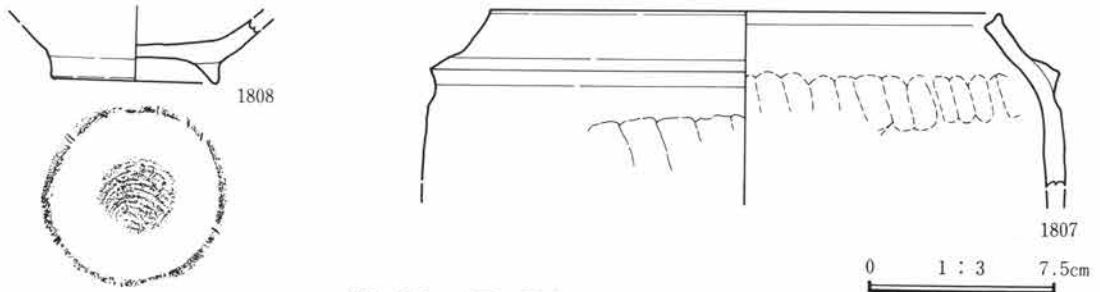


5区24・26号住居跡

- 1 灰褐色土層：炭化物・角閃石安山岩を含む。(26号住居)
- 2 淡黄褐色土層：褐色土を含む。(26号住居)
- 3 灰黒褐色土層：炭化物・角閃石安山岩を含む。(26号住居)
- 4 灰黒褐色土層：角閃石安山岩を含む。(24号住居)
- 5 灰褐色土層：褐色土小ブロックを含む。(24号住居)
- 6 褐色土層：灰褐色土を含む。(24号住居)

第611図 5区23・24・26号住居跡

0 1 : 60 1.5m



第612図 5区24号住居跡出土遺物



第613図 5区26号住居跡出土遺物

#### 第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1807	羽釜	器高：(68mm) 口径：[206mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い赤褐。	口縁部はやや内湾。罫部は貼り付け。外面：口縁部～罫部は横なで、胴部上端は寛なで。内面：口縁部～胴部上端は横なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1808	椀 須恵器	器高：(26mm) 口径：— 底径：68mm 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1812	甕 須恵器	器高：(55mm) 口径：[160mm] 底径：— 口縁部～胴部上端 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・浅黄。	轆轤整形。口縁部は「コ」字状に外反し、口縁端部は外縁帯を持つ。内外面共に口縁部～胴部上端は回転なで。	内面に一部油煙付着。

#### 5区25号住居跡

5区I-4、J-4グリットに位置し、5区24号住居跡・5区29号住居跡・5区35号住居跡・5区36号住居跡と重複する。5区24号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の壁・床が当住居跡の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。5区29号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床を破壊して当住居跡の北東隅の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。5区35号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の床上から当住居跡の北東隅の壁・床が検出されていることから、当住居跡の方が新しい。5区36号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東隅の床上から一部当住居跡の床が検出できたことから、当住居跡の方が新しい。

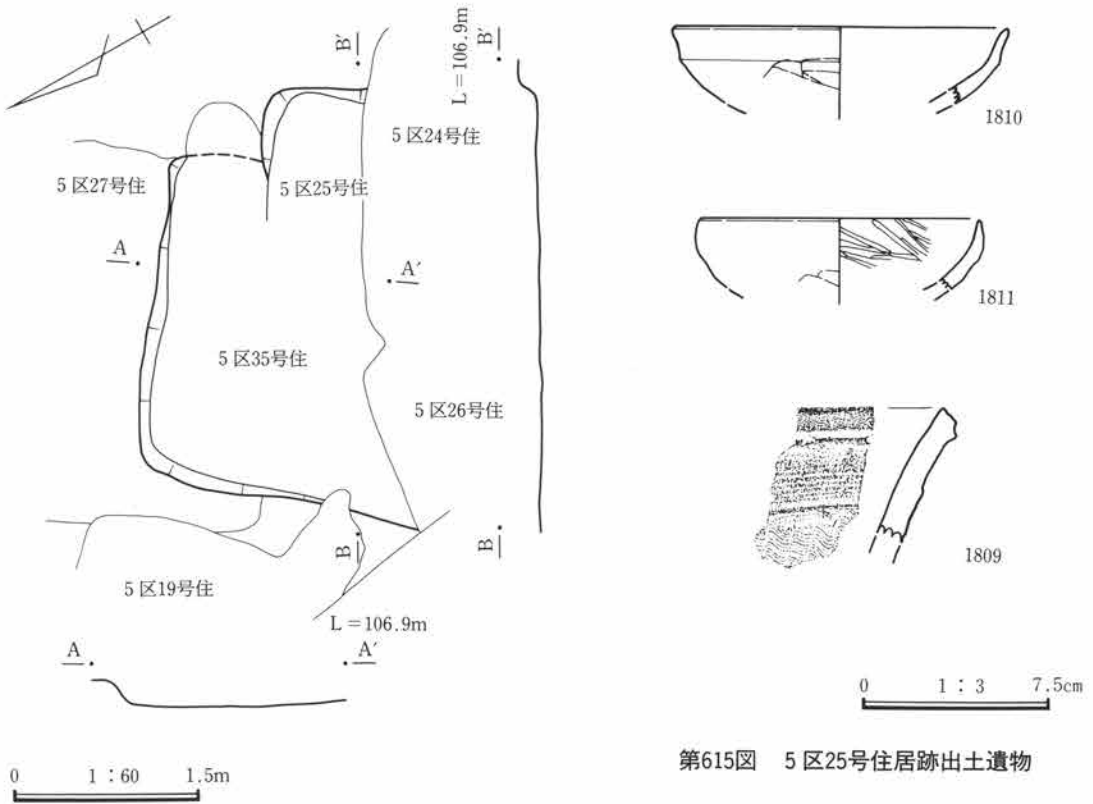
当住居跡は北東隅部分のみの検出であり、規模は不明である。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は約15～20cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は、土師器の杯(1810・1811)、須恵器の甕(1809)などが出土している。

#### 5区35号住居跡

5区I-4、J-4・5グリットに位置し、5区19号住居跡・5区25号住居跡・5区26号住居跡・5区27号住居跡・5区30号住居跡と重複する。5区19号住居跡との新旧関係は不明である。5区25号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東隅の壁・床の一部が当住居跡の北東部の床上より検出されたことから、当住居跡の方が古い。5区26号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の壁・床が当住居跡の南西部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。5区27号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南部の床上に当住居跡の北部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。5区30号住居跡との新旧関係は、同住居跡の東部の床上に当住居跡の西部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。



当住居跡は重複により南部の大部分が破壊されており、規模は不明である。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は非常に少なく、覆土中から小破片が出土しているだけである。



第614図 5区25・35号住居跡

第615図 5区25号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1809	甕 須恵器	器高：— 口径：— 底径：— — 口縁部破片	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。青灰。	外面口縁端部に凸帯が一条巡り、口縁端部及び外面口縁部に波状文を施す。内外面共に口縁部は横なで。	外面に自然釉。
1810	杯 土師器	器高：(30mm) 口径：[134mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部上端は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで。	
1811	杯 土師器	器高：(28mm) 口径：[112mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。明赤褐。	胴部～口縁部は内湾。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで後篋磨き。	

### 5区27号住居跡

5区I-4・5、J-4・5グリットに位置し、5区19号住居跡・5区25号住居跡・5区28号住居跡・5区30号住居跡・5区35号住居跡と重複する。5区19号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東隅の壁・床が当住居跡の西部の壁・床の一部を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。5区25号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東隅の床下から当住居跡の南東部の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。5区28号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の壁・床を破壊して当住居跡の北西部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。5区30号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の床上に当住居跡の南西部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が新しい。5区35号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床下に当住居跡の南部の壁・床が築かれていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、東西約2.9m・南北約3.5mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-38°-Eである。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は、南壁では約5cmであるが、北壁では約30cmを測る。竈は東壁の南よりに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約60cmである。燃烧部の壁及び袖は石と粘土を素材に作られていたと考えられる。竈の大部分は破壊されており、竈の覆土面に石が散乱しているのを確認することができた。燃烧部では灰・焼土の堆積を確認することができた。住居内の南東隅からは貯蔵穴と考えられるピットが検出できた。規模は、長軸50cm・短軸約35cm・床面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかった。遺物は竈とその周辺を中心に出土している。種類は、土師器の甕(1813・1814・1815)、土師器の杯(1816)、須恵器の椀(1817)、須恵器の蓋(1819)、須恵器の長頸壺(1818)の他、砥石(1820)などである。

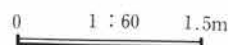
### 5区28号住居跡

5区J-5・6グリットに位置し、5区19号住居跡・5区27号住居跡・5区30号住居跡と重複する。5区19号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北部の壁・床が当住居跡の南部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。5区27号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の壁・床が当住居跡の北東部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。5区30号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北部の壁・床が当住居跡の床下から検出されたことから、当住居跡



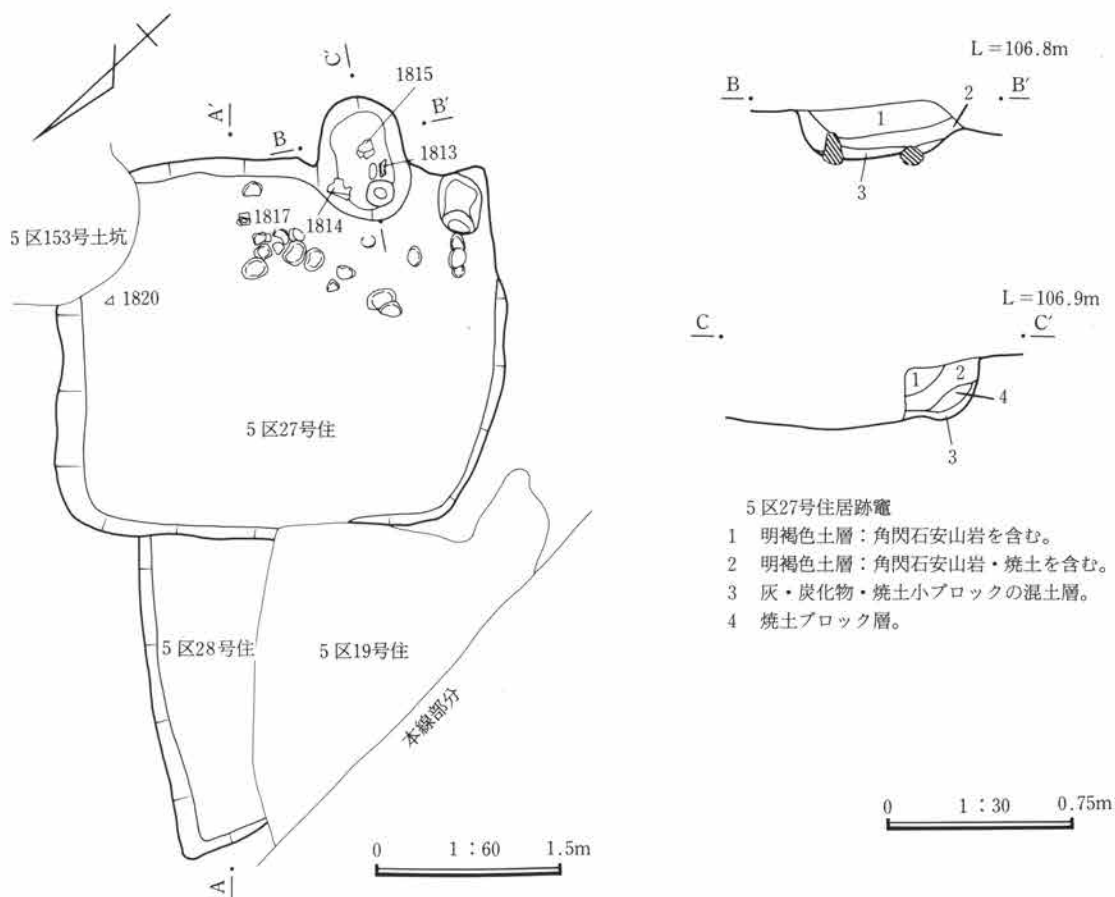
5区27・28号住居跡

- 1 明褐色土層：角閃石安山岩を含む。(27号住居)
- 2 褐色土層：角閃石安山岩を含む。(27号住居)
- 3 明褐色土層：灰色粘質土小ブロックを含む。(27号住居)
- 4 明褐色土層：黄褐色土小ブロック・灰色粘質土小ブロックを含む。(27号住居)
- 5 褐色土層：角閃石安山岩・淡黄褐色砂質土小ブロックを含む。(28号住居)
- 6 褐色土層：角閃石安山岩を含む。(28号住居)

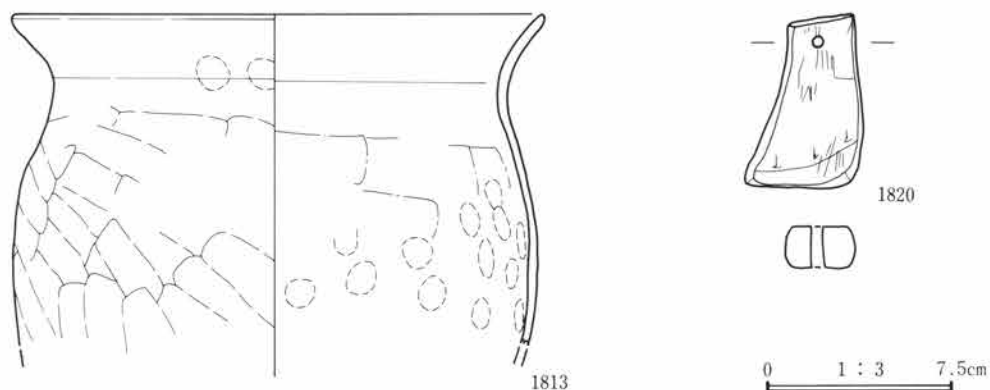


第616図 5区27・28号住居跡断面

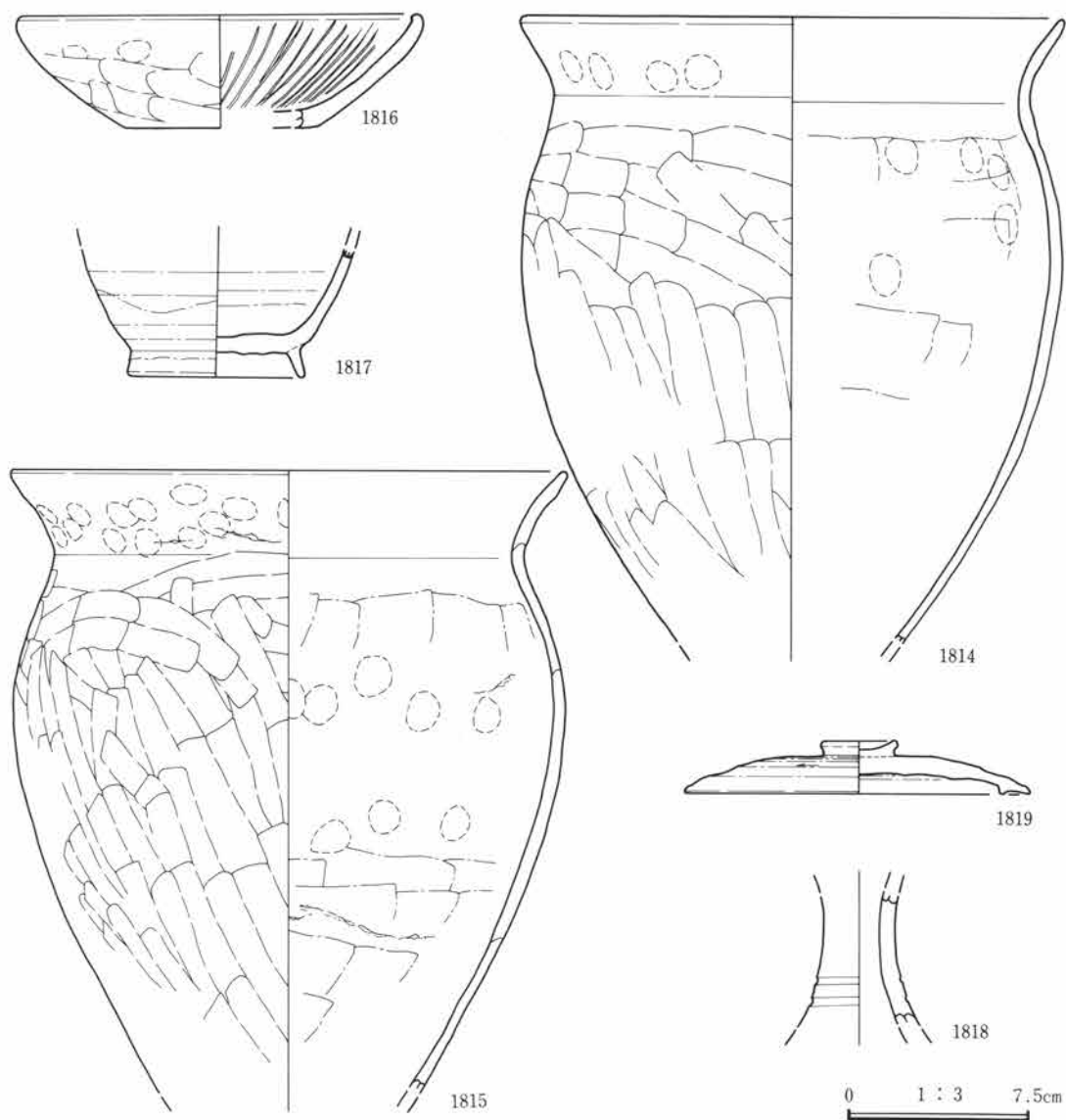
の方が新しい。当住居跡は重複により大部分が破壊されており、検出できたのは北部の一部であるので、規模は不明である。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は北壁で約20cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も非常に少なく、覆土中から小破片が出土しているだけである。



第617図 5区27・28号住居跡



第618図 5区27号住居跡出土遺物①



第619図 5区27号住居跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1813	甕 土器	器高：(131mm) 口径：213mm 底径：— 口縁部～胴部上半迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上半は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上半は篋削り。一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付着、外面は多量。二次炎を受けている。
1814	甕 土器	器高：(252mm) 口径：[220mm] 底径：— 口縁部～胴部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1815	甕 土師器	器高：(251mm) 口径：[226mm] 底径：— 口縁部～胴部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部は篋削り、一部指頭痕が残る。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1816	杯 土師器	器高：(46mm) 口径：[164mm] 底径：[77mm] 口縁部～底部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部～底部上端は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで後放射状暗文を施す。	内外面に一部油煙付着。
1817	椀 須恵器	器高：(52mm) 口径：— 底径：73mm 胴部～高台部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部はほぼ直線的に広がる。外面：胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：胴部～底部は回転なで。	内外面の口縁部～胴部上半・高台部の一部に自然釉。
1818	長頸壺 須恵器	器高：(54mm) 口径：— 底径：— 頸部迄	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形。外面頸部に沈線二条。内外面共に頸部は回転なで。	外面の一部に自然釉。
1819	蓋 須恵器	器高：22mm 口径：[142mm] つまみ径：[32mm] つまみ部～口縁部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。灰・鈍い黄橙。	轆轤整形。ボタン状つまみ。つまみ部は貼り付け。返りはやや内にあり、短い。外面：つまみ部は回転なで、天井部は回転篋削り、口縁部は回転なで。内面：天井部～口縁部は回転なで。	
1820	砥石	長：70mm 幅：48mm 厚：23mm 孔径：4mm 重：99.6g	砥沢石。	使用面は4面。中央部で割れた後、穿孔している。	

### 5区29号住居跡

5区I-3・4グリットに位置し、5区23号住居跡・5区25号住居跡・5区36号住居跡・5区155号土坑と重複する。5区23号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の床下から当住居跡の北東部の床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。5区25号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東隅が当住居跡の床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。5区36号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の壁・床が当住居跡の床下より検出されたことから、当住居跡の方が新しい。5区155号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の北東部の壁・床を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

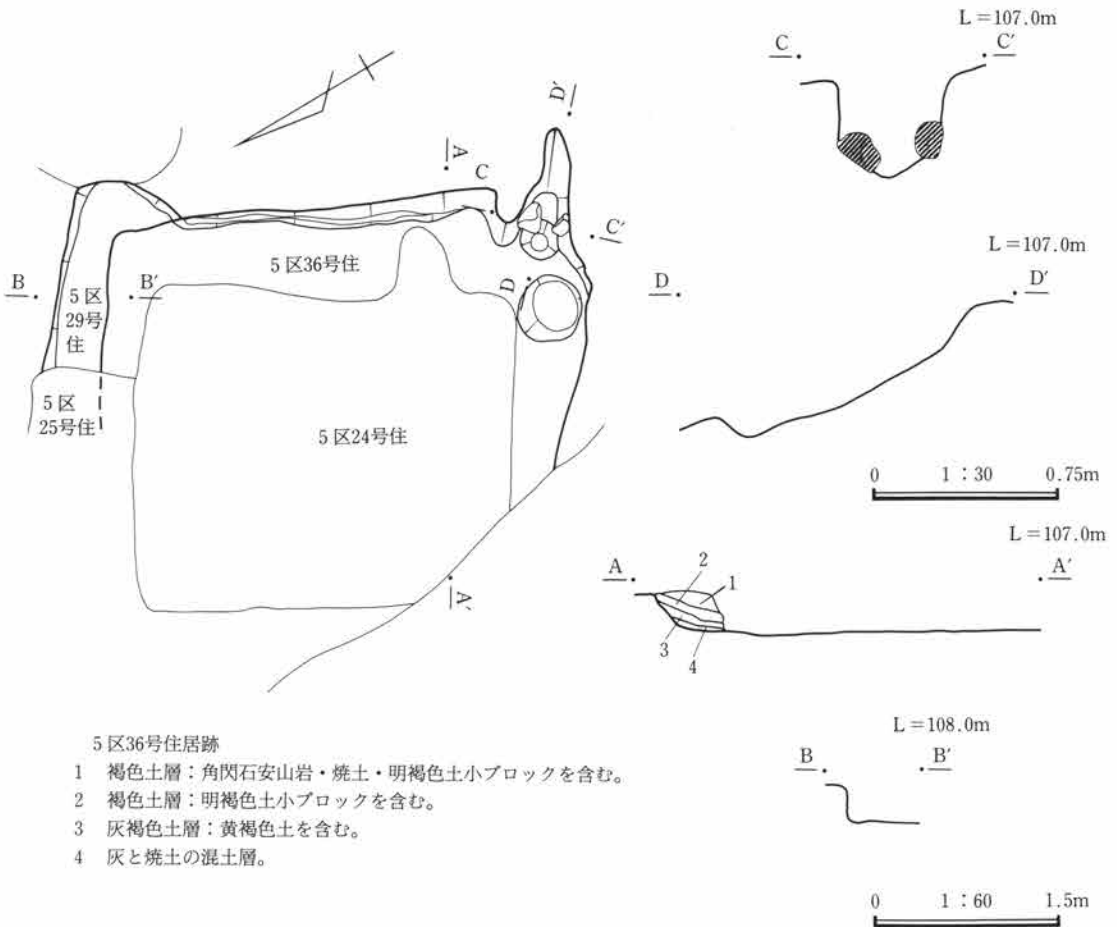
当住居跡は、重複により大部分が破壊されており、北東部のみの検出のために、規模は不明である。床面の状態も明確に確認できなかった。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少ないが、須恵器の甕(1821・1822)などが出土している。

### 5区36号住居跡

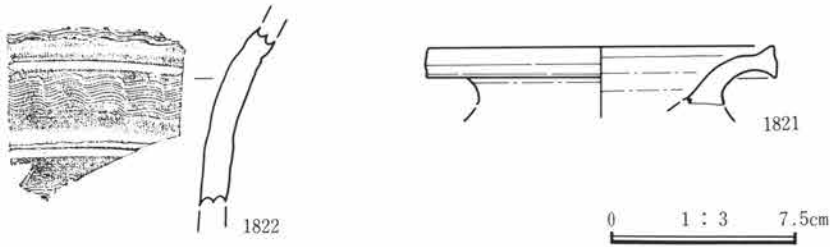
5区I-3・4、J-2・3・4グリットに位置し、5区17号住居跡・5区23号住居跡・5区24号住居跡・5区25号住居跡・5区29号住居跡と重複する。5区17号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床・竈の下から当住居跡の壁・床・竈が検出されたことから、当住居跡の方が古い。5区23号住居跡

との新旧関係は、同住居跡の東部の壁・床・竈が当住居跡の北東部の覆土中に築かれていることから、当住居跡の方が古い。5区24号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床・竈が当住居跡の覆土中から床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。5区25号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東隅の床の一部が当住居跡の床上より検出されたことから、当住居跡の方が古い。5区29号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床を当住居跡の北東隅の鴨部・床が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。

当住居跡の規模は、西部が確認できなかったために確定できないが、南北は約3.8mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定している。主軸はN-29°-Eである。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は、東壁で約30cmを測る。竈は東壁の南東隅に構築されている。燃烧部・煙道部の壁外への張り出しは約80cmである。袖は石と粘土を構築材に使用して築かれており、壁際部分には石が地山に埋め込まれた状態で検出できた。燃烧部からは灰・焼土の堆積が確認できた。南東隅のやや南よりからは貯蔵穴と考えられるピットが1基検出できた。規模は、長軸50cm・短軸約45cm・床面からの深さ約20cmであり、平面形は楕円形を呈する。東壁に沿って壁溝が検出できた。規模は、幅約10cm・床面からの深さ約2~5cmである。柱穴は検出できなかった。遺物は少なく、土師器の杯(1829)の他は、覆土中から小破片が出土しているだけである。



第620図 5区29・36号住居跡



第621図 5区29号住居跡出土遺物



第622図 5区36号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1821	甕 須恵器	器高：(23mm) 口径：[138mm] 底径：— 口縁部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。口縁部は大きく外反し、口縁端部は外縁帯を持つ。内外面共に口縁部は回転なで。	
1822	甕 須恵器	器高：— 口径：— 底径：— 口縁部破片	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。明青灰。	轆轤整形。外面口縁部は沈線と波状文を交互に施している。内外面共に口縁部は回転なで。	

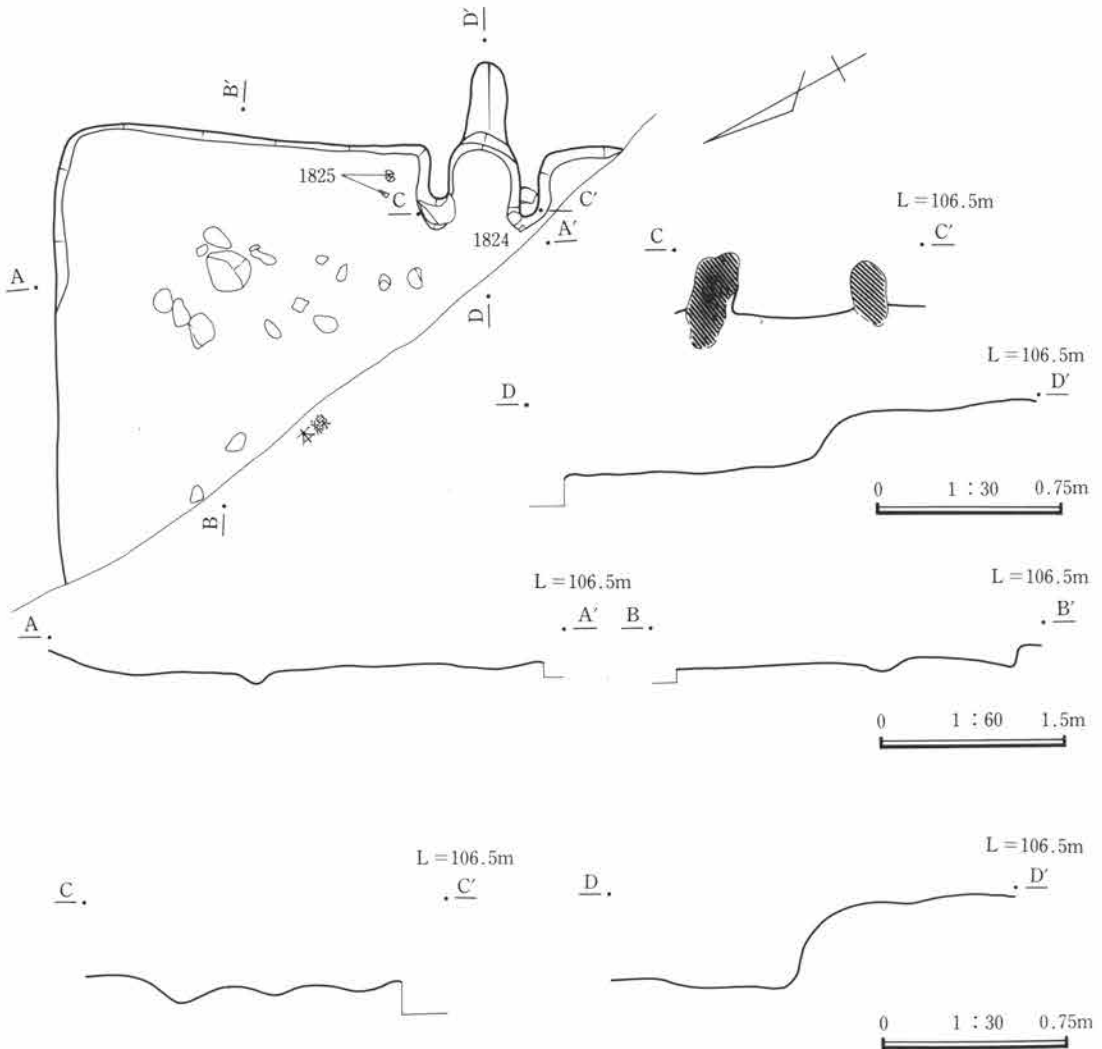
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1829	杯 土師器	器高：(21mm) 口径：[126mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	口縁部は内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、一部指頭痕が残る。	

## 5区30号住居跡

5区J-4・5グリットに位置し、5区17号住居跡・5区19号住居跡・5区24号住居跡・5区26号住居跡・5区27号住居跡・5区28号住居跡・5区35号住居跡と重複する。5区17号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の床下から当住居跡の南東部の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。5区19号住居跡との新旧関係は、同住居跡の床上に当住居跡の壁・床・竈が築かれていることから、当住居跡の方が古い。5区24号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の床下から当住居跡の竈煙道部の先端が検出されたことから、当住居跡の方が古い。5区26号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の床下から当住居跡の南東部の壁・床・竈が検出されたことから、当住居跡の方が古い。5区27号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南西部の床下から当住居跡の北東部の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。5区28号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北部の床下か

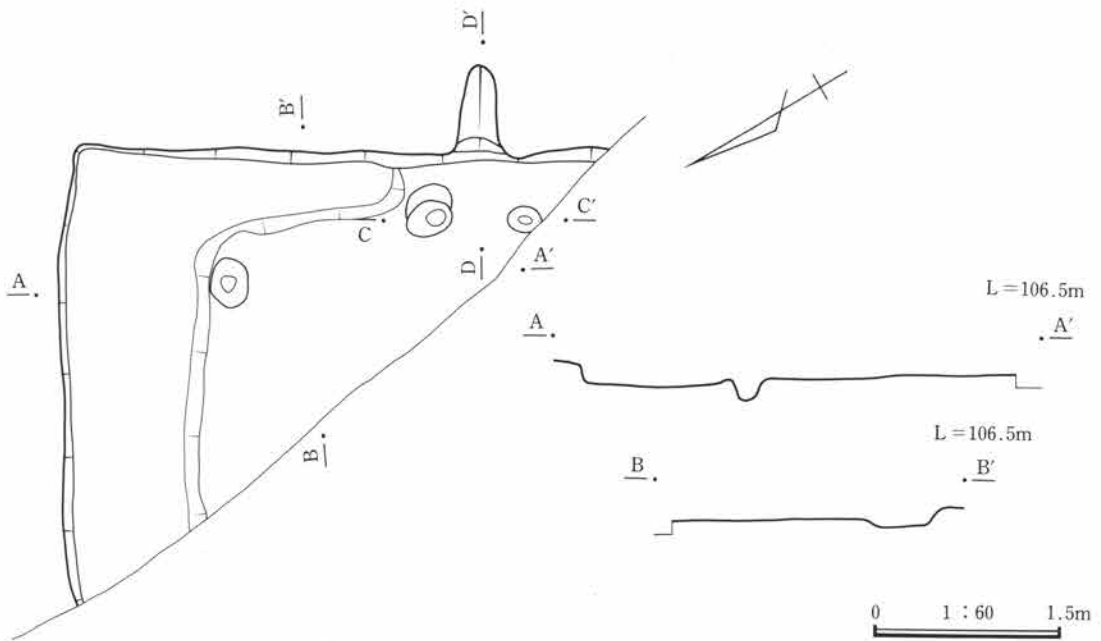
ら当住居跡の北部の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。5区35号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西部の床下から当住居跡の東部の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、西部が攪乱により破壊されているために不明であるが、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。主軸はN-32°-Eである。床面の状態は、比較的硬くほぼ平坦であるが、北西部はやや細かい凹凸がある。竈は東壁の南よりに構築されている。燃烧部・煙道部の壁外への張り出しは約70cmである。袖は灰褐色粘土を素材に造られているが、先端は二ツ岳の軽石を地山に埋め込んでいた。燃烧部では灰・焼土が確認できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。掘形で南東部からピットが1基検出できた。規模は、長軸約40cm・短軸約30cm・確認面からの深さ約15cmである。北東部の柱穴と考えることもできる。貯蔵穴・壁溝は不明である。掘形の形態は、中央部が高く、壁に沿って掘り込んでいる。遺物は少ないが、土師器の甕(1823・1824)、土師器の杯(1825・1826)などが出土している。

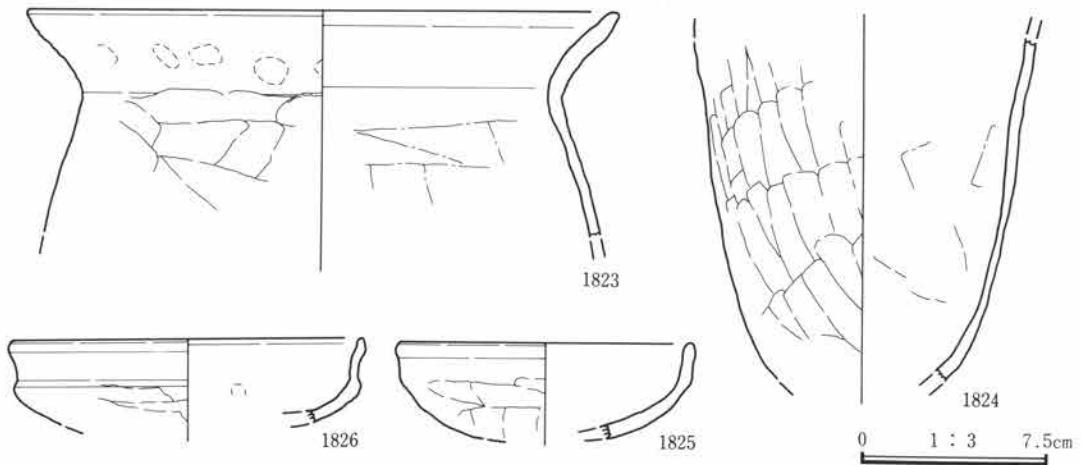


第623図 5区30号住居跡・竈掘形エレベーション





第624図 5区30号住居跡掘形



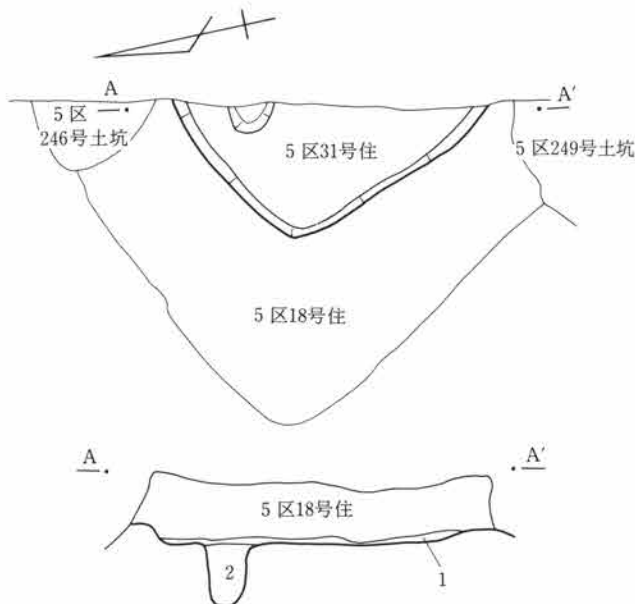
第625図 5区30号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1823	甕 土師器	器高：(89mm) 口径：[238mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。明赤褐色。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部上端は篋なで。	内外面に一部油煙付着。
1824	甕 土師器	器高：(131mm) 口径：— 底径：— 胴部下半迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	外面：胴部下半は篋削り。内面：胴部下半は篋なで、一部輪積痕が残る。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1825	杯 土師器	器高：(38mm) 口径：[118mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	丸底。外面に不明瞭な稜を持ち、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで。	
1826	杯 土師器	器高：(33mm) 口径：[140mm] 底径：— 口縁部～底部上端 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。鈍い橙。	丸底。外面に稜を持ち、口縁部はほぼ直立。外面：口縁部は横なで、胴部～底部上端は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで、一部指頭痕が残る。	内外面に多量の油煙付着。

### 5区31号住居跡

5区H-4、I-4グリッドに位置し、5区18号住居跡と重複する。新旧関係は、5区18号住居跡の床下より当住居跡の北西隅の壁・床が検出されたことから、当住居跡の方が古い。当住居跡は大部分が調査区域外のために検出できたのは北西隅のみであり、規模は不明である。床面の状態は、やや軟弱であるが、ほぼ平坦である。住居内からピットが1基検出できたが、性格は不明である。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少なく、覆土中から鉄製品(1690)が出土している他は、小破片である。



5区31号住居跡

- 1 灰黒褐色土層：炭化物・角閃石安山岩・褐色土小ブロックを含む。
- 2 灰褐色土層：炭化物及び少量の褐色土小ブロックを含む。

0 1:60 1.5m

第626図 5区31号住居跡



0 1:3 7.5cm

第627図 5区31号住居跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1690	釘 鉄製品	長：(28・30mm) 幅：3～10mm 厚：3～8mm		断面四角形。	

## 5区32号住居跡

5区I-6、J-6グリットに位置し、5区33号住居跡・5区34号住居跡・5区235号土坑と重複する。5区33号住居跡との新旧関係は不明である。5区34号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西部の壁・床が当住居跡の東部の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。5区235号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡の規模は、北部が検出できなかったために、不明である。床の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は、約15～20cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物は少なく、土師器の杯(1827)の他は、覆土中から小破片が出土しているだけである。

## 5区33号住居跡

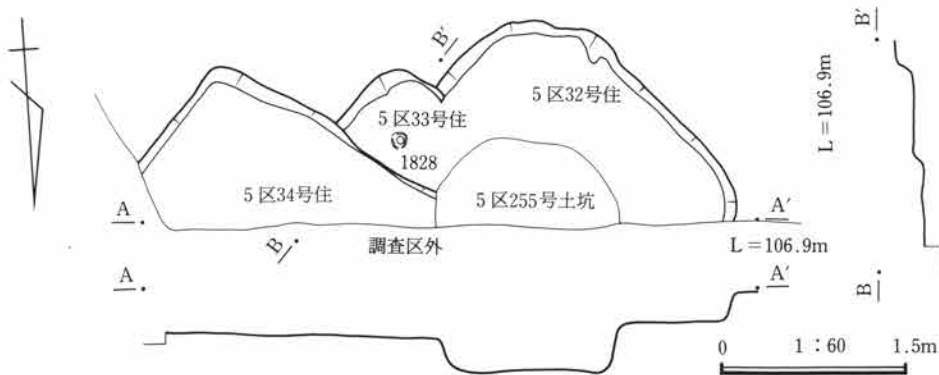
5区I-6グリットに位置し、5区32号住居跡・5区34号住居跡と重複する。5区32号住居跡との新旧関係は不明である。5区34号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南西部の壁・床は当住居跡の壁・床を破壊して築かれていることから、当住居跡の方が古い。

当住居跡は、重複により大部分が破壊されており、検出できたのは南西隅のみのために、規模は不明である。床面の状態は、比較的硬く、ほぼ平坦である。残存壁高は、約15cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も少なく、須恵器の杯(1828)の他は、覆土中から小破片が出土しているだけである。

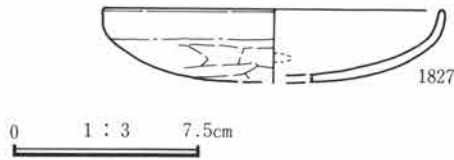
## 5区34号住居跡

5区H-6、I-6グリットに位置し、5区32号住居跡・5区33号住居跡・5区235号土坑と重複する。5区32号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の壁・床を当住居跡の西部の壁・床が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。5区33号住居跡との新旧関係は、同住居跡の壁・床を当住居跡の南西部の壁・床が破壊していることから、当住居跡の方が新しい。5区235号土坑との新旧関係は、同土坑が当住居跡の西部の壁・床の一部を破壊していることから、当住居跡の方が古い。

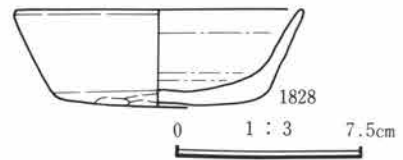
当住居跡の規模は、北側の大部分が検出できなかったために、不明である。床面の状態は、やや軟弱な部分もあるが、ほぼ平坦である。残存壁高は約5～20cmである。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も非常に少なく、覆土中から小破片が出土しているだけである。



第628図 5区32・33・34号住居跡



第629図 5区32号住居跡出土遺物



第630図 5区33号住居跡出土遺物

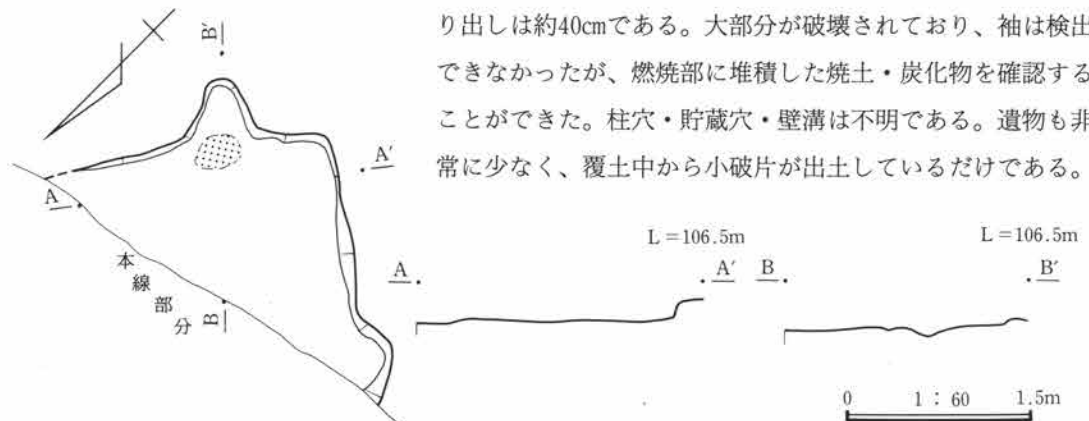
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1827	杯 土器	器高：(29mm) 口径：[136mm] 底径：— 口縁部～底部迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部上半～口縁部は内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部は横なで、胴部～底部はなで、一部指頭痕が残る。	外面に一部油煙付着。

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1828	杯 須恵器	器高：38mm 口径：117mm 底径：83mm ほぼ完形	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転篋切り後寛なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	

### 5区38号住居跡

5区J-6、K-6グリットに位置し、5区2号住居跡・5区12号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。当住居跡の規模は、北西部が検出できなかったために不明であるが、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定している。主軸はN-33-Eである。床面の状態は、やや軟弱であるが、ほぼ平坦である。残存壁高は、残りの良い南壁で約10cmである。

竈は東壁の南よりに構築されている。燃烧部の壁外への張り出しは約40cmである。大部分が破壊されており、袖は検出できなかったが、燃烧部に堆積した焼土・炭化物を確認することができた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は不明である。遺物も非常に少なく、覆土中から小破片が出土しているだけである。

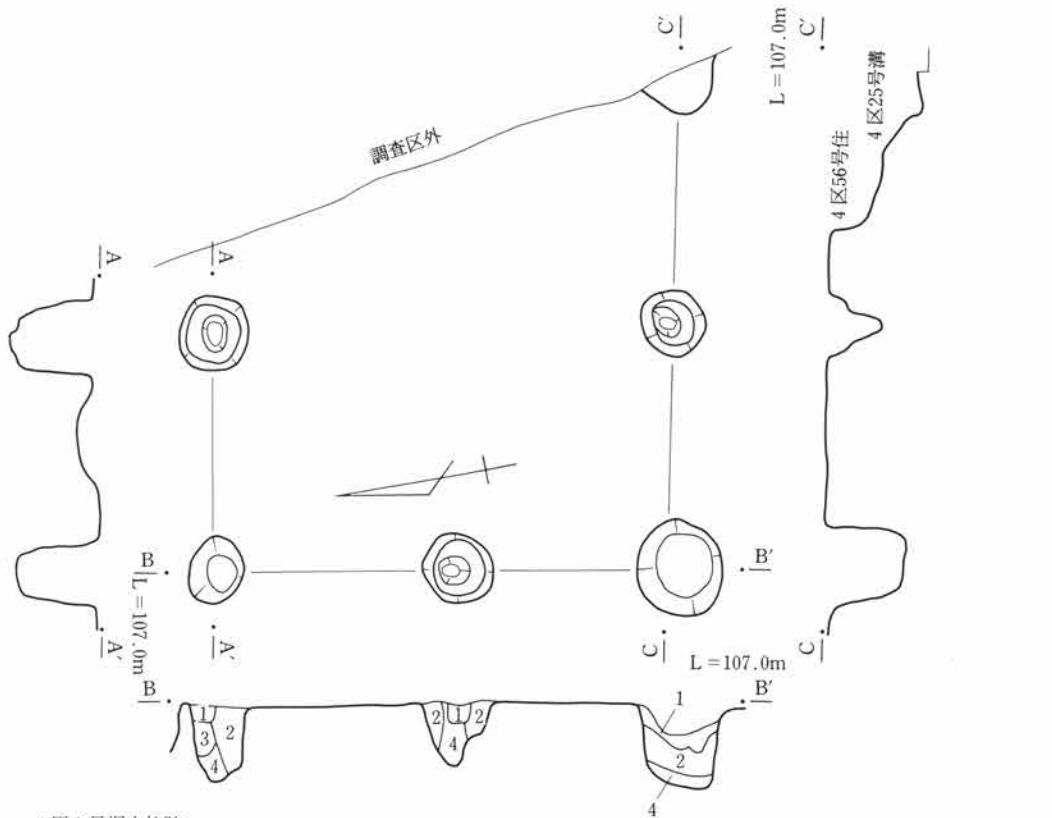


第631図 5区38号住居跡

## 4区1号掘立柱跡

当掘立柱跡はH-22・23、I-22・23、J-22グリッドに位置し、4区56号住居跡・4区117号住居跡・4区25号溝跡・4区215号土坑・4区218号土坑と重複する。4区56号住居跡との新旧関係は、不明である。4区117号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南部の床の一部を当掘立柱跡の柱穴が破壊していることから、当掘立柱跡の方が新しい。4区25号溝跡との新旧関係は、同溝跡の覆土中に当掘立柱跡の柱穴が築かれていることから、当掘立柱跡の方が新しい。4区215号土坑との新旧関係は、不明である。4区218号土坑との新旧関係は、同土坑の北東部を破壊して当掘立柱跡の柱穴が築かれていることから、当掘立柱跡の方が新しい。

当掘立柱跡の規模は、南北2間であるが、東西は東部が調査区域外のために不明である。柱間の距離は約180~190cmである。柱穴の規模は、径約40~70cm・確認面からの深さ約45~70cmであり、平面形は不整形な円形ないしは楕円形を呈する。遺物の出土は無く、時期の確定はできないが、住居跡との新旧関係から、平安時代以降である。



4区1号掘立柱跡

- 1 灰褐色土層：灰・焼土粒子を含む。
- 2 明褐色土層：褐色土粒子を含む。
- 3 黄褐色土層：ローム粒子を含む。
- 4 褐色土層：褐色土粒子を含む。

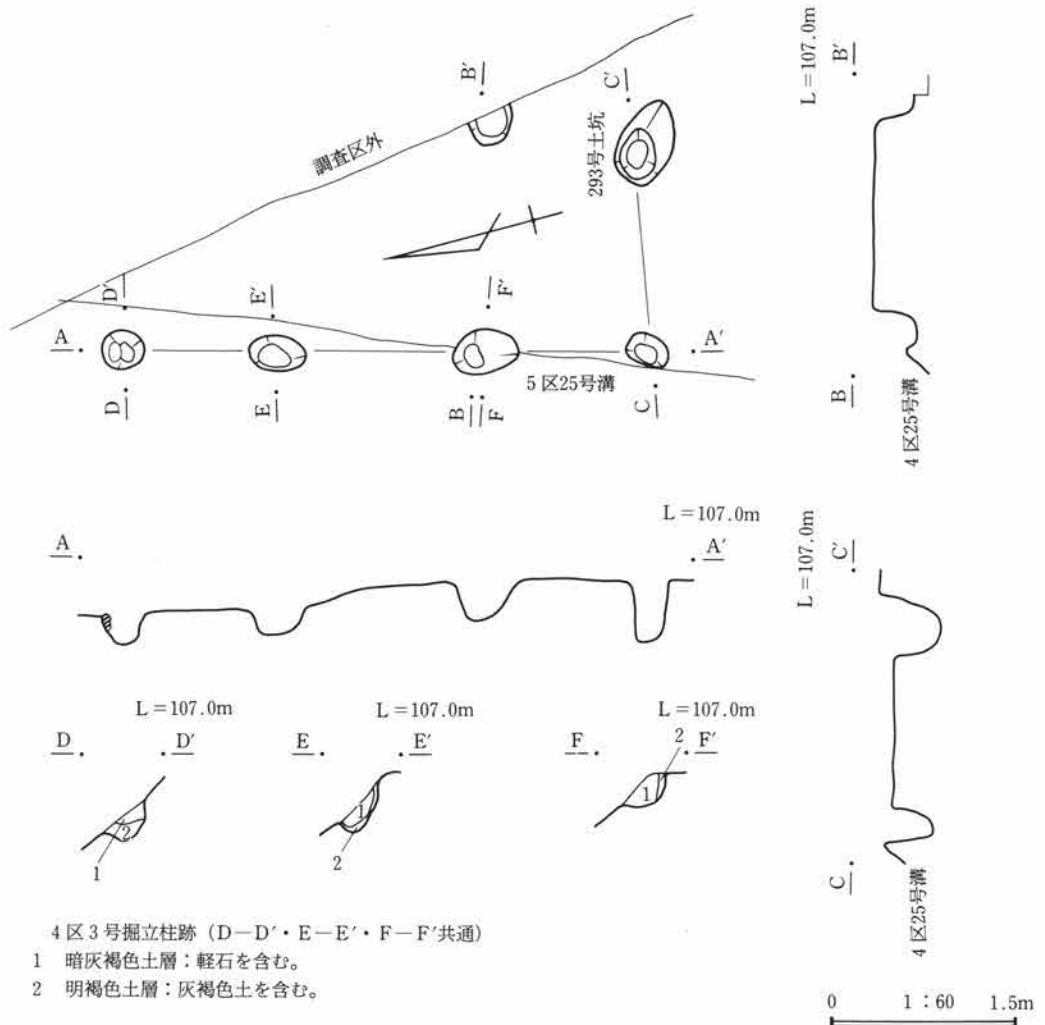
0 1 : 60 1.5m

第632図 4区1号掘立柱跡

4区3号掘立柱跡

当掘立柱跡はH-20・21、I-20・21グリッドに位置し、4区55号住居跡・4区56号住居跡・4区25号溝跡・4区267号土坑・4区293号土坑と重複する。4区55号住居跡との新旧関係は、同住居跡と4区25号溝跡との新旧関係から、当掘立柱跡の方が新しい。4区25号溝跡との新旧関係は、同溝跡の覆土中から当掘立柱跡の柱穴が検出されていることから、当掘立柱跡の方が新しい。4区267号土坑との新旧関係は、不明である。4区293号土坑との新旧関係は、同土坑の底面下から当掘立柱跡の柱穴が検出されていることから、当掘立柱跡の方が古い。

当掘立柱跡の規模は、東部が調査区域外のために確定できないが、東西は1間以上・南北は3間以上であり、総柱の可能性が考えられる。柱間の距離は130~160cmである。柱穴の規模は径約30~50cm・確認面からの深さ約20~50cmであり、平面形は不整形な円形ないしは楕円形を呈する。遺物の出土は無く、時期の限定は困難であるが、重複遺構との関係から平安時代遺構と推定される。

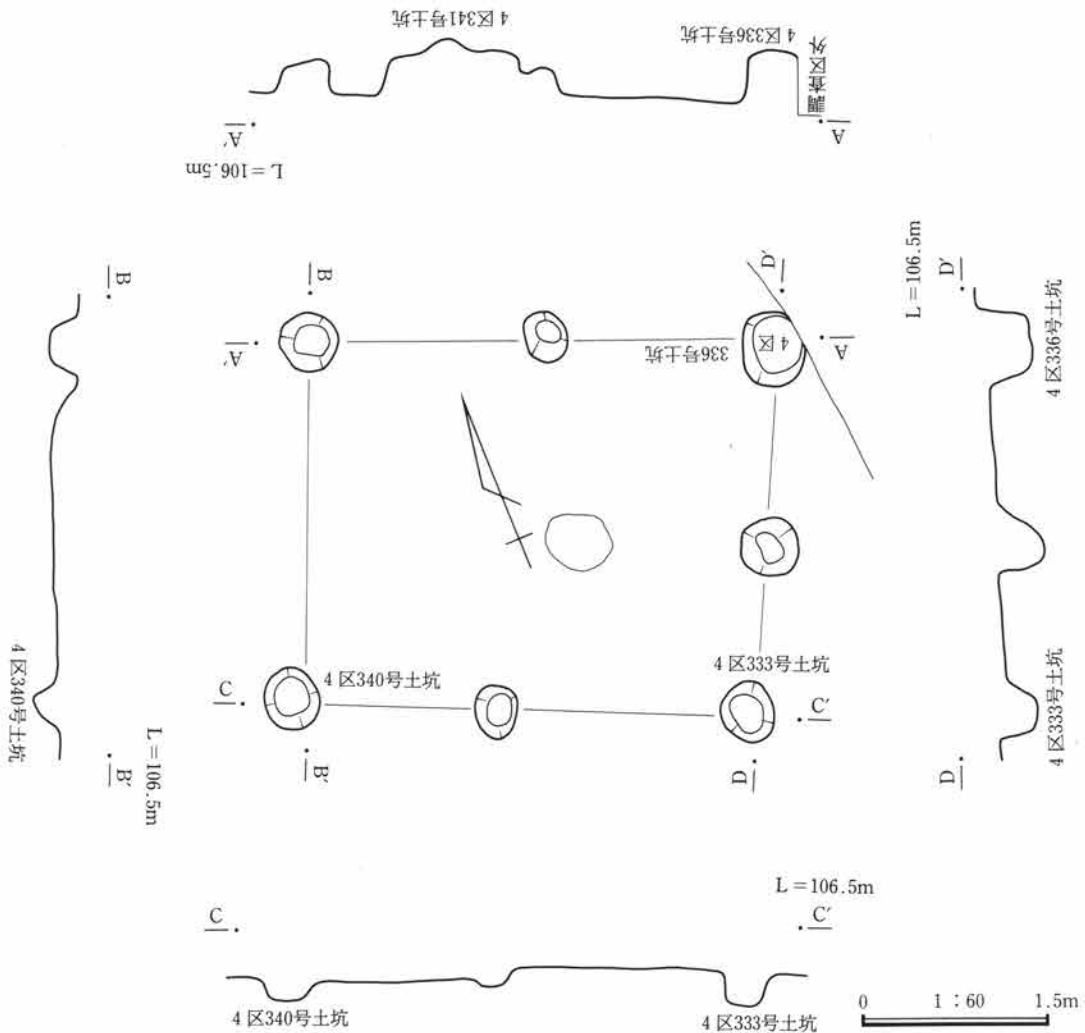


第633図 4区3号掘立柱跡

## 4区4号掘立柱跡

当掘立柱跡はH-10、I-9・10・11、J-9・10・11グリッドに位置し、4区94号住居跡・4区104号住居跡・4区105号住居跡・4区123号住居跡と重複する。4区94号住居跡との新旧関係は、確定できないが周囲の遺構との関係から、当掘立柱跡の方が新しいと推定される。4区104号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部の床面の一部を当掘立柱跡の柱穴が破壊していることから、当掘立柱跡の方が新しい。4区105号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北東部の床面の一部を当掘立柱跡の柱穴が破壊していることから、当掘立柱跡の方が新しい。4区123号住居跡との新旧関係は、同住居跡の南東部・南西部の床面の一部を当掘立柱跡の柱穴が破壊していることから、当掘立柱跡の方が新しい。

当掘立柱跡の規模は、東西2間・南北2間であるが、西側の東西柱は1間のみの検出である。柱間の距離は東西方向が約130~150cm・南北方向が約160~190cmである。柱穴の規模は、径40~60cm・確認面からの深さ約10~40cmであり、平面形は不整形な円形ないしは不整形な楕円形を呈する。遺物の出土は無く、時期の限定は困難であるが、重複関係から平安時代以降である。



第634図 4区4号掘立柱跡

## 溝 跡

### 概 要

4区～5区は、4区で51本・5区13本、計64本の溝が検出されている。覆土中に浅間山や榛名山の火山灰・軽石の堆積が確認できる溝が多いが、純粹堆積ではない。従って、浅間山のC軽石や榛名山のFA・FPの堆積が検出できても、古墳時代の溝ではなく、古代以降の溝と考えられる。出土している遺物も古墳時代の遺物は殆ど無い。

4区33溝～4区53溝は下層の古墳時代の水田面調査の時点で検出された溝であるが、水田面を上から切っており、上面の住居跡との関連から、奈良時代・平安時代初期の溝跡と推定される。溝で特に注目されるのは4区3溝跡・4区20溝跡・4区21溝跡・4区22溝跡である。4区3溝跡は西側部分で「コ」字形に曲がる中世の溝である。遺物は須恵器や灰釉陶器のほか板碑や宝篋印塔が出土している。特に板碑(2208・2209・2210)は残りが良い。4区20溝跡・4区21溝跡・4区22溝跡は3区～4区にかけて平行している溝である。4区20溝跡・4区21溝跡の規模は、上端の幅が約3m以上・確認面からの深さが約1m以上あり、形態も類似している。また、遺物は4区20溝から軟質陶器や土師質土器のほか、板碑・五輪塔・宝篋印塔が出土しており、中世の堀と考えることができる。4区22溝跡は4区20溝跡・4区21溝跡とほぼ平行するが、蛇行しており、河川の流路であったと考えられる。時期は、遺物・重複する土壌墓との関係などから、4区20溝跡・4区21溝跡と同時存在していた可能性が強い。

その他の溝も覆土中から出土している遺物・他の遺構との重複関係から、大部分は古代～中世の溝跡と考えられる。

番号 区番号	位置 (グリッド)	走行と形状	断面形状と底部形状	出土遺物(遺物番号)	備考
4 1	I-2・3、J-2・3・4・5、 K-5・6、L-6・7、M- 6・7、N-8・9	ほぼ直線的であるが、東部で南に曲がる。全長26m。上端幅1.0～1.2m。	断面は台形。底部は平坦。僅かに東に傾斜。比高差は3cm。確認面からの深さ約0.3m。	土師器杯(2132)。	覆土は細砂を含む黄褐色土。
4 2	K-20、L-20・21、M- 21、N-21・22、 O-21・22、P-22・23、 Q-23	東西にほぼ直線的。全長25m。上端幅0.7～1.0m。L-20グリッドで狭くなるのは、確認面が深いため。P-23・Q-23で4区4溝と交差。	断面は「V」字形。僅かに東に傾斜。比高差は約10cm。確認面からの深さ約0.4m。	土師器杯(2133・2134)。	覆土は軽石を含む暗褐色土。
4 3	H-12・13、I-12・13・ 14、J-13・14・15、K- 14・15・16・17・18、 L-15・16・18・19、M- 16・17・18	南部は東西にほぼ直線的であるが、K-17で直角に屈曲し、ほぼ南北に直線的になり、更にL-18・19で直角に屈曲し東西に直線的になる。全体の平面形は「コ」字形。全長約30m。上端幅1.0～3.0m。	断面は台形。東に傾斜。比高差は約30cm。確認面からの深さは南部で約1.3m。	須恵器杯(2198・2199・2200・2201)、須恵器皿(2202・2203)、灰釉陶器椀(2204)、土師質土器杯(2205)、白磁(2207)、板碑(2208・2209・2210・2211・2212・2214・2215・2216・2217・2218・2219)、宝篋印塔(2213)など。	覆土は灰褐色土であるが、上部に流れ込みの榛名山FPを含む。



番号 区番号	位置 (グリッド)	走行と形状	断面形状と底部形状	出土遺物(遺物番号)	備考
4 4	M-20、N-21、O-21・ 22、P-22・23、Q-23	東西にほぼ直線的。全長約16m。 上端幅1.0～1.5m。P-23・Q-23 で4区4溝と交差。	断面は台形。僅かに東に傾 斜。比高差は約15cm。確認面 からの深さ約0.4m。	覆土中から土師器・須 恵器・軟質陶器の小破 片。	覆土は褐色土で上 部に浅間山A軽 石・下部に榛名山 の軽石を含む。
4 5	K-21、L-21・22、M -22、N-23	東西にほぼ直線的。全長約11m。 上端幅約0.6～0.7m。K-21、L -21で4区7溝と交差。	断面は台形。確認面からの 深さ約0.1m。	覆土中から土師器・須 恵器・灰釉陶器の小破 片。	
4 6	M-22・23、N-23	東西にほぼ直線的。全長約9m。 上端幅約0.5～0.7m。M-22・23 で4区7溝と交差。	断面は台形。確認面からの 深さ約0.1m。	覆土中から土師器・須 恵器・灰釉陶器の小破 片。	
4 7	H-18、I-18・19、J -19・20、K-20・21、 L-21・22、M-22・ 23、N-23・24、O -24・25、P-25・26、Q -26	東西にほぼ直線的であるが、O -25、P-25・26で僅かに南に湾 曲。全長約35m。上端幅約0. 8～1.5m。K-21、L-21で4区5溝 と交差。M-22・23で4区6溝と交 差。	断面は台形。東に僅かに傾 斜。比高差は40cm。西端では 確認面からの深さ約2.3m。	覆土中から土師器・須 恵器の小破片。	覆土に榛名山の軽 石を含む。
4 8	H-27、I-27・28、J -28、K-28・29、L -29・30、M-30・31、 N-31・32、O-32・ 33、P-32・33・34、Q -33・34	東西にほぼ直線的。K-28・29で 僅かに屈曲? 全長約32m。上端 幅約1.4～1.9m。L-30・M-30で 4区10溝と交差。J-28・29で4区24 溝と交差。	断面は台形。東に僅かに傾 斜。比高差は約20cm。確認面 からの深さ約0.7m。	土師器杯(2135・2136)。	覆土上層に榛名山 の火山灰FPを含 む。
4 9	I-29・30、J-29・30・ 31、K-30・31・32、L -31・32、M-32・33、 N-33・34、O-33・ 34、P-34、5区O-1、 P-1・2、Q-1・2	東西にほぼ直線的。4区8溝とほ ぼ平行。全長約30m。上端幅約1. 7～3.8m。M-33で4区12溝と交 差。I-31・J-30で4区24溝と交差。 I-30で4区29溝と交差。	断面は不整形な台形。底面 にはやや凹凸がある。僅か に東に傾斜。比高差は約10 cm。確認面からの深さ約1.5 m。	陶器(2137)、土師質土 器杯(2161)、灰釉陶器 壺(2162)。	砂を含む層が互層 になっており、水 が流れたと考えら れる。下層の一部 で榛名山の火山灰 FAの堆積を確認。
4 10	M-28・29・30、N -27・28・29、O-25・ 26・27、P-24・25・26	南北にほぼ直線的。中央付近で 僅かに蛇行。全長約20m。上端幅 約1.5～3.0m。O-25・P-25で4区 7溝と交差。N-27・28で4区11溝 と交差。M-30で4区8溝と交差。	断面は台形であるが、一部 中央部がくぼむ。殆ど傾斜 は無し。確認面からの深さ 約0.4m。	土師器甕(2157)、須恵 器杯(2159)、須恵器横 瓶(2458)。	覆土は暗褐色土で 少量の榛名山の軽 石FPを含む。
4 11	M-27、N-27・28、O -28・29、P-29・30、Q -29・30	東西にほぼ直線的。全長約14m。 上端幅約0.5～1.0m。N-27・28 で4区10溝と交差。	断面は「V」字形。一部中央 がくぼむ。僅かに東に傾斜。 比高差は約10cm。確認面か らの深さ約0.3m。	須恵器の小破片。	小礫を多量に含む 砂土。
4 13	N-20・21、O-20・ 21、P-19・20、Q-19・ 20	南北に僅かに蛇行。全長約9m。 上端幅約1.2～1.3m。N-20・21 で4区4溝と交差。Q-19で4区14 溝と交差。13溝の方が古い。	断面は台形。僅かに南に傾 斜。比高差は約5cm。確認面 からの深さ約0.3m。	須恵器杯(2138)、須恵 器椀(2165)、須恵器皿 (2166)、陶器天目茶碗 (2139)。	覆土は炭化物を含 む暗褐色土。
4 14	O-17・18、P -18・19、Q-19	東西にほぼ直線的。全長約6m。 上端幅約1.1～1.3m。Q-19で4 区13溝と交差。	断面は台形。僅かに東に傾 斜。比高差は約5cm。確認面 からの深さ約40cm。	須恵器杯(2167)、須恵 器椀(2168)。	覆土は多量の浅間 山B軽石を含む褐 色砂質土。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号 区番号	位置 (グリッド)	走行と形状	断面形状と底部形状	出土遺物(遺物番号)	備考
4-15	O-12、P-12・13、Q-13	東西にほぼ直線的。全長約6m。上端幅約0.8~1.2m。	断面は台形。僅かに東に傾斜。比高差は約5cm。確認面からの深さ約0.4m。	土師器杯(2169)、須恵器杯(2170・2171)、砥石(2172)。	覆土は多量の浅間山B軽石を含む暗褐色土。
4-16	O-11・12、P-12、Q-11・12	O-11・12、P-12は東西にほぼ直線的。全長約6.5m。上端幅約0.4~0.5m。P-12・Q-12で直角に屈曲しQ-11・12では南北にほぼ直線的。	断面は「U」字形。僅かに東に傾斜。比高差は約5cm。確認面からの深さ約0.4m。	土師器甕(2173)、須恵器杯(2174)。	覆土は多量の浅間山B軽石を含む暗褐色土。
4-17	P-7、Q-7・8	東西にほぼ直線的。大部分は調査区域外。全長約3.5m。上端幅約1.2m。	断面は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.5m。	土師質土器杯(2175)。	覆土は多量の浅間山B軽石を含む暗褐色土。
4-18	O-23、P-21・22・23、Q-20・21	南北にほぼ直線的であるが、P-22・23の4区12溝との交差付近で、やや屈曲。O-23で4区19溝と交差。当溝の方が古い。全長約8m。上端幅約0.3~0.6m。	断面は台形。底面は一部段あり。僅かに北に傾斜。比高差は約3cm。確認面からの深さ約0.3m。	須恵器耳皿(2176)、灰釉陶器碗(2177)。	覆土は軽石を含む暗灰褐色土。
4-19	O-23・24、P-24	東西にほぼ直線的、本線では検出できず。O-23で4区18溝と交差。当溝の方が新しい。全長約3.5m。上端幅約0.5~1.0m。	断面は台形。底面はやや凹凸があり、中央部に高まりがある。僅かに西に傾斜。比高差は約5cm。確認面からの深さ約0.3m。	軟質陶器内耳鍋(2178)、須恵器杯底部の転用紡錘車(2351)、鉄鎌(2179)、鉄製品(2180・2181)。	覆土は軽石を含む灰褐色土。
4-20	I-1・2、J-1・2、N-3・4、O-3・4・5、P-4・5・6、Q-4・5・6	東西にほぼ直線的。I-1・2で屈曲。I-2・J-2で4区2溝と交差。全長約27m。上端幅約3.0~5.2m。下端幅約1.2m。人工的に掘られた堀と考えられる。	断面は「V」字形。中段を持つ。傾斜は殆ど無し。確認面からの深さ1.5m。	軟質陶器内耳鍋(2185)、軟質陶器鉢(2186)、土師質土器杯(2187)、板碑(2221)、宝篋印塔(2194)、五輪塔(2188・2189・2190・2191・2192・2193)。	覆土は浅間山B軽石を含む暗褐色土。
4-21 (3)	3区 K-31・32・33、L-31・32・33、M-32・33・34、N-33・34、O-33・34、P-34、Q-34、4区 O-1、P-1、Q-1	東西にほぼ直線的。南側に犬走りを持つ。全長約21m。上端幅約3.2~4.0m。下端幅約0.2~0.4m。4区21溝とほぼ平行。人工的に掘られた堀と考えられる。	断面は犬走り部分は台形。最深部は「V」字形。僅かに東に傾斜。確認面からの深さ約1.1m。	須恵器壺(2183)。	覆土は暗褐色土。
4-22 (3)	3区 L-28・29・30、M-28・29・30・31、N-28・29・30・31・32、O-29・30・31・32、P-29・30・31・32・33、Q-29・30・31・32・33	東西方向に蛇行。犬走り状の段をもつ。全長約18m。上端幅約5.7~12.0m。下端幅約1.1~4.3m。底面の蛇行は激しく、水が流れていたことを示している。堀の可能性もあるが、基本は自然の河川と考えられる。	断面はやや不整形な台形。僅かに東に傾斜。確認面からの深さ約3.0m。	土師器・須恵器・陶器の小破片の他、北宋銭の「天禧通寶」(2184)。	
4-23	H-23、I-23・24、J-24・25、K-25	東西方向にほぼ直線的。全長約5.5m。上端幅約0.7~0.9m。途切れているが、溝の規模・走行の方向から4区11溝と同一の可能性あり。	断面は不整形な台形。僅かに西に傾斜。比高差は約5cm。確認面からの深さ約0.2m。	無し。	覆土は砂礫。

番号 区番号	位置 (グリッド)	走行と形状	断面形状と底部形状	出土遺物(遺物番号)	備考
4-24	H-30・31、I-29・30・31、J-28・29・30、K-28・29	南北方向にほぼ直線的。全長約9.5m。上端幅約1.1~2.2m。H-30・31、I-30・31でほぼ直角に屈曲しほぼ東に向かう。I-30で4区29溝と交差。I-29・30、J-29・30で4区9溝と交差。J-28・29で4区8溝と交差。	断面は台形。南に傾斜、比高差は約30cm。確認面からの深さ約0.9m。	無し。	覆土は鉄分を含む灰褐色土。
4-25	I-21・22、H-20・21・22、J-19・20	南北方向にほぼ直線的。全長約9m。上端幅約1.4~1.8m。下端幅約0.3~0.4m。J-19・20で4区7溝と交差。	断面は「V」字形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.7m。	須恵器甕(1551)、軟質陶器鉢(1552・1553・1554・2195)、軟質陶器落蓋(1555)、軟質陶器壺(1556)、軟質陶器手あぶり(2196)。	覆土は褐色土。
4-26 (5)	5区 H-1、I-1・2、J-2・3	東西方向にほぼ直線的。全長約7m。上端幅約1.0~1.2m。	断面は台形。僅かに東に傾斜。比高差は約15cm。確認面からの深さ約0.3m。	軟質陶器内耳鍋(2197)	覆土は榛名山の軽石を含む暗褐色土。
4-28	H-31、I-31・32、J-32・33、K-32・33	東西方向に僅かに蛇行。全長約8m。上端幅約1.3~1.8m。	断面は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約0.7m。	無し。	覆土は榛名山の軽石FPを含む褐色土。
4-29	H-30、I-30・31、J-32・33、K-32・33	東西方向にほぼ直線的。東端でやや湾曲。全長約7m。上端幅0.8~1.2m。	断面は台形。僅かに東に傾斜。比高差は約10cm。確認面からの深さ約0.2m。	無し。	覆土は灰褐色砂質土。
4-30	H-31、I-31・32	東西方向にほぼ直線的。全長約3.7m。上端幅約0.2~0.3m。4区28溝の底面下から検出。	断面は「U」字形。僅かに東に傾斜。比高差は約5cm。確認面からの深さ約0.1m。	無し。	
4-32	H-11・12、I-10・11	南北に走るがやや湾曲。全長約4.5m。上端幅約1.0~1.6m。	断面は台形。僅かに南に傾斜。比高差は約15cm。確認面からの深さ約0.2m。	土師器・須恵器の小破片。	覆土は褐色砂質土。
4-33	I-15・16、J-15、O-11・12、P-11	水田検出面上部で発見。東西方向に蛇行。全長約27m。上端幅約0.2~0.4m。I-16・O-12で4区34溝と交差。	断面は「V」字形。僅かに西に傾斜。比高差は約10cm。確認面からの深さ約10cm。	無し。	
4-34	I-16、J-15・16、K-15・16、O-12、P-11・12、Q-10・11	水田検出面上部で発見。東西方向に大きく蛇行。全長約30m。上端幅約0.7~1.2m。I-16・O-12で4区33溝と交差。J-16で4区35溝と交差。	断面は台形。僅かに西に傾斜。比高差は約15cm。確認面からの深さ約20cm。	無し。	
4-35	I-16・17、J-16、K-15・16、O-12・13、P-12・13	水田検出面上部で発見。東西方向にやや蛇行。全長約27m。上端幅約0.2~0.4m。I-16・17で4区34溝・36溝と交差。	断面は「V」字形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約10cm。	無し。	
4-36	I-16・17、J-16、O-13・14、P-12・13、Q-12	水田検出面上部で発見。東西方向に大きく蛇行。全長約29m。上端幅約0.2~0.4m。I-17で4区35溝と交差。I-17、J-16で4区37溝と交差。O-13で4区38溝と交差。	断面は台形。僅かに東に傾斜。比高差は約10cm。確認面からの深さ約10cm。	無し。	

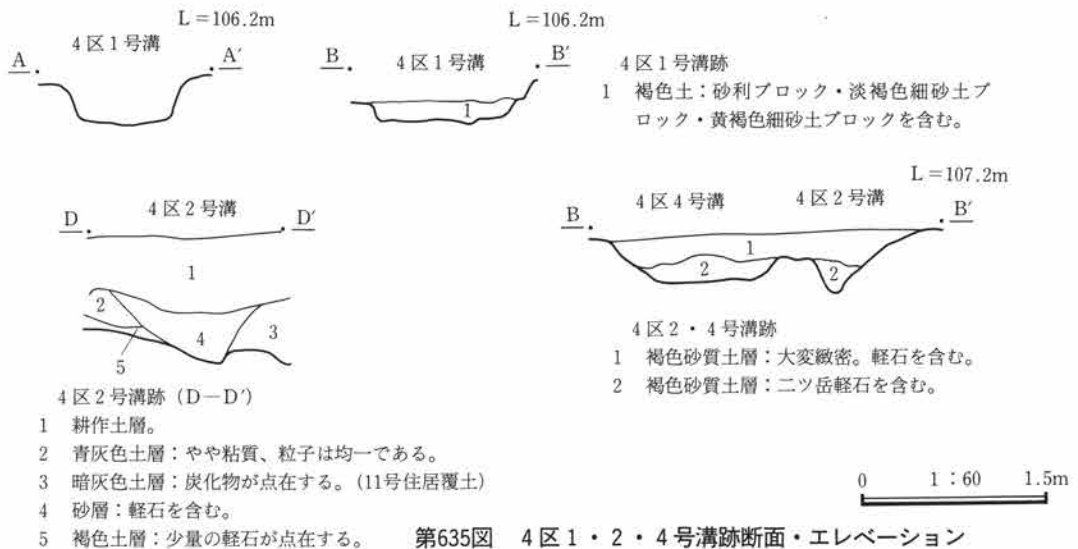
第IV章 発見された遺構と遺物

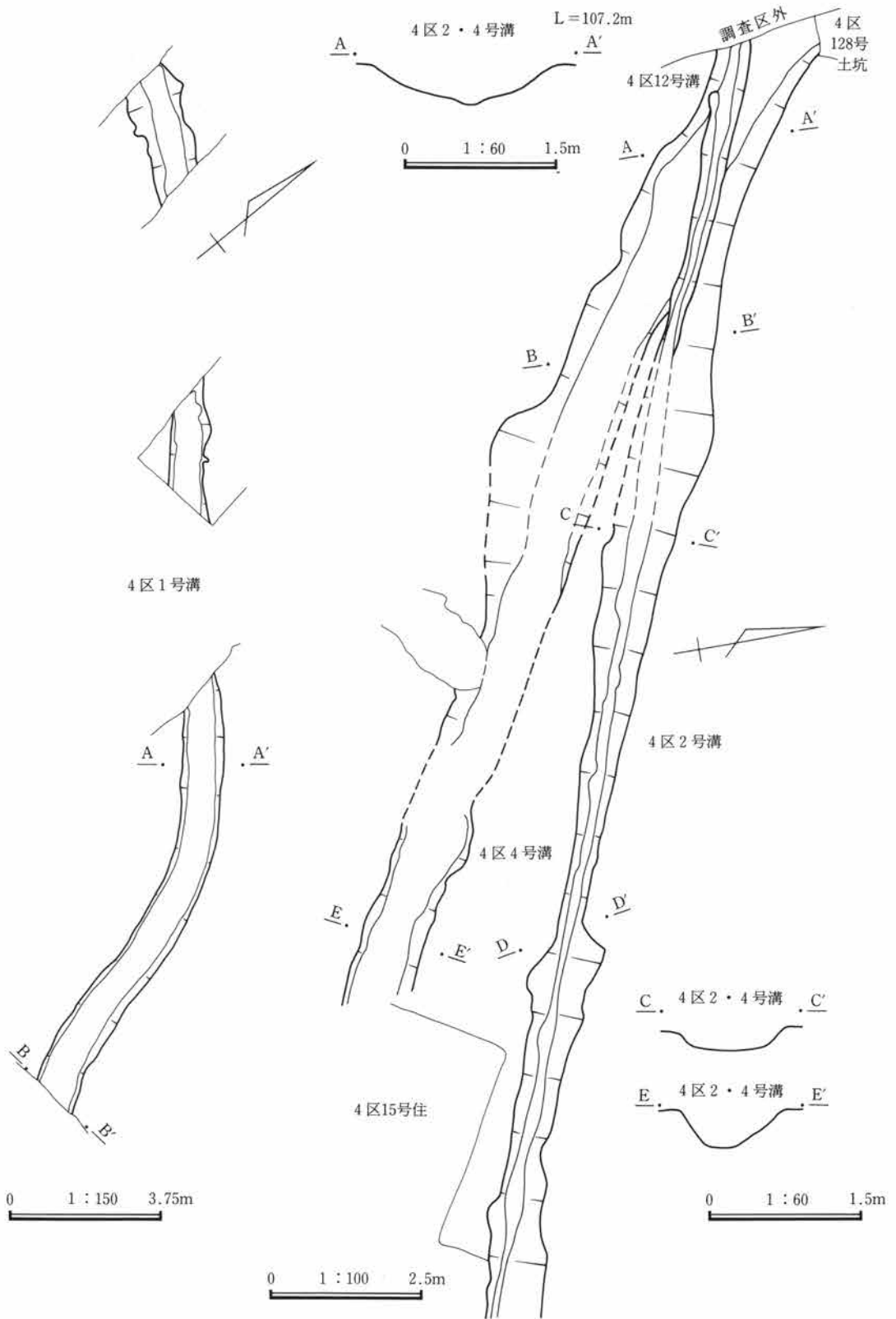
番号 区番号	位置 (グリッド)	走行と形状	断面形状と底部形状	出土遺物(遺物番号)	備考
4 37	I-16・17、J-16・17、 K-16、O-12・13、P- 11・12、Q-11	水田検出面上部で発見。東西方向にやや蛇行。全長約29m。上端幅0.3～0.5m。I-17、J-16で4区36溝と交差。	断面は台形。僅かに西に傾斜。比高差は約10cm。確認面からの深さ約10cm。	無し。	
4 38	I-17・18、J-16・17、 K-16、O-13・14	水田検出面上部で発見。東西方向にほぼ直線的。全長約24m。上端幅0.3～0.4m。O-13で4区36溝と交差。	断面は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約5cm。	無し。	
4 39	I-18、J-18、K-18、O- 17、P-17	水田検出面上部で発見。東西方向にやや蛇行。全長約21m。上端幅約0.4～0.5m。P-17で4区41溝と交差。	断面は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約10cm。	無し。	
4 40	I-18・19、J-18	水田検出面上部で発見。東西方向にやや蛇行。全長約5m。上端幅約0.4～0.6m。	断面は台形。僅かに東に傾斜。比高差は約5cm。確認面からの深さ約10cm。	無し。	
4 41	I-19、J-19、K-18・ 19、O-17・18、P-17・ 18・19、Q-17・18・19	水田検出面上部で発見。東西方向に蛇行。西側では扇形に広がる。全長約24m。上端幅約1.1～6.8m。P-17で4区39溝と交差。	断面は台形。僅かに東に傾斜。比高差は約10cm。確認面からの深さ約20cm。	無し。	
4 42	I-20・21、J-21、O- 22、P-22	水田検出面上部で発見。東西方向にやや蛇行。全長約24m。上端幅約0.4～0.6m。	断面は台形。西に僅かに傾斜。比高差は約2cm。確認面からの深さ約8cm。	無し。	
4 43	I-22、J-22、O-25・ 26、P-25・26	水田検出面上部で発見。東西方向にほぼ直線的。I-22で僅かに北に曲がる。全長約27m。上端幅約0.3～0.4m。	断面は台形。僅かに東に傾斜。比高差は10cm。確認面からの深さ約5cm。	無し。	
4 44	I-23、J-23・24	水田検出面上部で発見。東西にほぼ直線的。全長約6m。上端幅約0.3～0.5m。	断面は台形。僅かに東に傾斜。比高差は約3cm。確認面からの深さ約10cm。	無し。	
4 45	I-24、J-24	水田検出面上部で発見。東西にほぼ直線的。全長約4.1m。上端幅約0.3～0.4m。I-24で4区46溝と交差。	断面は台形。僅かに東に傾斜。比高差は約10cm。確認面からの深さ約5cm。	無し。	
4 46	I-24、J-24・25	水田検出面上部で発見。東西にほぼ直線的。全長約7.5m。上端幅約0.3～0.5m。I-24で4区45溝と交差。	断面は台形。僅かに東に傾斜。比高差は約15cm。確認面からの深さ約3cm。	無し。	
4 47	I-24・25、J-25・26、 O-29・30、P-30・31	水田検出面上部で発見。東西にほぼ直線的。全長約32m。上端幅約0.4～0.7m。	断面は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約10cm。	無し。	
4 48	I-25・26、J-26・27	水田検出面上部で発見。東西にほぼ直線的。全長約7m。上端幅約0.4～0.7m。	断面は台形。僅かに東に傾斜。比高差は5cm。確認面からの深さ約15cm。	無し。	

番号 区番号	位置 (グリッド)	走行と形状	断面形状と底部形状	出土遺物(遺物番号)	備考
4 49	I-26、J-26	水田検出面上部で発見。東西に僅かに蛇行。全長約2.7m。上端幅約0.2~0.4m。	断面は台形。殆ど比高差は無し。確認面からの深さ約5cm。	無し。	
4 50	I-25・26・27、J-27・28・29	水田検出面上部で発見。北西から南東に走り、僅かに蛇行。全長約13.5m。上端幅約0.3~0.4m。I-25で4区48溝と交差。	断面は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約5cm。	無し。	
4 51	I-31、J-31・32、K-32	水田検出面上部で発見。東西方向にほぼ直線的。全長約6m。上端幅約0.3~0.4m。	断面は台形。東に僅かに傾斜。比高差は約5cm。確認面からの深さ約10cm。	無し。	
4 52	I-14・15、J-13・14、K-13、O-9、P-8・9、Q-8	水田検出面上部で発見。東西方向にやや蛇行。全長約31m。上端幅約0.2~0.3m。	断面は台形。僅かに西に傾斜。比高差は約10cm。	無し。	
4 53	I-34、P-34	水田検出面上部で発見。東西方向に走り、南にやや湾曲。全長約6m。上端幅0.4~0.5m。	断面は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約5cm。	無し。	
4 54	H-16・17、I-16・17、J-16・17、K-17	北東から南西へほぼ直線的。全長約6m。上端幅約1.3~1.6m。	断面は台形。僅かに南西に傾斜。比高差は約10cm。確認面からの深さ約0.5m。	無し。	覆土は浅間山B軽石を含む褐色砂質土。
5 1 (4)	4区 H-34、I-34、5区 I-1、J-1・2、K-2・3、L-2・3・4、M-4・5、N-4・5、O-5・6、P-6・7、Q-7	東西方向にほぼ直線的。全長約32m。上端幅約0.9~1.7m。O-5・6で5区2溝と交差。	断面は台形。僅かに東に傾斜。比高差は約50cm。確認面からの深さ約1.5m。	土師器甕(2222・2223) 土師器杯(2224・2225・2226・2228・2229)、土師器高杯(2227)	覆土は砂利層と砂層が互層になっており、下層は粘質土で鉄分が付着している。また10層には榛名山の軽石F Pが混じっている。
5 2	O-4・5・6、P-2・3・4、Q-2	南西方向にほぼ直線的。全長約13.5m。上端幅約0.4~0.6m。O-5・6で4区1溝と交差。P-2・3で4区3溝と交差。P-4で4区4溝と交差。	断面は台形。僅かに北に傾斜。比高差は約15cm。確認面からの深さ約0.2m。	土師器・須恵器の小破片。	覆土は上層に浅間山B軽石、下層に榛名山の火山灰F Aを含む。
5 3	P-2・3、Q-2	南北方向にほぼ直線的。全長約4m。上端幅約0.5~0.6m。P-2・3で4区2溝と交差。	断面は台形。僅かに北に傾斜。比高差は約5cm。確認面からの深さ約0.2m。	無し。	
5 4 (4)	4区 H-32、I-32・33、J-33・34、5区 O-3・4、P-3・4、Q-4	東西方向にほぼ直線的。全長約31m。上端幅約0.4~0.6m。5区P-4で5区2溝と交差。本線部分では検出できなかったが、規模・形態・走行の方位から同一溝とした。	断面は台形。僅かに西に傾斜。比高差は約5cm。確認面からの深さ0.6m。	無し。	覆土は褐色砂質土。
5 5	I-6	東西方向に走り、僅かに湾曲。全長約1.5m。上端幅約0.1~0.2m。I-6で5区13溝と交差。	断面は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約5cm。	土師器・須恵器・灰釉陶器の小破片。	

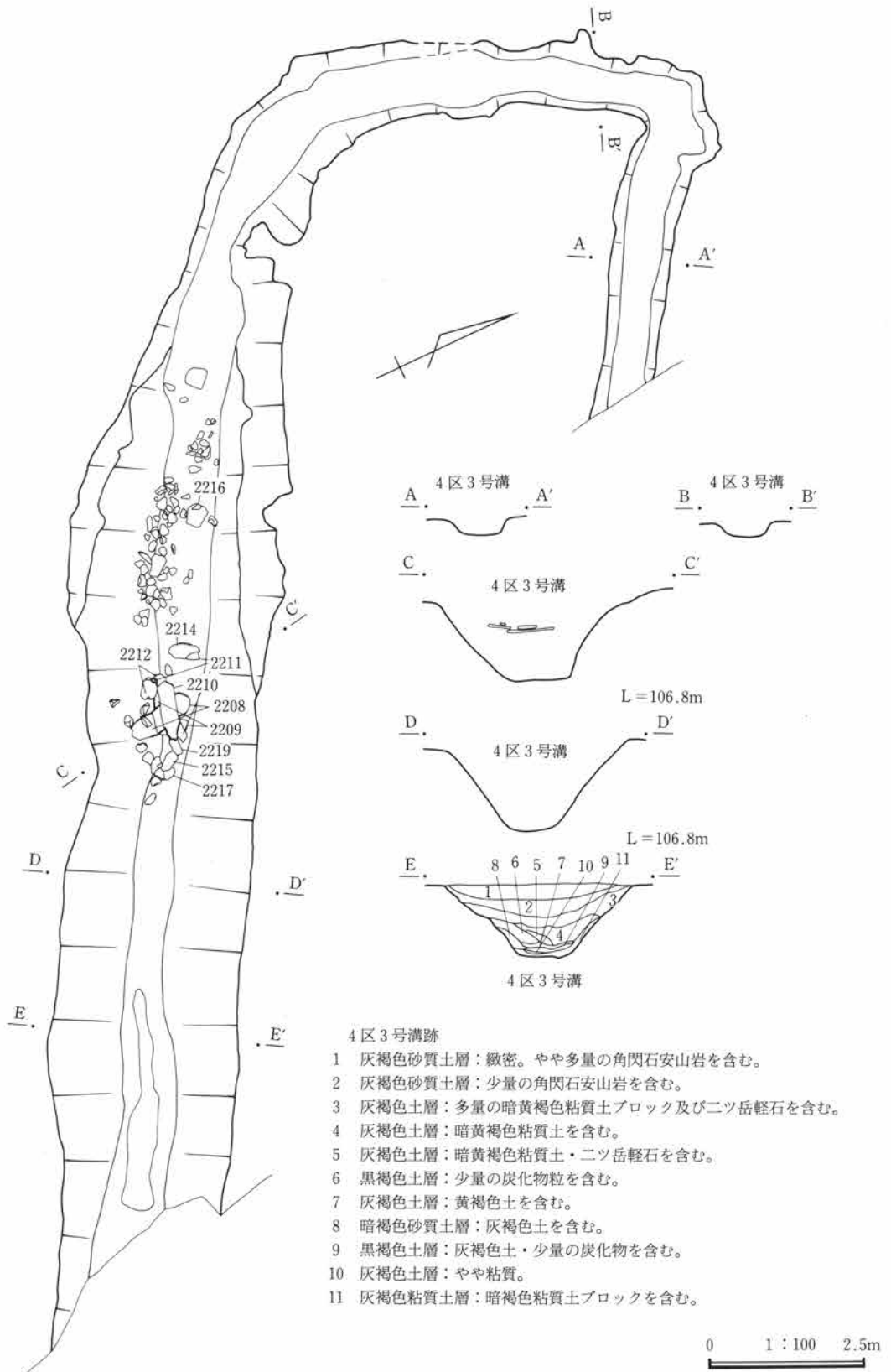
第IV章 発見された遺構と遺物

番号 区番号	位置 (グリッド)	走行と形状	断面形状と底部形状	出土遺物(遺物番号)	備考
5 6	I-4、J-4、K-4、N-4、O-4、P-4	水田検出面上部で発見。東西方向に僅かに蛇行。全長約27m。上端幅約0.3~0.6m。	断面は台形。僅かに西に傾斜。比高差は約10cm。確認面からの深さ約5cm。	鉄製品(2230・2231)。	
5 7	I-4・5、J-5、N-6、O-6、P-6・7	水田検出面上部で発見。東西方向に僅かに蛇行。全長約25m。上端幅約0.3~0.6m。	断面は台形。僅かに西に傾斜。比高差は約5cm。確認面からの深さ約10cm。	無し。	
5 8	I-5、J-5	水田検出面上部で発見。東西方向にほぼ直線的。全長約5.1m。上端幅約0.3~0.5m。	断面は「U」字形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約10cm。	無し。	
5 9	I-5、J-5・6、O-7、P-7	水田検出面上部で発見。東西方向に僅かに蛇行。全長約20m。上端幅約0.2~0.3m。J-5・6で5区11溝と交差。O-7で5区12溝と交差。	断面は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約5cm。	土師器・須恵器の小破片。	
5 10	I-5	水田検出面上部で発見。東西方向にほぼ直線的。全長約2m。上端幅約0.2~0.3m。	断面は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約3cm。	無し。	
5 11	I-5・6、J-5・6	水田検出面上部で発見。東西方向にほぼ直線的。全長約3m。上端幅約0.3~0.4m。底面に凹凸がある。	断面は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約3cm。	土師器・須恵器の小破片。	
5 12	I-6、J-6、O-7、P-7	水田検出面上部で発見。東西方向にやや蛇行。全長約24m。上端幅約0.5~0.8m。O-7で5区9溝と交差。	断面は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約10cm。	無し。	
5 13	I-6、J-6、O-7、P-7・8	水田検出面上部で発見。東西方向に僅かに蛇行。全長約24m。上端幅約0.3~0.4m。I-6で5区5溝と交差。	断面は台形。比高差は殆ど無し。確認面からの深さ約5cm。	無し。	



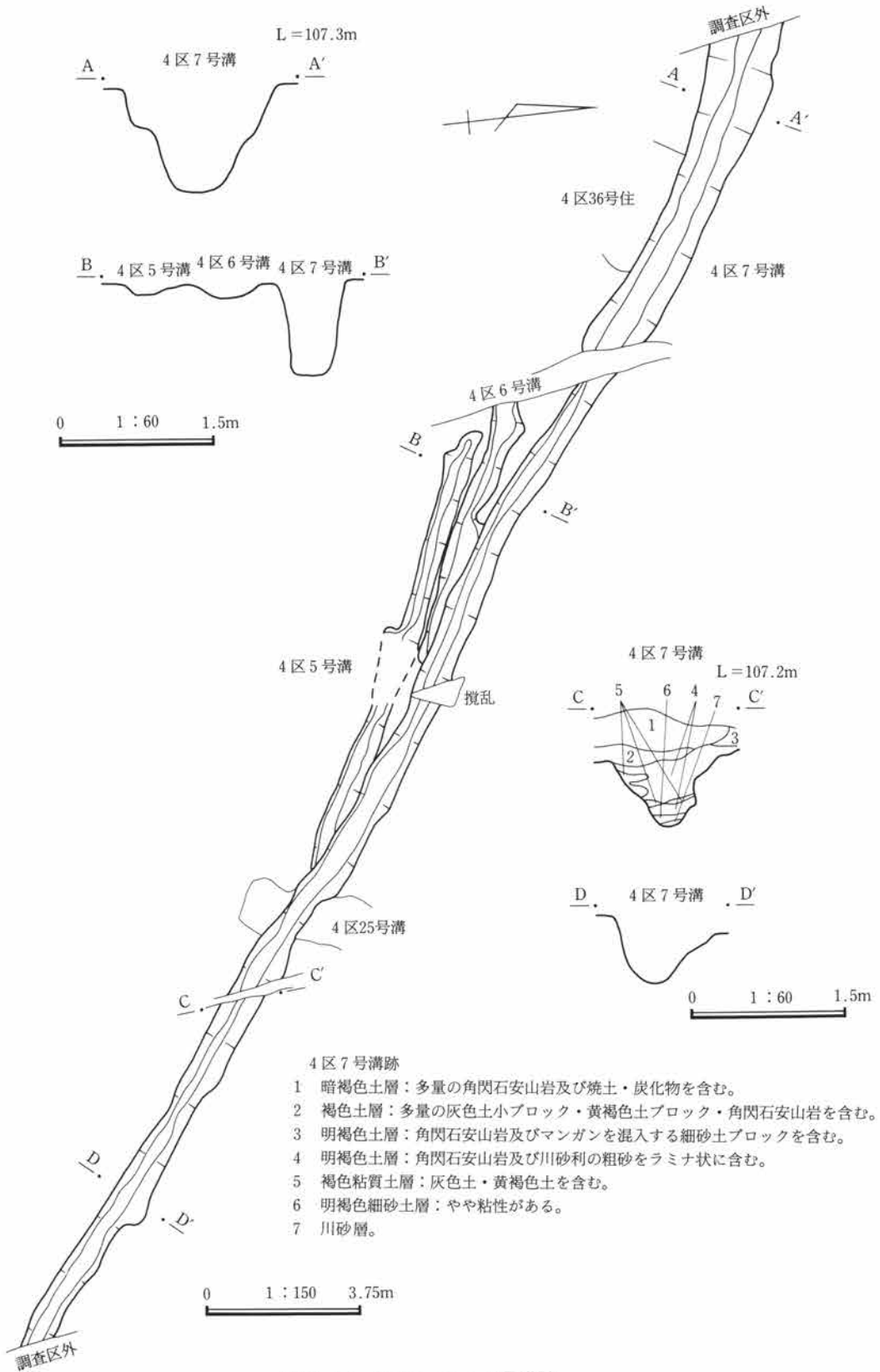


第636图 4区1・2・4号溝跡



第637図 4区3号溝跡

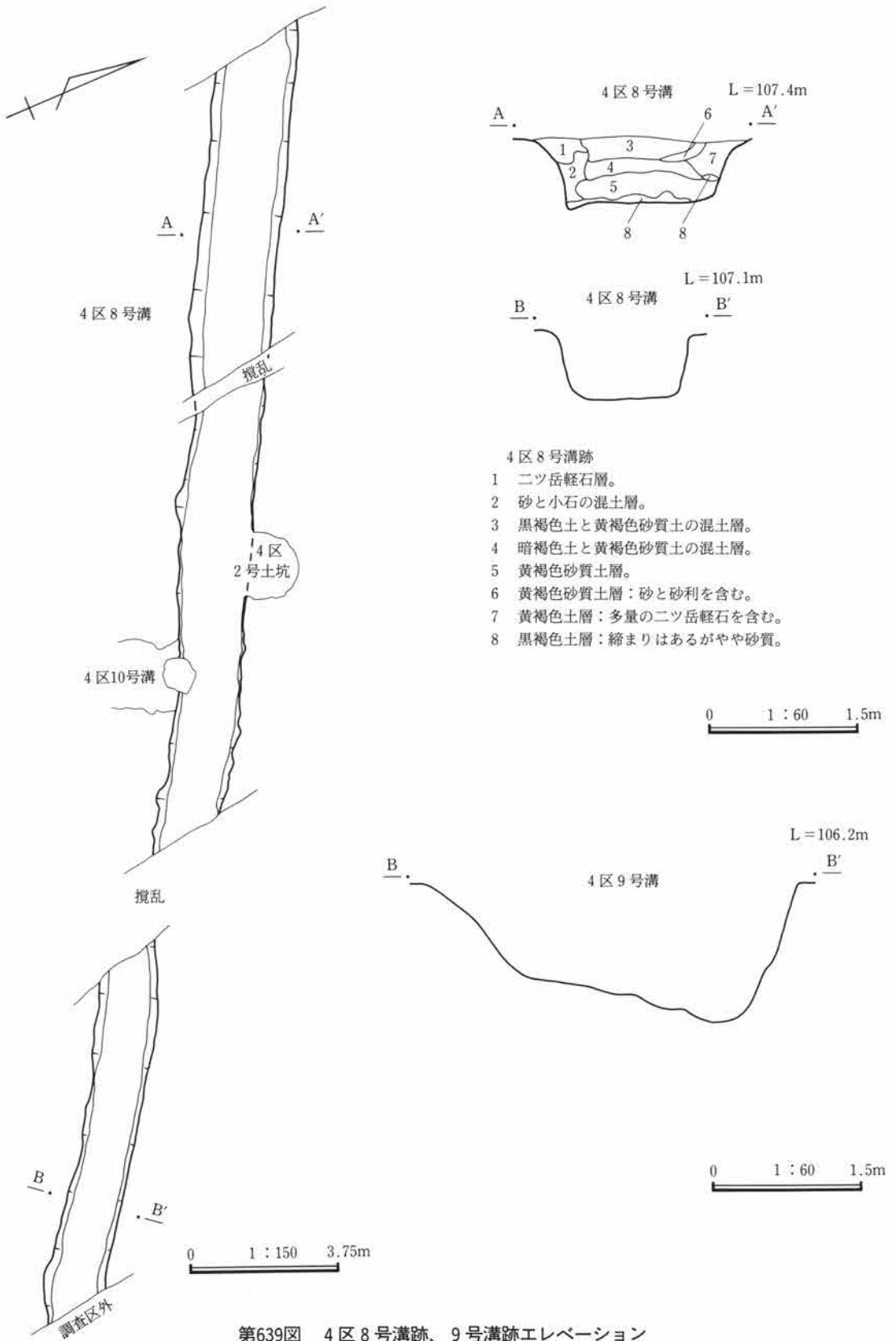




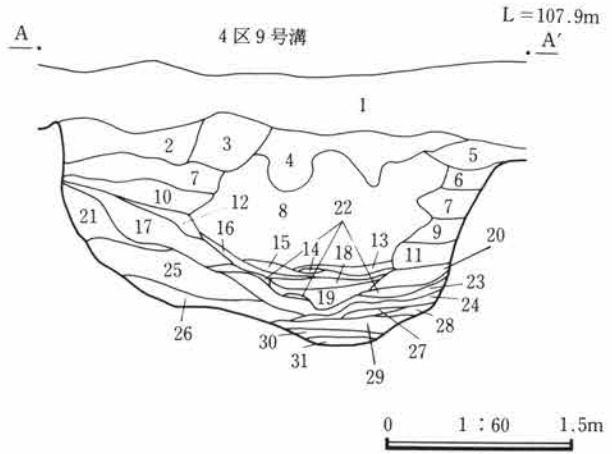
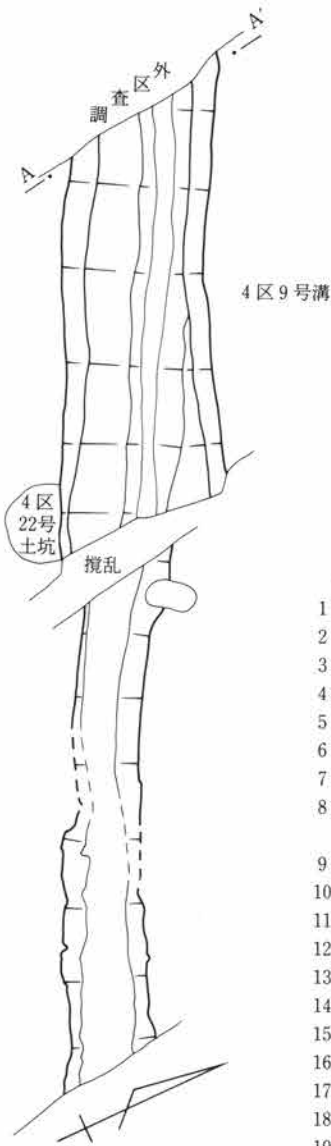
4区7号溝跡

- 1 暗褐色土層：多量の角閃石安山岩及び焼土・炭化物を含む。
- 2 褐色土層：多量の灰色土小ブロック・黄褐色土ブロック・角閃石安山岩を含む。
- 3 明褐色土層：角閃石安山岩及びマンガンを混入する細砂土ブロックを含む。
- 4 明褐色土層：角閃石安山岩及び川砂利の粗砂をラミナ状に含む。
- 5 褐色粘質土層：灰色土・黄褐色土を含む。
- 6 明褐色細砂土層：やや粘性がある。
- 7 川砂層。

第638図 4区5・6・7号溝跡

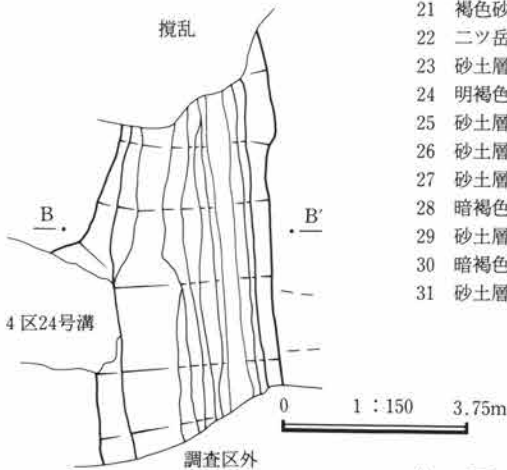


第639図 4区8号溝跡、9号溝跡エレベーション

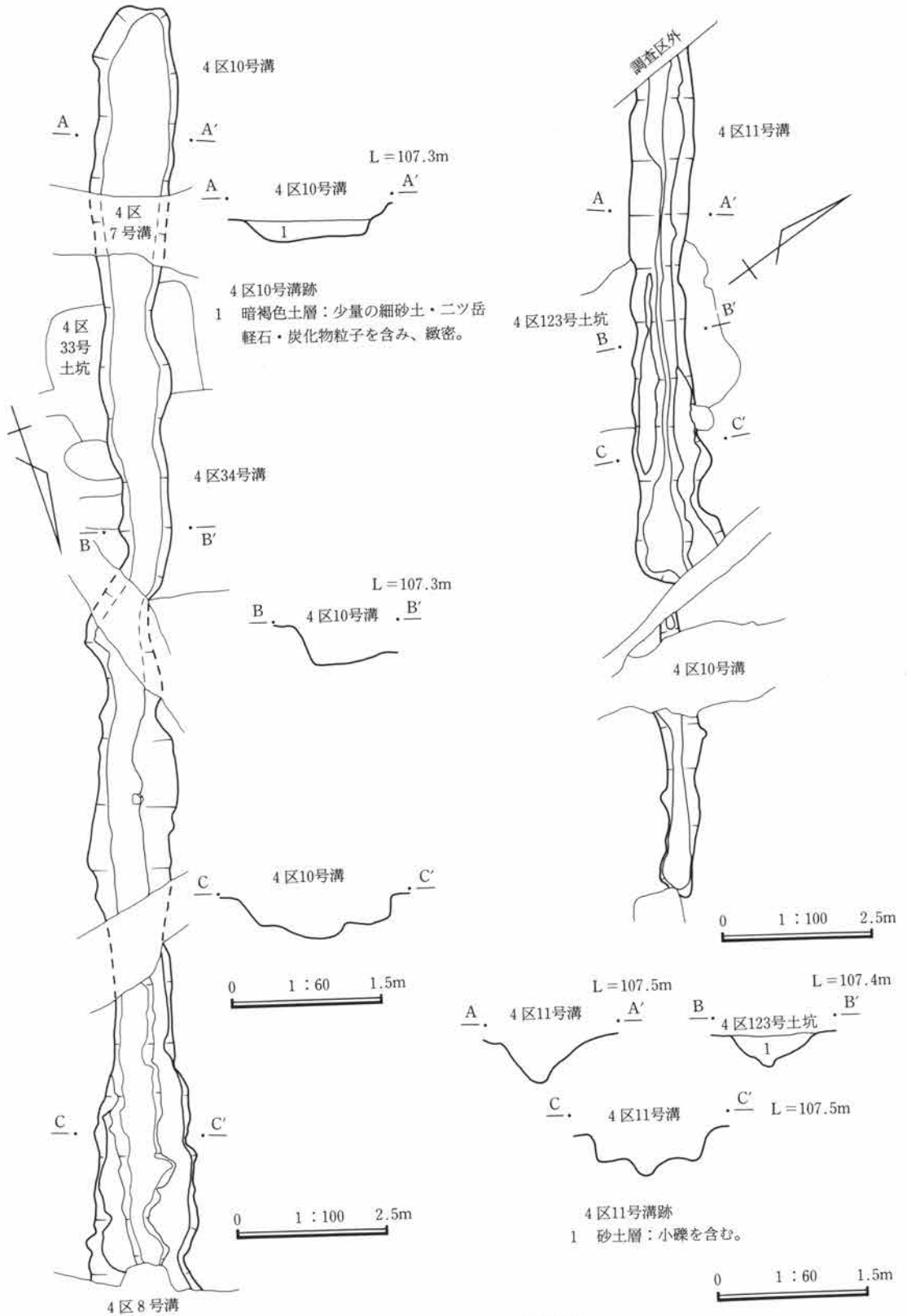


4区9号溝跡

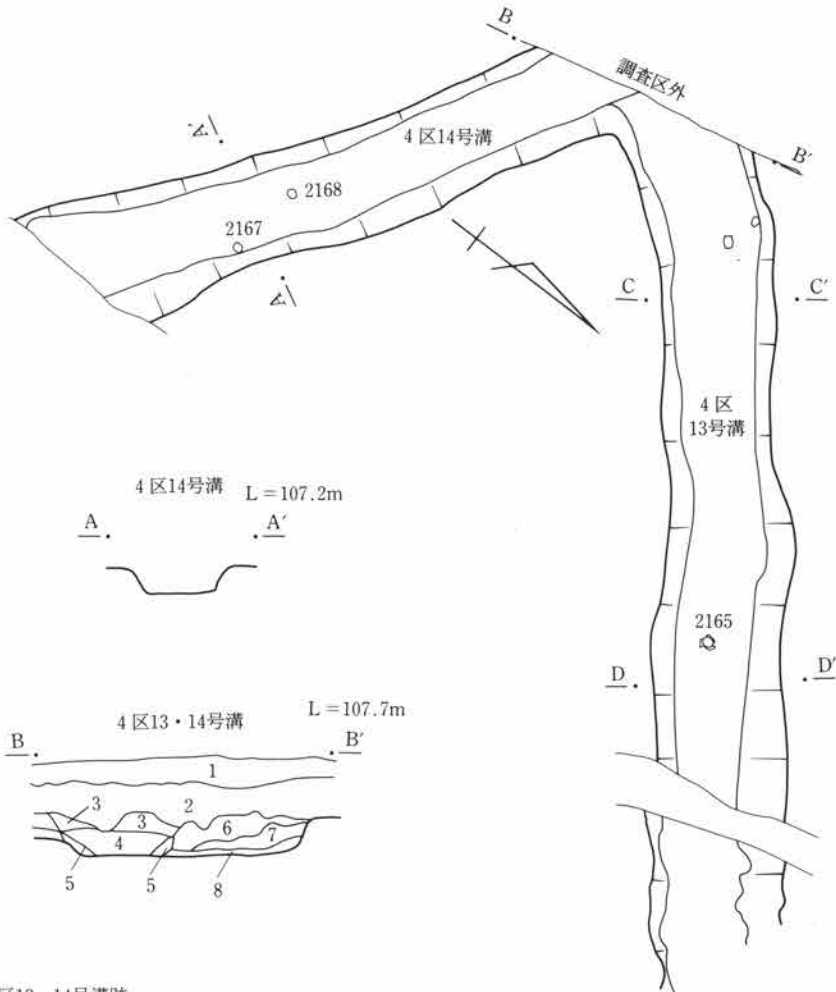
- 1 暗褐色砂質土層：多量の小礫を含み、上半部は最近の耕作土。
- 2 褐色砂壤土層：小礫及び多量の暗褐色砂壤土を含む。
- 3 褐色砂壤土層：小礫を含む。
- 4 砂礫土層：暗褐色砂壤土を含む。
- 5 明褐色砂壤土層：緻密。暗褐色土を含む。
- 6 灰白色砂壤土層：暗褐色土を含む。
- 7 褐色壤土層：二ツ岳軽石を含む。
- 8 砂礫土層：中央部に拳大の礫を多く含み、周辺部は礫の多量層。荒い砂と細砂をラミナ状に含む。
- 9 明褐色砂壤土層：褐色土を含む。
- 10 明褐色砂壤土層：褐色埴壤土及び二ツ岳軽石を含む。
- 11 明褐色埴壤土層：酸化鉄沈着の斑紋が見られる。
- 12 明褐色砂壤土層：酸化鉄沈着の斑紋が見られる。
- 13 褐色砂壤土層：細砂を含む。
- 14 砂土層。
- 15 褐色壤土層：シルト質。
- 16 明褐色砂壤土層：褐色土を含む。
- 17 明褐色砂壤土層：二ツ岳軽石ブロックを含む。
- 18 砂土層：やや粗い砂。
- 19 褐色壤土層：砂質土を部分的に多く含む。
- 20 砂土層：細かい。
- 21 褐色砂壤土層：酸化鉄沈着の斑紋が見られる。
- 22 二ツ岳火山灰層。
- 23 砂土層：比較的細かい。
- 24 明褐色埴土層：褐色土を含む。
- 25 砂土層：細かい。
- 26 砂土層：やや細かい。
- 27 砂土層：粗い。
- 28 暗褐色埴土層：緻密。褐色土を含む。
- 29 砂土層：やや粗い。
- 30 暗褐色埴壤土層：緻密。褐色土を含む。
- 31 砂土層：やや細かい。



第640図 4区9号溝跡



第641図 4区10・11号溝跡



4区14号溝 L=107.2m  
A. A'

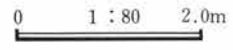
4区13・14号溝 L=107.7m  
B. B'

1  
2  
3  
3  
4  
5  
5  
6  
7  
8

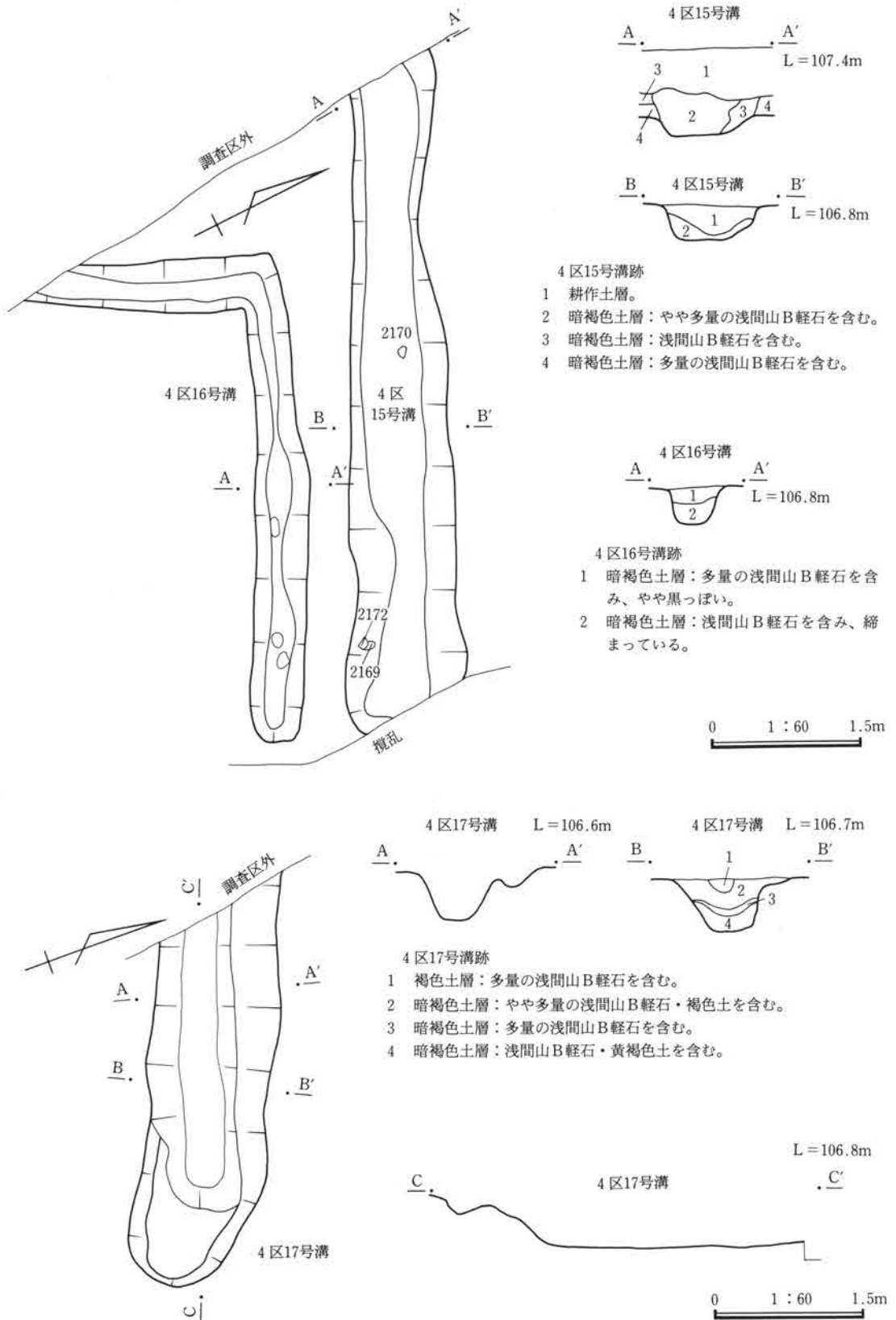
- 4区13・14号溝跡
- 1 耕作土層。
  - 2 褐色砂壤土層：二ツ岳軽石及び小礫を含む。
  - 3 褐色砂壤土層：浅間山B軽石を多量に含む。
  - 4 褐色壤土層：浅間山B軽石及び少量の二ツ岳軽石を含む。
  - 5 二ツ岳軽石と褐色壤土の混土層。
  - 6 暗褐色壤土層：大変緻密。炭化物・軽石を含む。
  - 7 暗褐色壤土層：多量の炭化物を含む。
  - 8 明褐色シルト質壤土層：暗褐色土・炭化物を含む。

4区13号溝 L=107.2m  
C. C'

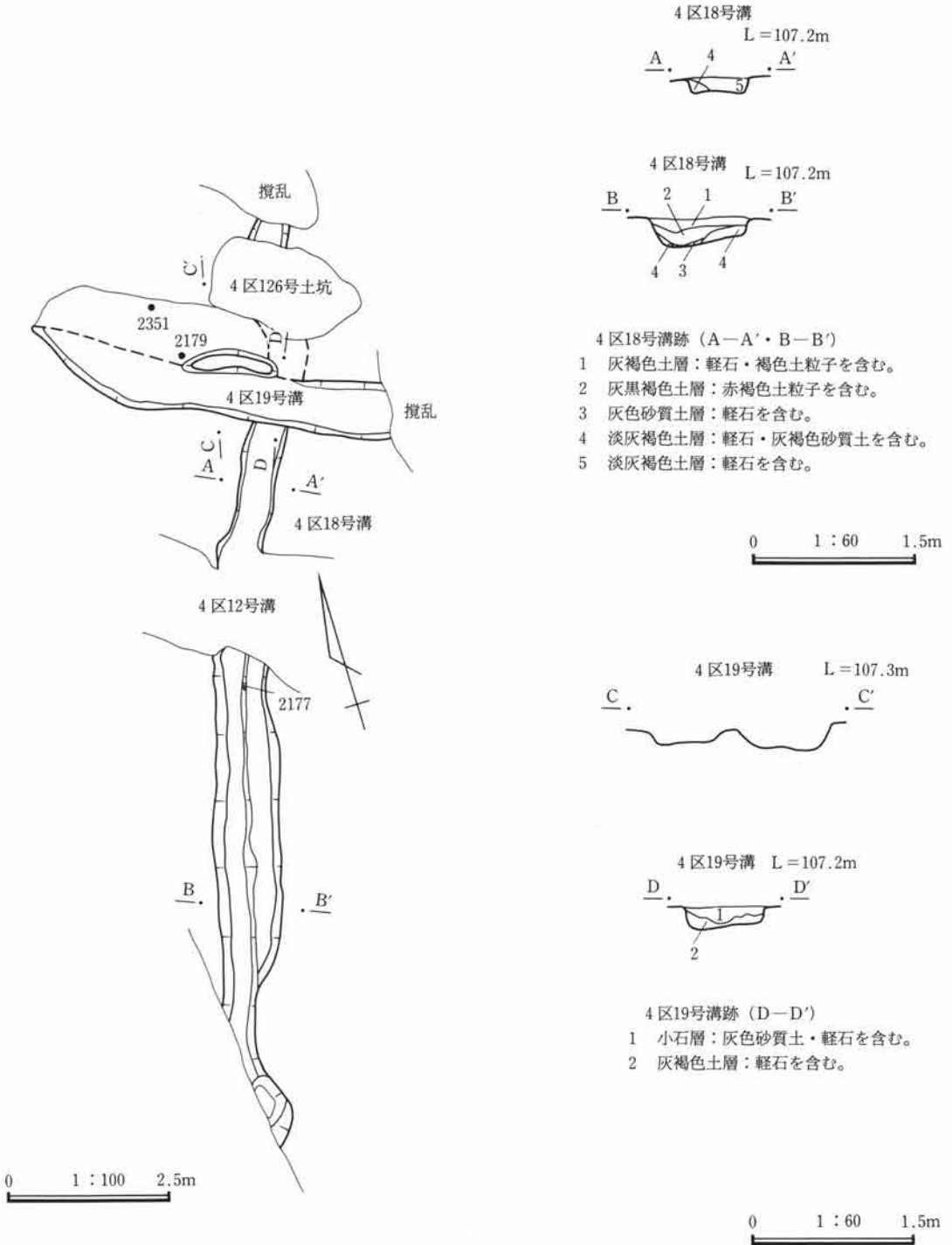
4区13号溝 L=107.2m  
D. D'



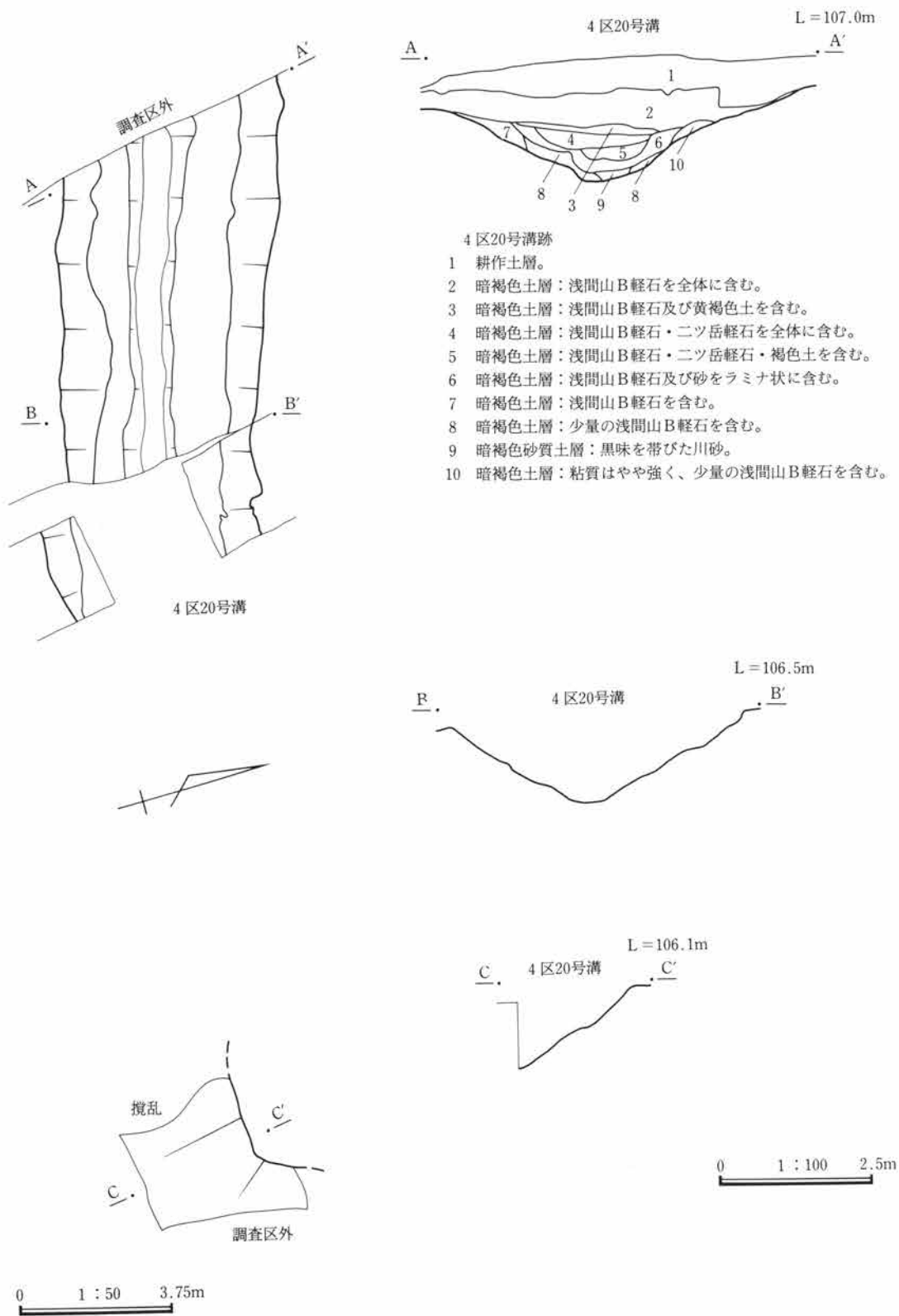
第642図 4区13・14号溝跡



第643図 4区15・16・17号溝跡

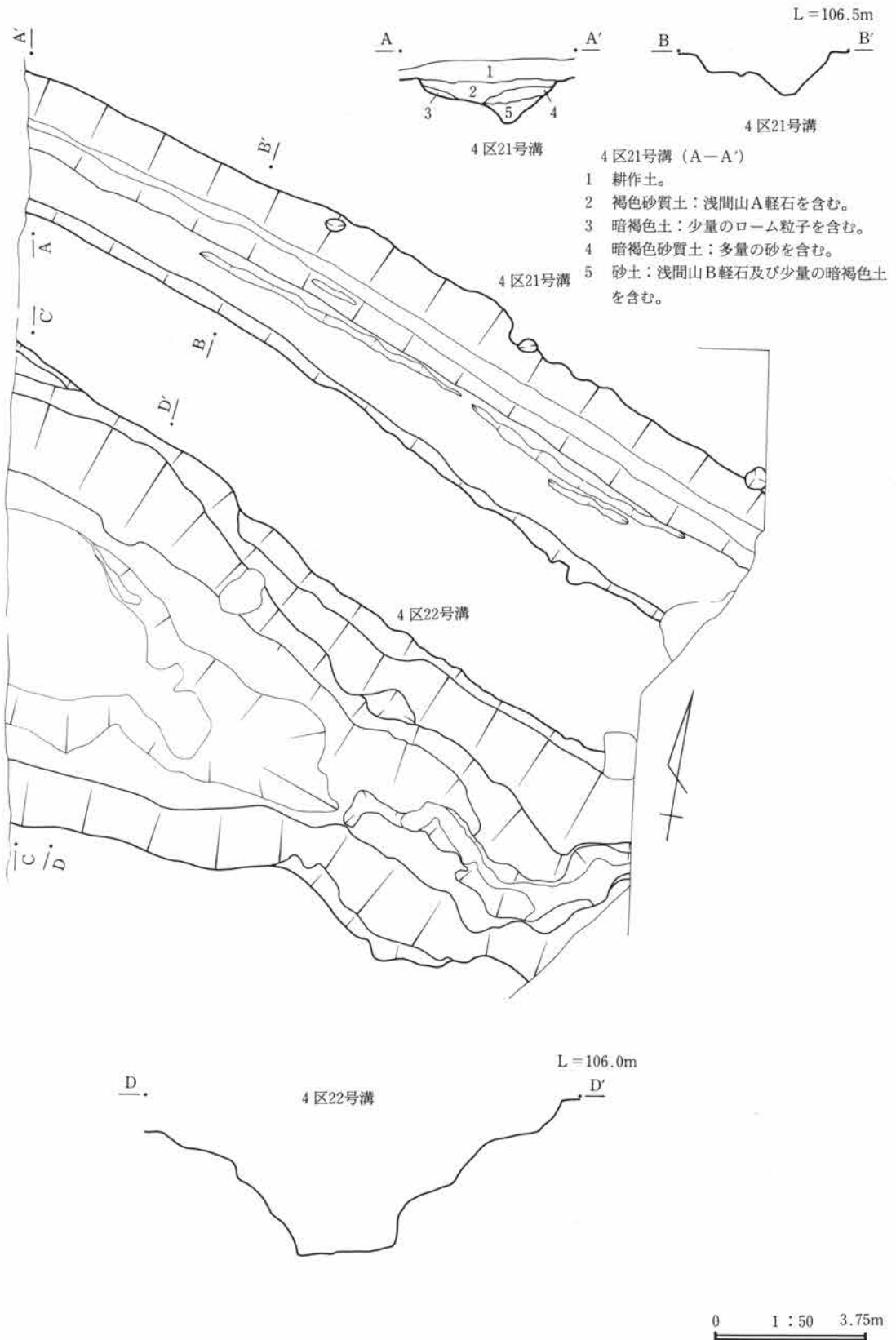


第644図 4区18・19号溝跡

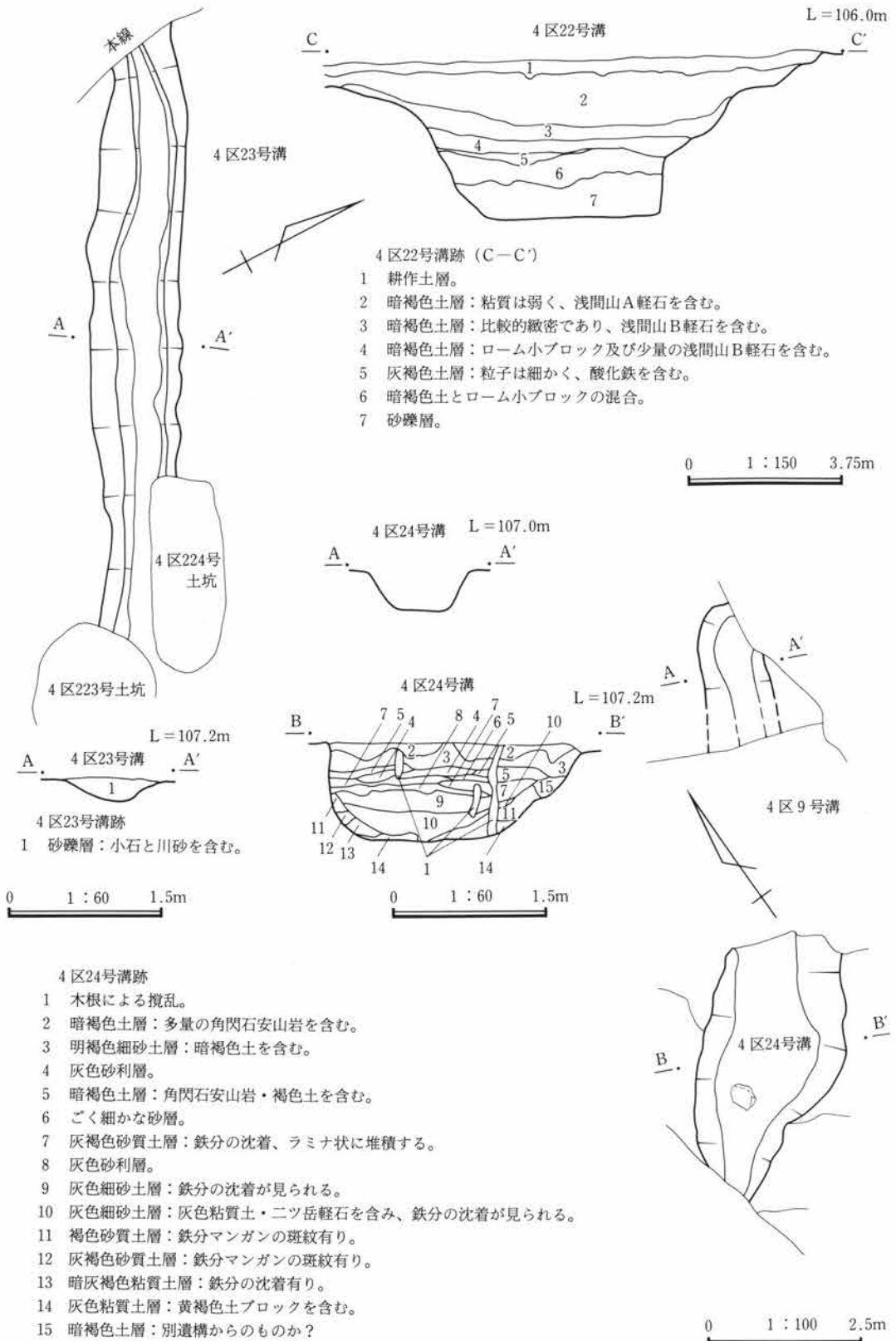


第645図 4区20号溝跡

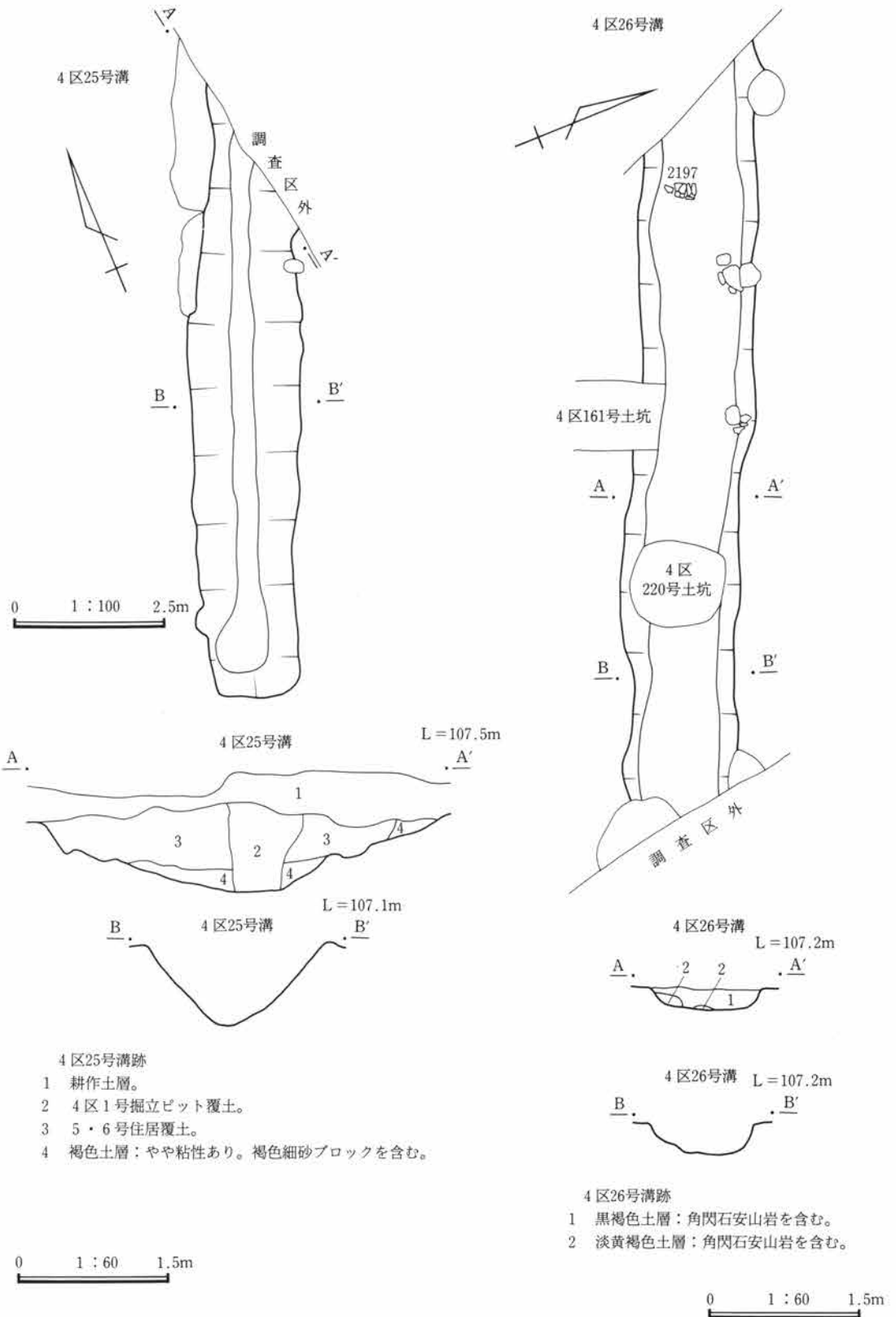




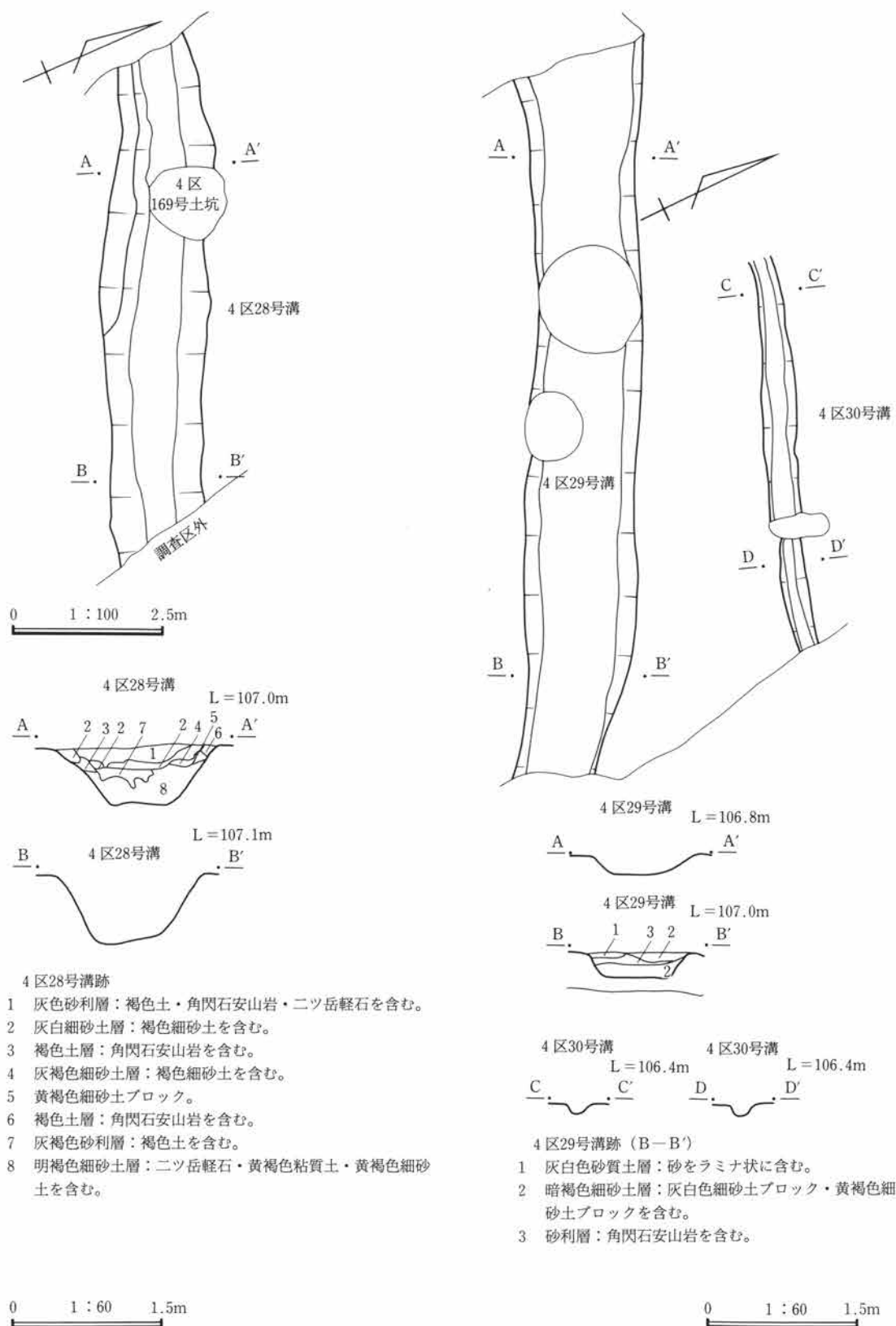
第646図 4区21・22号溝跡



第647図 4区22号溝跡断面、23・24号溝跡



第648図 4区25・26号溝跡



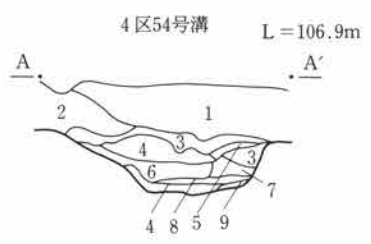
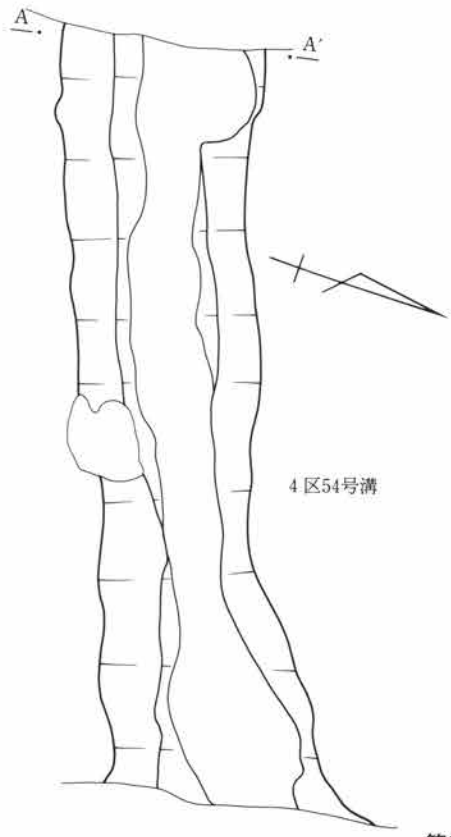
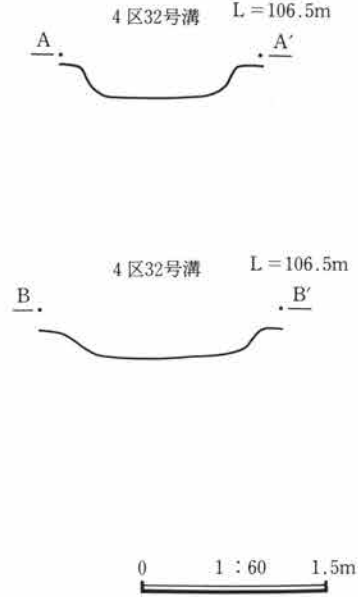
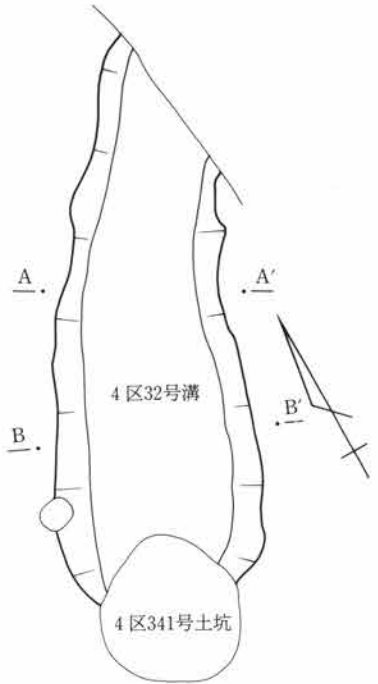
4区28号溝跡

- 1 灰色砂利層：褐色土・角閃石安山岩・二ツ岳軽石を含む。
- 2 灰白細砂土層：褐色細砂土を含む。
- 3 褐色土層：角閃石安山岩を含む。
- 4 灰褐色細砂土層：褐色細砂土を含む。
- 5 黄褐色細砂土ブロック。
- 6 褐色土層：角閃石安山岩を含む。
- 7 灰褐色砂利層：褐色土を含む。
- 8 明褐色細砂土層：二ツ岳軽石・黄褐色粘質土・黄褐色細砂土を含む。

4区29号溝跡 (B-B')

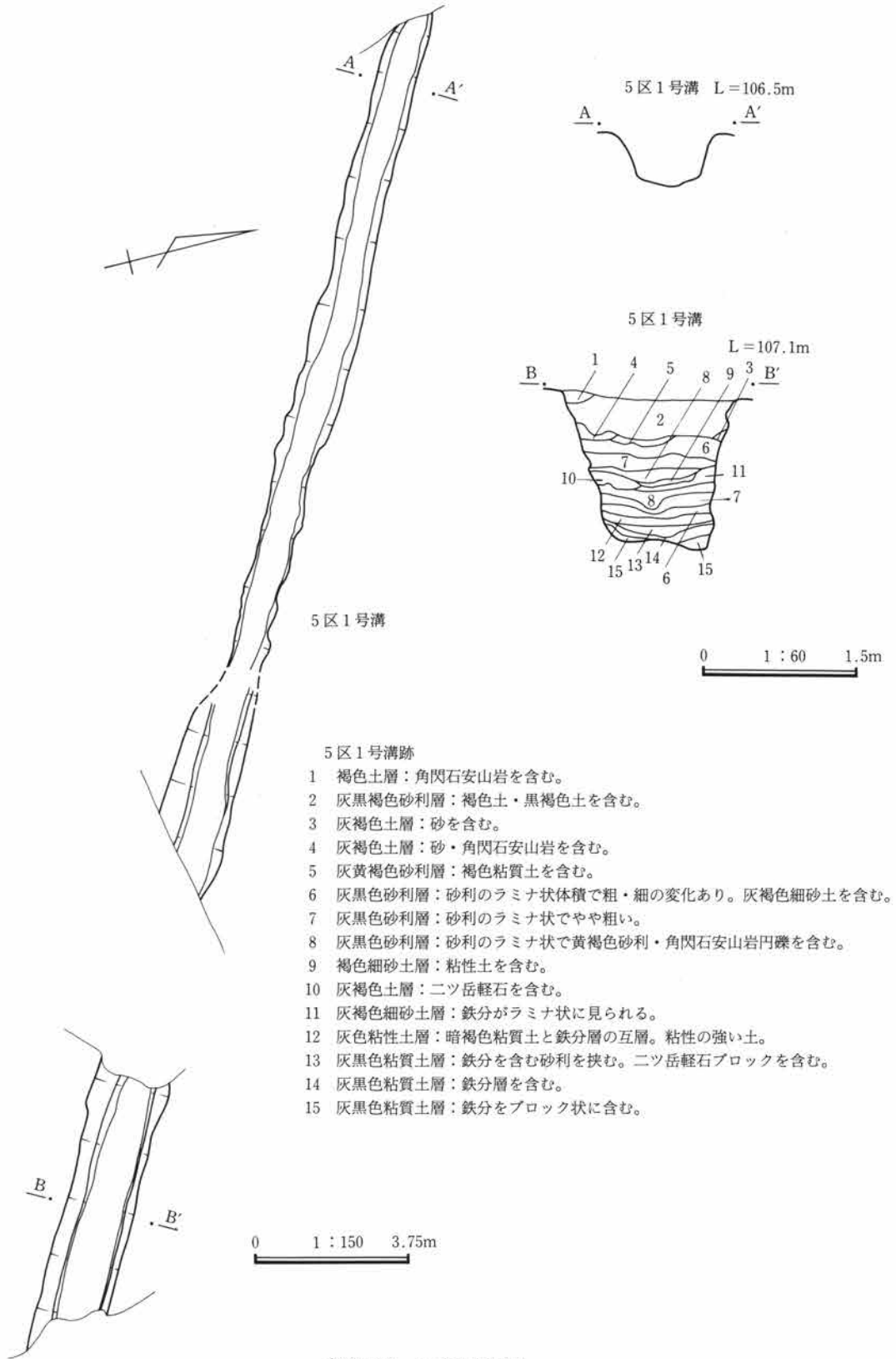
- 1 灰白色砂質土層：砂をラミナ状に含む。
- 2 暗褐色細砂土層：灰白色細砂土ブロック・黄褐色細砂土ブロックを含む。
- 3 砂利層：角閃石安山岩を含む。

第649図 4区28・29・30号溝跡

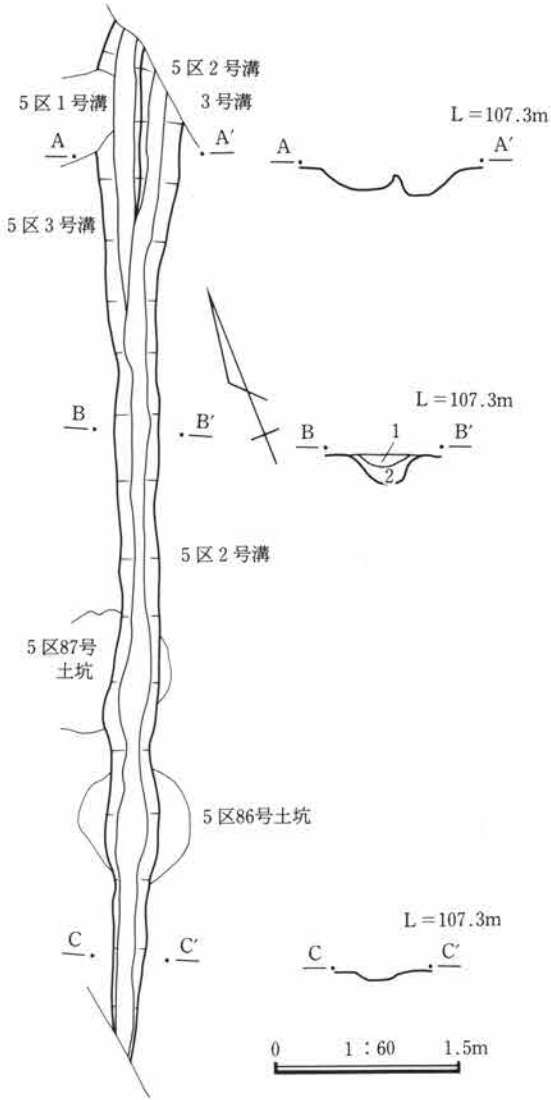


- 4区54号溝跡
- 1 灰黒色土層：浅間山B軽石と褐色土を含む。
  - 2 4区69号住居覆土。
  - 3 褐色細砂土層：灰色砂質土・褐色土を含む。
  - 4 灰褐色砂土層：灰色細砂土及び鉄分をラミナ状に含む。
  - 5 灰黒色土層と褐色細砂土層の混土層。
  - 6 粗砂層：灰色土ブロックを含む。
  - 7 粗砂層：マンガンの沈着が見られ、褐色土ブロックを含む。
  - 8 灰色細砂土層：褐色土を含む。
  - 9 灰色粘質土層：浅間山C軽石と褐色土を含む。

第650図 4区32・54号溝跡



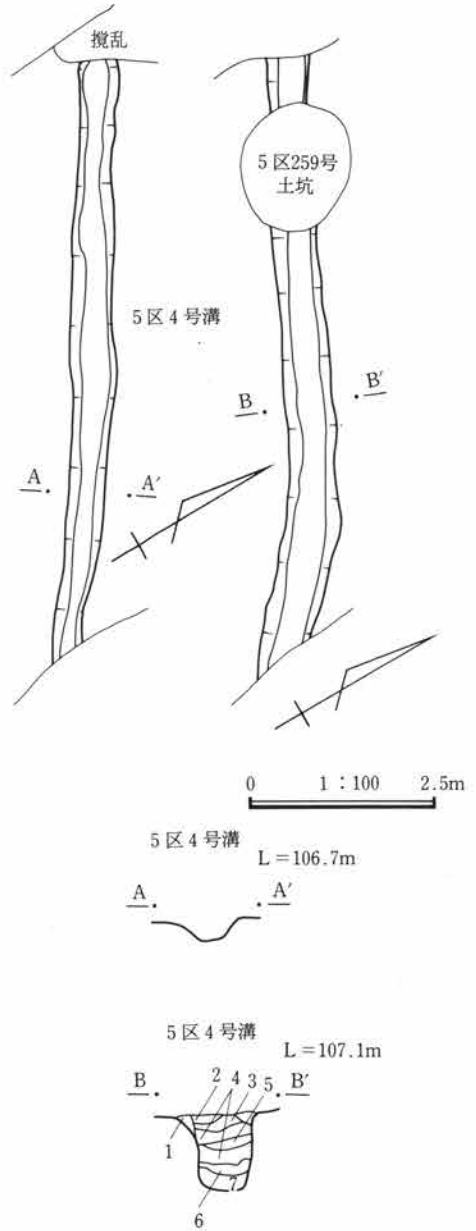
第651図 5区1号溝跡



0 1 : 100 2.5m

5区2号溝跡

- 1 暗褐色土層：多量の浅間山B軽石及び少量のニツ岳火山灰小ブロックを含む。
- 2 暗褐色土層：多量の浅間山B軽石・ニツ岳火山灰ブロックを含む。

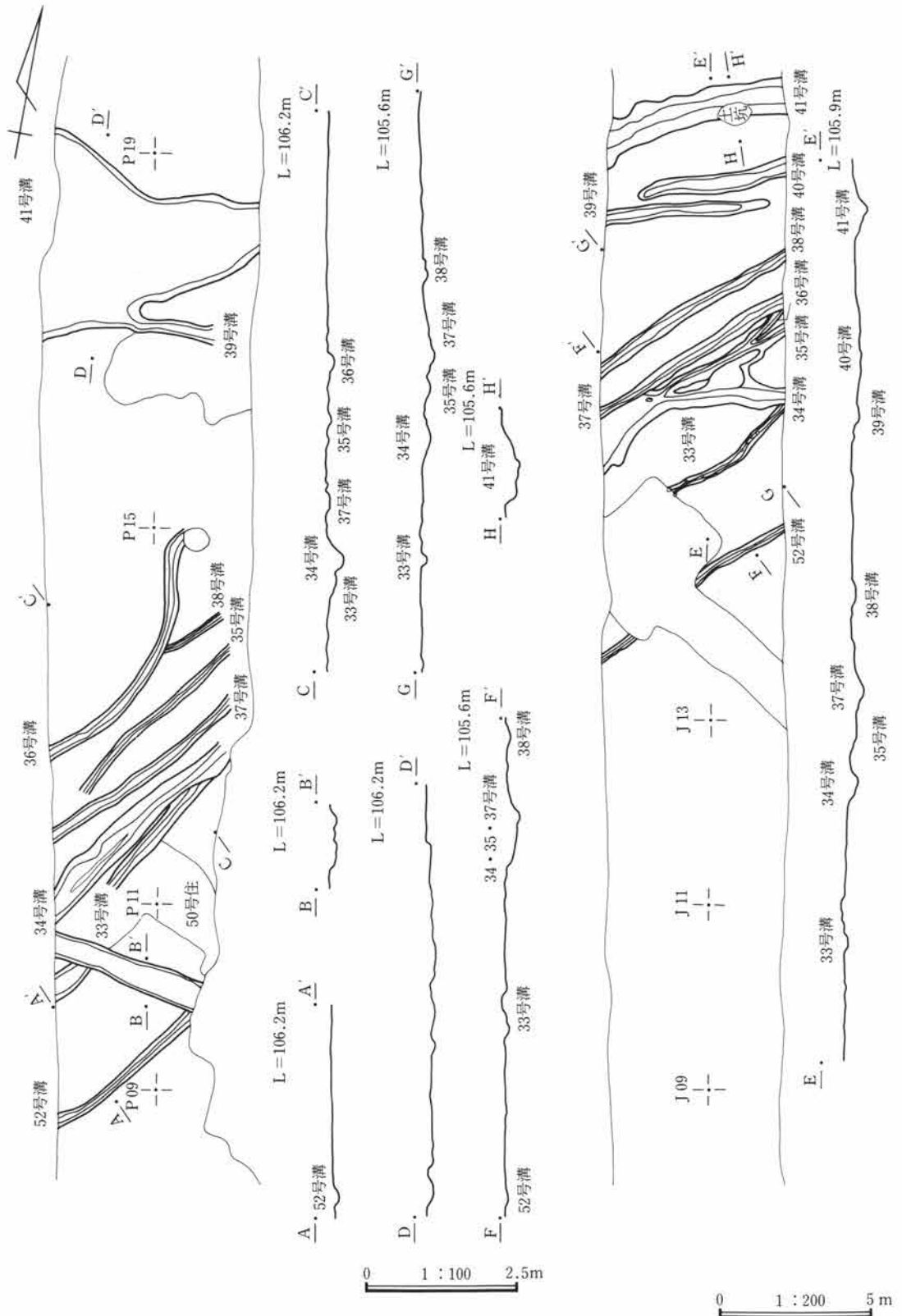


0 1 : 60 1.5m

5区4号溝跡

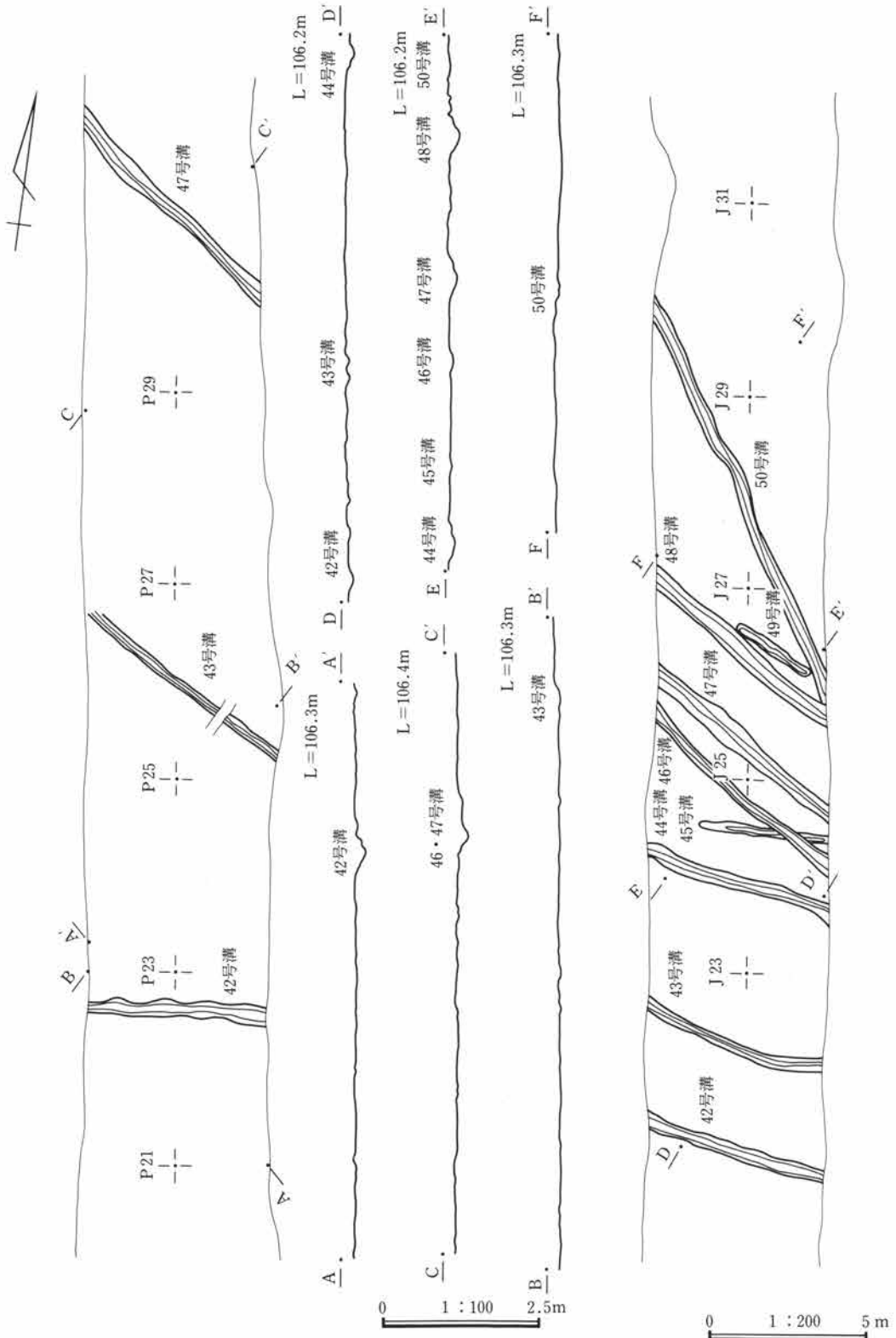
- 1 褐色土層：角閃石安山岩を含む。
- 2 褐色土層：灰褐色土を含む。
- 3 褐色土層：灰色砂土を含む。
- 4 褐色土層：灰色砂土をブロック状に含む。
- 5 灰色細砂土層：灰色砂土を含む。
- 6 灰色細砂土層：灰色砂土・黒色土マンガン粒子を含む。
- 7 褐色細砂土層：灰白色細砂土・鉄分・マンガン粒子を含む。

第652図 5区2・3・4・号溝跡

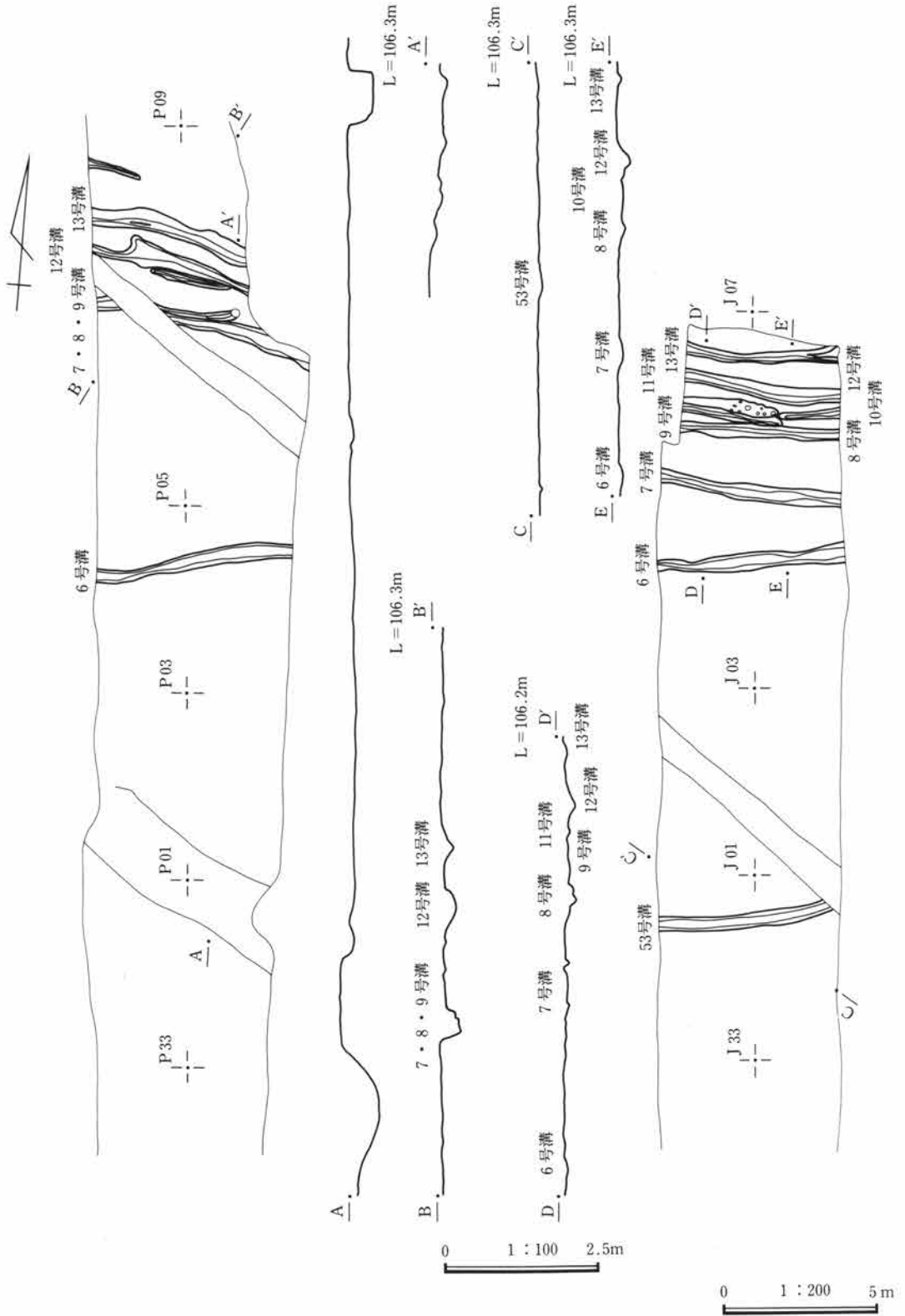


第653図 4区33・34・35・36・37・38・39・40・41・52号溝跡

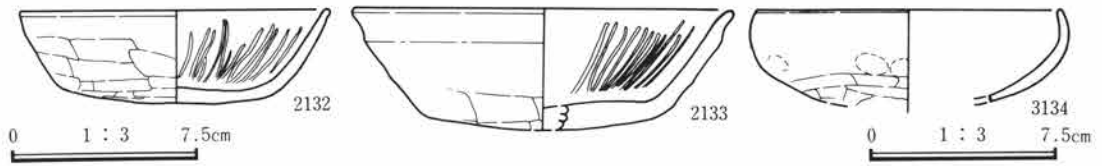




第654图 4区42·43·44·45·46·47·48·49·50号沟迹

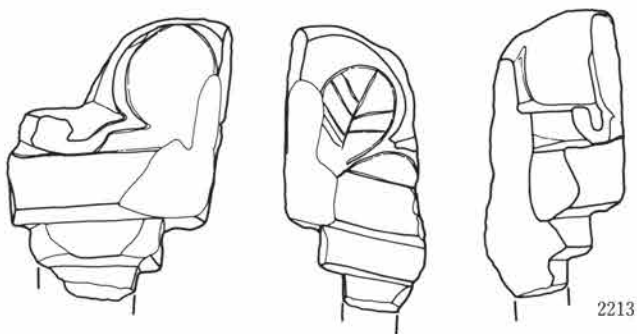
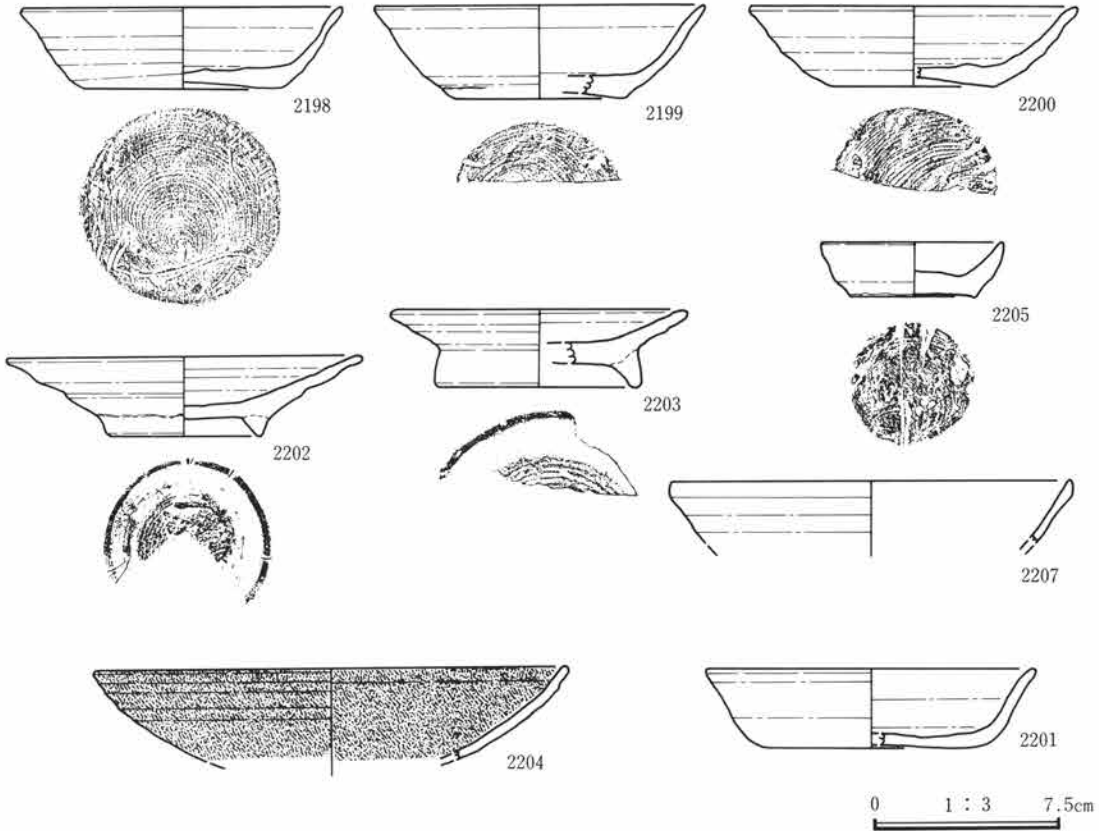


第655図 4区53号、5区6・7・8・9・10・11・12・13号溝跡



4区1号沟

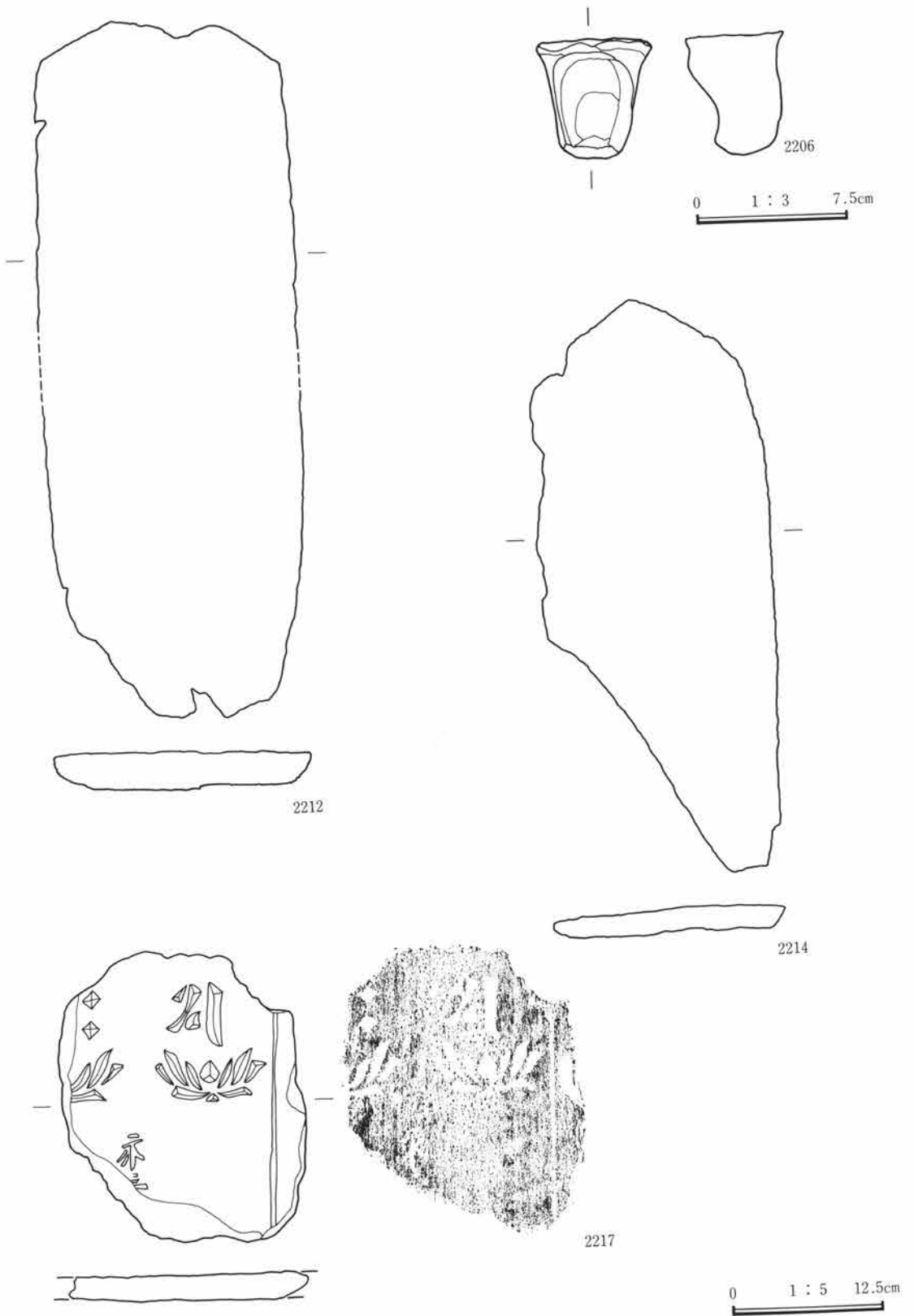
4区2号沟



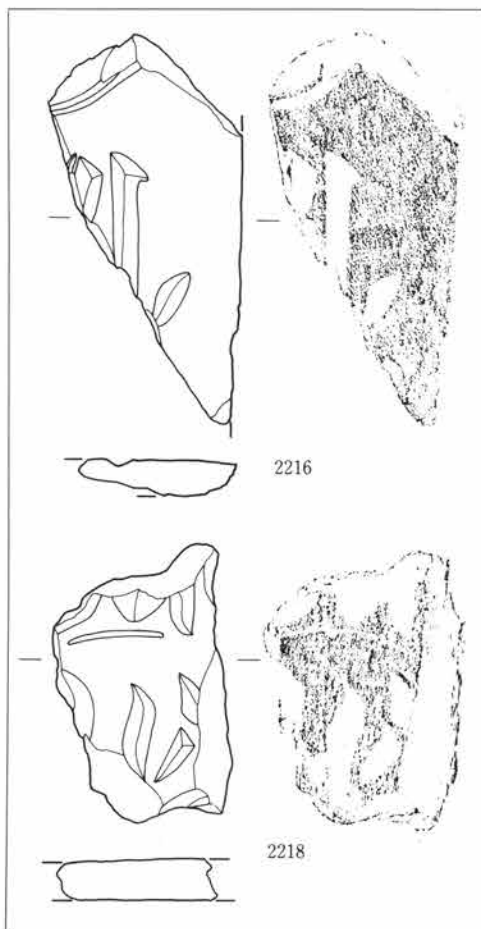
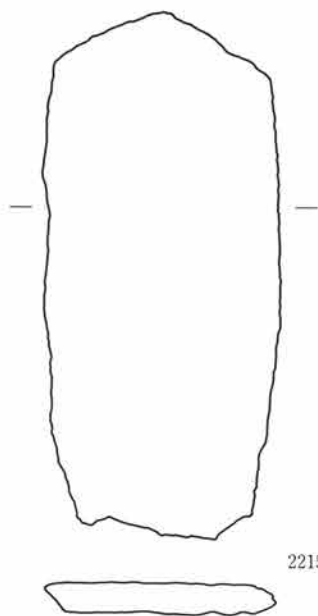
4区3号沟



第656图 4区1・2号沟迹出土遗物、3号沟迹出土遗物①



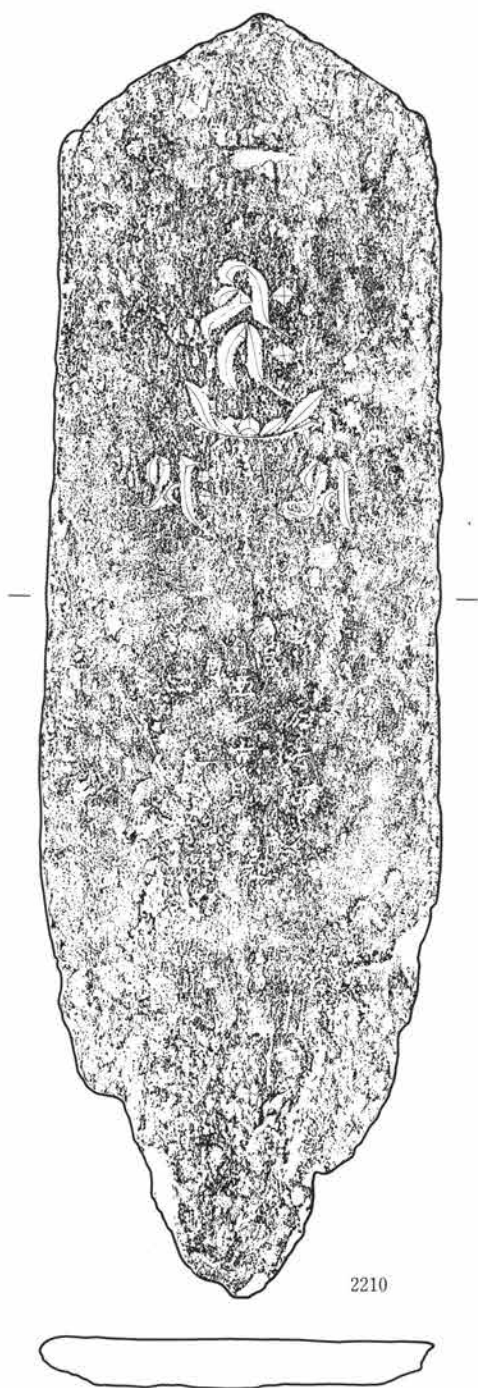
第657図 4区3号溝跡出土遺物②



0 1 : 5 12.5cm

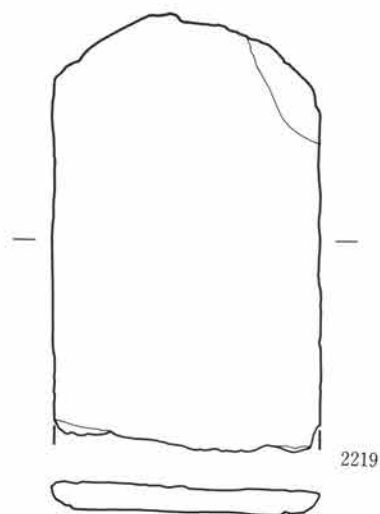
0 1 : 4 10cm

第658图 4区3号沟迹出土遗物③



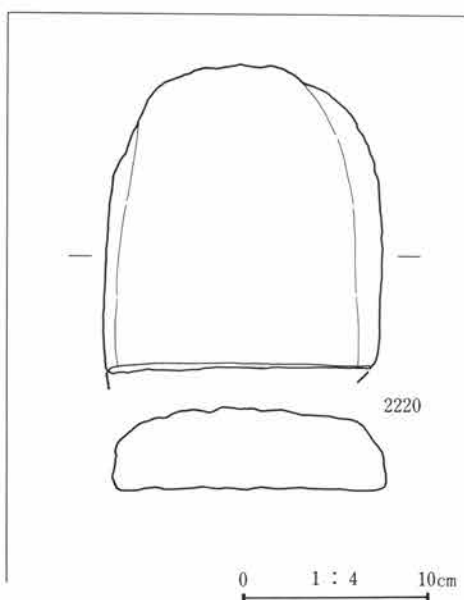
2210

0 1 : 5 12.5cm



2219

天  
自 五 十八日 尼法阿  
十二 十尅



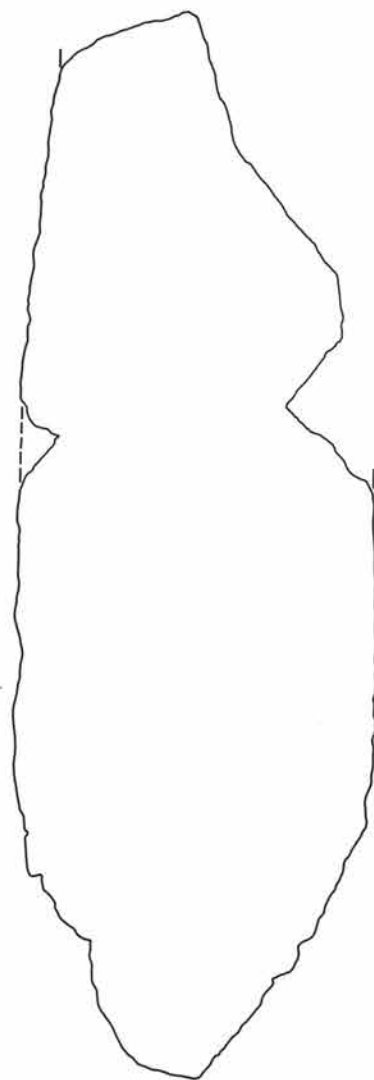
2220

0 1 : 4 10cm

第659図 4区3号溝跡出土遺物④



2208

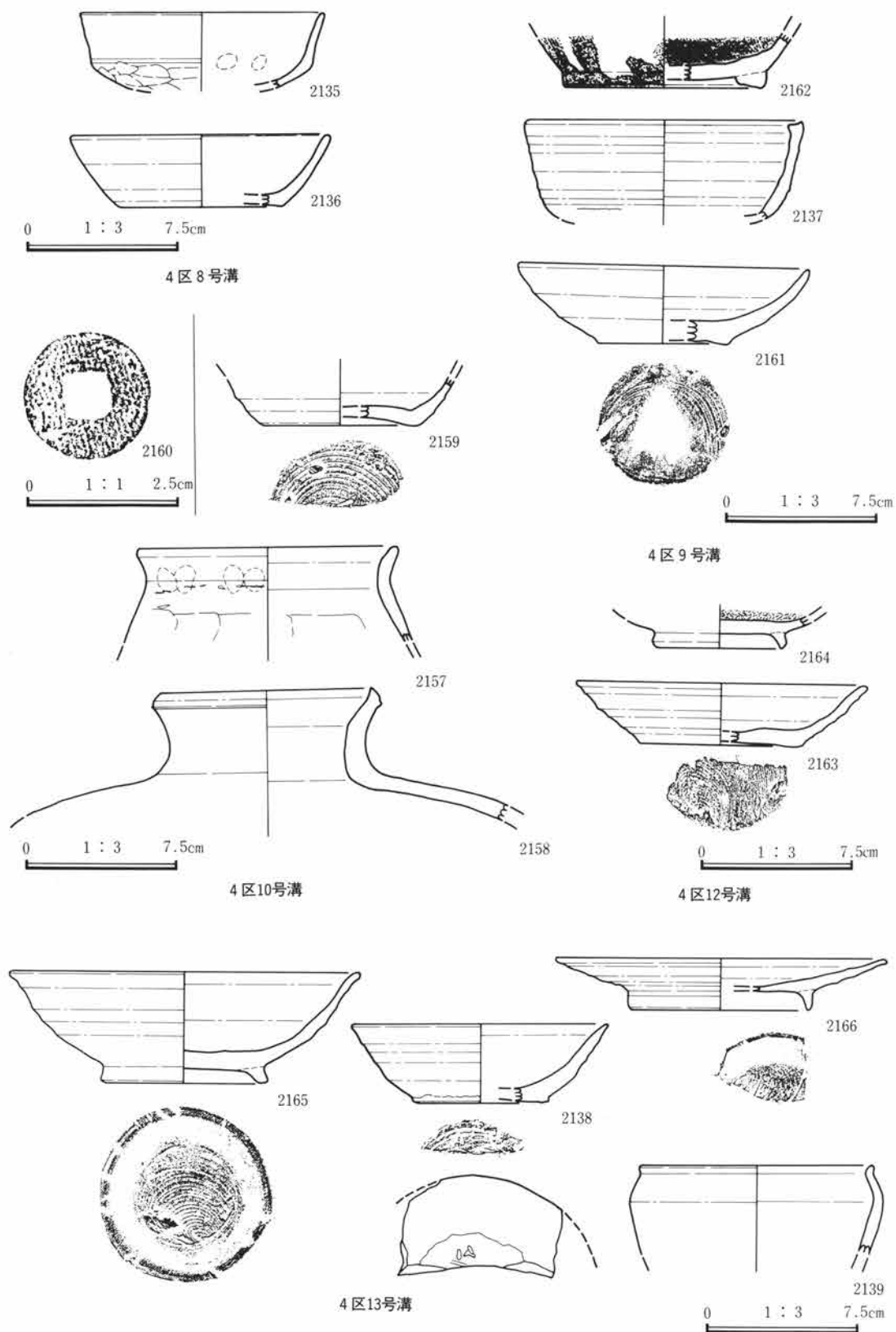


2211



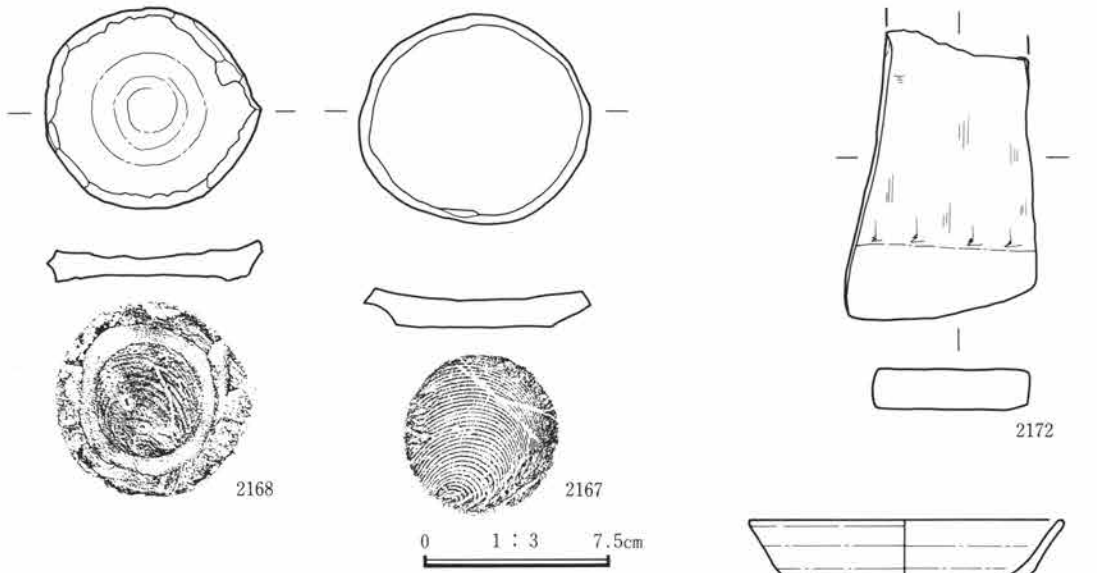
0 1 : 5 12.5cm

第660图 4区3号沟迹出土遗物⑤

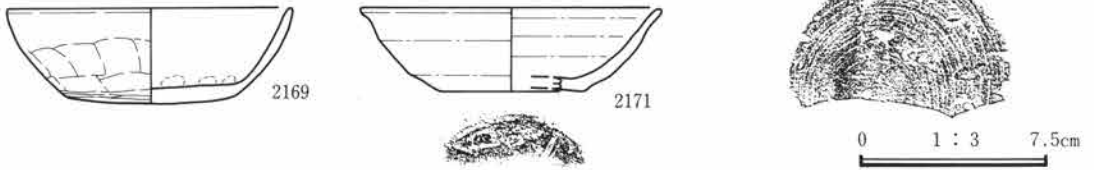


第661図 4区8・9・10・12・13号溝跡出土遺物

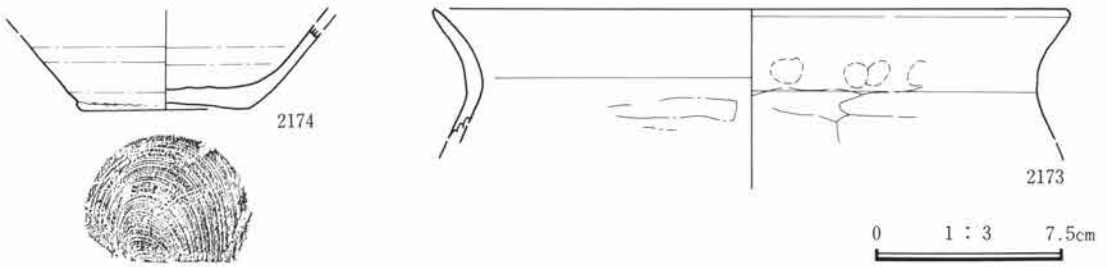




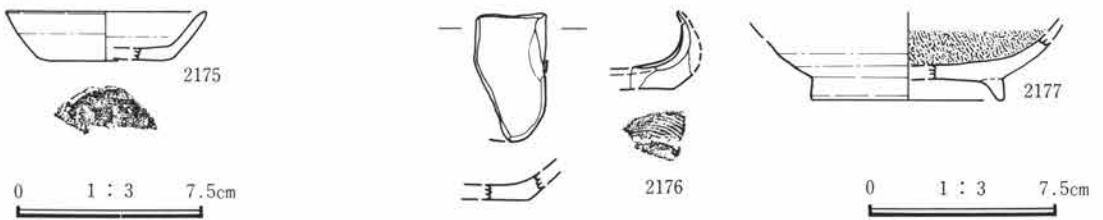
4区14号沟



4区15号沟



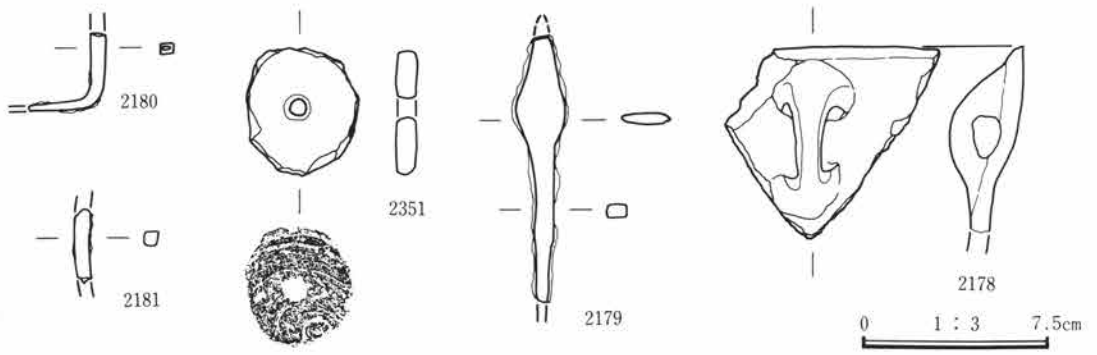
4区16号沟



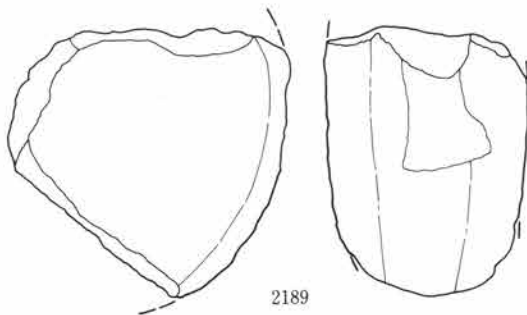
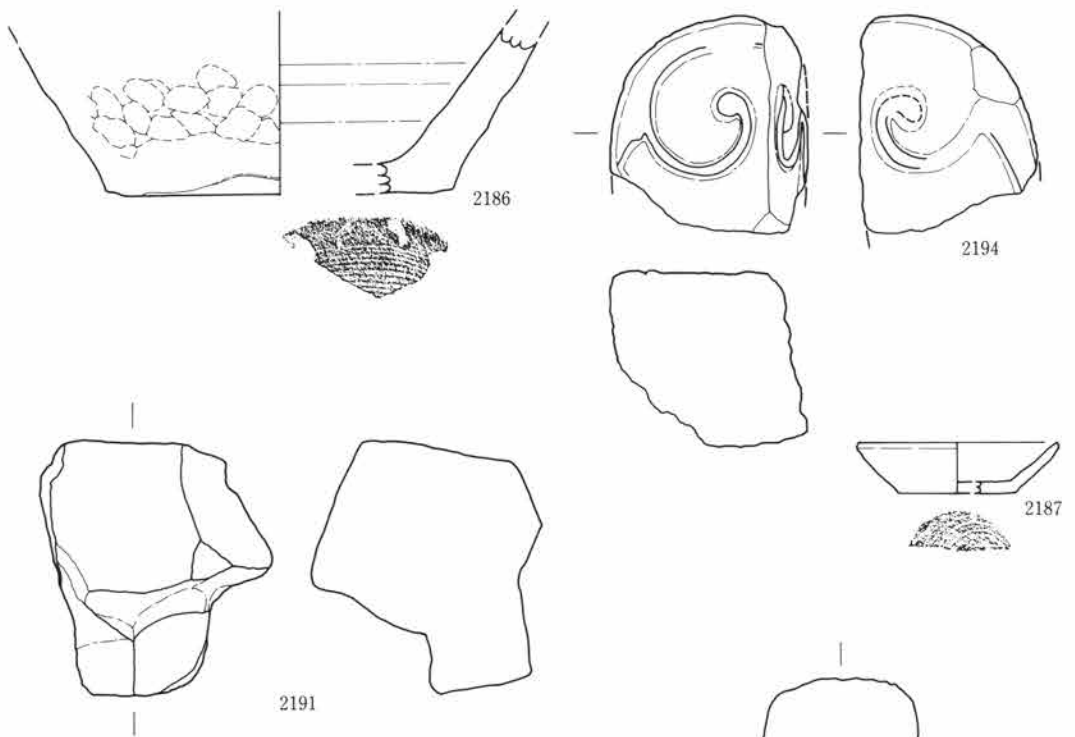
4区17号沟

4区18号沟

第662图 4区14・15・16・17・18号沟迹出土遗物

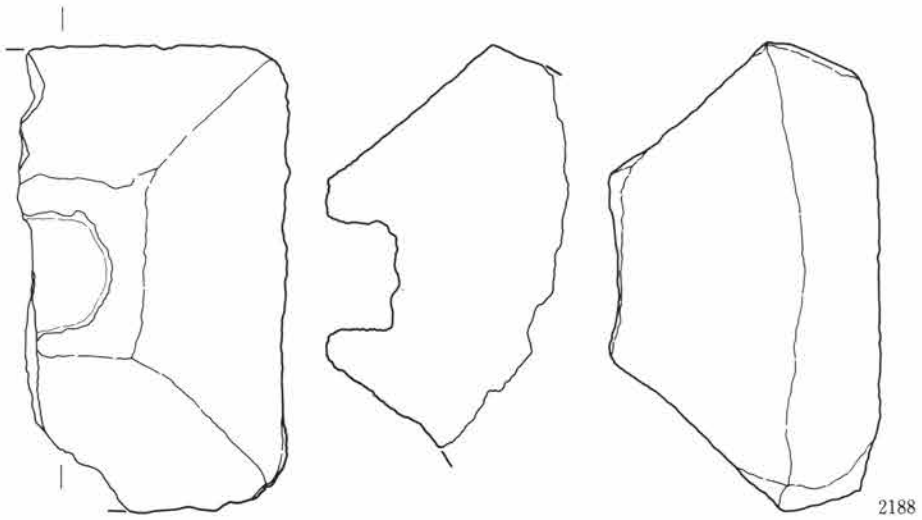
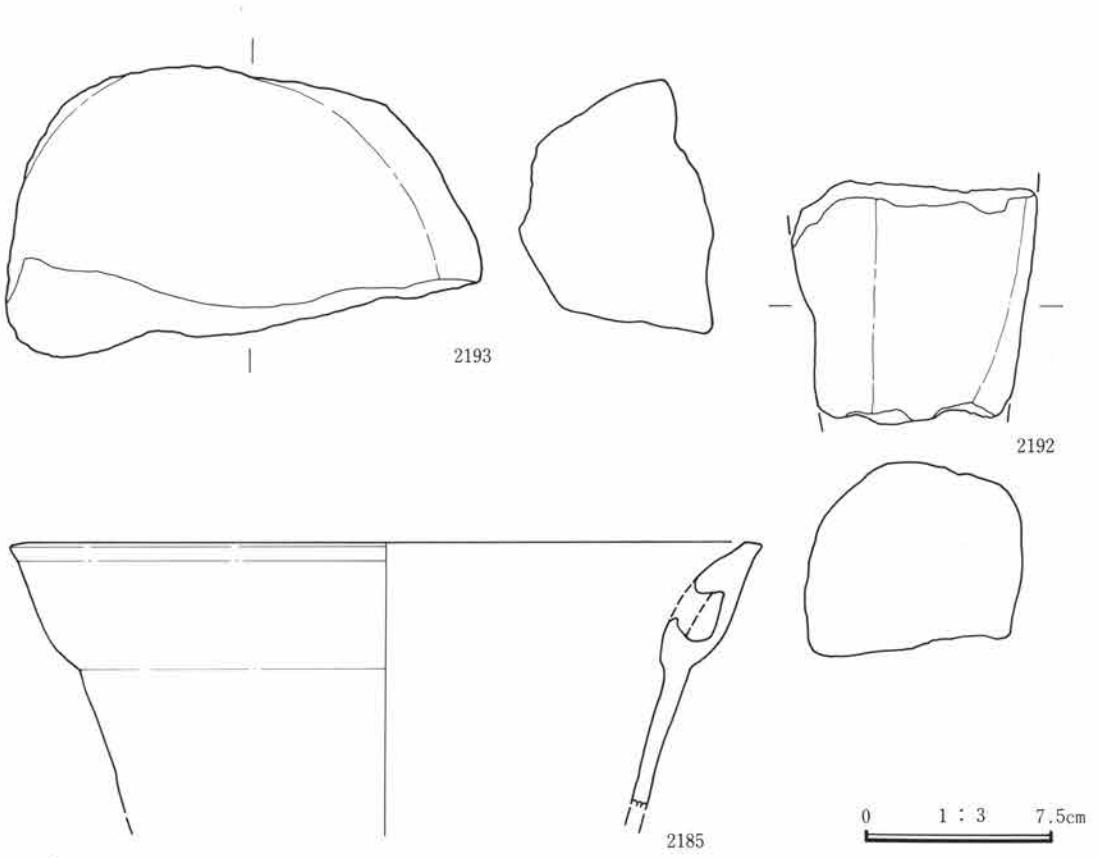


4区19号溝



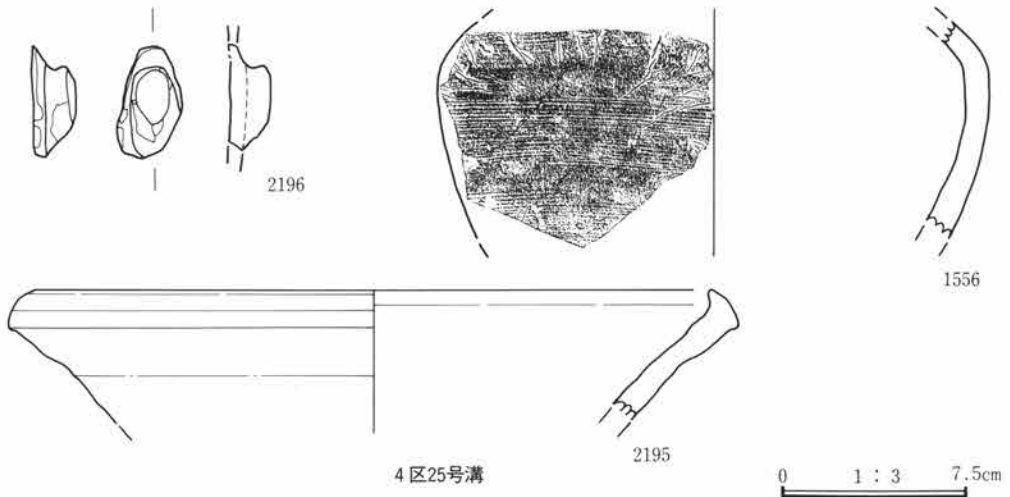
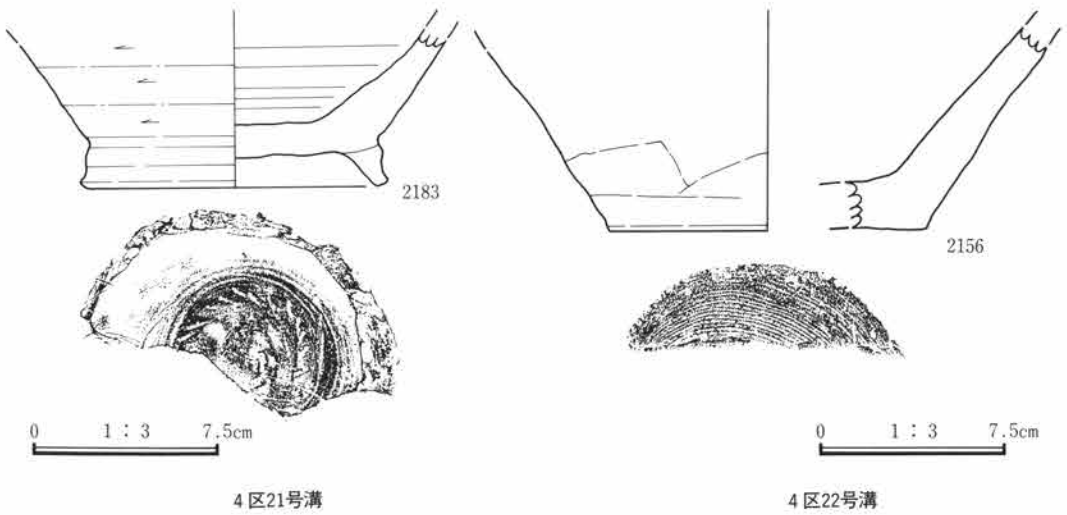
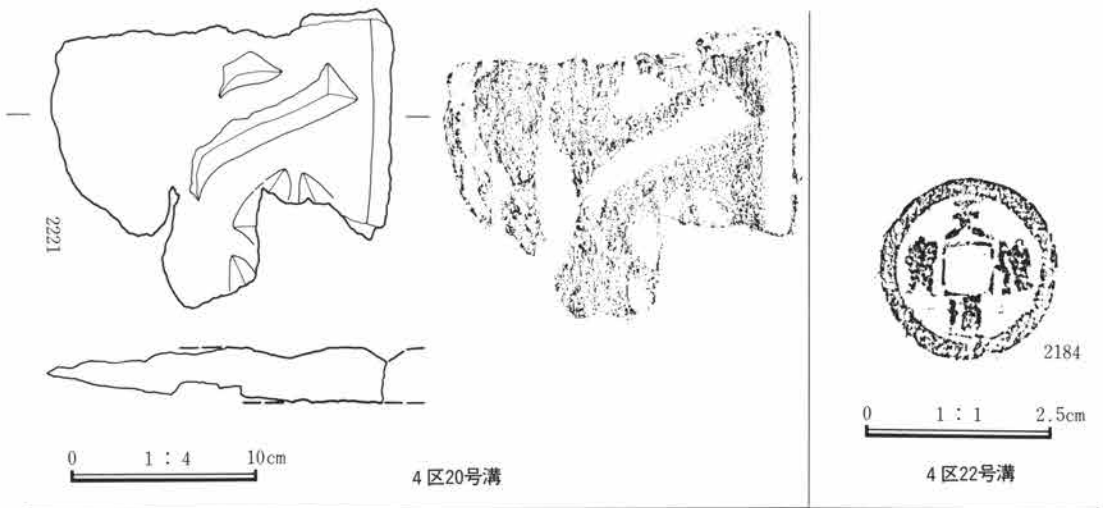
4区20号溝

第663図 4区19号溝跡出土遺物、20号溝跡出土遺物①

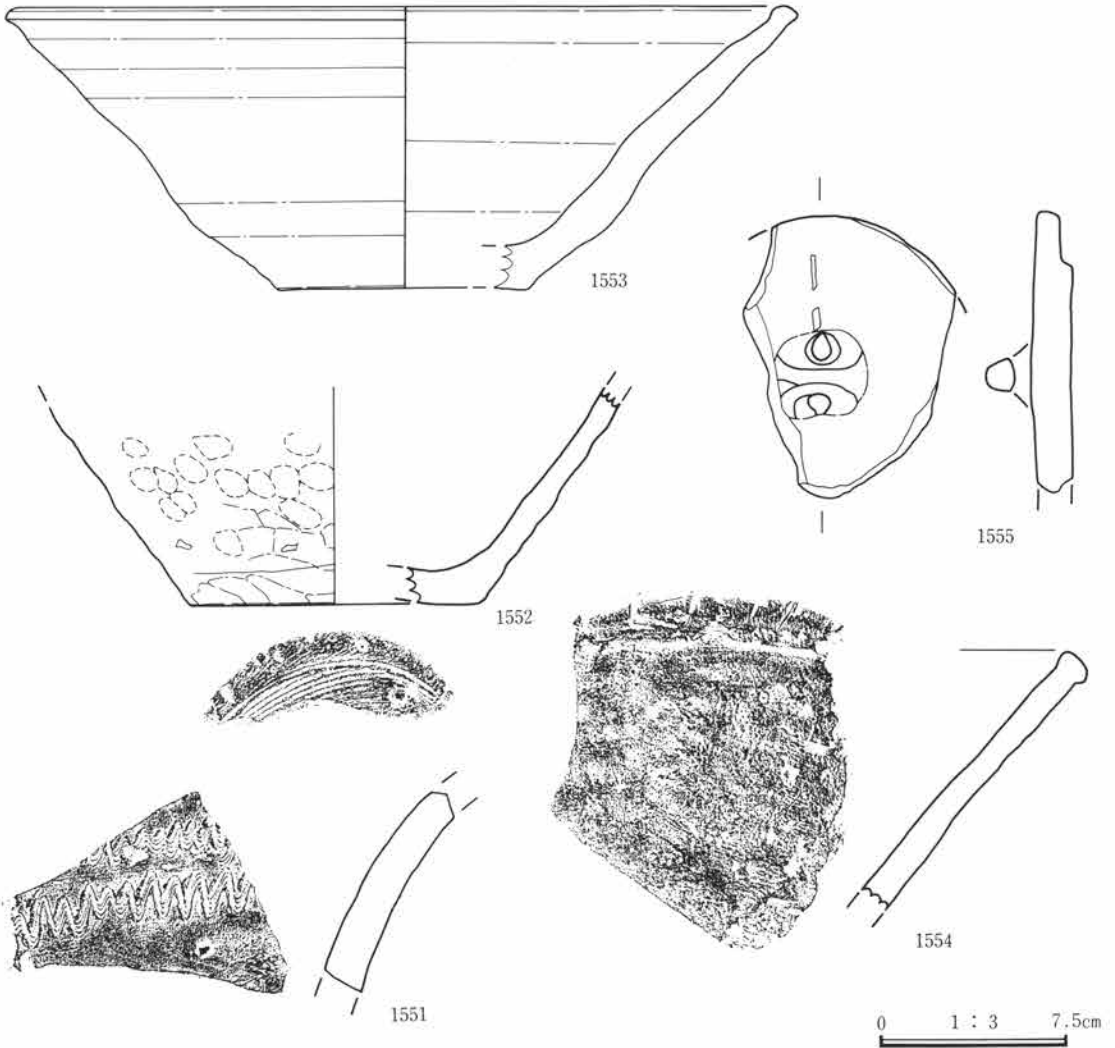


第664図 4区20号溝跡出土遺物②

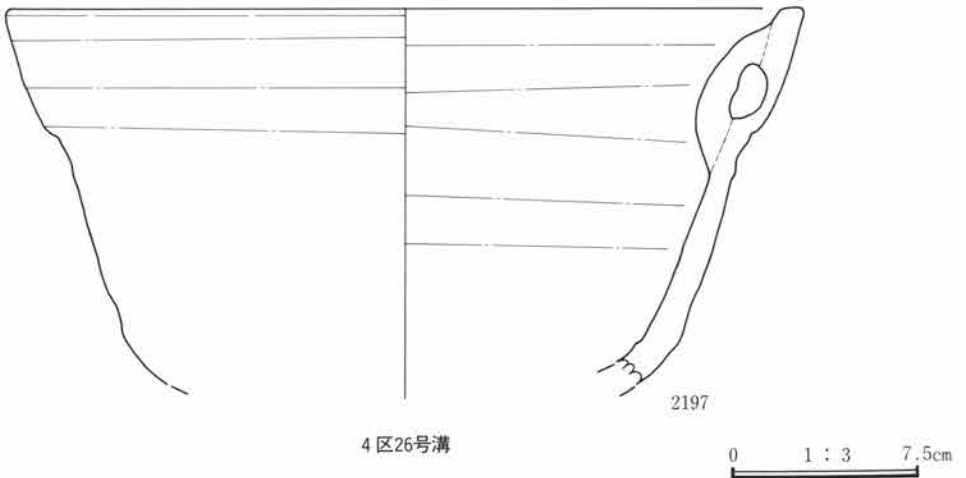
第IV章 発見された遺構と遺物



第665図 4区20号溝跡出土遺物③、21・22号溝跡出土遺物、25号溝跡出土遺物①

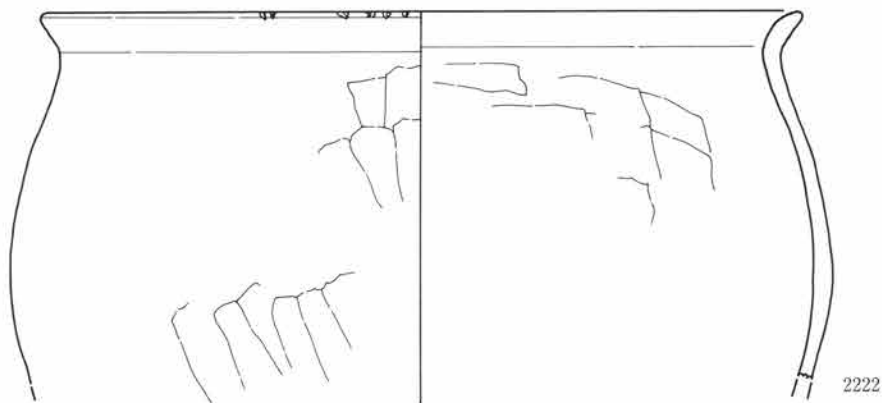
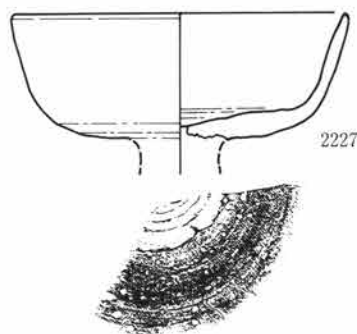
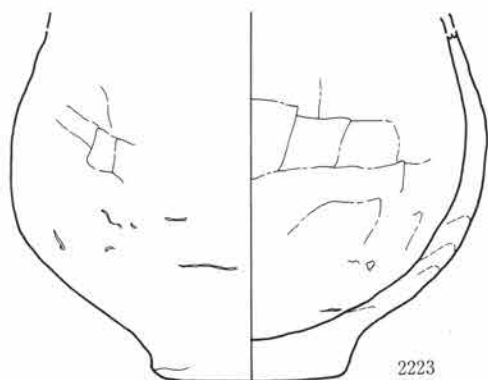
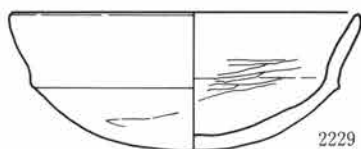
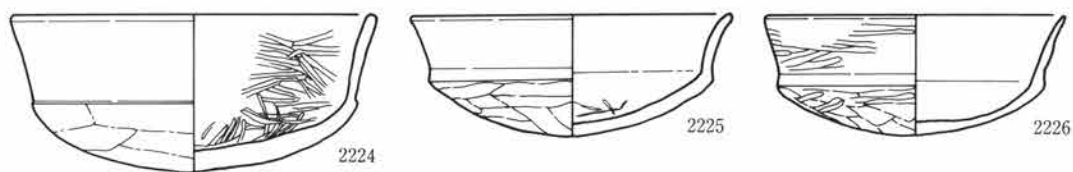


4区25号沟



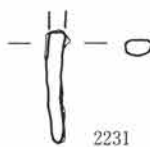
4区26号沟

第666图 4区25号沟迹出土遗物②、26号沟迹出土遗物



0 1 : 3 7.5cm

5区1号溝



0 1 : 3 7.5cm

5区6号溝

第667図 5区1・6号溝跡出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
4区 2132	1号溝跡 杯 土師器	器高：37mm 口径：123mm 底径：85mm 口縁部～底部 ⅔	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横なで後放射状暗文を施し、底部はなで。	
4区 2133	2号溝跡 杯 土師器	器高：(48mm) 口径：[152mm] 底径：[94mm] 口縁部～底部 ⅔	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで後放射状暗文を施し、底部下半はなで。	外面底部に一部油煙付着。
2134	杯 土師器	器高：(37mm) 口径：[122mm] 底径：— 口縁部～底部上半 ⅔	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	胴部～口縁部は内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部は一部指頭痕が残り、底部は篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで。	
4区 2198	3号溝跡 杯 須恵器	器高：32mm 口径：130mm 底径：78mm 口縁部～底部 ⅔	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面口縁部～底部上端に油煙付着。
2199	杯 須恵器	器高：(37mm) 口径：[133mm] 底径：[70mm] 口縁部～底部 ⅔	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に油煙付着。
2200	杯 須恵器	器高：32mm 口径：[132mm] 底径：[66mm] 口縁部～底部 ⅔	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	外面の一部に油煙付着。
2201	杯 須恵器	器高：31mm 口径：[132mm] 底径：[92mm] 口縁部～底部 ⅔	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部回転篋切り後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	
2202	皿 須恵器	器高：32mm 口径：141mm 底径：62mm 口縁部～高台部 ⅔	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の一部に油煙付着。
2203	皿 須恵器	器高：31mm 口径：[120mm] 底径：[84mm] 口縁部～高台部 ⅔	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面：口縁部～底部は回転なで。	内面口縁部と外面口縁部～高台部に油煙付着。燻し。
2204	椀 灰釉陶器	器高：(36mm) 口径：[190mm] 底径：— 口縁部～胴部 ⅔	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	内外面共に口縁部～胴部まで施釉。
2205	杯 土師質土器	器高：22mm 口径：[72mm] 底径：52mm 口縁部～底部 ⅔	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。浅黄橙。	轆轤整形、左回転。胴部～口縁部は短く、僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面にやや多量の油煙付着。二次炎を受けている。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2206	? 須恵器	器高：— 口径：— 底径：— — 取っ手部	径1mm前後の砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・鈍い橙。	取っ手部は貼り付け。全体をなで。	全面に油煙付着。
2207	碗 白磁	器高：(25mm) 口径：[160mm] 底径：— 口縁部～胴部破片	黒色粒子を少量含む。灰色味を帯びた白色。	外面は口縁部直下から回転篋削り。灰色味を帯びた白磁釉を施す。器表の摩滅は認められない。	中国製。11世紀。
2208	板 碑	長：1092mm 幅：290mm 厚：24mm 重：19000.0g 完形	緑色片岩。碑面は若干摩滅。	主尊は薬研彫りの阿弥陀三尊種子。中央に「観応二(1351)年二月五日 行阿」の銘、左右に光明真言。二条線・枠線あり。	紀年銘あり。
2209	板 碑	長：785mm 幅：310mm 厚32mm 重：16000.0g 上部欠損	緑色片岩。碑面の摩滅は少。	主尊は薬研彫りの阿弥陀三尊種子。中央に「文保二(1318)年五月六日」の銘、左右は二茎の華瓶。二条線不明、枠線なし。	紀年銘あり。
2210	板 碑	長：847mm 幅：271mm 厚32mm 重：14200.0g 完形	緑色片岩。碑面はやや摩滅。	主尊は薬研彫りの阿弥陀三尊種子、脇侍の蓮座なし。中央に「□□五月十八日尼法阿□□十尅」の銘。二条線はなし。	紀年銘あり。
2211	板 碑	長：(705mm) 幅：(240mm) 厚：30mm 重：6600.0g 略完形	雲母石英片岩。碑面の剝離、摩滅大。	主尊は阿弥陀種子、一尊か三尊かは不明。二条線はなし。紀年銘等は碑面の剝離、摩滅のため不明。	
2212	板 碑	長：580mm 幅：210mm 厚31mm 重：5950.0g 略完形	黒色片岩。碑面の剝離、摩滅大。	碑面の剝離、摩滅のため、主尊、紀年銘等は一切不明。	
2213	宝篋印塔	高：(148mm) 幅：(118mm) 重：1015.8g 破片	粗粒安山岩。やや摩滅。	屋蓋の隅飾突起部。隅飾はやや開いて立ち上がり、文様は見られない。	
2214	板 碑	長：(466mm) 幅：(192mm) 厚：(20mm) 重：2900.0g 下半左欠損	緑色片岩。碑面は摩滅大。	小形板碑。碑面の摩滅のため、主尊、紀年銘等は一切不明。	
2215	板 碑	長：(347mm) 幅：(160mm) 厚：(21mm) 重：2350.0g 下部欠損	黒色片岩。碑面は摩滅。	小形板碑。碑面の右上部に深いノミ痕を1カ所残す。摩滅のため、主尊、紀年等は一切不明。	
2216	板 碑	長：(203mm) 幅：(103mm) 厚：(18mm) 重：443.1g 主尊部破片	緑色片岩。碑面はやや摩滅。	主尊は薬研彫りの阿弥陀三尊種子、キリークの蓮座の一部及び脇侍のサ及び蓮座の一部を残す。枠線なし。	
2217	板 碑	長：(240mm) 幅：(200mm) 厚：23mm 重：2000.0g 主尊部破片	緑色片岩。碑面はやや摩滅。	主尊は浅い薬研彫りの阿弥陀三尊種子、脇侍のサ、及びサクの一部と脇侍蓮座を残す。紀年銘は「応□」、枠線あり。	紀年銘あり。
2218	板 碑	長：(146mm) 幅：(96mm) 厚：22mm 重：433.6g 主尊部破片	緑色片岩。碑面はやや摩滅。	薬彫りのキリーク(阿弥陀種子)の一部及び蓮実をもつ蓮座の一部を残す。	
2219	板 碑	長：(288mm) 幅：(180mm) 厚：18mm 重：2000.0g 下半部欠損	緑色片岩。碑面は剝離、摩滅。	碑面の剝離、摩滅のため、主尊、紀年銘等は一切不明。	



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2220	板 碑	長：(161mm) 幅：145mm 厚：43mm 重：705.0g 完 形？	二ツ岳軽石。全体に摩 滅少。	頂部を山形に、背部を舟形に成形し、碑面 は平坦に磨く。底部は平坦。小型の板碑状 を呈するが基根部を持たない。	
4区 2135	8号溝跡 杯 土師器	器高：(37mm) 口径：[120 mm] 底径：— 口縁部～底 部上端迄	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。橙。	外面に不明瞭な稜を持つ。丸底。口縁部は ほぼ直立。外面：口縁部は横なで、胴部～底 部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横 なで、一部指頭痕が残る。	内面に一部油煙付 着。
2136	杯 須恵器	器高：(35mm) 口径：[127 mm] 底径：[80mm] 口縁部 ～底部上端迄	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。青灰。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつ つ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、 底部は回転篋切り後なで。内面：口縁部 ～底部は回転なで。	外面口縁部に一部 自然釉。
4区 2137	9号溝跡 片口鉢 陶器	器高：(48mm) 口径：[135 mm] 底径：— 口縁部～胴 部破片	灰白色～淡黄色。	口縁端部内面は内側に突き出す。体部下 端部以下を除いて灰釉を施す。体部外面下 半以下は回転篋削り。	瀬戸・美濃系。18 世紀後半～19世紀 前半。
2161	杯 土師質土 器	器高：39mm 口径：142mm 底径：64mm 口縁部～底部 迄	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。硬質。橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回 転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部 ～底部は回転なで。	内外面の口縁部に 油煙付着。
2162	壺 灰釉陶器	器高：(27mm) 口径：— 底 径：[98mm] 胴部下端～高 台部迄	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底 部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下 端～底部は回転なで。	内外面共に底部ま で施釉。
4区 2157	10号溝跡 甕 土師器	器高：(47mm) 口径：[127 mm] 底径：— 口縁部～胴 部上端迄	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は 横なで、一部指頭痕が残る。胴部上端は篋 削り。内面：口縁部は横なで、一部指頭痕 が残る。胴部上端は篋なで。	外面に油煙付着。
2158	横 瓶 須恵器	器高：(64mm) 口径：[104 mm] 底径：— 口縁部～胴 部上端迄	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	口縁部は「コ」字状に外反し、口縁端部は外 縁帯を持つ。外面：口縁部は横なで、胴部 上端は叩き後なで。内面：口縁部は横なで、 胴部上端は叩目が残る。	内外面に一部自然 釉。
2159	杯 須恵器	器高：(28mm) 口径：— 底 径：[76mm] 胴部下半～底 部迄	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底 部は回転糸切り。内面：胴部下半～底部は 回転なで。	
2160	銭			不明。	
4区 2163	12号溝跡 杯 須恵器	器高：30mm 口径：[143mm] 底径：[80mm] 口縁部～底 部迄	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は 回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁 部～底部は回転なで。	
2164	椀 灰釉陶器	器高：(16mm) 口径：— 底 径：[63mm] 胴部下端～高 台部迄	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は還元なで、底 部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下 端～底部は回転なで。	内面は胴部下端ま で施釉。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
4区 2138	13号溝跡 杯 須恵器	器高：(38mm) 口径：[126mm] 底径：[67mm] 口縁部～底部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転などで。	
2139	天目茶碗 陶器	器高：(43mm) 口径：[105mm] 底径：— 口縁部～胴部破片	灰白色。	口縁部の立ち上がりはやや長く、端部は外反する。内外面に厚く天目釉を施す。	瀬戸・美濃系。18世紀?
2165	椀 須恵器	器高：54mm 口径：[173mm] 底径：83mm 口縁部～高台部迄	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がり、口縁部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転などで。	
2166	皿 須恵器	器高：25mm 口径：[162mm] 底径：[90mm] 口縁部～高台部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転などで。	
4区 2167	14号溝跡 杯 須恵器	器高：(15mm) 口径：— 底径：65mm 胴部下端～底部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転などで、底部は回転糸切り。内面：胴部下端～底部は回転などで。周囲が丁寧に打ち欠いてある。	須恵器杯の転用形態。硯?
2168	椀 須恵器	器高：(16mm) 口径：— 底径：— 胴部下端～高台部上端迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。硬質。灰白・明赤褐。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転などで。周囲が丁寧に打ち欠いてある。	須恵器椀の転用形態。硯?。内面に油煙付着。二次炎を受けている。
4区 2169	15号溝跡 杯 土師器	器高：39mm 口径：[114mm] 底径：[66mm] 口縁部～底部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部は横などで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部～底部上端は横などで、一部指頭痕が残り、底部はなで。	
2170	杯 須恵器	器高：31mm 口径：[126mm] 底径：[86mm] 口縁部～底部迄	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転などで。	
2171	杯 須恵器	器高：(33mm) 口径：[121mm] 底径：[59mm] 口縁部～底部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転などで。	
2172	砥石	長：(112mm) 幅：76mm 厚：18mm 重：206.0g	砂岩。	使用面は4面。	
4区 2173	16号溝跡 甕 土師器	器高：(52mm) 口径：[254mm] 底径：— 口縁部～胴部上端迄	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。明赤褐。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横などで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋削り。内面：口縁部は横などで、一部指頭痕が残り、胴部上端は篋などで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。

## 4区溝観察表

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2174	杯 須恵器	器高:(33mm)口径:一底 径:68mm 胴部~底部 $\frac{1}{2}$	径2~3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部はやや内湾しつ つ広がる。外面:胴部は回転で、底部は回 転糸切り。内面:胴部~底部は回転で。	
4区 2175	17号溝跡 杯 土師質土 器	器高:(20mm)口径:[80 mm]底径:[55mm]口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。 鈍い黄橙。	轆轤整形。胴部~口縁部はほぼ直線的に広 がる。外面:口縁部~胴部は回転で、底 部は回転糸切り。内面:口縁部~底部は回 転で。	内外面にやや多量 の油煙付着。二次 炎を受けている。
4区 2176	18号溝跡 耳皿 須恵器	器高:(26mm)口径:[84 mm]底径:[56mm]口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや硬質。 鈍い黄橙。	轆轤整形。胴部~口縁部は直線的に広がり、 端をつまみ折り上げる。外面:口縁部~胴 部は回転で、底部は回転糸切り。内面: 口縁部~底部は回転で。	
2177	椀 灰釉陶器	器高:(26mm)口径:一底 径:[77mm] 胴部~高台部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面:胴部は回転で、底部は 高台貼り付け後で。内面:胴部~底部は 回転で。	外面底部に油煙付 着。内面は胴部下 端まで施釉。
4区 2178	19号溝跡 内耳鍋 軟質陶器	器高:一口径:一底径: 一口縁部~胴部 $\frac{1}{2}$	器表黒灰色。断面鈍い 橙色。	口縁端部は平坦である。体部の屈曲部は耳 部下位接合部に位置する。	在地製品。15世紀。
2179	鉄 鎌	長:(103mm)幅:身20mm 筧7mm厚:4mm・筧5mm		柳葉式。鎌身の先端は欠けている。	
2180	? 鉄製品	長:(30mm)幅:6mm厚: 4mm		用途不明。	
2181	? 鉄製品	長:(29mm)幅:6mm厚: 6mm		用途不明。	
2351	紡錘車	直径:50mm厚:8mm孔 径:7mm重:19.3g		須恵器杯の底部転用。	
4区 2185	20号溝跡 内耳鍋 軟質陶器	器高:(107mm)口径:[300 mm]底径:一口縁部~胴 部 $\frac{1}{2}$	青灰色。	口縁端部は平坦である。体部の屈曲部と内 面の段差は、耳部下位接合部に位置する。	在地製品。15世紀。
2186	搦鉢 軟質陶器	器高:(64mm)口径:一底 径:[140mm] 胴部下半~底 部 $\frac{1}{2}$	鈍い橙色。	底部回転糸切無調整。体部外面指押え後、 下端のみ筧状工具によるで。	在地製品。中世。
2187	杯 土師質土 器	器高:(20mm)口径:[80 mm]底径:[48mm]口縁部 ~底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。 鈍い黄橙。	轆轤整形。胴部~口縁部は直線的に広がる。 外面:口縁部~胴部は回転で、底部は回 転糸切り。内面:口縁部~底部は回転で。	
2188	五輪塔 火輪	縦:(245mm)横:(146mm) 厚:144mm重:2750.0g 半欠	二ツ岳軽石。やや摩滅。	火輪。全体にわたり丁寧な成形。表面は磨 き仕上げ。上面に空風輪の円孔あり。底面 は平坦。	

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2189	五輪塔 水輪?	長:(110mm) 厚:(80mm) 重:1153.1g 破片	粗粒安山岩。やや摩滅。	水輪部破片か。上下面は平坦ではあるが火輪・地輪との接触面と露出面との間に段をもたず、水輪としては厚みがない。	
2190	用途不明 石製品	直径:65mm 高:(76mm) 重:297.1g 破片	粗粒安山岩。端部破損。	空風輪下部の突起か。上下面は平坦ではある。	
2191	五輪塔 空風輪?	長:(101mm) 幅:(40~90mm) 重:727.6g	粗粒安山岩。	数カ所に工具(ノミ)痕を残す面と磨きによる平坦面を有し、五角形の突起を有する。石塔類の転用か。	
2192	五輪塔? 火輪?	長:(90mm) 厚:(96mm) 重:451.0g 破片	二ツ岳軽石。	火輪か。表面は丁寧な磨き仕上げ。下面は平坦、側面もほぼ平坦、上面は破損、摩滅が著しく原形状不明。	
2193	五輪塔? 水輪?	長:(189mm) 幅:(113mm) 厚:(77mm) 重:2000.0g 破片	粗粒安山岩。	水輪か。上(下)面は平坦、側面は一部湾曲面を残すが多くは破損。	
2194	宝篋印塔	高:(86mm) 幅:(79mm) 重:418.1g 破片	粗粒安山岩。	屋蓋隅飾部破片。巴(渦巻き)状文あり。	
2221	板 碑	長:(158mm) 幅:(182mm) 厚:29mm 重:930.9g 主 尊部破片	緑色片岩。碑面はやや 摩滅。	大型板碑破片。深い葉研彫りのキーク(阿弥陀種子)の一部を残す。種子一文字で20cmを超える。	
4区 2183	21号溝跡 壺 須恵器	器高:(63mm) 口径:一 底 径:[124mm] 胴部下端~高 台部迄	径3~4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。外面:胴部下端は回転なで、底部は高台貼り付け後なで。内面:胴部下端は回転なで、底部はなで。	内外面に一部油煙 付着。
4区 2156	22号溝跡 鉢 軟質陶器	器高:(79mm) 口径:一 底 径:[126mm] 胴部~底部迄	径2~3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。鈍い橙。	轆轤整形。胴部はほぼ直線的に広がる。外面:胴部はなで、底部は回転糸切り。内面:胴部~底部は回転なで。	外面に多量の油煙 付着。
2184	銭			北宋、「天禧通寶」。	
4区 1551	25号溝跡 甕 須恵器	器高:一 口径:一 底径: 一 口縁部破片	径2~3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。外面:回転なで後波状文を施す。内面:回転なで。	
1552	鉢 軟質陶器	器高:(84mm) 口径:一 底 径:[116mm] 胴部下半~底 部迄	径5~6mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰。	轆轤整形。外面:胴部下半はなで、一部指頭痕が残り、底部は回転糸切り。内面:胴部下半~底部は回転なで。	
1553	鉢 軟質陶器	器高:111mm 口径:[316 mm] 底径:[100mm] 口縁部 ~底部上端迄	径3~4mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。鈍い橙。	轆轤整形。胴部~口縁部は直線的に広がる。外面:口縁部は回転なで、胴部~底部上端はなで。内面:口縁部~底部上端は回転なで。	内外面に油煙付 着。
1554	鉢 軟質陶器	器高:一 口径:一 底径: 一 口縁部~胴部迄	径3~4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	轆轤整形。胴部~口縁部は直線的に広がる。外面:口縁部~胴部はなで。内面:口縁部~胴部は回転なで。	

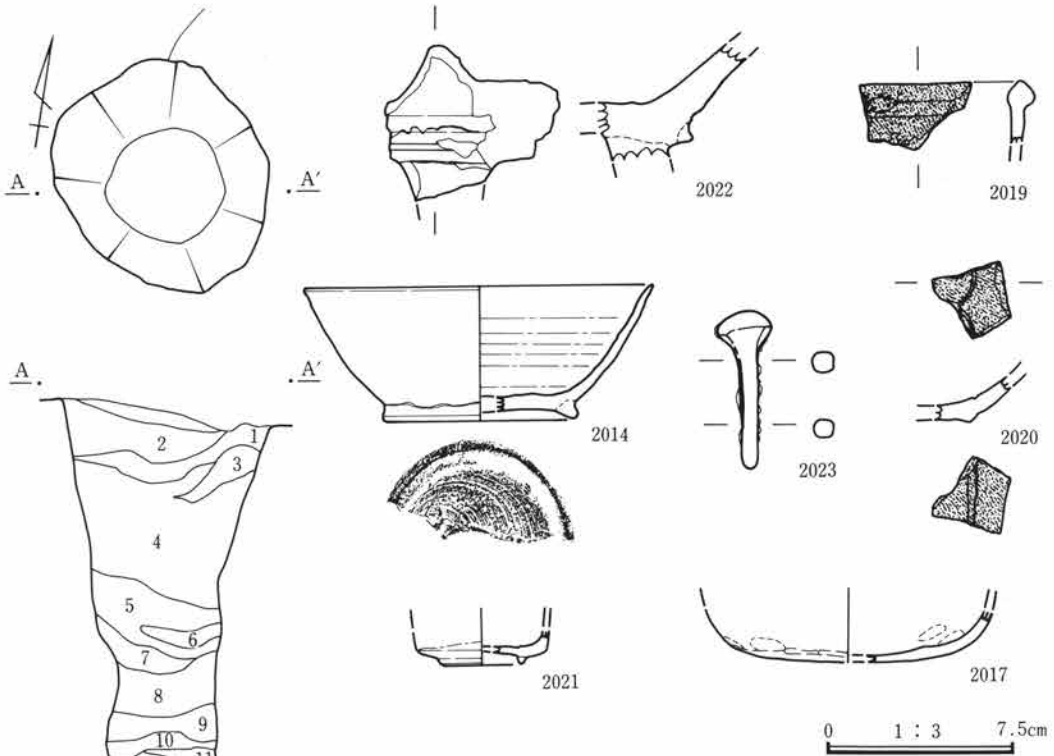
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
1555	かぶせ蓋 軟質陶器	器高：35mm 口径：[130mm] つまみ部～口縁部%	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。灰。	天井部は丁寧に磨かれる。鈕は張り付け。 鈕の穴は棒状工具に粘土紐を巻いて作る。	在地製品。 中世。
1556	壺 軟質陶器	器高：— 口径：— 底径： — 胴部破片	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	外面はカキ目を施した後、軽く磨く。	外面に多量の煤付 着。在地製品。中 世。
2195	鉢 軟質陶器	器高：(53mm) 口径：[272 mm] 底径：— 口縁部～胴 部上半%	細砂～粗砂を多量に含 む。黒灰色。	口縁部は外反し、端部は内側に突き出す。 内面下位は使用によりやや摩滅。	在地製品。15世紀。
2196	手あぶり 軟質陶器	器高：— 口径：— 底径： — 脚部	器表黒灰色。断面灰白 色。	手あぶりの脚と考えられる。	在地製品。近世。
4区 2197	26号溝跡 内耳鍋 軟質陶器	器高：(148mm) 口径：[320 mm] 底径：— 口縁部～胴 部%	鈍い黄橙色。	口縁部はあまり外反せず、内面の段差もな い。口縁部のみ横なで。体部下端寛なで。	在地製品。15世紀。 体部下端を除き外 面煤付着。
5区 2222	1号溝跡 甕 土師器	器高：(146mm) 口径：[305 mm] 底径：— 最大径： [329mm] 口縁部～胴部中央 %	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。鈍い褐。	口縁部は「く」状に外反。口縁端部に篋状工 具による刻みあり。最大径は胴部中央。外 面：口縁部は横なで、胴部は篋削り。内面： 口縁部は横なで、胴部は篋なで。	内外面に多量の油 煙付着。二次炎を 受けている。
2223	甕 土師器	器高：(138mm) 口径：— 底径：77mm 胴部～底部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。鈍い黄橙。	外面：胴部は篋削り後なで、底部はなで。 内面：胴部～底部は篋なで。	外面に油煙付着 し、赤色顔料塗布。 二次炎を受けてい る。
2224	杯 土師器	器高：62mm 口径：[146mm] 底径：— 口縁部～底部%	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。橙。	外面に不明瞭な稜を持ち、口縁部はほぼ直 立し、口縁端部は僅かに外反。丸底。外面： 口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。内 面：口縁部～底部上半は横なで後燻し、更 に篋磨き、底部はなで後燻し。	内面は全面的に油 煙付着。燻し。
2225	杯 土師器	器高：48mm 口径：128mm 底径：— ほぼ完形	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。橙。	外面に不明瞭な稜を持ち、口縁部は僅かに 外反。外面：口縁部は横なで、胴部～底部 は篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、 底部は篋なで。	
2226	杯 土師器	器高：48mm 口径：120mm 底径：— 口縁部～底部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。橙。	外面に不明瞭な稜を持ち、口縁部は僅かに 外反。丸底。外面：口縁部は横なで後篋磨 き、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部は 横なで、胴部～底部はなで、指頭痕が残る。	内面に一部油煙付 着。
2227	高杯 土師器	器高：(50mm) 口径：[134 mm] 底径：— 口縁部～底 部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。鈍い橙。	底部～胴部はやや内湾し、口縁部は直線的 に広がる。脚部は接合。外面：口縁部～底 部は横なで。内面：口縁部～底部上半は横 なで、底部下半はなで。	
2228	杯 土師器	器高：44mm 口径：[134mm] 底径：— 口縁部～底部%	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。橙。	外面に不明瞭な稜を持ち、口縁部は外反。 丸底。外面：口縁部は篋磨き、胴部～底部 は篋削り。内面：口縁部は横なで後篋磨き、 胴部～底部はなで、指頭痕が残る。	内面に一部油煙付 着。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2229	杯 土師器	器高：55mm 口径：[140mm] 底径：一 口縁部～底部	径4～5mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。明赤褐。	外面に不明瞭な稜を持ち、口縁部は僅かに 外反。丸底。外面：口縁部～胴部上端は横 なで、胴部～底部は篋削り。内面：口縁部 は横なで後篋磨き、底部はなで。	
5区 2230	6号溝跡 ? 鉄製品	長：(53mm) 幅：7～12mm 厚：7mm		芯は空洞。用途不明。	
2231	? 鉄製品	長：(44mm) 幅：5～7mm 厚：4～7mm		角釘の一部か。	

## 4区1号井戸跡

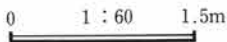
当井戸跡はN-16・17、O-16・17グリッドに位置し、4区20号住居跡と重複する。新旧関係は、当井戸跡が4区20号住居跡の西部の壁・床の一部を破壊していることから、当井戸跡の方が新しい。当井戸跡の規模は、長軸約180cm・短軸約160cm・確認面からの深さ推定約590cmであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。形態はほぼ円筒形であるが、断面形は底面がやや狭くなる。遺物は、土師器の杯(2017・2018)、土師質土器の杯(2016)、須恵器の椀(2014)、灰釉陶器の椀(2015)、鉄製の角釘(2023)、陶器の杯(2026)の他、中国製と考えられる陶器が出土していることが注目される。



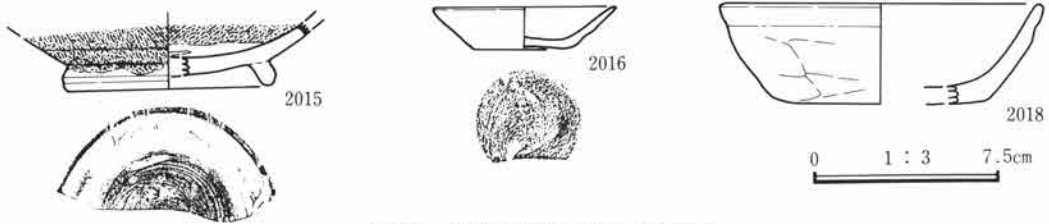
第669図 4区1号井戸出土遺物①

## 4区1号井戸跡

- 1 明褐色土層：粒子は比較的細かい。
- 2 黄褐色土層：多量の二ツ岳軽石・ローム粒子及び少量の礫を含む。
- 3 黄褐色粘質土層：粘性は強く、多量のローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土層：粒子は粗く、粘性は弱い。
- 5 灰褐色土層：少量の粘質ローム小ブロックを含む。
- 6 暗褐色土層：粒子はやや粗く、粘性は弱い。
- 7 黒褐色土層：粒子はやや粗く、粘性は弱い。
- 8 淡褐色土層：粒子はやや粗く、粘性は比較的弱い。
- 9 黄褐色砂質土層：粒子は粗く、粘性は弱い。
- 10 赤褐色土層：粒子は緻密であり、鉄分を含む。
- 11 黄褐色粘質土層。
- 12 淡褐色土層：やや多量の砂を含む。



第668図 4区1号井戸跡



670図 4区1号井戸跡出土遺物②

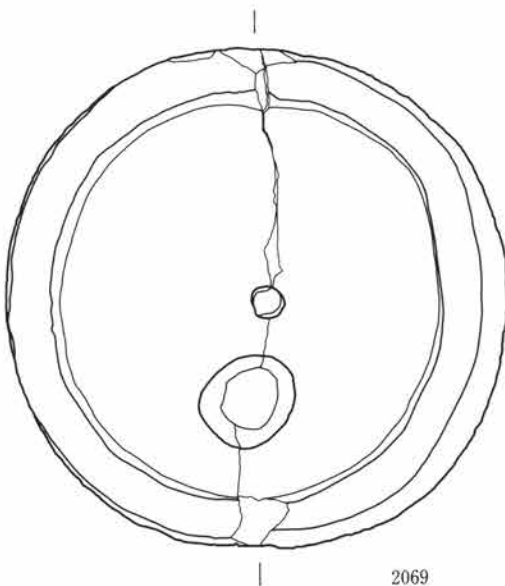
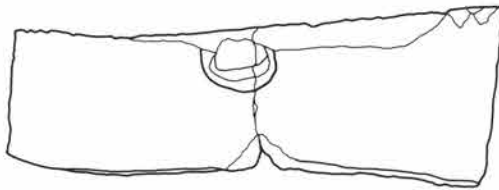
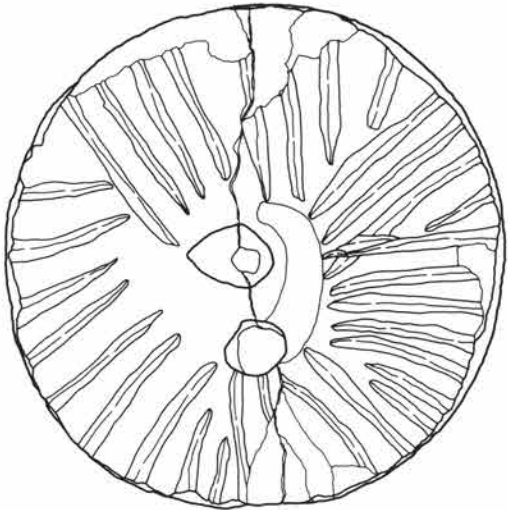
番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2014	碗 須恵器	器高：53mm 口径：[140mm] 底径：[78mm] 口縁部～高 台部迄	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広 がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底 部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口 縁部～底部は回転なで。	内外面の一部に油 煙付着。
2015	碗 灰釉陶器	器高：(25mm) 口径：— 底 径：[84mm] 胴部下端～高 台部迄	細砂粒を含む。還元。 硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転なで、底 部は高台貼り付け後なで。内面：胴部下端 ～底部は回転なで。	内面は胴部下端ま で施釉。
2016	杯 土師質土 器	器高：17mm 口径：74mm 底 径：43mm 口縁部～底部迄	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。軟質。橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的 に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、 底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は 回転なで。	
2017	杯 土師器	器高：(20mm) 口径：— 底 径：— 胴部下半～底部迄	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。鈍い橙。	胴部はやや内湾しつつ広がる。外面：胴部 下半～底部は篋削り。内面：胴部下半～底 部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部 下半はなで、一部指頭痕が残る。	
2018	杯 土師器	器高：(40mm) 口径：[130 mm] 底径：[78mm] 口縁部 ～胴部上半迄	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外 面：口縁部は横なで、胴部～底部は篋削り。 内面：口縁部～底部上半は横なで。	
2019	鉢？ 緑釉陶器	器高：— 口径：— 底径： — 口縁部～胴部上位破片	白色鉍物粒を多量に含 む。硬質。黒灰色。	クリーム色の化粧土を内外面に施した後鉛 緑釉を掛ける。表面はやや銀化する。	中国製。明代。
2020	鉢？ 緑釉陶器	器高：— 口径：— 底径： — 胴部下端～底部破片	白色鉍物粒を多量に含 む。硬質。黒灰色と灰 白色部分が縞状を呈す る。	内面にクリーム色の化粧土を施した後、底 部外面を除いて濃緑色の鉛釉を掛ける砂 底。内面には陰刻による文様がある。	中国製。明代。
2021	香炉？ 陶器	器高：(13mm) 口径：— 底 径：[34mm] 胴部下端～高 台部迄	灰白色。	張り付け高台。体部外面のみ灰釉を施す。	瀬戸・美濃系？。 時期不祥。
2022	手あぶり ？須恵器	器高：(52mm) 口径：— 底 径：— 胴部下端～脚部上 端破片	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	底部は細長い脚を3～4mm貼り付ける。外 面：胴部下端は横なで、底部はなで、脚部 は篋削り。内面：胴部下端～底部は横なで。	
2023	角釘 鉄製品	長：62mm 幅：頭22mm・身7 ～9mm 厚：7～8mm		頭が大きく、断面は四角形に近い。	



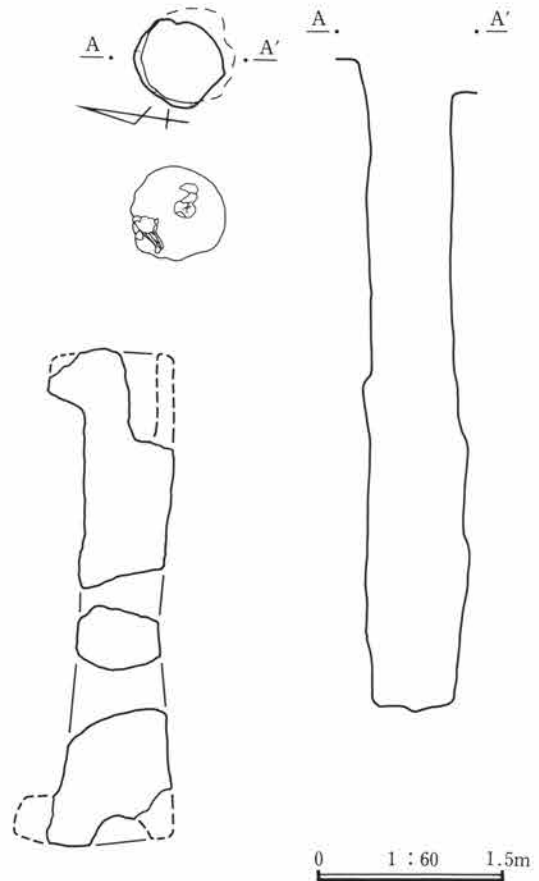
## 4区2号井戸跡

当井戸跡はK-20グリッドに位置し、4区16号住居跡・4区2号溝跡と重複する。4区16号住居跡との新旧関係は、同住居跡の北西部の壁・床の一部を当井戸跡が破壊していることから、当井戸跡の

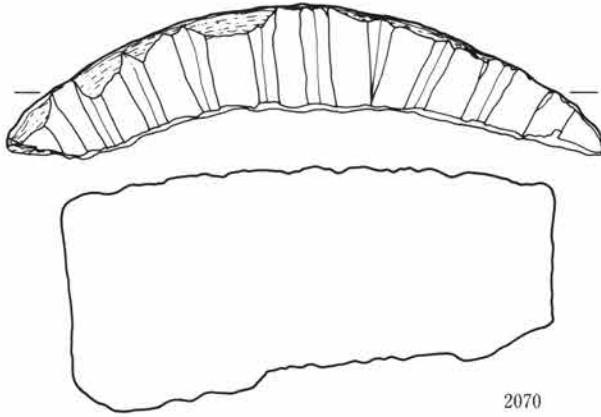
方が新しい。4区2号溝跡との新旧関係は、不明である。当井戸跡の規模は、直径約70cm・確認面からの深さ約510cmであり、平面形は不整形な円形を呈する。全体の形態は円筒形であり、断面形は長方形に近い。底面付近には拳大から人頭大の石が詰まっており、底面上約100cmの地点からは壮年の女性と推定される人骨が検出されている。遺物は、人骨の下から石臼(2069・2070)の他、底面近くから摺鉢の小破片が出土している。



第672図 4区2号井戸跡出土遺物①



第671図 4区2号井戸跡



第673図 4区2号井戸跡出土遺物②

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2069	石 白	直径：335mm 厚：118mm 芯 孔径：22mm 供給孔径：63 mm 挽手孔径：50mm 重： 13350.0g	粗粒安山岩。	上白。中心に円筒状の芯棒受けがあり、使用に貫通している。供給孔の平面形はほぼ円形で、上面が大きく、下面が小さい。側面には挽手棒を入れる孔があり、平面形は長方形。下面に刻み目あり。	
2070	石 白	直径：一 厚：(87mm) 重： 973.6g	粗粒安山岩。	下白。上面に刻み面あり。	表面に油煙付着。 炎を受けている。

#### 4区1号馬土墳墓

当馬土墳墓はL-2、M-2グリッドに位置し、重複は無い。墳墓の規模は、東西約210cm・南北約100cm・確認面からの深さ約40cmであり、平面形は隅丸長方形を呈する。馬は横臥屈曲位で埋葬されており、頭部はほぼ西を向いている。骨の残存状態は良好であり、ほぼ全身の骨格を確認することができた。遺物の出土は無く、時期は不明である。

### 3区1号土壙墓

当土壙墓はK-31・32グリッドに位置し、4区21溝と重複する。新旧関係は、4区21溝の覆土中に当土壙墓が築かれていることから、当土壙墓の方が新しい。当土壙墓は、人骨・遺物の出土で確認できたものであり、土坑の確認はできなかつた。当土壙墓は火葬墓であり、焼土・炭化物とともに焼けた骨片が検出できた。人骨の上面からは、径約30～40cmの石が敷き詰めるような形態で検出できた。遺物の出土は無く、時期の限定は難しいが、重複する溝との関係・土壙墓の形態から中世と推定される。

### 3区2号土壙墓

当土壙墓は、3区K-33、L-33グリッドに位置し、4区21溝に近接するが、重複は無い。土壙墓の規模は、一辺約90cm・確認面からの深さ約20cmであり、平面形は隅丸方形を呈する。土壙墓内からは歯・頭骨の一部・大腿骨の一部が出土しているが、断片的であり、埋葬の形態は確認できない。遺物は、土師質土器の杯(2345・2346・2347・2348・2349・2350)が出土している。

### 4区3号土壙墓

当土壙墓は4区N-14グリッドに位置し、4区24号住居跡と重複する。新旧関係は、4区24号住居跡の床上から当土壙墓が検出されていることから、当土壙墓の方が新しい。当土壙墓の規模は、東西約55cm・南北約75cm・確認面からの深さ約15cmであり、平面形は隅丸長方形を呈する。人骨は一部の検出であり、埋葬形態は不明である。遺物は五輪塔の空風輪(2307)が出土している。

### 4区4号土壙墓

当土壙墓は、4区P-13グリッドに位置し、4区133土坑が近接するが、重複は無い。当土壙墓の規模は、東西約80cm・南北約120cm・確認面からの深さ約20cmであり、平面形は楕円形に近い隅丸長方形を呈する。人骨は横臥屈曲位で埋葬されており、頭骨は東を向いている。遺物は銭(2275・2276)が2枚出土しているが、1枚は判読できなかったが中国銭と推定される。他の1枚は北宋の「治平通寶」である。遺物から推定する当土壙墓の時期は中世である。

### 4区5号土壙墓

当土壙墓は4区P-5グリッドに位置し、4区20号溝跡と重複する。新旧関係は不明である。当土壙墓の規模は、東西約60cm・南北約100cm・確認面からの深さ約60cmであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈する。人骨の埋葬方法は、横臥屈曲位である。頭骨は西を向いていたと推定されるが、発見時は下を向いていた。遺物は銭が9枚出土している。銭の種類は唐の「開元通寶」(2281・2285)、北宋の「元祐通寶」(2279)・「紹聖元寶」(2280)・「聖宋通寶」(2282)・「熙寧元寶」(2286)、明の「永樂通寶」(2278・2283・2284)である。出土銭から推定される当土壙墓の時期は中世である。

### 3区6号土墳墓

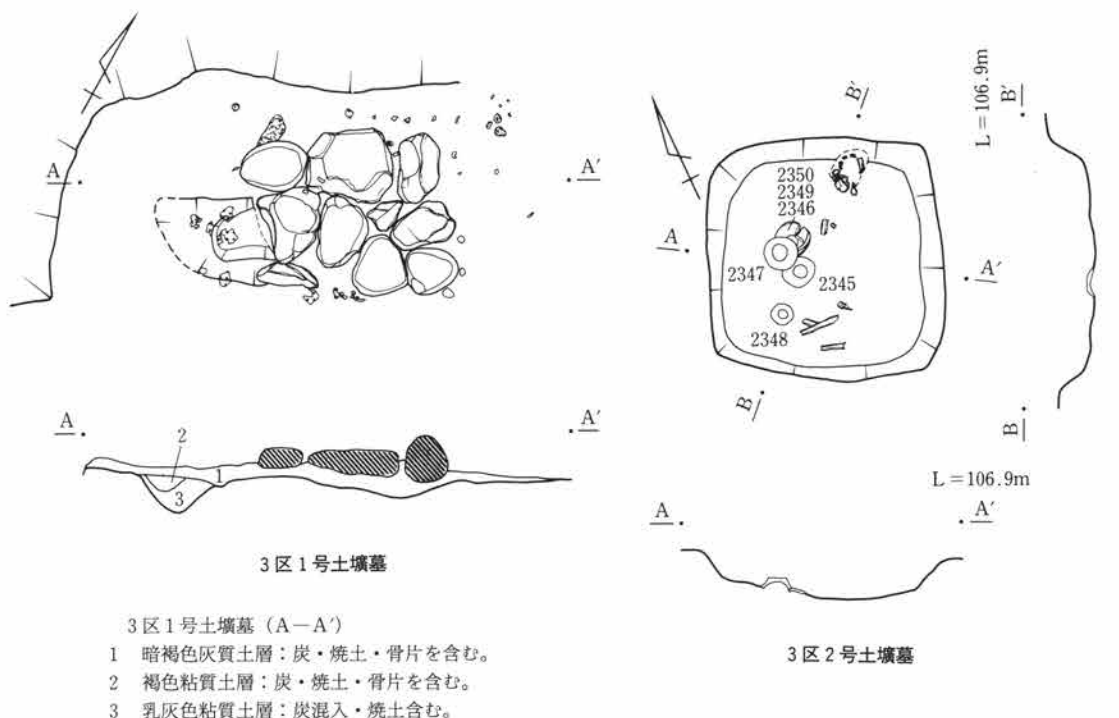
当土墳墓は3区O-31グリッドに位置し、4区21溝跡が近接するが、重複は無い。当土墳墓の規模は、南部が検出できなかつたために確定できないが、東西約80cm・南北約120cm以上・確認面からの深さ約25cmであり、平面形は隅丸長方形を呈すると推定される。人骨の埋葬形態は、横臥屈曲位であり、頭骨は西を向いている。遺物の出土は無く、時期の限定は困難であるが、周囲の土墳墓との比較から中世と推定される。

### 3区7号土墳墓

当土墳墓は、3区O-32、P-32グリッドに位置し、4区21溝跡が近接するが、重複は無い。当土墳墓は南部の大部分が削平されているために規模は不明である。人骨の出土も大腿骨の一部と推定される部分だけであり、遺物の出土も無く、埋葬形態・時期は不明である。

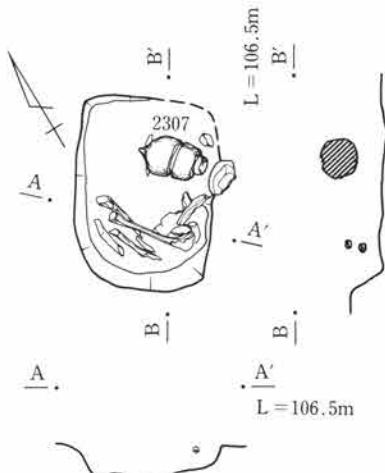
### 4区8号土墳墓

当土墳墓は、4区P-9・10グリッドに位置し、4区50号住居跡・4区137号土坑が近接するが、重複は無い。当土墳墓の規模は、東西約60cm・南北約110cm・確認面からの深さ約15cmであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈する。人骨の埋葬形態は横臥屈曲位であり、頭骨は東向きであるが、やや下向きである。遺物は銭が6枚出土している。種類は、北宋の「元祐通寶」(2287)・「政和通寶」(2289)、南宋の「慶元通寶」(2290)、明の「洪武通寶」(2288)・「永樂通寶」(2291・2292)である。遺物から推定される当土墳墓の時期は中世である。

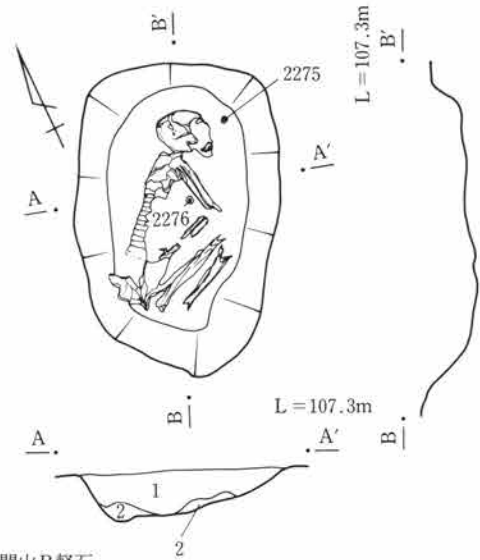


第674図 3区1・2号土墳墓

0 1 : 60 1.5m



4区3号土墳墓

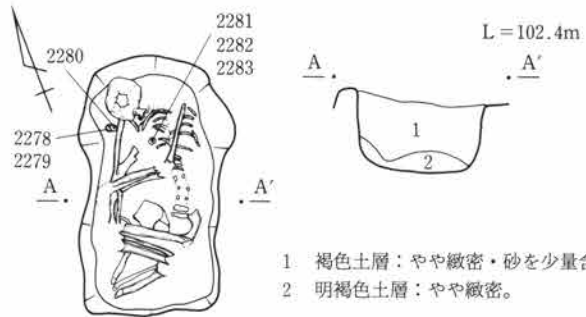
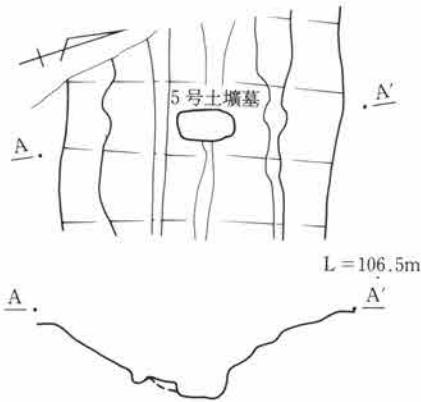


4区4号土墳墓

- 1 褐色砂質土層：緻密・浅間山B軽石を含む。
- 2 褐色砂質土層：緻密・明褐色土小ブロックを含む。

0 1 : 60 1.5m

4区20号溝

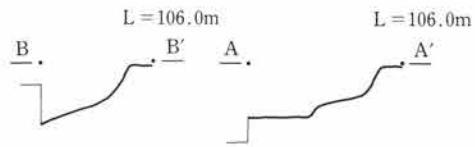
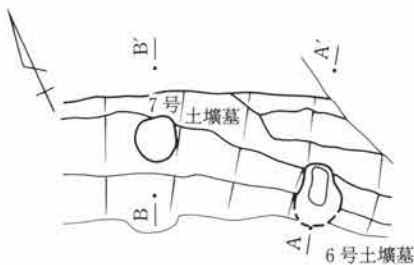


4区5号土墳墓

- 1 褐色土層：やや緻密・砂を少量含む。
- 2 明褐色土層：やや緻密。

0 1 : 300 7.5m

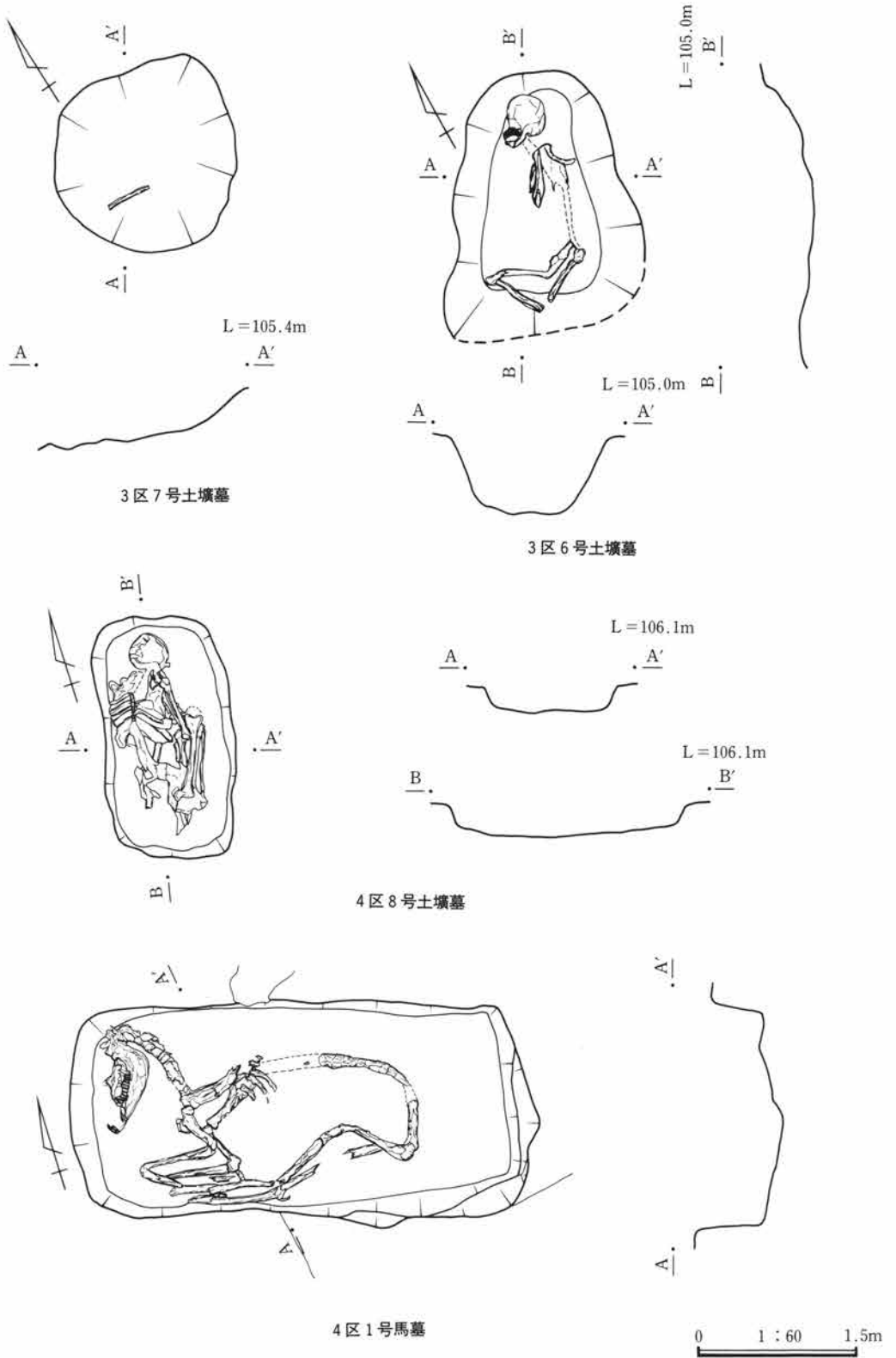
0 1 : 60 1.5m



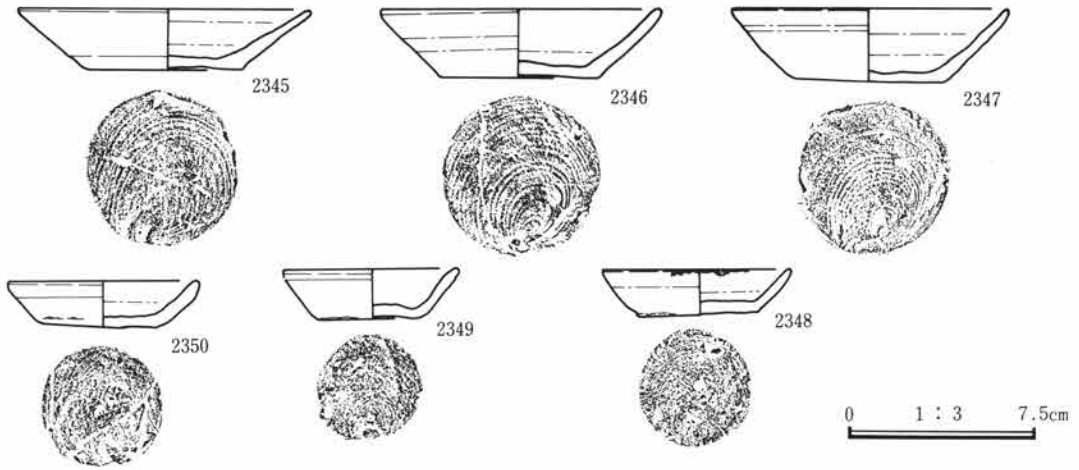
3区6・7号土墳墓

0 1 : 300 7.5m

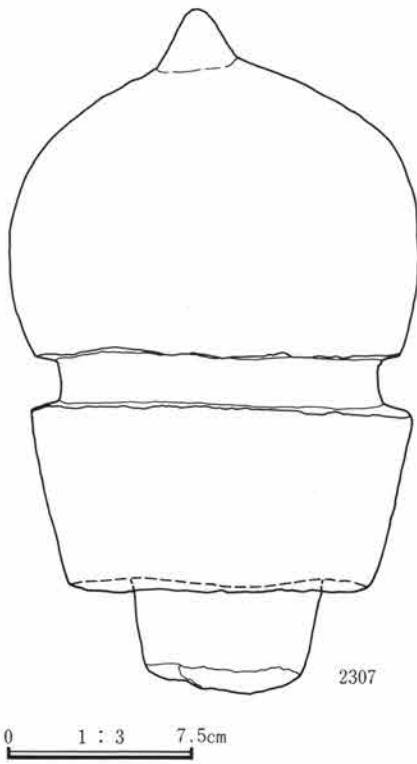
第675図 3区6・7号、4区3・4・5号土墳墓



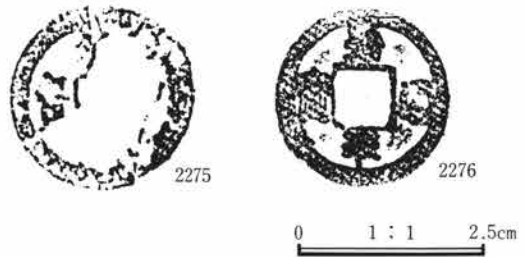
第676図 3区6・7号、4区8号土墳墓、4区1号馬墓



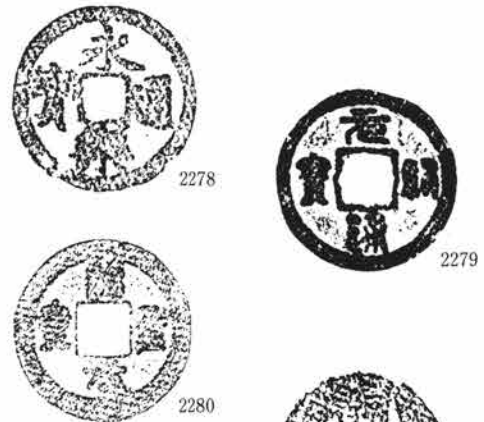
3区2号土墳墓



4区3号土墳墓

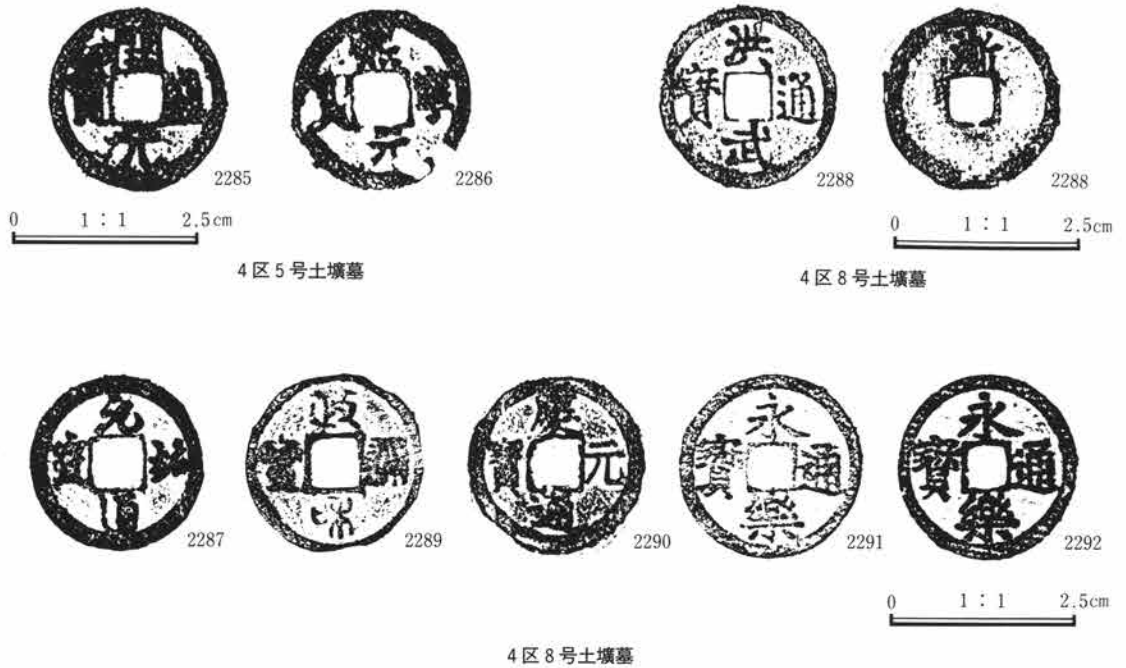


4区4号土墳墓



4区5号土墳墓

第677图 3区2号、4区3・4号土墳墓出土遺物、4区5号土墳墓出土遺物①



第678図 4区5号土墳墓出土遺物②、4区8号土墳墓出土遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2345	3区 2号土墳墓 杯 土師質土器	器高：24mm 口径：117mm 底径：61mm ほぼ完形	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。軟質。浅黄橙。	轆轤整形、左回転。胴部～口縁部は短く、ほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転系切り。内面：口縁部～底部は回転で。	
2346	杯 土師質土器	器高：27mm 口径：112mm 底径：64mm ほぼ完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	轆轤整形、左回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転系切り。内面：口縁部～底部は回転で。	
2347	杯 土師質土器	器高：29mm 口径：111mm 底径：63mm 完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	轆轤整形、左回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転系切り。内面：口縁部～底部は回転で。	
2348	杯 土師質土器	器高：19mm 口径：77mm 底径：48mm 完形	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。浅黄橙。	轆轤整形、左回転。胴部～口縁部は短く、僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転系切り。内面：口縁部～底部は回転で。	内外面の口縁部に一部油煙付着。
2349	杯 土師質土器	器高：20mm 口径：70mm 底径：45mm 完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	轆轤整形、左回転。胴部～口縁部は短く、ほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転系切り。内面：口縁部～底部は回転で。	



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2350	杯 土師質土器	器高：18mm 口径：77mm 底径：49mm ほぼ完形。	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。橙。	轆轤整形、左回転。胴部～口縁部は短く、ほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転で。	
4区 2307	3号土墳墓 五輪塔 空風輪	長：271mm 径：163mm 重：5700.0g。	粗石安山岩。	大型の空風輪。五輪種子の二字あるも、摩滅のため判読できず。縦方向に幅2～3mmの工具痕を3～5mm間隔で全面に残す。	
4区 2275	4号土墳墓 銭			「？」	
2276	銭			北宋、「治平通寶」	
4区 2278	5号土墳墓 銭			明、「永樂通寶」、裏「？」	
2279	銭			北宋、「元祐通寶」	
2280	銭			北宋、「紹聖元寶」	
2281	銭			唐、「開元通寶」	
2282	銭			北宋、「聖宋元寶」	
2283	銭			明、「永樂通寶」	
2284	銭			明、「永樂通寶」	
2285	銭			唐、「開元通寶」	
2286	銭			北宋、「熙寧元寶」	
4区 2287	8号土墳墓 銭			北宋、「元祐通寶」	
2288	銭			明、「洪武通寶」、裏「浙」	
2289	銭			北宋、「政和通寶」	
2290	銭			南宋、「慶元通寶」	
2291	銭			明、「永樂通寶」	
2292	銭			明、「永樂通寶」	

## 土 坑

### 概 要

25地区からは300基以上の土坑が検出されている。多くの土坑の覆土に榛名山二ツ岳の火山灰の混入が見られる。しかし、榛名山二ツ岳の火山灰の混入が古墳時代を示すものではない。なぜならば、25地区で住居跡などが検出された上層の遺構検出面は、井野川の氾濫によると考えられる土層であり、この氾濫層のなかには多量の榛名山の火山灰を含んでいるからである。即ち、榛名山の二ツ岳の火山灰を多量に含んだ層が地山であり、この地山を掘り込んで遺構が造られ、覆土にもこの土が入ると考えられるからである。また、下層の水田検出面の地山は浅間山のC軽石を含む黒褐色土であり、下層まで掘り込んでいる土坑の多くは浅間山のC軽石を含む。

榛名山の火山灰を含む土坑の多くは、他の遺構との関係などから、奈良時代～平安時代の土坑と考えられる。形態的には、円形・楕円形の土坑が多い。長方形の土坑には浅間山のB軽石が含まれる場合が多く、中世の土坑と考えられる。軟質陶器の鉢や内耳鍋の出土している4区128・214号土坑5区22号土坑や銭「周元通寶」が出土している4区222号土坑もある。近世の土坑は殆ど無いと考えられ、大部分の土坑が古代～中世の土坑である。

区番号	平面形	長軸方位	規 模(m)		遺 物	備 考	遺構図 番号	
			長軸×短軸×深さ					
4	1 長方形	N-63°-W	1.58×0.62×0.35		須恵器椀(2262)		679	
4	2 円形		1.62×1.60×0.58		土釜(2263)	角閃石安山岩を含む。	679	
4	3 楕円形		1.34×1.02×0.66		須恵器杯(2264)・土師質土器杯(2265)		679	
5	6 不整楕円形	N-25°-E	1.34×1.20×0.58		土師器・須恵器の小破片。		680	
5	21 不整楕円形		1.36×1.16×0.56		土師器・須恵器の小破片。	覆土上層に角閃石安山岩物を含む。	680	
5	22 楕円形		1.62×1.12×0.58		須恵器椀(2308)・軟質陶器(2309)・陶器(2310)	上層に角閃石安山岩を含む。	680	
5	23 円形		1.40×0.72		鉄製紡錘車(2352)	角閃石安山岩を含む。	680	
5	24 楕円形		N-57°-W	3.58×2.48×0.46		羽釜(2311)	角閃石安山岩を含む。	680
5	25 不整長方形		—×1.54×0.43		土師器甕(2312)	角閃石安山岩を含む。	681	
5	26 円形		1.10×0.78		土師器・須恵器の小破片。	覆土上層に角閃石安山岩を含み灰と暗褐色土の互層。	680	
5	27 円形		1.10×0.37		土師器・須恵器の小破片。		681	
5	28 不整楕円形		1.64×1.36×0.55		土師器・須恵器の小破片。		681	
5	29 円形		1.35×0.52		土釜(2313)・鉄製品(2314・2353)	角閃石安山岩を含む。	681	
5	30 不整楕円形	1.26×1.30×1.00		無し。	角閃石安山岩を含む。	681		
5	31 円形	1.00×0.70		無し。	角閃石安山岩を含む。	681		
5	34 不整楕円形	1.78×1.42×0.76		土師器・須恵器の小破片。	上層に角閃石安山岩を含む。	681		
5	37 円形	1.20×0.43		土師器の小破片。		681		
5	38 円形	1.70×0.55		土師器・須恵器の小破片。	5区39土坑より新しい。角閃石安山岩を含む。	682		
5	39 円形	1.55×0.50		土師器・須恵器の小破片。	5区38土坑より古い。角閃石安山岩を含む。	682		
5	42 楕円形	1.14×—×0.44		無し。		682		
5	43 楕円形	1.44×1.36×0.52		無し。		682		
5	47 楕円形	0.96×0.90×0.57		無し。	5区48土坑より古い。角閃石安山岩を含む。	682		

5	48	不明		—×—×0.64	無し。	5区47土坑より新しい。角閃石安山岩を含む。	682
5	50	不整円形		1.10×0.23	無し。		682
5	51	不整楕円形		1.30×1.15×0.30	無し。		682
5	52	不整円形		0.90×0.40	無し。		682
5	53	隅丸長方形?		—×0.83×0.20	須恵器杯(2315)		682
5	54	円形		0.60×0.20	無し。		682
5	55	不明		—×—×0.36	土師質土器杯(2316)		683
5	57	楕円形?		—×1.10×0.34	砥石(2317)	角閃石安山岩を含む。	683
5	58	不整円形		0.92×0.36	鉄製品(2318)	上層に角閃石安山岩を含む。	683
5	59	不整楕円形		2.70×2.32×0.34	土師器・須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	682
5	60	不明		—×—×0.64	須恵器碗(2319)		683
5	61	不明		—×—×0.34	土師器・須恵器の小破片。		683
5	67	不定方形		1.02×0.52	土師器・須恵器の小破片。		683
5	73	不明		—×—×1.26	須恵器碗(2322)	上層に浅間山B軽石、下層に角閃石安山岩を含む。	683
5	75	楕円形		1.28×1.10×0.60	土師器・須恵器の小破片。	F Pを含む。	684
5	76	円形		1.00×0.97	土師器・須恵器・埴輪の小破片。	F Pを含む。	684
5	77	円形		0.96×0.57	土師器・須恵器の小破片。	5区101土坑より新しい。覆土にF P・F Aを含む。	684
5	78	楕円形	N-60°-W	1.50×1.26×0.69	鉄製品(2323・2324)	上層に浅間山B軽石、下層にF Aを含む。	684
5	79	楕円形	N-61°-W	0.92×0.80×0.53	銅製品(2325)		684
5	80	長楕円形		1.20×0.68×0.25	土師器・須恵器の小破片。	F P・F Aを含む。	684
5	81	楕円形		1.42×1.32×0.80	土師質土器杯(2326・2327・2328・2329)、土錘(2330)	F P・F Aを含む。	684
5	82	楕円形		0.92×0.84×0.21	土師器の小破片。	F Pを含む。	685
5	83	不整楕円形		1.56×1.32×0.66	鉄製紡錘車(2331)	上層に浅間山B軽石、下層にF A・F Pを含む。	685
5	84	隅丸長方形	N-54°-W	1.22×1.06×0.63	土師質土器杯(2332・2335)	F Aを含む。	685
5	85	不明		—×—×0.32	土師器・須恵器の小破片。	5区87土坑より古い。	685
5	86	不整円形		1.54×1.03	土師質土器(2333・2334・2336・2337)、砥石(2338)	F A・F Pを含む。	685
5	87	楕円形		1.24×1.10×0.87	土師器・須恵器の小破片。	5区85土坑より新しい。F A・F Pを含む。	685
4	88	楕円形		1.62×1.54×0.46	胴碗(2267)		685
4	89	楕円形	N-30°-E	1.50×1.38×0.73	土師器・須恵器の小破片。	F Pを含む。	685
4	90	楕円形	N-10°-W	1.60×1.44×0.30	土師器の小破片。	F Pを含む。	686
4	91	楕円形		—×1.60×0.26	土師器・須恵器の小破片。	F Pを含む。	686
4	92	楕円形	N-16°-W	1.30×1.16×0.13	土師器・須恵器の小破片。	F Pを含む。	686
5	95	楕円形		1.22×1.02×0.72	土師器・須恵器の小破片。	F A・F Pを含む。	686
5	96	円形		1.16×0.45	土師器・須恵器の小破片。		686
5	98	長方形	N-23°-E	—×0.62×0.17	土師器・須恵器の小破片。	F Pを含む。	686
5	99	楕円形	N-73°-W	1.20×1.00×0.65	土師器・須恵器の小破片。	F A・F Pを含む。	686
5	100	円形		1.06×0.65	土師器・須恵器の小破片。	F A・F Pを含む。	686
5	101	円形		0.72×0.30	無し。	5区77土坑より古い。F A・F Pを含む。	684
5	102	長方形	N-67°-W	1.18×0.60×0.30	無し。		687
5	104	円形		0.84×0.64	無し。		686
5	105	楕円形	N-59°-W	1.30×0.70×0.60	土師器・須恵器の小破片。	F Pを含む。	687
5	106	円形		1.22×0.30	土師器・須恵器の小破片、黒耀石のチップ。	F A・F Pを含む。	687
5	107	不整長方形	N-19°-E	2.12×0.70×0.21	土師器・須恵器の小破片。	浅間山B軽石及びF Pを含む。	687
5	108	円形		0.54×0.34	土師器・須恵器の小破片。	F Pを含む。	687
5	109	楕円形	N-59°-W	0.54×0.44×0.19	無し。	F A・F Pを含む。	687
5	110	円形?		—×0.56	土師器・須恵器の小破片。		687
5	111	楕円形		1.40×1.22×0.70	土師器・須恵器の小破片。	浅間山B軽石及びF A・F Pを含む。	687
5	112	長方形		—×0.54×0.15	土師器・須恵器の小破片。		685

第IV章 発見された遺構と遺物

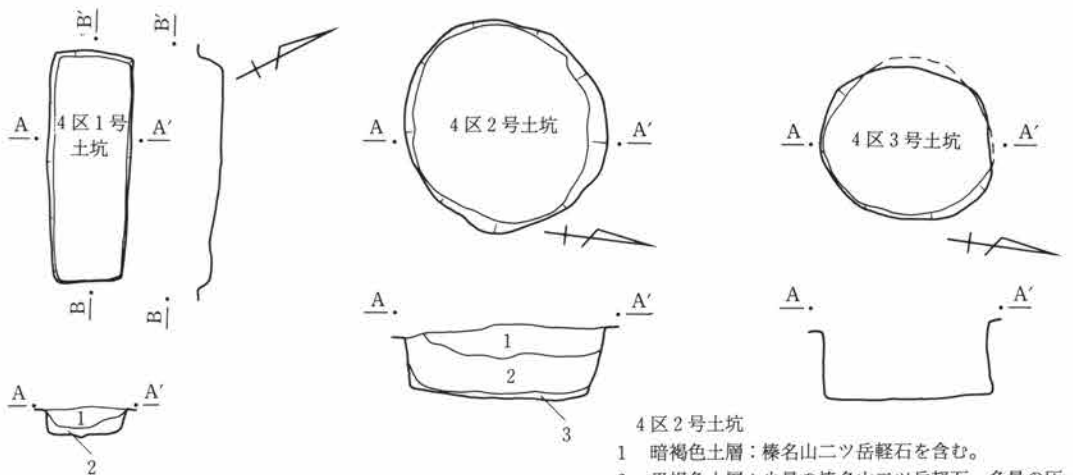
5 113	円形?		—×0.55	土師器・須恵器の小破片。	浅間山B軽石及びFAを含む。	687
5 114	不整円形		1.10×0.54	土師器・須恵器の小破片。	浅間山B軽石及びFA・FPを含む。	687
5 115	長方形?	N-89°-W	—×1.00×0.24	土師器・須恵器の小破片。	浅間山B軽石及びFPを含む。	688
5 116	不明		—×—×0.76	無し。	FA・FPを含む。	685
5 117	楕円形		1.35×—×0.76	無し。	FA・FPを含む。	688
5 119	円形		0.96×0.61	土師器・須恵器の小破片。	FA・FPを含む。	688
5 120	楕円形		1.38×1.26×0.81	土師器・須恵器・灰釉陶器の小破片。	5区132土坑より古い。FA・FPを含む。	688
4 121	長方形?	N-71°-W	2.08×1.06×0.26	無し。	FPを含む。	688
4 122	長方形	N-18°-W	0.86×0.54×0.34	土師器の小破片。	FA・FPを含む。	688
4 124	長楕円形		—×0.78×0.35	須恵器杯(2268・2269・2270)、須恵器?(2271)	FP軽石を含む。	688
4 125	長楕円形	N-14°-E	2.20×1.02×0.56	土師器・須恵器の小破片。	FP軽石を含む。	688
4 126	不整楕円形	N-54°-W	2.20×1.18×0.23	須恵器皿(2272)	軽石を含む。	689
4 128	長方形?		—×—×0.50	須恵器椀(2273)、軟質陶器内耳鍋(2274)	内部に河原石で囲った部分がある。	704
4 129	不定形		1.60×—×0.35	土師器・須恵器の小破片。	軽石を含む。	689
4 130	隅丸長方形	N-64°-W	1.50×1.10×0.17	土師器・須恵器の小破片。	浅間山B軽石・榛名山FAを含む。	689
5 132	不整円形		0.90×0.37	無し。	5区120土坑より新しい。FA・FPを含む。	688
4 133	不整楕円形	N-21°-E	3.04×1.12×0.35	土師器・須恵器の小破片。	浅間山B軽石を含む。	689
4 136	不整長方形	N-24°-E	3.20×0.60×0.16	土師器・須恵器の小破片。	浅間山B軽石・FAを含む。	689
4 137	長方形	N-67°-W	—×1.00×0.15	土師器・須恵器の小破片。	浅間山B軽石を含む。	689
4 138	長方形?		—×0.80×0.25	鉄製品(2277)	FAを含む。	689
5 142	円形		1.46×0.19	土師質土器杯(2339)	FA・FP軽石を含む。	689
4 143	不整楕円形		1.56×1.26×0.16	土師器・須恵器の小破片。	FAを含む。	690
5 144	円形		1.56×0.28	土師器・須恵器の小破片。	FAを含む。	690
5 145	楕円形		1.00×—×0.22	土師器の小破片。		690
5 146	楕円形	N-38°-E	0.92×0.74×0.12	土師器・須恵器の小破片。	FA・FP軽石を含む。	690
5 147	楕円形		1.54×1.44×0.34	土師器・須恵器・灰釉陶器の小破片。		690
5 148	円形		0.84×0.76×0.12	無し。		690
5 149	円形		1.30×0.18	土師器・須恵器の小破片。	FP軽石を含む。	690
5 150	不整円形?		—×0.32	土師器・須恵器・土釜・埴輪の小破片。	FP軽石を含む。	690
4 151	不整円形?		—×0.10	須恵器の小破片。	FA・FP軽石を含む。	690
5 153	円形		1.32×0.76	土師質土器杯(2340)・石製丸玉(2341)	角閃石安山岩を含む。	690
5 154	円形		1.24×0.32	土師器・須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	690
5 155	不整長方形		—×1.92×0.31	土師器・須恵器・灰釉陶器の破片。	浅間山B軽石を含む。	691
4 156	隅丸長方形	N-21°-E	3.26×1.64×0.19	土師器・須恵器の小破片。	浅間山B軽石を含む。	691
4 157	不整円形		0.94×0.18	無し。	FP軽石を含む。	691
5 159	長方形		2.62×1.92×0.10	土師器・須恵器の小破片。	浅間山B軽石を含む。	691
5 160	円形		1.60×0.37	土師器・須恵器の小破片。	FP軽石を含む。	691
5 161	長方形	N-28°-E	1.54×0.70×0.67	土師器の小破片。	FP軽石を含む。	691
5 163	楕円形	N-44°-W	1.16×0.84×0.18	土師器・須恵器の小破片。	FP軽石を含む。	691
5 164	長楕円形	N-70°-W	2.16×0.60×0.23	土師器・須恵器・灰釉陶器の破片。	FP軽石を含む。	691
5 165	楕円形?		—×1.32×0.30	土師器・須恵器の小破片。	浅間山B軽石を含む。	691
4 166	不整楕円形	N-66°-W	1.06×0.90×0.33	土師器・須恵器の小破片。	FP軽石を含む。	692
4 167	楕円形	N-75°-W	0.88×0.60×0.57	土師器・須恵器の小破片。	FP軽石を含む。	692
4 168	長方形?		1.30×0.84×0.16	土師器・須恵器の小破片。		692
4 169	円形		1.18×0.77	土師器・須恵器の小破片。	4区181土坑より新しい。軽石を含む。	692
5 171	楕円形	N-7°-E	0.60×0.50×0.18	土師器・灰釉陶器の小破片。	浅間山B軽石を含む。	692
5 172	円形		0.44×0.13	無し。	浅間山B軽石を含む。	692
5 173	楕円形	N-7°-W	0.60×0.44×0.13	無し。	浅間山B軽石を含む。	692
5 174	不整円形		0.56×0.15	土師器・土師質土器の小破片。		692

5	175	円形		0.90×0.06	無し。	角閃石安山岩を含む。	692
5	176	不整長方形	N-31'-E	0.56×0.48×0.30	土師器・須恵器の小破片。	上層に浅間山B軽石、下層に角閃石安山岩を含む。	692
5	178	楕円形	N-58'-W	0.86×0.73×0.18	無し。	角閃石安山岩を含む。	692
5	179	楕円形	N-37'-E	0.75×0.60×0.15	無し。	角閃石安山岩を含む。	692
4	180	不明		—×—×0.30	土師器・須恵器の小破片。	軽石を含む。	693
4	181	長方形?		—×2.60×0.30	土師器・須恵器・灰釉陶器・土師質土器の小破片、鉄滓。	4区169土坑より古い。FPを含む。	693
4	182	長方形	N-29'-E	2.35×1.16×0.46	土師器・須恵器の小破片。	FPを含む。	692
4	183	楕円形	N-50'-W	0.72×0.52×0.17	無し。		693
4	184	円形		0.58×0.18	無し。		693
4	185	楕円形?		—×1.08×0.17	無し。	FPを含む。	693
4	186	楕円形		0.97×1.05×0.09	無し。		693
4	187	長方形	N-69'-W	1.00×0.62×0.22	無し。		693
4	188	円形		0.56×0.42	土師器・須恵器の小破片。		693
4	189	楕円形?		—×1.16×0.15	無し。		693
5	190	不整楕円形		0.86×0.65×0.22	無し。	5区191土坑より新しい。角閃石安山岩を含む。	693
5	191	楕円形	N-78'-W	0.60×0.46×0.15	無し。	5区190土坑より古い。角閃石安山岩を含む。	693
5	192	不整楕円形	N-53'-W	0.74×0.58×0.18	無し。		693
5	193	楕円形		0.58×0.50×0.18	土師器・須恵器の小破片。	浅間山B軽石・角閃石安山岩を含む。	693
5	194	楕円形		0.68×0.56×0.17	土師器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	693
4	195	長方形?		—×1.00×0.16	無し。	二ツ岳軽石を含む。	692
5	196	不整楕円形	N-76'-W	1.62×0.68×0.08	無し。	角閃石安山岩を含む。	694
4	197	不定形		—×0.76×0.22	無し。	角閃石安山岩を含む。	694
4	198	不整楕円形	N-49'-E	0.95×0.46×0.30	無し。	角閃石安山岩を含む。	694
5	199	楕円形?		—×—×0.89	土師器・須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	694
4	201	長方形	N-29'-E	1.50×1.48×0.29	土師器・須恵器の小破片。	4区203土坑より新しい。角閃石安山岩を含む。	694
4	202	不明		—×—×0.12	陶器ミニチュア杯(2293)	4区203土坑より新しい。角閃石安山岩を含む。	694
4	203	不明		—×1.28×0.13	土師器・須恵器の小破片。	4区201・202土坑より古い。角閃石安山岩を含む。	694
4	205	楕円形	N-63'-W	1.04×0.96×0.43	土師器・須恵器の小破片。	FP・角閃石安山岩を含む。	694
4	206	不整楕円形		1.46×1.37×0.44	須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	694
5	207	楕円形	N-35'-W	1.56×1.20×0.40	土師器・須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	694
4	209	不整長方形	N-19'-E	1.10×0.70×0.20	無し。	角閃石安山岩を含む。	694
4	210	不整楕円形		1.60×1.20×0.19	無し。	FP・角閃石安山岩を含む。	695
4	211	楕円形		1.01×0.96×0.29	土師器・須恵器の小破片。	FP・角閃石安山岩を含む。	695
4	212	不整長方形?		—×0.52×0.16	無し。		695
4	213	不整楕円形	N-14'-W	1.70×1.00×0.12	無し。	角閃石安山岩を含む。	695
4	214	長方形?		3.30×0.74×0.21	軟質陶器内耳鍋(2297)	4区225・226土坑と同一。角閃石安山岩を含む。	695
4	215	不定形		1.32×0.94×0.12	無し。	角閃石安山岩を含む。	695
4	216	不整楕円形		1.13×0.83×0.36	土師器・須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	695
4	217	不定形		0.90×0.55×0.24	灰釉陶器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	695
4	218	不整長方形	N-24'-E	1.32×0.82×0.36	無し。	FP・角閃石安山岩を含む。	695
4	219	楕円形?		—×0.75×0.11	須恵器椀(2294)	角閃石安山岩を含む。	695
4	220	楕円形	N-27'-E	0.90×0.82×0.56	無し。	角閃石安山岩を含む。	695
4	221	長方形?		—×0.62×0.47	無し。	角閃石安山岩を含む。	696
4	222	長方形?		—×0.70×0.37	銭「周元通寶」(2295)	浅間山B軽石・角閃石安山岩を含む。	696
4	223	楕円形	N-76'-W	1.50×1.20×0.49	砥石(2296)	FA小ブロックを含む。	696
4	224	不整長方形	N-65'-W	1.82×0.70×0.29	土師器・須恵器の小破片。		696
4	228	不整楕円形		0.88×0.80×0.32	土師器・須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	696
4	230	不整楕円形	N-64'-W	1.47×0.90×0.40	須恵器甕(2298)	4区233土坑より古い。角閃石安山岩を含む。	696

第IV章 発見された遺構と遺物

4	233	不明		—×—×0.40	土師器・須恵器の小破片。	4区230土坑より新しい。	696
4	235	長方形	N-22°-E	0.60×0.47×0.20	土師器・須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	696
4	236	不整長方形	N-26°-E	0.70×0.51×0.27	土師器・須恵器・灰釉陶器の破片。	角閃石安山岩を含む。	696
4	237	不整円形		0.68×0.19	無し。		696
4	238	不整楕円形	N-65°-W	0.70×0.51×0.27	土師器・須恵器の小破片。		696
4	239	長方形		2.46×0.60×0.32	土師器・須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	696
5	240	円形?		1.26×0.31	無し。	角閃石安山岩を含む。	696
5	241	楕円形	N-12°-E	1.48×1.30×0.67	土師器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	697
5	242	不整長方形		0.82×0.78×0.11	無し。		697
5	243	楕円形		2.05×1.80×0.69	無し。	5区15号住居より古い。角閃石安山岩を含む。	697
5	244	楕円形		1.17×1.12×0.12	土師器の小破片。		697
5	245	不整楕円形?		1.80×—×0.12	須恵器碗(2299)		697
5	246	不明		—×—×0.47	土師器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	697
5	247	円形		1.12×0.52	土師器・須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	697
5	248	円形		0.60×0.18	土師器の小破片。	5区249土坑より古い。角閃石安山岩を含む。	697
5	249	円形?		1.64×0.53	鉄製品(2343・2344)	5区248土坑より新しい。角閃石安山岩を含む。	697
5	250	円形		0.60×0.67	土師器・須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	697
5	253	楕円形	N-76°-E	0.62×0.54×0.61	須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	698
5	255	円形		4.48×0.59	土師器・須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	698
5	256	円形		1.08×0.50	土師器・須恵器の小破片。	5区258土坑より新しい。角閃石安山岩を含む。	698
5	258	不明		—×—×0.66	無し。	5区256土坑より古い。角閃石安山岩を含む。	698
5	259	楕円形	N-43°-W	1.70×1.48×0.68	土師器・須恵器の小破片。		698
4	261	楕円形	N-52°-W	0.68×0.53×0.30	土師器・須恵器の小破片。		698
4	262	円形		0.62×0.27	土師器・須恵器の小破片。		698
4	264	長方形	N-19°-E	0.65×0.54×0.11	無し。		698
4	265	楕円形	N-19°-E	1.03×0.58×0.32	無し。		698
4	266	楕円形		0.51×0.48×0.12	須恵器碗(2300)		698
4	268	円形		0.68×0.44	無し。	角閃石安山岩を含む。	698
4	270	円形		1.50×0.41	土師器・須恵器・羽釜の小破片。		698
4	271	不整円形		0.82×0.40	土師器の小破片。		698
4	272	円形		1.35×1.26	無し。	F Pを含む。	699
4	274	不整楕円形		1.15×0.50×0.12	無し。	角閃石安山岩を含む。	699
4	275	不整楕円形		—×1.18×0.26	土師器・須恵器の小破片。		699
4	278	不整楕円形		0.65×0.61×0.21	土師器・須恵器の小破片。		699
4	279	楕円形	N-6°-E	0.74×0.60×0.54	無し。	角閃石安山岩を含む。	699
4	280	不整長方形		1.98×0.66×0.23	鉄製品(2301)		699
4	281	楕円形		0.52×0.44×0.58	無し。	F Pを含む。	699
4	286	楕円形	N-56°-W	0.43×0.32×0.42	無し。		699
4	287	楕円形	N-22°-E	0.53×0.34×0.25	無し。	F Pを含む。	699
4	288	楕円形?		—×—×0.71	無し。		699
4	289	不整長方形		2.02×1.14×0.41	土師器の小破片。		699
4	291	楕円形?		—×—×0.64	無し。	角閃石安山岩を含む。	699
4	292	不整楕円形		0.98×0.74×0.30	無し。	角閃石安山岩を含む。	699
4	293	楕円形	N-46°-W	0.64×0.40×0.37	土師器・須恵器の小破片。		700
4	294	楕円形	N-6°-E	0.43×0.30×0.23	土師器・須恵器の小破片。		700
4	295	長方形		—×1.28×0.10	無し。	F P・角閃石安山岩を含む。	700
4	296	長方形	N-63°-W	0.43×0.30×0.23	土師器・須恵器の小破片。		700
4	297	不整楕円形		0.70×0.62×0.16	土師器・須恵器の小破片。		700
4	299	長方形	N-24°-E	3.40×0.62×0.16	土師器・須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	700
4	300	長方形		—×0.80×0.16	土師器の小破片。	浅間山A軽石を含む。	700
4	301	円形		0.56×0.17	無し。		700
4	302	不整楕円形		0.56×0.54×0.17	無し。		700
4	303	楕円形		0.80×0.56×0.12	無し。		700
4	304	長方形		—×1.03×0.17	無し。		700

4	305	長方形	N-58°-W	1.54×1.08×0.08	無し。		700
4	306	長方形	N-14°-E	1.90×0.84×0.33	無し。		701
4	307	不整長方形	N-9°-W	0.78×0.48×0.10	須恵器の小破片。		701
4	308	長方形	N-28°-E	3.58×1.08×0.34	土師器・須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	701
4	309	長方形	N-18°-E	2.36×0.62×0.26	土師器・須恵器の小破片。		701
4	311	楕円形?		0.60×-×0.38	無し。	角閃石安山岩を含む。	701
4	315	長方形		2.02×0.68×0.20	須恵器・灰釉陶器の小破片。		701
4	316	楕円形		0.76×0.64×0.28	土師器・須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	701
4	317	楕円形	N-24°-E	0.90×0.72×0.10	須恵器皿(2303)		701
4	320	円形		0.66×0.14	須恵器皿(2304)		701
4	321	長方形	N-64°-W	-×0.90×0.19	土師器・須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	701
4	322	楕円形	N-10°-W	1.64×0.70×0.23	無し。		701
4	323	不整円形		0.48×0.20	土師器・須恵器の小破片。		702
4	324	長方形	N-65°-W	1.26×0.82×0.34	無し。	角閃石安山岩を含む。	702
4	325	楕円形	N-29°-W	0.94×0.64×0.24	無し。	角閃石安山岩を含む。	702
4	326	円形?		0.76×0.17	無し。	角閃石安山岩を含む。	702
4	327	長方形	N-10°-W	2.42×1.44×0.12	土師器・須恵器・灰釉陶器の破片。	角閃石安山岩を含む。	702
4	328	楕円形		0.44×0.40×0.19	無し。	角閃石安山岩を含む。	702
4	329	楕円形		0.40×0.34×0.17	無し。	角閃石安山岩を含む。	702
4	330	楕円形	N-46°-W	1.00×0.70×0.29	須恵器皿(2305)		702
4	332	楕円形	N-70°-W	0.72×0.62×0.26	無し。	角閃石安山岩を含む。	702
4	334	円形		0.42×0.09	土師器の小破片。		702
4	337	不定形		0.90×0.64×0.57	無し。	角閃石安山岩を含む。	702
4	338	不整楕円形		-×0.92×0.16	土師器の小破片。		702
4	339	長方形	N-58°-W	0.98×0.68×0.23	土師器・須恵器の小破片。		702
4	341	円形		1.20×0.33	土師器杯(2306)	浅間山C軽石を含む。	703
4	342	長方形?		-×0.56×0.61	土師器・須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	703
4	343	円形?		-×0.68	土師器・須恵器の小破片。	角閃石安山岩を含む。	703
4	345	円形		1.04×0.08	土師器・須恵器の小破片。	浅間山C軽石を含む。	703
5	347	不整楕円形		1.20×1.00×0.17	土師器・須恵器の小破片。		703
5	348	不定形		1.44×0.90×0.26	土師器・須恵器の小破片。		703
4	349	長楕円形	N-64°-W	2.80×1.20×0.10	無し。		703



- 4区1号土坑
- 1 暗褐色土層：少量の炭化物を含む。
  - 2 褐色土層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む。

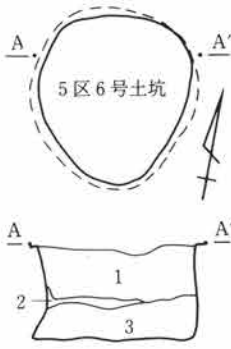
4区2号土坑

- 1 暗褐色土層：榛名山ニツ岳軽石を含む。
- 2 黒褐色土層：少量の榛名山ニツ岳軽石、多量の灰・炭化物を含む。
- 3 暗褐色土層：少量の灰を含む。

第679図 4区1・2・3号土坑

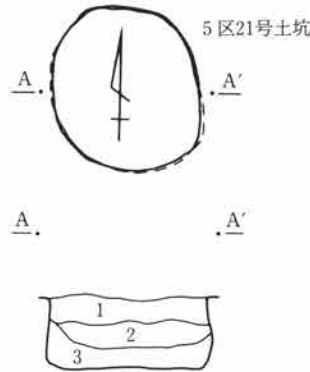
0 1 : 60 1.5m





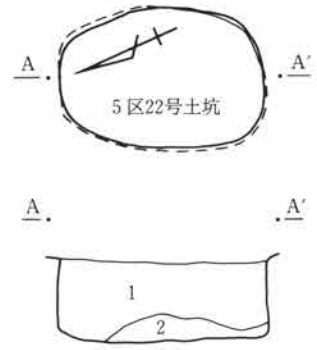
5区6号土坑

- 1 褐色砂質土層：少量の炭化物を含む。
- 2 炭化物・灰層。
- 3 暗褐色砂質土層：やや多量の炭化物を含む。



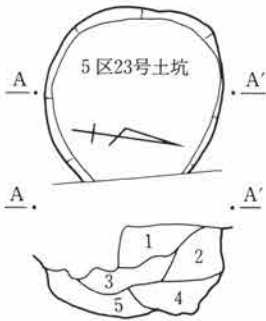
5区21号土坑

- 1 暗褐色砂質土層：少量の榛名山ニツ岳軽石・炭化物を含む。
- 2 灰褐色砂質土層：榛名山ニツ岳軽石・炭化物を含む。
- 3 灰褐色砂質土層：軽石・炭化物を含まず、固くしまっている。



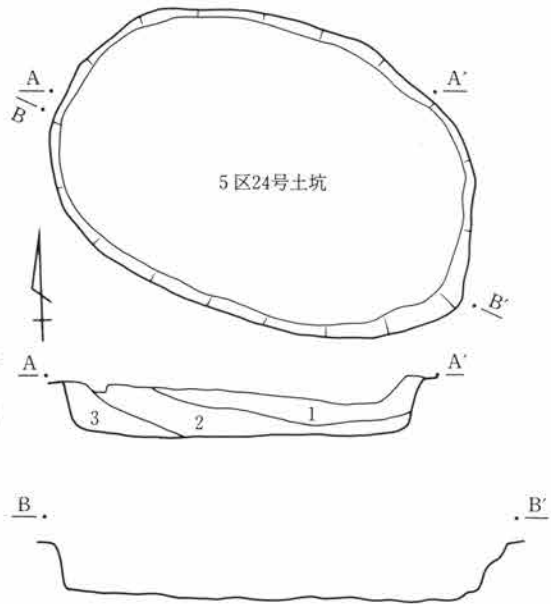
5区22号土坑

- 1 暗褐色砂質土層：少量の榛名山ニツ岳軽石・灰色粘質土小ブロックを含む。
- 2 暗褐色土層：少量のニツ岳軽石・焼土小ブロックを含む。



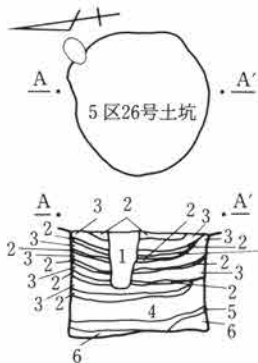
5区23号土坑

- 1 暗褐色土層：榛名山ニツ岳軽石を含む。
- 2 暗褐色土層：榛名山ニツ岳軽石及びやや多量の炭化物を含む。
- 3 黒褐色土層：少量の榛名山ニツ岳軽石及びやや多量の炭化物を含む。
- 4 黒褐色土層：多量の灰・炭化物を含む。
- 5 暗褐色土層：灰・炭化物及びローム小ブロックを含む。



5区24号土坑

- 1 褐色土層：少量の榛名山ニツ岳軽石及びローム小ブロック・灰色粘質土小ブロックを含む。
- 2 暗褐色土層：少量の黒褐色土小ブロック・灰色粘質土小ブロックを含む。
- 3 黒褐色土：粒子は細かいが粘性は弱い。



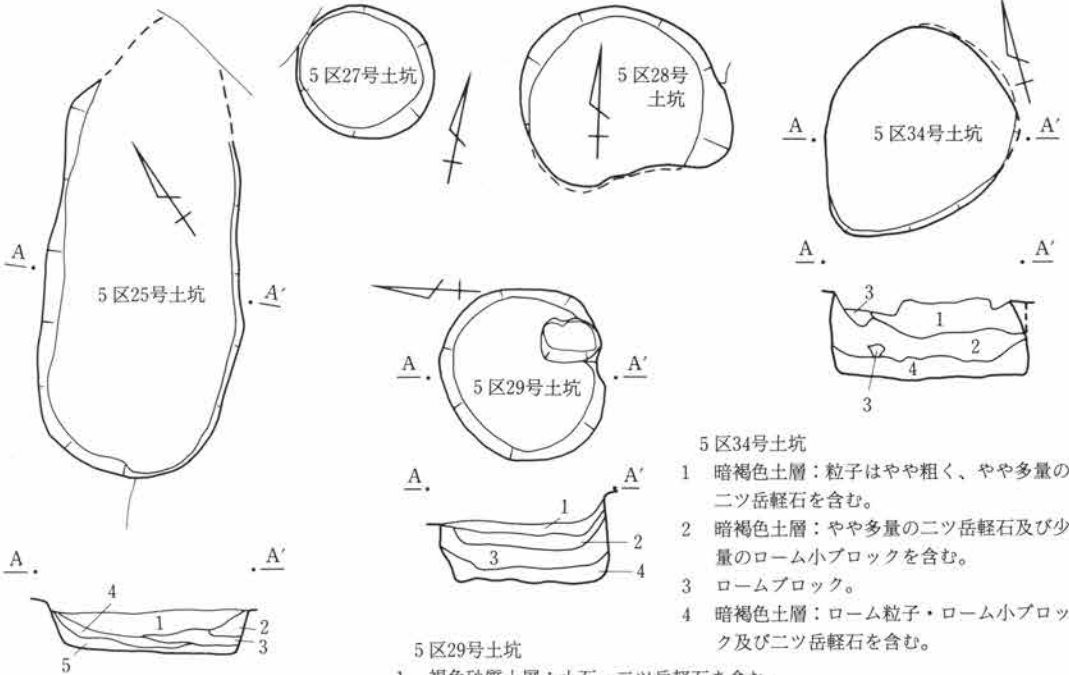
5区26号土坑

- 1 攪乱。
- 2 灰・炭化物層。
- 3 暗褐色土層：少量の榛名山ニツ岳の軽石を含む。
- 4 暗褐色土層：少量の榛名山ニツ岳の軽石及び少量の焼土粒子を含む。
- 5 灰白色土層：多量の灰を含む。
- 6 灰褐色土層：粒子は比較的細かく、やや粘性がある。

0 1 : 60 1.5m

第680図 5区6・21・22・23・24・26号土坑





5区25号土坑

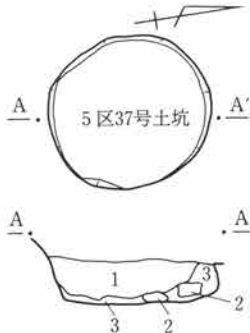
- 1 暗褐色土層：少量の炭化物及び少量の灰白色粘土ブロックを含む。
- 2 黄褐色土層：少量の炭化物及びやや多量のローム粒子・ローム小ブロックを含む。
- 3 暗褐色土層：多量の炭化物・焼土を含む。
- 4 灰白色土層：多量の灰を含む。
- 5 暗褐色土層：少量の二ツ岳軽石を含む。

5区29号土坑

- 1 褐色砂質土層：小石・二ツ岳軽石を含む。
- 2 暗褐色砂質土層：少量の二ツ岳軽石を含む。
- 3 暗褐色砂質土層：焼土及びやや多量の灰を含む。
- 4 暗褐色土層：粒子は比較的細かく、少量の焼土粒子を含む。

5区34号土坑

- 1 暗褐色土層：粒子はやや粗く、やや多量の二ツ岳軽石を含む。
- 2 暗褐色土層：やや多量の二ツ岳軽石及び少量のローム小ブロックを含む。
- 3 ロームブロック。
- 4 暗褐色土層：ローム粒子・ローム小ブロック及び二ツ岳軽石を含む。



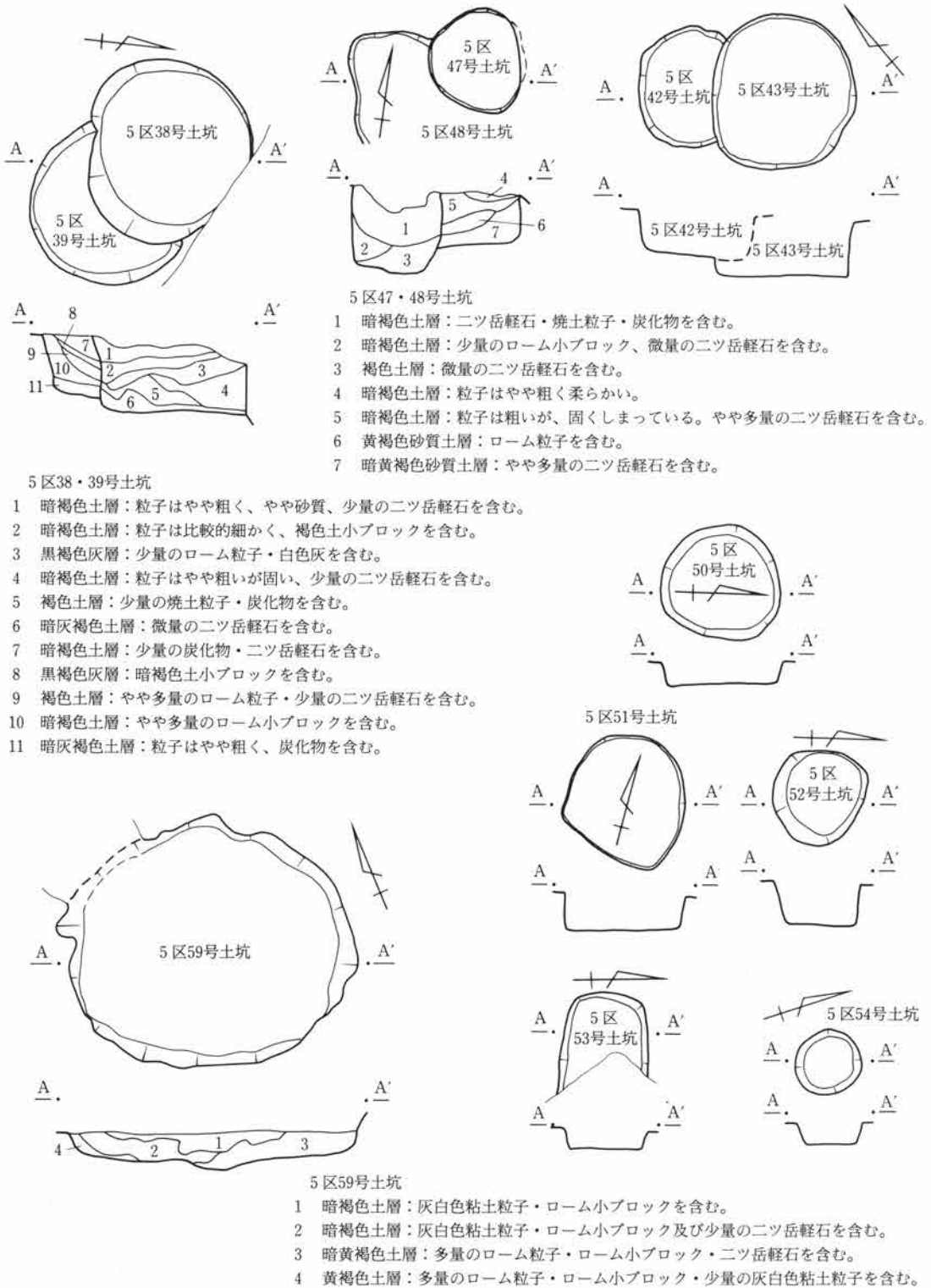
5区37号土坑

- 1 暗褐色土層：ローム小ブロック・二ツ岳軽石・焼土粒子・炭化物を含む。
- 2 ロームブロック。
- 3 褐色土層：多量のローム粒子・ローム小ブロックを含む。

5区30・31号土坑

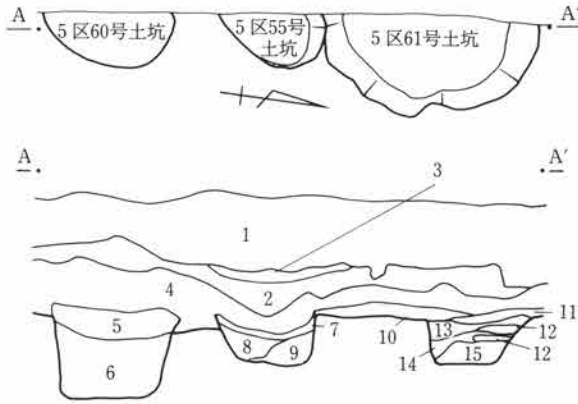
- 1 耕作土。
- 2 暗褐色土層：少量の軽石・焼土粒子・炭化物を含む。
- 3 黄褐色砂質土層：少量の軽石・小石及びローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土層：粒子は比較的細かく、微量の軽石を含む。
- 5 暗褐色砂質土層：少量の二ツ岳軽石・焼土粒子・炭化物を含む。
- 6 暗褐色土層：少量の焼土粒子・炭化物を含む。
- 7 暗褐色土層：多量の焼土粒子・炭化物を含む。
- 8 暗褐色土層：二ツ岳軽石及び少量の焼土粒子・炭化物を含む。
- 9 暗褐色土層：少量の二ツ岳軽石及びやや多量の焼土小ブロック・炭化物を含む。
- 10 暗褐色土層：ローム小ブロックを含む。

0 1:60 1.5m



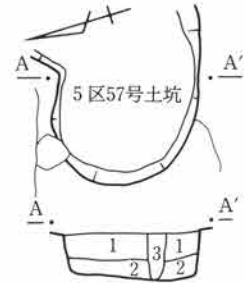
0 1 : 60 1.5m

第682図 5区38・39・42・43・47・48・50・51・52・53・54・59号土坑



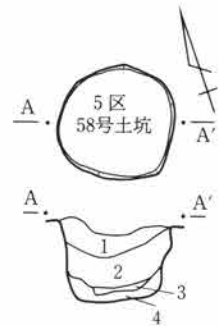
5区55・60・61号土坑

- 1 耕作土。
- 2 灰褐色土層：多量の浅間山B軽石を含む。
- 3 小豆色降灰層：粒子は細かくしまっている。
- 4 暗褐色土層：少量の焼土粒子・炭化物・二ツ岳軽石を含む。
- 5 暗褐色土層：ローム小ブロック・黒褐色土小ブロックを含む。
- 6 暗褐色土層：焼土粒子・炭化物、少量のローム粒子を含む。
- 7 灰褐色土層：粒子はやや粗く、砂質。
- 8 暗褐色土層：砂質。ローム小ブロック・黒褐色土小ブロックを含む。
- 9 暗褐色土層：少量のローム粒子を含む。
- 10 灰褐色土層：黒色灰・炭化物を含む。
- 11 暗褐色土層：少量の炭化物を含む。
- 12 炭化物層。
- 13 暗褐色土層：少量の二ツ岳軽石を含む。
- 14 暗褐色土層：粒子はやや粗く、柔らかい。
- 15 暗褐色土層：少量の焼土粒子を含み、ややしまっている。



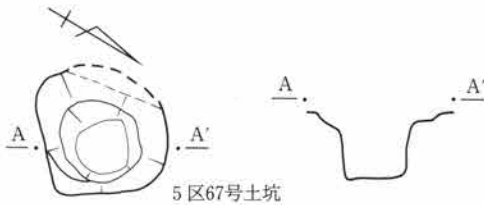
5区57号土坑

- 1 暗褐色土層：やや多量の二ツ岳軽石を含む。
- 2 暗褐色土層：少量のローム粒子、微量の二ツ岳軽石を含む。
- 3 暗灰褐色土層：多量の浅間山B軽石を含む。



5区58号土坑

- 1 暗褐色土層：粒子はやや粗く、二ツ岳軽石を含む。
- 2 暗黄褐色土層：ローム粒子・二ツ岳軽石を含む。
- 3 焼土層。
- 4 暗褐色土・焼土・炭化物の混合。



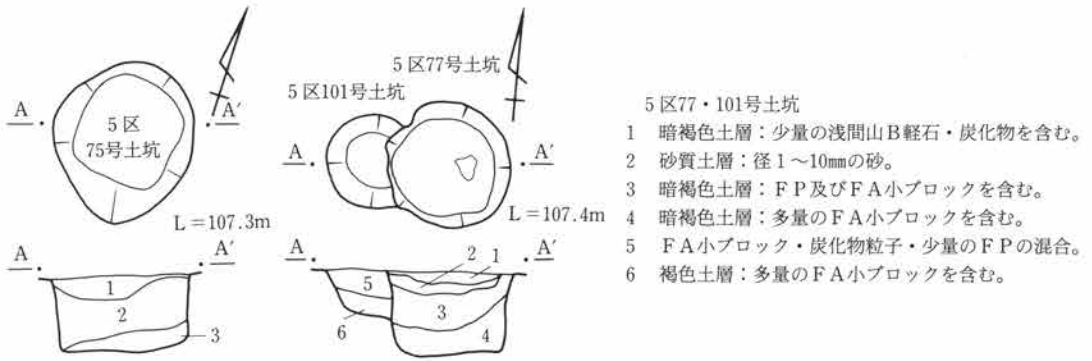
5区67号土坑



5区73号土坑

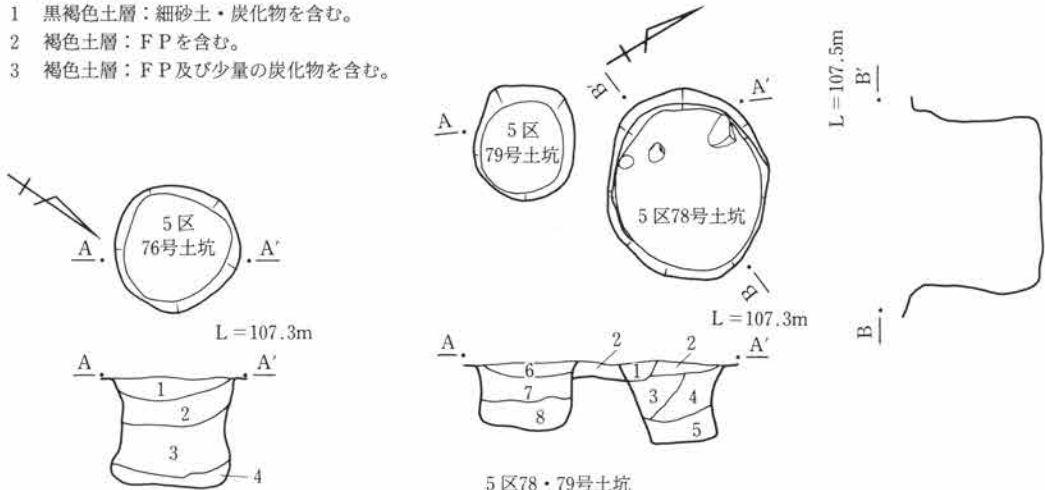
- 1 耕作土。
- 2 暗褐色土層：多量の浅間山B軽石を含む。
- 3 浅間山B軽石・降灰層。
- 4 暗黄褐色土層：ローム粒子・ローム小ブロック及び少量の二ツ岳軽石を含む。
- 5 灰褐色土層：浅間山B軽石を含む。
- 6 褐色土層：ローム小ブロック・暗褐色土ブロック及び少量の焼土粒子・炭化物を含む。
- 7 暗褐色土層：黄褐色土小ブロック及び少量の二ツ岳軽石・焼土粒子を含む。
- 8 黒褐色灰層：黄褐色土小ブロック・焼土粒子を含む。
- 9 暗褐色土層：黒褐色灰・焼土粒子を含む。
- 10 暗褐色土層：二ツ岳軽石・炭化物を含む。
- 11 黒褐色灰層：黄褐色土小ブロックを含む。
- 12 暗褐色土と黄褐色土の混合。

0 1 : 60 1.5m



5区75号土坑

- 1 黒褐色土層：細砂土・炭化物を含む。
- 2 褐色土層：F Pを含む。
- 3 褐色土層：F P及び少量の炭化物を含む。



5区76号土坑

- 1 灰褐色土層：F P及びF A小ブロックを含む。
- 2 暗褐色土層：多量のF Pを含む。
- 3 褐色土層：少量のF P及び多量の炭化物を含む。
- 4 褐色土層：F A小ブロックと炭化物の混合。

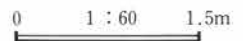


5区80号土坑

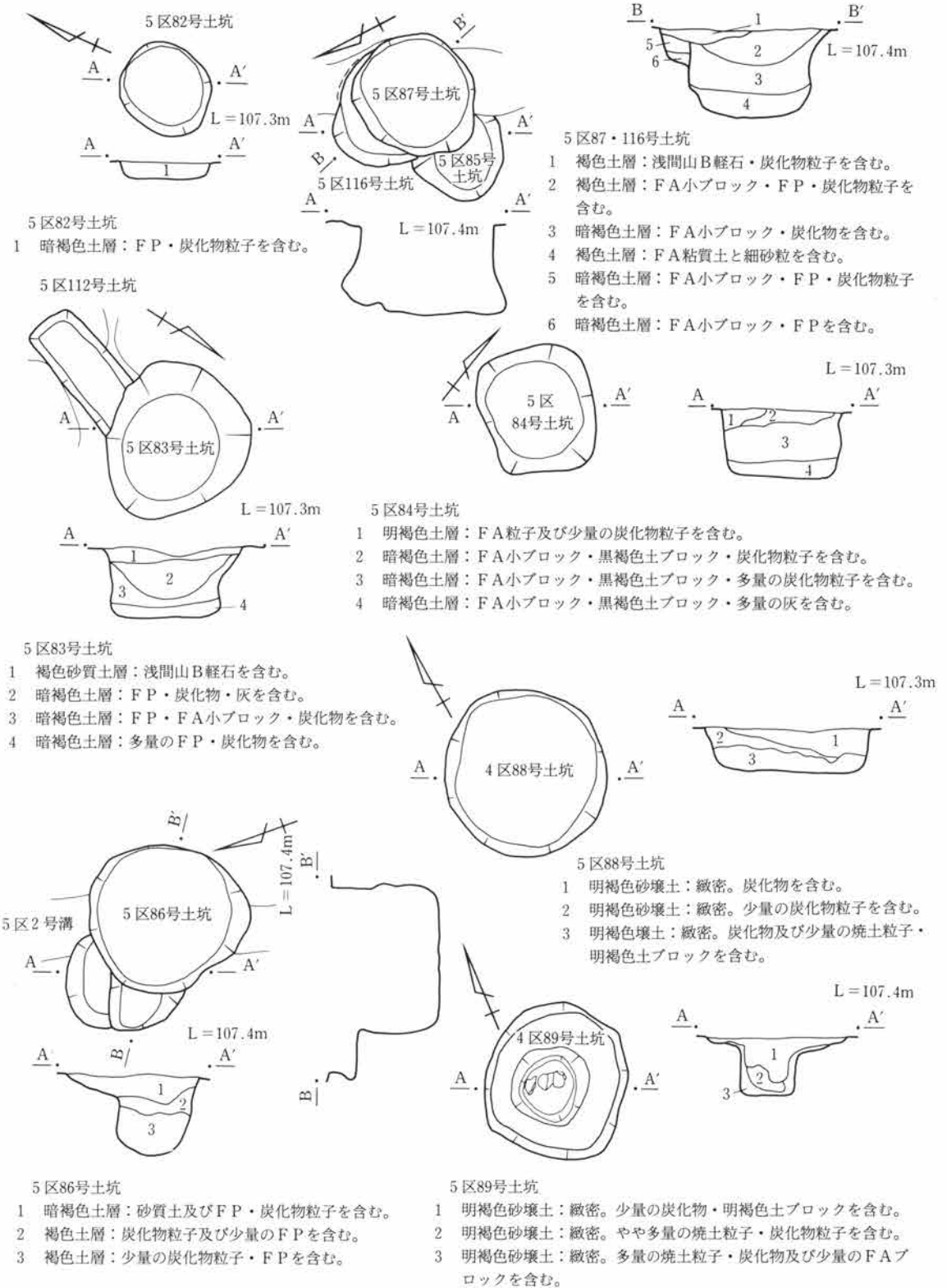
- 1 暗褐色土層：F P・炭化物粒子を含む。
- 2 褐色土層：やや多量のF Aブロック・炭化物を含む。

5区81号土坑

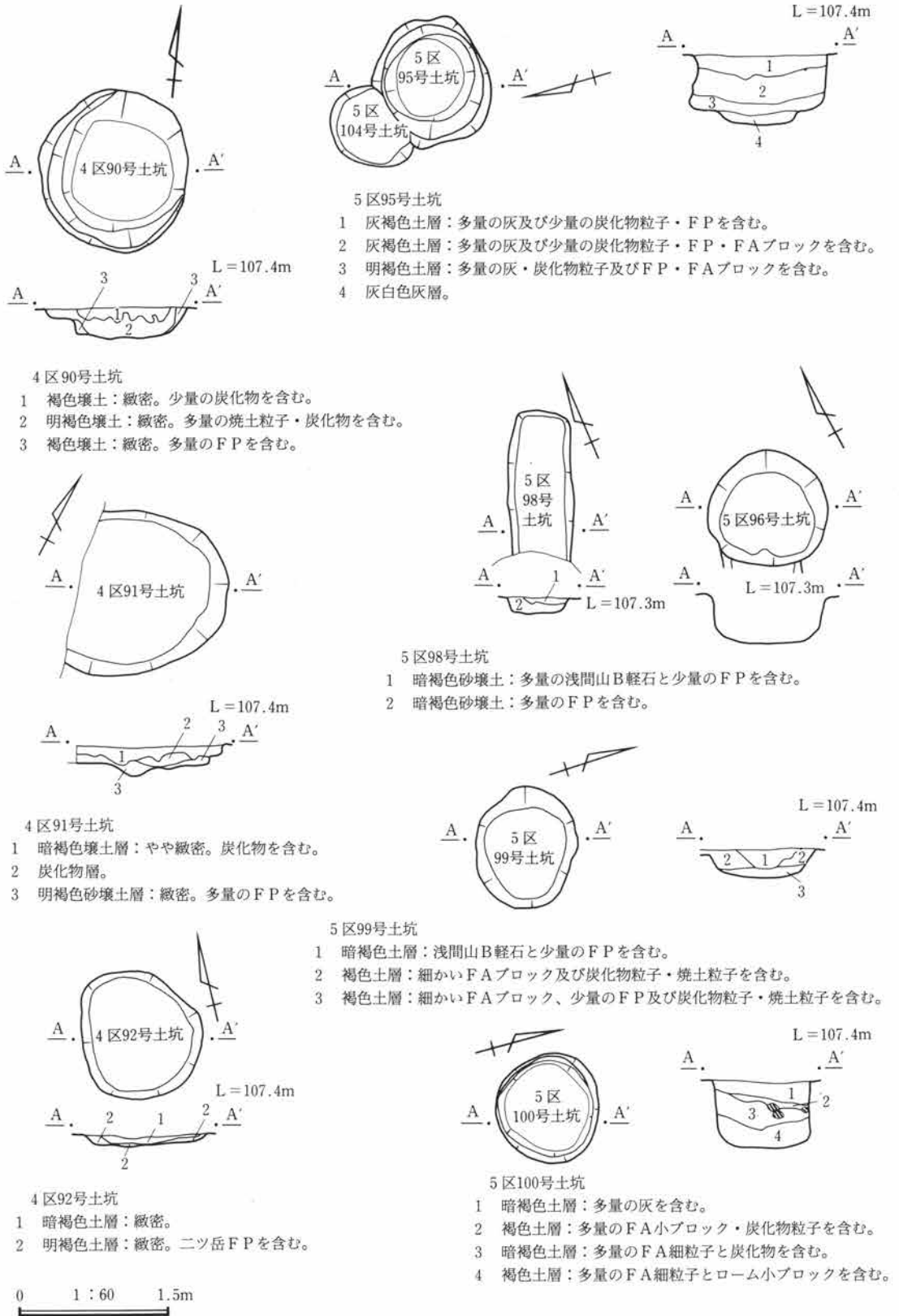
- 1 暗褐色砂質土層：浅間山B軽石を含む。
- 2 青灰色砂質土層：暗褐色砂質土に灰を含む。
- 3 褐色砂質土層：多量のF A小ブロックを含む。
- 4 褐色粘質土層：多量のF A小ブロック・炭化物を含む。
- 5 黒褐色土層：多量の炭化物を含む。
- 6 暗褐色土層：F A小ブロック・F P・炭化物を含む。



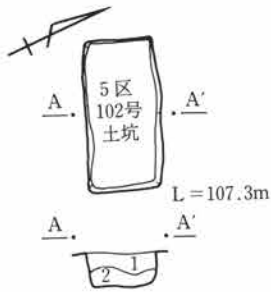
第684図 5区75・77・76・78・79・80・81・101号土坑



第685図 4区88・89・5区82・83・84・85・86・87・112・116号土坑

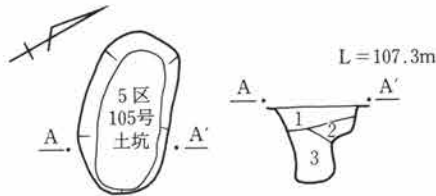


第686図 4区90・91・92・5区95・96・98・99・100・104号土坑



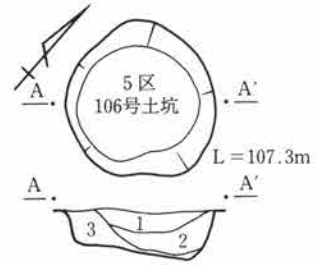
5区102号土坑

- 1 暗褐色土層：浅間山B軽石及び少量の炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層：浅間山B軽石及び少量の炭化物粒子・F Pを含む。



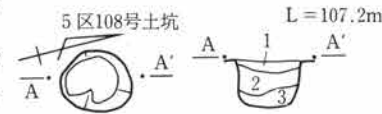
5区105号土坑

- 1 暗褐色土層：灰・炭化物粒子を含む。
- 2 褐色土層：灰・炭化物粒子及び少量のF Pを含む。
- 3 砂利層：拳大の砂利が詰まっている。



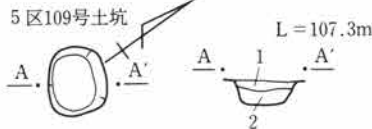
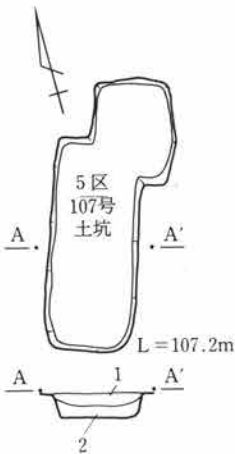
5区106号土坑

- 1 暗褐色土層：F Aの細砂土に炭化物粒子・少量のF Pを含む。
- 2 褐色土層：細砂土に炭化物粒子を含む。
- 3 褐色土層：細砂土に炭化物粒子・F Pを含む。



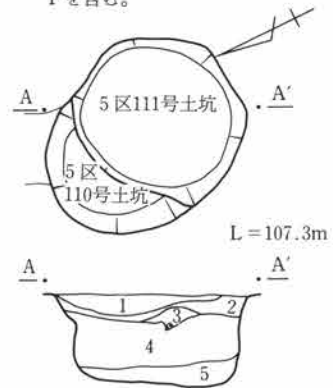
5区108号土坑

- 1 暗褐色土層：細砂土にF P・炭化物粒子を含む。
- 2 褐色土層：細砂土に少量の炭化物粒子を含む。
- 3 褐色土層：粘性の強い細砂土。



5区109号土坑

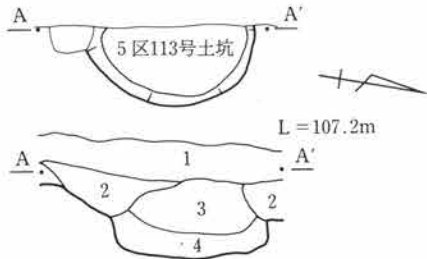
- 1 暗褐色土層：F Aの細砂土にF P・灰を含む。
- 2 褐色土層：粘性の強い細砂土。



5区111号土坑

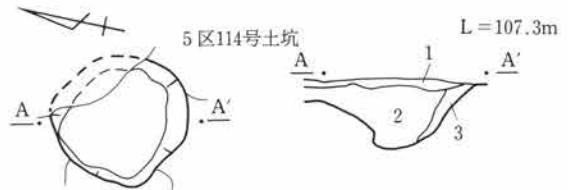
- 1 攪乱。
- 2 明褐色砂質土層：多量の浅間山B軽石・少量のF Pを含む。
- 3 褐色土層：F A小ブロックに少量のF Pを含む。
- 4 暗褐色土層：細砂土に炭化物・灰を含む。
- 5 灰白色土層：灰の純層に炭化物粒子を含み、互層をなしている。

- 5区107号土坑
- 1 暗褐色土層：浅間山B軽石・少量の細砂土を含む。
  - 2 暗褐色土層：浅間山B軽石・F P・多量の細砂土を含む。



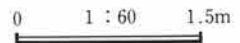
5区113号土坑

- 1 耕作土層。
- 2 褐色土層：F Aを含む砂質土と浅間山B軽石の混合。
- 3 暗褐色土層：細砂土に少量のF P・炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土層：細砂土にF A小ブロック・焼土・炭化物粒子を含む。

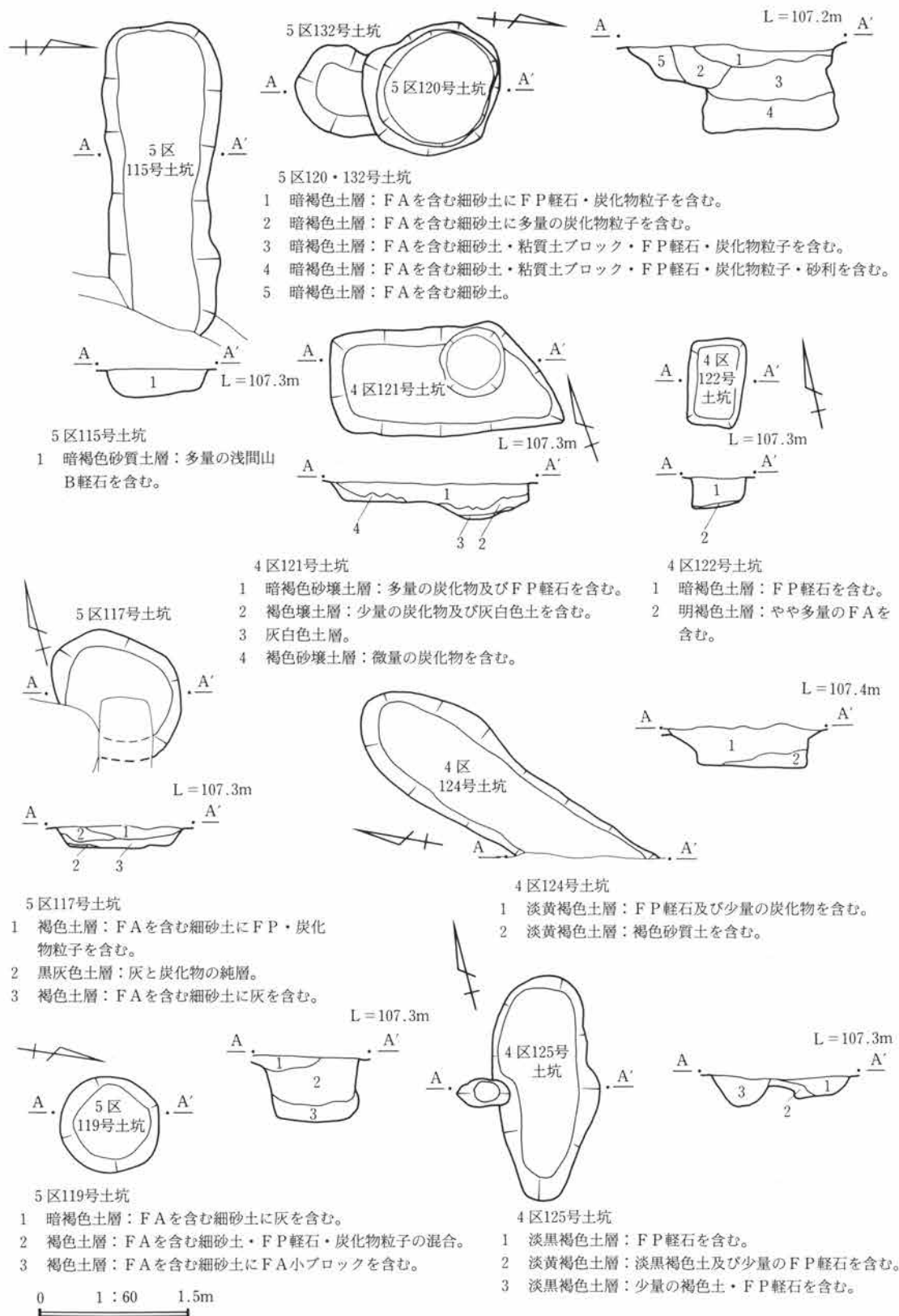


5区114号土坑

- 1 暗褐色砂質土層：多量の浅間山B軽石、少量のF P・炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層：多量のF A小ブロック・F P・炭化物を含む。
- 3 褐色土層：F Aを含む細砂土にF Pを含む。

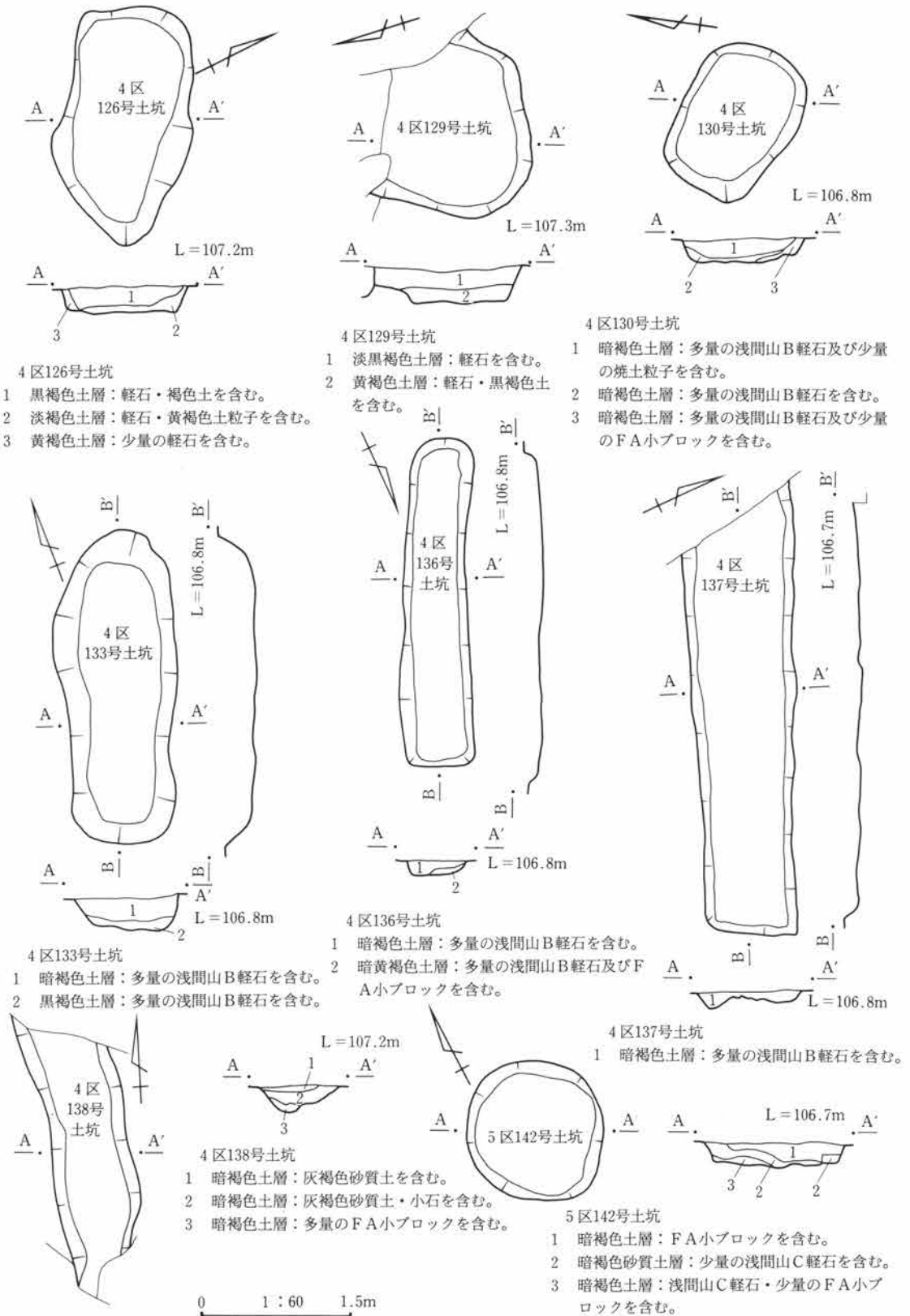


第IV章 発見された遺構と遺物

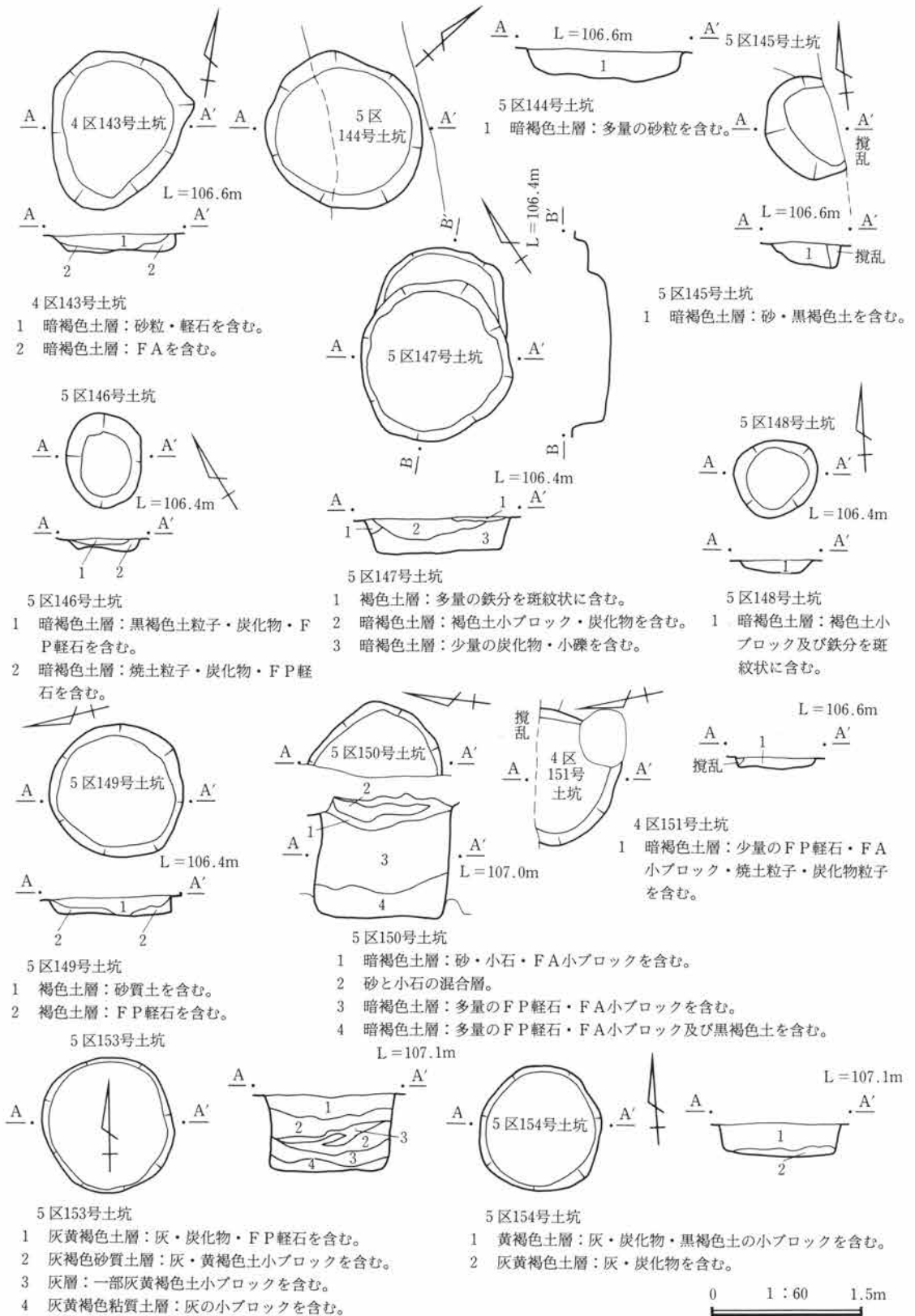


第688図 4区121・122・124・125、5区115・117・119・120・132号土坑

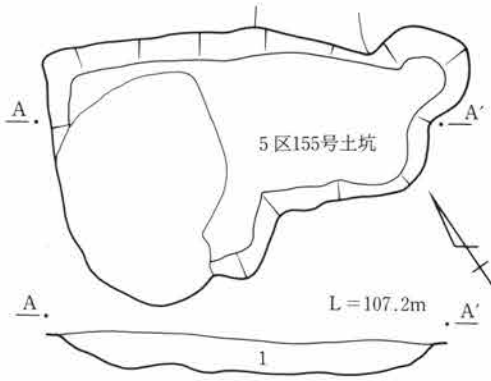




第689図 4区126・129・130・133・136・137・138号、5区142号土坑

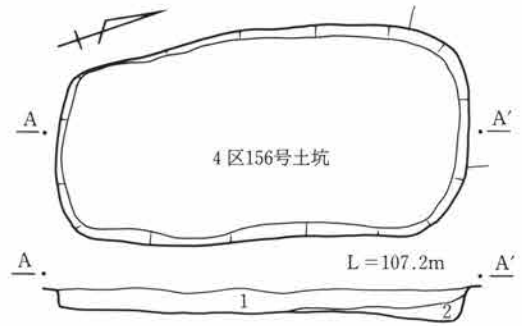


第690図 4区143・151号、5区144・145・146・147・148・149・150・153・154号土坑



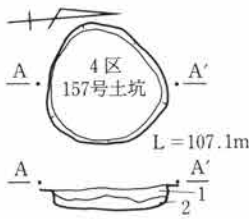
5区155号土坑

- 1 黄褐色土層：多量の浅間山B軽石を含む。



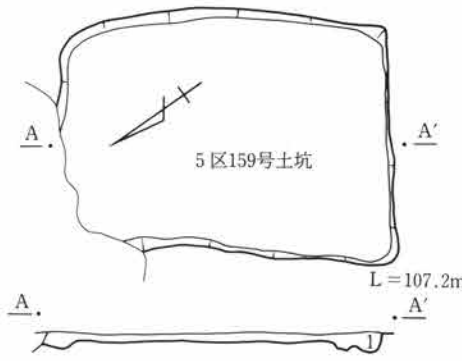
4区156号土坑

- 1 灰黄褐色土層：多量の浅間山B軽石を含む。  
2 灰褐色土層：F P 軽石を含む。



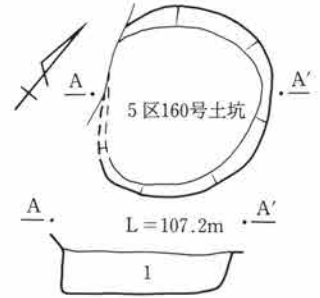
4区157号土坑

- 1 黄褐色土層：灰・炭化物・黒褐色土の小ブロック及びF Pを含む。  
2 灰黄褐色土層：やや多量の灰・炭化物を含む。



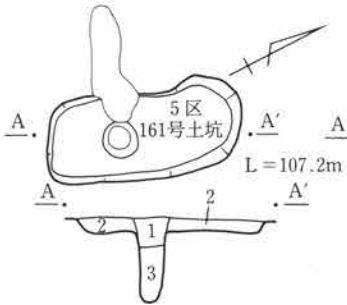
5区159号土坑

- 1 灰褐色土層：多量の浅間山B軽石及び黄褐色土小ブロックを含む。



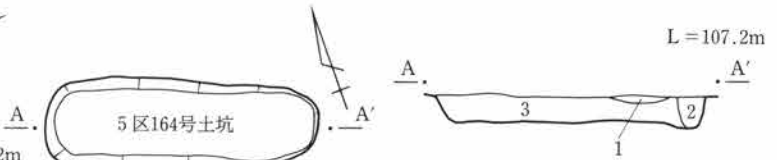
5区160号土坑

- 1 褐色土層：F P・黒褐色土小ブロックを含む。



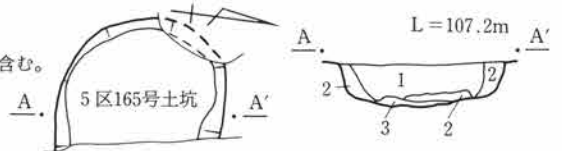
5区161号土坑

- 1 灰褐色土層：F Pを含む。  
2 灰褐色土層：F P・細砂土及び灰黄褐色土小ブロックを含む。  
3 黄褐色砂質土：黒褐色土粒子を含む。



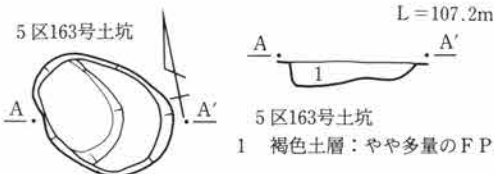
5区164号土坑

- 1 灰褐色土層。  
2 黒褐色土層：F P・灰を含む。  
3 黄褐色土層：F A小ブロック・F P及び灰・炭化物を含む。



5区165号土坑

- 1 黒褐色土層：多量の浅間山B軽石及び褐色土小ブロックを含む。  
2 褐色砂質土層：黒褐色土小ブロックを含む。  
3 黄褐色土層：褐色砂質土を含む。



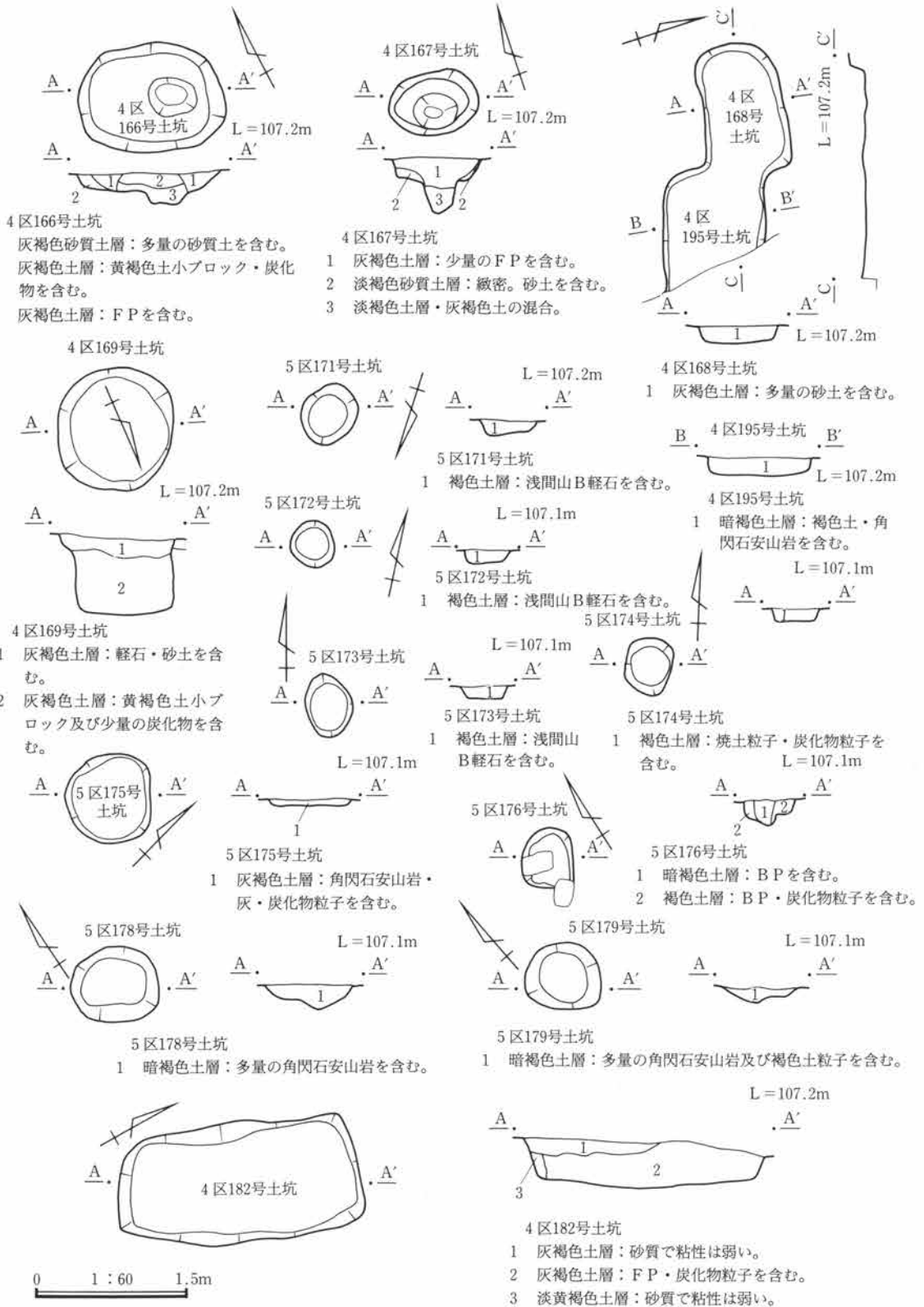
5区163号土坑

5区163号土坑

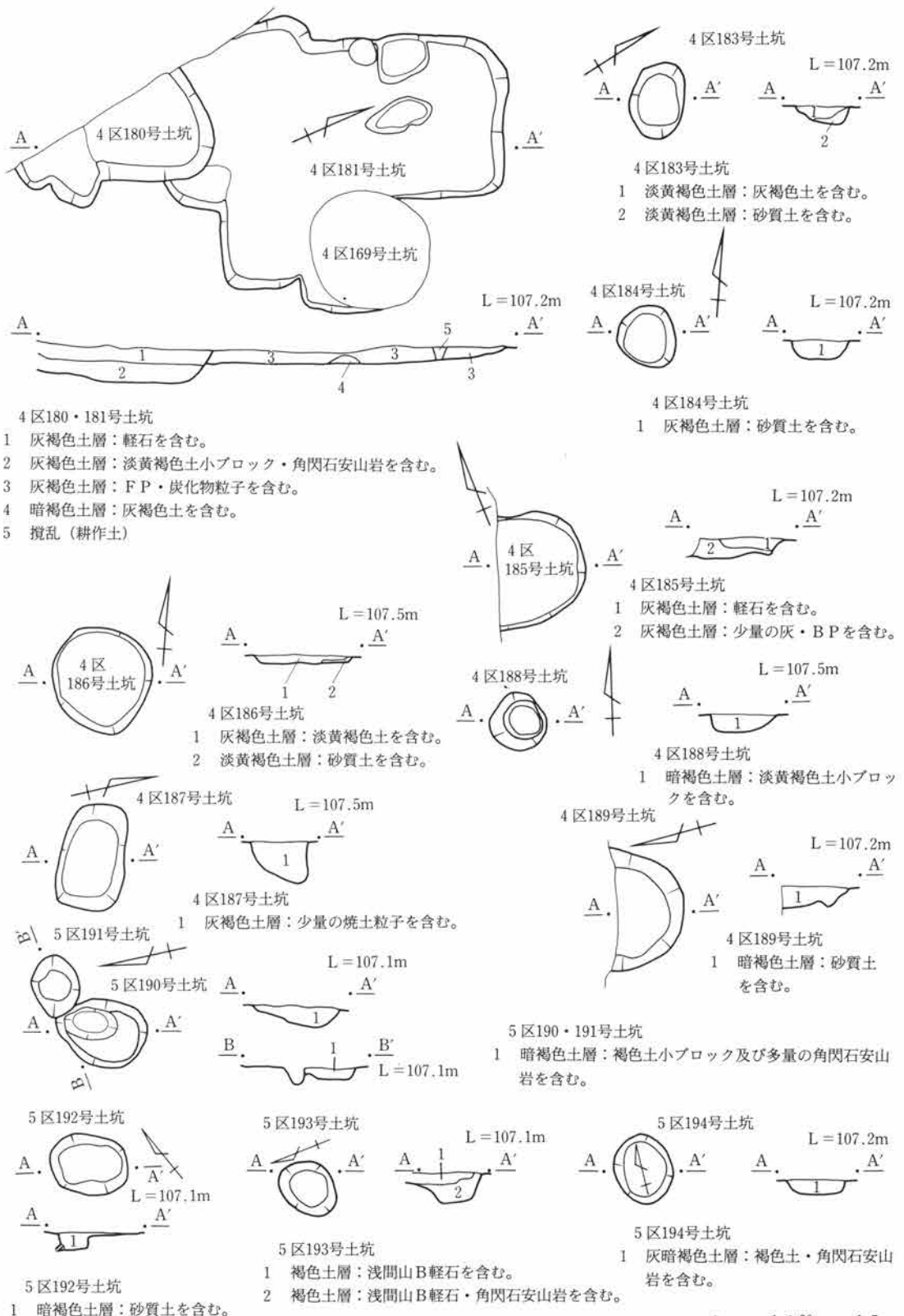
- 1 褐色土層：やや多量のF Pを含む。

0 1 : 60 1.5m

第691図 4区156・157号、5区155・159・160・161・163・164・165号土坑

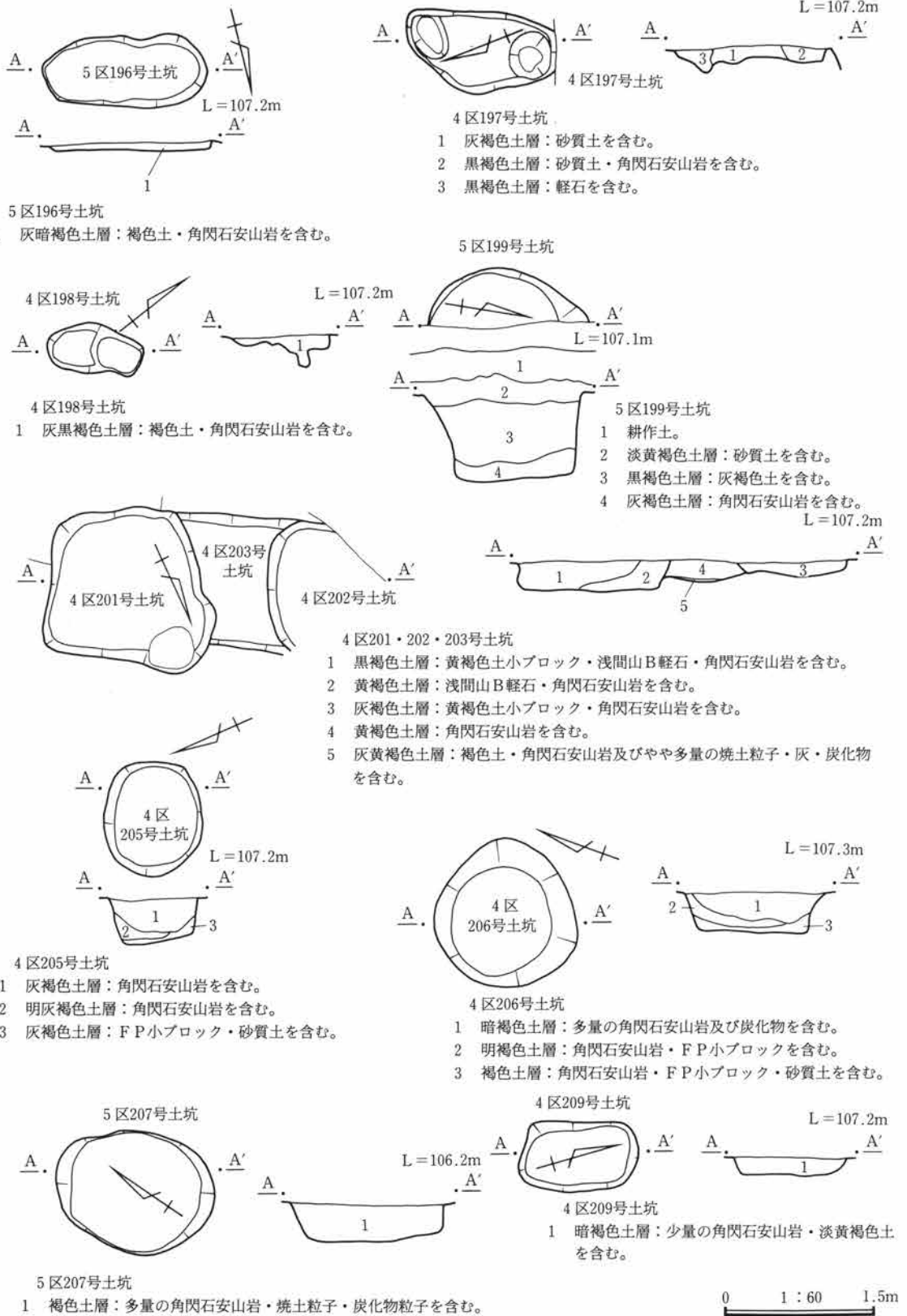


第692図 4区166・167・168・169・182・195号、5区171・172・173・174・175・176・178・179号土坑



第693図 4区180・181・183・184・185・186・187・188・189号、5区190・191・192・193・194号土坑

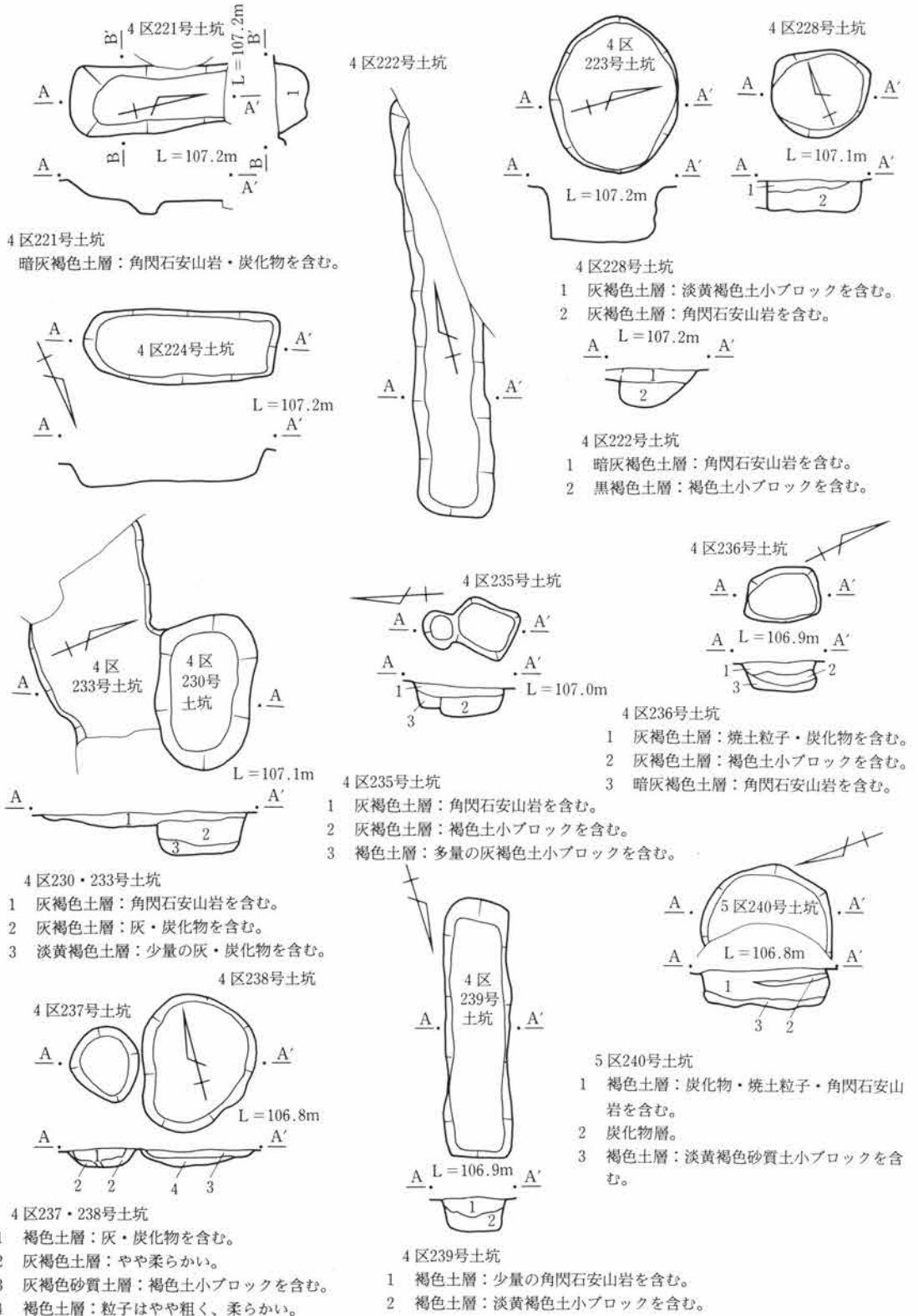
第IV章 発見された遺構と遺物



第694図 4区197・198・201・202・203・205・206・209号、5区196・199・207号土坑



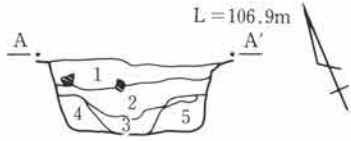
第695図 4区210・211・212・213・214・215・216・217・218・219号、5区220号土坑



0 1 : 60 1.5m

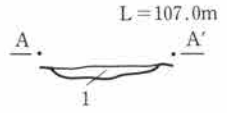
第696図 4区221・222・223・224・228・230・233・235・236・237・238・239号、5区240号土坑





5区241号土坑

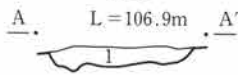
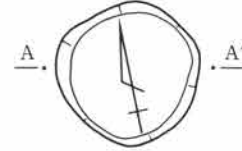
- 1 灰褐色土層：炭化物・焼土粒子・角閃石安山岩を含む。
- 2 黄褐色砂質土層：多量の角閃石安山岩・細砂土小ブロックを含む。
- 3 灰褐色土層：暗褐色粘質土小ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層：黄褐色砂質土小ブロックを含む。
- 5 灰褐色細砂土層：黄褐色砂質土小ブロックを含む。



5区242号土坑

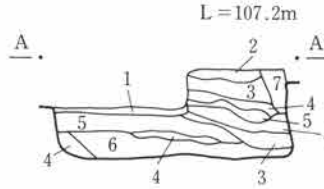
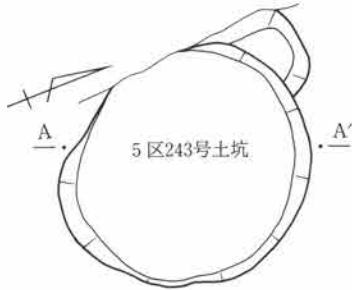
- 1 褐色土層：焼土粒子・炭化物を含む。

5区244号土坑



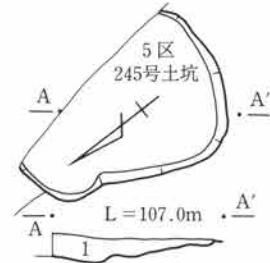
5区244号土坑

- 1 褐色土層：炭化物・焼土粒子を含む。



5区243号土坑

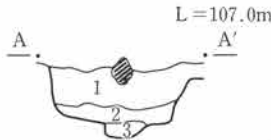
- 1 灰黄褐色土層：灰・炭化物・焼土ブロックを含み、硬い（5区15号住居張床）。
- 2 暗灰褐色土層：黄褐色土小ブロック・鉄分・角閃石安山岩を含む。
- 3 淡褐色土層：灰・炭化物・角閃石安山岩を含む。
- 4 灰・炭化物層：淡褐色土を含む。
- 5 灰褐色土層：淡黄褐色土小ブロック・灰・炭化物を含む。
- 6 淡灰褐色土層：黄褐色土小ブロックを含む。
- 7 褐色土層：灰褐色土を含む。



5区245号土坑

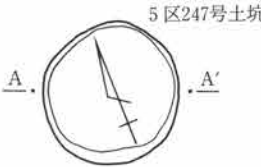
- 1 褐色土層：炭化物・焼土粒子を含む。

5区246号土坑



5区246号土坑

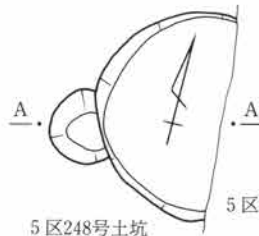
- 1 褐色土層：焼土粒子・炭化物・角閃石安山岩を含む。
- 2 褐色土層：黄褐色砂質土を含む。
- 3 暗灰色粘質土層：灰褐色砂質土を含む。



5区247号土坑

5区247号土坑

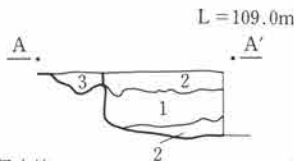
- 1 褐色土層：焼土粒子・炭化物・角閃石安山岩を含む。
- 2 暗褐色土層：黄褐色砂質土小ブロックを含む。
- 3 褐色土層：多量の炭化物を含む。



5区248号土坑

5区248・249号土坑

- 1 褐色土層：焼土粒子・炭化物・角閃石安山岩を含む。
- 2 褐色土層：多量の炭化物及び焼土粒子・角閃石安山岩を含む。
- 3 明褐色土層：角閃石安山岩を含む。



5区249号土坑



5区250号土坑

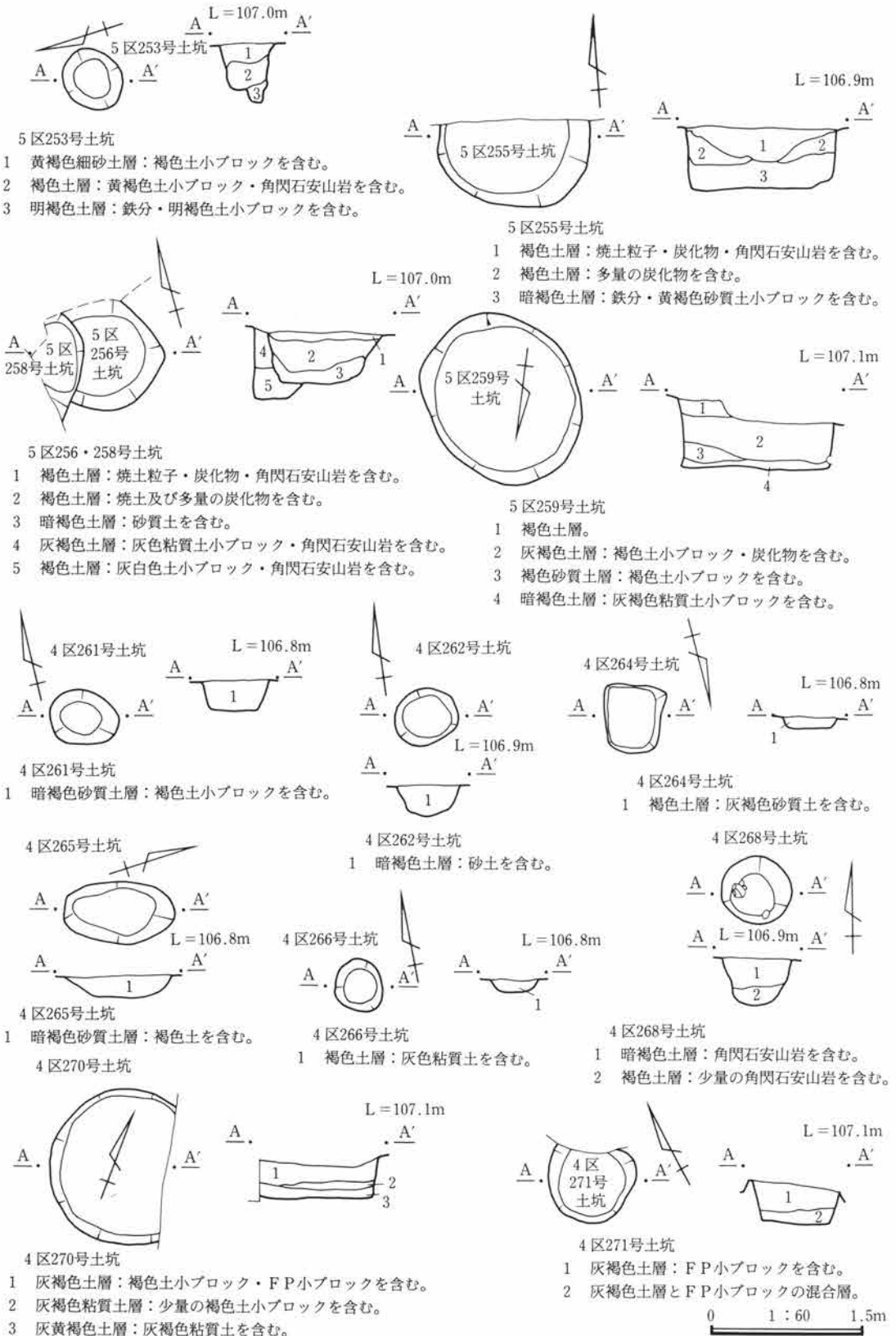
5区250号土坑

- 1 黄褐色細砂土層：褐色土小ブロックを含む。
- 2 褐色土層：黄褐色土小ブロック・角閃石安山岩を含む。
- 3 明褐色土層：鉄分・明褐色土小ブロックを含む。

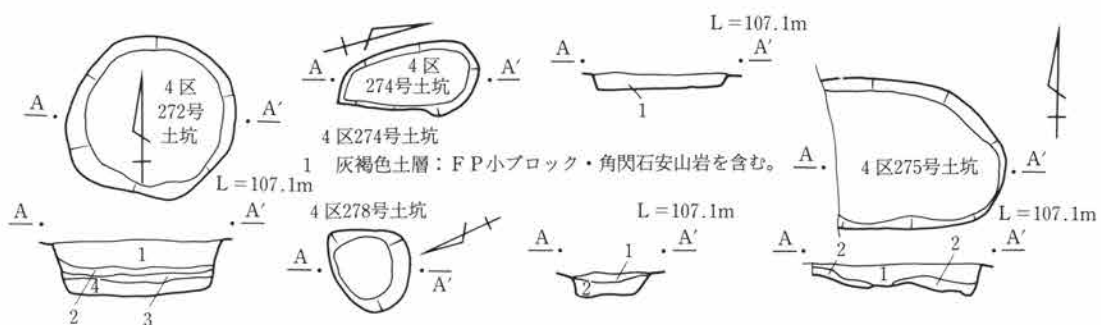
0 1 : 60 1.5m

第697図 5区241・242・243・244・245・246・247・248・249・250号土坑

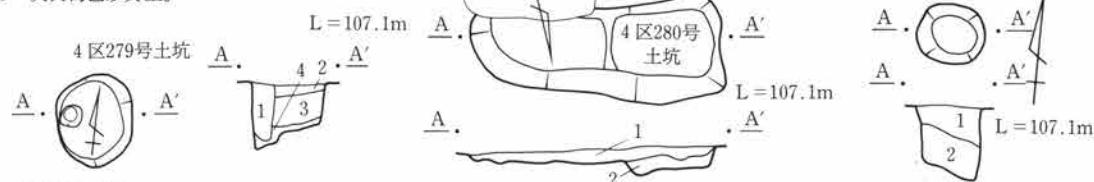
第IV章 発見された遺構と遺物



第698図 4区261・262・264・265・266・268・270・271号、5区253・255・256・258・259号土坑



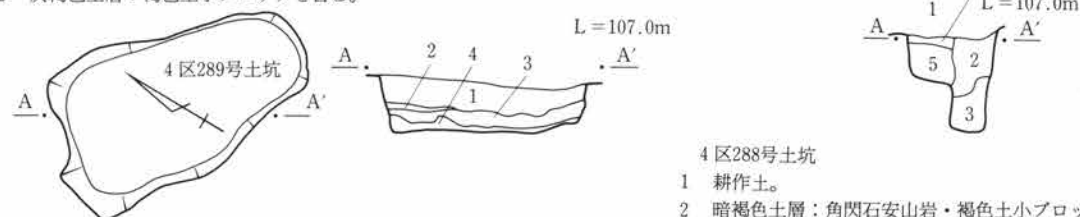
- 4区272号土坑  
 1 明褐色土層：灰白色粘質土小ブロック・砂を含む。  
 2 灰褐色土層：多量の砂を含む。  
 3 灰褐色土層：F P小ブロック・赤褐色土を含む。  
 4 灰黄褐色砂質土。
- 4区278号土坑  
 1 淡黄褐色土層：砂質土を含む。  
 2 褐色土層：小石を含む。
- 4区275号土坑  
 1 淡灰褐色土層：炭化物を含む。  
 2 褐色土層：炭化物を含む。



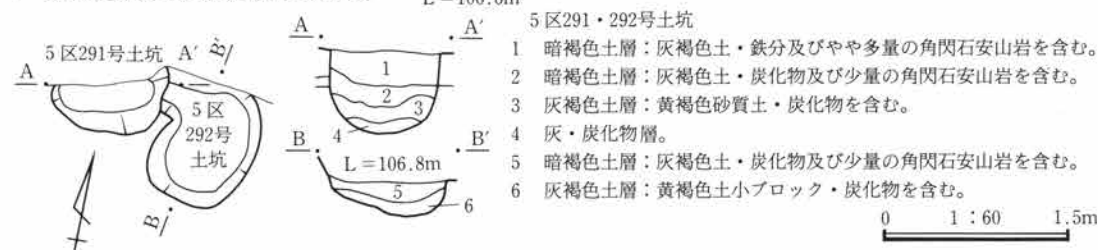
- 4区279号土坑  
 1 暗灰褐色土層：炭化物・角閃石安山岩を含む。  
 2 暗灰褐色土層：褐色土を含む。  
 3 褐色土層：灰褐色粘質土を含む。  
 4 淡黄褐色土層：砂質土を含む。
- 4区280号土坑  
 1 灰褐色土層。  
 2 灰褐色土層：砂を含む。
- 4区281号土坑  
 1 淡黄褐色土層：褐色土小ブロック・F P小ブロック・炭化物を含む。  
 2 灰褐色土層：褐色土小ブロックを含む。



- 4区286号土坑  
 1 褐色土層：灰褐色土小ブロックを含む。  
 2 灰褐色土層：褐色土小ブロックを含む。
- 4区287号土坑  
 1 褐色土層：F P小ブロック及び少量の炭化物を含む。



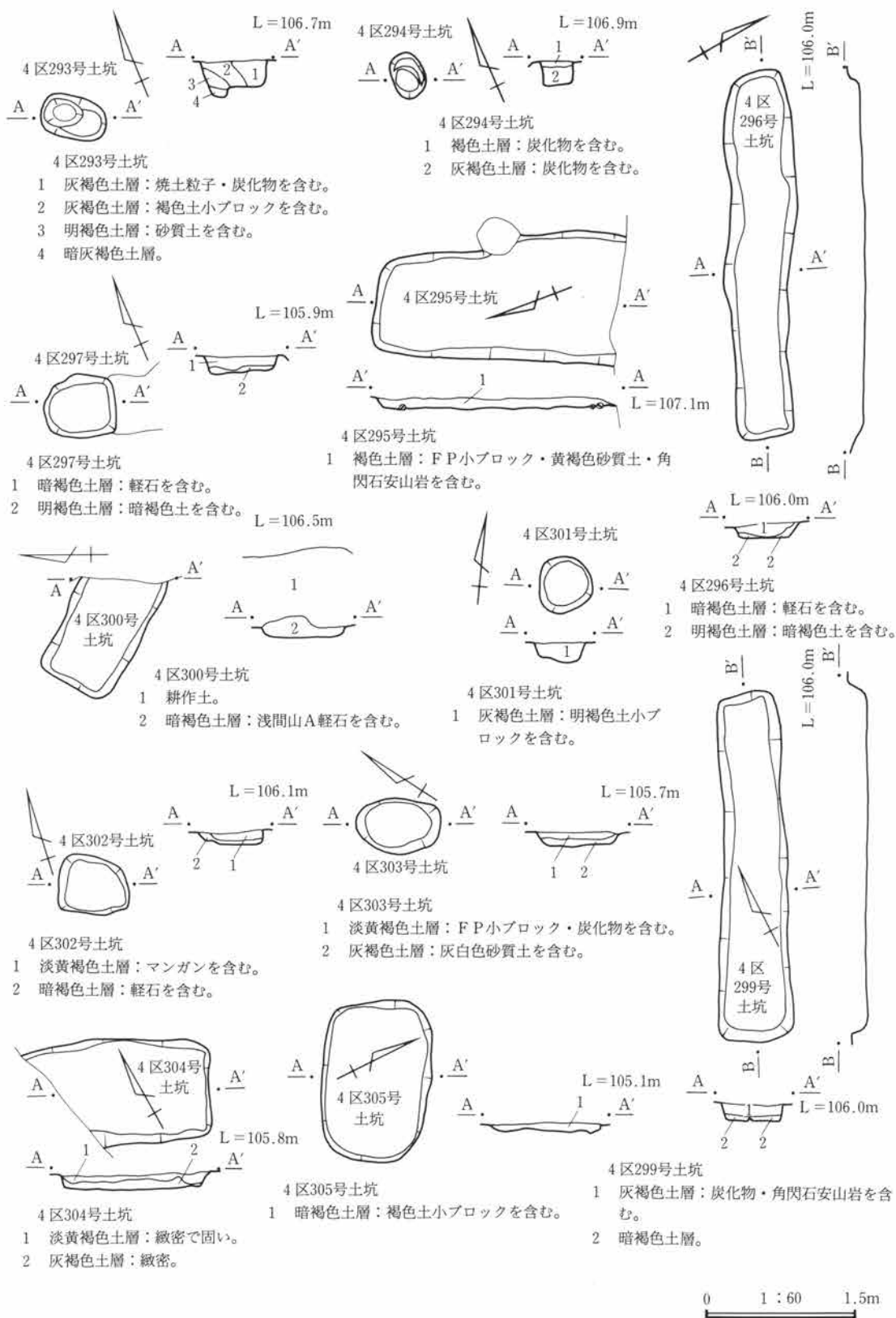
- 4区289号土坑  
 1 褐色土層：明褐色土小ブロック・角閃石安山岩を含む。  
 2 淡黄褐色土層：砂質土を含む。  
 3 暗褐色土層：褐色粘質土を含む。  
 4 淡黄褐色砂質土と暗褐色粘質土の混合。
- 4区288号土坑  
 1 耕作土。  
 2 暗褐色土層：角閃石安山岩・褐色土小ブロックを含む。  
 3 淡黄褐色土層：褐色土小ブロックを含む。  
 4 明褐色土層：砂質土を含む。  
 5 灰褐色土層：砂質土を含む。



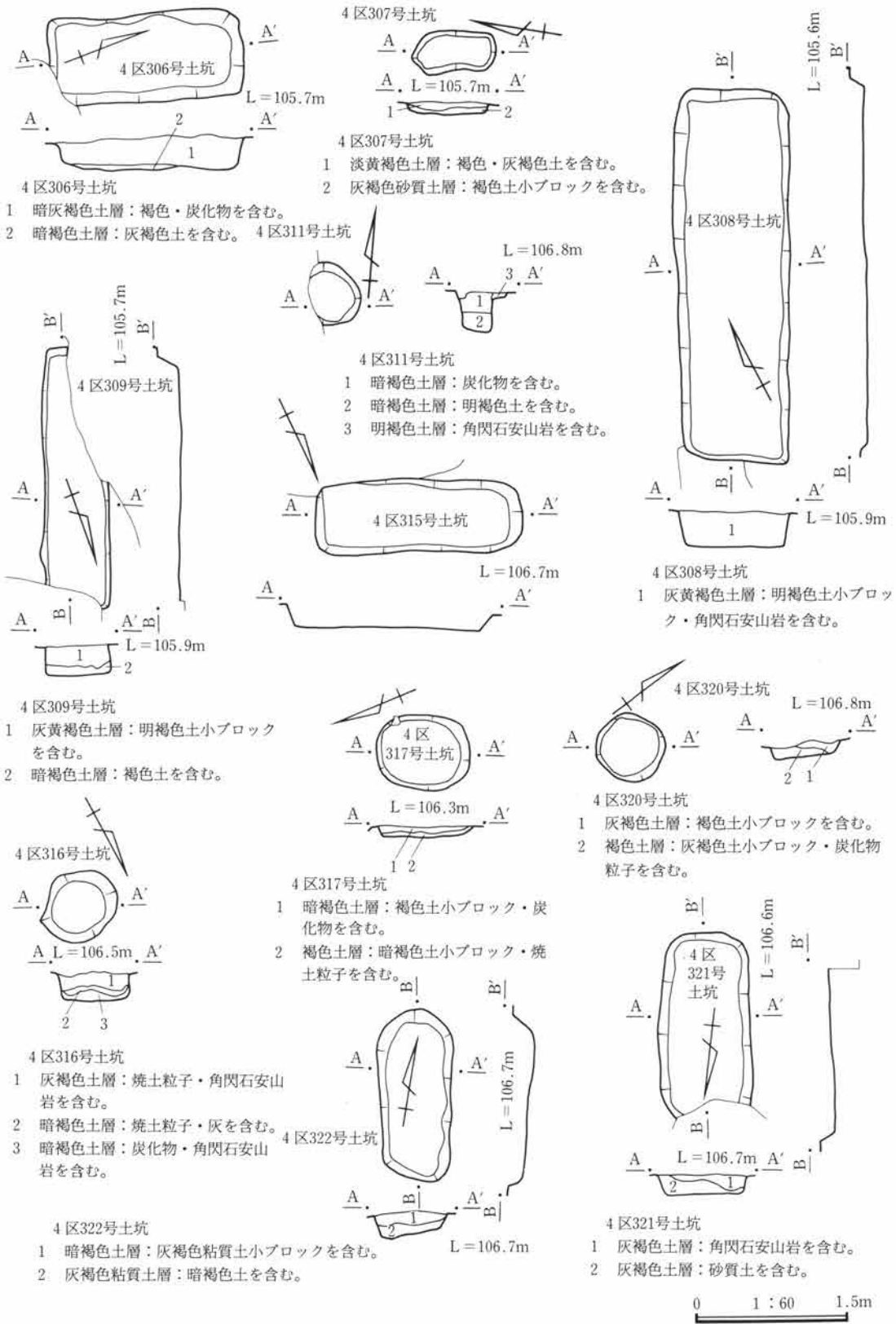
- 5区291・292号土坑  
 1 暗褐色土層：灰褐色土・鉄分及びやや多量の角閃石安山岩を含む。  
 2 暗褐色土層：灰褐色土・炭化物及び少量の角閃石安山岩を含む。  
 3 灰褐色土層：黄褐色砂質土・炭化物を含む。  
 4 灰・炭化物層。  
 5 暗褐色土層：灰褐色土・炭化物及び少量の角閃石安山岩を含む。  
 6 灰褐色土層：黄褐色土小ブロック・炭化物を含む。

0 1 : 60 1.5m

第699図 4区272・274・275・278・279・280・281・286・287・288・289号、5区291・292号土坑

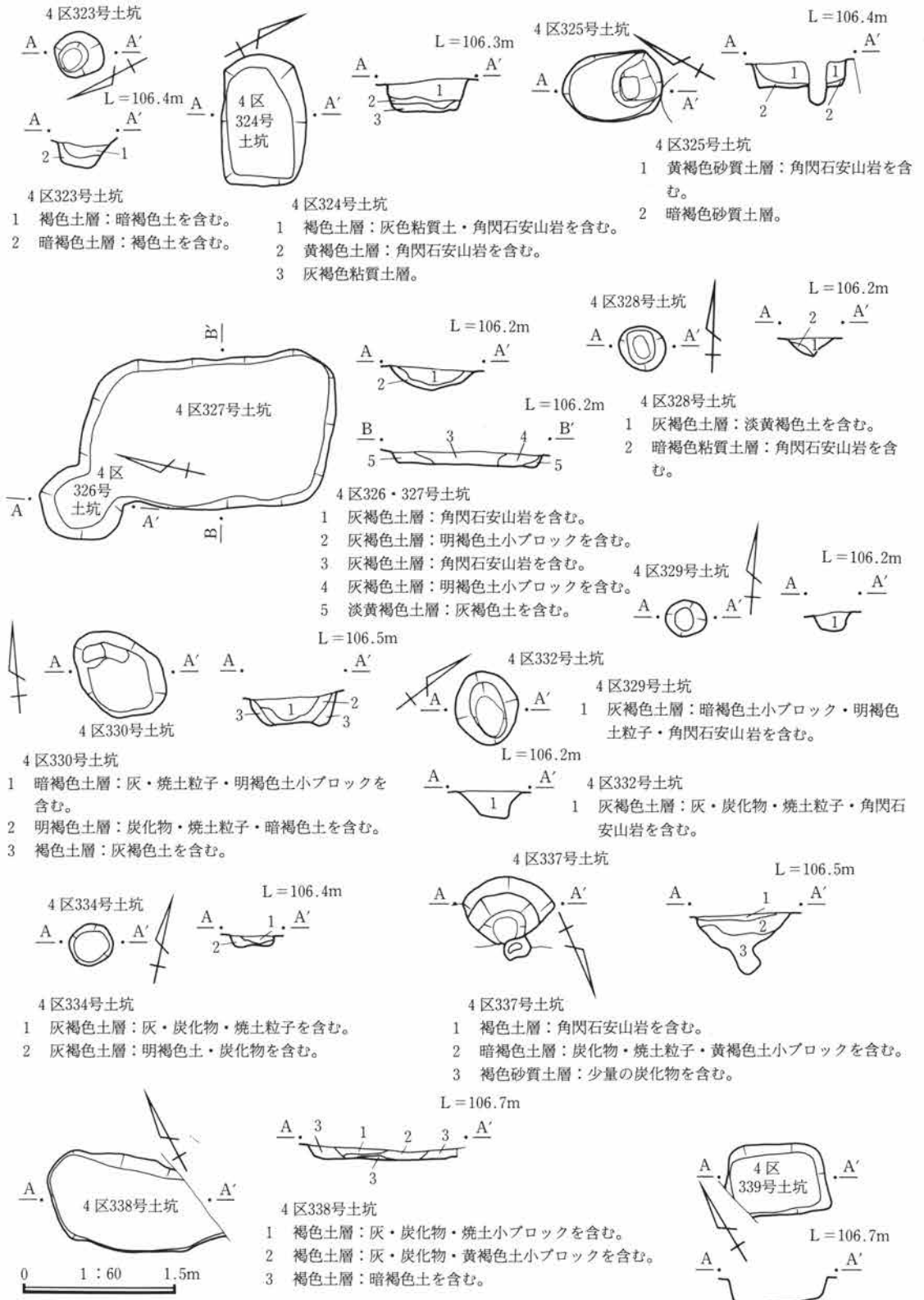


第700図 4区293・294・295・296・297・299・300・301・302・303・304・305号土坑

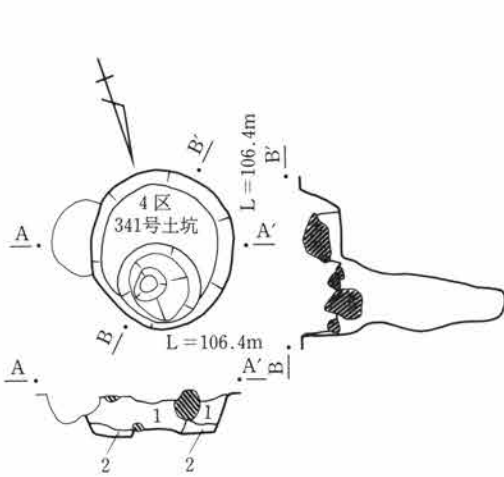


第701図 4区306・307・308・309・311・315・316・317・320・321・322号土坑

第IV章 発見された遺構と遺物

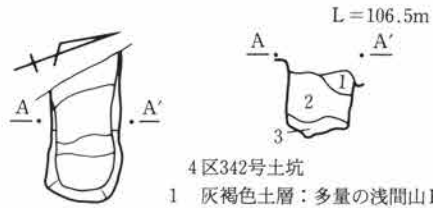


第702図 4区323・324・325・326・327・328・329・330・332・334・337・338・339号土坑



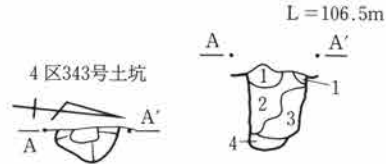
4区341号土坑

- 1 明褐色土層：大小の角閃石安山岩・暗褐色土小ブロックを含む。
- 2 明褐色土層：浅間山C軽石を含む。



4区342号土坑

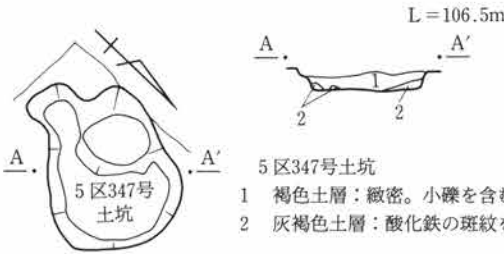
- 1 灰褐色土層：多量の浅間山B軽石を含む。
- 2 灰褐色土層：暗褐色土小ブロック・黄褐色土小ブロック・角閃石安山岩を含む。
- 3 暗褐色土層：黒褐色粘質土を含む。



4区343号土坑

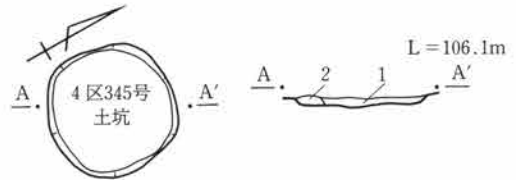
4区343号土坑

- 1 灰褐色土層：炭化物・角閃石安山岩を含む。
- 2 暗褐色土層：炭化物・焼土粒子・角閃石安山岩を含む。
- 3 暗褐色土層：炭化物・焼土小ブロック・黄褐色土小ブロック・角閃石安山岩を含む。
- 4 暗褐色土層：灰色粘質土小ブロック・黄褐色土小ブロックを含む。



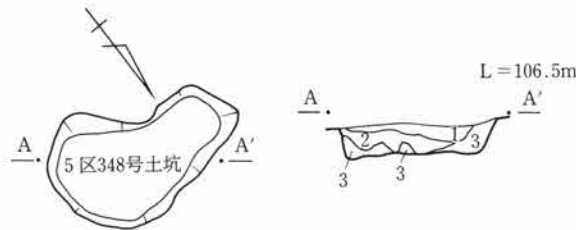
5区347号土坑

- 1 褐色土層：緻密。小礫を含む。
- 2 灰褐色土層：酸化鉄の斑紋を含む。



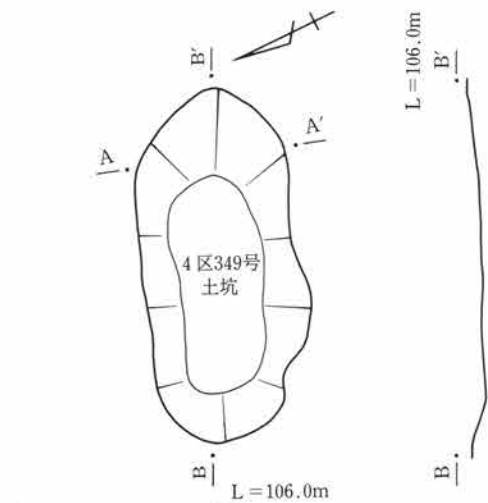
4区345号土坑

- 1 淡褐色土層：黒褐色土小ブロック・浅間山C軽石を含む。
- 2 淡褐色粘質土層：灰・焼土粒子を含む。



5区348号土坑

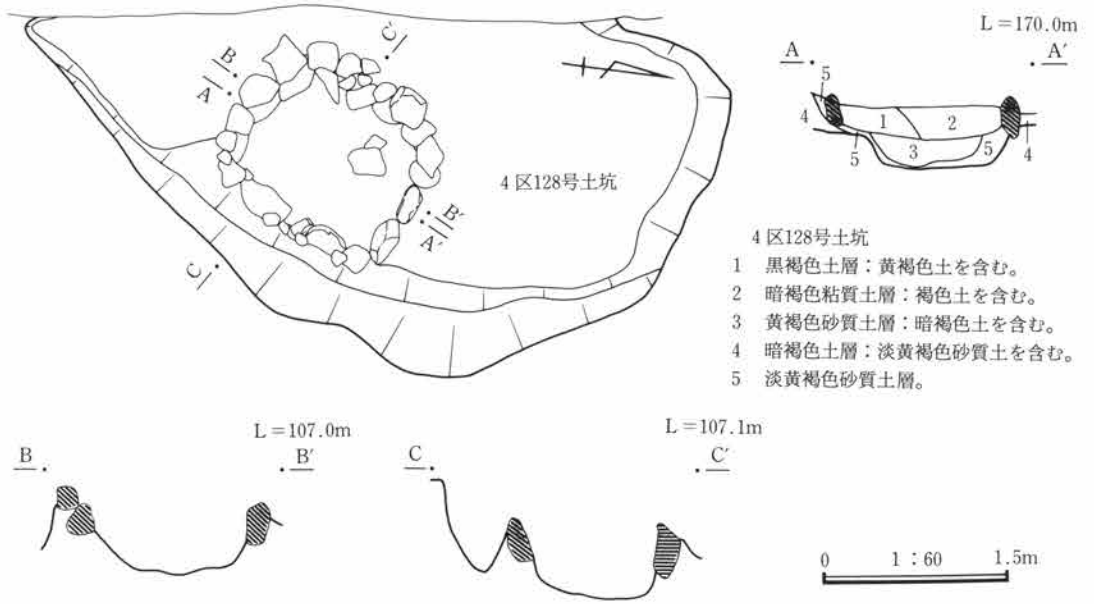
- 1 褐色土層：多量の炭化物・小礫を含む。
- 2 淡褐色土層：炭化物を含む。
- 3 淡褐色土層：灰褐色土小ブロックを含む。



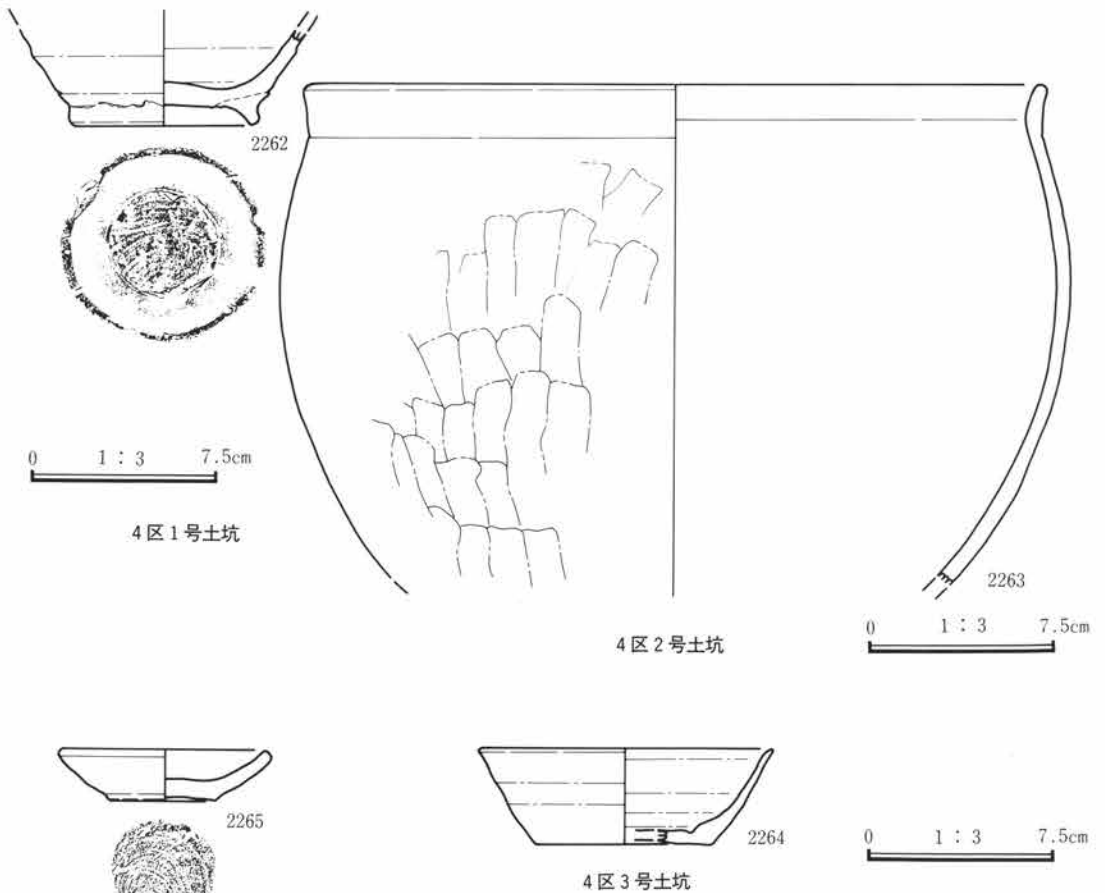
4区349号土坑

- 1 灰褐色土層：鉄分を含む。

0 1 : 60 1.5m

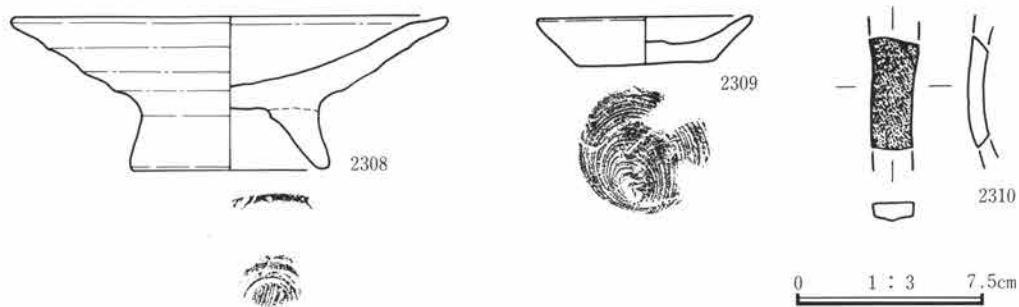


第704図 4区128号土坑

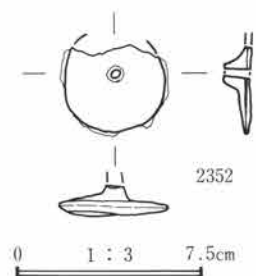


第705図 4区1・2・3号土坑出土遺物

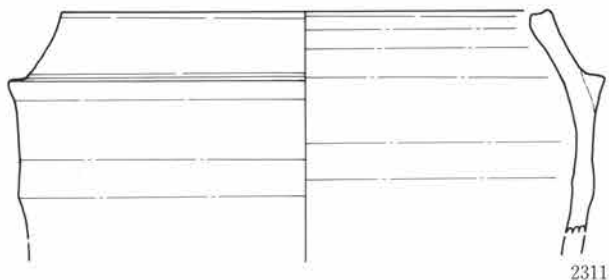




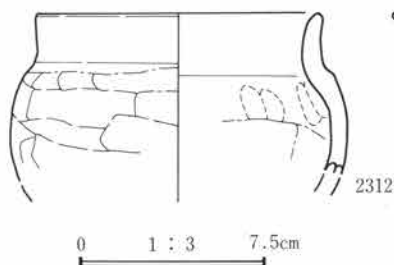
5区22号土坑



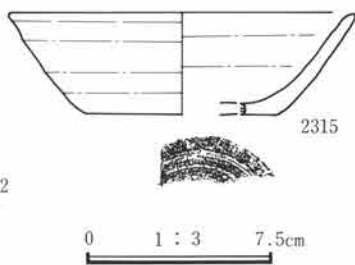
5区23号土坑



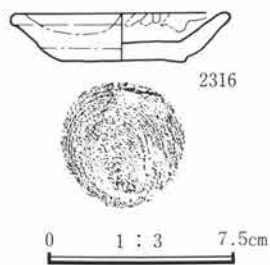
5区24号土坑



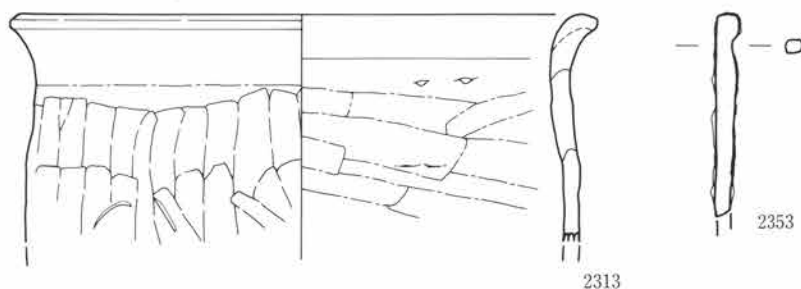
5区25号土坑



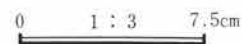
5区53号土坑



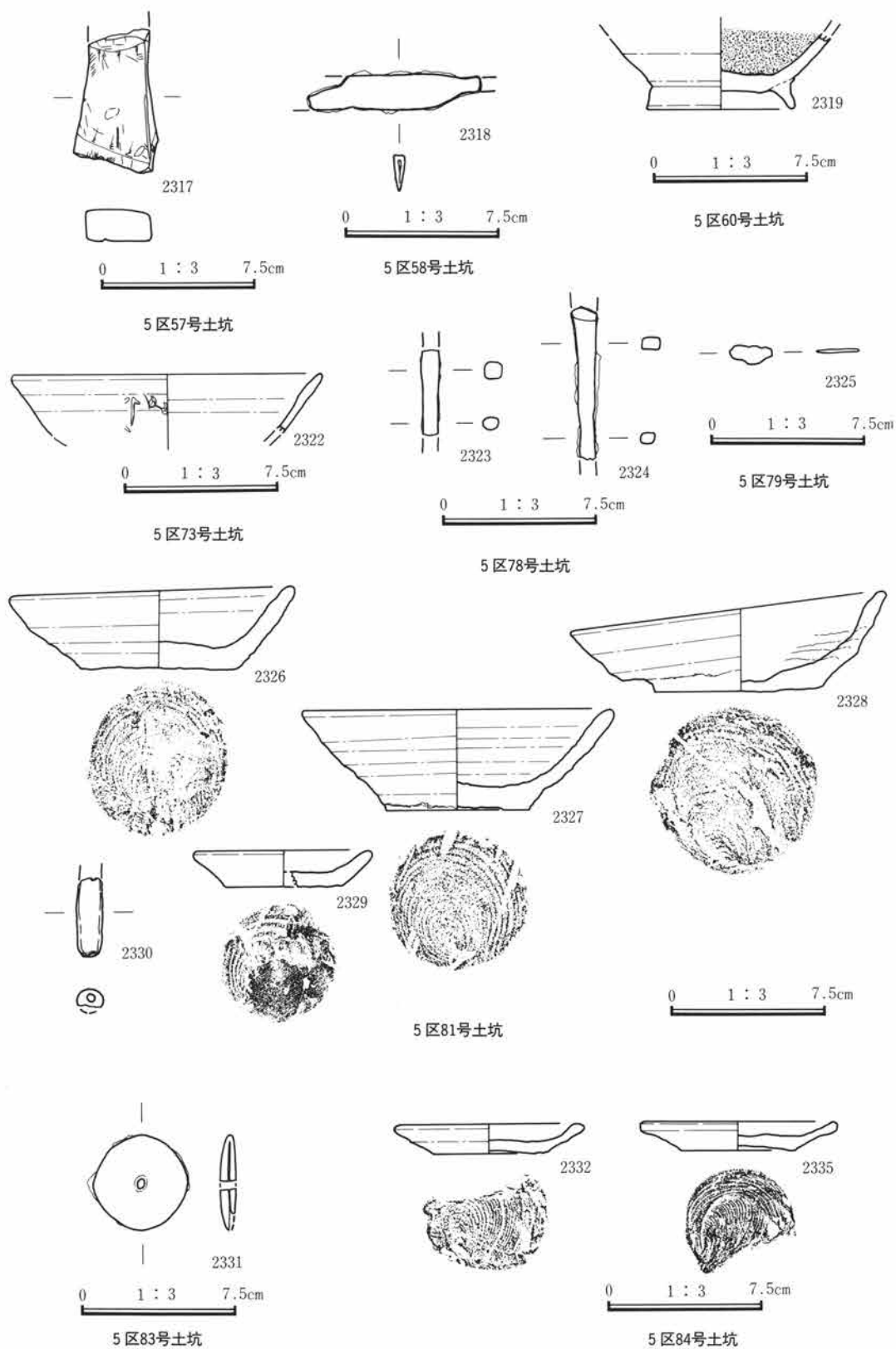
5区55号土坑



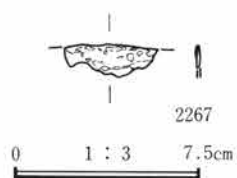
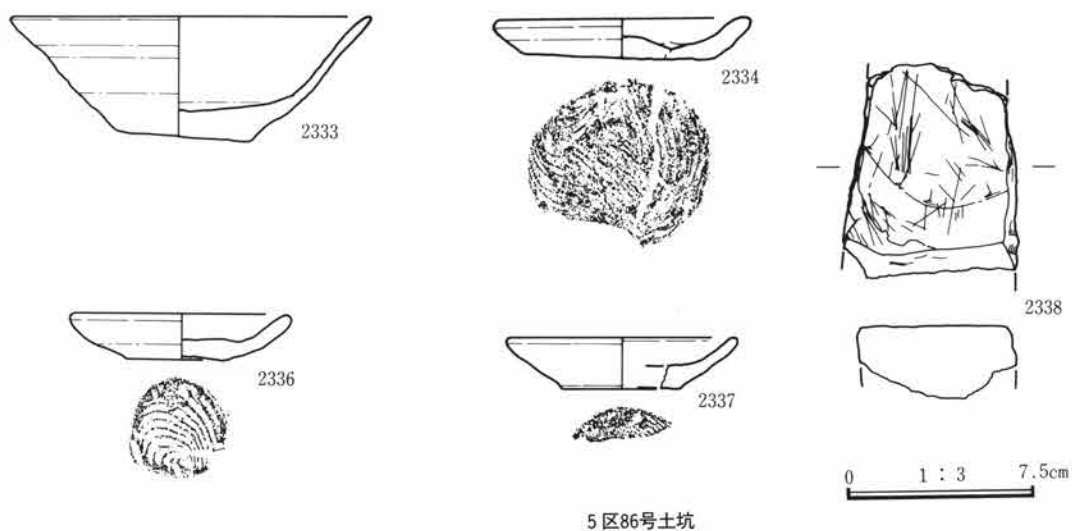
5区29号土坑



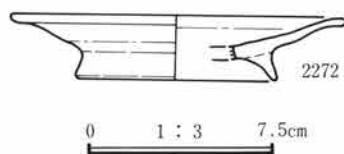
第706图 5区22·23·24·25·29·53·55号土坑出土遗物



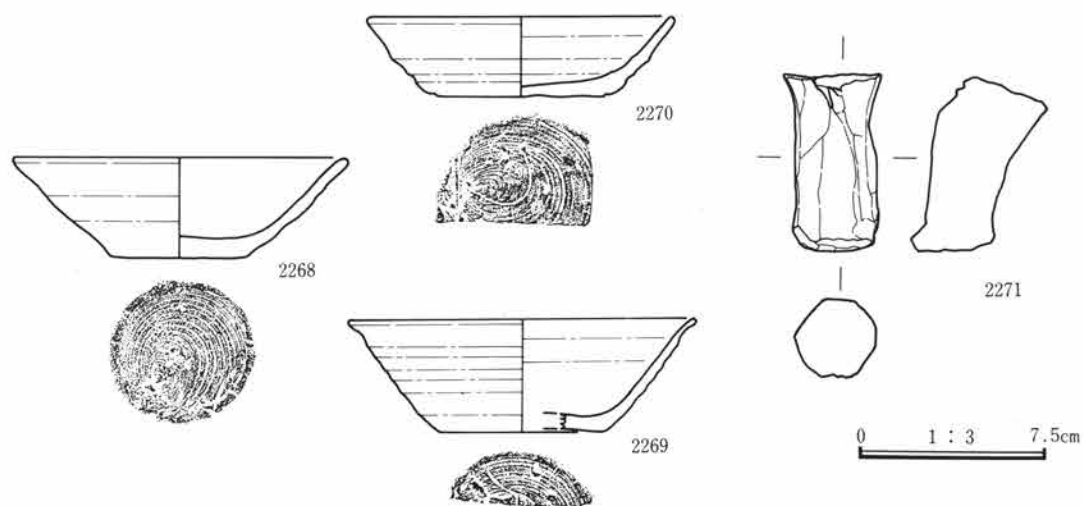
第707図 5区57・58・60・73・78・81・83・84号土坑出土遺物



5区88号土坑

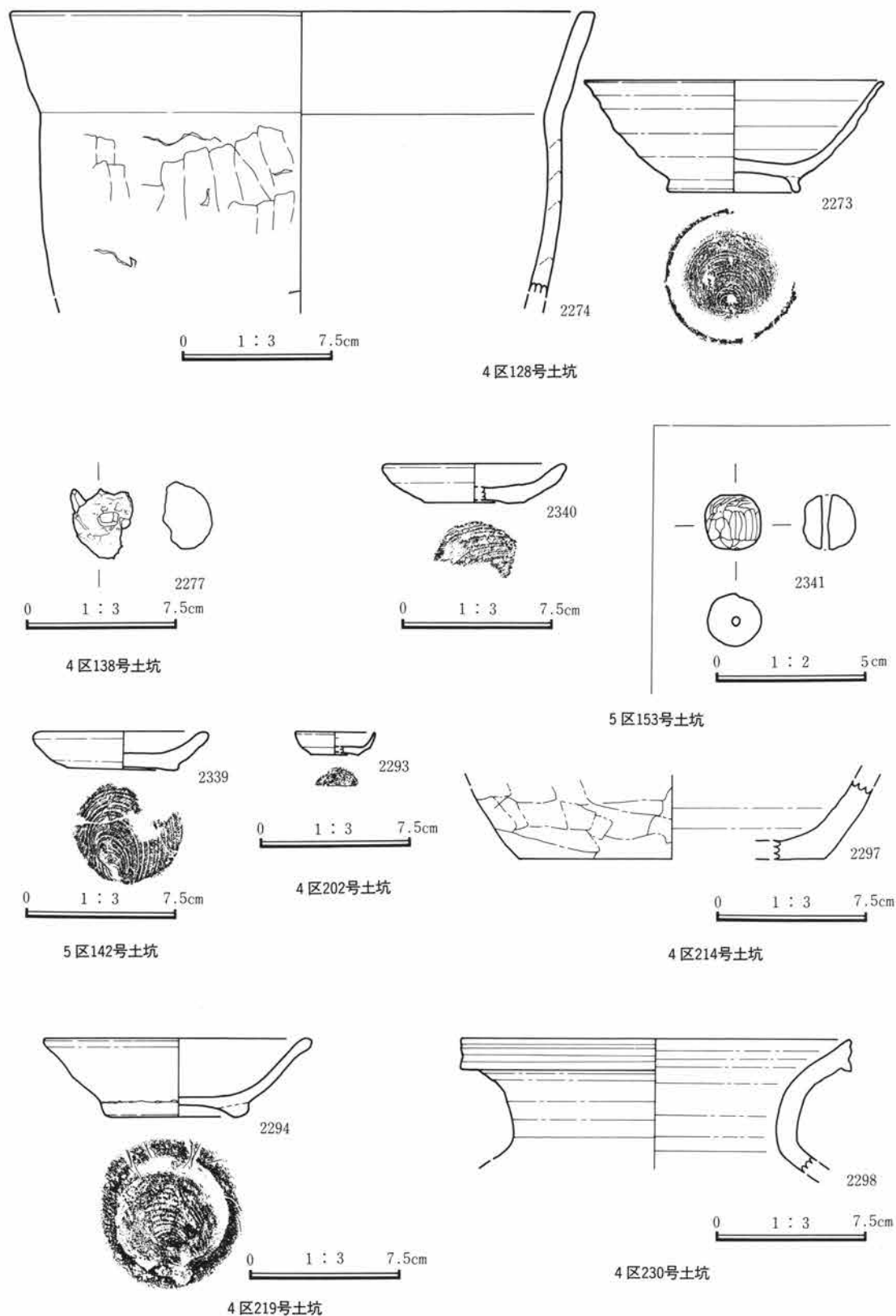


4区126号土坑

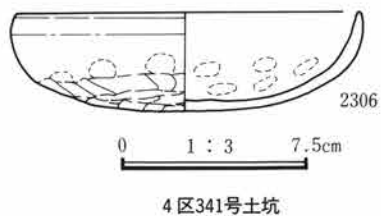
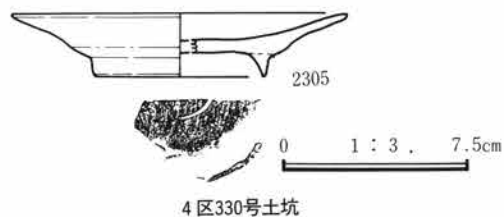
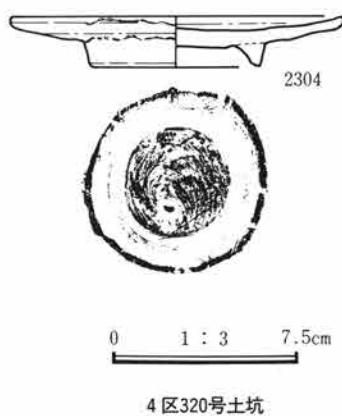
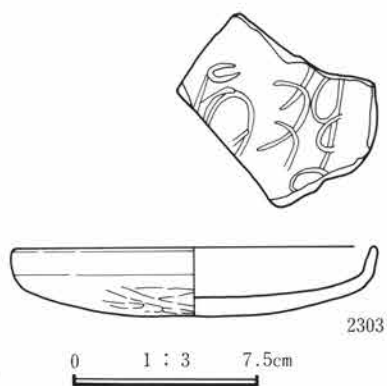
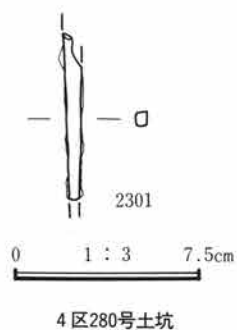
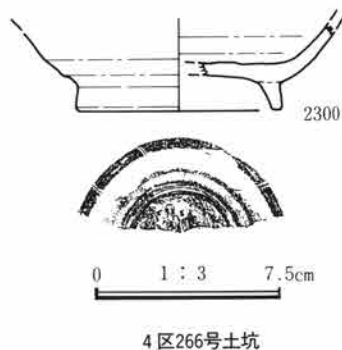
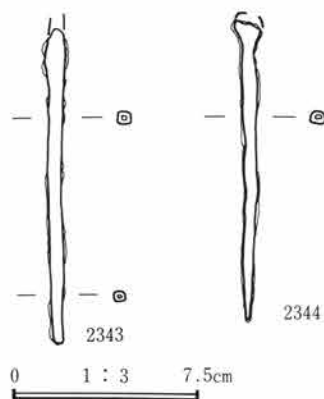
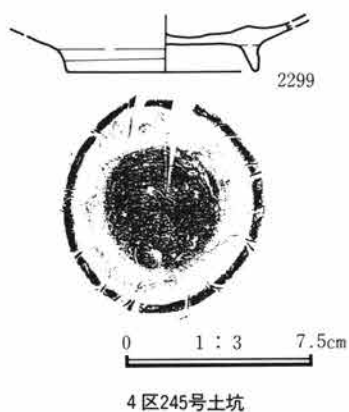
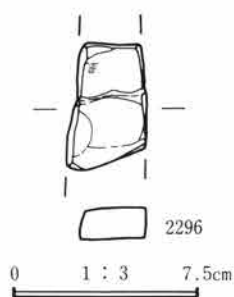
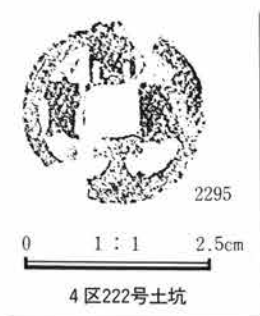


4区124号土坑

第708图 4区88·126·124图、5区86号土坑出土遗物



第709図 4区128・138・202・214・219・230号、5区142・153号土坑出土遺物



第710号 4区222·223·245·266·280·317·320·330·341号、5区249号土坑出土遗物

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
4区 2262	1号土坑 椀 須恵器	器高:(38mm) 口径:一 底 径:75mm 胴部~高台部 $\frac{1}{2}$	径2~3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。硬質。淡黄・鈍い 黄橙。	轆轤整形。胴部は直線的に広がる。外面: 胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台 貼り付け。内面:胴部~底部は回転なで。	外面に一部油煙付 着。
4区 2263	2号土坑 土 釜	器高:(199mm) 口径:[296 mm] 底径:一 最大径: [214mm] 口縁部~胴部 $\frac{1}{2}$	径2~3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。灰黄褐。	口縁部は「く」字状に外反。最大径は胴部上 半。外面:口縁部は横なで、胴部はなで、 一部指頭痕が残る。内面:口縁部は横なで、 胴部はなで。	内外面に多量の油 煙付着。二次炎を 受けている。
4区 2264	3号土坑 杯 須恵器	器高:(38mm) 口径:[117 mm] 底径:[70mm] 口縁部 ~底部上端 $\frac{1}{2}$	径1~2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。や や硬質。灰白。	轆轤整形。胴部~口縁部はほぼ直線的に広 がる。外面:口縁部~胴部は回転なで、底 部は回転篋切り後なで。内面:口縁部~底 部は回転なで。	
2265	杯 土師質土 器	器高:20mm 口径:[80mm] 底径:45mm 口縁部~底部 $\frac{1}{2}$	径1~2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。明赤褐。	轆轤整形、右回転。胴部口縁部は僅かに内 湾しつつ広がる。外面:口縁部~胴部は回 転なで、底部は回転糸切り。内面:口縁部 ~底部は回転なで。	
5区 2308	22号土坑 椀 須恵器	器高:(60mm) 口径:[174 mm] 底径:[80mm] 口縁部 ~高台部 $\frac{1}{2}$	径2~3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。橙。	轆轤整形。胴部~口縁部は直線的に広がる。 外面:口縁部~胴部は回転なで、底部は回 転糸切り後高台貼り付け。内面:口縁部 ~底部は回転なで。	内面の一部に油煙 付着。
2309	杯 土師質土 器	器高:19mm 口径:86mm 底 径:53mm 口縁部~底部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含 む。酸化。やや軟質。 浅黄。	轆轤整形、右回転。胴部~口縁部は短く、 直線的に広がる。外面:口縁部~胴部は回 転なで、底部は回転糸切り。内面:口縁部 ~底部は回転なで。	
2310	手付き瓶 緑釉陶器	器高:一 口径:一 底径: 一 取っ手部破片	青灰色。	光沢のある淡い緑色の鉛釉を施す。細かい 貫入が入る。	
5区 2352	23号土坑 紡錘者 鉄製品	直径:40mm 厚:8mm 軸 径:6mm		円板部は鉄板を折り曲げて製作。	
5区 2311	24号土坑 羽 釜	器高:(92mm) 口径:[184 mm] 底径:一 口縁部~胴 部上端 $\frac{1}{2}$	径2~3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰。	口縁部はやや内湾。鋳部は貼り付け。内外 面共に口縁部~胴部上端は回転なで。	内外面に油煙付 着。
5区 2312	25号土坑 壺 土師器	器高:(67mm) 口径:[114 mm] 底径:一 最大径: [134mm] 口縁部~胴部上半 $\frac{1}{2}$	径3~4mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。硬 質。橙。	口縁部はやや外反。最大径は胴部上半。外 面:口縁部は横なで、胴部上半は篋削り。 内面:口縁部は横なで、胴部上半は篋なで、 一部指頭痕が残る。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
5区 2313	29号土坑 土 釜	器高：(90mm) 口径：[234mm] 底径：— 口縁部～胴部上半 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い黄橙。	口縁部は「く」字状に外反。外面：口縁部は横なで、胴部上半はなで。内面：口縁部～胴部上半は横なで。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
2314	鉄 滓			鉄分を含む。	
2353	? 鉄製品	長：(80mm) 幅：8mm 厚：5.5mm		角釘か。	
5区 2315	53号土坑 杯 須恵器	器高：(40mm) 口径：[139mm] 底径：[72mm] 口縁部～底部上端 $\frac{1}{4}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白・(黒)。	轆轤整形。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面に全面的に油煙付着。焦し。
5区 2316	55号土坑 杯 土師質土器	器高：20mm 口径：87mm 底径：51mm 完形	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は短く、ほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面口縁部の一部に油煙付着。
5区 2317	57号土坑 砥 石	長：(68mm) 幅：41mm 厚：17mm 重：56.5g	細粒凝灰岩。	使用面は4面。表面に金属による溝状の傷在り。	表面に一部油煙付着。
5区 2318	58号土坑 刀子? 鉄製品	長：(82mm) 幅：16mm 厚：6mm		刀子の一部か。鉄板を折り曲げて製作。	
5区 2319	60号土坑 碗 須恵器	器高：(36mm) 口径：— 底径：73mm 胴部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。不完全還元。やや硬質。灰白・浅黄橙。	轆轤整形。胴部は僅かに内湾しつつ広がる。外面：胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部～底部は回転なで。	内面胴部～底部は全面的に油煙付着。内黒。
5区 2322	73号土坑 碗? 須恵器	器高：(29mm) 口径：[150mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。内外面共に口縁部～胴部は回転なで。	外面に刻字。釈読不能。
5区 2323	78号土坑 ? 鉄製品	長：(40mm) 幅：7～9mm 厚：6～8mm		用途不明。	
2324	? 鉄製品	長：(71mm) 幅：7～12mm 厚：5～6mm		用途不明。	
5区 2325	79号土坑 ? 鉄製品	長：(20mm) 幅：(8mm) 厚：1mm		銅碗の破片か。	
5区 2326	81号土坑 杯 土師質土器	器高：39mm 口径：137mm 底径：74mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。浅黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面の口縁部～胴部の一部に油煙付着。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2327	杯 土師質土器	器高：48mm 口径：150mm 底径：69mm 口縁部～底部 ⅔	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は 回転まで、底部は回転糸切り。内面：口縁 部～底部は回転まで。	内外面に油煙付 着。二次炎を受け ている。
2328	杯 土師質土器	器高：48mm 口径：[151mm] 底径：80mm 口縁部～底部 ⅔	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。鈍い黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部中央で屈曲し、胴 部上半～口縁部はほぼ直線的に広がる。外 面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回転 糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	
2329	杯 土師質土器	器高：17mm 口径：87mm 底 径：55mm 口縁部～底部⅔	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。軟 質。鈍い黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は短く、 ほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部 は回転まで、底部は回転糸切り。内面：口 縁部～底部は回転まで。	内面に一部油煙付 着。
2330	土 錘	長：(36mm) 直径：12mm 孔 径：3mm 重：4.6g		端部はやや細くなるが、断面形はほぼ長方 形。全体は円筒形。	
5区 2331	83号土坑 紡錘車 鉄製品	円盤径：45mm 軸径：7mm 円盤厚：7mm		鉄板を折り曲げて製作。	
5区 2332	84号土坑 杯 土師質土器	器高：15mm 口径：[90mm] 底径：[54mm] 口縁部～底 部⅔	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。浅黄。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は短く、 ほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部 は回転まで、底部は回転糸切り。内面：口 縁部～底部は回転まで。	内外面に一部油煙 附着。
2335	杯 土師質土器	器高：14mm 口径：94mm 底 径：53mm 口縁部～底部⅔	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。鈍い橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は短く、 ほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部 は回転まで、底部は回転糸切り。内面：口 縁部～底部は回転まで。	外面底部に油煙付 着。
5区 2333	86号土坑 杯 土師質土器	器高：50mm 口径：145mm 底径：56mm 口縁部～底部 ⅔	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。鈍い黄橙。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広 がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底 部は回転糸切り後まで。内面：口縁部～底 部は回転まで。	内外面に一部油煙 附着。
2334	杯 土師質土器	器高：16mm 口径：102mm 底径：70mm 口縁部～底部 ⅔	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は短く、 ほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部 は回転まで、底部は回転糸切り後まで。内 面：口縁部～底部は回転まで後一部寛な で。	内外面の口縁部に 一部油煙附着。
2336	杯 土師質土器	器高：18mm 口径：[88mm] 底径：39mm 口縁部～底部 ⅔	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。明赤褐。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は短く、 僅かに内湾しつつ広がる。外面：口縁部 ～胴部は回転まで、底部は回転糸切り。内 面：口縁部～底部は回転まで。	
2337	杯 土師質土器	器高：(21mm) 口径：[93 mm] 底径：[48mm] 口縁部 ～底部上端⅔	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や軟質。鈍い黄橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は短く、ほぼ直線 的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転な で、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底 部は回転まで。	



番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2338	砥石	長：(85mm) 幅：(71mm) 厚：(29mm) 重：183.6g	砥沢石。	使用面は1面以上。	表面に多量の油煙 付着。二次炎を受 けている。
4区 2267	88号土坑 銅碗	器高：(13mm) 口径：— 底 径：— 厚：1～2mm 口縁 部～胴部上端		銅碗の一部。口縁部は折り返し。	
4区 2268	124号土坑 杯 須恵器	器高：40mm 口径：[134mm] 底径：57mm 口縁部～底部 3/4	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回 転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	外面口縁部に一部 油煙付着。
2269	杯 須恵器	器高：(45mm) 口径：[139 mm] 底径：[65mm] 口縁部 ～底部上半分	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がり、口縁端部は僅かに外反。 外面：口縁部～胴部は回転まで、底部は回 転糸切り。内面：口縁部～底部は回転まで。	
2270	杯 須恵器	器高：31mm 口径：[123mm] 底径：[67mm] 口縁部～底 部3/4	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。硬質。灰白・橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は僅かに 内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は 回転まで、底部は回転糸切り。内面：口縁 部～底部は回転まで。	外面口縁部～底 部、内面口縁部に 油煙付着。
2271	手あぶ り?須恵 器	高：(70mm) 口径：— 底 径：— 脚径：33mm 脚部1 本	径1mm前後の砂粒を含 む。不完全還元。硬質。 灰白・鈍い橙。	3～4本ある脚部の1本。獣脚の模倣?脚 部は貼り付け。外面は篋削り。	
4区 2272	126号土坑 皿 須恵器	器高：26mm 口径：[134mm] 底径：[80mm] 口縁部～高 台部3/4	径1～2mmの小石及び 砂粒を含む。還元。硬 質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広 がる。外面：口縁部～胴部は回転まで、底 部は高台貼り付け後まで。内面：口縁部 ～底部は回転まで。	内外面共に口縁部 ～胴部に油煙付 着。燻し。
4区 2273	128号土坑 碗 須恵器	器高：55mm 口径：[148mm] 底径：69mm 口縁部～高台 部3/4	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。不完全還 元。硬質。灰白・鈍い 黄橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はやや内 湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回 転まで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。 内面：口縁部～底部は回転まで。	外面に一部油煙付 着。
2274	内耳鍋 軟質陶器	器高：(139mm) 口径：[288 mm] 底径：— 口縁部～胴 部3/4	径3～4mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。鈍い黄橙。	胴部はやや湾曲しつつ立ち上がり、口縁部 は僅かに外反。内外面共に口縁部～胴部は 横まで、一部指頭痕が残る。	内外面に全面的に 油煙付着。
4区 2277	138号土坑 鉄滓			鉄分を含む。	
5区 2339	142号土坑 杯 土師質土 器	器高：19mm 口径：85mm 底 径：52mm 口縁部～底部3/4	径2～3mmの小石及び 砂粒を含む。酸化。や や硬質。橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は短く、 ほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部 は回転まで、底部は回転糸切り。内面：口 縁部～底部は回転まで。	内外面の一部に油 煙付着。

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器 種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器 形 ・ 技 法 の 特 徴 他	出 土 状 態 備 考
5 区 2340	153号土坑 杯 土師質土 器	器高：(19mm) 口径：[90mm] 底径：[48mm] 口縁部～底部ㄨ	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。鈍い橙。	轆轤整形。胴部～口縁部は短く、やや内湾しつつ広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転などで。	内外面の一部に油煙付着。
2341	丸玉？ 石製品	直径：18mm 孔径：2.5mm 重：8.2g	蛇紋岩。	孔は中央部を通り貫通。周囲は丁寧に磨かれている。	
4 区 2293	202号土坑 ミニチュ ア陶器	器高：11mm 口径：[40mm] 底径：[24mm] 口縁部～底部ㄨ	細砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転などで。	
4 区 2297	214号土坑 内耳鍋 軟質陶器	器高：(39mm) 口径：— 底径：[150mm] 胴部下端～底部上端ㄨ	内面黒灰色。外面鈍い橙。	体部外面下端ヘラ撫でNo	在地製品。14～15世紀。
4 区 2294	219号土坑 椀 須恵器	器高：39mm 口径：[132mm] 底径：71mm 口縁部～高台部ㄨ	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。軟質。鈍い黄橙・橙。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がり、口縁部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～胴部は回転などで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
4 区 2295	222号土坑 銭			後周、「周通元寶」	
4 区 2296	223号土坑 砥石	長：(50mm) 幅：32mm 厚：13mm 重：26.3g	砥沢石。	使用面は4面。	
4 区 2298	230号土坑 甕 須恵器	器高：(65mm) 口径：[182mm] 底径：— 口縁部～胴部上端ㄨ	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。口縁部は大きく外反し、口縁端部は外縁帯を持つ。外縁帯には沈線が一条巡る。内外面共に口縁部～胴部上端は回転などで。	内外面に多量の油煙付着。二次炎を受けている。
4 区 2299	245号土坑 椀 須恵器	器高：(20mm) 口径：— 底径：75mm 胴部下端～高台部ㄨ	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。外面：胴部下端は回転などで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下端～底部は回転などで。	
5 区 2343	249号土坑 鉄鏝？ 鉄製品	長：(123mm) 幅：4～9mm 厚：4～5mm		鉄鏝の篋被から茎か。	
2344	鉄鏝？ 鉄製品	長：(116mm) 幅：2～11mm 厚：4～5mm		鉄鏝の篋被から茎か。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
4区 2300	266号土坑 碗 須恵器	器高：(34mm) 口径：— 底径：[83mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	径4～5mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：胴部下半～底部は回転なで。	外面の一部に油煙付着。
4区 2301	280号土坑 ? 鉄製品	長：(65mm) 幅：4～7mm 厚：5mm		鉄製の茎または紡錘車の軸か。	
4区 2303	317号土坑 皿 土師器	器高：28mm 口径：[144mm] 底径：— 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。硬質。橙。	胴部～口縁部は短く、ほぼ直線的に広がる。外面：口縁部は横なで、胴部～底部は篔篋削り。内面：口縁部～胴部は横なで、底部はなで後渦巻き状暗文を施す。	
4区 2304	320号土坑 皿 須恵器	器高：21mm 口径：[133mm] 底径：72mm 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	内外面共に口縁部～胴部に油煙付着。燻し。
4区 2305	330号土坑 皿 須恵器	器高：(25mm) 口径：[134mm] 底径：[67mm] 口縁部～高台部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がる。外面：口縁部～胴部は回転なで、底部は回転糸切り後高台貼り付け。内面：口縁部～底部は回転なで。	
4区 2306	341号土坑 杯 土師器	器高：39mm 口径：142mm 底径：— ほぼ完形	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや軟質。橙。	胴部～口縁部はやや内湾。丸底。外面：口縁部は横なで、胴部上半は一部指頭痕が残り、胴部下半～底部は篔篋削り。内面：口縁部～底部上半は横なで、一部指頭痕が残り、底部下半はなで。	内外面に一部油煙付着。

## 水 田

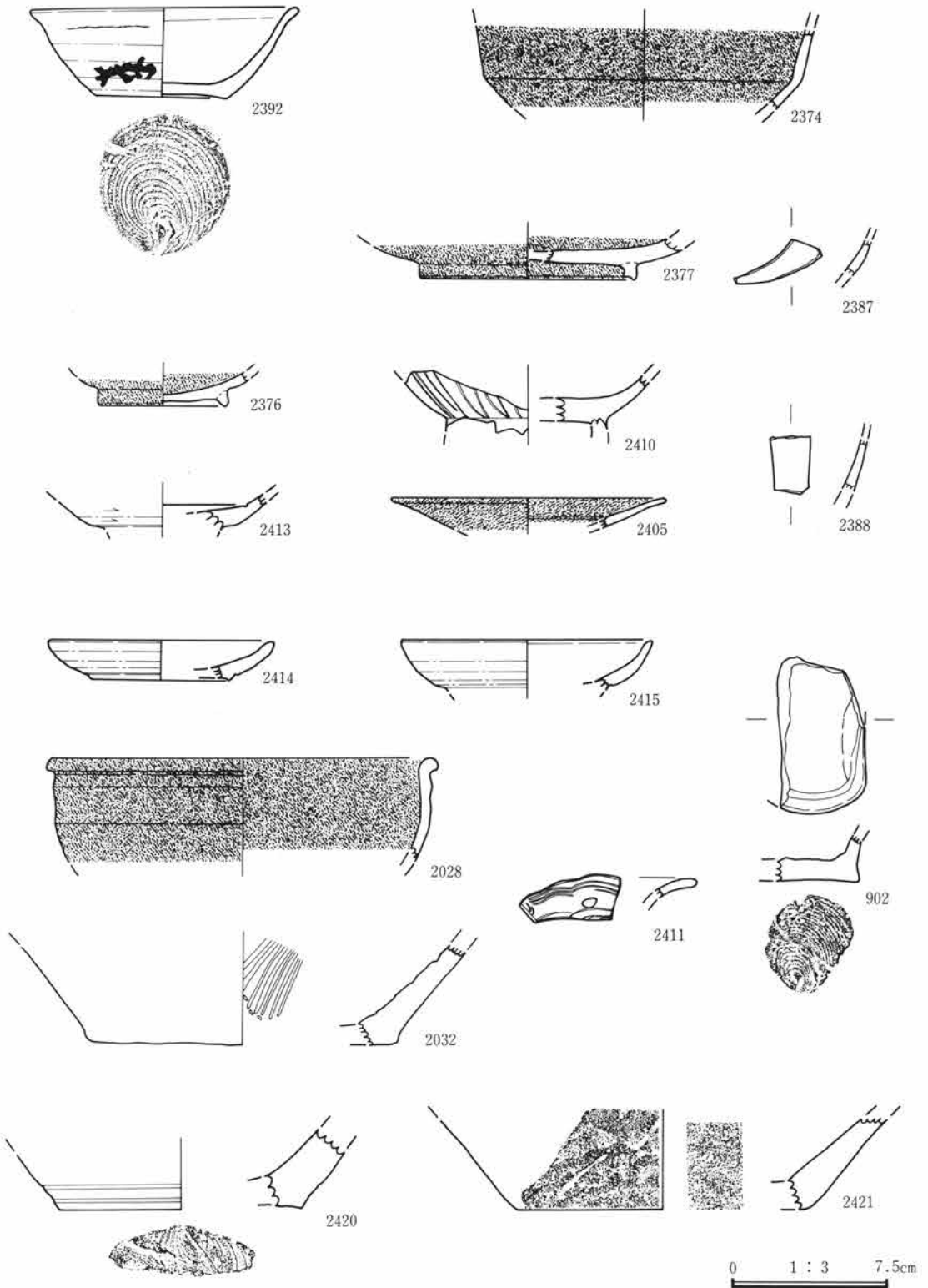
融通寺遺跡の水田跡は、昭和57年度に実施された第2次発掘調査、昭和58年度に実施された第3次発掘調査により検出されたものである。水田跡は、4区20号溝跡より北に広がり、5区北端の調査区域迄続いている。5区北端調査区域の北は20~30mの攪乱区域が続き、その先は井野川である。すなわち、水田跡は4区20溝と井野川間の低地であった部分に広がって要ると考えられる。

水田跡は表土下約1.2~1.8mの地点から検出されている。約30~50cmの表土の下に榛名山二ツ岳の軽石(FP)を含む灰褐色土・明褐色土が広がっており、この面が奈良時代、平安時代を中心とする竪穴住居跡の検出面になっている。この下は、やはり榛名山二ツ岳の軽石(FP)を含む灰褐色土であり、土層中に砂層を挟み込んでいる。また、灰褐色土の下部には榛名山二ツ岳の火山灰(FA)がブロック状に含まれている。これらの灰褐色土は、二ツ岳軽石の角がとれてまるくなっていることや、砂層を挟み込んでいることから、井野川の氾濫による水成堆積と考えられる。このことから、水田跡は古墳時代後期に営まれていたこと、榛名山二ツ岳の爆発以降の河川の氾濫、恐らく二ツ岳の爆発に関係した氾濫により埋没したと考えられる。その後、何回かの氾濫がその上面を覆い、河川の氾濫が及ばなくなった時点で、集落が営まれるようになったと推定される。

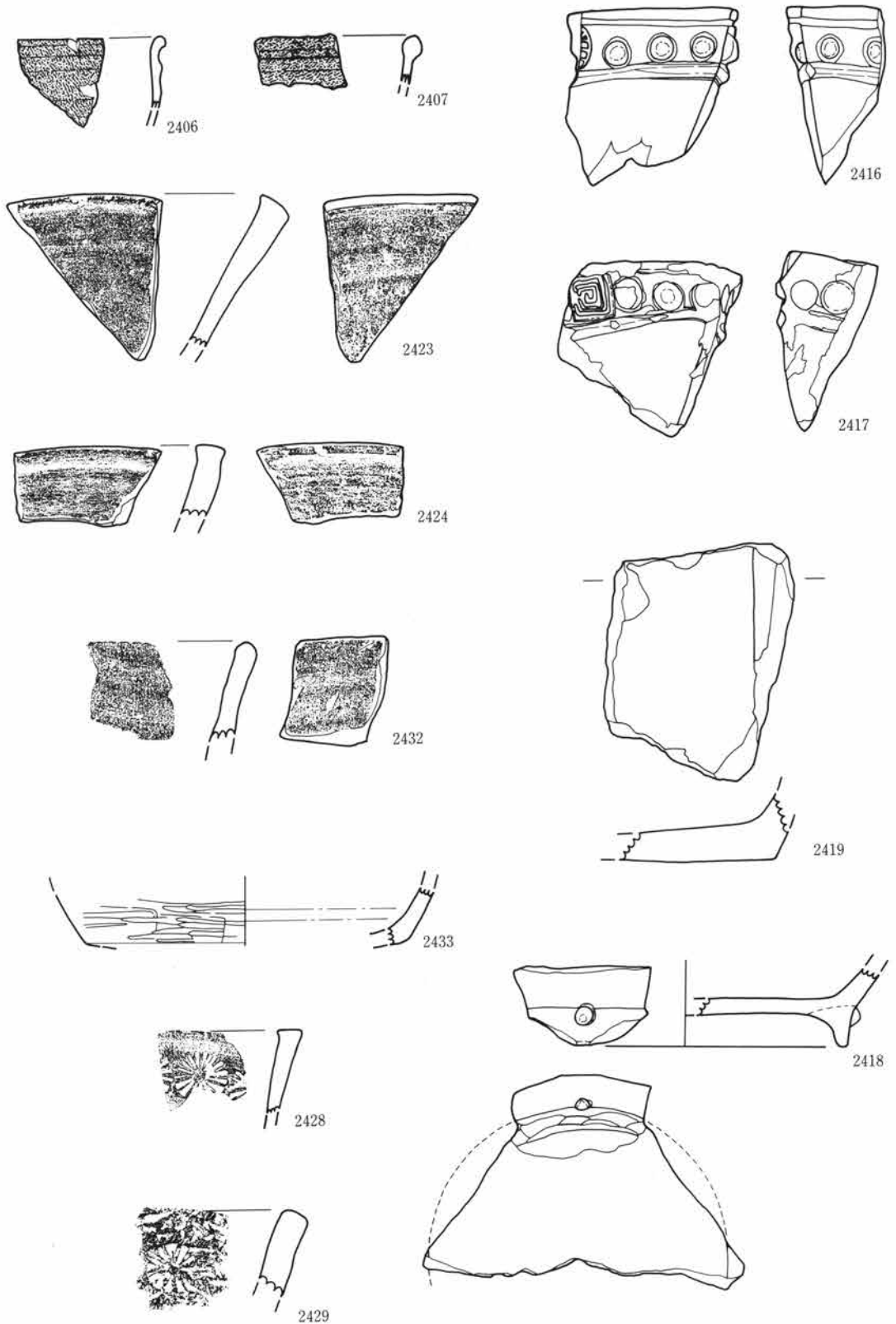
融通寺遺跡からは約60区画以上の水田が検出されている。調査区域が新幹線とその側道の約24mと狭いために広がり範囲は確定できないが、実際は更に広がりを持った水田であったことは確かである。水田面の標高は、調査区域の南端で105.9mであり、北端で約106.4mである。比高差が約0.5mあり、井野川に近づくほど高くなる。北西に聳える榛名山から続く傾斜なのか、井野川の自然堤防からの傾斜なのかは断定できない。

1区画の水田の規模は、側道部分が幅約6mと細いために、確定できないが、4区I-9・10、J-9・10グリッドを中心に広がる区画は約4×7mであり、平面形は長方形を呈する。4区I-33・34、J-33・34、5区I-1、J-1に広がる区画は1片約6mであり、平面形は方形を呈する。全体的に、平面形は長方形ないしは方形を呈すると推定されるが、大きさはまちまちであり、短辺が2mの小さい区画もあれば、大きい区画は10m以上ある。区画の大きさには、微地形が影響を与えているものと推定される。水田面からの畦畔の高さは、2~5cmである。

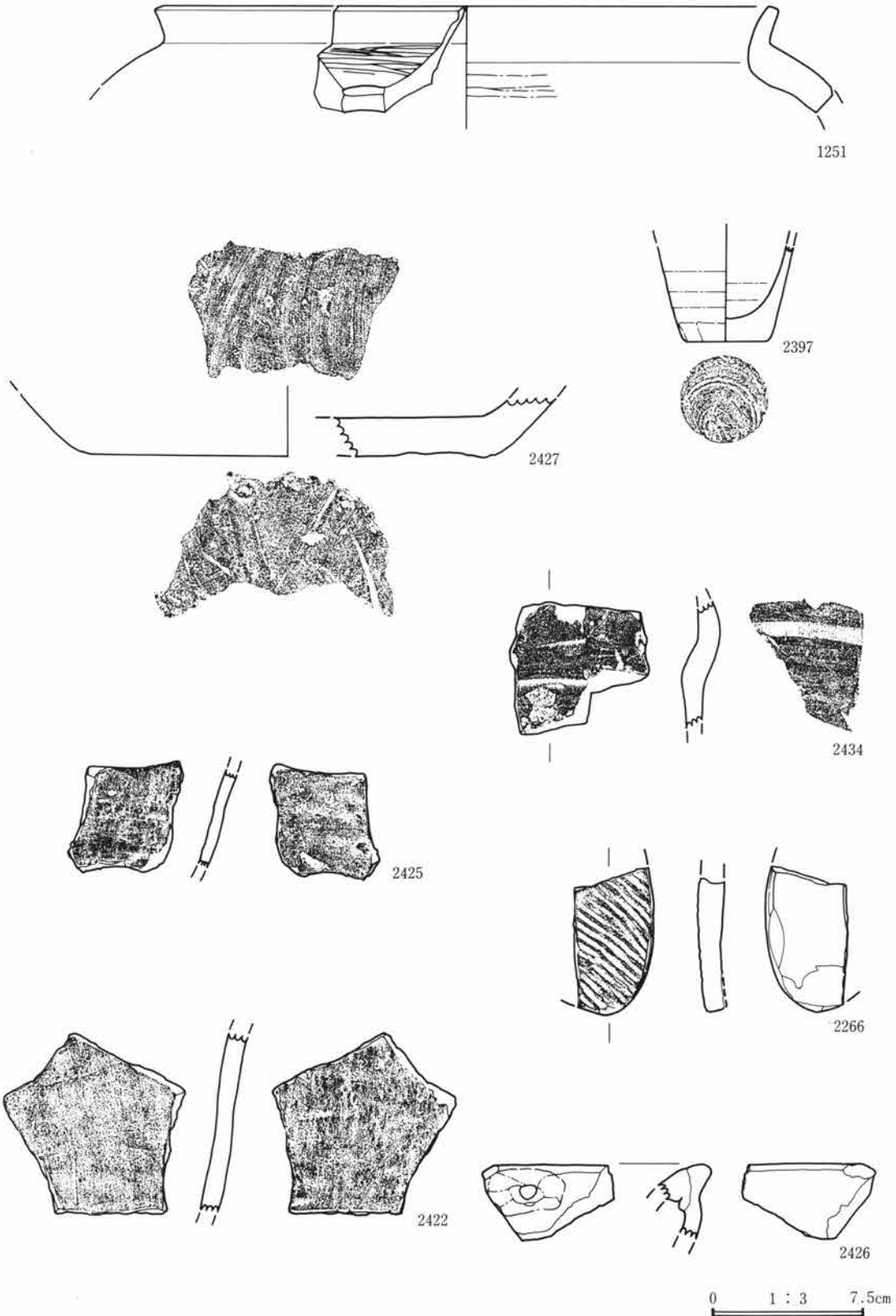
融通寺遺跡の水田の北には、井野川を挟み熊野堂遺跡の水田が広がっている。熊野堂遺跡の水田跡とは、時期的にも接近していると考えられ、生産跡を考える場合には両遺跡の水田跡は総合して考える必要がある。また、井野川の上流には、御布呂遺跡・芦田貝戸遺跡・同道遺跡などから、時期的に接近していると考えられる水田跡が検出されている。これらの遺跡も考慮に入れ、井野川水系の生産跡として考えていく必要があろう。



第711図 表土出土遺物①

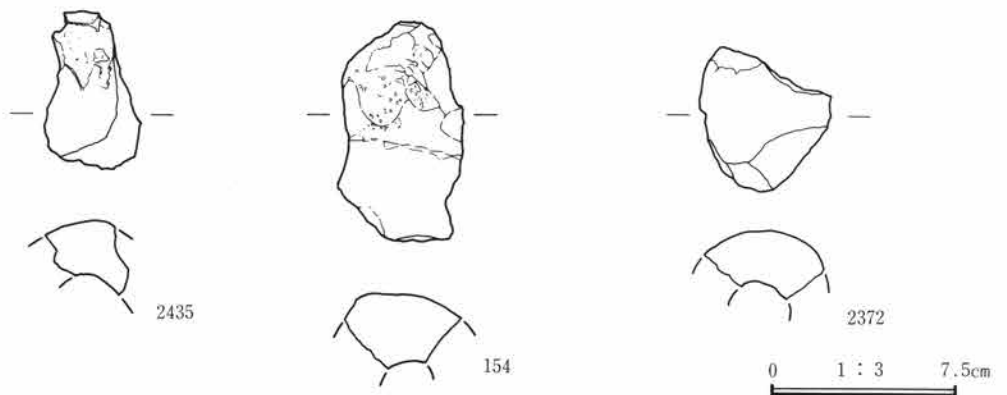
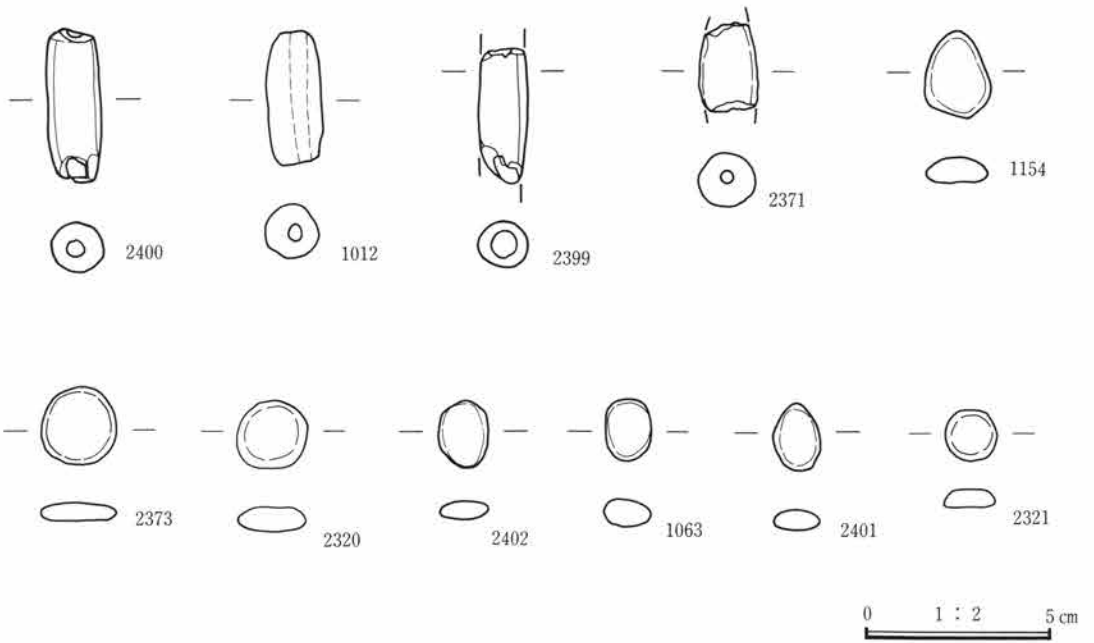
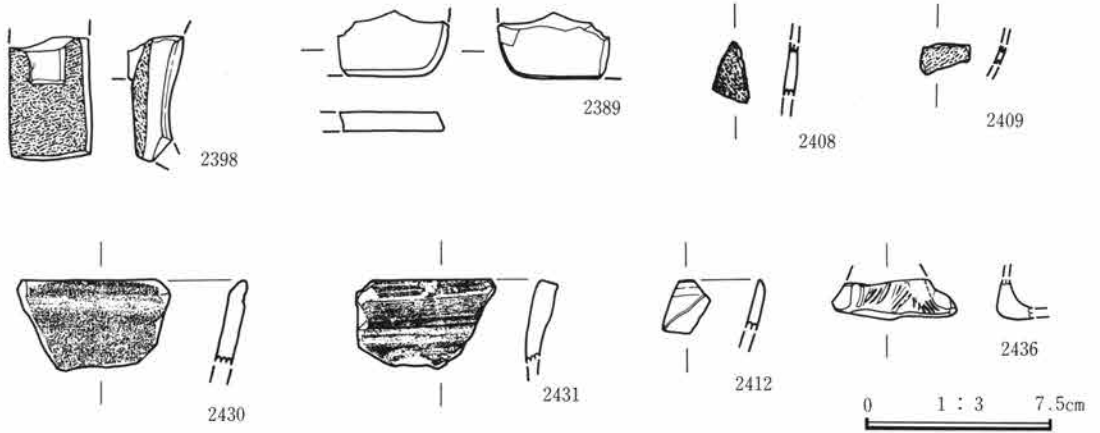


第712図 表土出土遺物②



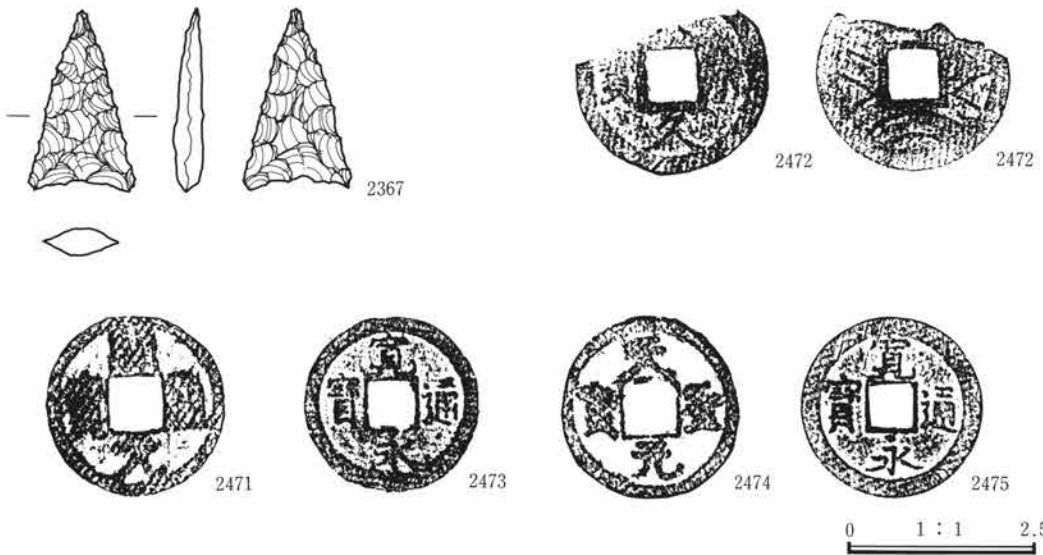
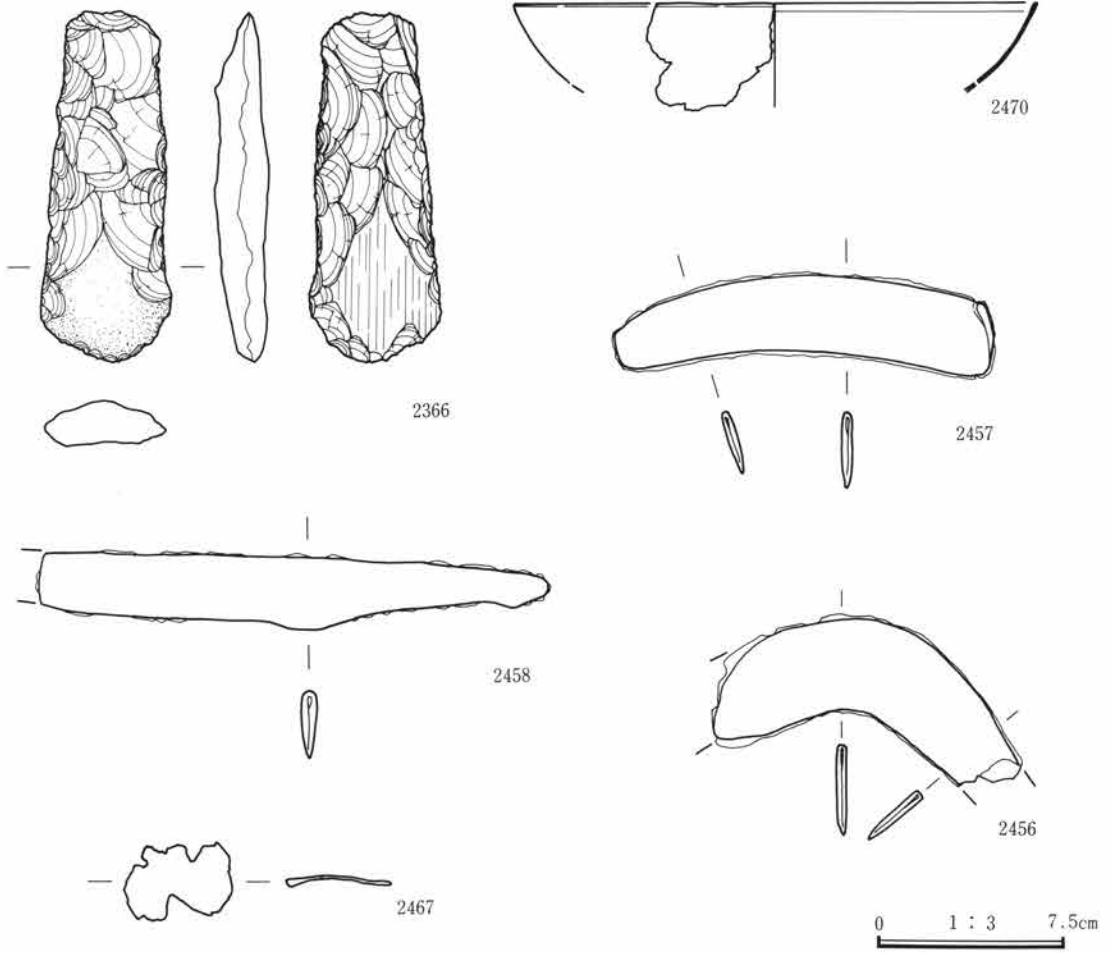
第713图 表土出土遺物③

第IV章 発見された遺構と遺物



第714図 表土出土遺物④





第715図 表土出土遺物⑤

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
0154	籬羽口	長さ:(87mm) 直径:一 口径:一	径2~3mmの小石を含む。酸化。硬質。外面:灰、内面:橙。	断面は円筒形。先端部にスラグが付着。	
0902	耳皿 土師質土器	器高:22mm 口径:一 底径:48mm 口縁部~底部%	径1~2mmの小石及び砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	轆轤整形、右回転。胴部~口縁部は直線的に広がり、両端をつまみ折りあげ。内面口縁部に沈線一条。外面:口縁部~胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面:口縁部~底部は回転などで。	内外面に油煙付着。二次炎を受けている。
1012	土 錘	長:34mm 径:14mm 口径:4mm 重:7.5g		両端がやや細くなる。	
1063	碁石	長径:17mm 短径:13mm 厚:7mm 重:2.1g	石英。	周囲が丁寧に磨いてある。	
1154	碁石	長径:23mm 短径:18mm 厚:8mm 重:4.0g	溶結凝灰岩。	周囲が丁寧に磨いてある。	
1251	火鉢 軟質陶器	器高:一 口径:一 底径:一 口縁部~胴部上端破片	径1mm前後の砂粒を含む。不完全還元。硬質。褐灰・鈍い橙。	内面は黒変している。外面は寛磨き。肩部に透かし。	在地製品。中世。
2028	鉢? 緑釉陶器	器高:(49mm) 口径:[182mm] 底径:一 口縁部~胴部上端破片	白色鉍物粒を含む。淡黄。	口縁部は外方に折り返す。胎土が粗いため、器表の凹凸が目立つ。濃緑色の鉛緑釉を施す。	中国製。明代。
2032	摺鉢 軟質陶器	器高:(48mm) 口径:一 底径:[150mm] 胴部下半~底部上端破片	外面鈍い赤褐。他は鈍い橙。	内面体部下端僅かに摩滅。筋目は7本1単位で白橋状形。	在地製品。15~16世紀。
2266	硯 須恵器	長:(69mm) 幅:(40mm) 厚:13mm	径2~3mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	須恵器甕の胴部転用。内面を硯として使用。側面は丁寧に擦られ、整えられている。内外面に叩目が残るが、内面は擦り減っている。	一部に油煙又は墨付着。
2320	碁石	直径:19mm 厚:7mm 重:3.8g	変玄武岩。	黒石。表面は丁寧に磨いてある。	
2321	碁石	直径:14mm 厚:6mm 重:1.6g	緑色珪質岩。	黒石。表面は丁寧に磨いてある。	
2366	打製石斧	長:138mm 幅:53mm 厚:22mm 重:182.7g	黒色頁岩。	裏面刃部付近に自然面を残す。横方向からの剝離後、刃部の細部調整を行う。	
2367	石 鏃	長:23mm 幅:13.5mm 厚:3.5mm 重:0.9g	チャート。	基部に抉りのある無茎鏃である。	
2371	土 錘	長:(23mm) 直径:15mm 口径:3mm 重:6.0g	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや硬質。橙。	端部のつぼまりは小さく、円筒形に近い。	
2372	羽口	長:(56mm) 直径:一 口径:一	径2~3mmの小石及び砂粒を含む。やや硬質。灰白・鈍い橙。	形態は円筒形に近い。外面は還元、内面は酸化。外面にスラグ付着。	

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2373	碁石	直径：20mm 厚：4.5mm 重：3.1g	変玄武岩。	黒石。表面は丁寧に磨いてある。	
2374	椀 緑釉陶器	器高：— 口径：— 底径：— — 胴部破片	細砂粒を含む。還元。 軟質。灰白。	体部下位に椀を有する。内外面篋磨き。淡い鉛緑釉を施す。	
2376	椀 緑釉陶器	器高：(16mm) 口径：— 底径：[62mm] 胴部下端～高台部 $\frac{1}{2}$	径1mm前後の砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下端は回転などで、底部は高台貼り付け後回転など。内面：胴部下端～底部は回転など。	内面は底部まで、外面は高台部外側まで施釉。
2377	椀 緑釉陶器	器高：(19mm) 口径：— 底径：[104mm] 胴部下半～高台部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。やや軟質。灰白。	轆轤整形。外面：胴部下半は回転などで、底部は高台貼り付け後回転など。内面：胴部～底部は回転など。	内外面共に底部まで施釉。
2387	碗？ 磁器	器高：— 口径：— 底径：—	青灰。	現存部では内外面無紋。	龍泉窯系青磁。中世。
2388	碗 磁器	器高：— 口径：— 底径：—	青灰。	内外面無紋。青磁釉を厚く施す。貫入が入る。	龍泉窯系青磁。14～16世紀。
2389	鉈尾 石製鈔帯	長：(43mm) 幅：(26mm) 厚：7.5mm 重：14.4g	石英質岩石。	表面は丁寧に磨かれており、側面・裏面は丁寧に擦られている。	
2392	杯 須恵器	器高：43mm 口径：43mm 底径：61mm 口縁部～底部 $\frac{1}{2}$	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。還元。やや硬質。灰白。	轆轤整形、右回転。胴部～口縁部は直線的に広がり、口縁端部はやや外反。外面：口縁部～胴部は回転などで、底部は回転糸切り。内面：口縁部～底部は回転など。	外面の胴部に墨書「未」。
2397	升 須恵器	器高：(46mm) 口径：— 底径：42mm 胴部下半～底部 $\frac{1}{2}$	径3～4mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰。	轆轤整形、右回転。胴部はほぼ直線的に広がり、形態はコップ状。外面：胴部下半は回転などで、底部は回転糸切り。内面：胴部下半～底部は回転など。	
2398	平瓶 灰釉陶器	器高：— 口径：— 底径：— — 取っ手部破片	径1～2mmの小石及び砂粒を含む。還元。硬質。灰白。	平瓶の「コ」字状取っ手の一部。取っ手手上には飾り(水鳥?)が乗る。内外面共に篋削り。	外面及び側面に施釉。
2399	土 錘	長：(36mm) 直径：13mm 孔径：5mm 重：5.7g	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。黒褐。	端部はややつぼまる。形態はほぼ円筒形。	外面に油煙付着。
2400	土 錘	長：40mm 直径：14mm 孔径：4mm 重：8.5g	径1mm前後の砂粒を含む。酸化。やや軟質。灰褐。	端含端部はややつぼまる。形態はほぼ円筒形。	外面に油煙付着。
2401	碁石	長径：18mm 短径：14mm 厚：6mm 重：2.3g	黒色安山岩。	黒石。周囲は丁寧に磨いてある。	
2402	碁石	長径：18mm 短径：14mm 厚：5.5mm 重2.1g	チャート。	白石。周囲は丁寧に磨いてある。	
2405	段皿 緑釉陶器	器高：(15mm) 口径：[132mm] 底径：— 口縁部～胴部 $\frac{1}{2}$	細砂粒を含む。還元。やや軟質。灰。	轆轤整形。胴部～口縁部はほぼ直線的に広がり、口縁端部は僅かに外反。内面に段を持つ。外面：内外面共に口縁部～胴部は回転など。	内外面共に口縁部～胴部は施釉。

第四章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2406	鉢? 緑釉陶器	器高:— 口径:— 底径:— — 口縁部~胴部上半破片	白色鉱物粒を含む。淡黄。	口縁部は外方に折り返す。胎土が粗いため、器表の凹凸が目立つ。濃緑色の鉛緑釉を施す。	中国製。明代。
2407	鉢? 緑釉陶器	器高:— 口径:— 底径:— — 口縁部~胴部上端破片	白色鉱物粒を多量に含む。硬質。黒灰色と灰白色部分が縞状を呈する。	クリーム色の化粧土を内外面に施した後鉛緑釉を掛ける。表面はやや銀化する。	中国製。明代。
2408	不祥 緑釉陶器	器高:— 口径:— 底径:— — 胴部小破片	白色鉱物粒を含む。淡黄。	器表や釉薬、胎土の特徴は2406と近似している。	中国製。明代。2409と同一?
2409	不祥 緑釉陶器	器高:— 口径:— 底径:— — 胴部小破片	白色鉱物粒を含む。淡黄。	器表や釉薬、胎土の特徴は2406と近似している。	中国製。明代。2408と同一?
2410	碗 磁器	器高:(28mm) 口径:— 底径:— 胴部下半~高台部上端 $\frac{1}{2}$	青灰。充分磁化していない。	底部外面は無釉。外面にやや簡略化した片切り彫りで錦蓮弁文を施す。オリブ灰色の青磁釉を施す。	龍泉窯系青磁。13~14世紀。
2411	皿 磁器	器高:— 口径:— 底径:— — 口縁部破片	青灰。	口縁部は波状に作る。内面には篋で劃花文を施す。粗い貫入が入る。	龍泉窯系青磁。15~16世紀。
2412	不祥? 磁器	器高:— 口径:— 底径:— — 口縁部~胴部上端破片	淡い青灰。緻密。	外面には篋による文様が施される。釉の色調はやや灰色味を帯びた緑色。	龍泉窯系青磁。中世。
2413	碗 磁器	器高:— 口径:— 底径:— — 胴部下半~底部上端破片	灰白。磁化していない。	内面には篋で圏線を巡らす。釉は薄く、細かい貫入が入る。轆轤左回転。	龍泉窯系青磁?中世。
2414	志野丸皿 陶器	器高:(19mm) 口径:[108mm] 底径:[61mm] 口縁部~高台部 $\frac{1}{2}$	やや粗い。淡黄。	高台は低く断面三角形。底部外面を除き長石釉を施す。	瀬戸・美濃系。17~18世紀。
2415	志野丸皿 陶器	器高:(24mm) 口径:[120mm] 底径:— 口縁部~高台部上端破片	やや粗い。淡黄。	高台はやや高い。体部は丸味を帯びる。内外面に長石釉を施す。	瀬戸・美濃系。17世紀。
2416	角形火鉢 軟質陶器	器高:(86mm) 長辺:— 短辺:— 口縁部~胴部破片	比較的緻密。器表黒灰。胎土青灰。	外面と口縁端部は篋磨き。内面はなで。口縁突帯間には菊花形押印と円形貼文を巡らす。	在地製品。15~16世紀。
2417	角形火鉢 軟質陶器	器高:(85mm) 長辺:— 短辺:— 口縁部~胴部破片	比較的緻密。器表黒灰。胎土鈍い黄橙。	外面と口縁端部は篋磨き。内面はなで口縁突帯間に雷文風の押印と円形貼文を巡らす。	在地製品。15~16世紀。
2418	手あぶり 軟質陶器	器高:(38mm) 口径:— 底径:— 胴部下端~脚部上端 $\frac{1}{2}$	比較的緻密。器表黒灰。胎土灰白。	脚部外面に三角錐形の貼文を施す。脚は3カ所に張り付けたと考えられる。	在地製品。中世。
2419	火鉢? 軟質陶器	器高:— 長辺:— 短辺:— 胴部~底部破片	比較的緻密。器表黒灰。胎土灰白。	外面は篋磨き。内面はなでの後、粗い篋磨き。	在地製品。中世。
2420	摺鉢 軟質陶器	器高:(38mm) 口径:— 底径:[115mm] 胴部下端~底部上端 $\frac{1}{2}$	器表黒灰。胎土鈍い赤褐色。	底部左回転糸切り無調整。内面使用により摩滅。	在地製品。中世。

表土観察表

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2421	摺鉢 軟質陶器	器高：— 口径：— 底径：— — 底部下端～底部上端 $\frac{1}{2}$	青灰。	内面使用により摩滅。	在地製品。中世。
2422	内耳鍋 軟質陶器	器高：— 口径：— 底径：— — 胴部破片	内表黒灰。胎土鈍い赤褐。	内面横位なで。外面指押えとなで。	在地製品。14～15世紀。外面煤付着。
2423	摺鉢 軟質陶器	器高：— 口径：— 底径：— — 口縁部～胴部上半破片	黒灰。	口縁外面と内面回転横なで。体部外面指押えと粗いなで。口縁端部内面は内側に小さく突き出す。	在地製品。15世紀。
2424	摺鉢 軟質陶器	器高：— 口径：— 底径：— — 口縁部～胴部上端破片	青灰。	口縁端部は内外面に小さく突き出す。	在地製品。中世。
2425	内耳鍋 軟質陶器	器高：— 口径：— 底径：— — 胴部破片	器表黒灰。	内面横位なで。外面指押えと粗いなで。	在地製品。15～16世紀。
2426	内耳鍋 軟質陶器	器高：— 口径：— 底径：— — 口縁部～胴部上端破片	青灰。	口縁端部は平坦で幅広い。	在地製品。14～15世紀。
2427	火鉢? 軟質陶器	器高：(29mm) 口径：— 底径：[192mm] 胴部下端～底部 $\frac{1}{2}$	器表青灰。胎土灰白。	底部には離れ砂が付着。	在地製品。中世。
2428	手あぶり 軟質陶器	器高：— 口径：— 底径：— — 口縁部～胴部上端破片	器表黒灰。胎土灰白。	内外面回転横なで。外面には菊花形の押印が連続して押されている。	在地製品。中世。
2429	火鉢? 軟質陶器	器高：— 口径：— 底径：— — 口縁部～胴部上端	灰白。	器表摩滅。口縁部内面に菊花形の押印。	在地製品。中世。
2430	不祥 軟質陶器	器高：— 口径：— 底径：— — 口縁部～胴部上端	鈍い赤褐。	鉢形鍋か?	在地製品。時期不祥。
2431	不祥 軟質陶器	器高：— 口径：— 底径：— — 口縁部～胴部上端破片	黒灰。	外面は強い回転横なで。	在地製品。時期不祥。
2432	摺鉢 軟質陶器	器高：— 口径：— 底径：— — 口縁部～胴部上端破片	鈍い赤褐。	内外面轆轤目が明瞭に残る。	在地製品。中世。
2433	手あぶり? 軟質陶器	器高：— 口径：— 底径：— [154mm] 胴部下端～底部上端 $\frac{1}{2}$	器表黒灰。胎土灰白。	外面磨き。内面回転横なで。	在地製品。中世。
2434	火鉢 軟質陶器	器高：— 口径：— 底径：— — 口縁部～胴部上半破片	器表と胎土の中心部黒灰。その他鈍い橙。	黒内面横なで。外面磨き。	在地製品。中世。
2435	羽口	長：(63)mm 直径：— 孔径：—	径2～3mmの小石及び砂粒を含む。やや硬質。灰白・浅黄橙。	形態は円筒形と推定。外面にスラグ付着。外面は還元、内面は酸化。	
2436	泥人形 素焼き		鈍い橙。	着物の裾部分。形押し成型。	在地製品?近世～近代。
2456	鎌 鉄製品	長：(122mm) 幅：25～36mm 厚：4mm		大きく内側に反る。鉄板を折り曲げて製作。	

第IV章 発見された遺構と遺物

番号	器種 土器種	法量(器高・口径・底径・最大径) 遺存状態	胎土・焼成・色調	器形・技法の特徴他	出土状態 備考
2457	鎌 鉄製品	長：152mm 幅：15～31mm 厚：4mm		反りは僅かであり、基部は折り曲げ。鉄板を折り曲げて製作。	
2458	刀子 鉄製品	長：(203mm) 幅：13～28mm		鉄板を折り曲げて製作。	
2467	？ 鉄製品	縦：(43mm) 横：(31mm) 厚：1.5～3mm		用途不明。表面に一部金箔あり。	
2470	銅 碗	器高：(35mm) 口径：[210mm] 底径：—		胴部は緩やかに内湾。口縁部は内側へ折り返し。	
2471	銭			唐、「開元通寶」。	
2472	銭			「文久永寶」。	
2473	銭			「寛永通寶」。	
2474	銭			北宋、「天聖元寶」。	
2475	銭			「寛永通寶」。	

## 第V章 調査の成果と問題点





## 第1節 融通寺遺跡出土の瓦について

須田 茂

融通寺遺跡における出土瓦は、瓦塔・軒丸瓦および丸瓦・平瓦などがある。ここでは丸瓦と平瓦を分類し、観察所見を呈示したい。

丸瓦・平瓦の出土量は、完形2点、半損ほどのもの3点のほか、多数の破片があり、全体としては104点がある。これを分類すると、A類～G類の7類に分類され、その特徴は付表のとおりである。A・B・C・Dの4類は丸瓦・平瓦共に存在するが、D類とE類は丸瓦のみであり、F類は資料5点が破片であることもあって、形状からは丸瓦・平瓦の判別が不能である。資料の量でいうと、A・B・C類が多めであり、D～F類は少ない傾向にある。

個々の瓦類の中でやや特徴的なものは、A類の平瓦とC類およびG類である。まず、A類の平瓦は、凸面に全面にタテ方向縄叩きが施されているが、下端近くのみ一単位分のヨコ方向縄叩きが施されている。このような例は工人のクセによるものであろうが、他の瓦と識別する上で有力な指標となしうるものである。このほか、当平瓦は、凸面の表面に人為的とみられる砂粒の付着がみられたり、後述するような製作技法上のいわゆる「一枚造り」の証左がみられるなどの特徴を有している。つぎに、C類は丸瓦・平瓦ともに凹面の布目痕が部分的に二重になっていることである。この事象のおこりうる理由は現状では解明されていないが、製作技法に関わるものであって、おそらく一枚造りの成形台上で布目を二重に重ねることがあったのだろう。3つめに、G類は丸瓦・平瓦共に凹面に蓆状の編み目痕が付着している。これは瓦の製作時に通常の布が用いられなかったことを示すものであるが、県内外を通じて稀なものである。同類の分布地は、小塚窯跡(高崎市小塚町)、上野国分寺跡、綿貫遺跡(高崎市綿貫町)、中西廃寺(多野郡吉井町黒熊)などにある。

古代の瓦の中で平瓦の場合、その製作技法、端的に言えば「桶巻造り」であるのか、「一枚造り」であるのか、あるいはその他の技法であるのかを識別することは瓦の製作技法や年代観を判断する上でも重要である。上野国の場合、古い段階では桶巻造りが主体を占め、8世紀中葉頃を境に一枚造りに移換するものと考えられる。融通寺遺跡の平瓦は、桶巻造りの指標となる模骨痕が全くみられず、全て一枚造りの可能性が考えられるものである。その中で、一枚造りであることが確実視されるものはA類の平瓦である。すなわち、A類の平瓦の中には側端付近が凹面側に屈曲するものがある。これはカマボコ形状成形台上において平瓦の側部がはみ出して屈曲した可能性を示唆するものである。また、熊野堂遺跡出土の平瓦で、融通寺遺跡A類の平瓦と同類のものに、側面部に布目痕の付着したものがある。以上、A類をはじめとして平瓦の製作技法からみた場合、融通寺遺跡出土の瓦は、おしなべて8世紀中葉以降の可能性をもつとみなされよう。

瓦のつくり、つまり質の良否ということでは、A～C類が良質であり、E～G類が粗質であって、D類はその中間的なところである。すなわち、A～C類は還元炎焼成で、灰色ないし灰青色を呈し、質も硬か並である。これに対し、E～G類は低火度ないしは酸化炎の焼成であって、褐色系を呈し、軟質である。瓦の厚さも前者は1～2cmであるのに対して、後者は1cmを割るものがあり、概して

薄手である。完形の瓦が少ないために大きさを検討することはできないが、E～G類は小規模化しているであろうと予測される。古代の瓦は時代が降りるにつれて製作技法が低下し、粗悪化と小規模化の傾向があり、このような観点からは融通寺遺跡の瓦もA～C類が古く、E～G類が新しく位置づけられよう。

瓦の年代観を限定する上での関連事項をみておきたい。その一つは竪穴住居跡のカマドの構築材として瓦が転用されている場合である。融通寺遺跡では、C類の平瓦が2区15号住居跡・2区17号住居跡・2区20号住居跡・2区106号住居跡、F類の瓦が2区19号住居跡でそれぞれ使用されている。そして、伴出土器からは15住・17住・20住・107住が9世紀後半、19住が10世紀に比定されよう。カマドに瓦が転用されている場合、その竪穴住居跡の年代は瓦の下限を示すことになる。したがって、C類とF類の瓦はそれぞれ下限年代をおさえることができるものとみなされる。つぎに、瓦の生産窯跡との関連でいうと、G類は小塚窯跡との関係が想定される。小塚窯跡は発掘調査がなされていないために全容は不明であるが、採集資料としては8世紀代と10世紀代の2群の須恵器と瓦があり、後者の中に蓆状の編目痕を有す瓦もある。融通寺遺跡G類の瓦は10世紀代の一群に比定されるものである。

以上、丸瓦と平瓦を分類し、また年代観にかかわる事項を検討してきた。その中では古い様相をもつとみられるA類とB類の年代が限定しえないために上限をどこにおくか問題が残るが、広くおさえても8世紀中葉、つまり国分寺の創建年代をさかのぼることはないといえよう。融通寺遺跡出土の丸瓦・平瓦は9世紀代、のぼらせても8世紀後半代、また下限は10世紀代の瓦からなるものといえよう。

さいごに、軒丸瓦について少しふれたい。当遺跡出土の軒丸瓦は単弁五弁文であって、種類は一種である。瓦当部の破片4、丸瓦部の破片4がある。胎土はやや粗く、灰色ないしは明灰色を呈し、軟質である。瓦当部と丸瓦部の製作技法はいわゆる「印籠づけ」である。瓦当裏面は指頭によるナデ整形である。丸瓦部をみると、凸面はタテ方向ヘラナデであり、凹面は布目痕がある。この軒丸瓦の丸瓦部は上述した融通寺遺跡の丸瓦・平瓦の分類の中に同類はみいだしえない。通例的に考えるならば、丸瓦・平瓦・軒丸瓦・軒平瓦は一体的に生産され、その軒丸瓦の丸瓦部に併行して生産されている丸瓦が用いられるものであろう。このことから融通寺遺跡の軒丸瓦の場合、組み合わせるべき丸瓦・平瓦が当遺跡において出土しなかったとすべきか、あるいは初めからそのようなものがなかったのか、さらに、丸瓦と軒丸瓦の丸瓦部が全く別個に造られたというようなことがあったのか、などが想定される。

ちなみに、当軒丸瓦は全く同様なつくりの瓦が、熊野堂遺跡第I地区の68号住居跡のカマドに転用されている。同住居跡は10世紀前半の年代が想定され、当軒丸瓦の瓦当文様が上野国分寺の創建期の文様の退化型式であることも勘案すると9世紀前後に比定されるものである。

融通寺遺跡出土瓦分類表

類別	規 模	凸 面 整 形	凹 面 整 形	側面整形	端面整形	胎 土	色 調	焼 成	素 材 成 形	資料数	遺物番号	挿図番号
A類	丸瓦	長：375mm 厚：11～18mm	全面斜め方向縄叩。	布目跡。	1面	2面	普通(縞状)、砂粒を含む。	灰還元	普通。	粘土板。円筒二分割か。	半損1 破片14	2485 347
	平瓦	長：360mm 厚：19～20mm	縦方向縄叩き。 下端近く、横方向縄叩き。裏面に砂粒付着。	粘土板切り取り痕。布目痕。	3面	2面	普通。砂粒が多い。	灰還元	やや硬質。	粘土板。一枚造り。	半損1 破片7	2483 80
B類	丸瓦	長：10～15mm 厚：11～14mm	斜め方向なで。	布目痕。	2面	1面	細かい。黒色粒子を含む。	青灰還元	硬質。	粘土板。円筒二分割か。	破片8	2488 348 2492 346
	平瓦	厚：11～18mm	斜め方向縄叩。	布目痕。	1面	1面	細かい。黒色粒子を含む。	青灰還元	硬質。	粘土板。一枚造り。	破片15	2057 321 2487 349
C類	丸瓦	厚：11～18mm	斜め方向なで。	布目痕。部分的に二重布目痕。	2面	1面	やや細かい。	灰還元	普通。	粘土板。円筒二分割か。	完形2 半損1 破片24	2489 347 2490 349
	平瓦	長：372mm 厚：11～21mm	斜め方向なで。	布目痕。部分的に二重布目。	1面	1面	やや細かい。	灰還元	普通。	粘土板。一枚造り。	破片4	0155 36 0470 207 2484 47 2486 348
D類	丸瓦	厚：13mm	縦方向縄叩後、轆轤右回転横なで。	布目痕	3面		細かい(縞状)。少量の砂粒を含む。	青灰還元	やや硬質。	粘土板。円筒二分割か。	破片4	2497 347
E類	丸瓦	厚：15～17mm	轆轤回転なで。	布目痕。	2面	1面	細かい(縞状)。	淡褐 淡灰 褐	軟質。低火度還元が酸化。	粘土板。円筒二分割か。	破片7	2498 347 2499 347
F類		厚：15mm	縦方向篋削り。	布目痕。	1面	1面	普通。砂粒を含む。	茶褐	軟質。酸化。	粘土板。一枚造りか。	破片5	0181 45
G類	丸瓦	厚：15mm	なで。	蓆状編目痕。	2面		粗い。砂礫を含む。	灰	やや軟質。		破片1	
	平瓦	厚：9mm	篋削り。	蓆状編目痕。	1面		粗い。砂礫を含む。	淡褐	軟質。		破片2	2496 348

## 第2節 融通寺遺跡の出土文字資料

高島英之

当遺跡からは、文字資料が21点出土している。内訳は墨書土器12点、刻書7点、線刻のある紡錘車2点である。墨書土器は1点(1031)以外、すべて1文字のみの記載である。刻書土器は明らかに文字を記するもの3点(217・314・1709)と、記号4点(72・1581・1758・2322)とに分けられる。刻書土器はいずれも甕状のもので土器焼成以前に記されたものであるが、この中では1581・2322の2点が判読不能であるものの、何か「花押」のごときものを想像させるような一種のサイン様のものではないかと考えられる。

遺物番号	器 種	記 載 部 位	積 文	種 別
72	須恵器長頸壺	底部外面	「×」	刻書
88	土師器杯	胴部外面、横位	「丁」	墨書
217	須恵器耳皿	底部外面	「前」	刻書
271	須恵器杯	底部外面	「口」	墨書
314	灰釉陶器椀	底部内面	「如」	刻書
332	須恵器杯	底部外面	「万」	墨書
885	須恵器椀	底部外面	「口」	墨書
1031	須恵器杯	底部外面	「口口」	墨書
1075	土師器杯	胴部外面、正位	「上」	墨書
1092	紡錘車	側面、横位	「口 口」	刻書
		外面、正位	「口 口」	刻書
1096	土師器杯	底部外面	「上」	墨書
1264	須恵器椀	胴部外面	「口」	墨書
1327	須恵器椀	底部外面	「加」	墨書
1428	土師器杯	胴部外面	「口」	墨書
1488	土師器杯	底部外面	「口」	墨書
1581	須恵器椀	胴部外面	「口 口」	刻書
1709	土師器杯	底部外面	「田」	刻書
1758	土師器杯	底部外面	「×」	刻書
2147	紡錘車	側面、正位	「小」……「十」	刻書
2322	須恵器椀	胴部外面	「口 口」	刻書
2392	須恵器杯	胴部外面、横位	「未」	墨書

### 第3節 融通寺遺跡4区2号井戸跡出土の人骨について

森本岩太郎・小片丘彦・吉田俊爾

この人骨は、上越新幹線関係融通寺遺跡2号井戸跡から発見されたものである。群馬県教育委員会からの委嘱により、昭和50年1月24・25日の両日、森本・吉田が現地に赴き、人骨の出土状況を確認して、これを採取した。人骨調査に際してお世話になった県教委の各位に厚くお礼申し上げます。

#### 1 人骨の出土状況(第671図、写真図版245)

人骨が発見された場所は、直径約0.7mの円筒形の素掘りの丸井戸の内部である。この井戸は、ほぼ垂直に掘り下げられ、6世紀の地表面と推定される面から約5.4mの深さをもっている。人骨はこの井戸の底から約1.2m上方(約1.2mの深さ)から出土した。

この井戸跡の内部の土砂の堆積状況の概略をみると、井戸底に接して厚さ約0.2mの砂まじりの粘土層があり、その上に厚さ約0.4mの石層が乗っている。石層の上面が見かけ上の底であるから、この井戸の見かけ上の深さは約4.8mということになる。実際は、井戸底には水がたたえられるので、使用中の井戸の水面までの深さは、もちろんこれより浅い訳である。

人骨は、見かけ上の井戸底から約0.6m上方で発見されたが、人骨と見かけ上の底との間の砂質の堆積土には、2層の不完全な薄い砂まじりの粘土層(深さ約4.6mと4.4m)がはさまれる。薄い砂まじりの粘土層は人骨の直上(深さ約4.0m)にも2層重なって存在し、そのほか約3.6m、約2.8mの深さのところにも各1層の砂まじりの粘土層が見られる。

井戸底に近い上記の石層中には、中世末～近世初頭ごろに使用されたのと同型式と思われる石臼の破片が混在しているので、井戸の掘られた年代もほぼこの時期かと推定される。石層上面と出土人骨との間には、前記のように約0.6mの砂質の堆積があるが、これに2層の不完全な粘土層が介在することから考えて、人骨は井戸が廃用されて後、やや土砂が堆積したときに井戸内に納まったものと想像される。

出土人骨は、熟年女性と思われる1個体分と、年齢3歳ぐらゐの幼児の歯1個体分、合計2個体分である。

このうち、熟年女性の人骨は頭蓋・肋骨・骨盤・自由上肢骨・自由下肢骨の各一部が残っているだけで、保存状態は良くない。人骨の出土状態から推測される姿勢は次のとおりである。すなわち、古井戸内の上記の深さで、この熟年女性は右側臥屈位をとっているが、股関節をほぼ直角に、また膝関節を極度に屈曲しているので、あたかも正座した人物をそのまま右へ水平に倒した姿勢に近い。右上肢は、肘関節を屈曲し、手は右大腿付近にあるが、左上肢は、肘が顔の前にあり、手を頭上に上げている。頭蓋と骨盤との距離が約40cmしかないが、顔は骨盤に向かっているので、脊柱(残存せず)はかなり前屈していたと想像される。膝関節を折り曲げた下肢は井戸の南西壁に接し、ほぼ北東頭位、軀幹軸は骨盤側が頭側よりやや高い。各骨の配列は解剖学的自然位をとっている。

いっぽう、幼児の歯は熟年女性骨の骨盤付近に、ひとかたまりになって埋没していた。

人骨出土の地点および井戸跡内の土砂の堆積状況、とくに石臼の破片の年代との関係などから、出土人骨は中世末ないし近世初頭に属するものと推定される。

装身具および副葬品に類するものは発見されなかった。

## 2 人骨所見

### a 熟年女性骨(写真図版245)

頭蓋・肋骨・骨盤・自由上肢骨・自由下肢骨の各一部側が残っているだけで、保存状態は良くない。頭蓋については、イニオンを含む後頭骨の右上半部・頭頂骨(右)の大部分と矢状縫合を介してこれに続く頭頂骨(左)の一部・側頭骨(右)の大部分によって形成される比較的大きな破片のほか、約6cm×6cm大の頭頂骨片(左)、側頭骨岩様部と鱗部(左)の一部、上顎骨(左)の小部分、腐食の著しい下顎骨の大部分などが、主要な骨片である。外後頭隆起・上項線・乳様突起の発達は弱く、頭頂結節の膨隆は強い。矢状縫合の内板はほとんど閉鎖を完了し、外板も部分的に閉鎖している。ラムダ縫合の閉鎖度はこれよりやや遅れている。下顎骨は側方からの土圧による変形が著しく、左右の下顎枝間の距離はわずか6cmほどしかない。歯の残存状態も下に示すように不良で、6は歯冠の小破片にすぎない。

		6 7
7 6		6 7

7|7は歯列弓上でその遠心端がやや内転する。歯の咬耗度はMartinの第2～3度である。上記の歯に対応する部分以外の歯槽突起は自然の腐食によりほとんど完全に失われている。

肋骨片は小さなものが数片認められるにすぎない。

骨盤については、腸骨の体と翼(左)の一部などが、残っている破片のうち比較的大きなものであるが、この骨片によって性別の特徴を確認し得るほど保存の良いものではない。

自由下肢骨では、橈骨体(右)の破片、尺骨体(右)の破片、尺骨鉤状突起(左)の一部などが残っているが、いずれも細く、きゃしゃである。

自由下肢骨は、大腿骨体(右)の大部分、脛骨体(右)などが主要なものであるが、両者とも比較的細い。大腿骨粗線および殿筋粗面の発達は中程度である。

身長は人骨の保存が不良のため推定不能であるが、大腿骨片および脛骨片の大きさからみて、それほど長身とは思われない。

以上の所見を総合すると、この人骨は熟年女性と考えられる。保存不良のため、人骨の計測は不可能である。人骨に人工損傷や焼けた形跡は見られない。

### b 幼児の歯(写真図版245)

残っているのは乳歯の歯冠3個だけで、内訳は次のとおりである。

		C E
		E

咬頭が軽微の咬耗を示すこと、歯根の形状不全などを考慮すると、年齢3歳前後と推定される。

### 3 考察

人骨の発見された場所は、約4.8mの見かけ上の深さをもつ井戸跡の内部で、見かけ上の井戸底から約0.6m上方の高さである。人骨の出土状況のところで述べたように、おそらく井戸が廃用されて後比較的短期間に2個体の遺体が同時に古井戸内に入ったと思われる。井戸内には遺体の上にわざわざかぶせられたと思われる土砂の層は認められないので、遺体に入った古井戸はその後の自然の土砂の堆積によって次第に埋まったものと考えられる。

出土人骨は熟年女性と3歳前後の幼児である。親子である可能性もあるが、確証はない。女性は右側臥屈位をとっているが、左上肢を高く上げているので、布またはムシロなどで包まれて井戸底へ埋葬されたというようなものではあるまい。頭蓋が直径約0.7mの丸井戸の底の中心部付近にあって骨盤よりやや低く、折り曲げた下肢が井戸壁に接しているところをみると、あるいは死後、古井戸内に投げ込まれ、頭を下にして落下したものかもしれない。しかし、幼児といっしょであるから、彼女らの死は、なんらかの共通の死因による急死であろう。幼児の歯が女性の骨盤付近から出土しているから、女性はこの幼児を右腕でしっかりとだきしめていたと考えられる。もしそうであるとすれば、彼女らは死後古井戸へ投げ込まれたというより、古井戸内へ母子(?)が投身自殺した可能性もでてくる。井戸底は地下の他界(あの世)に通じているという民間信仰は古くからあったと思われるが、神聖視されている井戸内を埋葬場所に選定することはかならずしも一般的とはいえないから、この際母子心中を想定するのが比較的無難であろう。あるいはまた、過失による母子の転落死を考えてもよい。両名は死後井戸から引き上げられていないし、また丁重に埋葬されたという形跡も認められないから、当時はおそらく失踪者(行方不明)として処理されたのではあるまいか。

### 4 要約

融通寺遺跡2号井戸跡の底部付近から出土した人骨は、熟年女性と3歳前後の幼時の2固体分で、中世末～近世初頭ごろに属するものと推定される。彼女らはもしかすると母子であるかもしれないし、またなんらかの原因による事故死である可能性が強いが、もとより推論の域を出ない。



## 第4節 融通寺遺跡出土の中世人骨について

宮崎重雄

群馬県高崎市に所在する融通寺遺跡から出土した人骨についてコメントを求められたので、簡単に調査した結果をここに記す。

出土資料は、クリーニング、保存処理、復元作業が未実施で、泥の付着しているものが多く、乾燥によって崩壊していることも少なからずあって、得られる情報は限られていた。いずれ十分な時間をかけた詳細な調査・研究が望まれる。

本遺跡の人骨は、すべて埋葬されたもので、青年期から熟年期にいたる年齢層からなり、比較的男性と推定される個体が多い。齲歯を患っているものもある。

### 1 1号人骨(4区4号土墳墓)

腐食による破損もあるが、残存状況は比較的良好で、ほぼ前進に渡る部位が出土している。しかし、現状では身長推定に必要な全長を計測できる体肢骨は存在しない。

外板における冠状縫合の泉門部、複雑部、ラムダ縫合の各部は癒着度の基準(上条、1982)の0を示し、ほとんど縫合が癒着していない。また、歯の咬耗度は右下顎の第二大臼歯で観察され、象牙質が点状に露出する Brothwell(1972)の2～3の咬耗段階を示している。これらのことから、この個体は20～30才代の年齢が推定される。

土圧による変形が多少はある可能性があるが、頭蓋骨の大きさは頭蓋最大長167.8mm、頭蓋最大幅が127.4±mmで、長幅指数は75.9と算出される。中頭と長頭の間に対応している。

性別では、女性的傾向がうかがえる。

### 2 2号人骨(4区5号土墳墓)

溶食、破損の進んでいる部位はあるものの、ほぼ前進にわたって、骨は残存する。しかし、現状では身長推定に必要な全長を計測できる体肢骨は存在しない。歯の咬耗は左下顎第一大臼歯、同第二大臼歯で観察され、象牙質が点状に露出し、Brothwell(前出)の2～3の咬耗段階を示している。このことや第三大臼歯の萌出が完了していることから、20～30才代の年齢が推定される。

表で見るように下顎骨計測値は、本個体が井原(1950)の示す性差の男性の方に近い値であることを表している。乳様突起が比較的大きく発達し、頬骨弓は太くて大きく、眉弓の隆起も目立つことなどもこのことを支持している。発掘時の写真のようすでは中頭程度の頭蓋骨の形状がうかがえる。

### 3 3号人骨(3区6号土墳墓)

残存していたのは頭蓋骨、右上腕骨、左右大腿骨、右脛骨、右腓骨などであるが、他の部位は、おそらく土中に埋存中に溶蝕してしまったのであろう。

外板におけるラムダ縫合のようすは、部分的に癒着が進み、癒合度の基準(前出)では1～2程度で



ある。歯の咬耗度は左右の中切歯が咬頭のみが咬耗し、左上顎第二大臼歯では点状に象牙質の露出をみることができ、第一大臼歯、第二小白歯ではかなりの部分で象牙質が露出している。左上顎で見るとかぎり第三大臼歯の萌出は完了している。これらのことから、この個体は30代～40代程度の年齢が推定される。眉弓の隆起、前頭部の後方への傾斜はやや強く、頭頂部が高いように見受けられる。これら部分的な観察によれば、男性的傾向がうかがえる。

#### 4 4号人骨(3区7号土墳墓)

体肢骨1片のみであり、出土標本を実際に観察する機会はなかった。

#### 5 5号人骨(3区1号土墳墓)

頭蓋骨と体肢骨の一部が残存している。

外板におけるラムダ縫合の三角部は、部分的に癒合が進んでいる。歯の咬耗は第二大臼歯と思われる歯で観察され、象牙質が咬合面全面に露出しており、Brothwell(前出)の5の咬耗度を示している。これらのことから、この個体は40代～50代の年齢が推定される。眉弓の隆起、前頭部の後方への傾斜はやや強いように見受けられ、乳様突起は比較的大きく、男性的傾向があるように思える。

#### 6 6号人骨(3区2号土墳墓)

この人骨には、埋葬時以降の柵列の掘削による破損が多く、腐蝕も進んでいるが、保存不良の頭骨、大腿骨、脛骨、腓骨などが存在する。

頭蓋骨外板の縫合線が観察され、ラムダ結合で部分的な癒合がみられる。観察された3本の歯のうち、上顎小白歯はほとんど咬耗されてなく、上顎第一または第二大臼歯の咬合面は1/3ほど無くなっているが、咬耗によるものか、他の原因によるものかは不明である。年齢としては壮年期程度が推定される。

左下顎第一大臼歯または第二大臼歯の歯頸部には歯髓腔にまで達する齲蝕がある。クリーニングが完了して他の歯の観察も可能になれば、齲蝕の数はさらに増すであろう。

頭蓋最大長は173.5mmであり、バジオンープレグマ高は150.5±mmである。

#### 7 7号人骨(4区8号土墳墓)

溶蝕、破損の進んでいる部位はあるものの、ほぼ全身の骨が残存する。

外板の縫合状態は、冠状縫合、ラムダ縫合でみる限り、癒合がほとんど進んでいない。

上顎の第一大臼歯より近心側の各歯の咬耗が観察され、切歯では咬頭の先端のみ咬耗され、第一小白歯、第二小白歯、第一大臼歯では咬合面にかなり象牙質が露出し、Brothwell(前出)の4～5の咬耗段階を示している。このことから壮年期程度の年齢が推定される。

表でみる通り、下顎骨の計測値は、本個体が井原(前出)の性差の男性の方に近いことを示している。眉弓の隆起、前頭部の後方への傾斜はやや強いように見受けられ、乳様突起は比較的大きく、男性的傾向を示している。発掘時の写真のようすでは頭蓋骨の形状が長頭であったことをうかがわせている。

第V章 調査の成果と問題点

頭蓋骨最大長は178.0mm、バジオンープレグマ高は150.0±mmが計測できる。上腕骨全長は276.0mmで、Pearson 身長推定式に代入すると、150.5mmの身長が得られる。

参考文献

Brotwell, D. R. *Digging up bones*. British Museum.

井原正安 「日本人下顎骨の人類学的研究」 歯学 39(1, 2) 11-72 1950

上条雍彦 「口腔解剖学1巻一骨学(頭蓋骨)」 アナトーム社 1982

融通寺出土人骨の下顎骨計測値

(単位mm)

	現 代 日 本 人		融 通 寺 遺 跡	
	男 性	女 性	男 性	女 性
関節突起幅	122.25	115.66	122.0+	95.0+
筋突起幅	98.53	93.84	104.0	
下顎体長	72.76	68.63	80.0	
下顎長	107.31	103.30	117.0	119.5
オトガイ高	35.71	32.98	30.6	39.0
オトガイ高における下顎体高	32.06	30.29	30.4	34.5
下顎枝幅	33.50	31.65	35.8	

井原(1950)による

## 第5節 融通寺遺跡出土の馬骨について

宮崎重雄

群馬県高崎市に所在する融通寺遺跡から出土した馬骨についてコメントを求められたので、簡単に調査した結果をここに記す。

この馬骨は、平安時代中期以降、戦国時代以前のものである。東西方向に長い長方形の土壙墓(185×75cm)の中に、頭部を西、尾部を東、背を北、腹部を南に向けて横臥姿勢で埋葬されていた。前肢は強く折り曲げられ、後肢は、膝のところで多少曲がっている他はほぼ真っ直ぐ前方に伸び、前肢の中手骨と平行に並び、前・後肢がここで接している。頭部、前肢、後肢は土壙墓の壁にほぼ接して埋存しているが、臀部は40cmほど、背部は20cm程、壁との間に距離がある。

頭蓋骨、椎骨、肋骨、寛骨、後肢骨など腐食による欠損が著しいものの、ほぼ全身の骨が残存する。口腔内に詰まっている泥の中に舌骨も存在している。

発掘時における観察で犬歯は見いだされず、雌であると判断される。

Goubax and Barrier (1926)に従い、切歯の咬耗度から推定された年齢は、11才程度である。Levin (1982)によって、臼歯の咬耗度から得た推定年齢も11才程度である。11才の馬齢はヒトでいうと40才余り(モリス、1989)とされ、体力的には全盛期は過ぎているものの、老衰で死ぬほどの馬齢には達していない。歯の咬耗には異常がなく、上顎頬歯、下顎頬歯とも咬合面は滑らかで、ゆるやかな弧を描いて咬合している。各歯には、肉眼で観察するかぎり病歴を示す痕跡は見当たらない。

林田ほか(1957)による体高推定式に本個体の上腕骨全長、中手骨全長を代入して得られた体高は、それぞれ129.0cm、129.6cmである。現在日本に生息している在来馬は、林田(1978)によれば、平均体高129～138cmの中型馬と、平均体高105～121cmの小型馬とがある。中型馬には北海道和種、御先馬、木曾馬があり、小型馬にはトカラ馬がある。本個体の推定体高を在来馬のそれと照合してみると、中型馬の最小の部類に相当することがわかる。この体高は新田義貞の鎌倉攻めの時に、戦闘死した38個体のウマの平均体高129.5cm(林田1957)にきわめて近く、群馬県藤岡市上栗須遺跡から出土した28個体の江戸時代馬の平均体高126.4cm(宮崎1989)よりはいくぶん大きい。後者は駄馬、農馬として庶民層に飼育されていたと思われるものである。本個体の中手骨の長幅指数は15.4で林田(1957)の示す木曾馬の最大の15.5、上記鎌倉馬の最大の15.6に近く、どちらかというとも肢太の馬で、蒙古馬的な原始性を残していると見ることも可能である。

ウマの上顎臼歯においては、前小窩と後小窩は別々に離れて存在するのが普通であるが、本個体の右第一後臼歯は両者がエナメル質で連続しているという極めてまれな例である。

## 参考文献

- Duerst, J. U. *Vergleichende Untersuchungsmethoden am Skelett bei Säugern*. Handbuch der biologischen Arbeitsmethode, Ab't. III. 1926
- Goubax, A. and G. Barrier. *The Exterior of the Horse*. Lippincott., Philadelphia. 1892
- 林田重幸 「中世日本の馬について」『日本畜産学会報、28』 301～306 1957
- 林田重幸・山内忠平 「馬における骨長より体高の推定法」『鹿児島大学農学部研究報告 6』 146～156 1957
- 林田重幸 「日本在来馬の系統に関する研究」日本中央競馬会 1978

## 第V章 調査の成果と問題点

Levin, M. A. The use of crown height measurements and eruption-wear sequence to age horse teeth. In Wilson, B., C. Grigson, and S. Payne. (eds) *Ageing and Sexing Animal Bones from Archaeological Sites*. 223~250 BAR British Series 109 1982

宮崎重雄 「上栗須遺跡の馬骨」『上栗須遺跡』、655~673 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989

モリス、デスモンド著(渡辺政隆訳) 「競馬の動物学」 平凡社 1989

大家関一・広田桂一・松元光春・橋口勉 「野間馬の形態」『野間馬に関する学術調査報告書』、10~15 日本馬事協会 1985

### 上顎臼歯計測値

(単位: mm)

歯種		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	咬合面	35.5	28.1	25.5	23.1	22.2	26.6
歯冠幅	咬合面	22.4	26.1	26.6	25.2	24.1	20.1
原錐幅	咬合面	8.7	12.4	12.2	13.0	13.9	13.7
歯冠高	頰側	24.4	36.5	42.0	33.3	39.7	43.0
咬合面の傾斜		110	95	93	95	82	75
エナメル褶曲数		2111	1311	1111	0110	0110	0201
中附錐幅	咬合面	3.9	4.5	4.2	3.2	3.5	
原錐幅		1	2	2	2	3	3

上顎全臼歯列長 163.3mm

### 下顎骨計測値

(単位: mm)

歯種		第二前臼歯	第三前臼歯	第四前臼歯	第一後臼歯	第二後臼歯	第三後臼歯
歯冠長	咬合面	31.3	26.9	26.2	24.0	24.1	30.7
歯冠幅	前葉 咬合面	10.6	15.2	15.1	13.5	13.0	12.6
	前葉 咬合面	13.7	15.7	15.5	13.1	12.6	10.7
歯冠高	頰側	16.6	15.0	16.6	16.3	13.7	12.0
下後錐谷長			8.4	7.8	5.8	6.7	7.2
下内錐谷長		14.2	12.5	10.9	6.5	7.4	8.7
double knot 長	咬合面	15.5	18.1	16.1	13.3	12.5	12.8
下内錐幅		5.8	6.1	5.8	4.6	4.7	4.2

下顎全臼歯列長 咬合面161.3mm 歯頸部165.6mm

### 上腕骨計測値

(単位: mm)

1	最大長	280.0
21	滑車の最小直径	36.3

### 橈骨計測値

(単位: mm)

12	近位端における小頭径	36.3
13	近位関節面の直径	34.9

第5節 融通寺遺跡出土の馬骨について

中手骨計測値 (単位: mm)

1	最大長	212.1
2	外側の長さ	206.2
3	生理的な長さ	212.0
4	内側の長さ	208.9
7	遠位骨端の矢状櫛の長さ	192.5
9	近位端最大幅	42.5
11	骨体最小幅	32.6
13	骨端遠位部最大幅	37.8
14	遠位最大幅	38.7
15	遠位関節面の最大幅	31.2
17	関節面内縁に対する櫛の位置	15.3
18	近位骨端の径	27.2
23	骨端遠位部の径	33.3
24	内側関節面の径	25.7
25	外側関節面の径	27.7

計測法は主に Duerst (1926) による。  
計測値の番号は Duerst による 計測番号を示す。

前肢骨計測値 (単位: mm)

2	内側長	79.2
3	矢状長	74.5
4	近位端最大幅	47.8
6	骨体最小幅	30.6
7	骨体遠位部最大幅	40.4
8	遠位関節面最大幅	38.7
12	骨体最小幅部の径	19.5
13	骨体最小径	16.3

大腿骨計測値 (単位: mm)

2	転子からの長さ	371.5?
3	骨頭からの長さ	345.0
6	大腿骨頭の高さ	57.6
7	骨頭の垂直径	48.3
11	転子の腕の長さ	183.9
12	近位端最大幅	102.1
13	頭の最大幅	58.7
15	骨体の近位最大幅	65.2
16	骨体最小幅	38.5

距骨計測値 (単位: mm)

3	滑車最小長	50.6
4	滑車溝幅	31.0
5	近位部最大幅	39.6

## 第6節 融通寺遺跡出土の板碑について

新倉 明彦

当遺跡より出土した石造物は、板碑13基、宝篋印塔2基、五輪塔6基を数える。これらの遺物の大半は、4区3号・20号溝よりの出土である。いずれも欠損し、破片に近いものが多いが、出土した板碑のうち、残存状態が良好なもの数点が含まれるため、以下この板碑を中心に出土石造物について若干の考察を加えたい。

**出土遺物の年代について** まず、年代の確定でき得る遺物としては、4区3号溝出土の板碑2基があげられる。No2208の板碑(第660図)には、「観応二(1351)年二月五日」の紀年銘が、また、No2209の板碑(第658図)には「文保二(1318)年五月六日」の紀年銘が残る。この2基の板碑は残存状態も良好であり、No2208の板碑は高さ1092mmを測り、No2209の板碑も蓮座より上部を欠損しているものの785mmを測るため、推定高1mを超え、共に比較的大形の板碑である。両板碑共に主尊は深い薬研彫りの阿弥陀三尊種子であり、脇侍のサ・サクにも蓮座を有する。No2209については主尊種子(キリーク)が欠損のため明らかではないが、No2208の板碑の種子であるキリークは、イーがアク点の間を抜けない書体である。主尊、紀年銘のほかに、No2208の板碑には「行阿」の文字、枠線及び紀年銘両脇には光明真言が、No2209の板碑の紀年銘両脇には二茎の華瓶が刻まれている。二条線についてNo2208の板碑には深い二条線が残るものの、No2209の板碑については欠損のため、有無も明らかではない。

上記の2基の板碑のほか、紀年銘の一部が残る板碑として同溝出土のNo2217(第657図)とNo2210(第659図)の2基の板碑には「応□」の紀年銘が残り、板碑の造立年代にかかる元号のうち、上に「応」の付く元号には、応長=1311~1312年、応安1368~1375年、応永=1394~1428年があるが、残存部分の脇侍サ・サク種子及び蓮座の書体及びその刻書方法より応安年間か応永年間の板碑と考えられ、また、同溝出土のNo2210の板碑には、「尼法阿□□十剋」の文字と「□□五月十八日」の紀年銘及び干支と思われる「癸酉?」の文字がみられ、二条線の無刻化、種子・蓮座の刻法などから、癸酉の年であるとすれば、明德四(1393)年か享徳二(1453)年の板碑と考えられ、いずれにせよ両板碑ともに14世紀後半から15世紀中頃にかけての造立と考えられる遺物である。

そこで、上記4基の紀年銘より年代の確定、若しくは推定し得る板碑を基準に、本遺跡出土の板碑全体の年代幅を考えてみると、出土板碑中に前記のNo2209文保二年銘を溯ると思われる板碑は、4区20号溝出土のNo2221(第665図)の大型板碑の破片が僅かに可能性を残すのみで、他には見られないことから、まず14世紀初頭を年代幅の上限と考えたい。次に、下限としては、4区3号溝出土のNo2214(第657図)、No2215(第658図)の2基の板碑のような全高40~50cm程の小型板碑の出土がみられることから、板碑の小型化が始まる15世紀中頃から15世紀後半と考えたい。

ここで与えられた年代幅は出土板碑の年代の幅であり、他の五輪塔、宝篋印塔の年代をも考慮する必要があるが、宝篋印塔については破片(笠部の隅飾突起破片)の出土であり、その形態から南北朝から室町期以降のものであるとしか推定できず、また、五輪塔に至っては中世の所産である可能性が高いと言えるのみである。

**出土遺物の性格について** 出土する板碑、五輪塔、宝篋印塔は、周知のとおり供養塔である。特に板碑は、その造立年代がほぼ中世に限られることから、中世を代表する供養塔とされている。供養塔はその造立という行為をもって、佛に対して被供養者の極楽往生など死後の冥福を祈るものである。掘って、原則的には墓の位置を明示する墓標とは性格を異にするものである。これは、板碑の中に多く見られる生前に自らの死後の極楽往生を祈り造立する逆修供養板碑の存在や、供養塔の多くが破供養者（死者）の名を記していないことから解る。しかし、各地の調査事例によると、実際には供養塔の地表下から埋葬骨が検出された例が少なからずある。このことから、供養塔が墓標の役割を兼ねている場合もあると言えよう。

遺跡の各種遺構より出土する石造物（供養塔）の造立目的に墓標の性格が有ったか否かについては、出土遺物が造立時の現位置を保ち、かつ下部に埋葬施設の有無が判明した場合のみ知り得ることであり、出土遺物の多くは造立時の現位置を保っていないため、判断は困難である。

本遺跡出土の板碑、五輪塔、宝篋印塔についても、仏教信仰に基づき造立された供養塔であることは間違いないが、墓標として墓域に造立されていたものか否かについては明らかではない。

**出土遺物より見る出土遺構について** 前述のとおり、出土した板碑、五輪塔、宝篋印塔は仏教信仰に基づき、死後の冥福を祈り造立された供養塔であり、その年代については14世紀初頭から15世紀後半にかけてのものである。

これらの石造物が出土した遺構は溝であるため、墓坑などとは異なり直接造立にかかわるものではなく、出土石造物は言わば溝内に廃棄されたものであると考えられるが、出土板碑の基数が比較的多く、かつ他の五輪塔、宝篋印塔を共伴することから、重量物である石造物を廃棄のために遠距離を運んだとは考えられず、故に出土遺構の付近にかつての造立地である供養域（墓域）が想定できる。

この造立地については、大型の板碑をも含むことから、在地領主クラスの供養域または墓域であったと考えられ、板碑の年代幅で見ると1世紀以上存続した後に、おそらく勢力交代などに伴う土地利用の改変によって、供養域に造立された石造物群が一掃されたものと推定される。

しかし、出土石造物の造立地（供養域）と出土遺物である溝との直接的な因果関係については明らかではない。

## 第7節 融通寺遺跡の特徴と問題点

井川 達雄

融通寺遺跡の立地する前橋台地は、ほぼ北西から南東に、榛名山を源流とする井野川が流れているが当遺跡の北端では北東から南西へ流れ、北西端付近で早瀬川と合流し、南西部で唐沢川と合流する。当遺跡は井野川の南岸に立地しており、対岸には熊野堂遺跡が立地している。また、井野川の源である榛名山は古墳時代の後期に大きな噴火を2度起こしている。火山の噴火による噴出物は、榛名山より東側の県内各地はもとより、北関東東部・東北南部にも認められる遺跡がある。この火山噴出物は、二ツ岳降下火山灰層(F A)・二ツ岳降下軽石層(F P)<sup>註1</sup>と呼ばれ年代推定の重要な基準となっている。最近ではこの火山噴出物も細分され、堆積物のユニットを総称して榛名-伊波テフラ層(H r - S)・榛名-伊波保テフラ層(H r - I)<sup>註2</sup>と呼ばれてもいる。また、この火山爆発が原因のひとつと考えられる井野川の氾濫が起こったと推測され、当遺跡は榛名山の火山軽石を多量に含む水成堆積層に覆われている。この水成堆積層は、熊野堂遺跡・下小鳥遺跡など周辺の遺跡からも検出されている。

当遺跡からは合計301軒の住居跡が検出されている他、溝104条、土坑500基以上、土壌墓11基、井戸跡4基などの他、水田1面が発見されている。301軒の住居跡の中で、井野川の氾濫によると考えられる水成堆積層より下面で発見されたものは、2区150号住居跡・2区152号住居跡の2軒だけである。いずれも覆土に浅間山C軽石を含み、2区152号住居跡からは浅間山C軽石の純層が検出できた。この浅間山C軽石と出土遺物から、弥生時代末の住居跡と推定できる。残り299軒の住居跡のなかで遺物が伴出し、時期の推定できるものは235軒であり、時期不明のものは64軒である。時期のわからない64軒の住居跡も、井野川の水成堆積層の上に築かれており、水成堆積層より新しい。これらの住居跡のなかで、最も古いと考えられるのは、1区12号住居跡・2区141号住居跡・2区142号住居跡・5区5号住居跡・5区14号住居跡・5区18号住居跡などである。

これらの住居跡から出土している遺物は、土師器の甕・杯、須恵器の甕・杯・壺などである。土師器の甕は、古墳時代末から飛鳥・白鳳時代の長胴甕の流れのなかで捕らえることのできる甕(1652)などもある。しかし、全体の傾向は胴部上半が膨らみ、器壁が薄くなる傾向が見られる甕(745)が主流である。土師器の杯は、丸底で胴部上端と口縁部の間に稜を持ち、口縁部が外反する形態の杯、いわゆる古墳時代後期に成立したと考えられる須恵器の模倣形態の流れのなかで捕らえられる杯(699・700・702・751・1795)や須恵器模倣の退化の最終段階の形態の杯(747・749)なども出土している。しかし、これら古墳時代後期からの須恵器模倣形態の流れのなかで捕らえることのできる杯は少ない。土師器杯の主流は、胴部から口縁部が内湾しつつ口縁端部に至る形態であり、球の一部を切り取った形をしている杯(748・750・1655・1657・1684・1685・1686・1687・1688)である。また、須恵器模倣の形態を残すが、口縁部が大きく広がり、皿状を呈する杯(746・752・753・1683)が見られる。この形態は、いわゆる盤状杯と言われていた形態である。これらの住居跡からは須恵器の出土は少ないが、長頸壺(1654)や杯(1794)が出土している。これらの土師器・須恵器の年代は、坂口一氏・三浦京子氏・綿貫邦男氏らの編年に従えば、坂口・三浦編年のII段階からIII段階<sup>註3</sup>、綿貫編年の第10段階から第11段階<sup>註4</sup>



比定されよう。また、須恵器の長頸壺(1654)は、底部から胴部がほぼ球形の特徴を持つ、東海系のフラスコ形の長頸壺である。この長頸壺の年代観は、酒井清治氏によれば7世紀の第4四半期の680年前後の年代が与えられている。<sup>註5</sup>

これらの土師器・須恵器の年代観を基礎にして、当遺跡の遺物の年代を考えれば、7世紀第4四半期から8世紀第1四半期の年代が想定される。すなわち、融通寺遺跡では弥生時代後期に人が住み、住居跡を残してから、7世紀末から8世紀初頭までは集落が営まれていなかったことを示している。井野川を挟んで北に位置する熊野堂遺跡<sup>註6</sup>や更に北に位置する井出村東遺跡<sup>註7</sup>・三ツ寺遺跡<sup>註8</sup>などに古墳時代前期や後期の集落が営まれていたのとは対照的である。

当遺跡4区・5区の集落の下からは、榛名山の火山軽石を多量に含む水成堆積層に覆われた水田跡が検出された。この水田跡は、榛名山の火山軽石を多量に含む水成堆積層に覆われていること、水成堆積層の上には7世紀末から8世紀初頭の集落が営まれることから、7世紀後半以前の水田跡であることは確かである。また、この水成堆積層と水田の間からは、榛名山降下火山灰層(F A)を部分的に確認することができた。従って、当遺跡の水田跡は古墳時代後期の水田跡と考えられる。同時期の水田跡は井野川対岸の熊野堂遺跡<sup>註9</sup>の他、御布呂遺跡<sup>註10</sup>・芦田貝戸遺跡<sup>註11</sup>・同道遺跡<sup>註12</sup>などから検出されており、熊野堂遺跡<sup>註13</sup>・芦田貝戸遺跡<sup>註14</sup>からは同時期の畑跡が検出されている。

熊野堂遺跡の水田跡と当遺跡の水田跡が同時期の水田跡であるとすれば、水田の形態の相違を考える必要がある。熊野堂遺跡の古墳時代後期の水田跡は、小畦で細かく区切られた、1枚当たりの面積の少ないミニ水田であるが、当遺跡の水田跡は大きさは一定せず、10m以上の大きな区画もあれば、短辺で2mの小さな区画もある。この水田形態の相違が、微地形などによる自然条件の違いによる相違なのか、人為的な相違なのか、古墳時代後期から飛鳥・白鳳時代の間の時間的な相違なのか、今後検討する必要がある。

また、当遺跡の集落跡と水田跡のあり方も検討する必要がある。当遺跡の古墳時代以降の集落の出現が7世紀末から8世紀初頭であるとすれば、水田跡を営んだ人々の生活の場が当遺跡からは発見できないのである。上越新幹線の調査は幅約24mと狭い、従って周囲に水田跡と同時期の住居跡が存在する可能性も否定できない。しかし、井野川の氾濫による堆積層と集落の関係などを考えると、古墳時代後期の当遺跡は、生産基地としての水田地帯であり、水田を経営した集落は熊野堂遺跡などの遺跡に求めたほうがよいと考えられる。

当遺跡と同時期の水田跡が発見され、古墳時代の住居跡も検出されている熊野堂遺跡も、水田跡が検出された区域の上面からは、古墳時代の住居跡は検出されていない。すなわち、熊野堂遺跡も水田跡が検出された部分は、井野川の水成堆積層の上に集落が築かれるのである。井野川を挟んだ当遺跡と熊野堂遺跡を一体としてとらえれば、熊野堂遺跡の台地上の集落の人々が当遺跡と熊野堂遺跡の水田を経営していたと考えることもできる。すなわち、井野川北東岸から唐沢川にかけての台地上が集落地帯であり、井野川縁の地点は水田地帯であったと考えられる。また、水田が榛名山の噴火と井野川の氾濫で潰滅した後、しばらく集落も途絶える。その後、井野川の水成堆積層が安定するが、その土地は水田には戻らず、奈良時代の始まり前後に居住地として復活するのである。その集落は、奈良時代・平安時代を通して営まれていたと考えられる。

平安時代の住居跡は多数検出されているが、住居跡からの出土遺物で注目されるのは石製銚帯である。石製銚帯は、2区47号住居跡から巡方(713)・2区71号住居跡から丸柄(342)が出土している。また、遺構外であるが鉈尾(2389)も出土しており、出土数は3点である。これらの石製銚帯の石質は、巡方が黒耀石、丸柄が珪質頁岩、鉈尾が石英珪質岩である。これらの石の産地は不明であるが、いずれも群馬県内では産出しないものである。どこで産出された石であり、どこで加工され、どのような経路をたどって集落にもたらされたものなのか、今後研究する必要がある。

当遺跡からは、土墳墓・溝などの中世の遺構や、遺物も発見されている。また、調査区域は大八木屋敷の敷地<sup>註15</sup>をかすめている。大八木屋敷は茂木氏の築造と考えられるが、確定はできない<sup>註16</sup>。調査でも館の堀と考えられる溝が検出されている。館の堀と考えられる溝は、4区20号溝跡、4区21号溝跡、4区22号溝跡である。3条の溝跡はほぼ東西に掘られ、平行している。これら3条の溝跡が屋敷の堀であるとすれば、4区20号溝跡は内堀となり、調査区の東の端で北へ屈曲していることから、屋敷の南東部の堀ということになる。また、4区22号溝跡は溝底面の状態から、水が流れていたことは確かであり、自然河川を利用した堀または河川の流路を人為的に変えた堀と考えられる。いずれにせよ、屋敷の主体部は不明であり、確実な屋敷の状態を述べることはできない。

融通寺遺跡からは、付近に寺院があったのではないかと推測させる遺物が出土している。瓦塔(2478・2479)、軒丸瓦(2480・2481)、銅椀(2267・2470)などである。また、4区3号溝跡からは、板碑が12枚(2208・2209・2210・2211・2212・2214・2215・2216・2217・2218・2219・2220)出土しており、宝篋印塔(2213)の破片も出土しており、館の堀と推測できる4区20号溝跡からも、板碑(2221)・五輪塔(2218)・宝篋印塔(2194)の破片が出土している。さらに、土墳墓も11基検出されている。これらの遺物は、溝跡、土坑や表土からの出土であり、寺院としての遺構は検出されていない。これらの遺物は寺院ではなく、屋敷に関係する遺物の可能性もある。さらに想像をたくましくすれば、屋敷と寺院に何らかの関係があったことも推定される。この屋敷・寺院を想像させる遺物のなかで、4区3号溝跡出土の板碑(2208・2209)には、それぞれ観応二年(1351)二月五日・文保二年(1318)五月六日の年号が入っており、遺構の年代を推定するうえでも、重要な資料である。

前述したような当遺跡の特徴を概括するならば、以下のようなことになる。最初、弥生時代末に集落が営まれるが、この集落は弥生時代末だけで途絶える。その後、少なくとも古墳時代後期には生産跡として人の手がいり、水田が経営される。大きな洪水に襲われ、水田は潰滅するが、7世紀末から奈良時代には再び集落となり、その数は爆発的に増える。7世紀末から奈良時代に出現した集落は、平安時代まで継続して営まれる。中世には茂木氏の築造と推測される屋敷が建っていたと考えられる。また、瓦塔・銅椀・板碑等の出土遺物から、寺院の存在も推測される。

当遺跡からは縄文時代の打製石斧(2366)や石鏃(2367)の出土も認められるが、それ以外は、土器1点の出土もなく、遺構も認められない。これらのことから、当遺跡周辺には、縄文時代の集落等はないものと考えられる。当遺跡の特徴を一言で表現するならば、古墳時代の水田跡、奈良時代から平安時代の膨大な数の住居跡、中世の屋敷・寺院を推測させる遺物である。

註

- 1 新井房夫 「関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層」『考古学ジャーナル 157』 1979
- 2 早田勉 「中筋遺跡のテフラと火山災害」『中筋遺跡 第2次発掘調査概要報告書』 渋川市教育委員会 1988
- 3 坂口一・三浦京子 「奈良・平安時代の土器の編年」『群馬県史研究24』『群馬県史編纂室』 1986
- 4 綿貫邦男 「成果と問題点 各段階の土器様相」『鳥羽遺跡 I・J・K区』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
- 5 酒井清治 「北武蔵における7・8世紀の須恵器の系譜」『研究貴要』『研究貴要 第8号』 埼玉県立歴史博物館 1986
- 6 『熊野堂遺跡 上越新幹線埋蔵文化財発掘調査概報II』 群馬県教育委員会 1975  
『熊野堂遺跡 上越新幹線埋蔵文化財発掘調査概報V』 群馬県教育委員会 1979  
『熊野堂遺跡 上越新幹線埋蔵文化財発掘調査概報VI』 群馬県教育委員会 1980  
『熊野堂遺跡・第II地区 年報2』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
- 7 『井出村東遺跡』 群馬町井出村東遺跡調査会 1983
- 8 『三ツ寺III遺跡・保渡田遺跡・中里天神塚古墳』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985  
『三ツ寺I遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
- 9 註6に同じ
- 10 『御布呂遺跡 高崎市文化財調査報告書第18集』 高崎市教育委員会 1980
- 11 『芦田貝戸遺跡 高崎市文化財調査報告書第19集』 高崎市教育委員会 1980
- 12 『同道遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
- 13 『熊野堂遺跡(1)』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
- 14 註11に同じ
- 15 『群馬県の中世城館跡』 群馬県教育委員会 1988
- 16 山崎一 『群馬県古城塁址の研究 補遺編上巻』 群馬県文化事業振興会 1979



# 写 真 图 版



4・5区本線全景（南より）



4・5区東側道全景（南より）

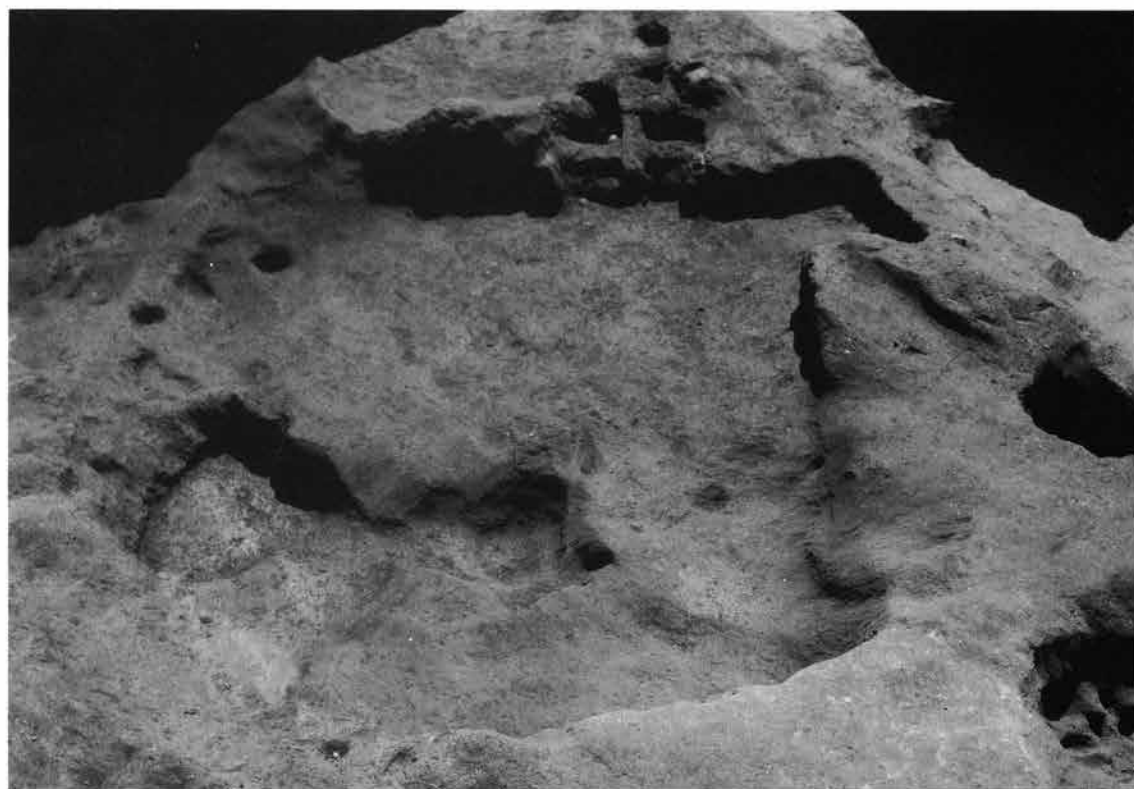


4・5区東側道全景（北より）



4・5区西側道全景（北より）





4区1号住居跡全景



4区1号住居跡掘形全景





4区1号住居跡竈遺物出土状態



4区1号住居跡竈掘形



4区4・10号住居跡全景



4区4号住居跡窟



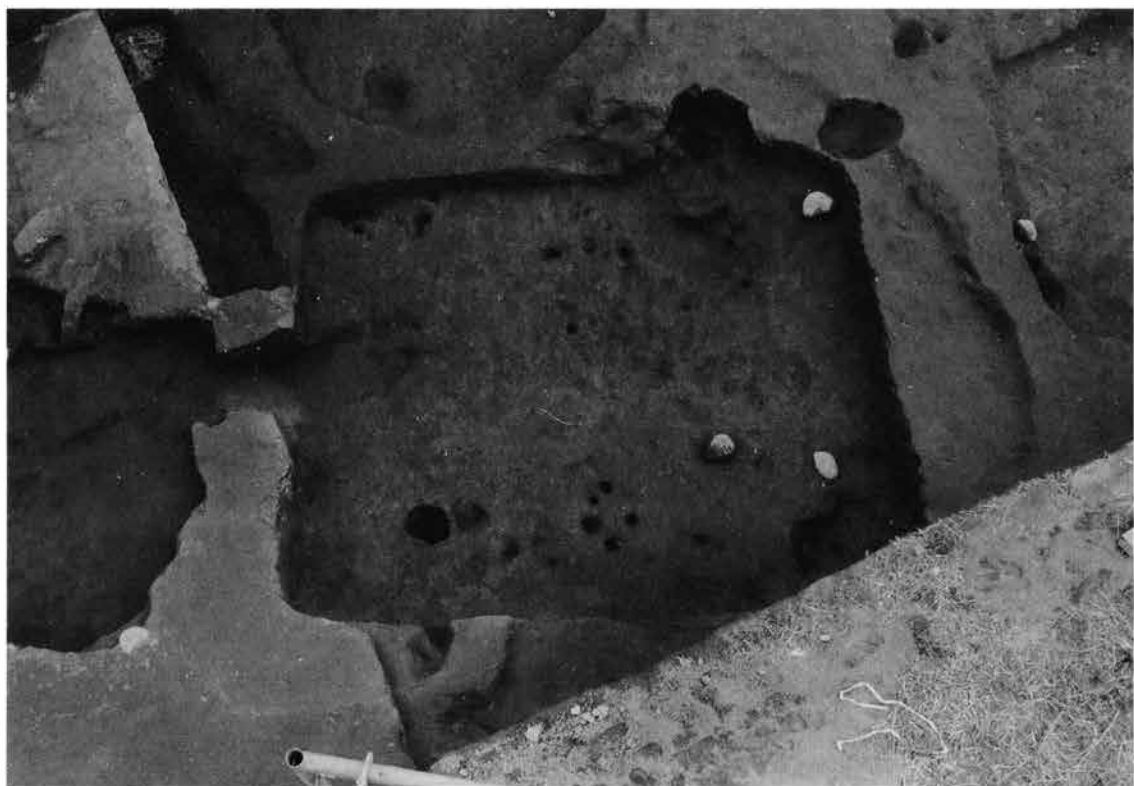
4区 5·11·13·14号住居跡全景



4区 5号住居跡遺物出土狀態全景



4区5号住居跡掘形全景



4区6号住居跡全景



4区7·15·18·22号住居跡全景



4区11·13·14号住居跡全景

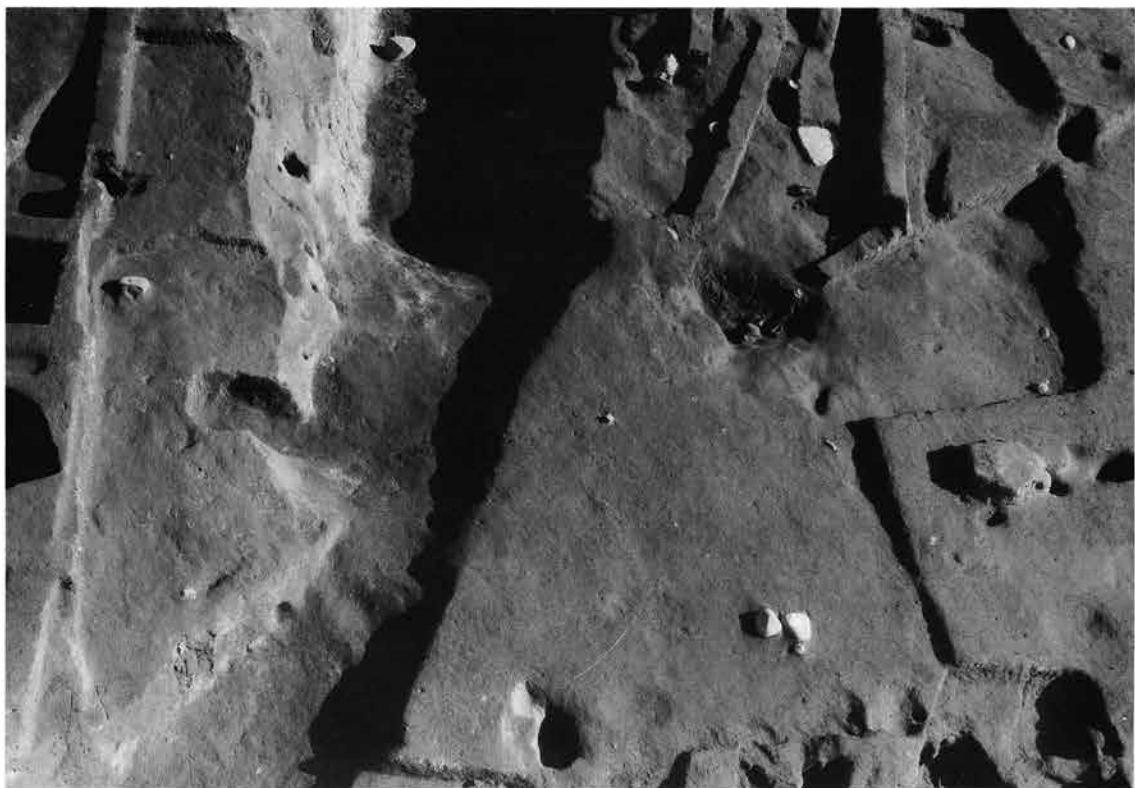




4区11号住居迹全景



4区13・14号住居迹全景



4区19号住居跡全景



4区19号住居跡貯藏穴遺物出土狀態



4区20号住居跡遺物出土状態全景



4区20号住居跡遺物出土状態





4区21·23·25·29号住居跡全景



4区24号住居跡全景



4区32·33·34号住居跡全景



4区32·33·34号住居跡掘形全景



4区35号住居跡全景



4区40号住居跡遺物出土状態全景



4区38·39·40·42·43·44·45·46·47·48号住居跡全景



4区38·39·40·42·43·44·45·46·47·48号住居跡掘形全景





4区42号住居跡全景



4区41号住居跡竈



4区41号住居跡  
竈遺物出土状態



4区38号住居跡  
竈遺物出土状態



4区38号住居跡竈



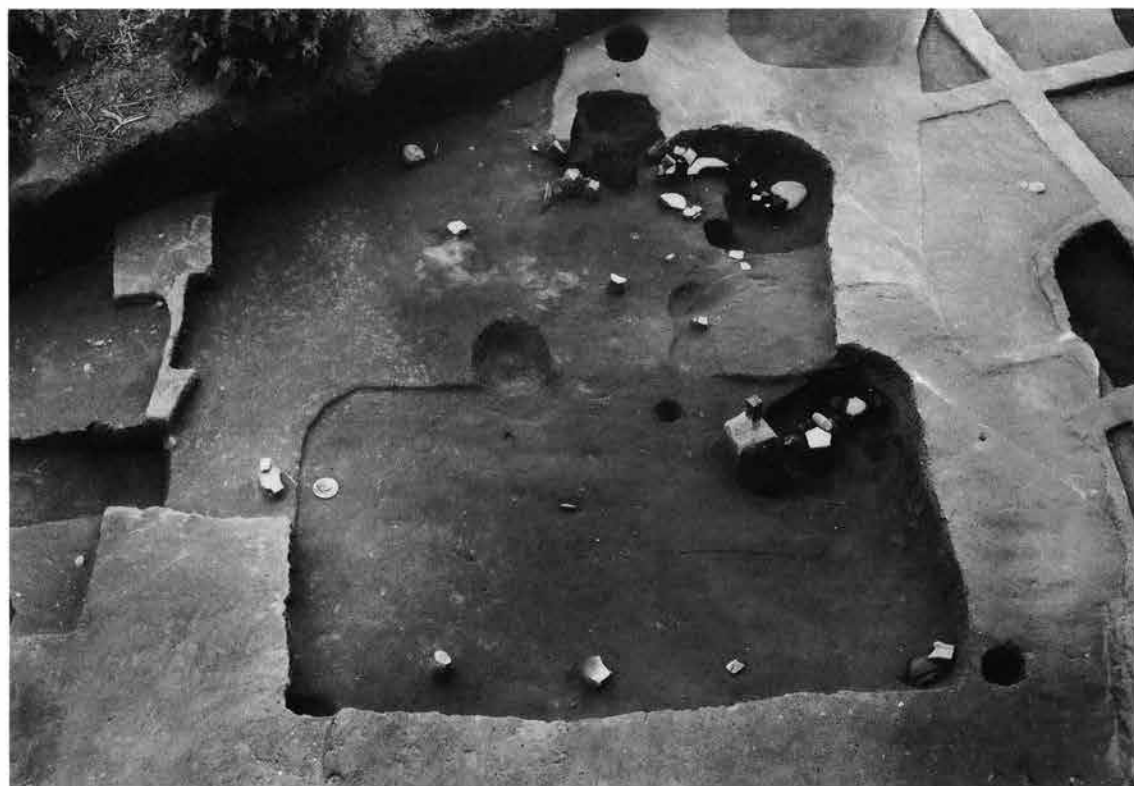
4区49号住居跡掘形全景



4区50号住居跡遺物出土状態全景



4区59·60号住居跡全景



4区61·62号住居跡遺物出土狀態全景





4区61号住居跡貯藏穴遺物出土状態



4区62号住居跡貯藏穴遺物出土状態



4区73号住居跡遺物出土状態全景



4区74号住居跡遺物出土状態全景



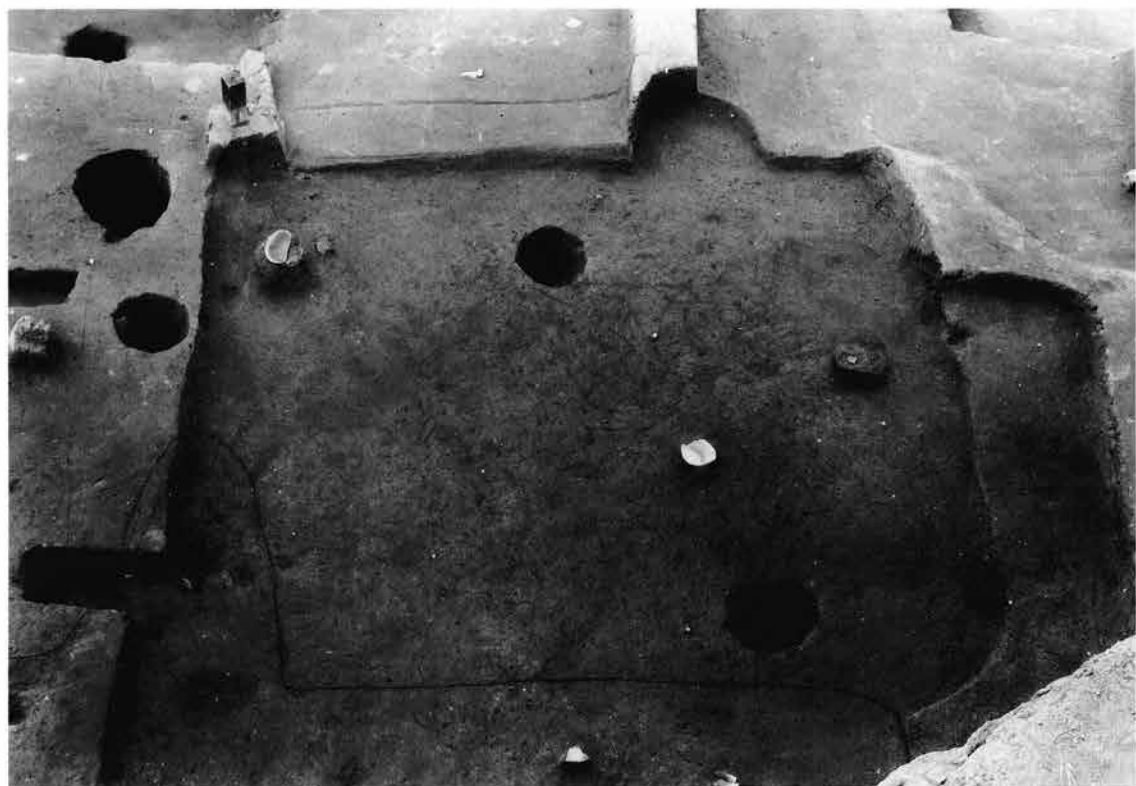
4区91·95号住居迹全景



4区96号住居迹全景



4区104·105号住居跡全景



4区108号住居跡遺物出土狀態全景





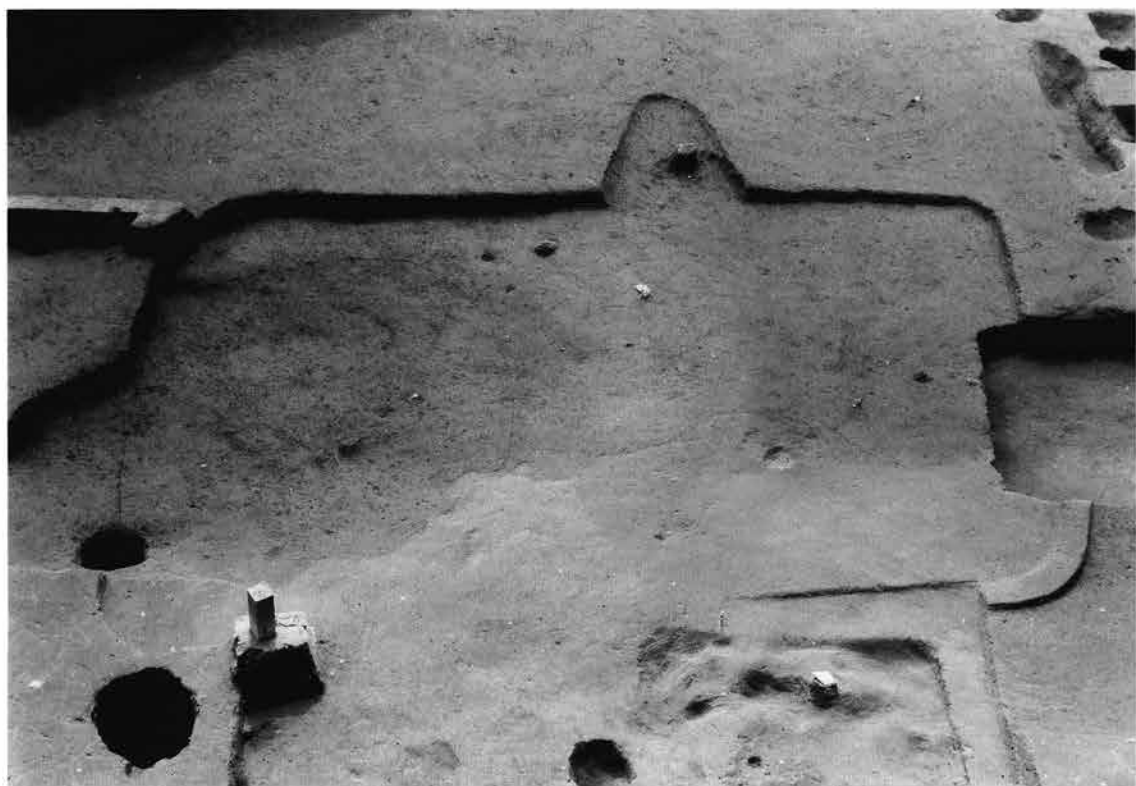
4区114号住居跡全景



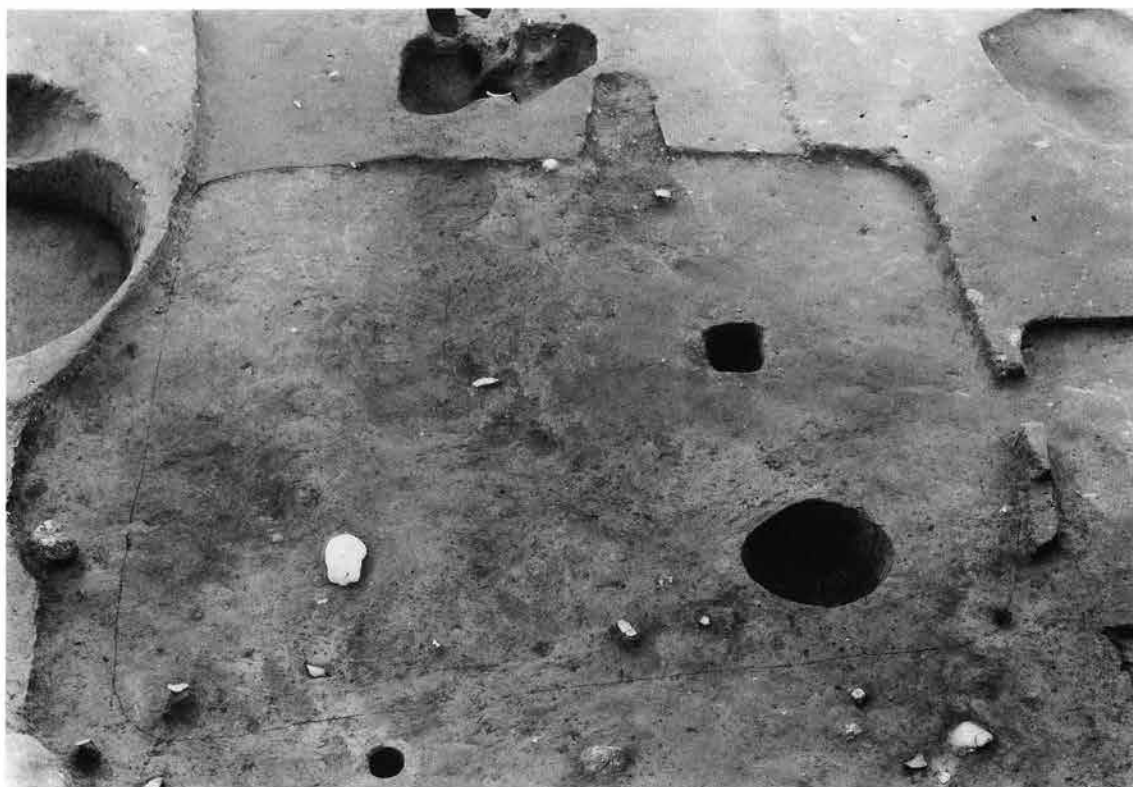
4区117号住居跡掘形、222・223号土坑全景



4区119号住居跡全景



4区120号住居跡全景



4区123号住居跡遺物出土状態全景



5区1号住居跡遺物出土状態全景



5区1号住居跡全景



5区1号住居跡竈遺物出土状態





5区5号住居跡竈



5区5号住居跡遺物出土状態



5区17·23号住居跡遺物出土状態全景



5区17·23·24·25·26·27·35·36号住居跡全景



5区17号住居跡A竈



5区17号住居跡B竈



5区17号住居跡  
A・B竈掘形



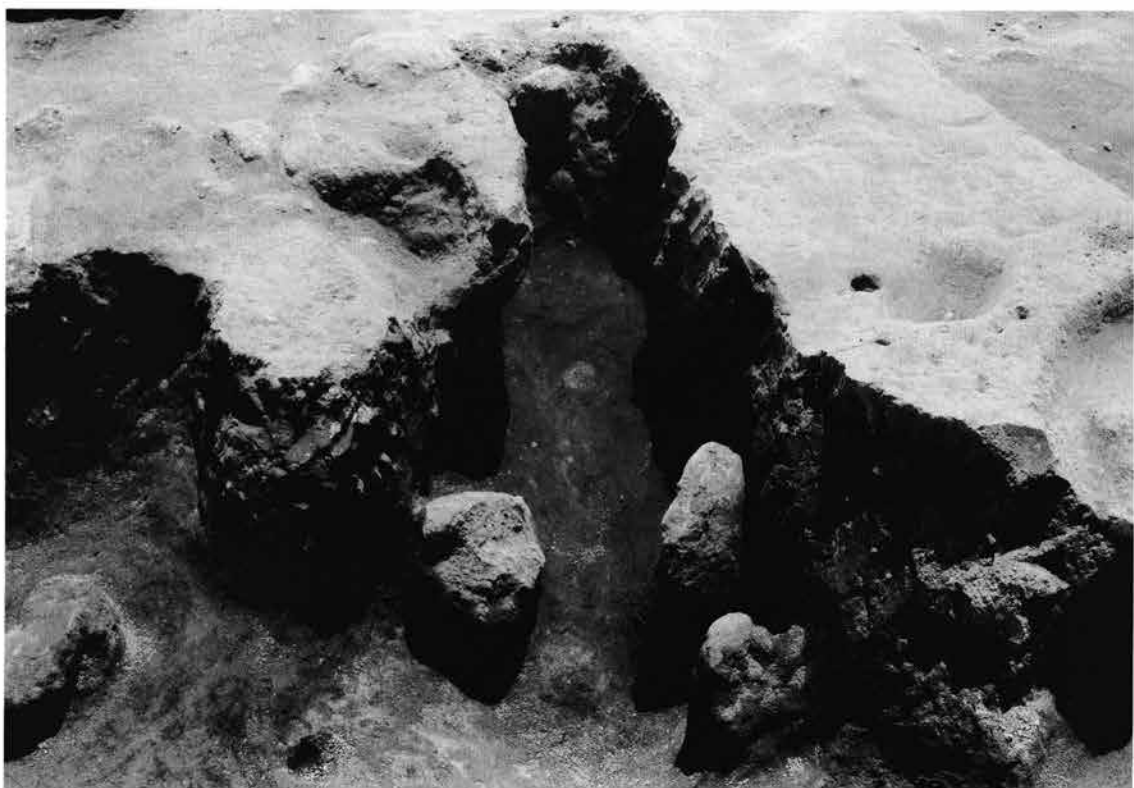
5区19号住居迹全景



5区15·20·21·22·37号住居迹、243号土坑全景

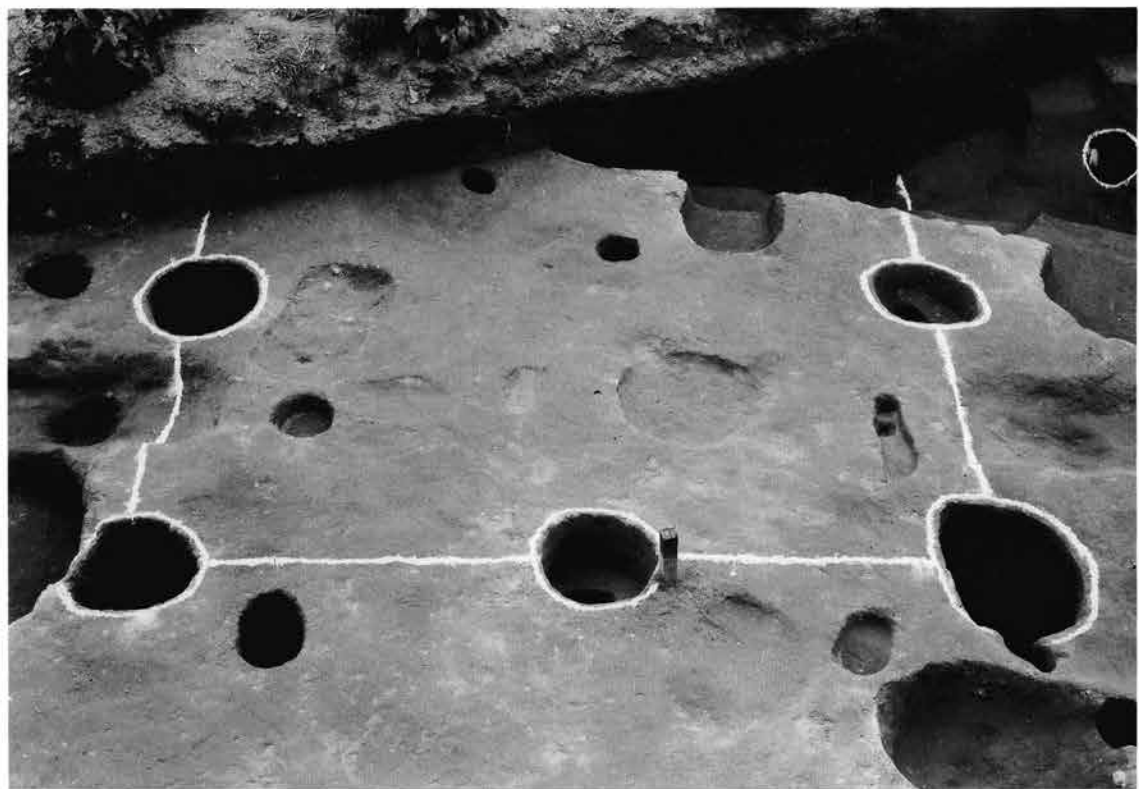


5区27号住居跡全景

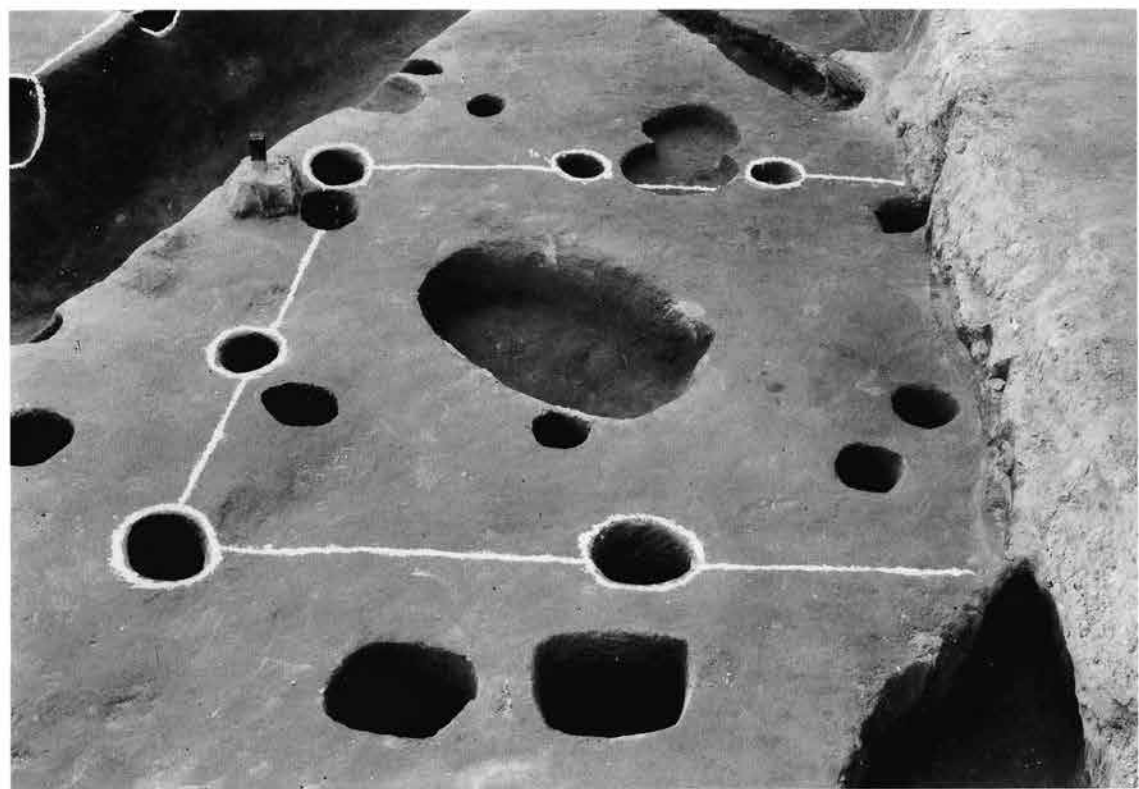


5区36号住居跡竈

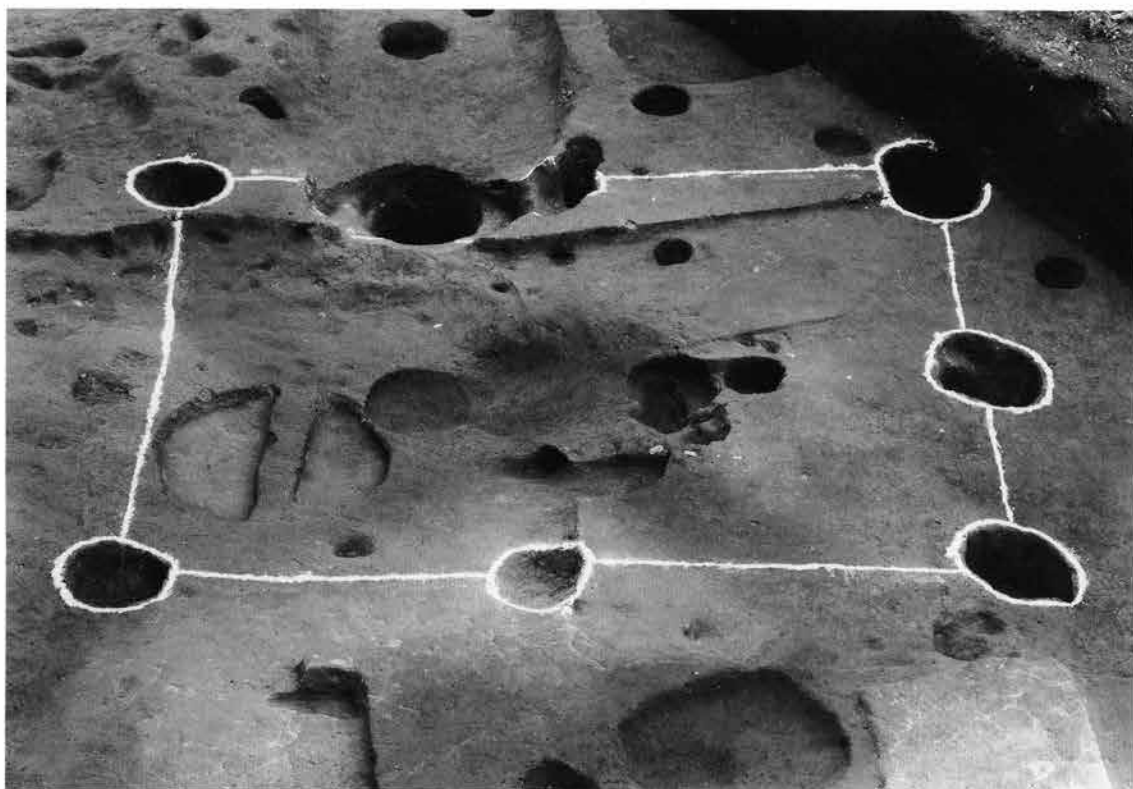




4区1号掘立柱迹全景



4区2号掘立柱迹全景



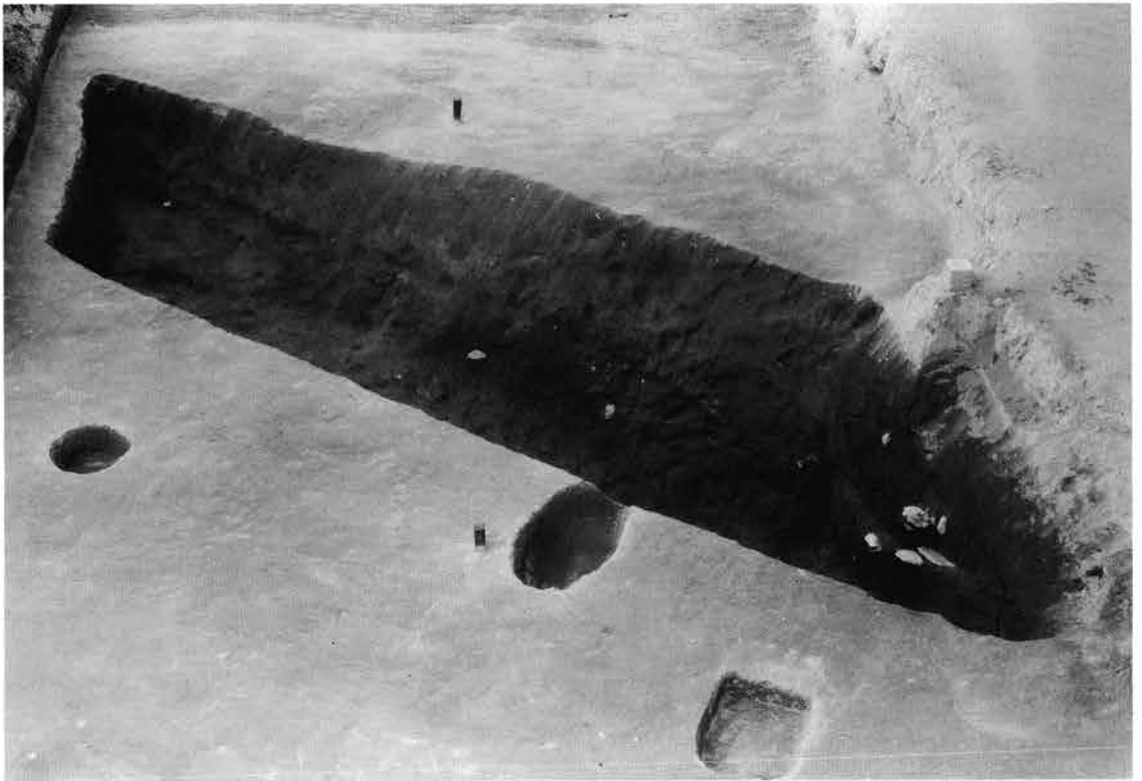
4区4号掘立柱迹全景



4区1号沟迹全景



4区3号溝跡全景（本線部分）



4区3号溝跡全景（東側道部分）





4区3号沟迹遗物出土状态



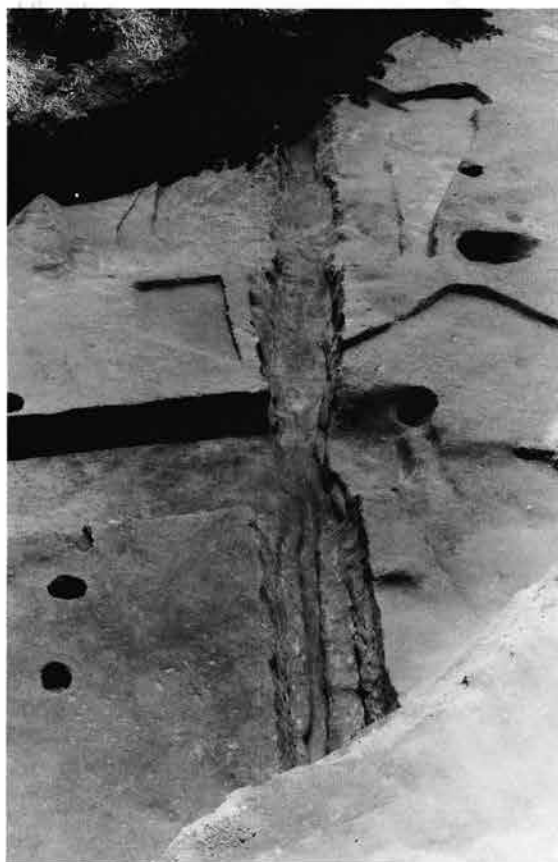
4区3号沟迹板碑出土状态

4区3号沟迹板碑出土状态と土層堆積状态





4区2・5・6・7号溝跡全景（本線部分）



4区7号溝跡全景（東側道部分）



4区7号溝跡全景（西側道部分）



4区8号沟迹全景  
(西侧道部分)



4区8号沟迹土层  
堆积状态



4区9号沟迹全景  
(西侧道部分)



4区9号沟迹土层堆积状态



4区13号沟迹全景（西侧道部分）



4区11号沟迹全景（西侧道部分）



4区14号沟迹全景  
(西侧道部分)



4区15·16号  
沟迹全景  
(西侧道部分)



4区20号沟迹全景  
(西侧道部分)





4区21・22号  
溝跡全景  
(本線部分・南より)



4区21・22号  
溝跡全景  
(本線部分・西より)



4区21号溝跡全景  
(本線部分)



4区21号溝跡全景  
(西側道部分)



4区21号溝跡  
土層堆積狀態



4区22号溝跡全景（本線部分・東より）



4区22号溝跡全景（本線部分・西より）





4区22号溝跡全景（西側道部分）



4区25号溝跡全景（東側道部分）



4区26号溝跡全景（東側道部分）



4区28・29・30・31号沟迹全景（东侧道部分）



4区28号沟迹全景（东侧道部分）



5区4号沟迹全景（西侧道部分）



4区1号井戸跡全景



4区2号井戸跡全景



4区2号井戸跡人骨出土状態



3区2号土壙墓人骨  
· 遺物出土狀態全景



4区3号土壙墓人骨  
· 遺物出土狀態全景



4区4号土壙墓人骨  
· 遺物出土狀態全景



4区5号土壙墓人骨  
· 遺物出土狀態全景



3区6号土壙墓  
人骨出土狀態全景



4区8号土壙墓人骨  
· 遺物出土狀態全景





4区北端～5区土坑群全景（東側道部分・北より）



4区1号馬墓馬骨出土状態全景



4区2号土坑全景



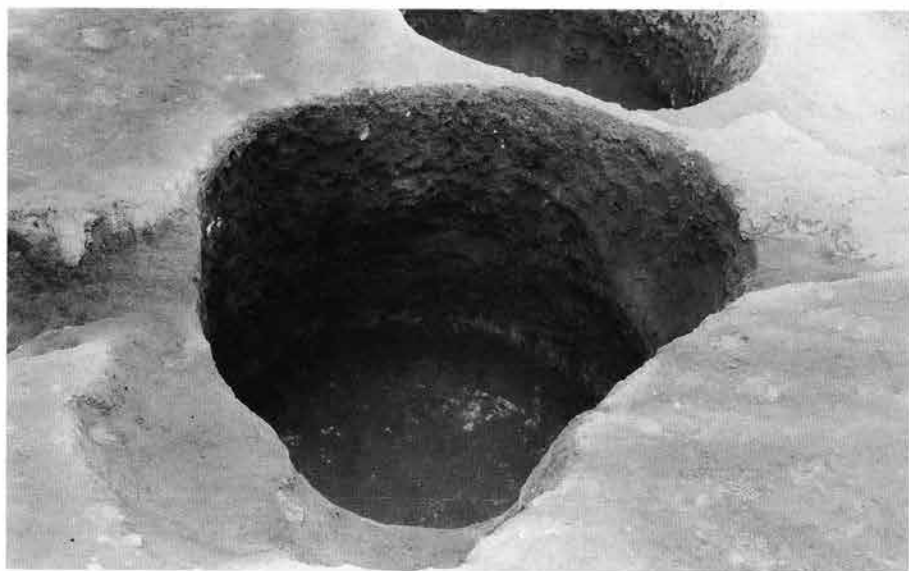
5区24号土坑全景



5区78号土坑全景



5区81号土坑全景



5区86号土坑全景

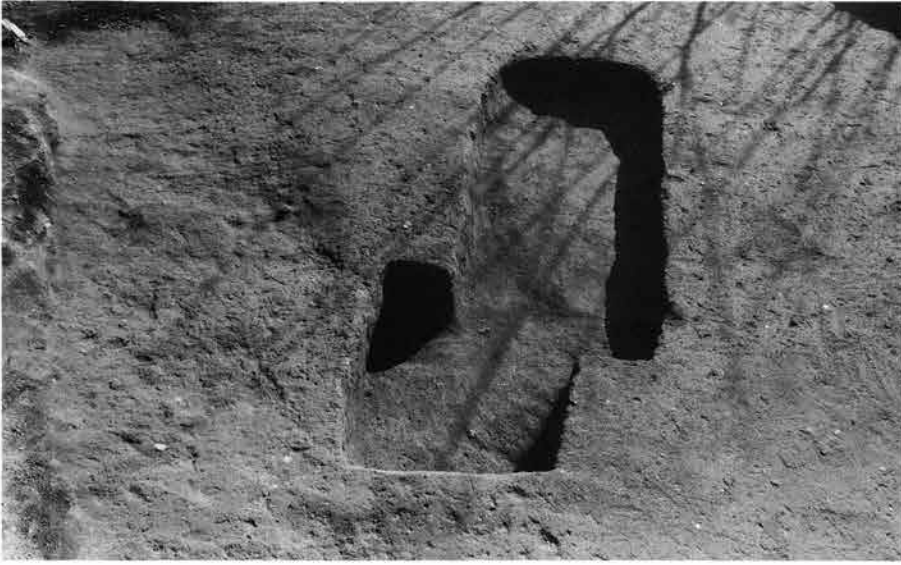


4区89号土坑全景



5区95·104号  
土坑全景





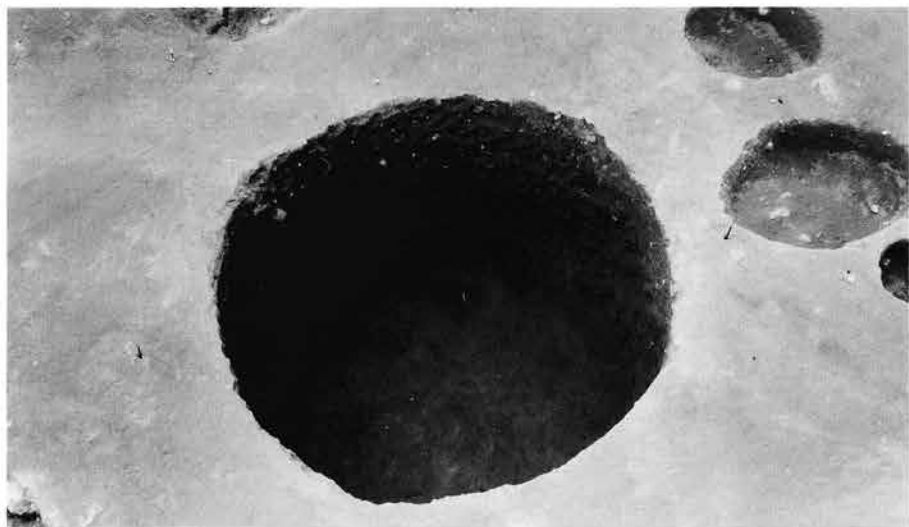
5区107号土坑全景



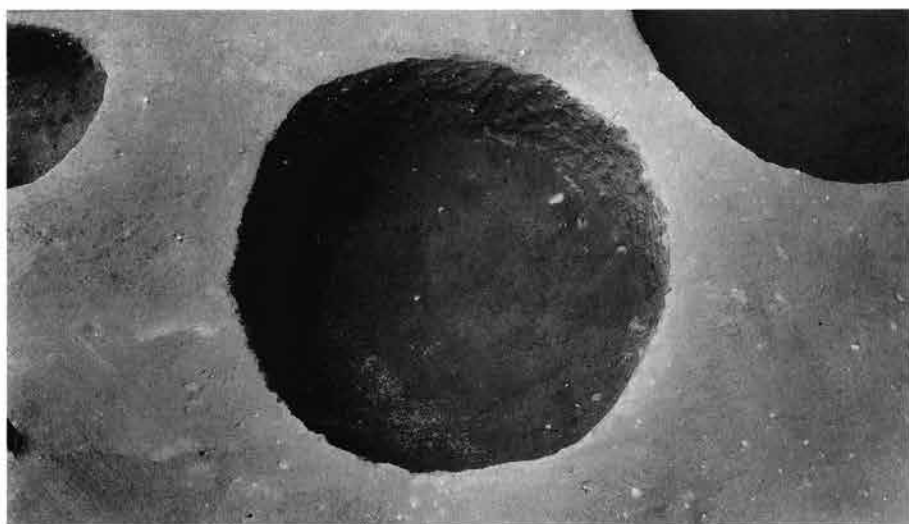
4区128号土坑遗物  
出土状态全景



4区128号土坑全景



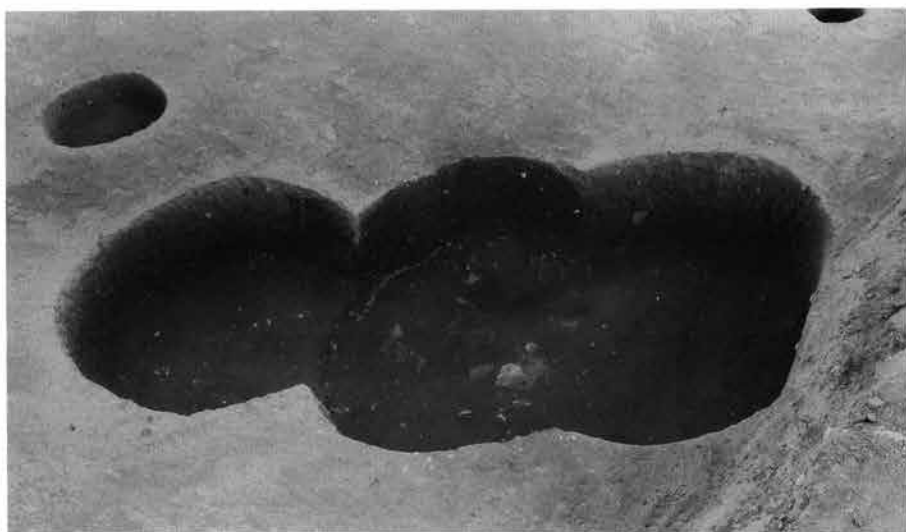
5区153号土坑全景



5区160号土坑全景



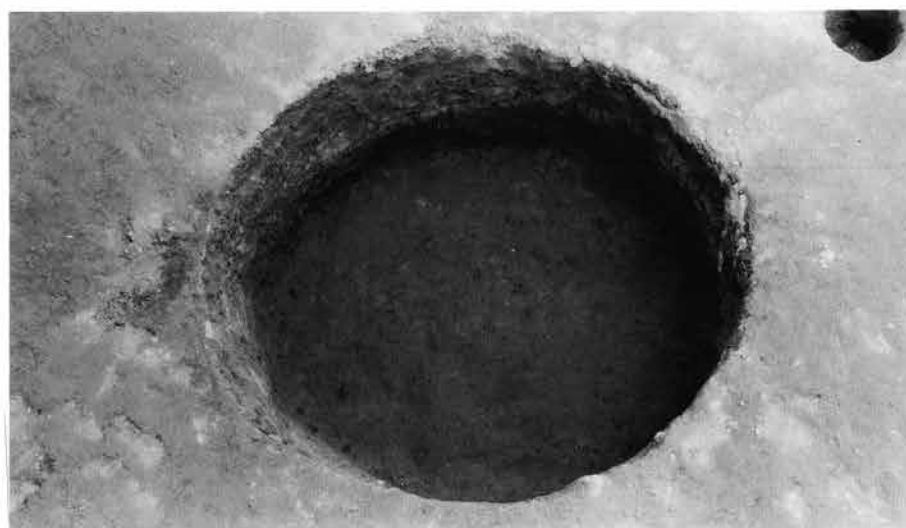
4区169号土坑全景



5区207号土坑全景



4区270·271号  
土坑全景



4区272号土坑全景



4区341号土坑上面  
遺物出土狀態全景



4区341号土坑下面  
遺物出土狀態全景



4区341号土坑全景



4・5区東側道水田面全景（北より）



4・5区東側道水田面全景（南より）





4・5区西側道水田面全景（北より）



4・5区西側道水田面全景（南より）



4区東側道水田面部分（北より）



4区西側道水田面部分（南より）

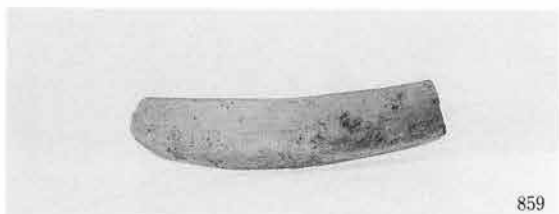


4区西側道水田面部分（南より）

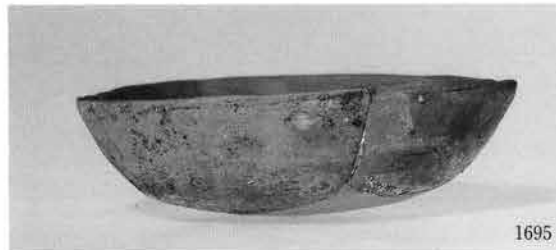
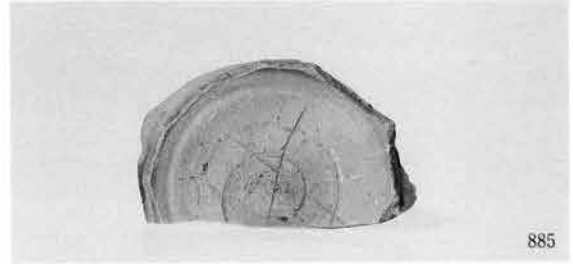
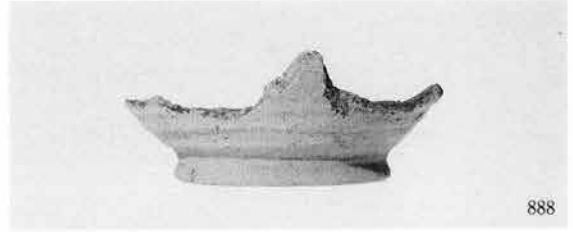
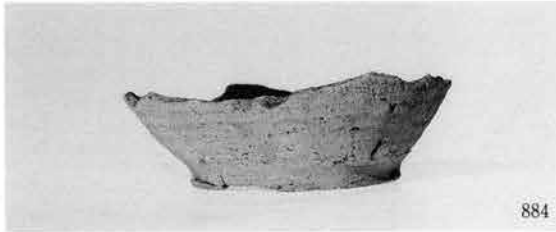
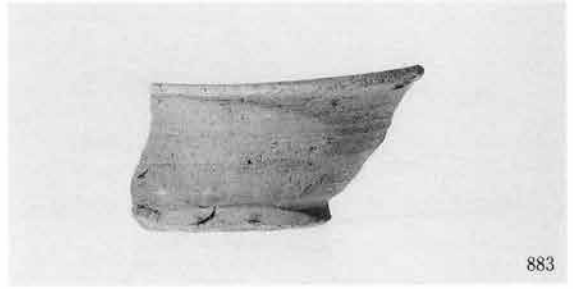
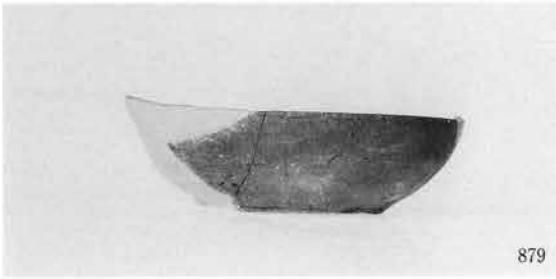


4区東側道水田面水口

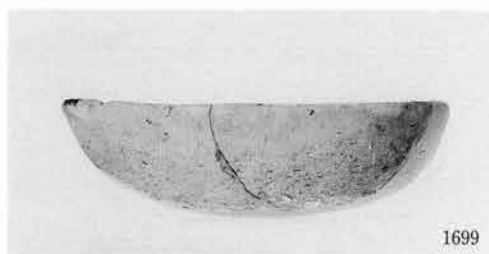




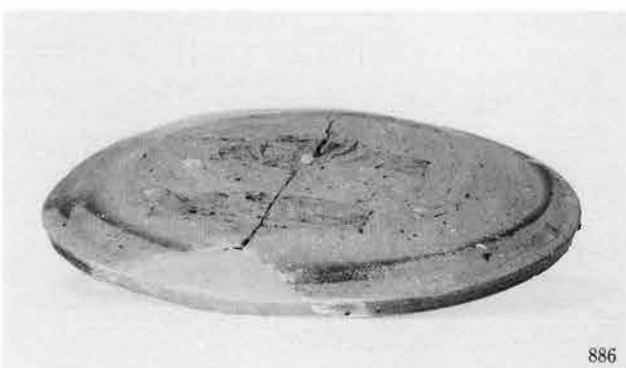
4区1号住居跡出土遺物



4区1号住居跡出土遺物



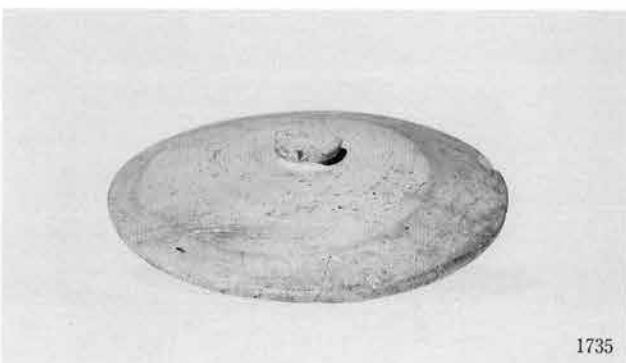
1699



886



1704



1735



1726



1707



1905



1930



1931



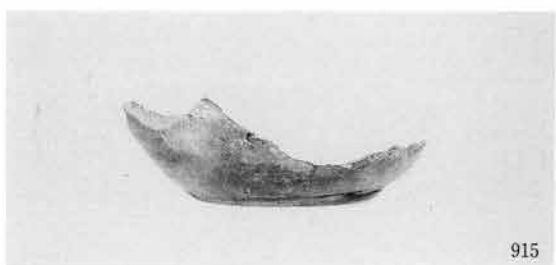
911



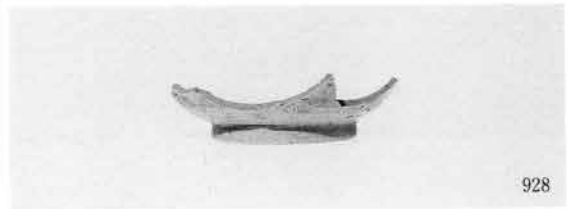
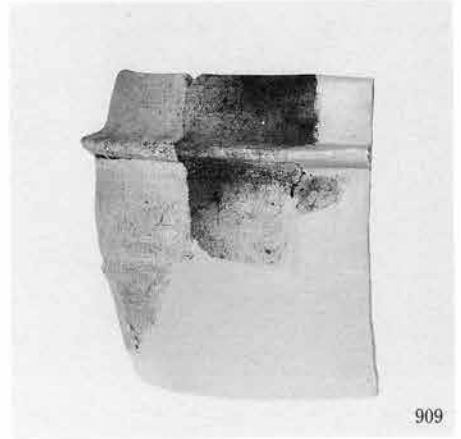
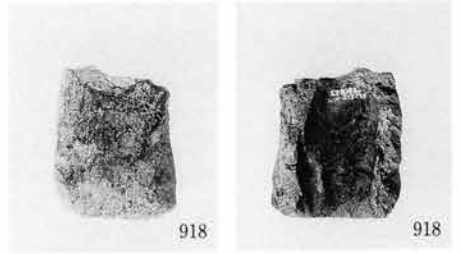
913

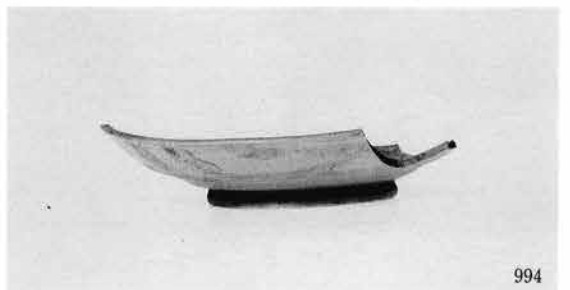
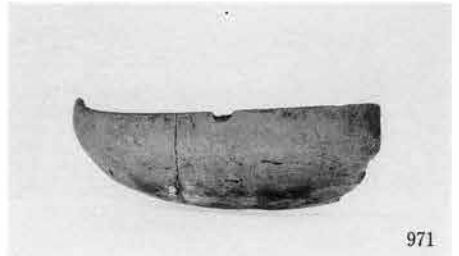


914



915





4区5・6・7号住居跡出土遺物



976



977



979



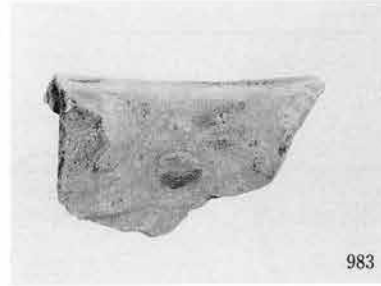
981



978



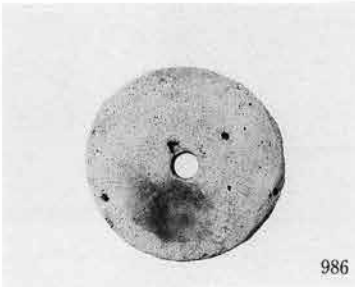
983



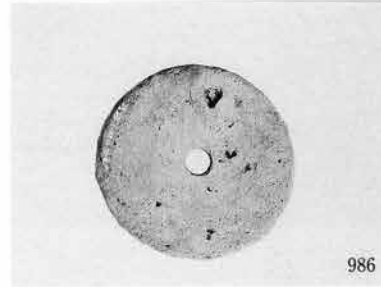
983



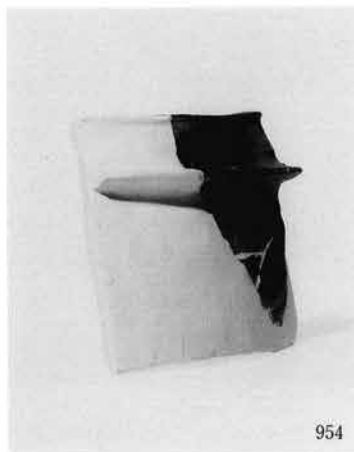
980



986



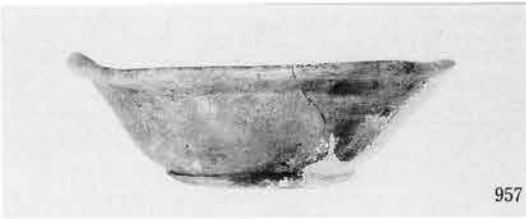
986



954



938



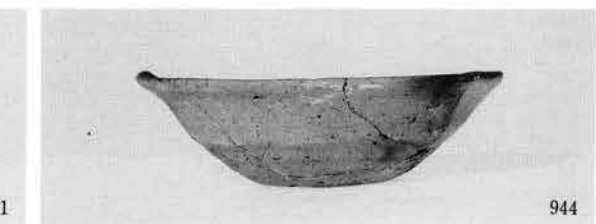
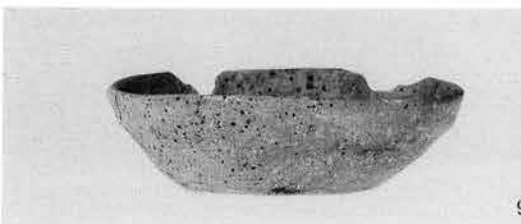
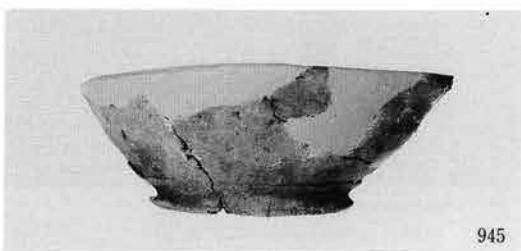
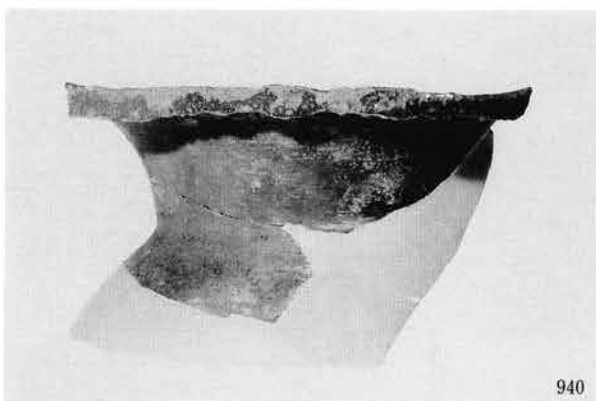
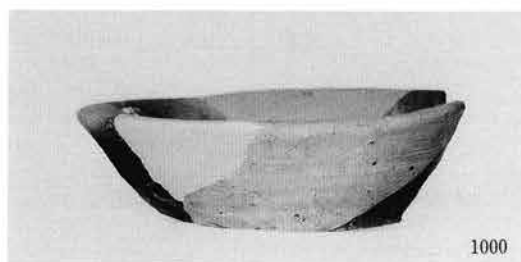
957



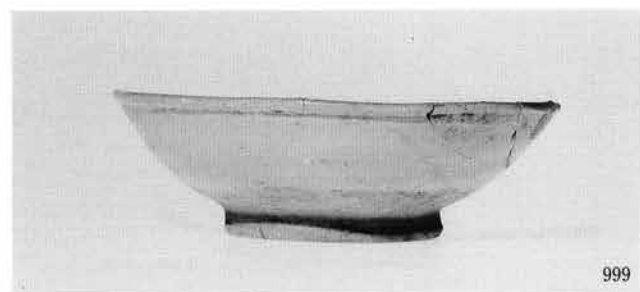
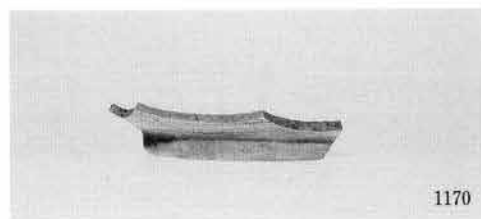
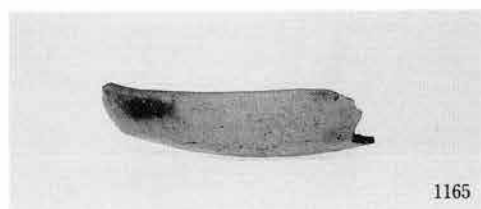
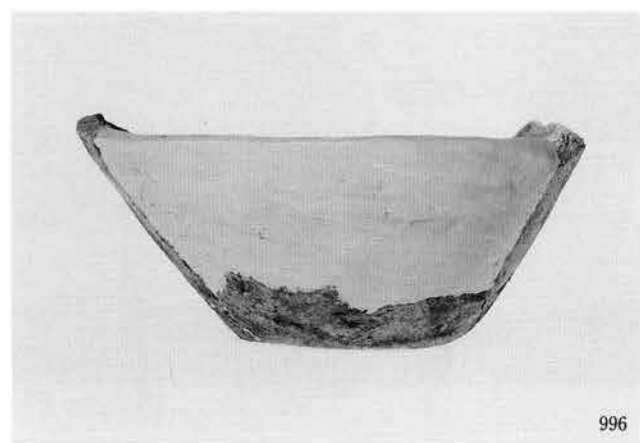
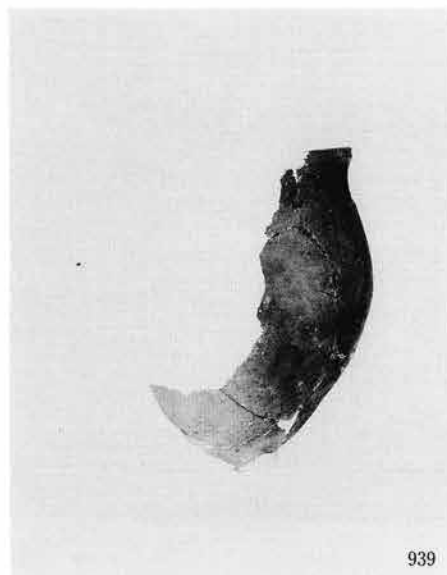
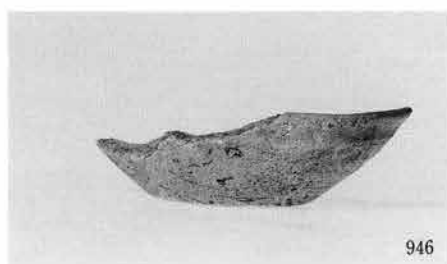
1938



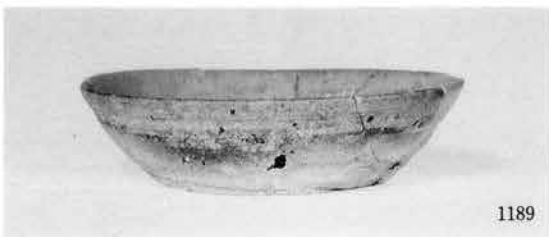
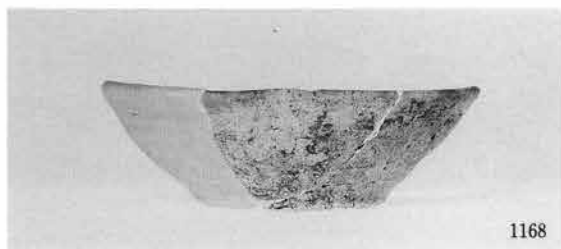
932



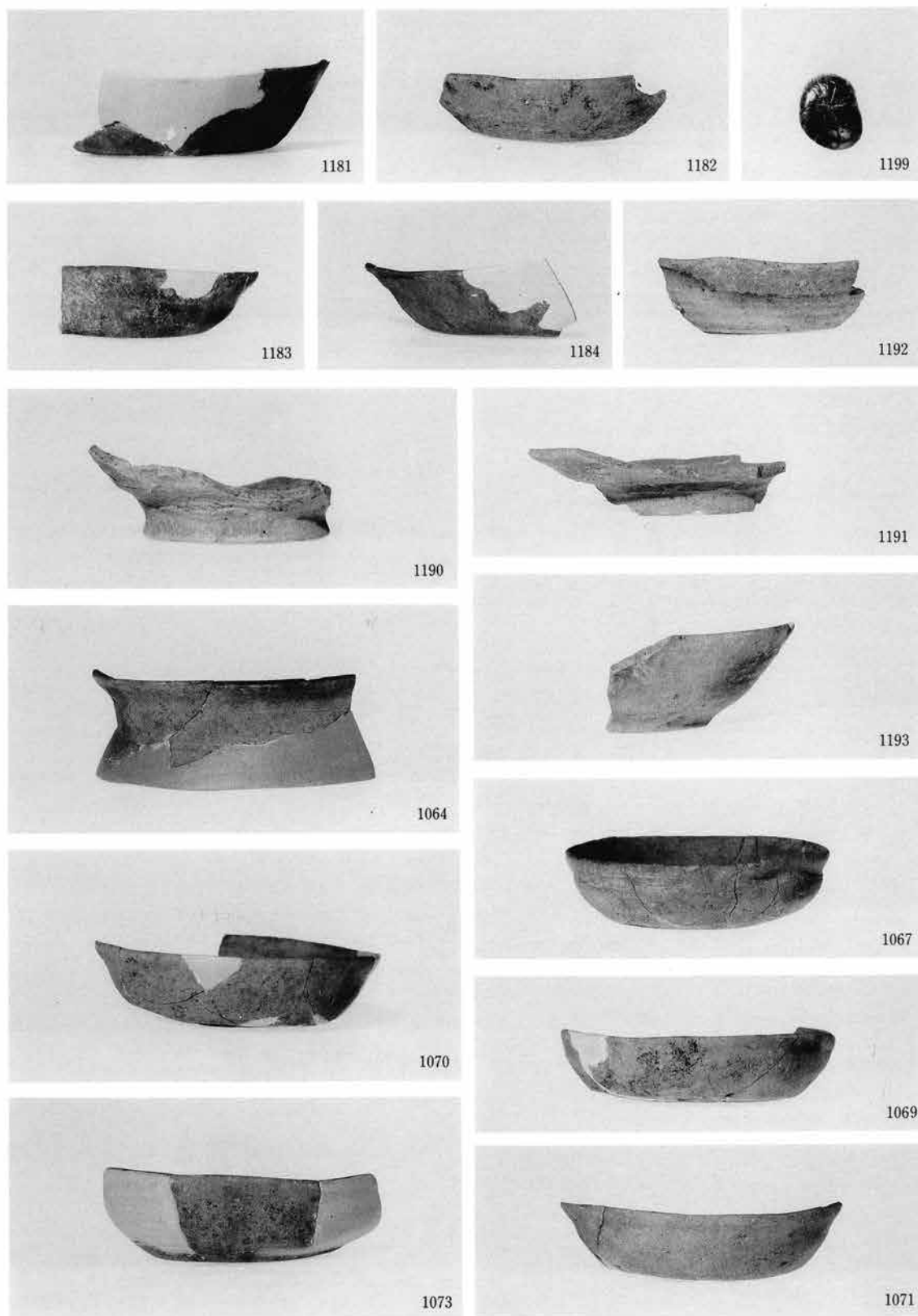
4区12・13号住居跡出土遺物



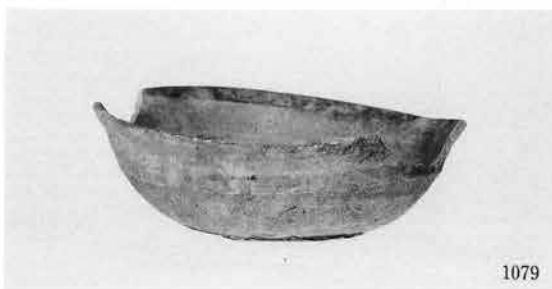
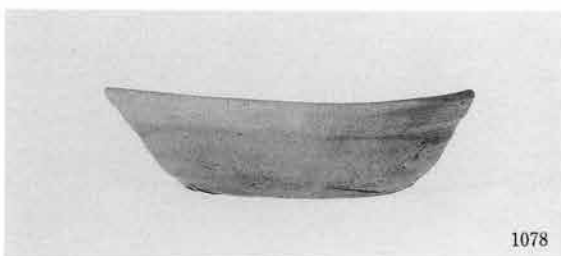
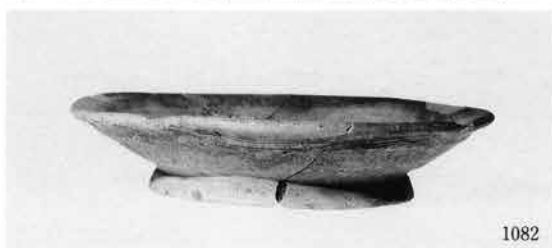
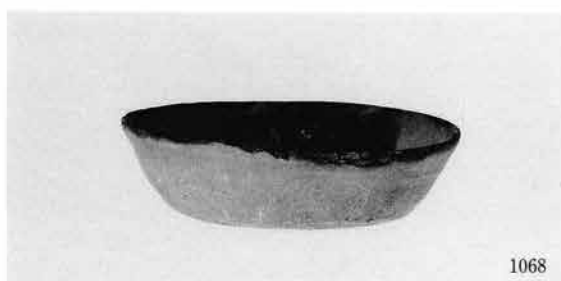
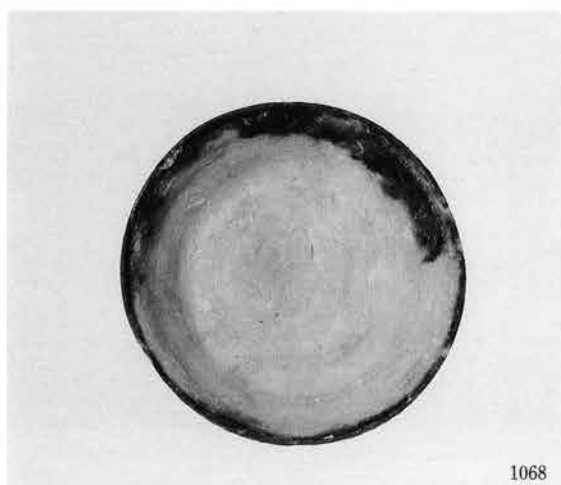




图版180

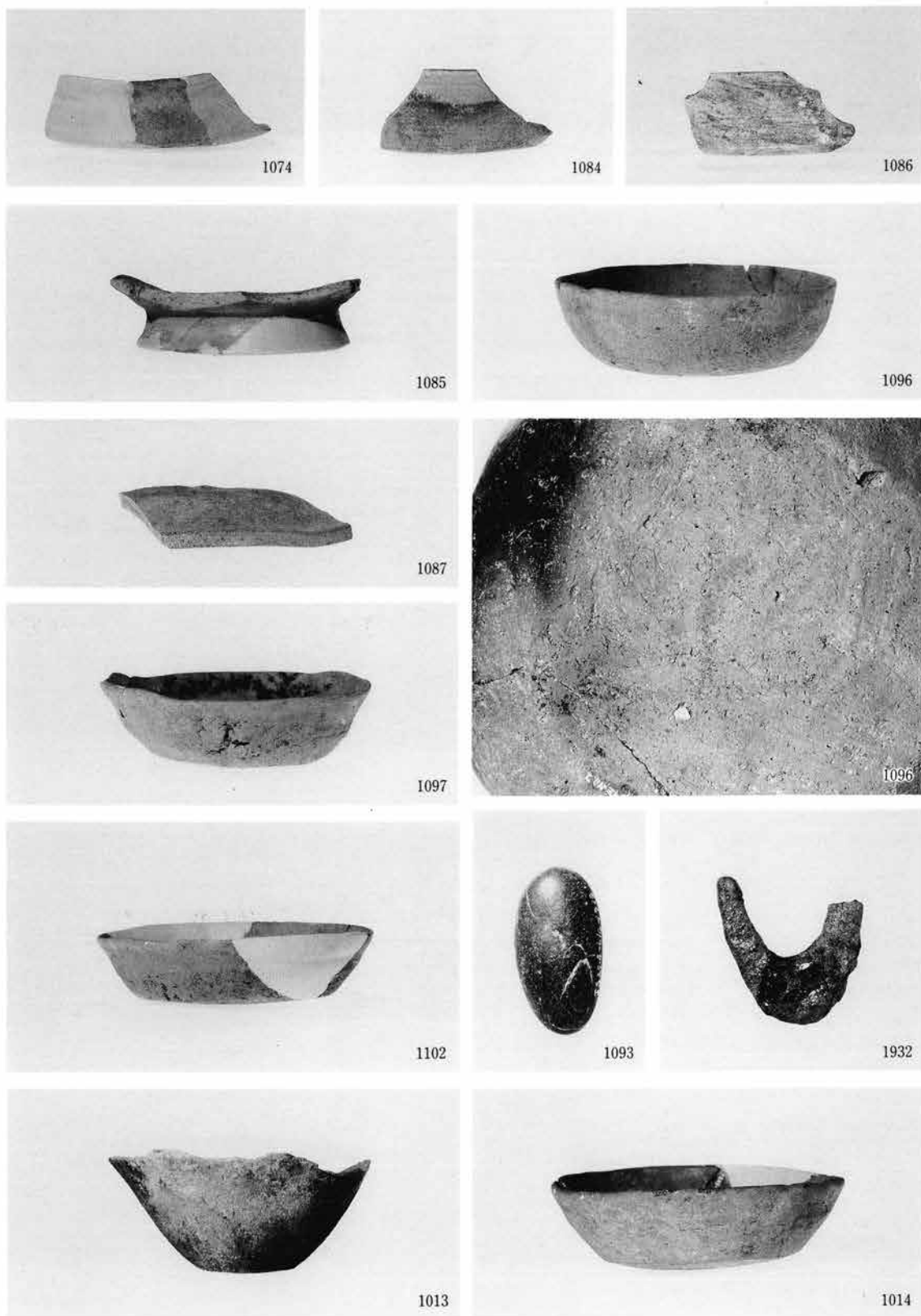


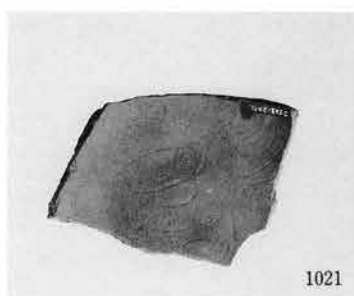
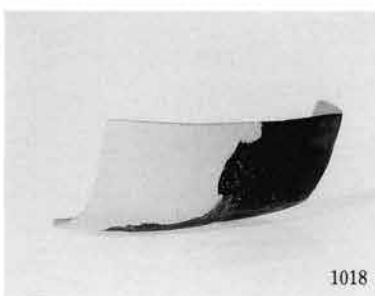
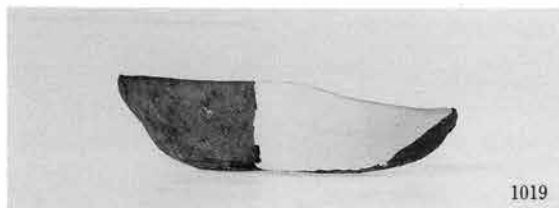
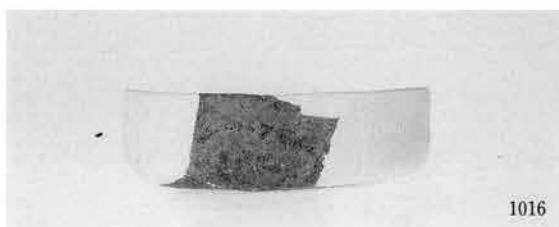
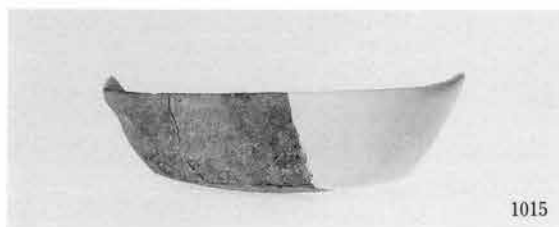
4区18・19号住居跡出土遺物



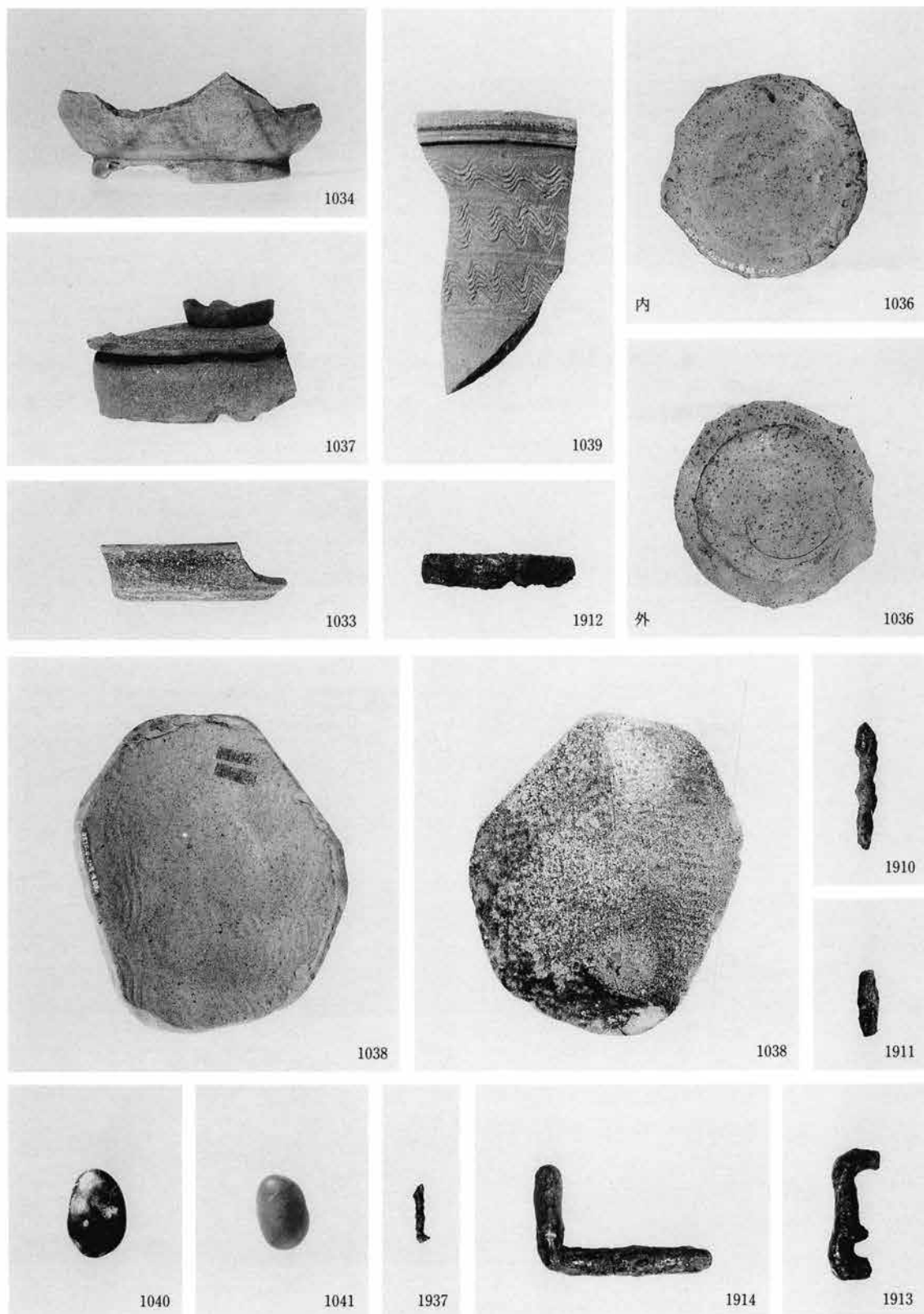
4区19号住居跡出土遺物

图版182

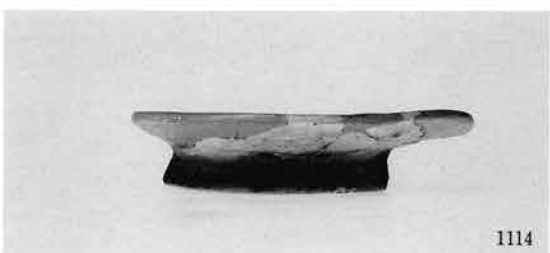
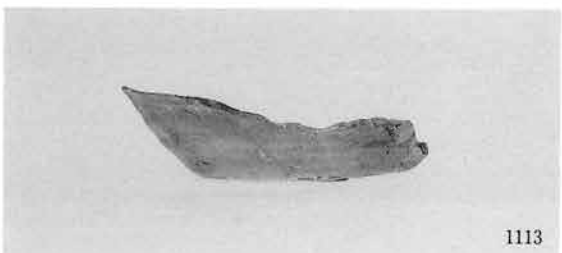
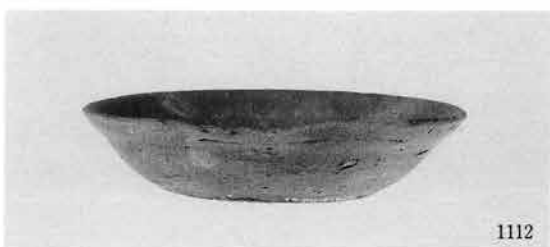
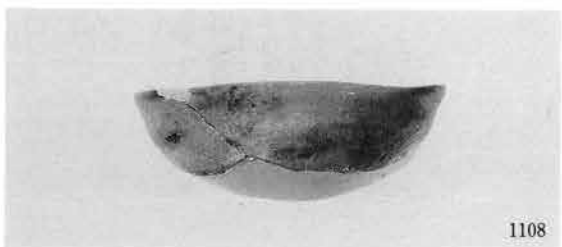
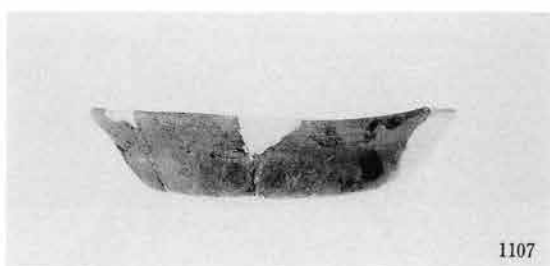
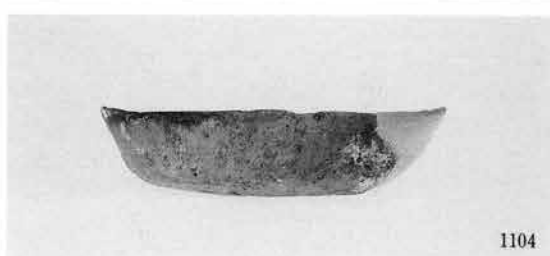
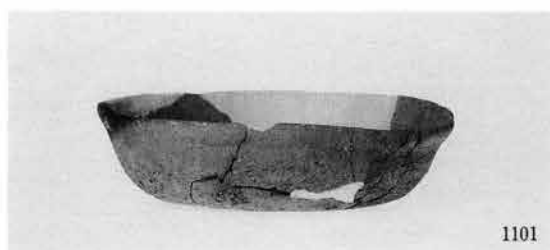
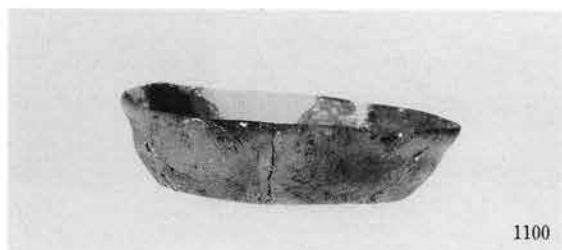




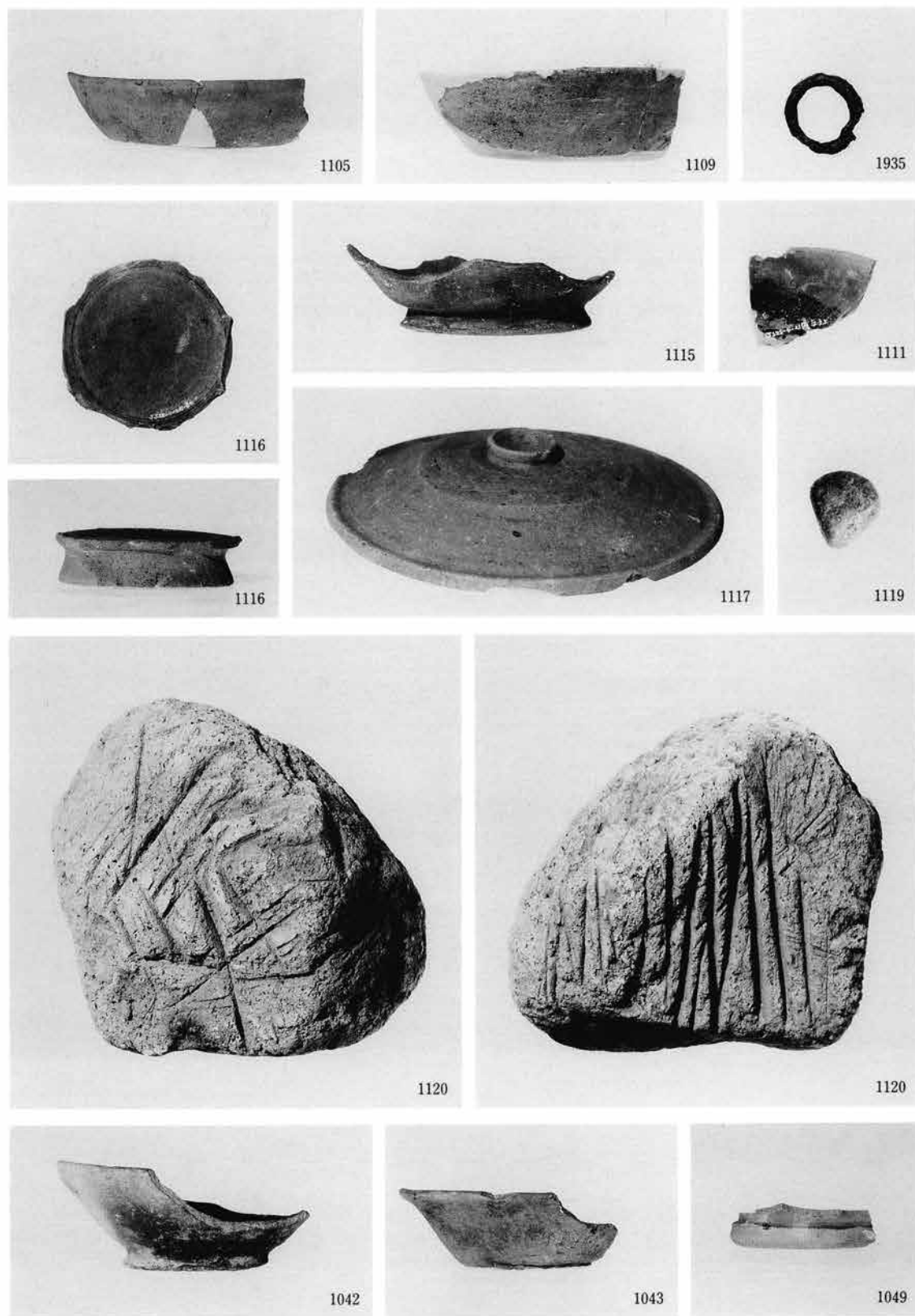
4区20号住居跡出土遺物



4区20号住居跡出土遺物

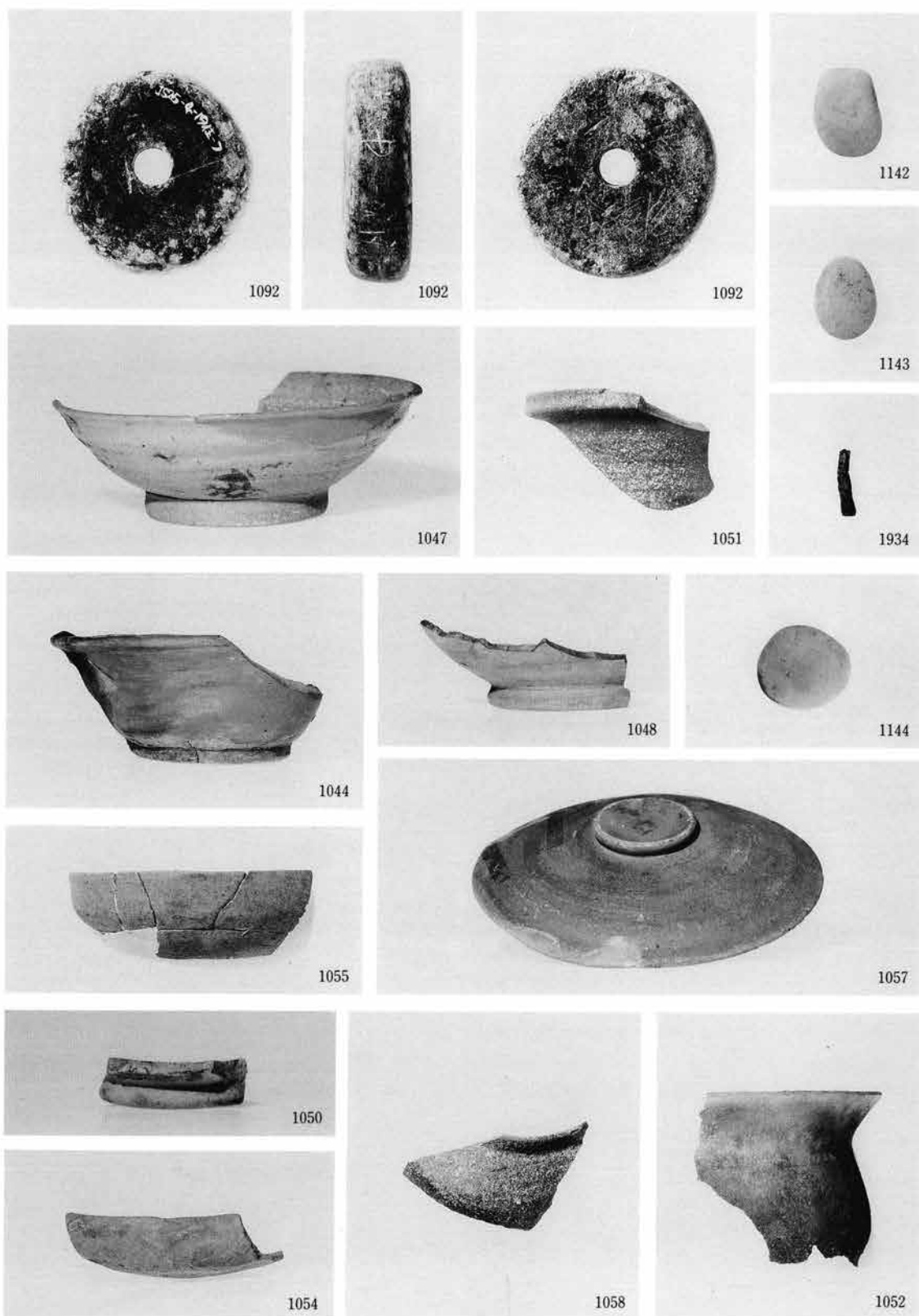


4区21号住居跡出土遺物

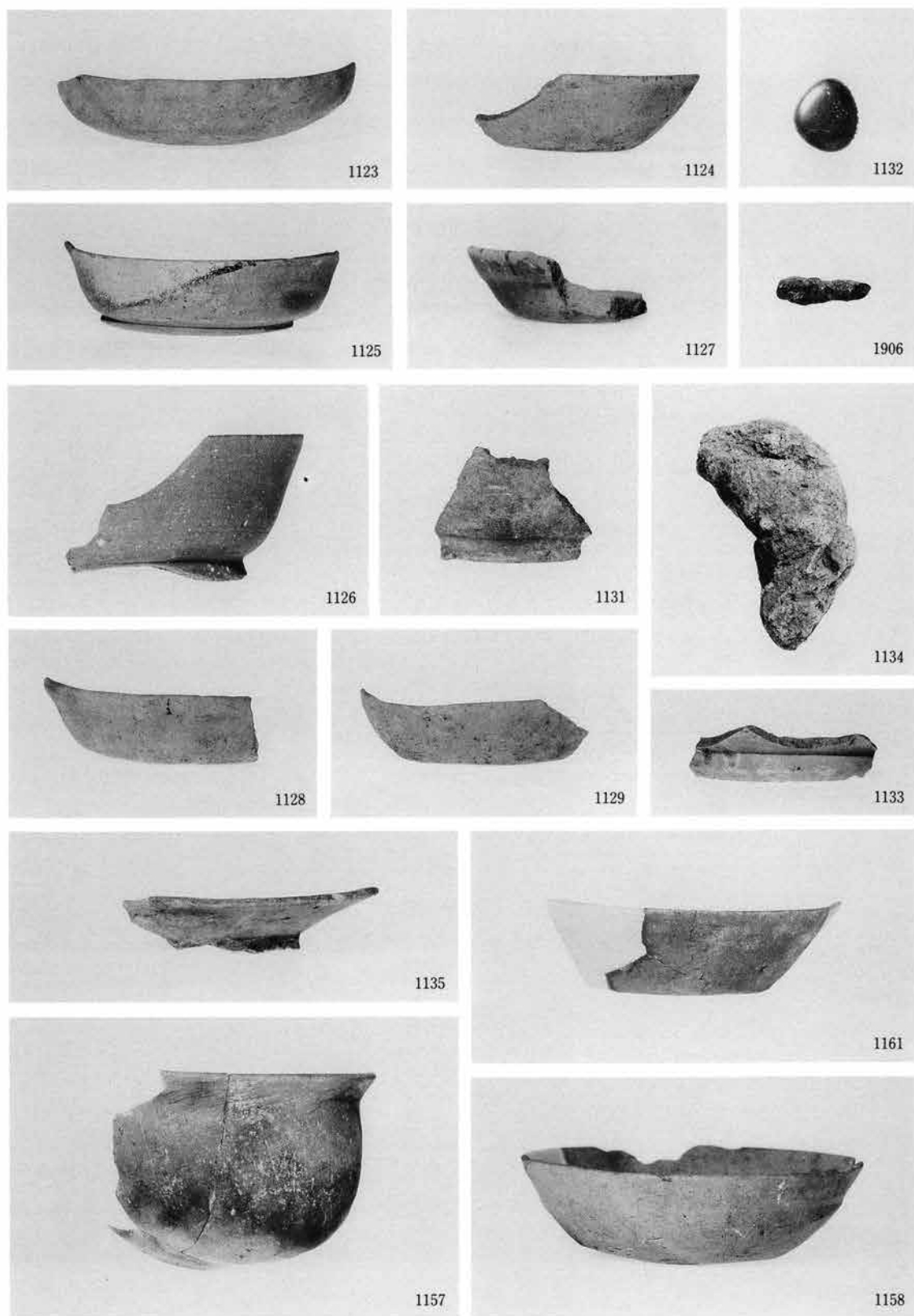


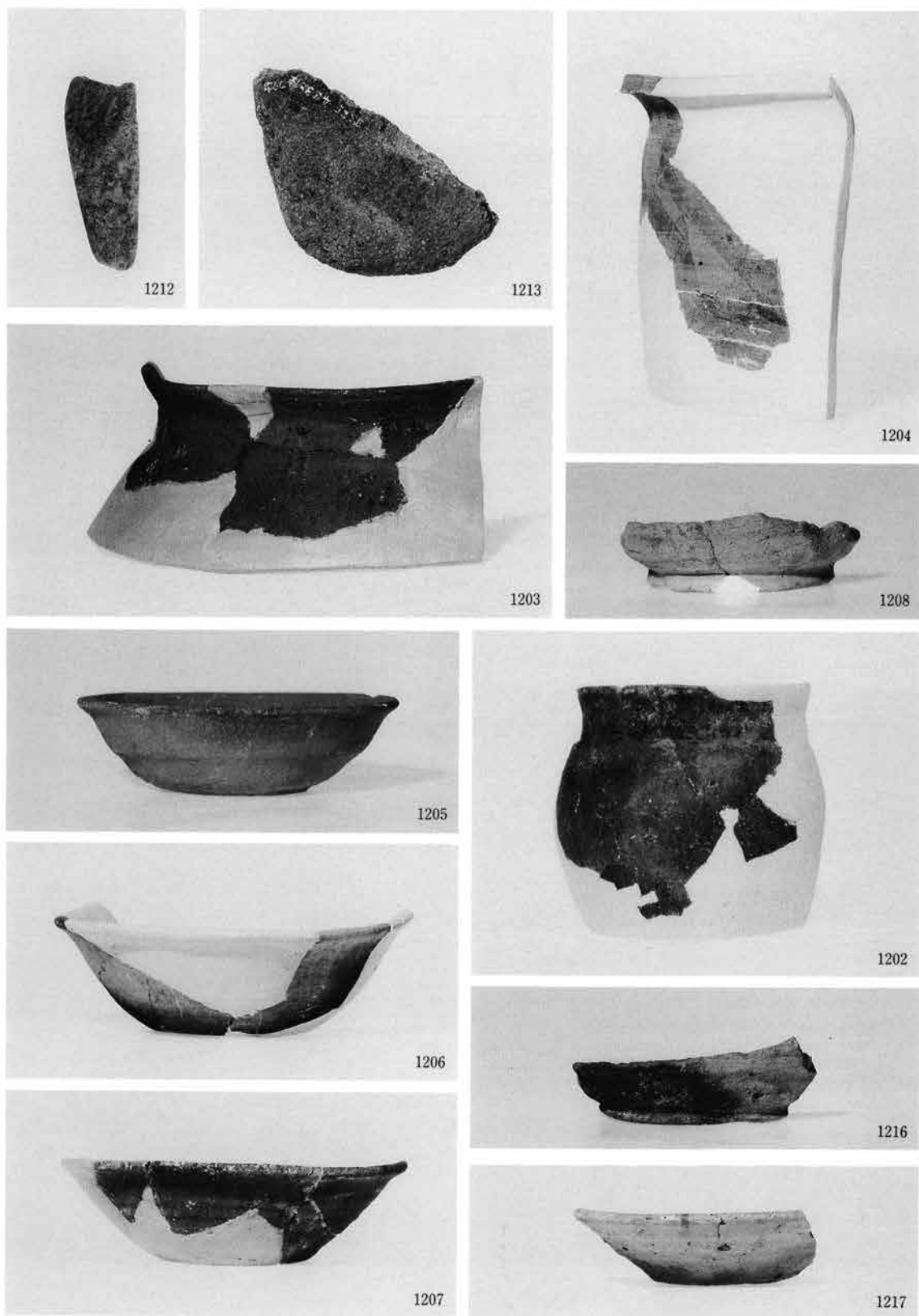
4区21・22号住居跡出土遺物





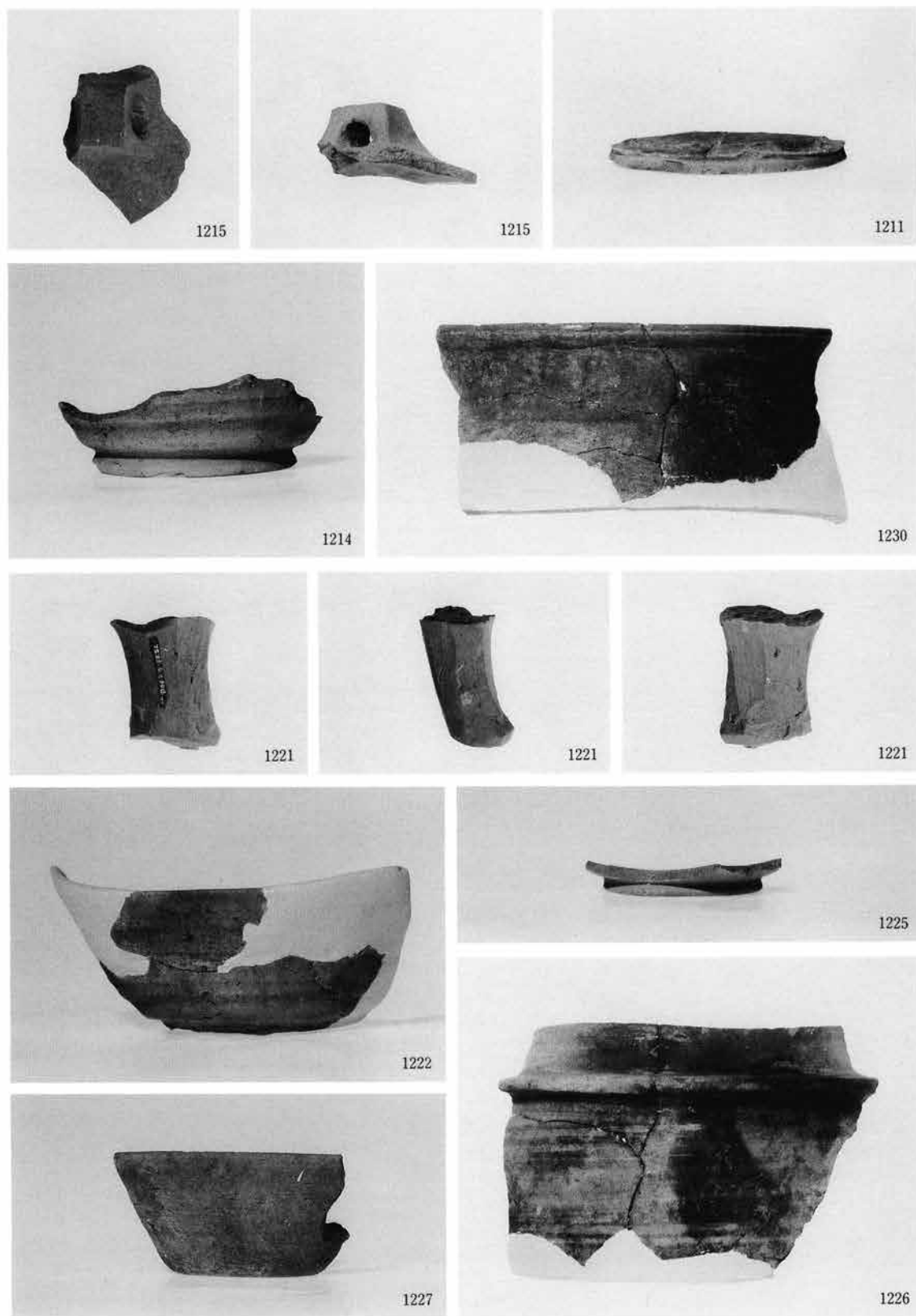
4区21・22・23・24号住居跡出土遺物

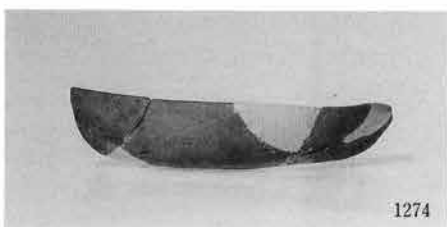
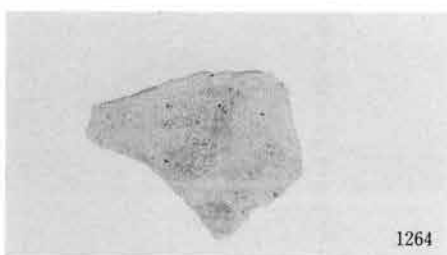
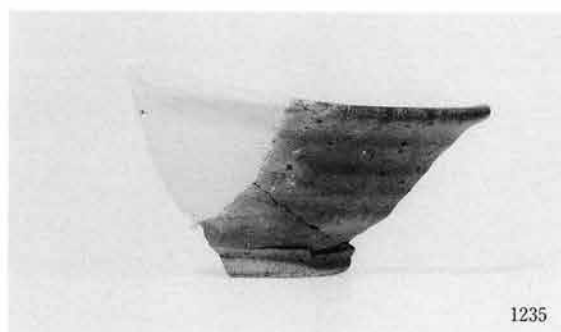


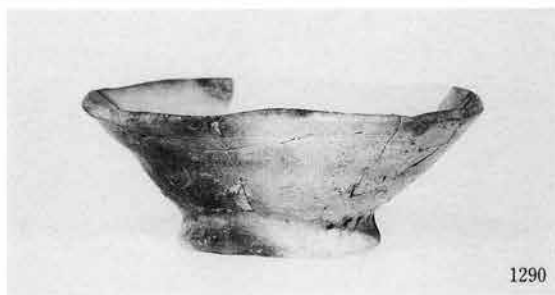
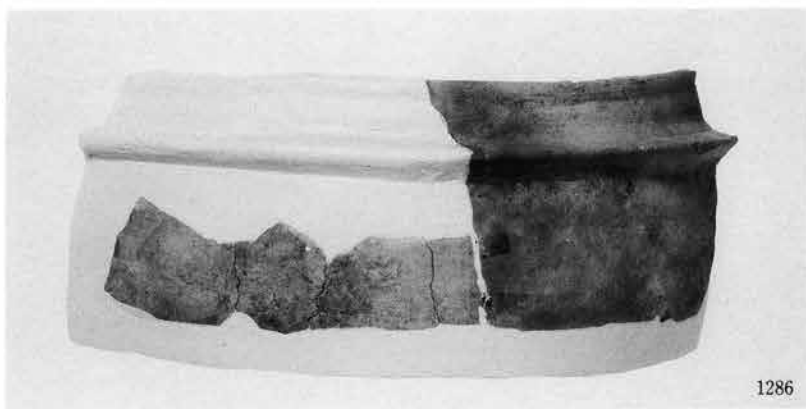


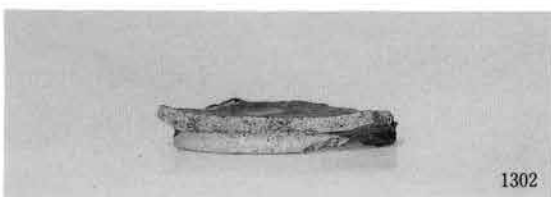
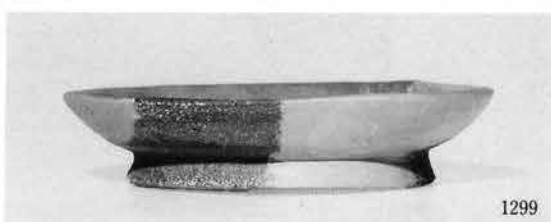
4区32号住居跡出土遺物

图版190

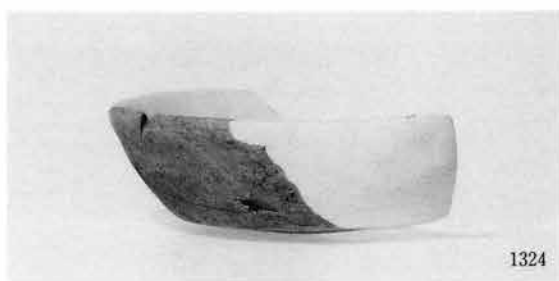
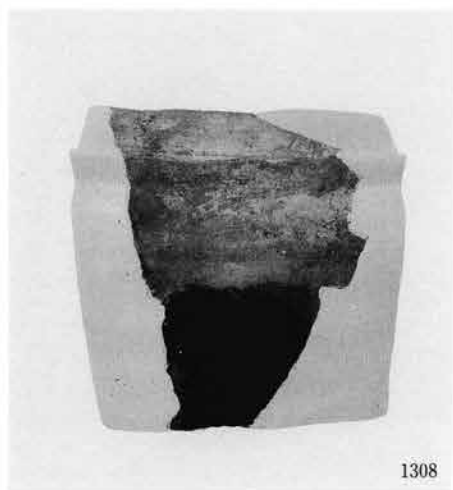
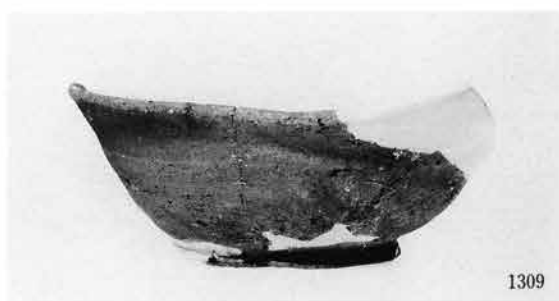
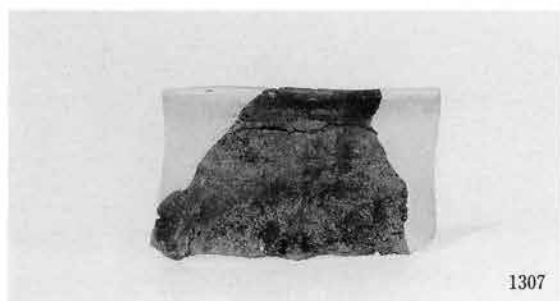




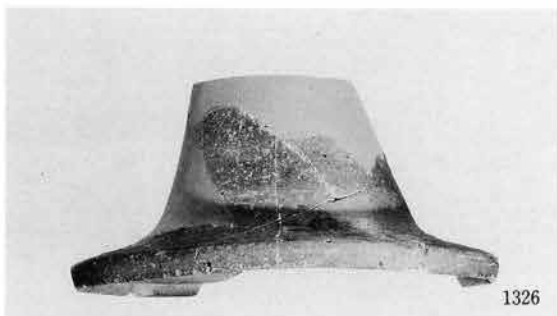
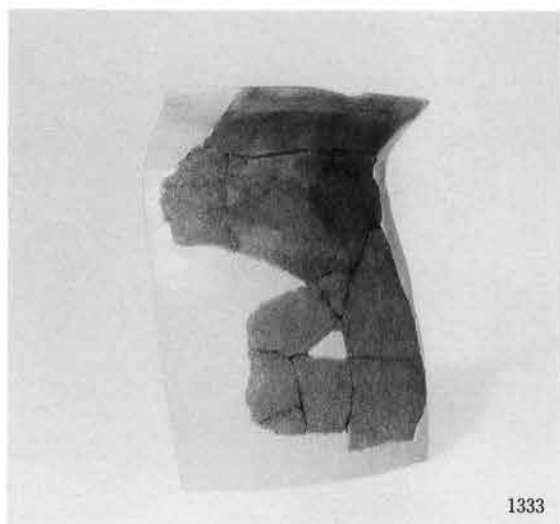
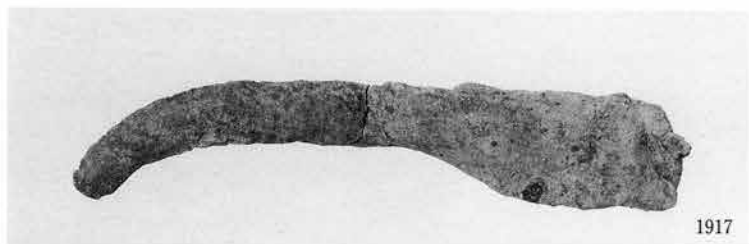


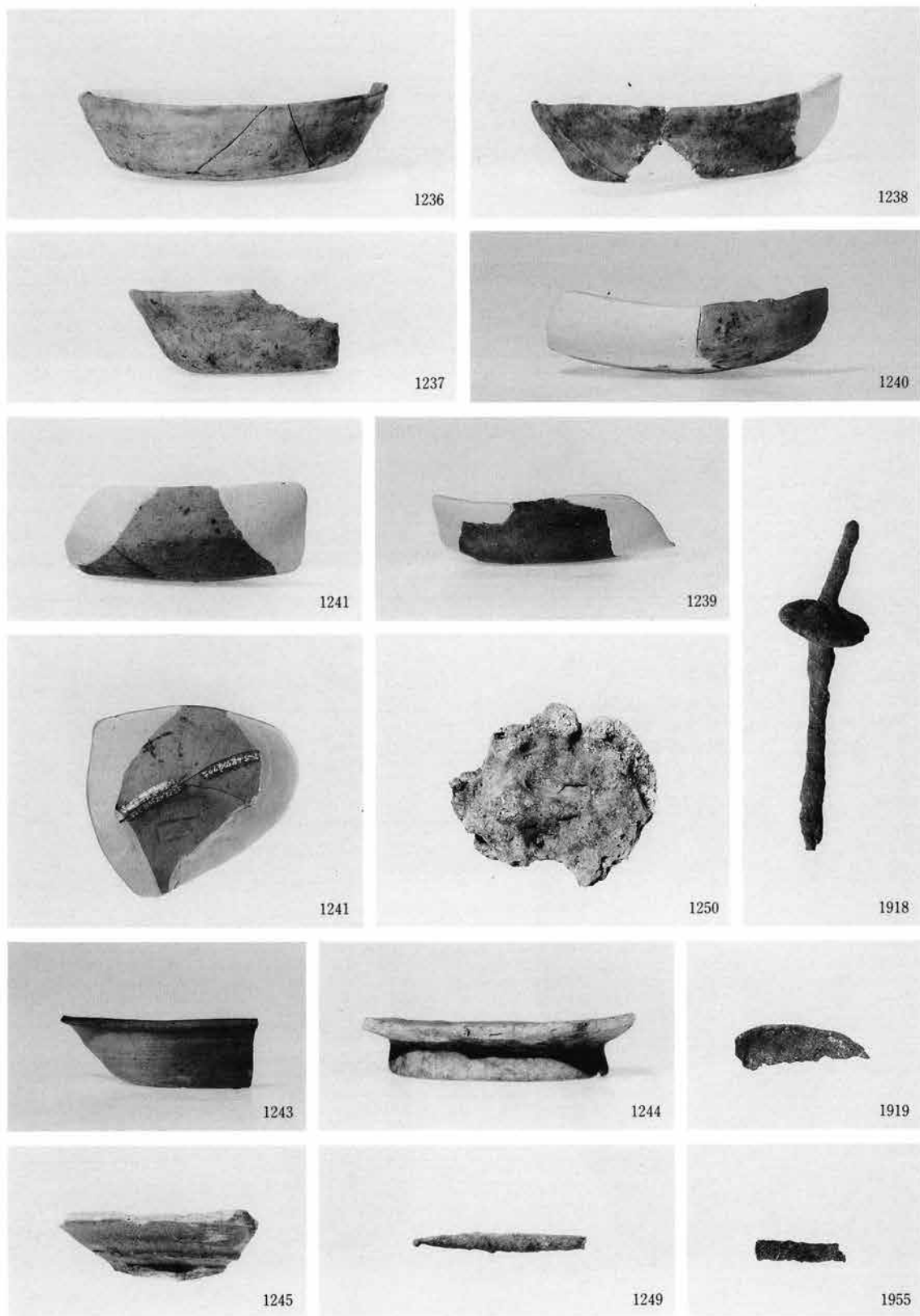


4区40号住居跡出土遺物

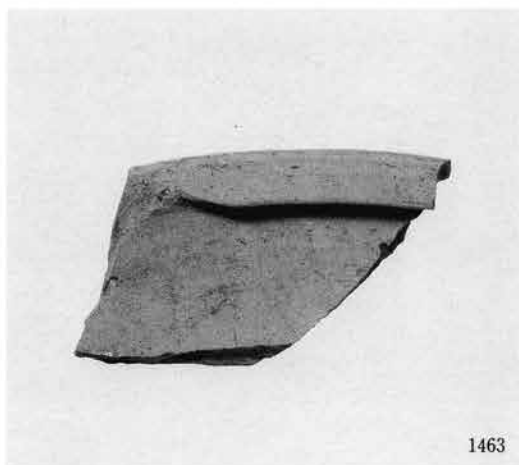
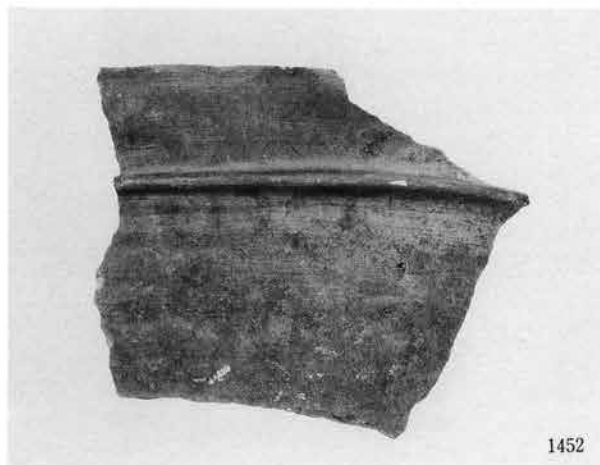
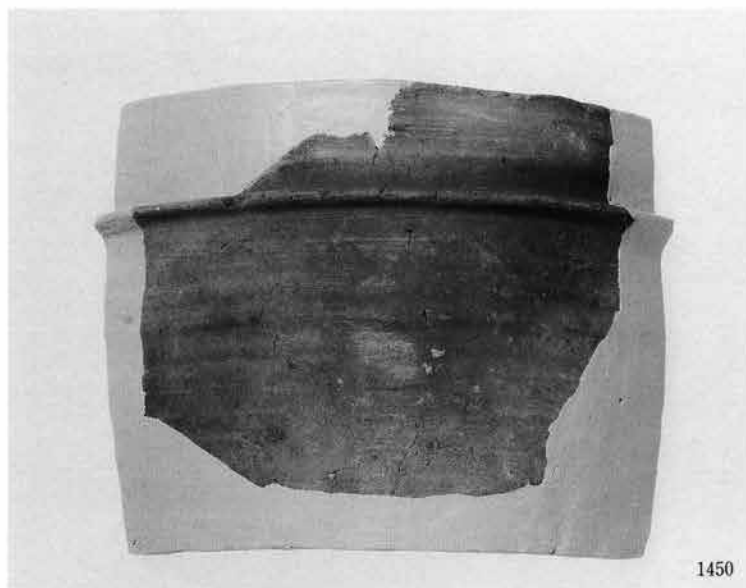
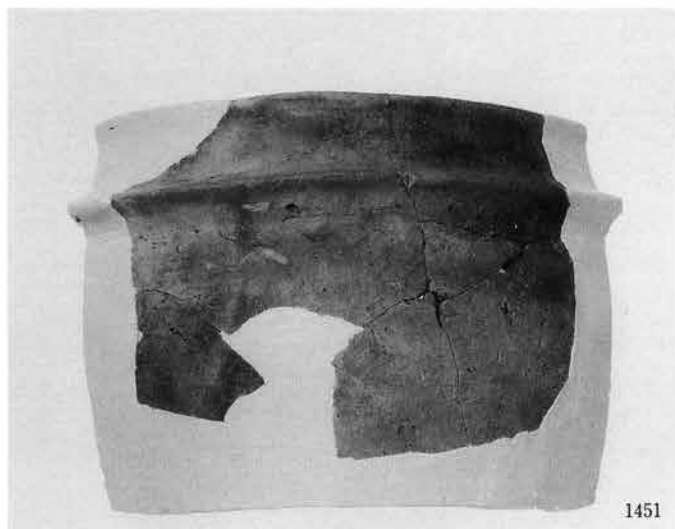


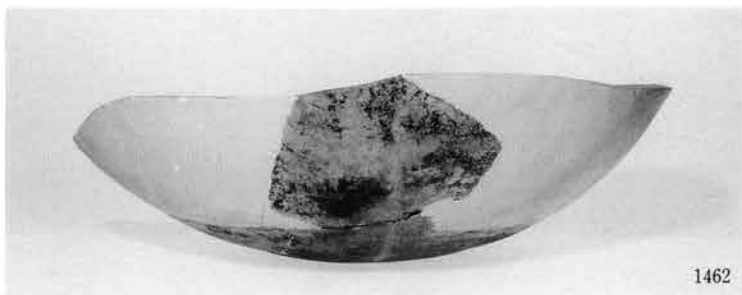
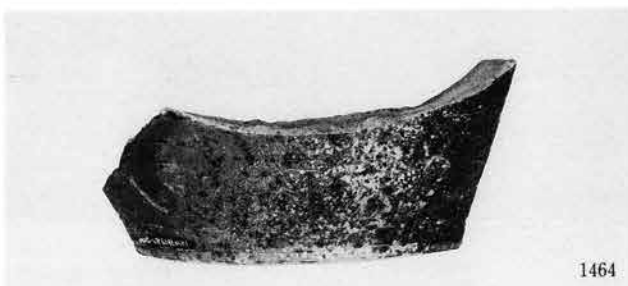
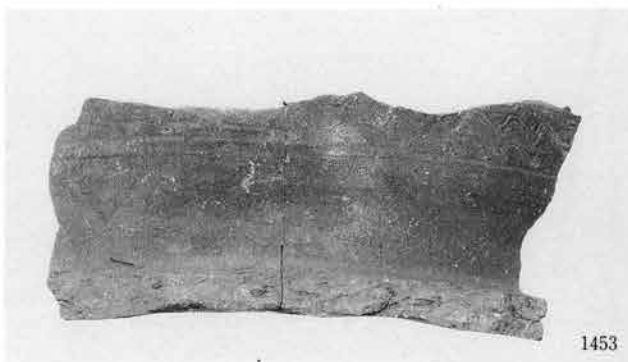


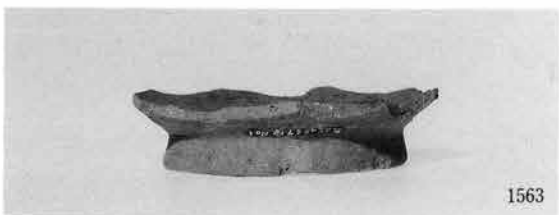
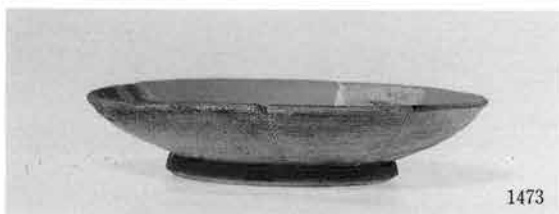
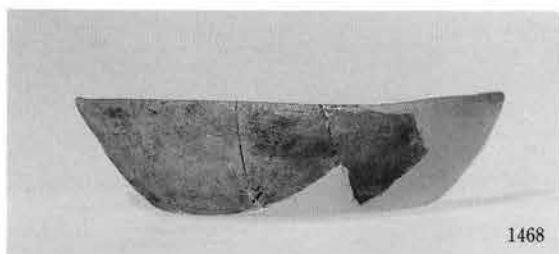
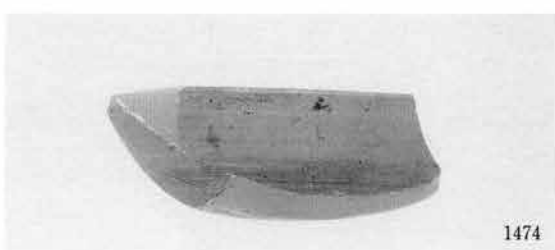


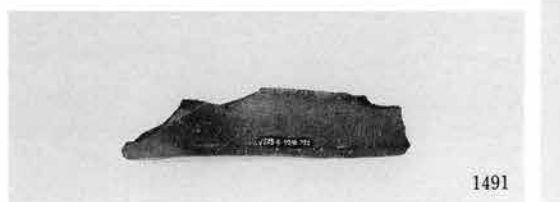
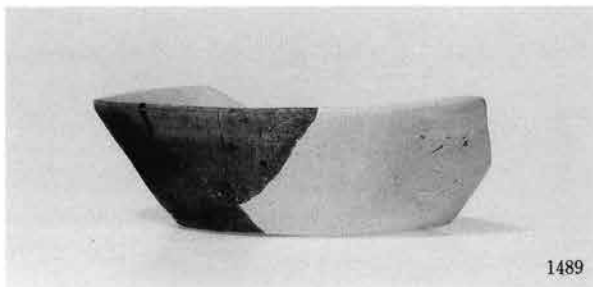
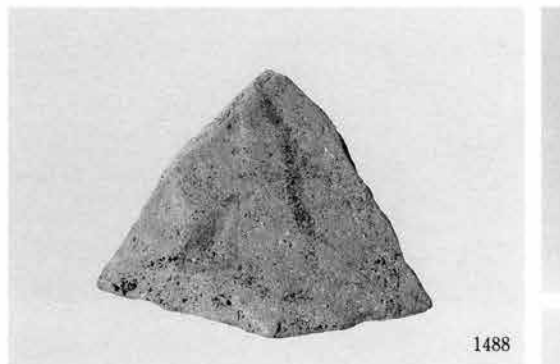
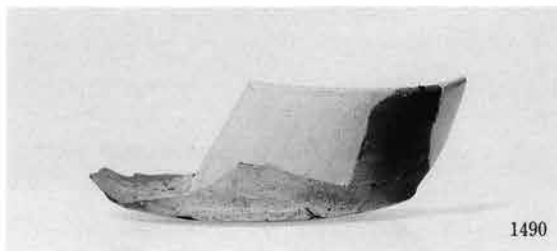
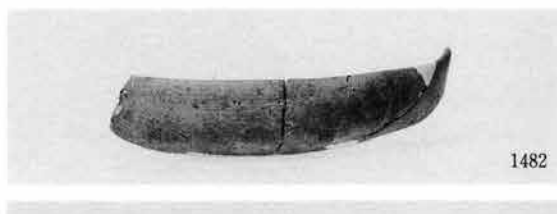
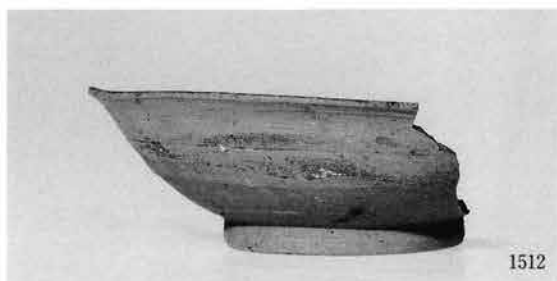


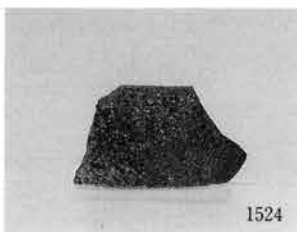
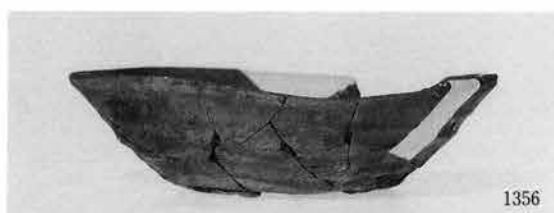
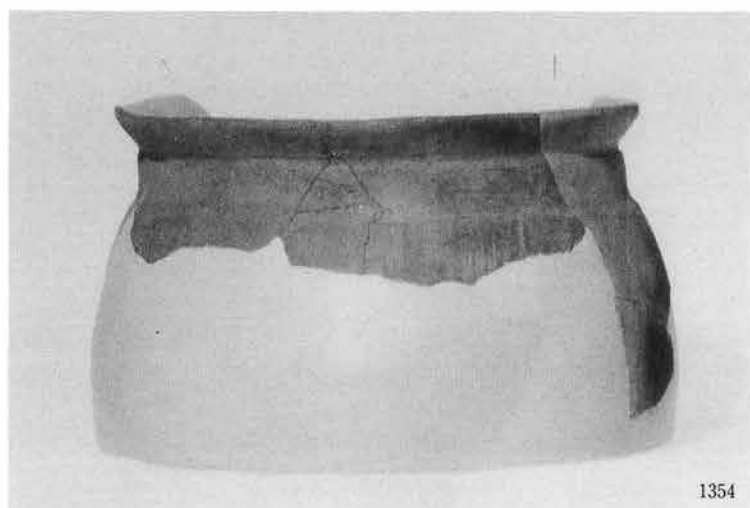
4区50・54・58号住居跡出土遺物





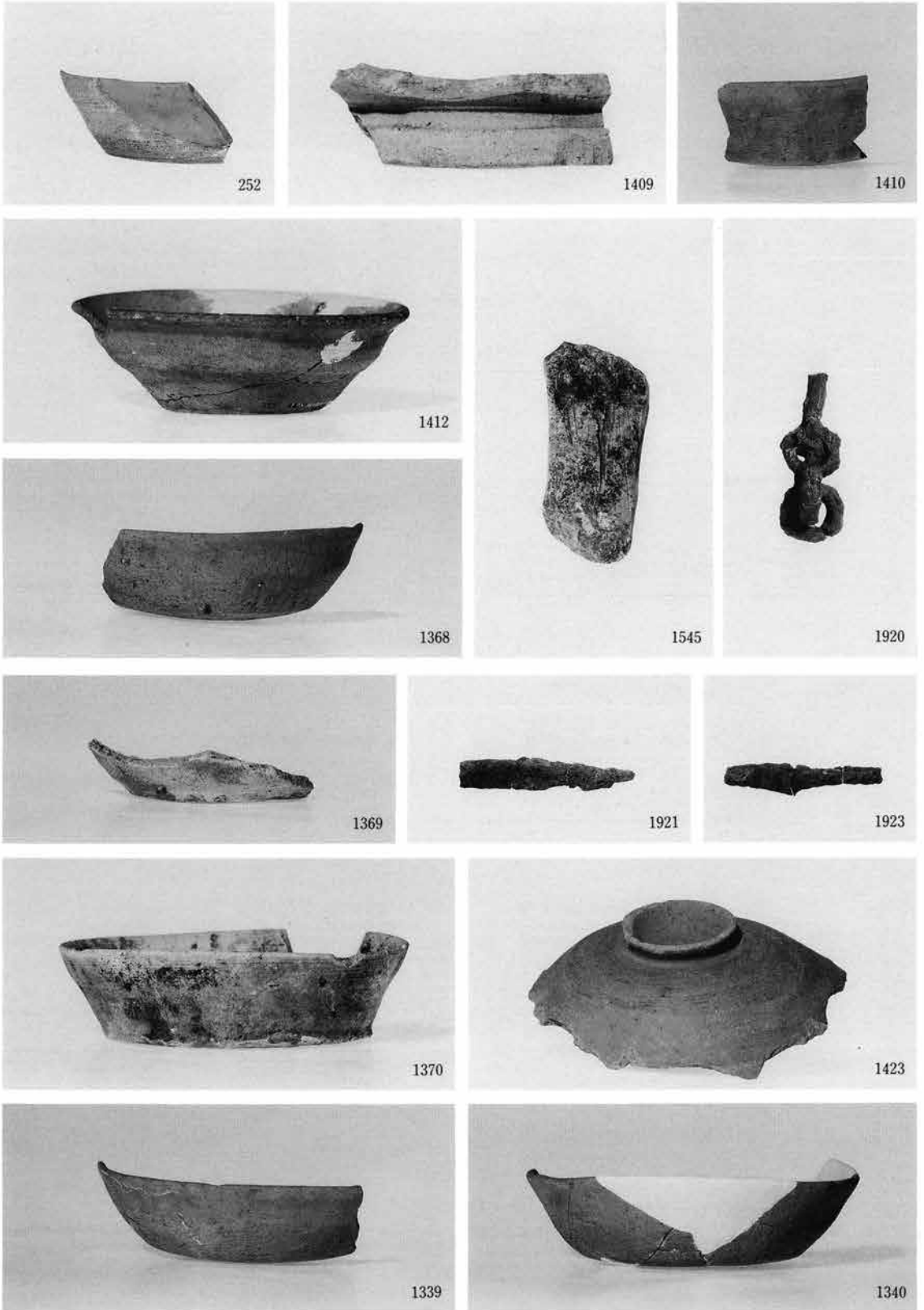






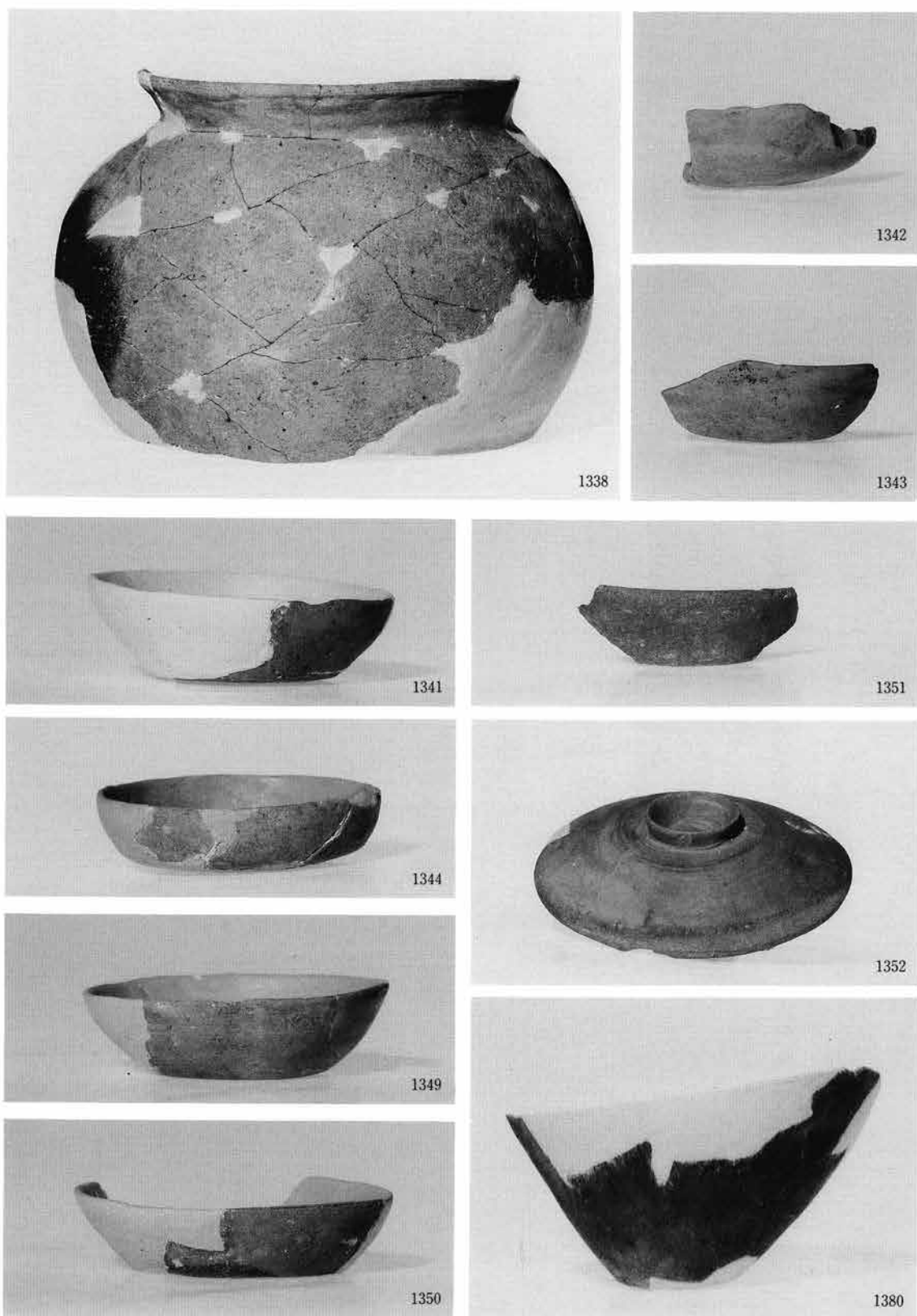
4区73・74・78号住居跡出土遺物



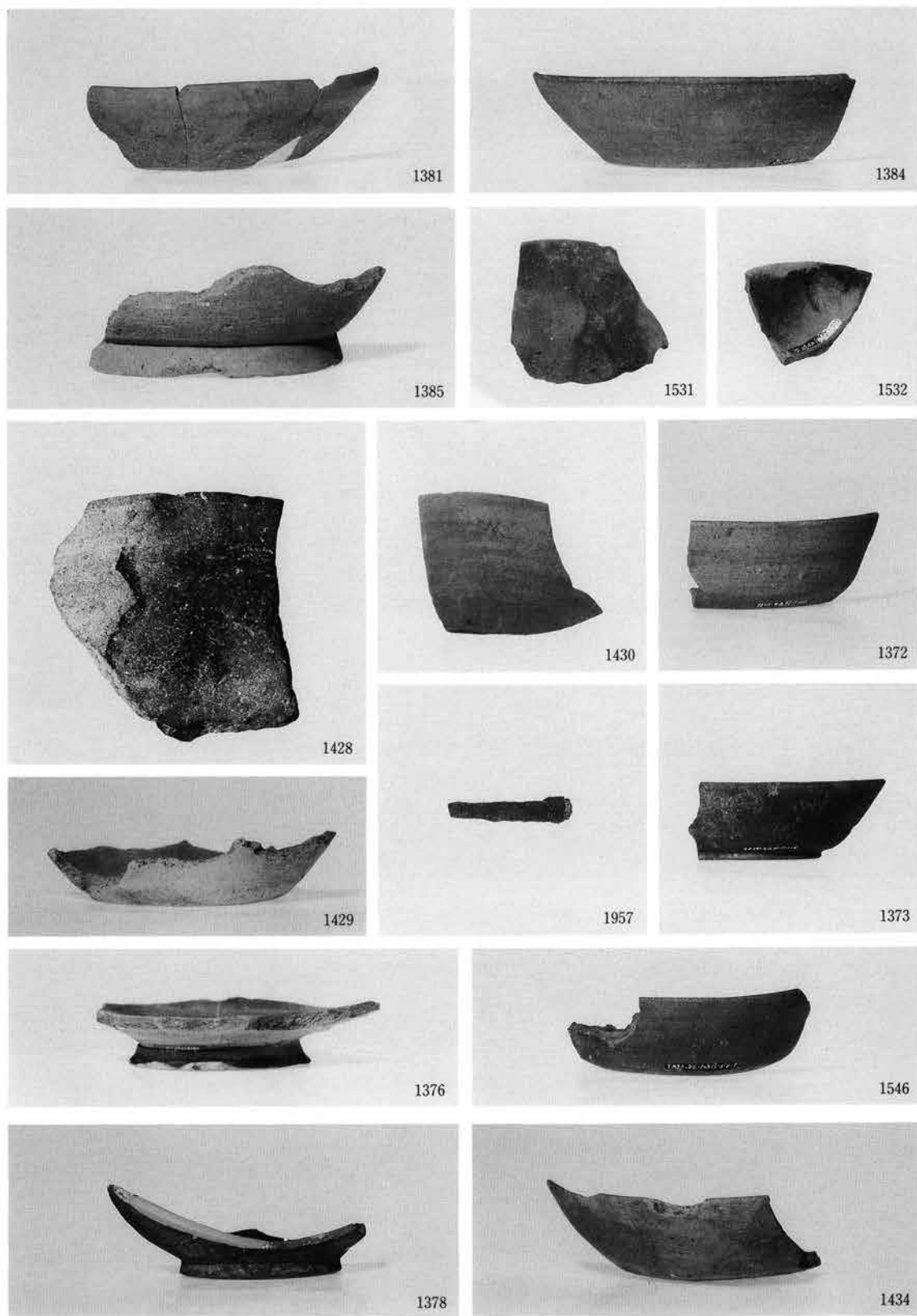


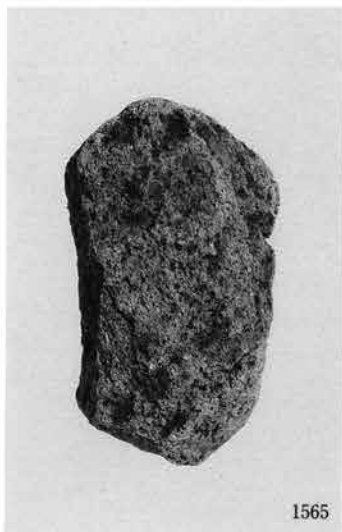
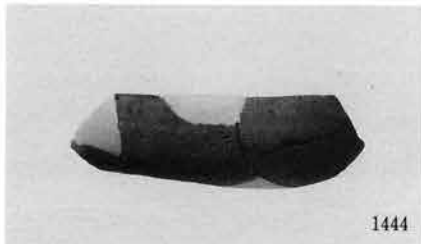
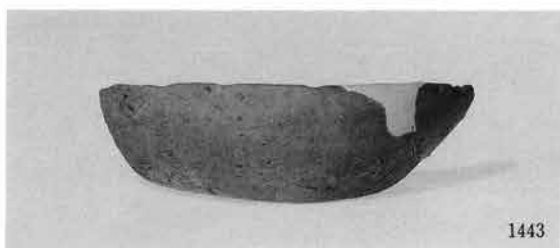
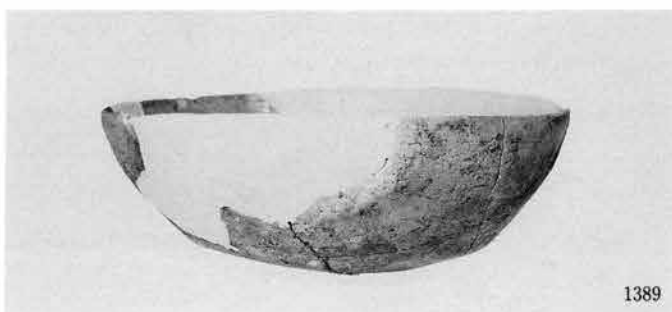
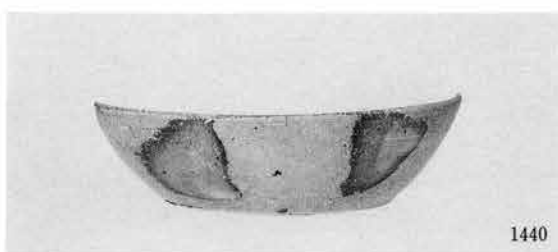
4区81・82・85・87・88・89・91・92号住居跡出土遺物

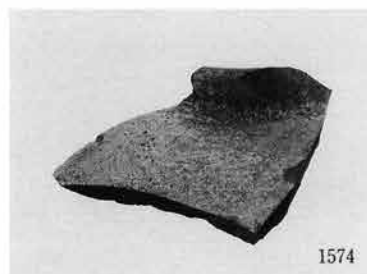


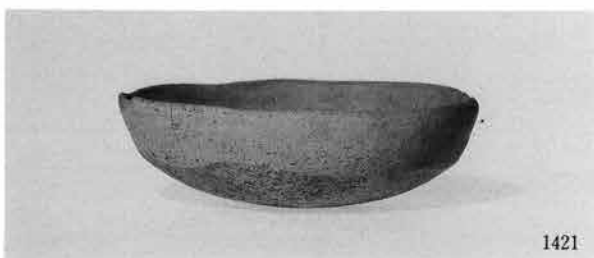
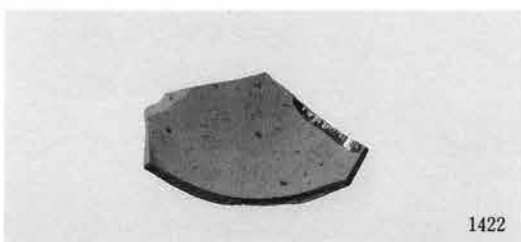
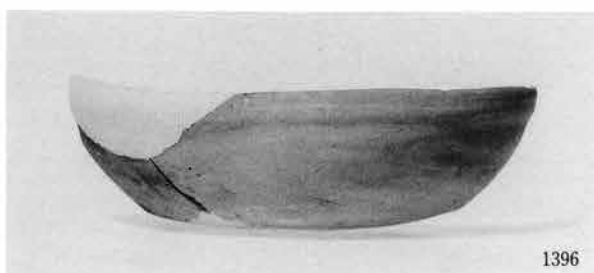


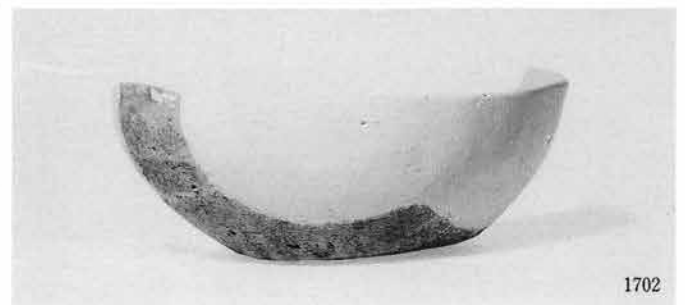
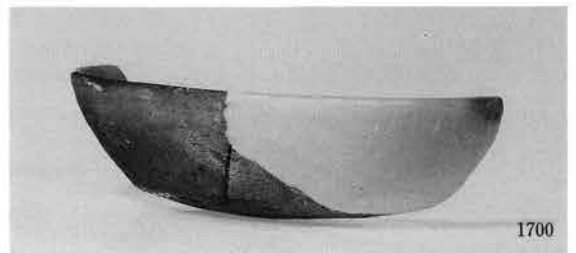
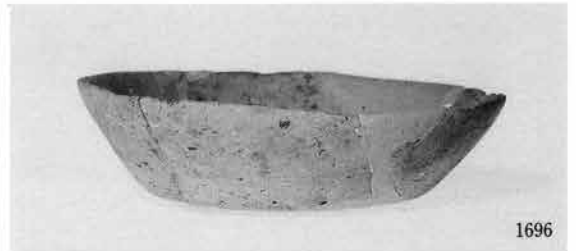
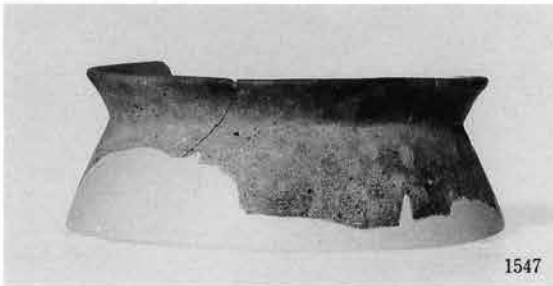
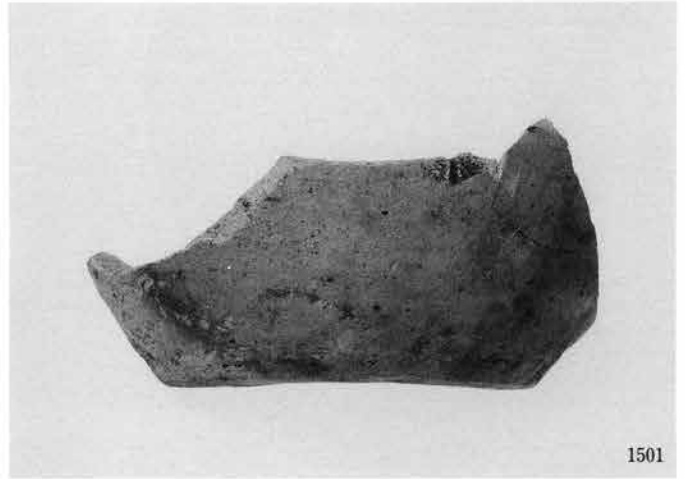
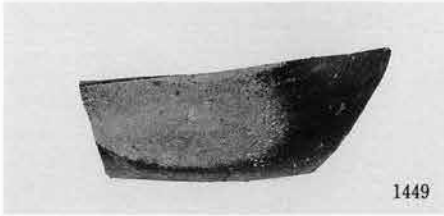
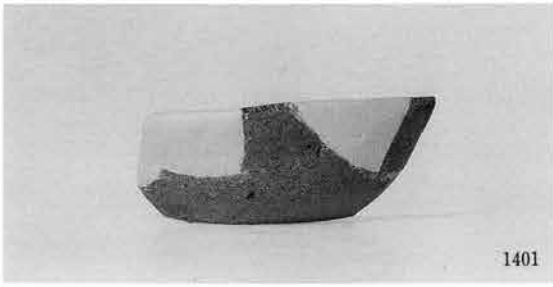
4区92・93号住居跡出土遺物

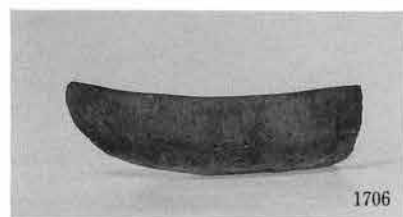
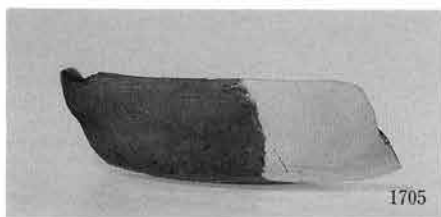
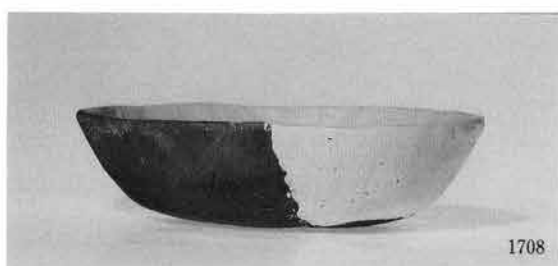
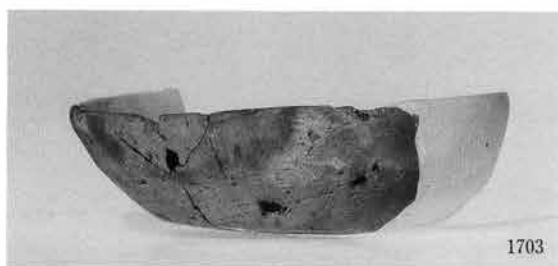






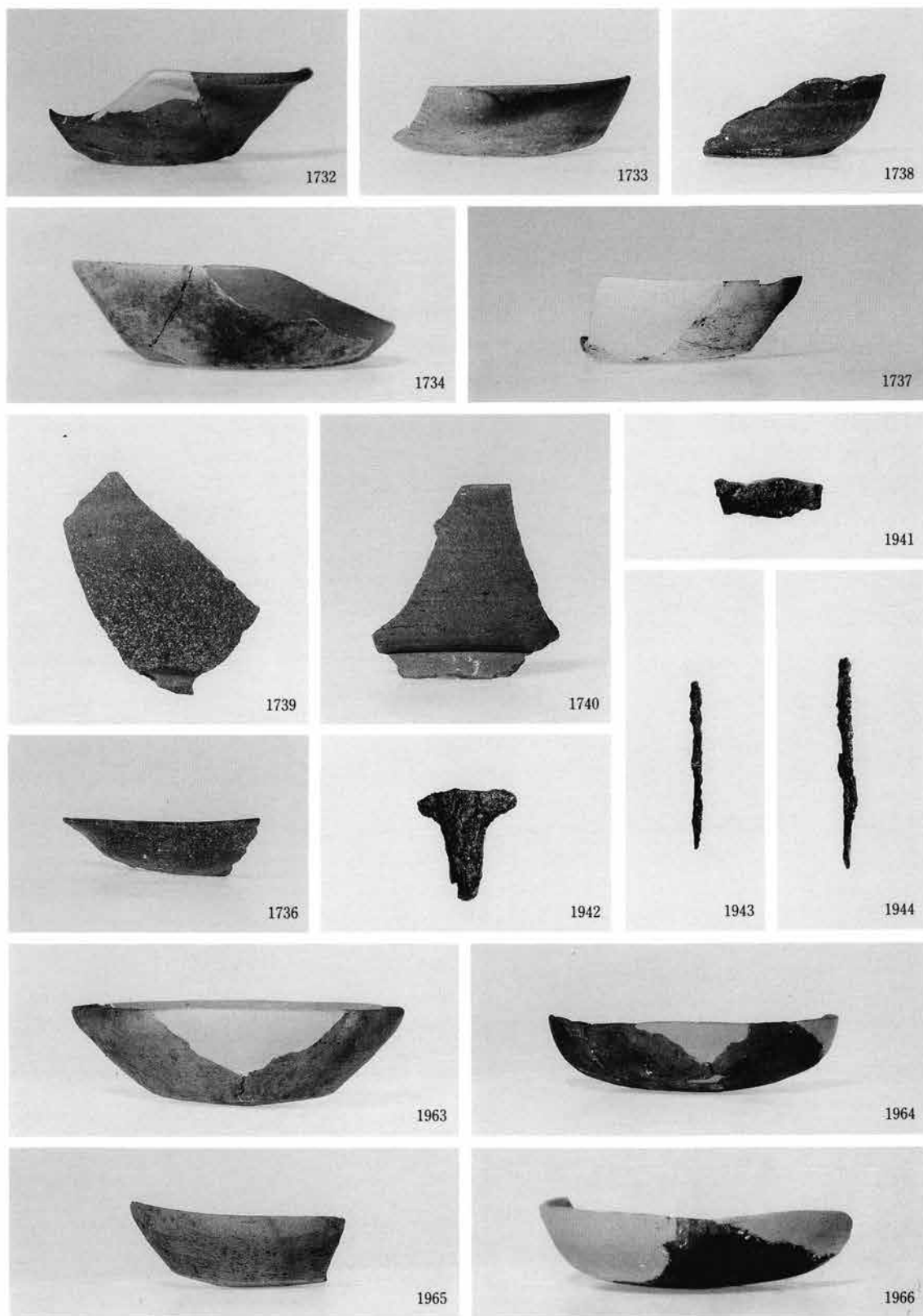






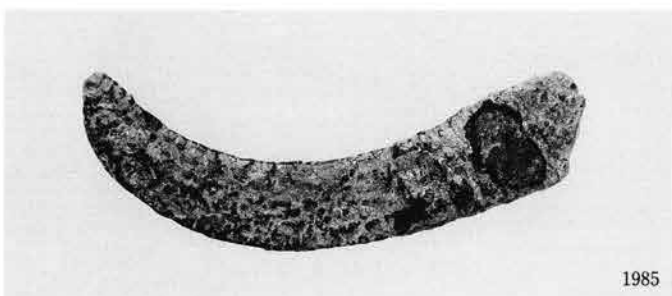
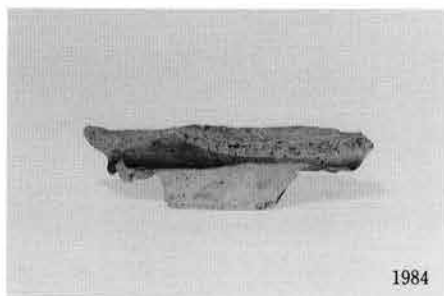
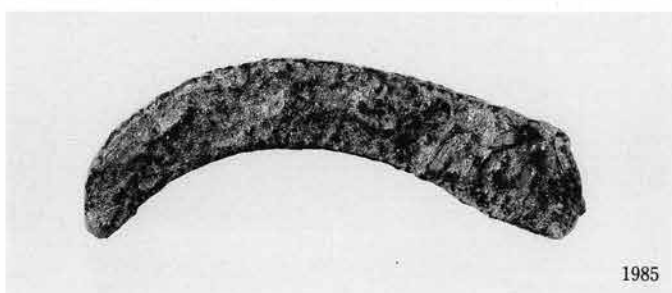
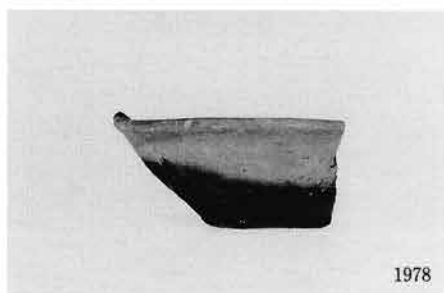
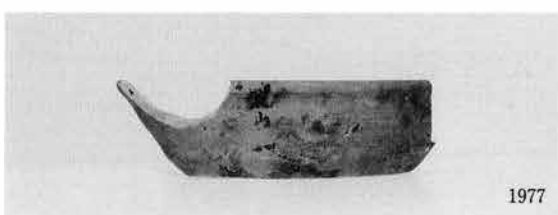
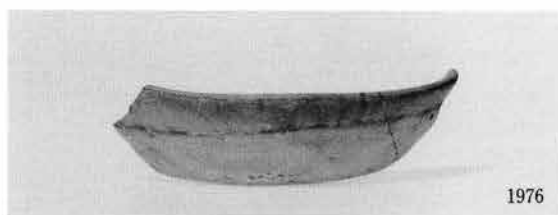
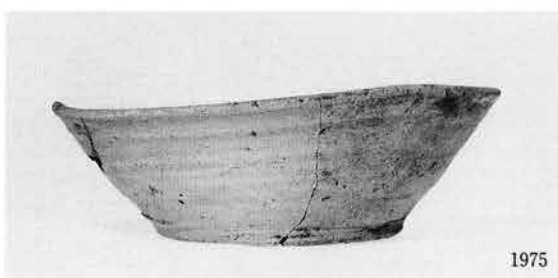
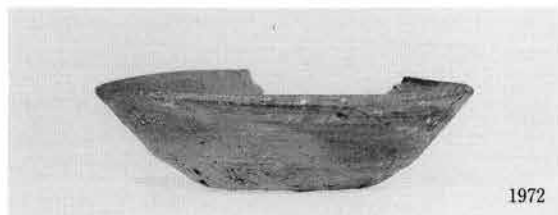
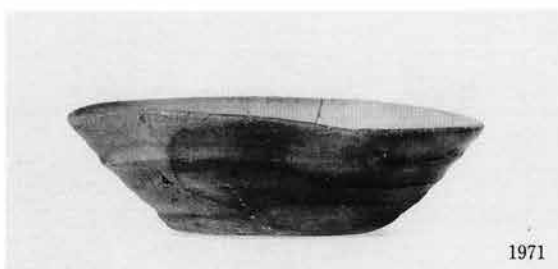
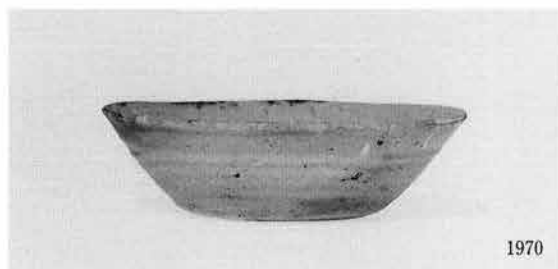
4区134・135・136号住居跡出土遺物



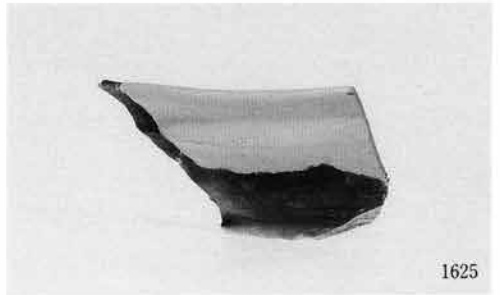
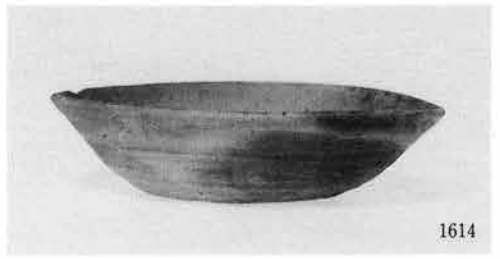
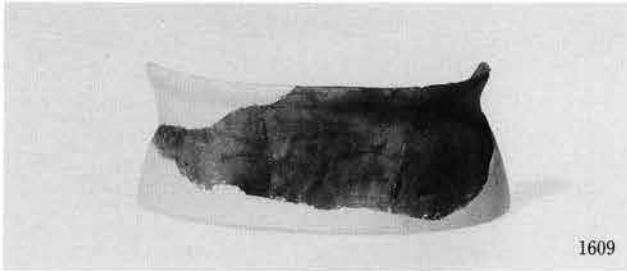
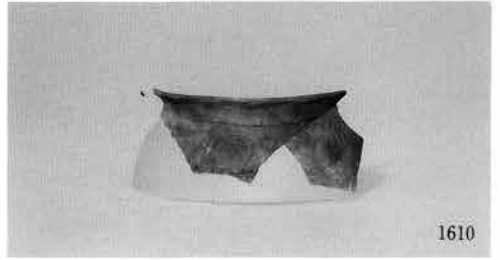
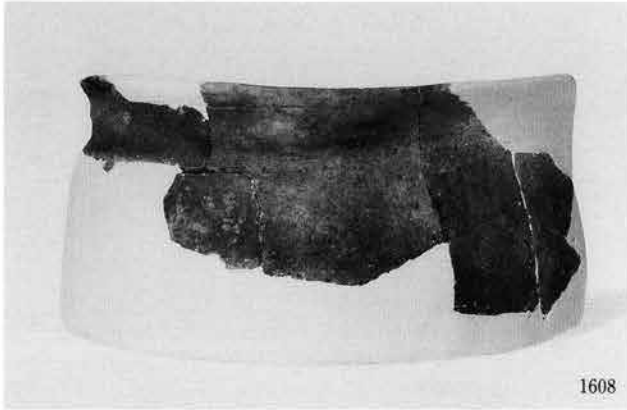


4区134・135・136・137号住居跡出土遺物

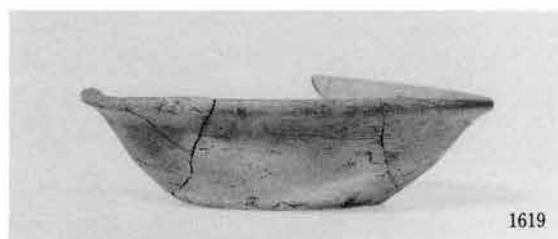
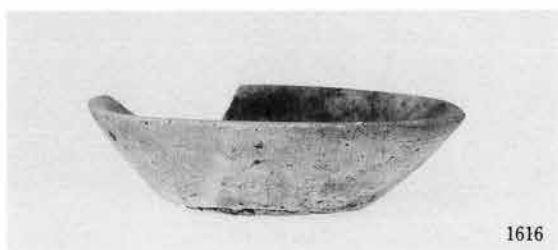




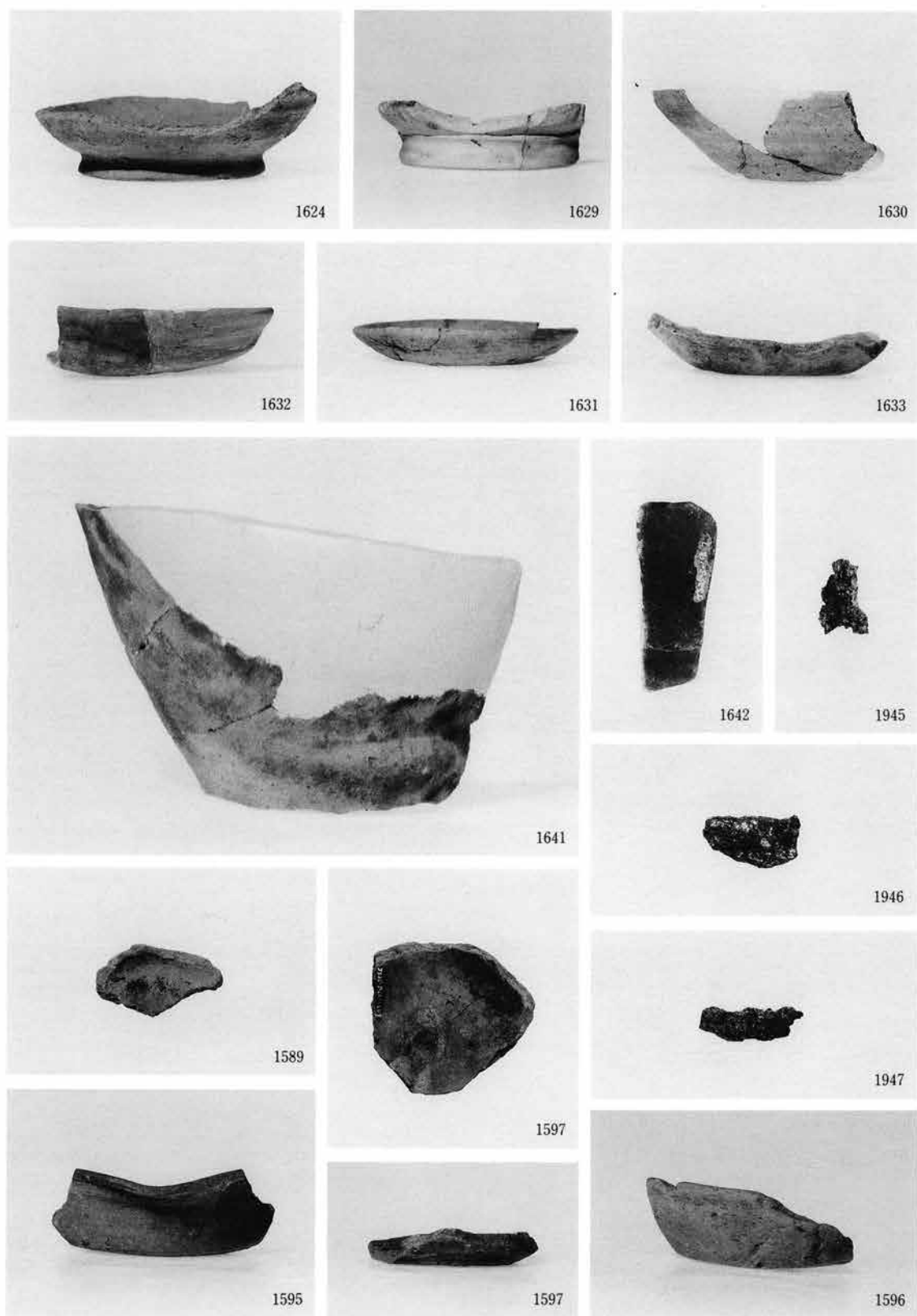
4区137号住居跡出土遺物



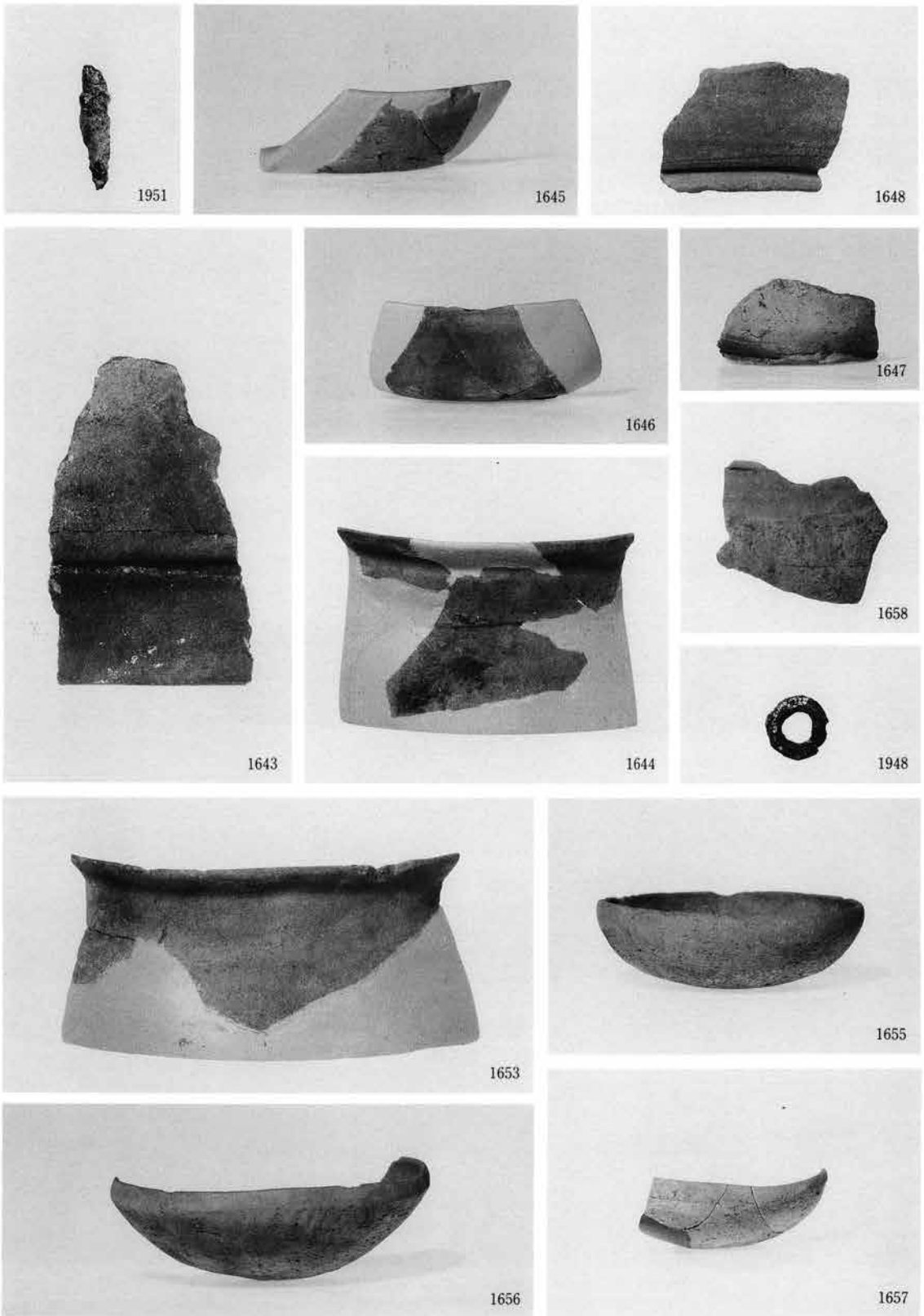
5区1号住居跡出土遺物



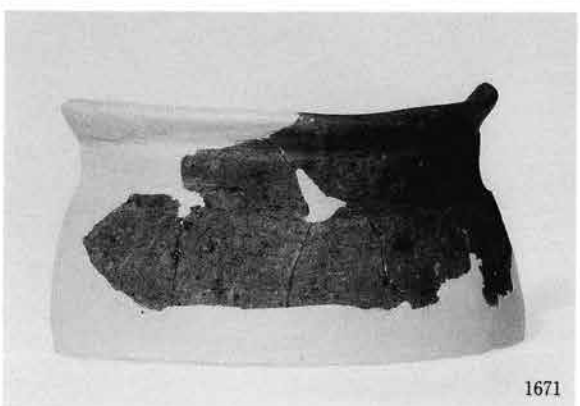
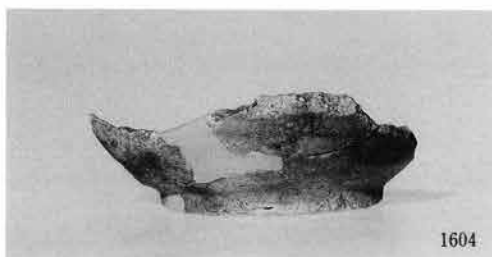
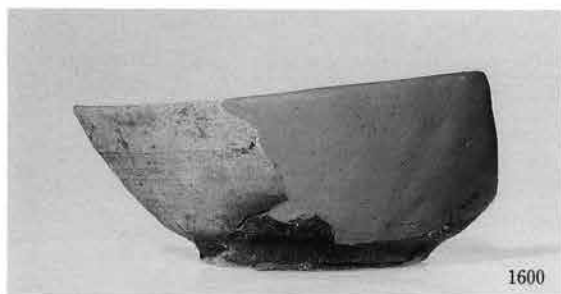
5区1号住居跡出土遺物

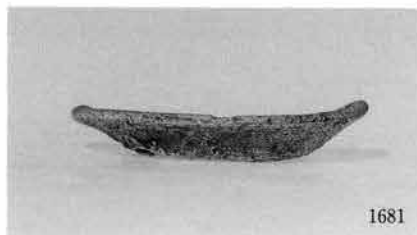
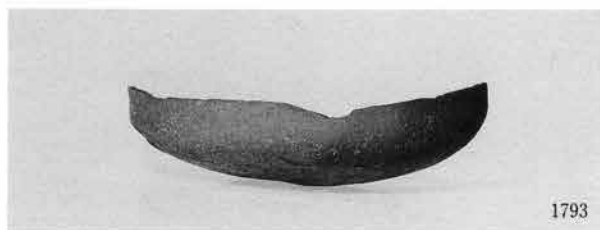
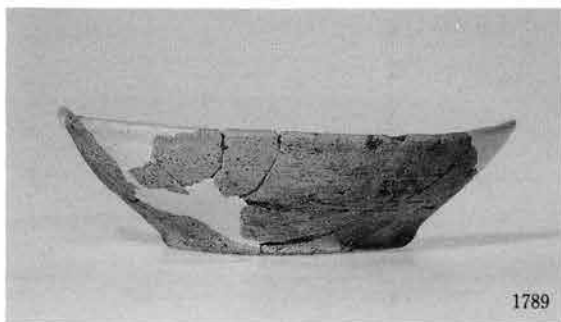
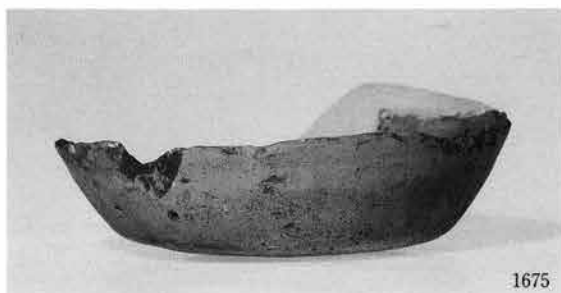


5区1・2号住居跡出土遺物

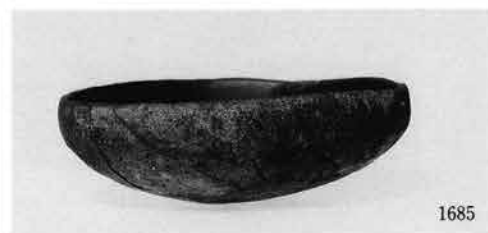
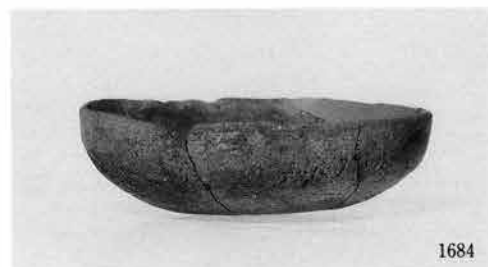
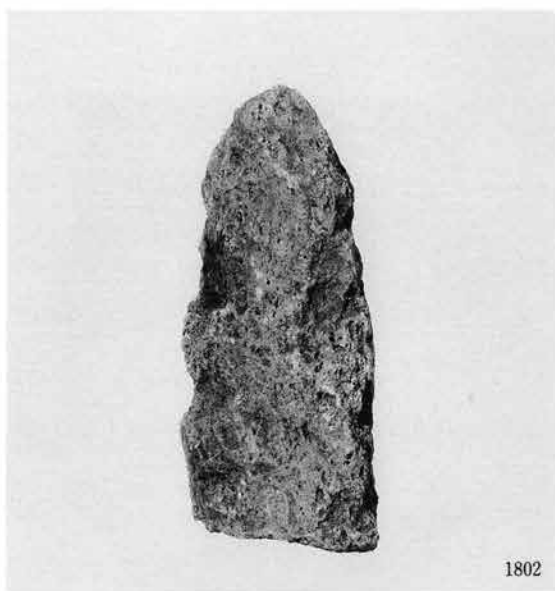
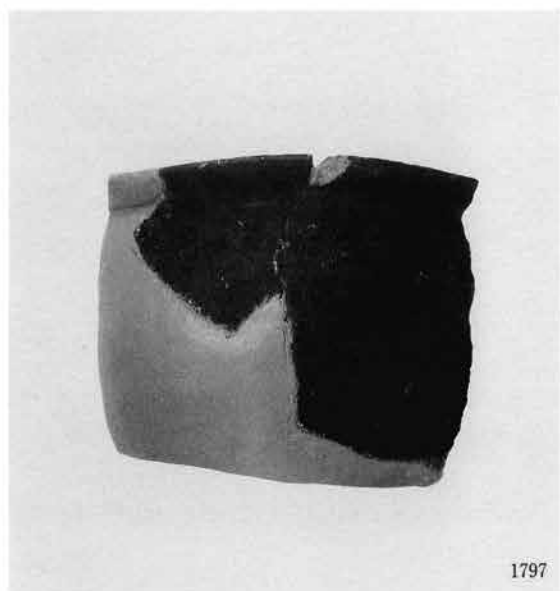


5区3・4・5号住居跡出土遺物

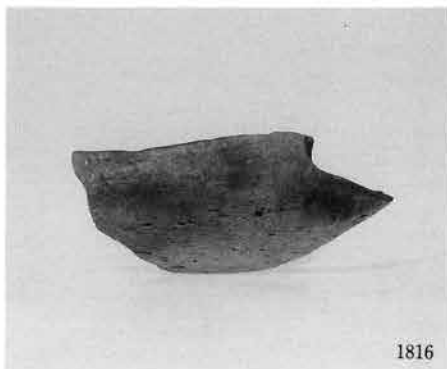
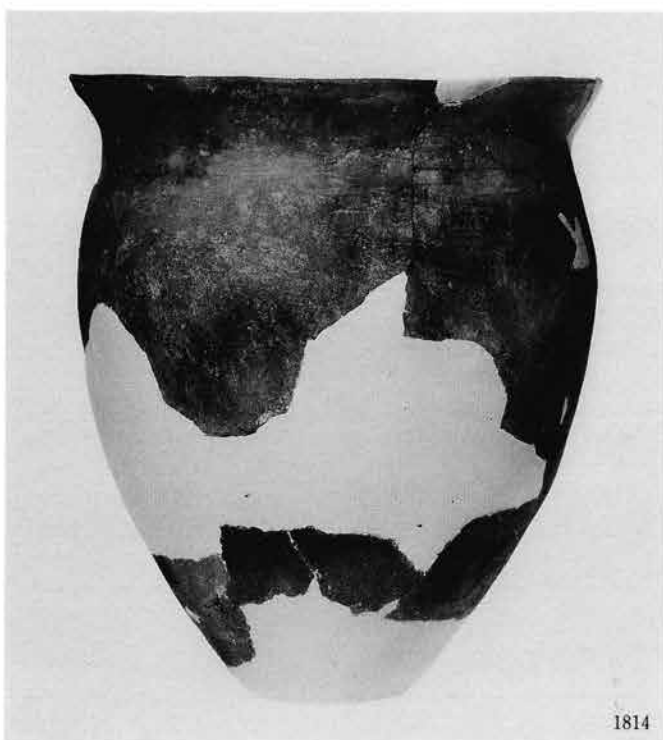
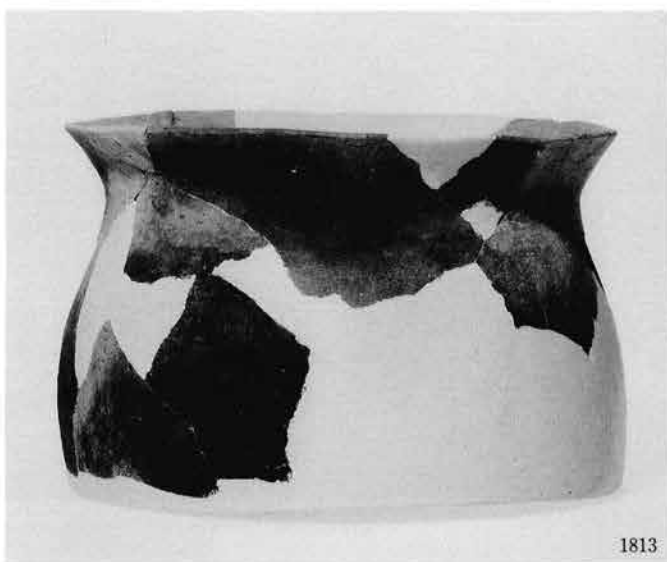
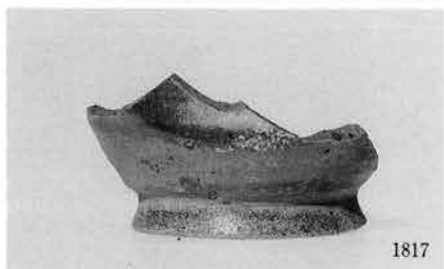


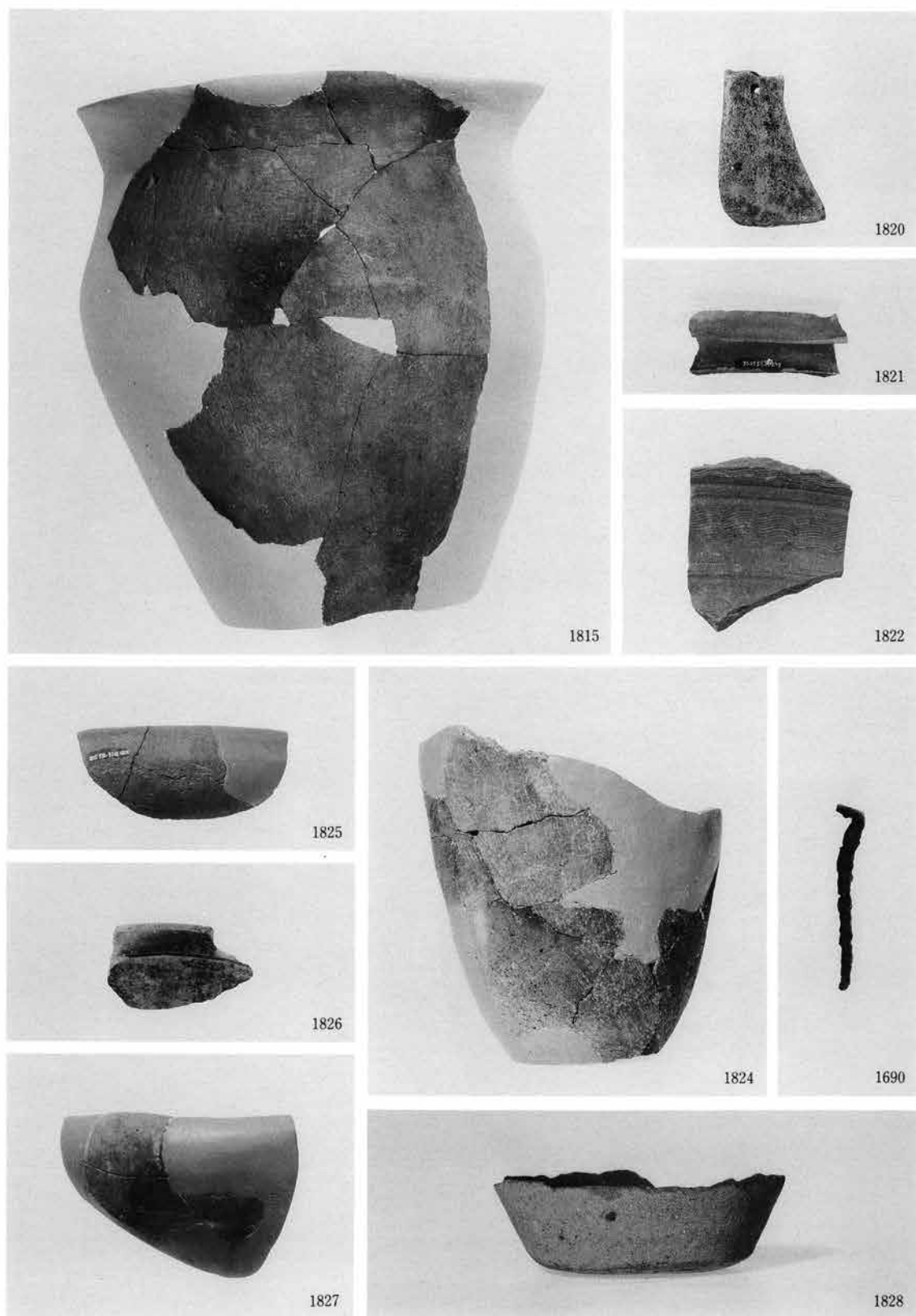


5区12・13・14・15・17号住居跡出土遺物

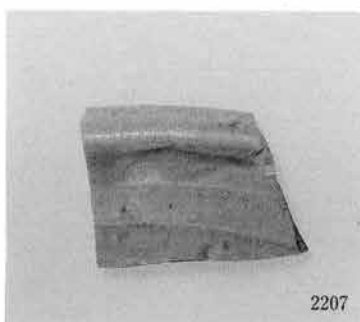
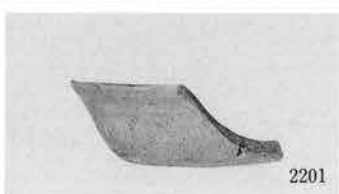
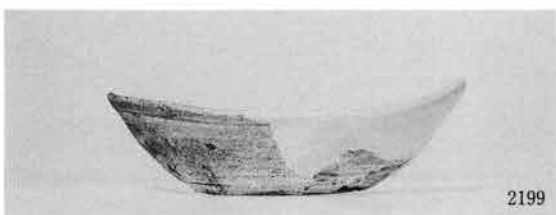
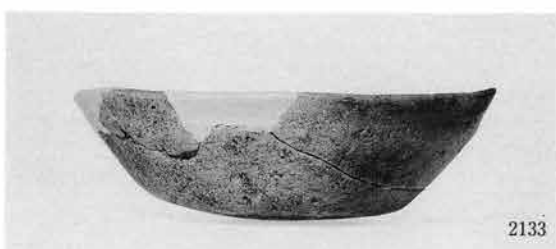
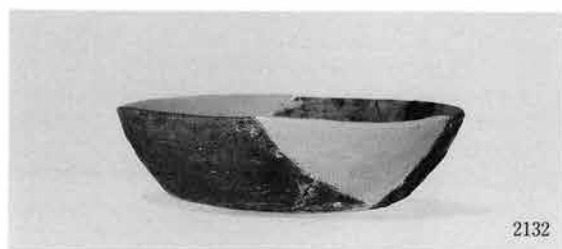








5区27・29・30・31・32・33号住居跡出土遺物



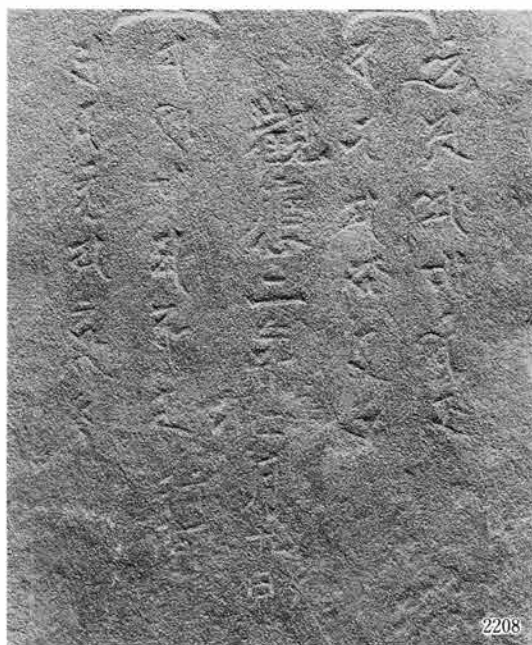
4区1・2・3号溝跡出土遺物



4区3号沟迹出土遗物



4区3号沟迹出土遗物

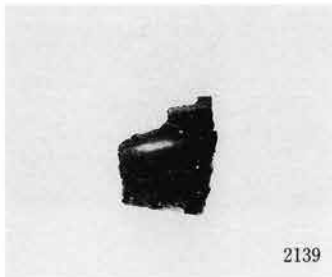
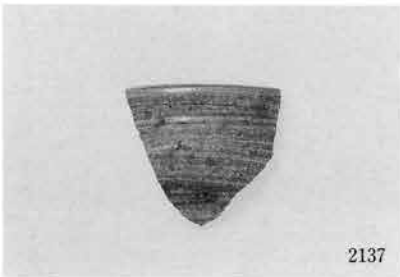
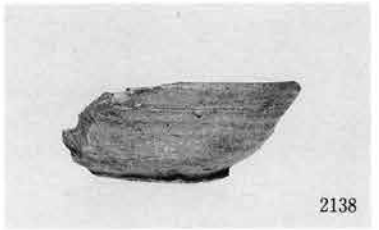
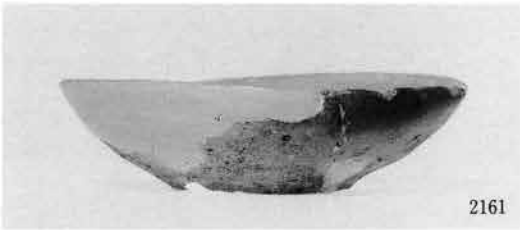
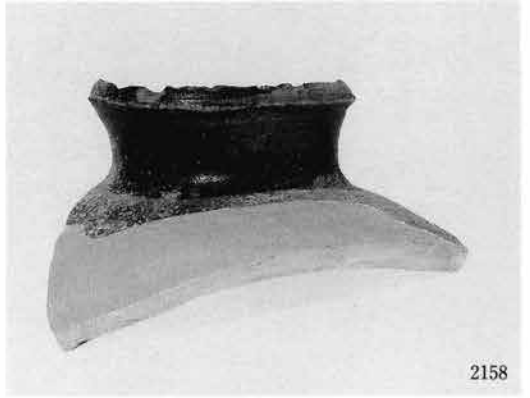


4区3号沟迹出土遗物

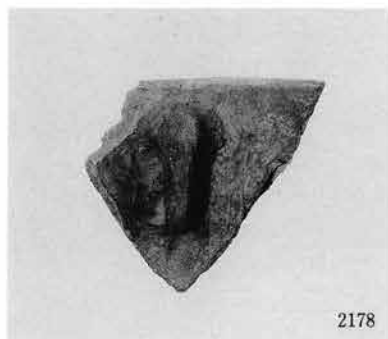
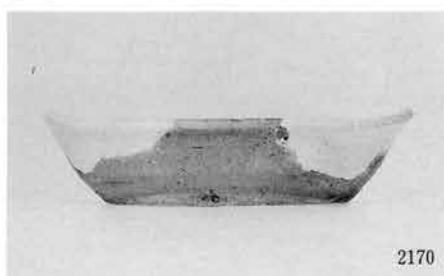
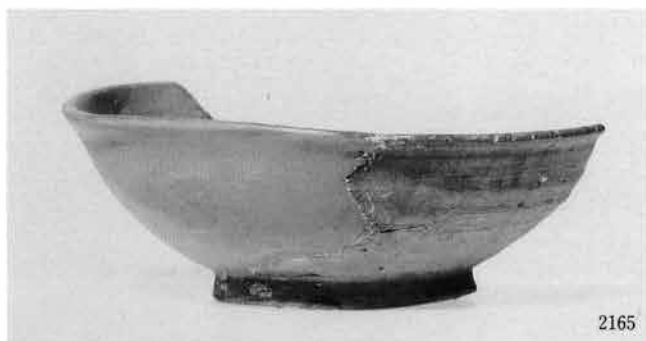


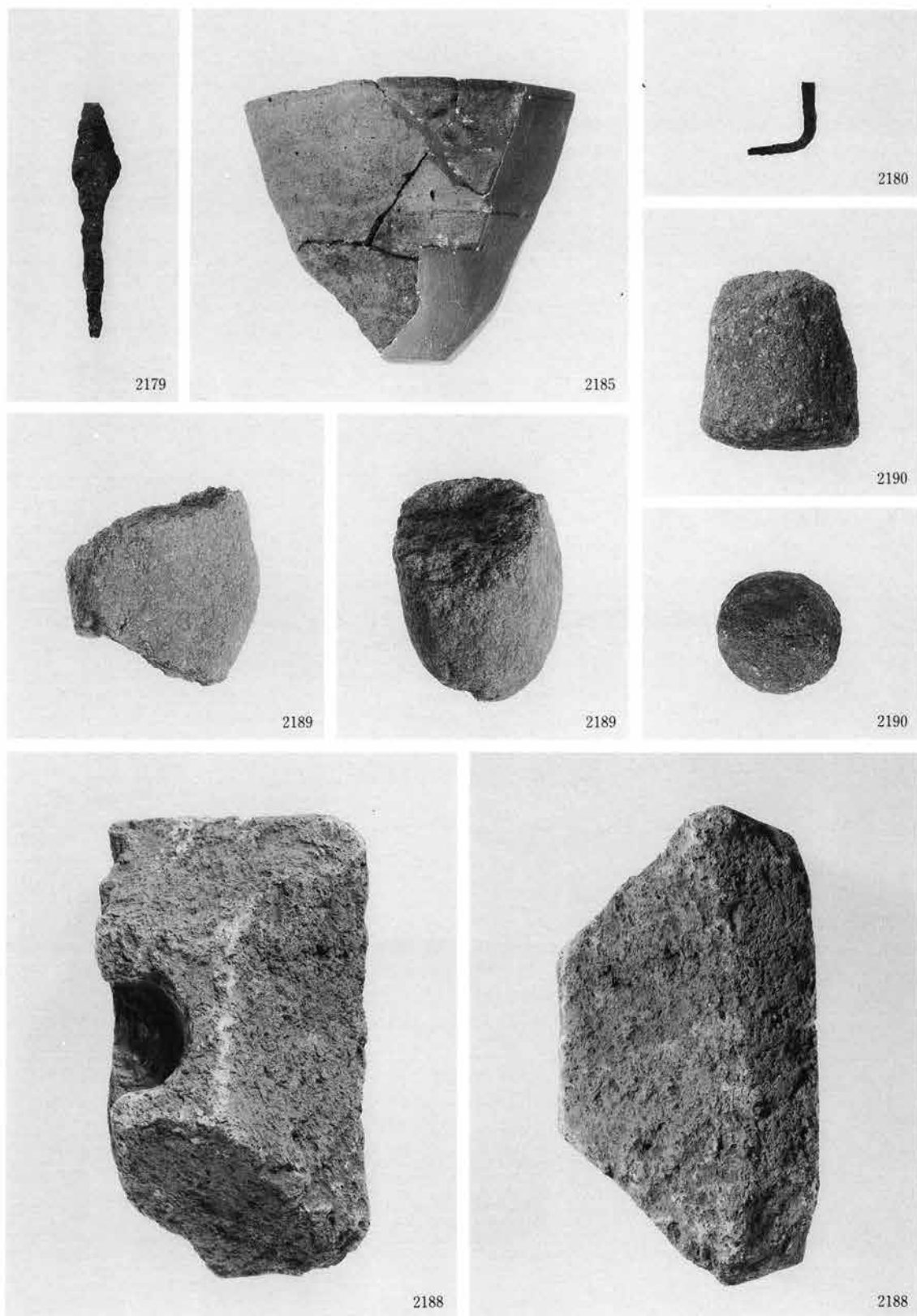
4区3号溝跡出土遺物



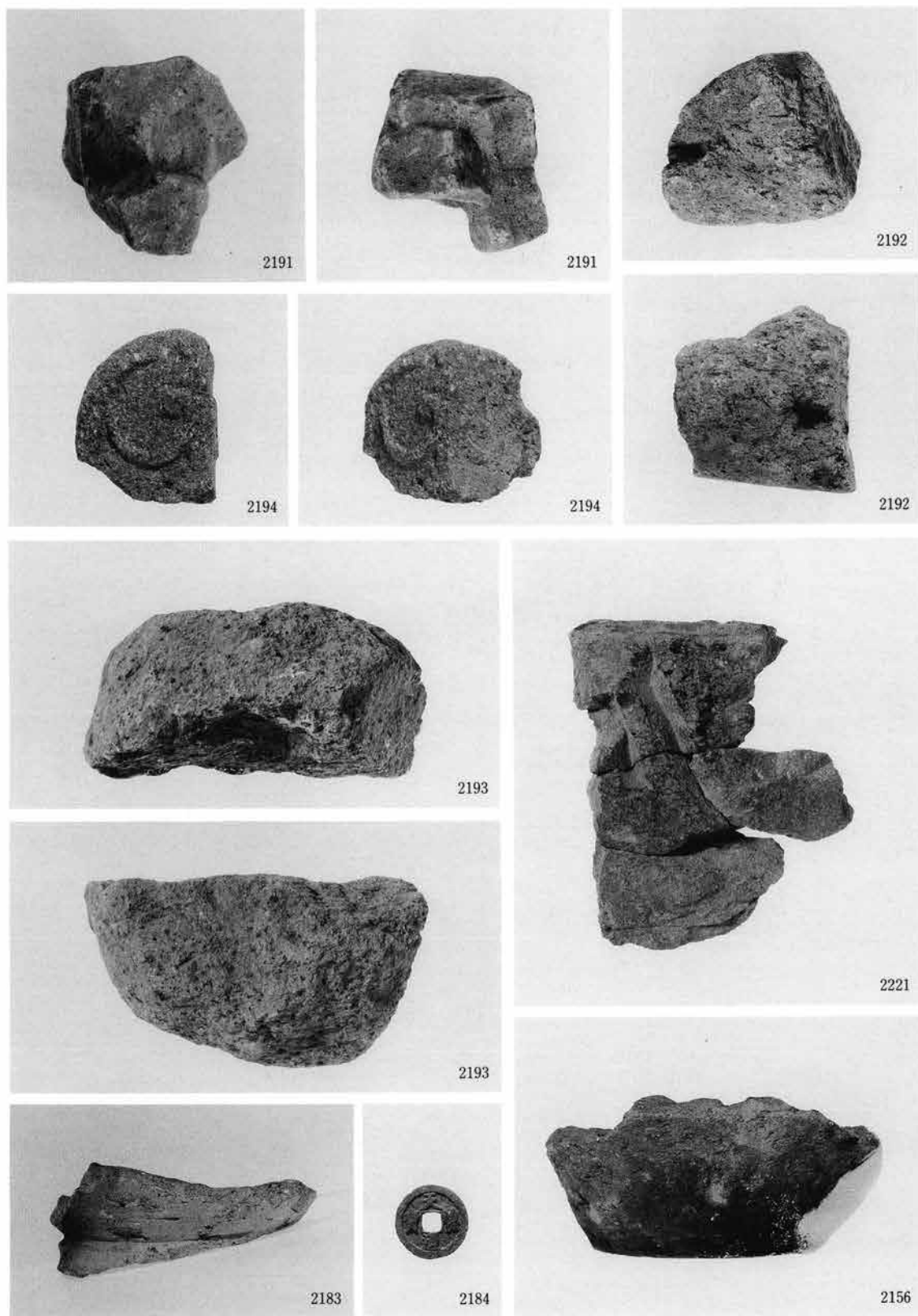




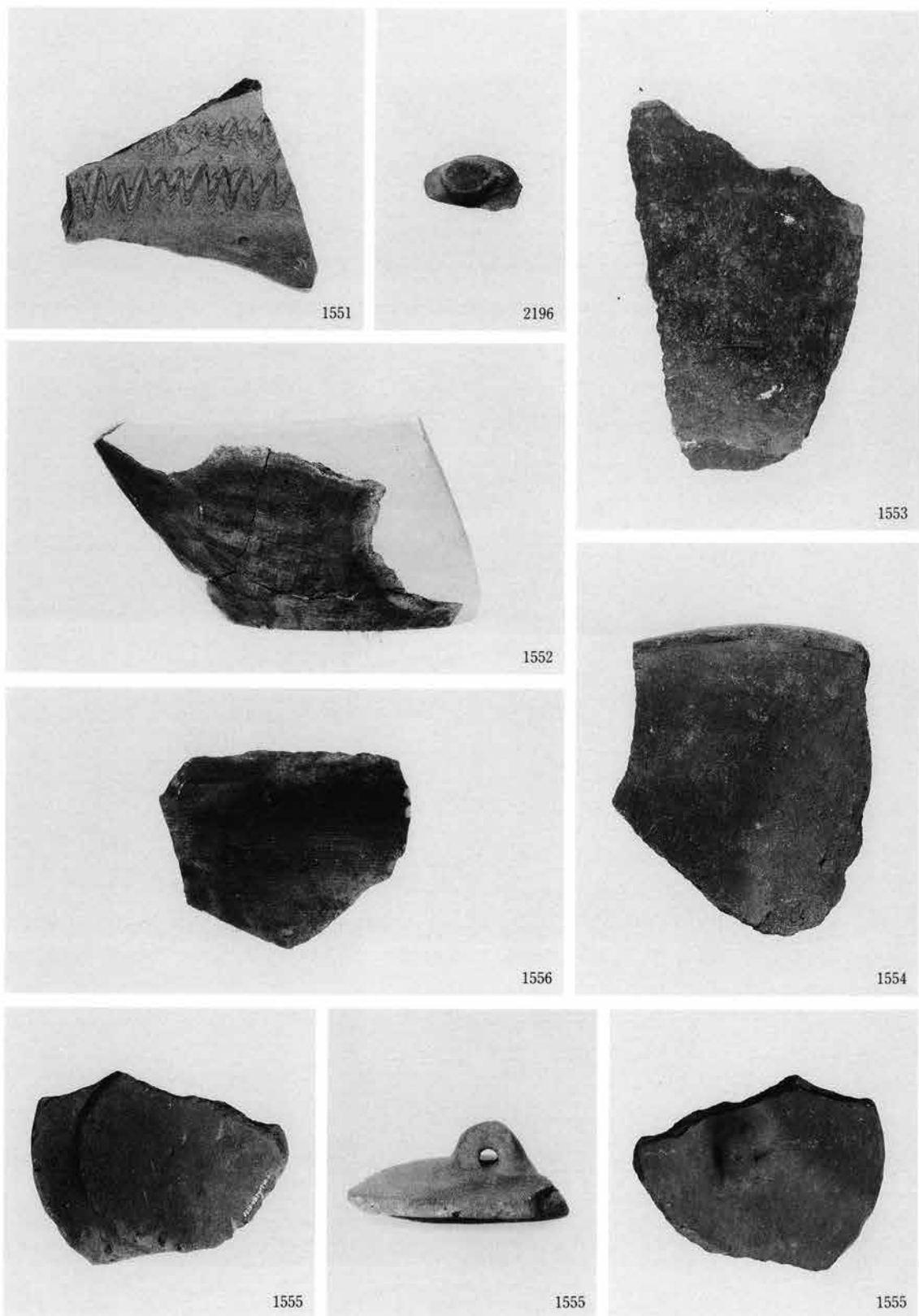




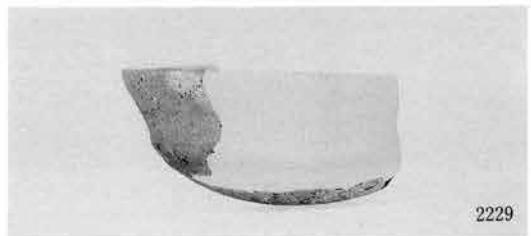
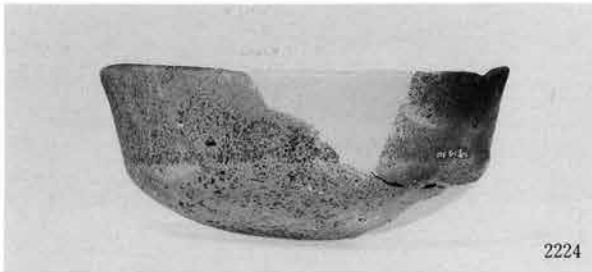
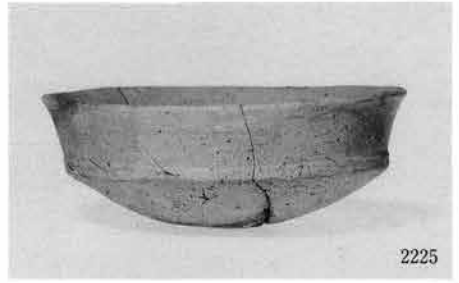
4区19・20号溝跡出土遺物



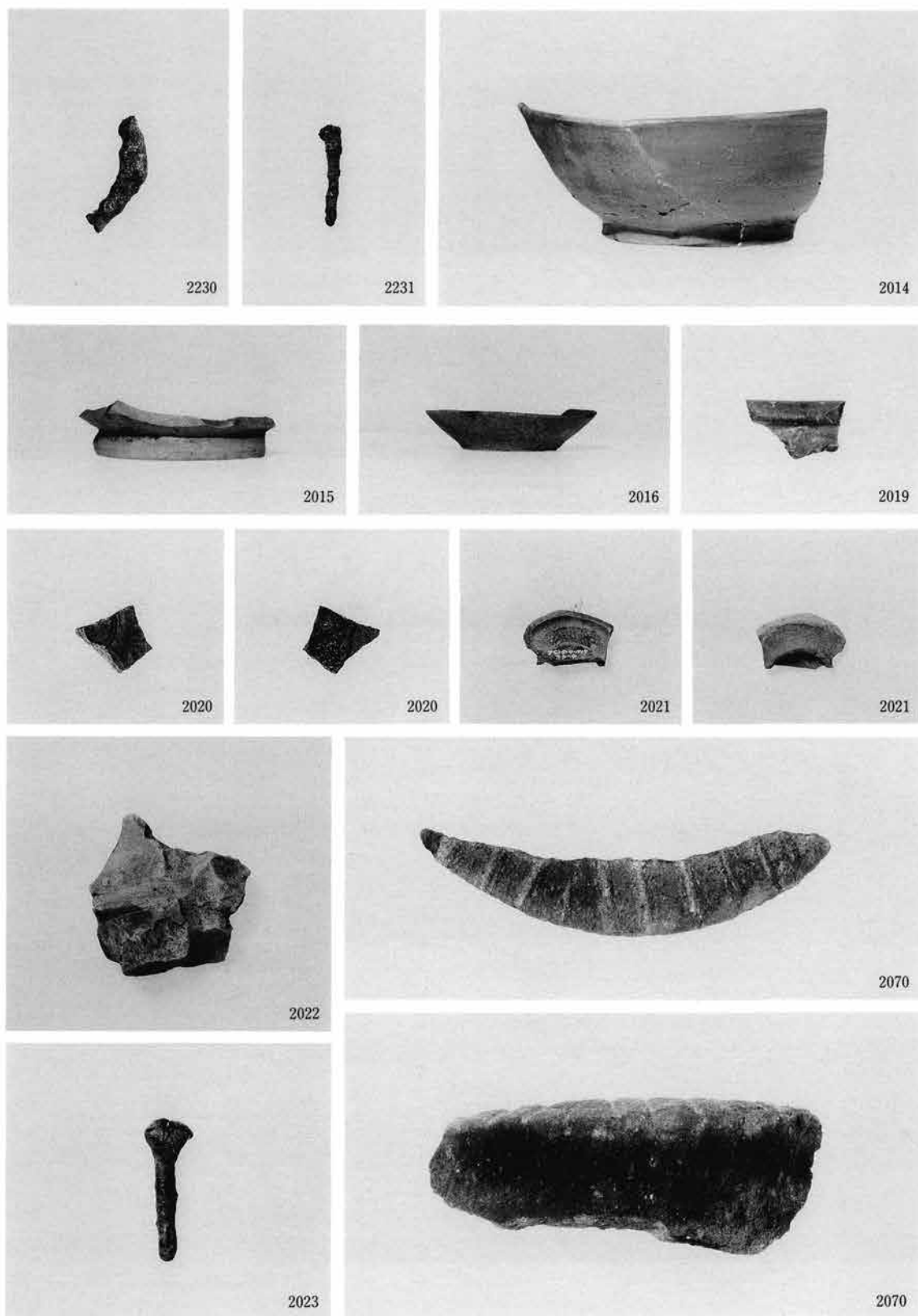
4区20・21・22号溝跡出土遺物



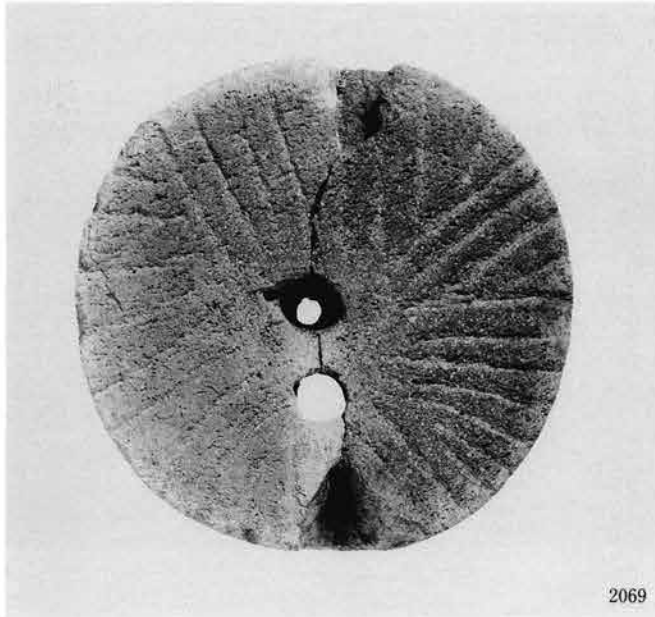
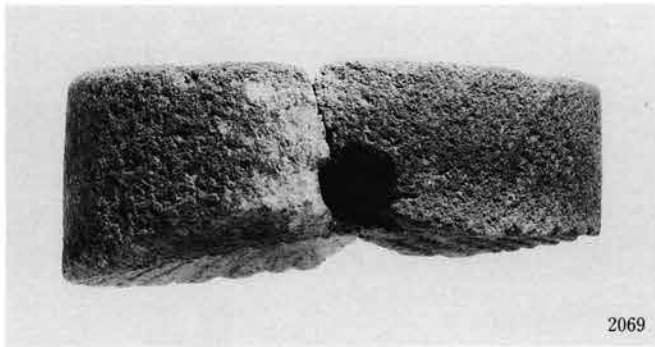
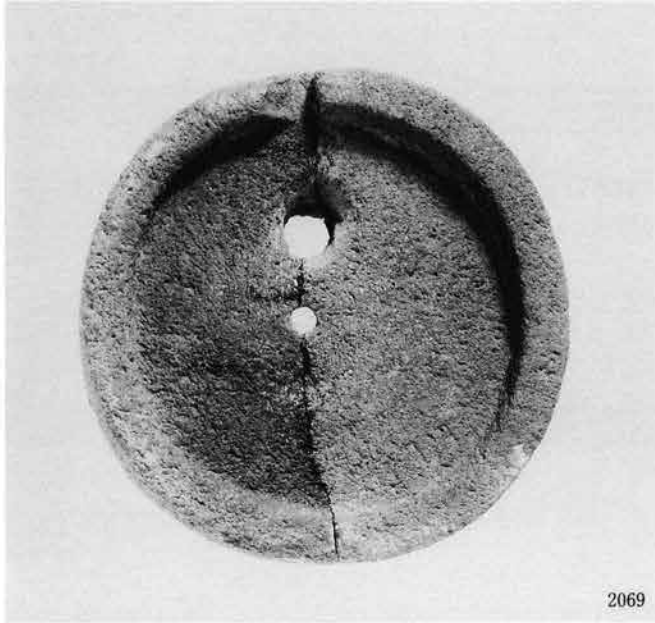
4区25号沟跡出土遺物



4区26号、5区1号溝跡出土遺物



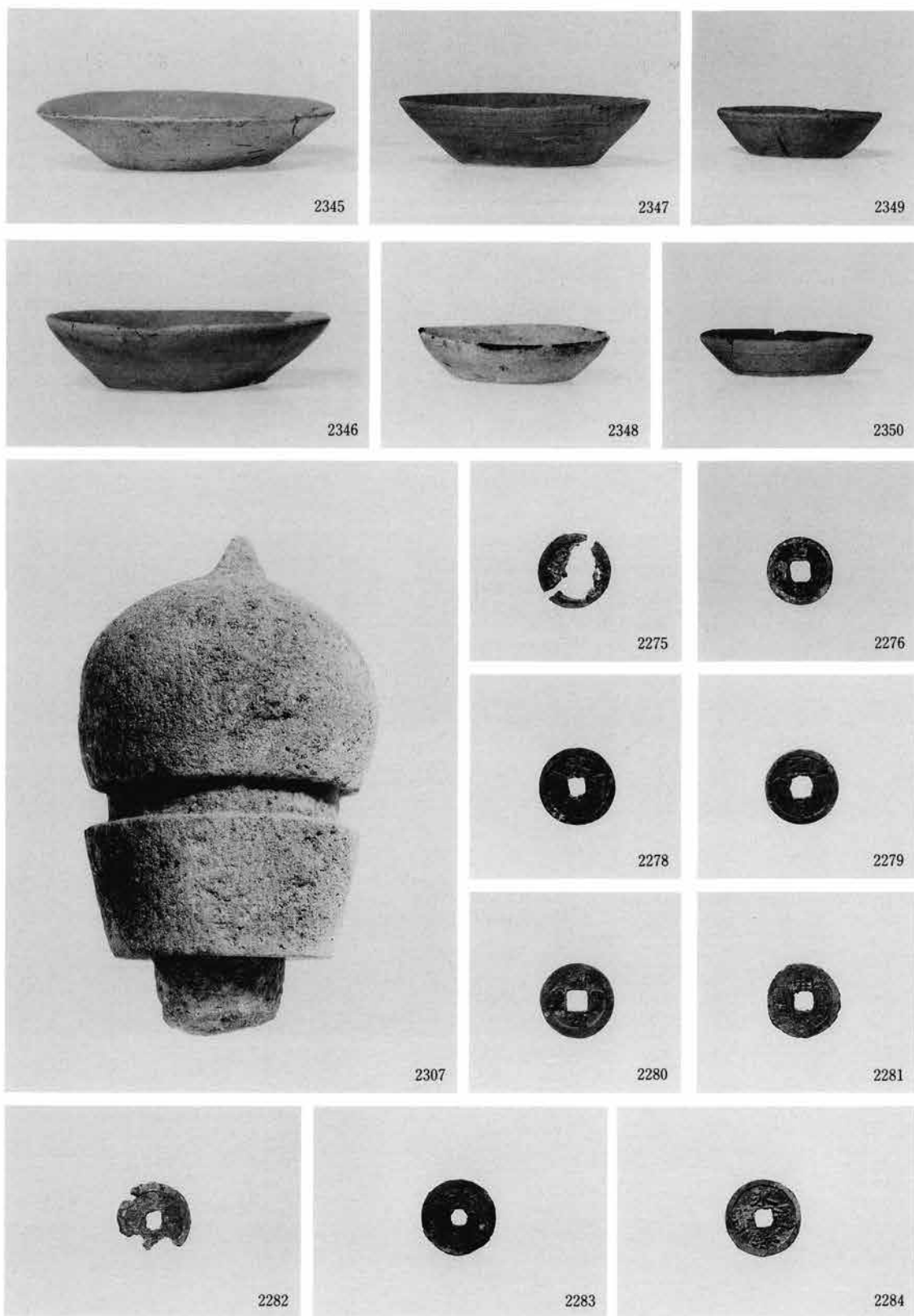
5区6号溝跡、4区1・2号井戸跡出土遺物



4区2号井戸跡出土遺物

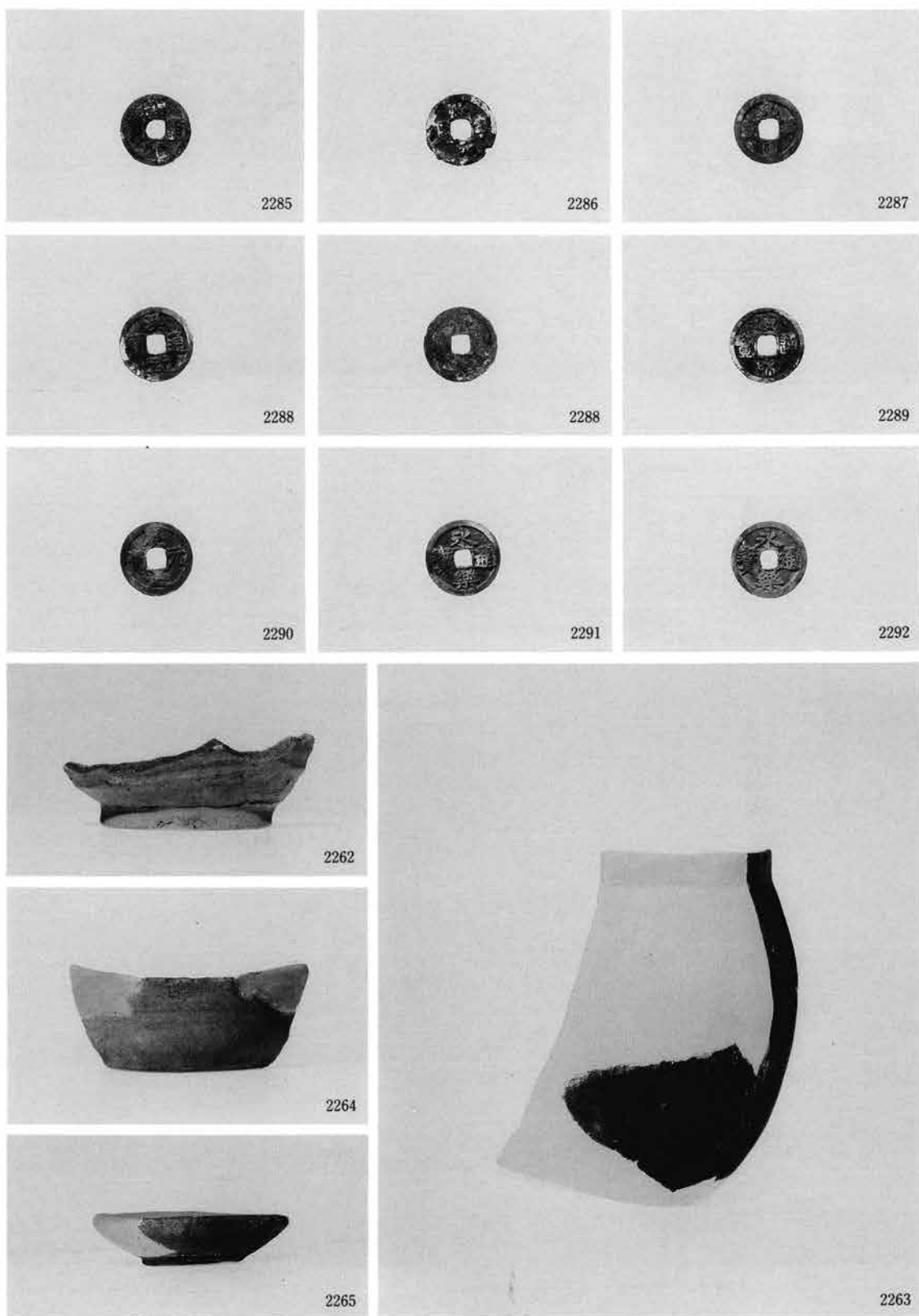


图版234

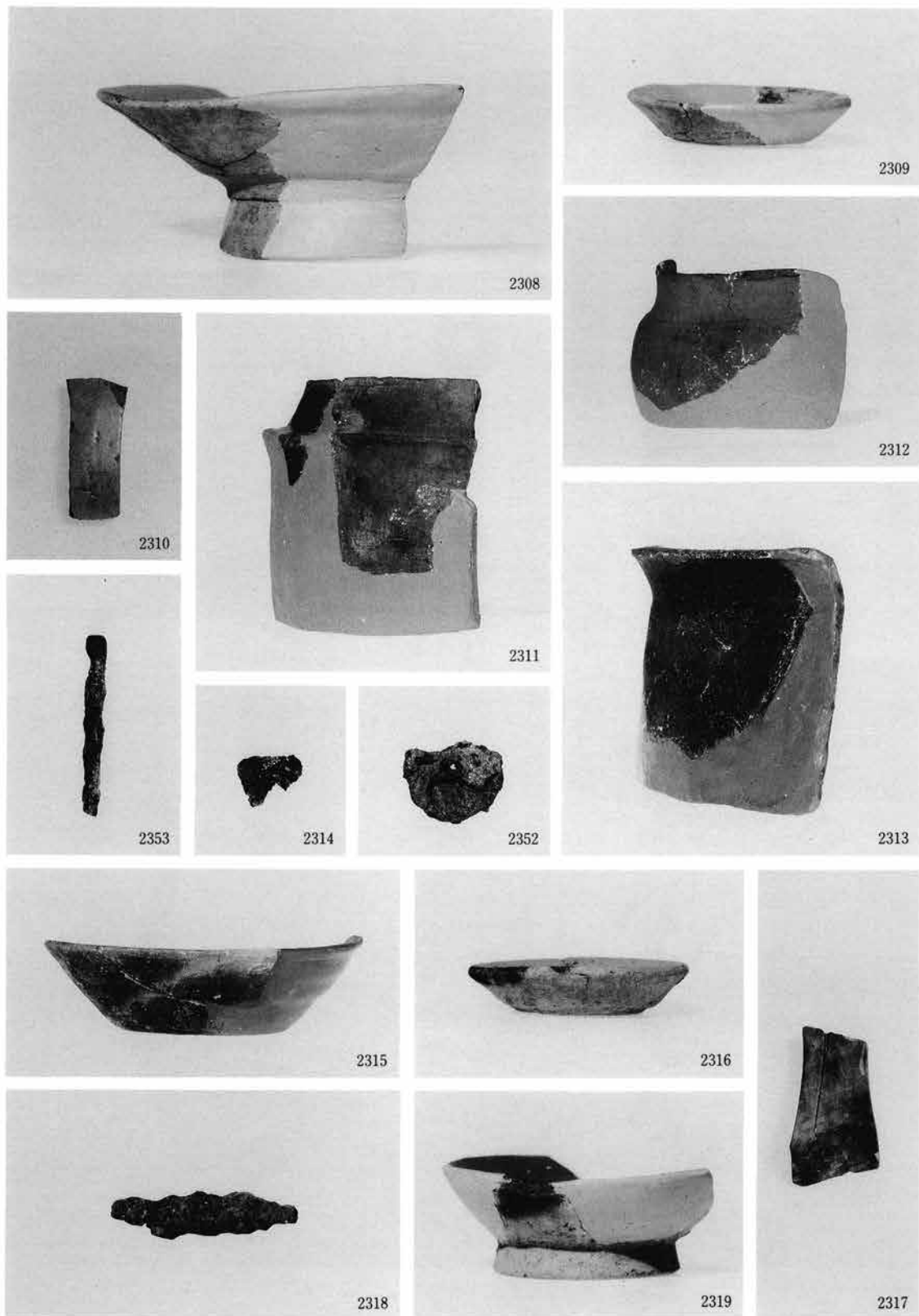


3区2号、4区3・4・5号土壤墓出土遺物

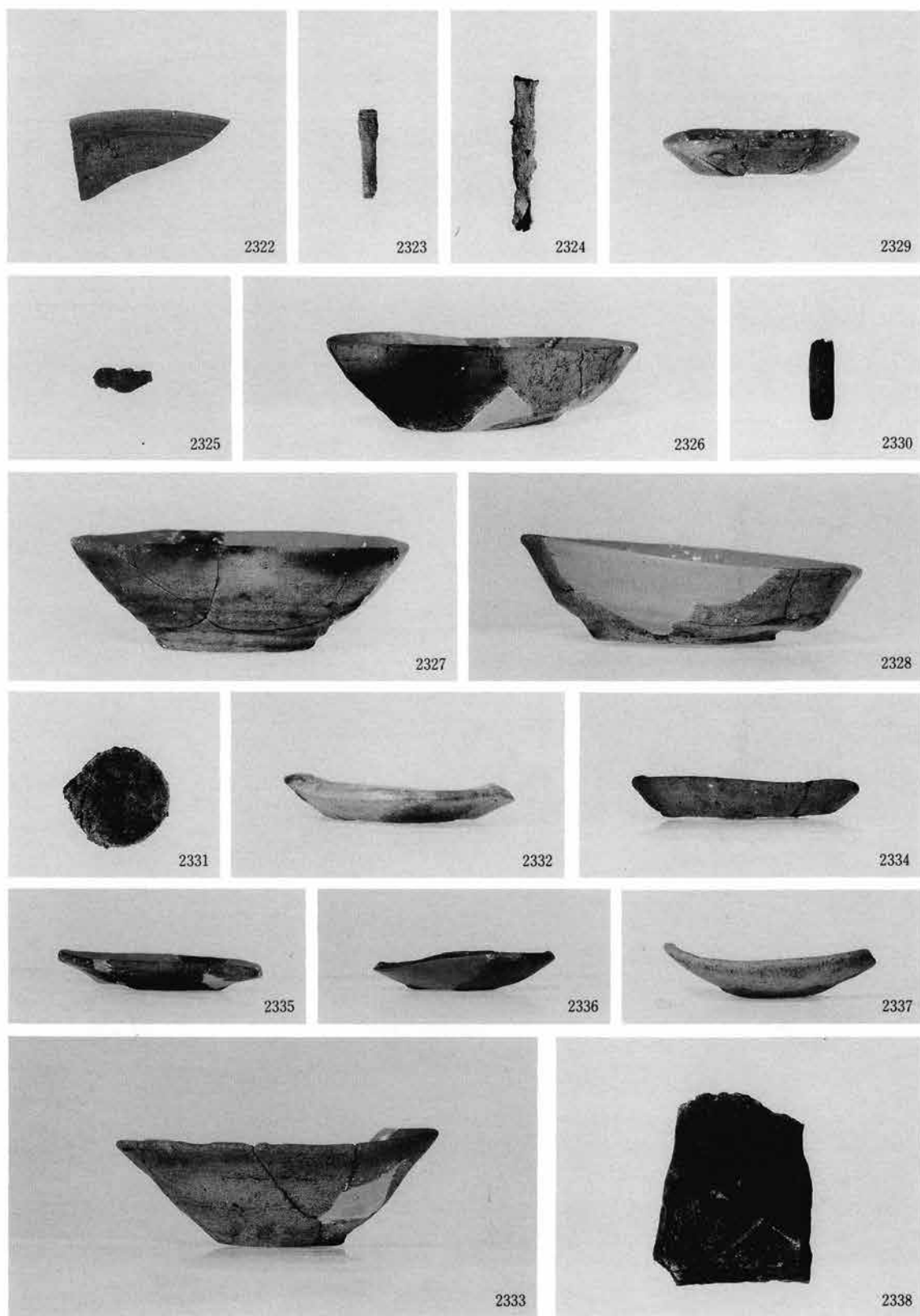




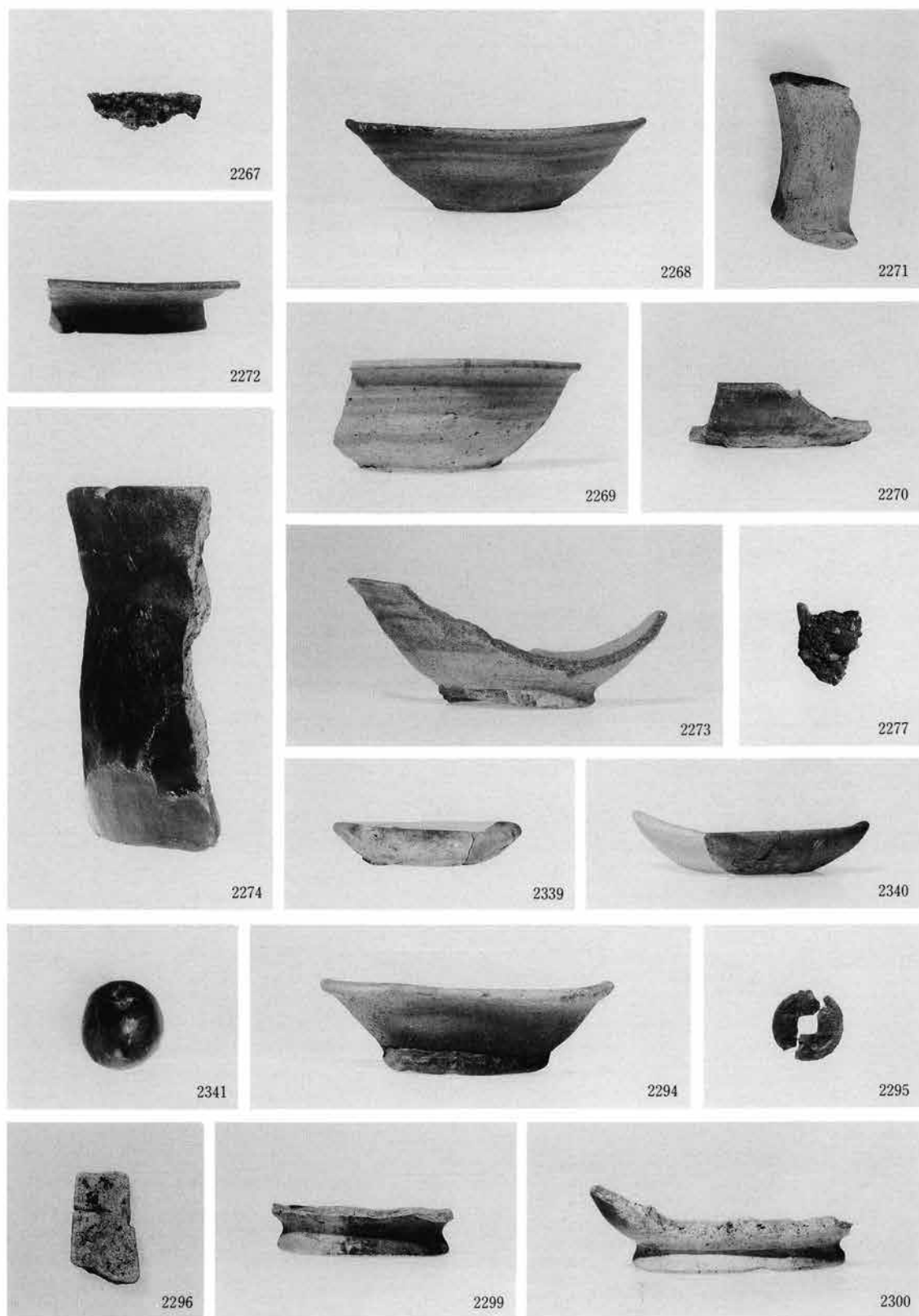
4区5・8号土墳墓、4区1・2・3号土坑出土遺物



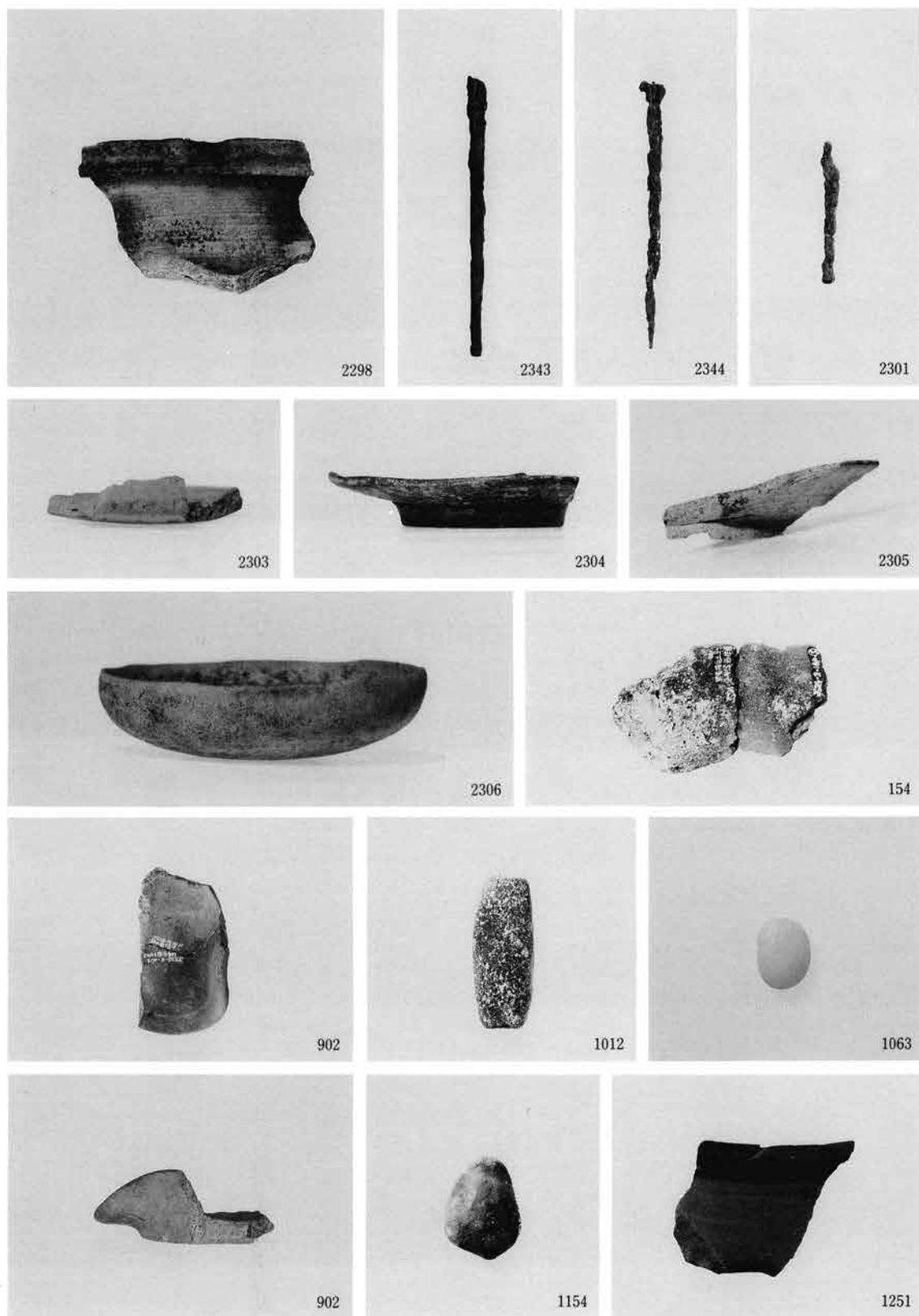
5区22・23・24・25・29・53・55・57・58・60号土坑出土遺物



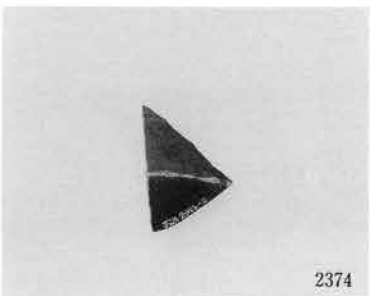
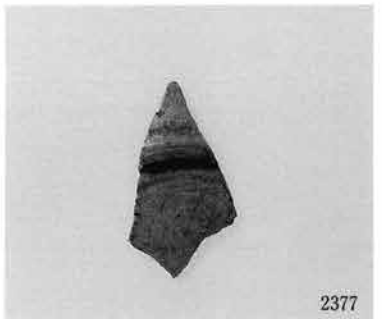
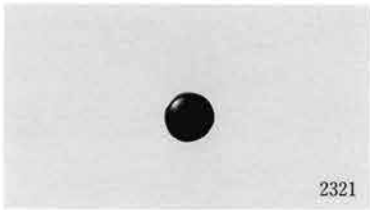
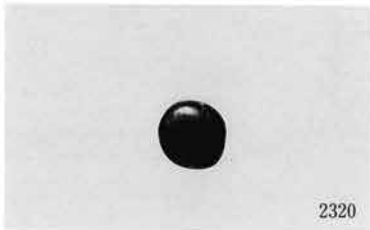
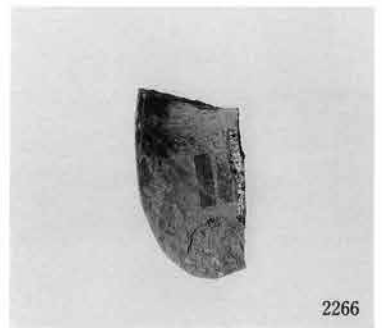
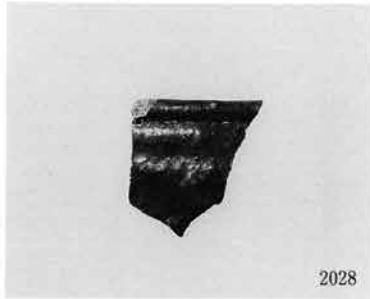
5区78·79·81·83·84·86号土坑出土遺物

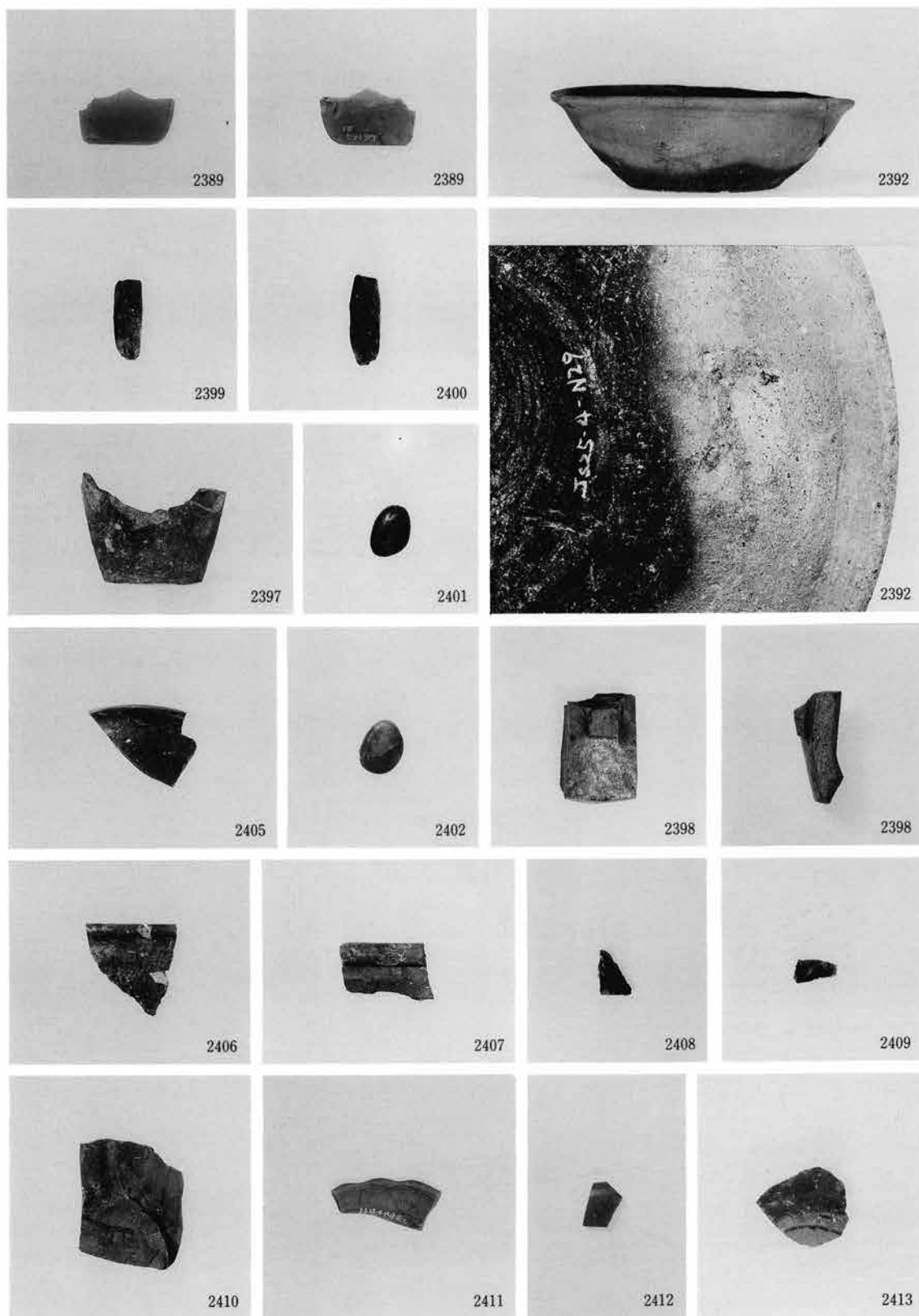


4区88・124・126・128・138・219・222・223・245・266号、5区142・153号土坑出土遗物

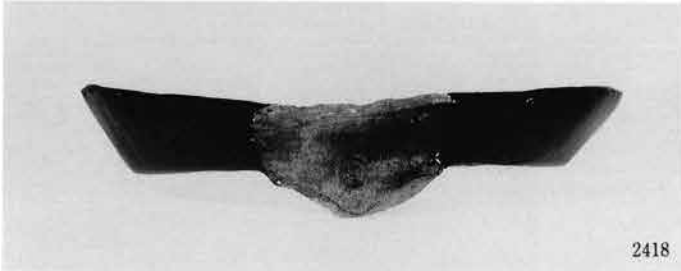


4区230・249・280・317・320・330・341号土坑出土遺物、表土出土遺物①

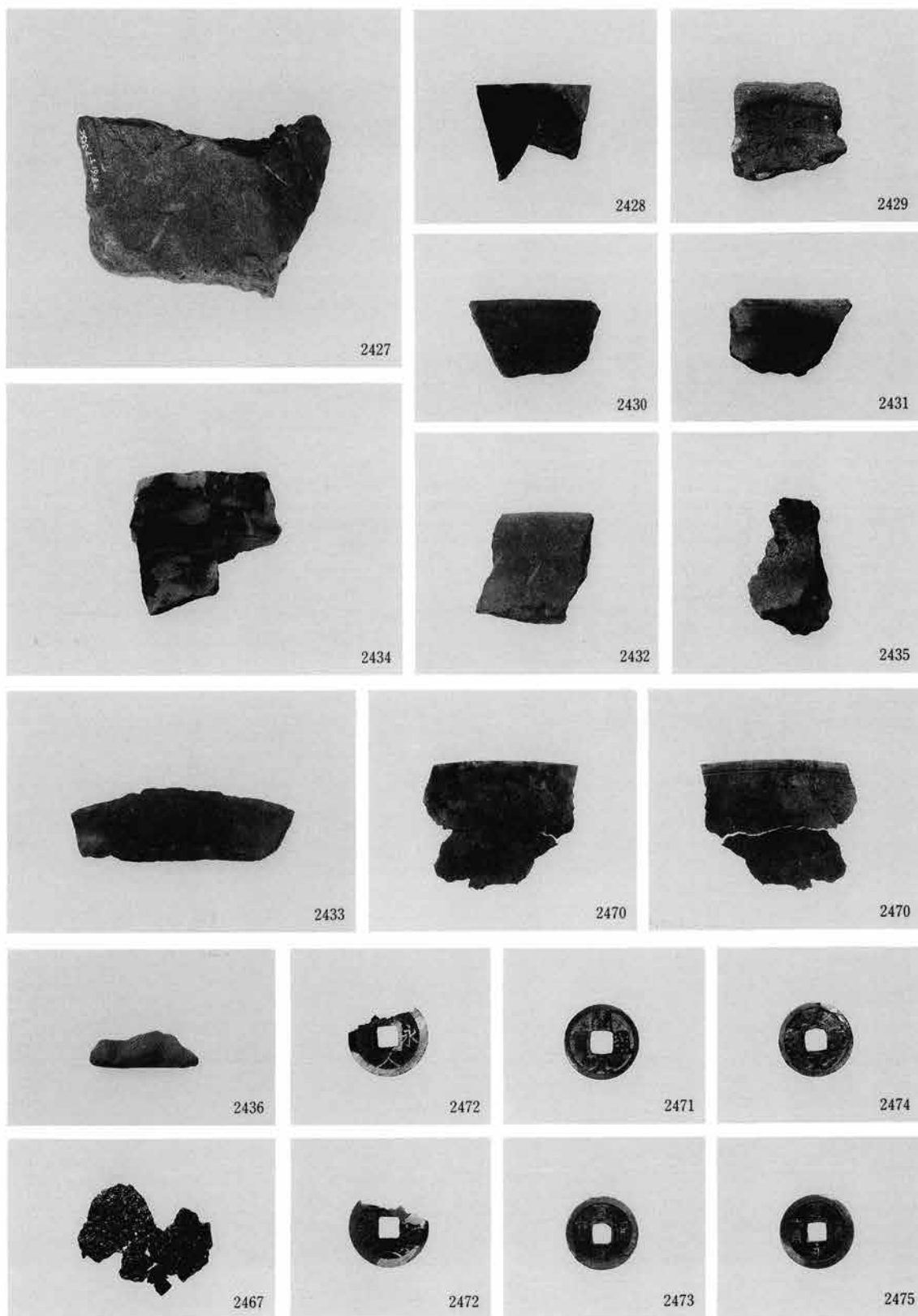




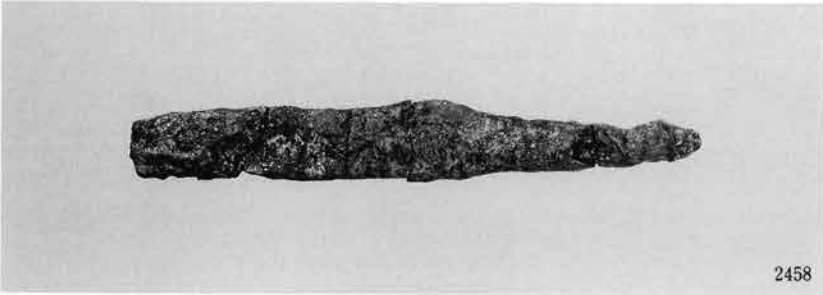
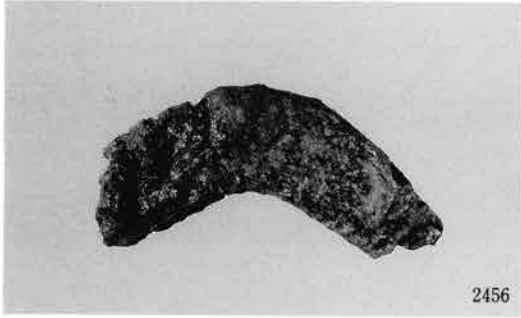
表土出土遺物③







表土出土遺物⑤



表土出土遺物⑥



4区2号井戸出土人骨①

熟年女性の頭蓋片（左上）・下顎骨（右上）  
 ・骨盤片（左中）、右の大腿骨（右下）の  
 ほか、幼児の歯3個（左下）。

4区2号井戸出土人骨②

熟年女性の上顎の歯（中）と下顎の歯  
 （右）。左の3個は幼児の歯。





勸群馬県埋蔵文化財調査事業団  
発掘調査報告第118集

# 融通寺遺跡

(第2分冊)

—上越新幹線関係埋蔵文化財  
発掘調査報告書 第15集—

平成3年3月15日 印刷

平成3年3月20日 発行

編集／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2

電話(0279)52-2511(代表)

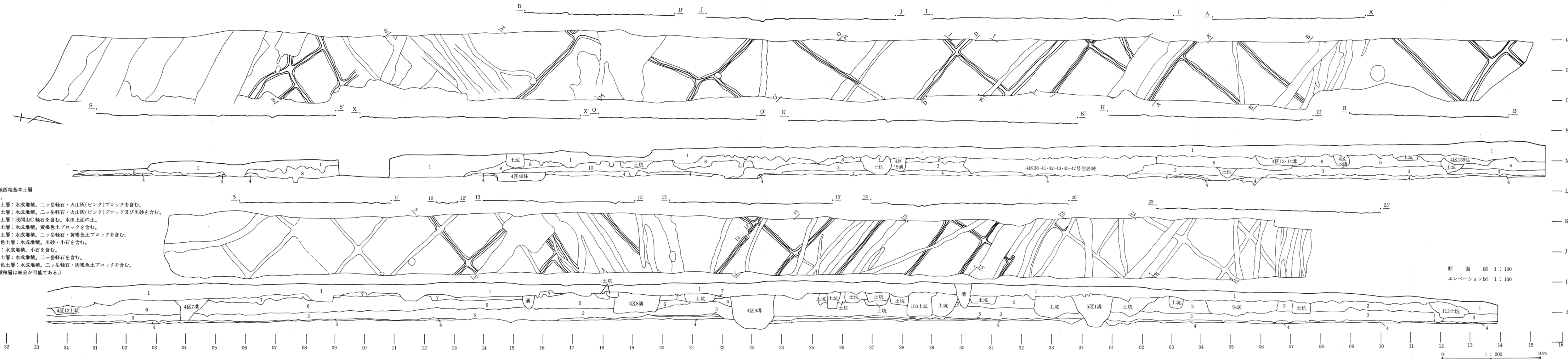
発行／群馬県考古資料普及会

勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2

電話(0279)52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社

# 融通寺遺跡水田跡全体図

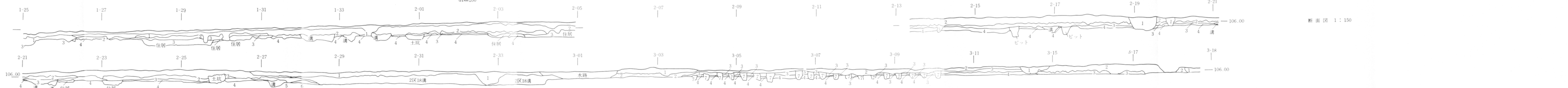
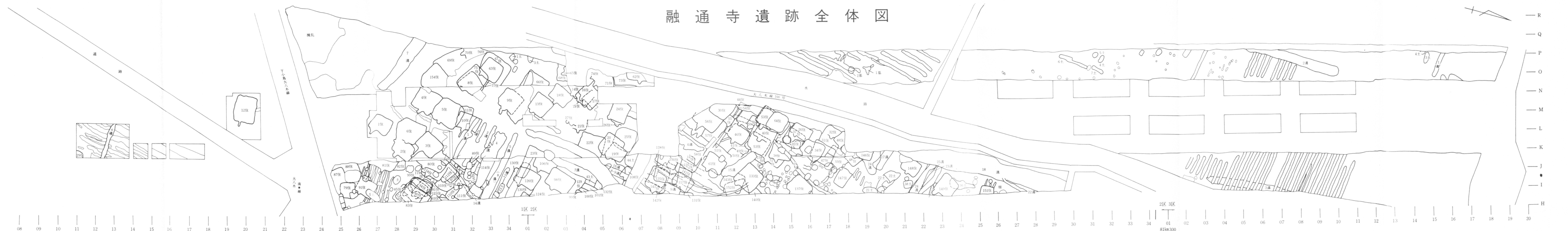


- 調査区域西端基本土層
- 1 耕作土。
  - 2 灰褐色土層：水成堆積。ニッ岳軽石・火山灰(ピンク)ブロックを含む。
  - 3 灰褐色土層：水成堆積。ニッ岳軽石・火山灰(ピンク)ブロック及び川砂を含む。
  - 4 黒褐色土層：浅間山C軽石を含む。水田上面の土。
  - 5 灰褐色土層：水成堆積。黄褐色土ブロックを含む。
  - 6 明褐色土層：水成堆積。ニッ岳軽石・黄褐色土ブロックを含む。
  - 7 淡黄褐色土層：水成堆積。川砂・小石を含む。
  - 8 川砂層：水成堆積。小石を含む。
  - 9 灰褐色土層：水成堆積。ニッ岳軽石を含む。
  - 10 淡黄褐色土層：水成堆積。ニッ岳軽石・灰褐色土ブロックを含む。  
(水成堆積層は細分が可能である。)

断面図 1:100  
 エレベーション図 1:100

0 1:200 10m

# 融通寺遺跡全体図



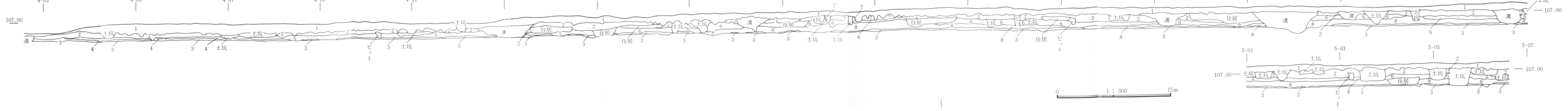
## 融通寺全体図土層説明

### JS24

- 1 新幹線工事時の監土及び覆土。
- 2 暗褐色土層：浅間山B軽石を含む。
- 3 灰褐色土層：角閃石安山岩小円礫を含む。
- 4 黒褐色土層：二次堆積礫名山火山灰FA・FPを含む。
- 5 黄褐色土層：水性堆積の砂を含む。
- 6 黒褐色土層：浅間山C軽石を含む。
- 7 灰褐色土層：二次堆積礫名山火山灰の小ブロックを含む。

### JS25

- 1 褐色土層：耕作土。浅間山B軽石を含む。
- 2 灰褐色土層：角閃石安山岩小円礫、黄褐色土小ブロックを含む。
- 3 黒褐色土層：粘性が強く鉄分沈着の斑紋が見られる。
- 4 礫名山火山灰FA層。
- 5 淡黄褐色土層：二次堆積礫名山火山灰FAを含む。
- 6 淡黄褐色土層：水性堆積の砂を含む。
- 7 灰褐色土層：角閃石安山岩小円礫、砂質土を含む。
- 8 灰黄褐色土層：鉄分沈着の斑紋が見られる。



0 1 : 300 15m